

# KIER DISCUSSION PAPER SERIES

## KYOTO INSTITUTE OF ECONOMIC RESEARCH

Discussion Paper No. 2304

日本における新型コロナウイルス感染症下でのソーシャル・キャピタル  
に関する調査研究

溝端佐登史・横川和穂・Victor Gorshkov・林裕明・Vasiliy Anikin

2024年3月



KYOTO UNIVERSITY

KYOTO, JAPAN

# 日本における新型コロナ感染症下でのソーシャル・キャピタル に関する調査研究\*

溝端佐登史<sup>a</sup>・横川和穂<sup>b</sup>・Victor Gorshkov<sup>c</sup>・林裕明<sup>d</sup>・Vasiliy Anikin<sup>e</sup>

---

\*本調査研究は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)一般「ソーシャル・キャピタルによるロシアの社会構造に関する研究」(20H04404: 研究代表者・溝端佐登史)、領域開拓プログラム国立大学法人京都大学「エビデンスに基づく感染症拡大の経済学・疫学連携研究と政策分析/課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」(2020-2023年、100203800002)および京都大学経済研究所先端政策分析研究センターの助成を受けて行われたものである。

<sup>a</sup> 京都大学経済研究所・立命館大学経済学部

<sup>b</sup> 神奈川大学経済学部

<sup>c</sup> 新潟県立大学国際経済学部

<sup>d</sup> 立命館大学経済学部

<sup>e</sup> ロシア高等経済大学院 (HSE University, Russia)

# 日本における新型コロナウイルス感染症下でのソーシャル・キャピタル に関する調査研究

## 要旨

本調査研究は、日本におけるソーシャル・キャピタルの動向を解明するために、2021年1月に実施されたアンケート調査を取りまとめたものである。ネットワーク、信頼、市民社会参画を主たる内容としてソーシャル・キャピタルの現状を明らかにするために4171名へのWEBアンケートを実施し、信頼の低下、とくに特定化信頼の低下は止まっていないこと、社会におけるつきあいが希薄化していることを明らかにしている。とりわけ、新型コロナウイルス感染症が、人間行動の変容において、つきあい、信頼の希薄化を促していることも明らかになる。市民参加もまた感染症の影響を免れず、参加率が低く、市民の影響力に限界を感じている。また、本調査では、世代間、階層間でのソーシャル・キャピタルの相違、制度に対する満足度も検討されている。

**JEL classification:** A13, A14, P52

**キーワード:** ソーシャル・キャピタル、日本、COVID-19、社会的ネットワーク、社会的信頼、市民参加

## Social Capital in Japan during the COVID-19 Pandemic

### Abstract

This paper summarizes the survey results on social capital trends in Japan conducted in January 2021. The purpose of the survey is to analyze the current situation of social capital in Japan through detailed investigation of Japan's social networks, social trust, and civic engagement. Through the online survey of 4,171 respondents, we confirmed that social trust, specifically particularized trust, in the Japanese society has been steadily declining and social interactions have become less frequent. In particular, the COVID-19 pandemic had a strong impact on further weakening of social interactions and social trust. Civic engagement is also not immune to the effects of COVID-19, with low participation rates and limited civic influence. In addition, the survey also highlights the differences in social capital utilized by different generations and social groups as well as assesses the level of their satisfaction with different social institutions.

**JEL classification:** A13, A14, P52

**Keywords:** social capital, Japan, COVID-19, social network, social trust, civic engagement

## はじめに

ソーシャル・キャピタル (social capital)<sup>1</sup>は、「社会における信頼・規範・ネットワーク」(稲葉, 2007: 4) を意味し、人びとの関係、人びとの間での働きかけに作用する。そのうえ、ソーシャル・キャピタルは、異質なものを結びつけるブリッジング (bridging)、同質なものを結びつけるボンディング (bonding) として区別される。あるいは、ソーシャル・キャピタルは「個人間のつながり、すなわち社会的ネットワークおよびそこから生じる互酬性と信頼性の規範」(Putnam 2000) と規定され、市場の質 (Knack and Keefer 1997)、地域コミュニティ (Ostrom and Ahn 2009)、幸福を支える社会のインフラとさえ見なすことができる。

いずれの定義に依拠するとしても、ソーシャル・キャピタルは社会学において注目される概念、接近方法だが、経済学においても深く影響し、積極的に研究されてきた (例えば、大守編, 2018; 金光編, 2018; 辻中・山内編、2019; 要藤, 2018)。人間行動における合理性、利他的な行動、外部性などはソーシャル・キャピタルの存在と深くかかわりあっているからである。実際、市場経済のプレーヤー間に、相互に信頼が存しているのか否かは、市場のあり様を考えるうえで重要な影響要因と考えることができる。

さらに、実態を明らかにするために、内外において社会調査は積み重ねられており、とくに『世界価値観調査』(Haerpfer et al., 2022)<sup>2</sup>のように国際的な価値観の比較研究を行う上で欠くことのできないデータも存在していることを考慮するならば、ソーシャル・キャピタルは比較経済学に対して新しい研究視座・方法を提供していると言うことができる。データに関しては、わが国でも、内閣府(2003; 2005)、日本総合研究所(2008)、要藤(2018)、岩井・宍戸(2021)などが独自にアンケート調査などを用いてデータを整備している。本調査研究でも、『世界価値観調査』、岩井・宍戸(2021)との比較に依拠して調査結果を考察している。

本調査研究は、日本におけるソーシャル・キャピタルの動向、とくに新型コロナウイルス感染症が与えた影響を考察することを狙いとして、大規模なアンケート調査を実施し、その考察を行うものである。もっとも、日本のソーシャル・キャピタル研究が当初から著者たちの研究目的に位置していたわけではない。

本研究は比較経済学、市場経済化に対する上記の問題意識から、ロシアにおける市場、企業、国家の行動をソーシャル・キャピタルの観点から再考することを目的として組織した共同研究チームによる研究成果である。西側先進諸国とは大きく異なる経済制度を構成し、国家主導性の強いロシアの経済システム (溝端編, 2022) を研究する場合、経済学において自明と考えられた人びとの価値観および動機、刺激メカニズムを再考することは避けられない。ロシア市場、ロシアの経済システムは、西側、あるいは日本のそれとは大きく異なるように見え、そのことが経済システムの個性を特徴づけるとともに、その独自性は同一の理論、価値観をベースにして研究することに制約を感じさせる。

---

<sup>1</sup> ソーシャル・キャピタルは前史として Pierre Bourdieu と James S. Coleman により導入され、多様な方向で発展した。前者ブルデューは個人が他の経済資源への戦略的なアクセスに用いるために、所有する資源とみなし、後者コールマンの機能的定義は密なネットワークにより得られる恩恵といったソーシャル・キャピタルのグループ、集団的性質に注目している (Turner ed., 2006)。

<sup>2</sup> 『世界価値観調査』(Haerpfer et al., 2022) WVS: World Value Survey, <https://www.worldvaluessurvey.org/wvs.jsp>

共同研究チームは 2020–2025 年科学研究費補助金基盤研究(B)一般「ソーシャル・キャピタルによるロシアの社会構造に関する研究」(20H04404: 研究代表者・溝端佐登史)に携わり、研究代表者以外に、林裕明、横川和穂、Victor Gorshkov が研究分担者となっている。また、ロシアのソーシャル・キャピタル研究に精通している Vasiliy Anikin (ロシア高等経済大学院)が本研究に直接、共同研究者として参加している。

もともと本研究はロシアを対象としてソーシャル・キャピタルに関する主観調査(アンケート調査)を実施しデータ構築を行うことで上記研究課題に接近することを計画していた。その際、比較経済学を専門とする研究チームはロシアを国際比較の視座からも接近するうえで、日本におけるソーシャル・キャピタル研究を並行して行うことも研究課題に含めることとして、本調査研究に至った。とりわけ、このことは 2019 年秋に始まる新型コロナウイルス感染症に対する人びとの反応、社会・国家の対応を比較するうえでも、先行研究にはない接近になると考えている。

本研究調査結果の分析・取りまとめに際し、I. ネットワークについては横川和穂が、II. 信頼についておよび III. 市民社会参加については Victor Gorshkov が、IV. 新型コロナウイルス感染症に関する質問は溝端佐登史が、V. その他の質問および VI. 回答者に関する質問は林裕明が、それぞれ担当した。また、質問票の作成は、『世界価値観指標』および過去の日本における研究に依拠しつつ全員で対応したが、ロシアと比較する意図から、Vasiliy Anikin が全体の調整を行っている。両国における質問の対比は末尾の付録、アンケート質問票に示している。

本調査研究は、2021 年 1 月の日本におけるアンケート調査結果を取りまとめている。日本のソーシャル・キャピタルおよび新型コロナウイルス感染症に関する研究に資するだけでなく、同時期に実施したロシアを対象にした調査研究と重ね合わせることで、新しい比較研究の手掛かりにもなると考えている。なお、本調査研究において、分析部分での図表は第 1 図、第 1 表の様式で表記し、アンケート調査結果を取りまとめた部分では問の番号に沿って、図 1 の様式で表記している。

## 1. 日本におけるソーシャル・キャピタルの課題

世界的に見て、日本のソーシャル・キャピタルの評価は必ずしも高いものではない。

イギリス Legatum Institute の繁栄指数(Legatum Prosperity Index)は、貧困から繁栄への経路を明らかにするツールとして開発されたもので、包摂的社会、オープン経済、能力のある人びとの3つの領域からなる12の柱で構成され、そのひとつの柱としてソーシャル・キャピタルが位置付けられている<sup>3</sup>。2023年の調査では、日本は、繁栄指数では167カ国中16位にあって、とくに健康(2位)、安全(5位)、投資環境(5位)、企業条件(5位)、インフラ(6位)での水準は一段と高いが、ソーシャル・キャピタルは141位ととびぬけて低い。繁栄指数77位のロシアのソーシャル・キャピタル順位は54位で、日本はアフリカ、中東諸国に近く、2013年以来40位低下している。少子高齢化日本では、社会ネットワークは165位ととくに悪化しており、制度への信頼を除いて、個人・家族関係、個人間の信頼、市民・社会活動参加は低いレベルで、「国内における従属率の高まりのため、敬われていることを感ずるもの、他の家計を助けようとするあるいは助けることができるものはほとんどいない」(Legatum Institute, 2023: 39)と酷評されている。

対照的に、スイス・韓国のジョイントベンチャーSolAbilityは国際機関(世界銀行、IMF、国連)の190の指標を用いて、自然資本、資源効率、ソーシャル・キャピタル、知的資本、経済的持続性の5つの柱からなるグローバル持続可能競争指数(The Global Sustainable Competitiveness Index)を公表しており、2023年に日本は12位に位置し、ソーシャル・キャピタルでは3位である。もっとも、ここでの指標には、児童死亡率、犯罪件数、所得の平等性、人権など社会的福利水準と社会における満足度などが含まれ、上記のLegatum Instituteの指標とは大きく異なっており(SolAbility, 2023: 49-52)、本調査の定義に従えばLegatum Instituteの評価が適切と考える。さらに、OECD(2020)はウェル・ビーイングの測定においてソーシャル・キャピタルに注目し、2010年以来その進歩が遅れていること主張するとともに、日本はボランティア、政府に対する信頼などにおいてOECD平均を下回ることも明らかになる。少なくとも、世界に占める日本のソーシャル・キャピタルは決して高い水準に位置しているわけではない<sup>4</sup>。

世界的に見て日本のソーシャル・キャピタルの水準は高くないうえに、経済パフォーマンスの低下に呼応するように、あるいは経済パフォーマンスの低下を導くように、日本のソーシャル・キャピタルの水準の低下も観察される。例えば、稲葉(2014)は2003年、2010年、2013年の全国調査に依拠して、特定化信頼の低下・毀損、就業構造の変化に起因する変化が大きいことを明らかにしており、日常で接する組織・人びと、家族のつきあい・信頼、さらにはモチベーションの低下が生じている可能性が考えられる。とりわけ、2020年以降の新型コロナウイルス感染症はこの傾向を強めることがあっても、逆方向に向ける力が働いているようには見えない。坂本(2010)もまた日本のソーシャル・キャピタルの減退、とりわけつながりに相当する特定化信頼、市民的参加の低下を指摘している。この傾向は日本総合研究所(2008)の調査結果にも確認される。さらに、内閣府(2003)もまた、ソーシャル・キャピタルの減少は定かではないが、つきあいの

<sup>3</sup> 繁栄指数(Legatum Prosperity Index)については <https://www.prosperity.com> を参照。

<sup>4</sup> 国際評価は必ずしも正確に日本の水準を表しているわけではない。地域に存在する組織、制度に対する理解の欠如、さらに質問のあり方、回答の態度なども考慮されなければならない(坂本, 2010)。

側面での減少が指摘され、伝統的な地縁組織ではなく新しいソーシャル・キャピタルによる信頼の醸成を提起している。

日本におけるソーシャル・キャピタルがどのような傾向にあるのか、その水準はどのように評価できるのかがひとつの研究課題であり、本研究でも調査の目的にあげている。同時に、2020年以降新型コロナウイルス感染症は、ソーシャル・キャピタルをさらに減退させるリスクを持っている。人びとのつながりを寸断し、直接の集団的な活動を制限し、かつ相互の信頼感を低下させるような行動制約が取られやすいからである。同時に、ソーシャル・キャピタルは協調行動を促す、密なネットワークにより必要な情報が伝えられる、コミュニティの復元力を強めるなどの点で、コロナ禍でのソーシャル・キャピタルの重要性も指摘されている<sup>5</sup>。

実際、新型コロナウイルス感染症とソーシャル・キャピタルに関する研究成果も存する。東京医科大学公衆衛生学分野(2022)は、ソーシャル・キャピタルとワクチン接種率の相関関係を明らかにしており、菊地他(2022)では、ソーシャル・キャピタルとメンタルヘルスの相関が明らかになる。いずれも、つながりの希薄化は否定的な結果をもたらす。関根(2021)はソーシャル・キャピタルが感染予防行動に対する意思決定にプラス効果を有しており、地域でのネットワークや政府の信頼の醸成の感染症対策上の有効性を結論する。同様に、Murayama et al (2021)も、つながりの水準の高さと政府信頼が新型コロナウイルス感染症の死亡率の低さと相関することを明らかにしている。こうした研究成果を踏まえ、本研究でも新型コロナウイルス感染症に対する行動もまた調査対象に含めている。

本研究では、以下の調査方法・調査内容に依拠して、日本におけるソーシャル・キャピタルの水準と特徴、さらに新型コロナウイルス感染症下での人びとの行動に焦点を当てて調査・考察を行う。

---

<sup>5</sup> 例えば、カワチ・イチロー(2022)。荻野(2020)はコロナ期のソーシャル・キャピタルの構築の重要性・方法を論じている。

## 2. 調査方法と回答者属性

### (1) 調査方法と内容

本科学研究費補助金基盤研究 B は 2020 年度に開始し、まず 2020 年度は主に内外の文献研究を行い、課題を明確にしたうえで、2021 年度に日本とロシアのソーシャル・キャピタルと新型コロナウイルスに対する人びとの反応・意識・行動を考察するためのアンケート調査の準備に取り掛かった。主に『世界価値観調査』と岩井・宍戸(2021)に依拠しながら、かつ 2021 年夏から秋にかけてロシアの共同研究者を含めた ZOOM 会議を頻繁に開催し、アンケート項目の精査を行った。最終のアンケート項目は日本を対象としたものとロシアを対象にしたものをそれぞれ準備し、いずれについても日本語、英語、ロシア語で準備した。なお、本調査研究末尾に付録の形で質問票を添付している。

日本を対象とした本調査は、NTT コムオンライン・マーケティング・ソリューションズ株式会社を通じて、2021 年 1 月に実施しており、同社のインターネット・アンケート調査モニターが調査対象となっている。サンプルはモニターの中から抽出されているが、日本全国を対象とし、日本の人口構成を踏まえて抽出されている。

このインターネット調査の質問事項は、6 つの大項目に沿って構成されている (第 1 表)。質問数は派生する小さいものも含め 60 問近くあり、ソーシャル・キャピタルの全体像に迫るものである。

第 1 表 質問項目

ネットワーク	家族・親族 (Q1-2)、近所づきあい (Q3-4)、友人 (Q5-7)、つきあい (Q8-11)、社会的有力者 (Q12)、社会参加 (Q13-15)
信頼	機関・制度への信頼 (Q16)、一般的信頼 (Q17-19)、満足 (Q20)、引き立てる (Q21)、社会的結束 (Q22-23)
市民社会参画	話し合い (Q24)、市民参加 (Q25)、政治 (Q26-28)
新型コロナウイルス感染症	責任 (Q29)、情報 (Q30)、変化 (Q31-34)、ワクチン (Q35)、政策・支援 (Q36-38)
その他	納税 (Q39)、格差 (Q40)、政策 (Q41)、満足 (Q42) 労働 (Q43)、資産 (Q44-45)
回答者属性	家族、教育、職場、収入、階層意識

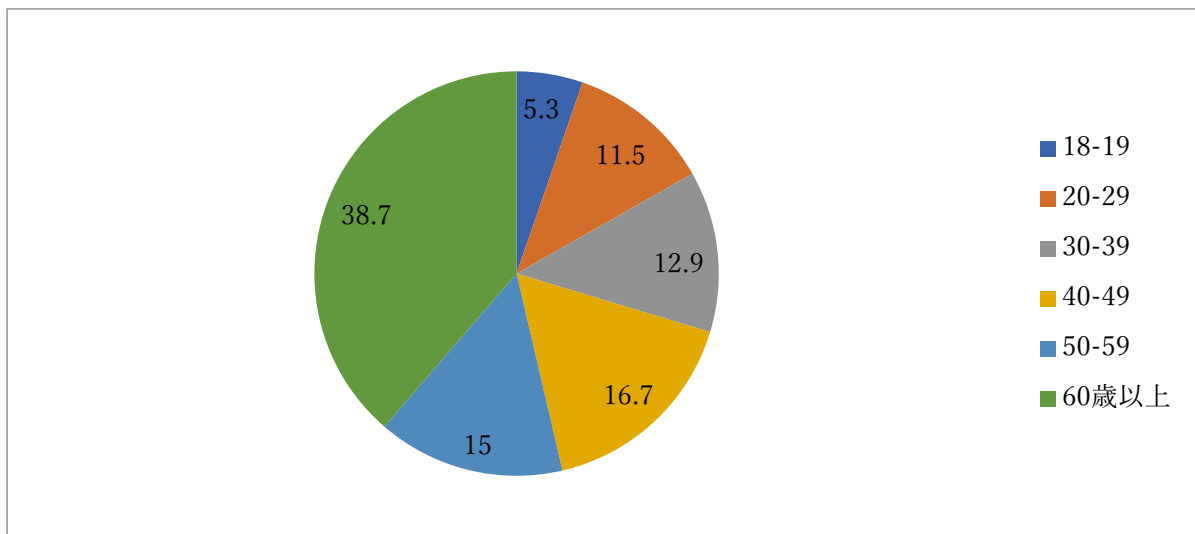
### (2) 回答者の基本属性

調査サンプル数は 18 歳以上の 4171 人で、47 都道府県にまたがる。男性 51.5%、女性 48.5% で、詳細な回答者の属性については次節の最終項目で確認されたい。年齢構成は第 1 図のようになる。居住地域は、大都市 32.9%、中小都市 59.2%、農村 5.9%、その他 2% で、単身者 32.9%、婚姻者 53.6%、離婚など 8.7% となる。

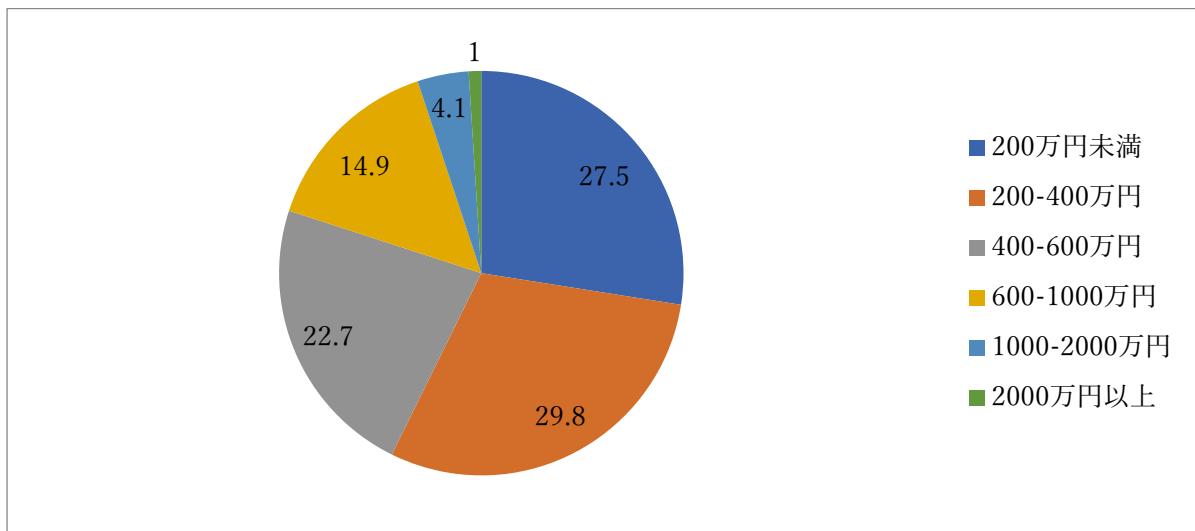
職業構成では、学生 6.3%、家事 19.9%、サラリーマン 24.4%、契約労働者 2.9%、派遣労働者 1.8%、公務員 1.9%、教員 0.8%、医療従事 1.2%、経営者 0.5%、自営業 6.5%、パートタイム 12.9%、失業者 18.8%、その他 1.5% となる。収入による区分は第 2 図のようになる。



第1図 回答者年齢構成 (%)



第2図 回答者収入構成 (%)



### 3. 調査結果と考察

本研究では、ネットワーク、信頼、市民社会参加、新型コロナウイルス感染症、納税や政府に対する意識を含むその他、および回答者個人の属性・意識の6つのテーマに分けて、調査結果を考察しよう。

#### I. ネットワークについて

まず、ネットワークに関しては、かかわりのある家族・親族や友人の数、近所付き合いなどにかかわって15の質問に基づいて分析する。個々のアンケート結果については、節末にまとめているので参照されたい。

Q1は、同居している者を除いて、1日に接する家族・親族の人数を尋ねたものである。直接会う以外に、電話や手紙、メールでのやりとりも含んでいる。総計では3割弱が0人と回答しているほか、接触がある場合も1-2人が47%と最も多く、3-4人が18%となっている。この結果、日常生活において同居家族以外の家族・親族との接触は、電話やメールを含めてもかなり限られていることがわかる。

2012年の日本での調査をベースにした岩井・宍戸（2021）の結果と比べると、0人という回答の比率はそれほど変わらない（29.6%）ものの、接触する人数は今回の調査よりは多く、1~2人が38.9%、3~4人が16.4%、5人以上が15%であったことから、コロナ禍の影響もあって、親族内でもよりつき合う範囲が狭まった可能性があると考えられる。

属性別に集計すると、男女別では女性の方が若干付き合いが多い。年齢別では、0人と1~2人を合わせた比率が、年齢が上がるほど高くなる傾向にあり、家族・親族との付き合いの幅が年をとるにつれ狭くなっていく。ただし、60歳以上の高齢になると付き合いが皆無という人数は減っている。収入別では、収入が高い層の方が、家族・親族との付き合いの人数も若干多くなる傾向にある。居住地域別で見ると、農村で3人以上の回答がほかの地域より多くなっている。

Q2は同居していない家族・親族との付き合いの密度を訪ねた質問である。お祝い事や法事などの冠婚葬祭に関わる集まりや、相談、頼み事などの頻度を尋ねたところ、最も多かった回答は、年に1回から数年に1回程度の33.8%、次いで月に1回から年に数回程度の32.9%で、この2つで約3分の2を占めている。数カ月から数年に1回程度の比較的浅い付き合い方が多いことがわかる。一方で、1-2割は頻繁に家族・親族との付き合いがあり、おそらく近所に居住しているといった地理的条件や、育児・介護の支援が必要といった生活パターンによって、日常的に接触している層も一定数は存在していることがうかがえる。

男女別では、女性の方が付き合いの頻度が高い。年齢別では、全く付き合いがない比率は20代をピークに下がっていき、50代までは比較的少なかった付き合いの頻度が60代を超えると増える。収入別では、低収入層では全く付き合いがないケースと日常的に会っているケースという両極端な回答がいずれもほかの層より多い（2000万円以上を除く）。地域別では「まったくない」が農山漁村で最も多い。

Q3は近所づきあいについて尋ねた質問である。あいさつ程度の付き合いがある近所の人的人数を尋ねたところ、0人という回答が約4分の1あり、近隣の付き合いが全くない人が相当数いることが分かる。また、1-4人という答えが約5割と、回答者の4分の3は近所付き合いが非常

に希薄なことがうかがえる。

岩井・宍戸（2021）では中国・韓国・台湾と比較して日本の近所付き合いが少ないことが明らかにされている。同書では日本の1-4人という回答は約5割で本調査と同じであるが、0人が5.5%だったため、それと比較してさらに近所付き合いが乏しくなっている。

男女別では男性の方が近所の人とあいさつもしない比率が高い。年齢別の違いは顕著で、20代を中心に若い世代ほど付き合いがない。年齢が上がるほど近所付き合いが増え、とくに60代以上でその人数が増える。収入別では、200万円未満から600万円の層では、収入が上がるほど近所付き合いが皆無の比率が増えるが、そのあとは収入が高いほど付き合いが増える。地域別では大都市ほど0人の比率が高くなる。

上のQ3では、近所付き合いそのものが希薄なことが明らかになったが、頼み事や相談といった比較的深い付き合いをしている近所の人的人数を尋ねたQ4では、0人という回答が66.4%と、圧倒的多数を占めた。1-2人が24.8%、3-4人が7.3%で、5人以上は2%にも満たない。平均すれば、あいさつ程度の近所付き合いのある人が数人いる程度で、近所で親密な付き合いをしている人はほとんどいないという結果である。

これは岩井・宍戸（2021）の結果とも整合的である。同書によると、中韓台では0人という回答はいずれも2割に満たなかったため、日本は国際的に見ても、近所づきあいが乏しくなっていると見える。

男女別では女性の方が親密な近所付き合いをしている比率が若干高い。年齢別では20代が0人の比率が最も高く、それ以降は若干人数が増えていくが、とくに60代以降で大幅に増えていることがわかる。収入別では、収入が高いほど人数が多くなる傾向にある。地域別では顕著な違いは見られない。

Q5では友人の数を尋ねたところ、4人に1人は友人がゼロという結果であった。また、1-2人の31.6%、3-4人の25.6%と合わせると、回答者の8割は友人が4人以下ということになり、友人関係も極めて希薄な結果となった。

男女別では友人がゼロという回答は男性の方が多い。年齢別では、10代の若者や60歳以上の高齢者では比較的友人が多いが、30代、40代といった働き盛りの世代では友人の数が減る傾向にある。収入別では、収入が高いほど友人の数も増える傾向にある（2000万円以上を除く）。地域別では、大都市ほど友人の数が多くなる。

Q6では友人・知人との付き合いの密度を尋ねた。学校や職場での付き合いを除き、友人・知人との程度頼み事や相談をするかという質問に対し、24.7%はまったくないか、友人・知人がいないという回答であった。また、年に1回から数年に1回程度という回答が最多で38.2%であった。したがって、約3分の2の人びとは年に1回以下しかそういった相談をしないことになる。この理由としては、2つの可能性が考えられる。1つは、友人・知人との親密な付き合い自体が少ない可能性で、仮に親密な関係があっても頼み事や相談といった行動をあまりとらない日本人の性格が影響していることも考えられる。もう1つは、友人関係が職場や学校での人間関係をベースにしている可能性で、その場合、この質問の対象から外れたところにリアルな交友関係が存在することになる。

男性、とくに30代から50代の働き盛りの世代で「全くない」、あるいは「めったにない」の比率が高いことは、これらのカテゴリーの人びとにとって、職場以外で濃い人間関係を持つ余裕がないことを示しているとも受け取れる。反対に、平均すると職場以外で過ごす時間が男性

よりも長いと考えられる女性では、職場以外の交友関係が男性より豊富になっていると言える。収入別では低収入の人ほど「全くない」が多くなることから、収入の高い方が潜在的に友人関係はあるものの、勤労世代はそれほど頻繁に交流する時間がないという可能性がある。地域別では農村部で「全くない」が多くなる傾向が見られる

Q7 について、友人・知人との付き合いでよく利用する手段としては、最も多かったのが対面の 34.6%、次いで SNS の 24.6%、電子メールの 21.0%であった。

その他の答えとしては、年賀状、手紙、ハガキが計 16 名、LINE など SNS に含めるべきものが 14 名、また、なし、友人・知人がいないという答えが 79 名であった。

この結果から、友人・知人と会う回数は決して多くはないが、会う時は対面が多いということがうかがえる。また、年 1 回の年賀状の交換を通してゆるやかなつながりを維持する人が一定数いることは、日本的な付き合い方の特徴と言えるかもしれない。

男女別では男性の方が対面の比率が高く、女性は電子メールや SNS の比率が高くなっている。年齢別では若い世代と高齢世代では対面が多く、30 代、40 代では対面以外が多くなる。また、若い世代ほど SNS をよく利用し、電話は高齢者の方がよく利用している。収入別では、収入があがるほど対面の比率が高くなっている。地域別では農村の方が都市部より対面が多い。

親族以外で日常的につき合いのある人との関係を尋ねた Q8 では、86.6%が同じような立場や地位の人との交流が多いと回答した。友人・知人との付き合いは、比較的同質的な者同士で行われていることを示している。

男女別では、男性の方が若干、自分と立場の異なる人との付き合いが多い。年齢別では、30 代までは自分より地位の高い人との付き合いが増える傾向にあり、その後はその比率が減少していく。収入別では、全体としては同じ地位の者同士の付き合いが多いが、低収入層では自分よりも地位の高い人との付き合いが、高収入層では自分より地位の低い人との付き合いが増える。地域別では、農山漁村では都市部よりも自分よりも地位の高い人との付き合いが多くなっており、農村部の人たちが相対的に経済水準が低い可能性を示している。

Q9 は、親族や知り合いに特定の職業の人物がいるかどうかを尋ねた質問である。この中で比較的多いのは、医師・看護師の 20.8%、公務員・官僚の 20.2%、小中高等学校の教員の 17.8%、企業経営者の 14.3%、コンピューター・プログラマーの 12.3%である。大学教員が 8.5%、弁護士や警察官が 6%強、企業の人事担当者が 5.4%、最も少ないのが政治家で 3.5%であった。

岩井・宍戸（2021）では、本調査とは質問項目が一部異なるものの、看護師が 48.9%、警察官が 22.4%、中学校教員が 25.5%、プログラマーが 21.5%、人事担当者が 18.7%、大学教授が 15.6%、弁護士が 11.2%であった。同書ではほかのアジア諸国と比べると、日本では交流のネットワークが小さいことが指摘されているが、本調査ではそれ以上に交流のネットワークが小さい結果となっている。

男女別では、医師・看護師や学校の教員では女性の方が男性より比率が高いが、それ以外の職業では男性の方に知り合いが多い。年齢別では、警察と企業の人事担当者を除けば、概ね年齢が上がるほど知り合いも増える傾向にある。収入別では、収入が高いほど知り合いが増える傾向にあるが、政治家はそうではないことがわかる。地域別では、大学教員、弁護士、企業の人事担当者、コンピューター・プログラマーなどは大都市での比率が高く、これらの職業が大都市に多く存在していることによるものだと考えられる。その他の職業では、若干大都市での比率が高いものの、それほど顕著な差は見られない。

Q10 では、ソーシャル・キャピタルが果たすサポート機能に注目し、様々な問題に直面した時にまず誰に支援を求めるかを尋ねた。岩井・宍戸（2021）でも取り上げられている「悩み、心理的な問題」「健康上の問題」「家事や育児、介護の問題」「金銭的な問題」「緊急時や災害の問題」の5つの問題群に加え、「求職に関わる問題」「教育、進学上の問題」の2つを独自に追加した。また、選択肢としては「同居家族」「その他の親族」「職場の人」「近所の人」「友人」「専門職の人」「地域コミュニティ」、および「誰にも助けを求めなかった」「そのような経験をしたことがない」のケースを用意した。

悩み・心理的な問題では、37.8%の人が同居家族に、14%が友人に相談しているが、誰にも助けを求めなかった人も17.9%存在している。ほかの問題と比べると、友人の役割が比較的大きいと言える。

健康上の問題では、同居家族が46.6%と半数弱を占めており、同居している家族の存在が非常に大きい。医師などの専門職に頼る比率は6.1%で、他の問題よりは高くなっている。

家事・育児・介護については、経験したことがない人が4割弱と多いが、経験した人の中では、約6割が同居家族もしくは同居していない親族に助けを求めており、家族・親族の役割が大きい。

金銭的な問題では、経験していない人が4割強、同居家族が32.8%、誰にも助けを求めなかった人が13%となっている。

緊急時や災害に関わる問題は、経験していない人が44%と多いが、経験した人の中では同居家族が32%と最も多く、誰にも助けを求めなかった人が13%で続く。災害時などは地域コミュニティや近所同士の助け合いが役目を果たすかと思われたが、それぞれ1.9%、0.5%と、意外にも少ないことがわかった。

求職に関わる問題は、ほかの項目より同居家族の比重が減り、誰にも助けを求めなかった人が17.1%と多くなる。仕事の問題は家族にも相談せず、1人で抱え込んでしまう人が多い可能性があるが、経験したことがない人も42.2%と多い結果となった。

教育、進学上の問題は、経験したことがない人が37.4%であった。経験した人の中では、同居家族が32.6%と最も多く、誰にも助けを求めなかった人が15.8%で続く。

それぞれの問題についての「その他」（自由回答）の内訳は下表の通りである。すでにあがっている項目に含まれる回答や、とくになしといった回答が多いが、少数意見の中で注目すべき点としては、インターネット・コミュニティが1つの相談対象となっていること、またおそらく高齢男性に多いと思われるが、家族の問題は妻任せにして問題そのものに関与してこなかったケースなどがあげられるだろう。

全体的に、同居家族やその他の親族の比重が大きく、様々な面で家族によるサポートが大きいことがわかった。悩みや心理的な問題については友人の役割も大きいですが、誰にも助けを求めないというケースも目立った。地域コミュニティや近所の人々の役割は全体的にかなり小さいことも明らかになった。結果は全体的には岩井・宍戸（2021）とも整合的であった。

属性別に見ると、男女別では、悩み・心理的な問題や健康上の問題、育児・介護にかかわる問題においては、女性の方が男性より同居家族以外の親族や友人に頼るケースが多く、男性は女性と比べ、そのような経験をしたことがないというケースが多かった。育児・介護やそれに起因する悩みなど、男性が問題を認識していない一方で、女性が同居家族以外に助けを見出さざるを得ない状況を反映している可能性がある。他方、金銭的問題においては、そのような経

験をしたことがないという回答は、わずかだが女性の方が高かった。

年齢別では、10代では多くの問題で友人の比率が他の世代よりも突出して多い。金銭的問題や求職、教育に関わる問題などは、世代が上がるほど問題を経験していないという回答が増える。反対に、育児や介護では年齢が上がるほど経験していないという回答は減り、家族や親族に頼るようになっていく。

収入別では、金銭的問題、教育・進学上の問題、求職に関わる問題で、収入が高いほど問題を経験していない比率が高まる。健康や心理的な悩み等、それ以外の多くの問題ではあまり収入との関係が見られないが、家事・育児・介護に関しては、高収入層ほど同居家族に頼っているのに対し、低収入層は誰にも助けを求めないケースが多くなっている。

地域別では、それほど大きな違いが見られないが、いずれの問題においても誰にも助けを求めなかったという回答が農村で最も高くなっている。

Q11の「個人的ネットワークを築く上でどのような人びととの交流が有利な機会を与えてくれるか」という質問については、45.3%と半数弱の回答者が家族・親族をあげている。同級生ではない知人・友人が26.7%、仕事関係の人が9.4%となっている。個人的ネットワークの意味をどのように捉えるか、例えばプライベートな友人を増やすという意味で捉えるのか、あるいは出世のチャンスをつかむような人脈と捉えるのかで答えが変わってくる可能性があり、本調査では、前者と捉えた回答者が多かったのではないかと推測される。

男女別で見ると、仕事関係のネットワークや同窓会ネットワークが、男性にとってより有利に働くと捉えられている。年齢別では、10代で同窓会の比率が若干高いことを除くと、それほど大きな違いは見られない。収入別で見ると、同窓会や仕事関係のネットワークが、高収入層でより有利に働くと捉えられている。地域別では、大都市においては他地域よりも同居家族以外のネットワークを持つ人が多いことがわかる。

個人の成功にとって、政治家や官僚、企業経営者といった社会的有力者との関係がどの程度重要だと思うかを尋ねたQ12では、どちらとも言えないが44.5%と最多であった。ある程度重要であるが23.2%、非常に重要であるが4.4%で、関係を肯定的に捉えた回答は合わせて27.6%となる。反対に関係を否定的に捉えた回答は、それほど重要ではないが18.6%、まったく重要ではないが9.3%で、合計で27.9%である。したがって、日本では社会的有力者との関係を重要な要素とみなすかどうかについての賛否は拮抗しており、とくに社会的有力者との「コネ」が重要と捉えられているわけではないと言える。

属性別では、「どちらとも言えない」という回答が全体に多く、それほど顕著な違いは見られない。

様々な団体・組織にどれくらい参加しているかを見る質問(Q13)では、最も参加が多いのが町内会などの地縁組織で、積極的に参加している、加入のみを合わせて32.3%である。ただし、岩井・宍戸(2021)では日本の地縁組織への参加率の高さがアジアの中でも突出して高く、6割を超えるという結果が示されているため、本調査での参加率は同書と比較すると低くなっている。

同窓会も同じように、約4分の1が参加している。加入のみの人も多いが、積極的に参加している人も7.3%おり、オフィシャルな集まりに加え、校友との非公式な付き合いを含めて捉えている回答者もいると思われる。

スポーツや趣味のサークルには約2割が参加しており、積極的に取り組んでいる人の比率は

12.6%と、全団体の中で最も高くなっている。

ボランティアやNPOには約1割の人が参加している。市民運動／消費者団体や宗教団体、労働組合、職業団体などへの参加は低調である。

その他（自由回答）の答えとしては、地縁組織や趣味・スポーツの会、NGOなど、すでにあがっている項目に吸収されるものが多かった。

全体的な傾向は岩井・宍戸（2021）とも整合的であり、日本人の団体への参加は、町内会などの地縁組織、同窓会関係、趣味の集まりが3本の柱になっていると言える。

属性別に見ると、男女とも地縁組織、同窓会、趣味の集まりがトップ3を占めている点では同じだが、全体的に男性の方が女性よりも積極的に活動に加わっている。とりわけ、同窓会、政治団体、職業団体、労働組合に積極的に参加しているのは男性である。世代別の違いは顕著で、地縁組織は年齢が上がるほど参加率が上がり、とくに60代以上で飛躍的に伸びている。日本人男性の退職後の活動の1つとしてこうした地縁組織への参加が増えるものと思われる。NPOやボランティア活動も同様である。同窓会、趣味の会は若年世代と高齢世代で高く、30代で最も低くなっている。とりわけ60代以上で参加率が大幅に伸びる傾向にある。収入別では、全体的に高収入層ほど様々な組織への参加率が高い。他方、政治団体や労働組合では、中収入層の参加が最も多く、低収入層と高収入層の参加は低くなっている。地域別にみると、多くの団体で概ね都市部の方が参加率が高くなっているが、地縁組織については農村部において参加率が高く、こうした地縁組織が農村部では今もなお根強く残っていることを示している。

過去1年間に最も積極的に参加した集まりを尋ねた質問（Q14）では、まず何らかの団体に積極的に参加したことがある回答者が974名と、回答者全体の4分の1弱であった。回答者の内訳は60代以上が63%と、高齢者が大半を占めている。その中で最も積極的に参加した活動は趣味やスポーツの会が41%と最も多く、次いで地縁組織が20.2%、ボランティアなどが10.1%であった。過去1年間にはいずれにも参加していない人も15.5%いた。コロナ禍で同窓会などは中止・延期となることが多かったと思われるが、趣味・スポーツの集まりや町内会などは引き続き行われていたようである。

男女別では、女性は男性よりも趣味やスポーツの会、ボランティア活動などを積極的に行っており、男性では同窓会や政治団体などの活動が多かった。地縁組織での活動は、男女を問わず積極的に行われている。年齢別では、10代で趣味・スポーツの会の比率がとくに高いこと、また20代が政治活動を積極的に行っている点が目立つ。30代以上では、いずれも趣味・スポーツの会、地縁組織、ボランティアが上位にあがっている。収入別で注目される点としては、宗教団体に積極的に活動している人が相対的に多いのは低収入層であること、高収入層では職業団体での活動が他の層より多いことがあげられる。地域別では、農山漁村は地縁組織での活動が最も多く、都市の規模が大きくなるほど地縁組織の比率が下がること、反対に趣味やスポーツの会の比重は大都市ほど大きくなっている。

Q14で答えた過去1年間に最も積極的に参加した団体の中の人間関係について尋ねた質問（Q15）では、65%が同じ行動や考え方をしている人が多いと回答した。

これを団体別に見ると、政治団体、ボランティア・NPO、市民運動・消費者団体、宗教団体、労働組合では、大部分の人びとが同じ考え方や行動をしていることが分かる。また、地縁組織、同窓会、趣味やスポーツの会など、メンバーの同質性が必然的ではないと考えられる集まりにおいても、7割程度はこれらのサークルのメンバーの同質性が高いと回答している。全体的に同

質性が高い結果となった点は、岩井・宍戸（2021）とも整合的である。

Q1. あなたが普段、1日に接する家族・親族は何人いますか。（対面、電話、手紙、インターネットを通して。同居する家族は除く）

		実数	%
全体		4171	100.0
1	0人	1192	28.6
2	1-2人	1962	47.0
3	3-4人	750	18.0
4	5-9人	183	4.4
5	10-19人	58	1.4
6	20人以上	26	0.6

図 1-0 総計 (N=4171)

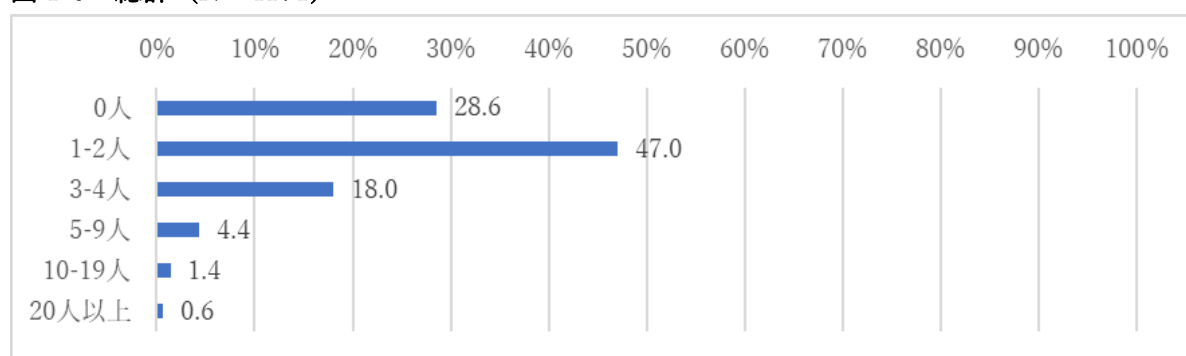


図 1-1 男女別 (N=4171)

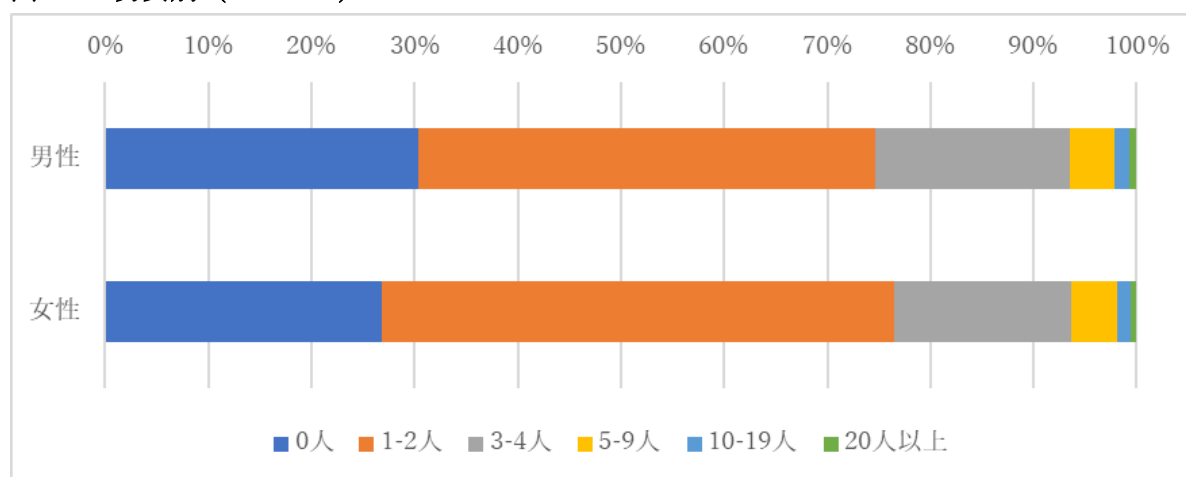




图 1-2 年齢別 (N=4171)

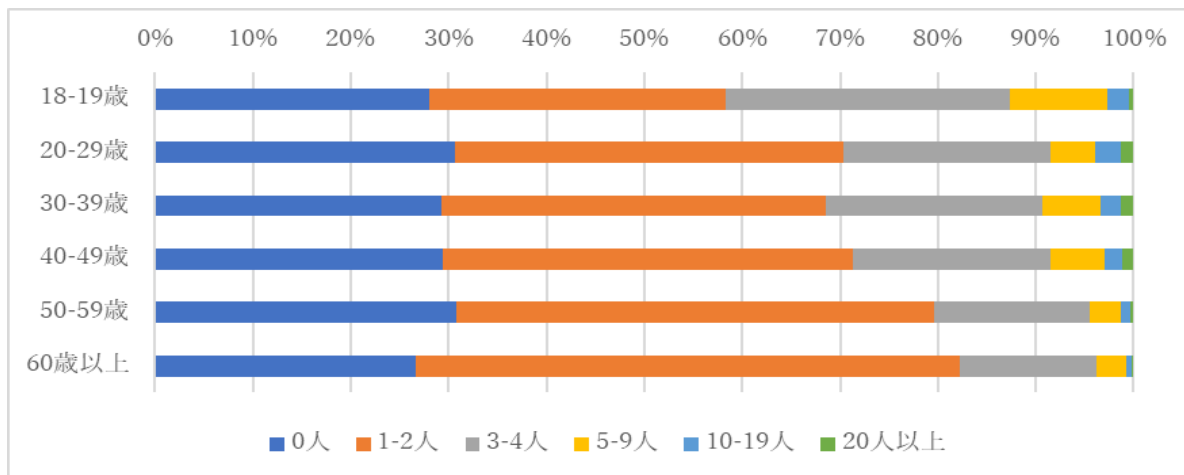


图 1-3 収入別 (N=2235)

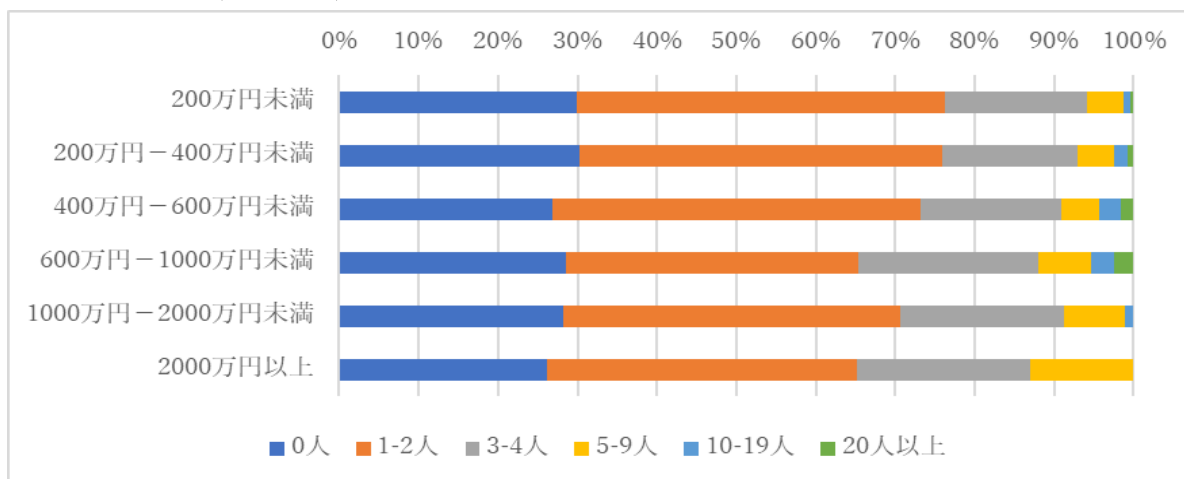
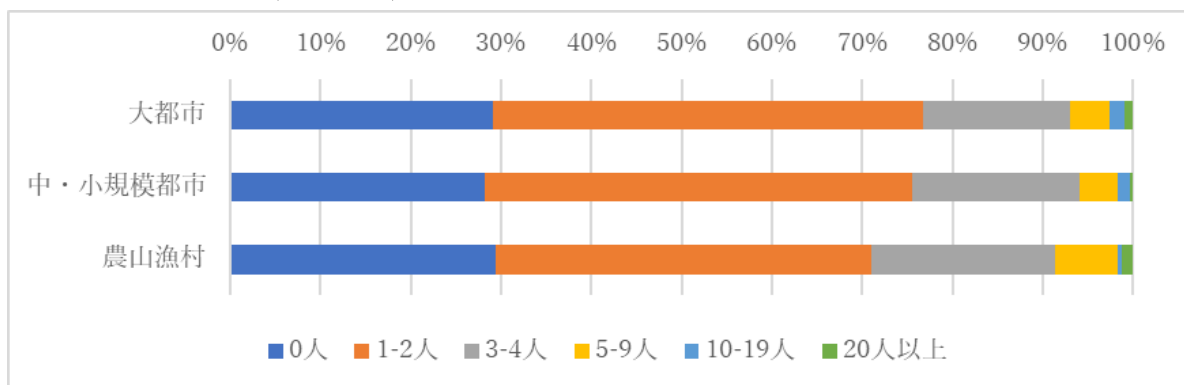


图 1-4 居住地域別 (N=4087)



Q2. あなたは普段、どの程度の頻度で家族・親族と付き合い（冠婚葬祭やお祝い事などの交流、頼み事や相談など）をされていますか。（同居する家族は除く）

		実数	%
全体		4171	100.0
1	まったくない（もしくは親族はいない）	391	9.4
2	めったにない（年に1回～数年に1回程度）	1411	33.8
3	時々ある（月に1回～年に数回程度）	1372	32.9
4	ある程度頻繁にある（週に1回～月に数回程度）	535	12.8
5	日常的にある（毎日～週に数回程度）	462	11.1

図 2-0 総計 (N=4171)

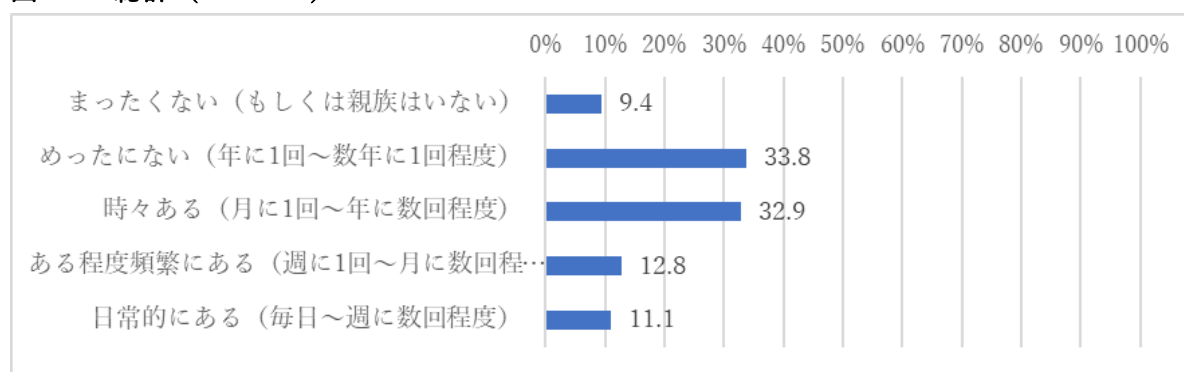


図 2-1 男女別 (N=4171)

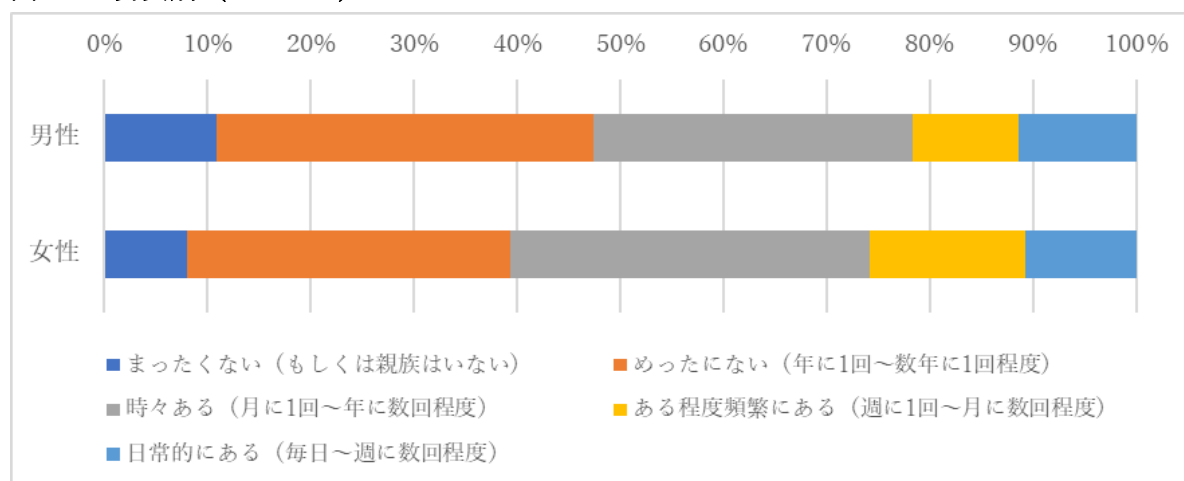


図 2-2 年齢別 (N=4171)

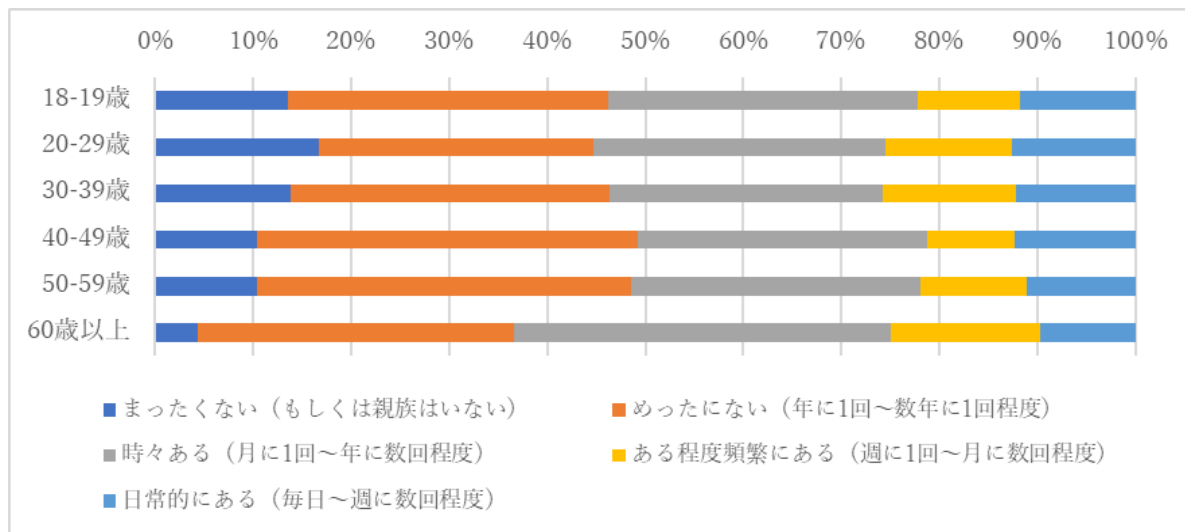


図 2-3 収入別 (N=2235)

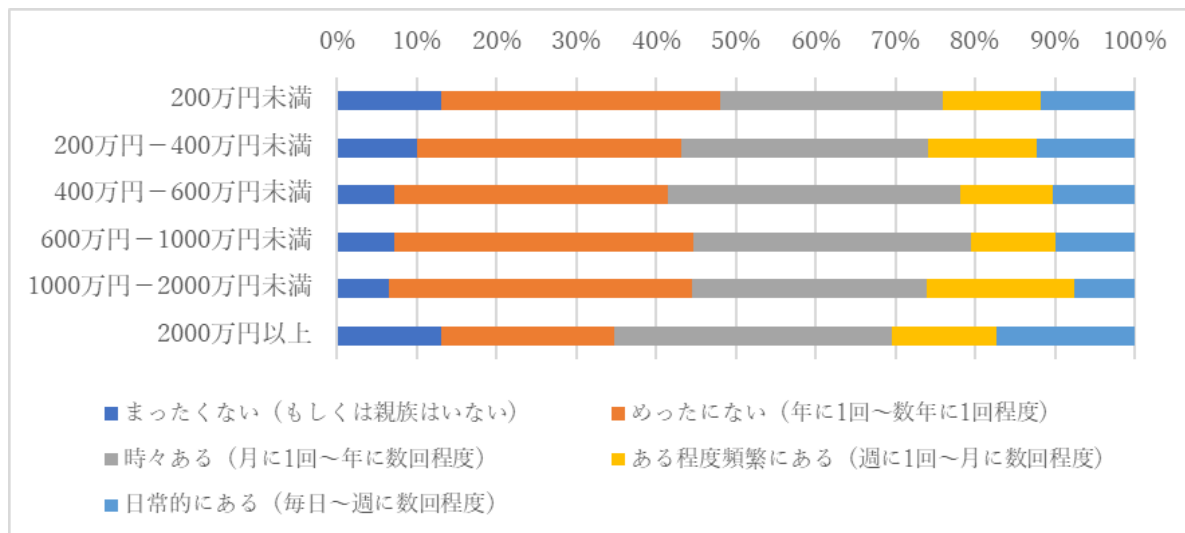
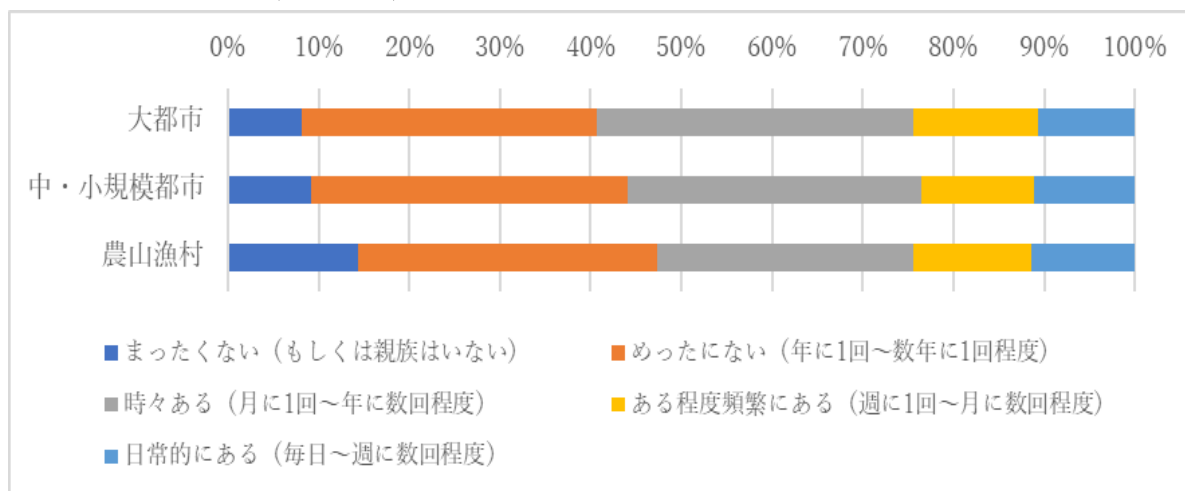


図 2-4 居住地域別 (N=4087)



Q3. あいさつ程度の付き合いがある近所の人は、何人くらいいますか。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	0人	1046	25.1
2	1-4人	2040	48.9
3	5-9人	765	18.3
4	10-19人	223	5.3
5	20人以上	97	2.3

図 3-0 総計 (N=4171)

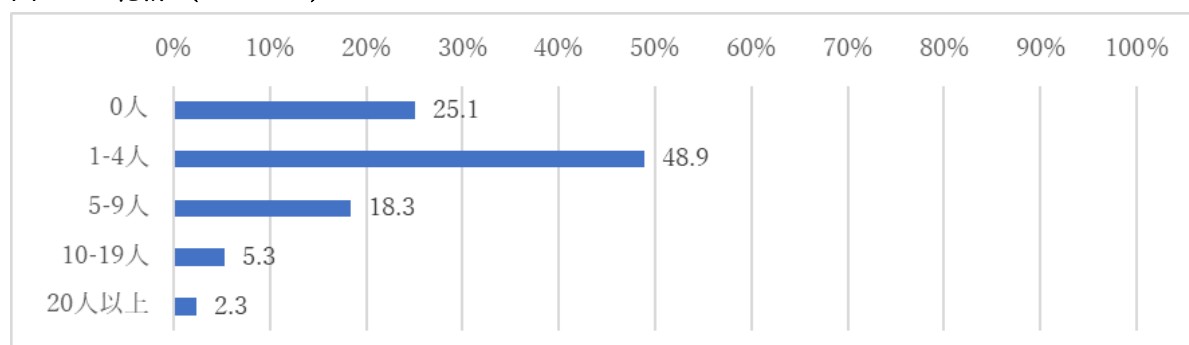


図 3-1 男女別 (N=4171)

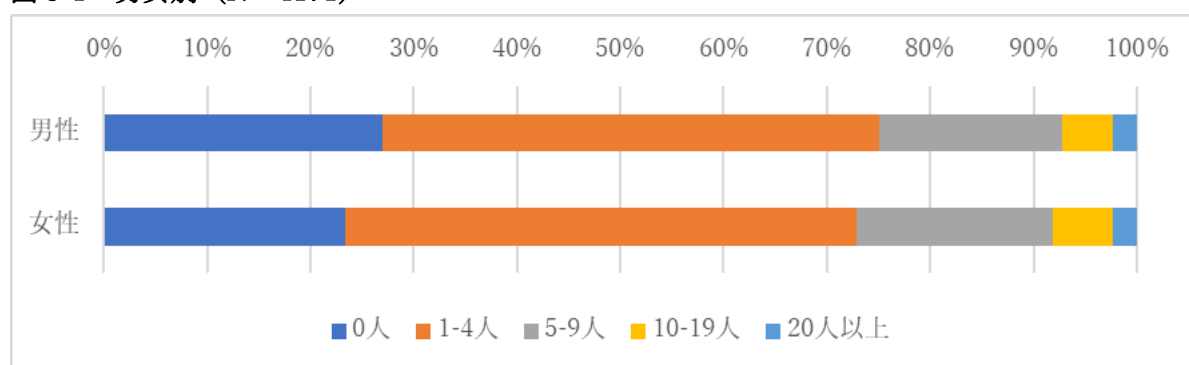


図 3-2 年齢別 (N=4171)

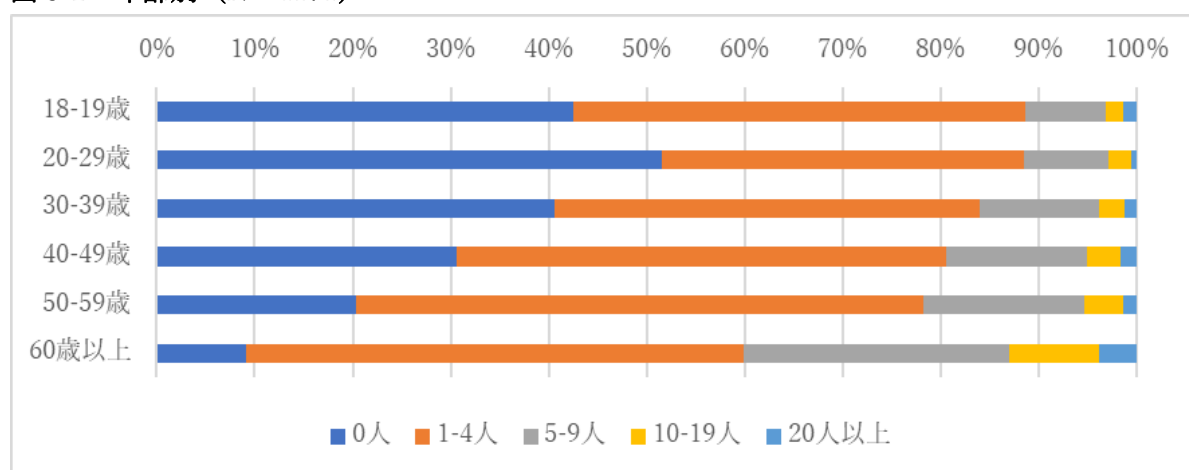


図 3-3 収入別 (N=2235)

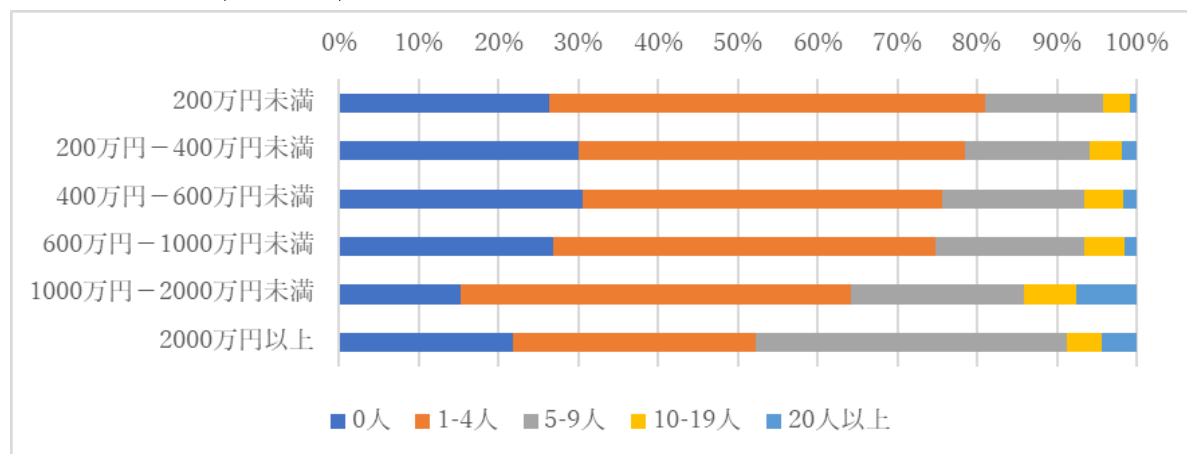
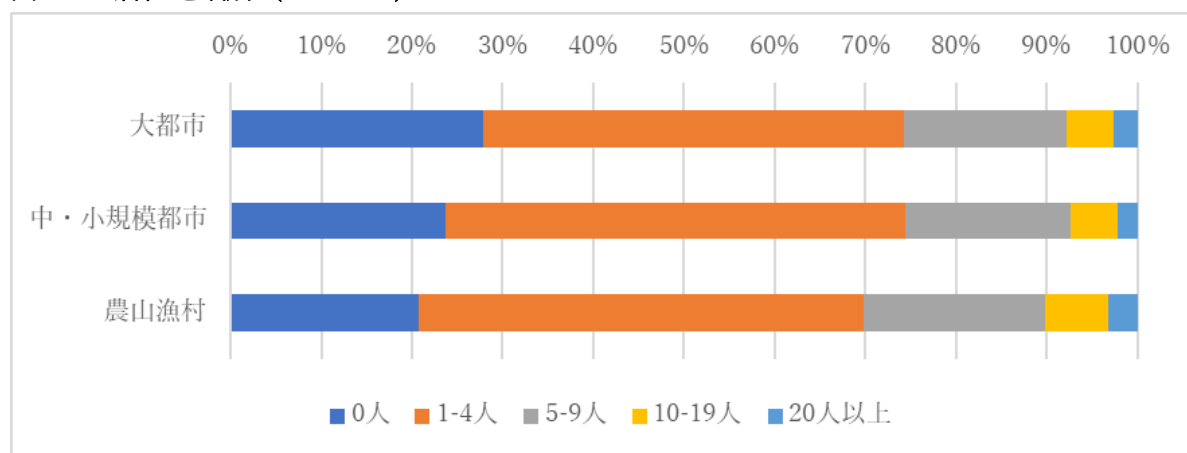


図 3-4 居住地域別 (N=4087)



Q4. 頼み事や相談ができる近所の方は、何人くらいいますか。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	0人	2771	66.4
2	1-2人	1034	24.8
3	3-4人	305	7.3
4	5-9人	44	1.1
5	10人以上	17	0.4

図 4-0 総計 (N=4171)

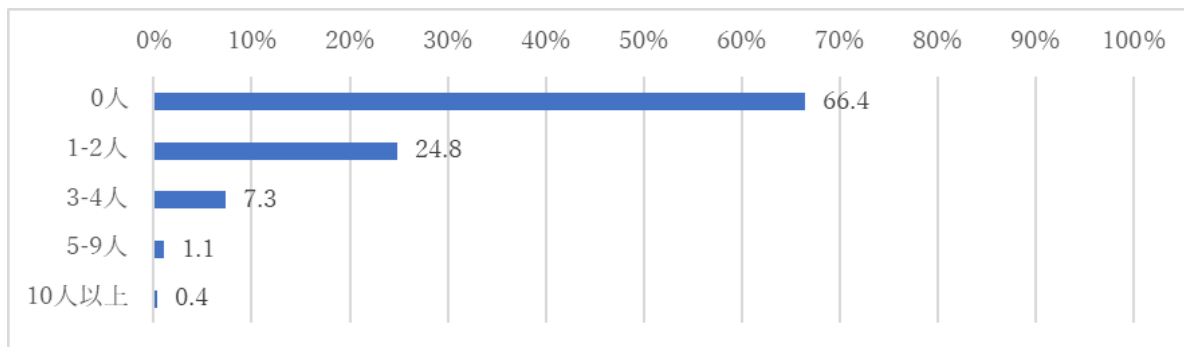


図 4-1 男女別 (N=4171)

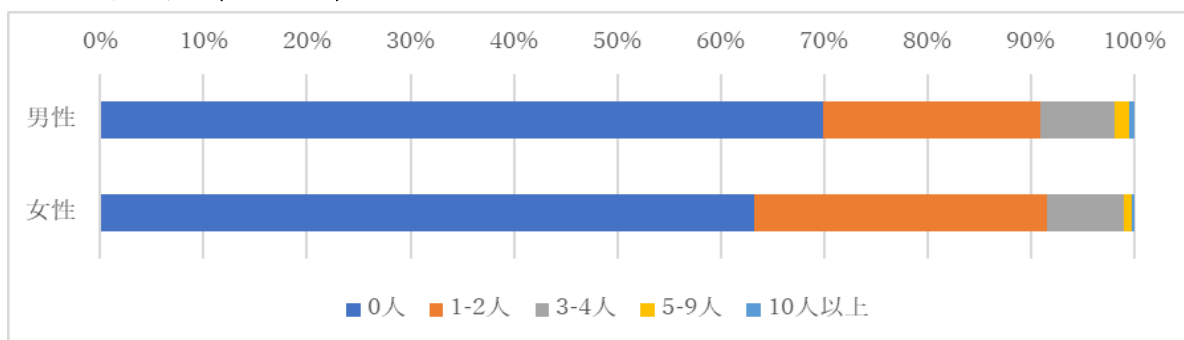


図 4-2 年齢別 (N=4171)

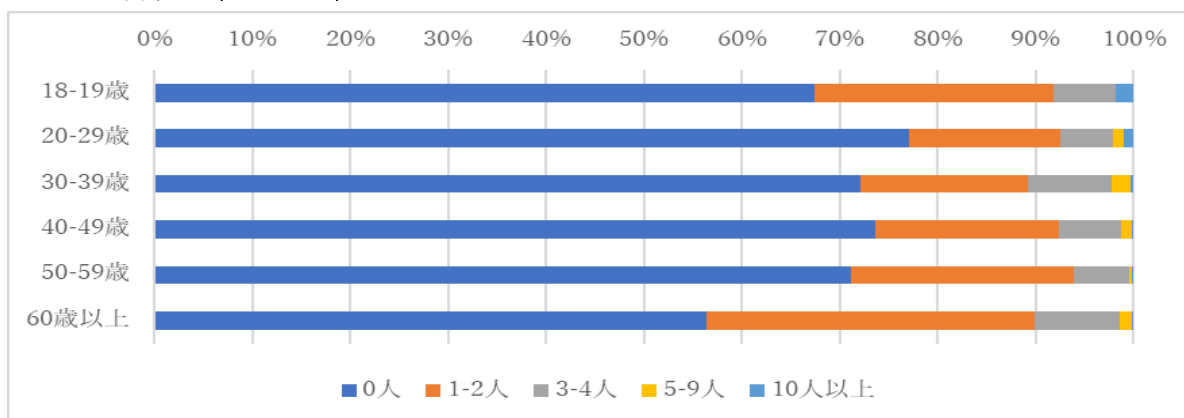


図 4-3 収入別 (N=2235)

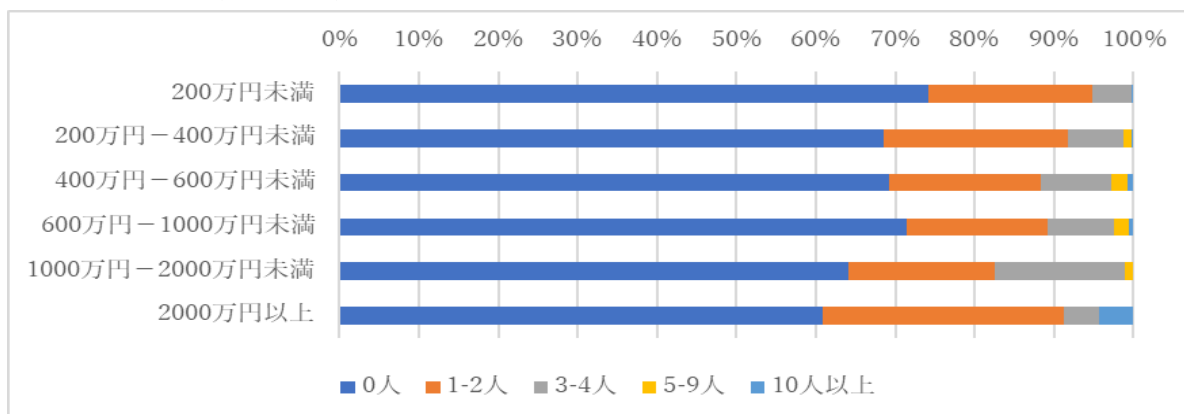
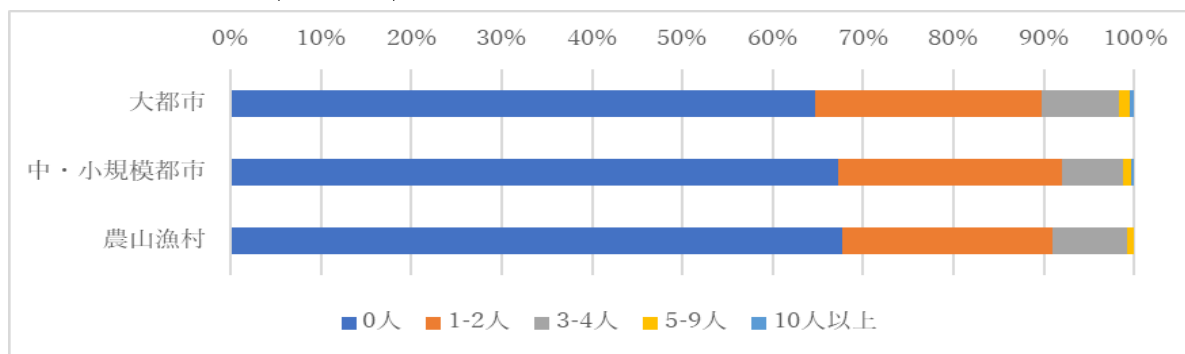


図 4-4 居住地域別 (N=4087)



Q5. あなたの親しい友人は何人くらいいますか。親しい友人とは、気兼ねなく付き合いができ、私的な事柄について話したり、援助を求めたりできる人のことです。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	0人	1010	24.2
2	1-2人	1319	31.6
3	3-4人	1068	25.6
4	5-9人	560	13.4
5	10-19人	173	4.1
6	20-49人	31	0.7
7	50-99人	5	0.1
8	100人以上	5	0.1

図 5-0 総計 (N=4171)

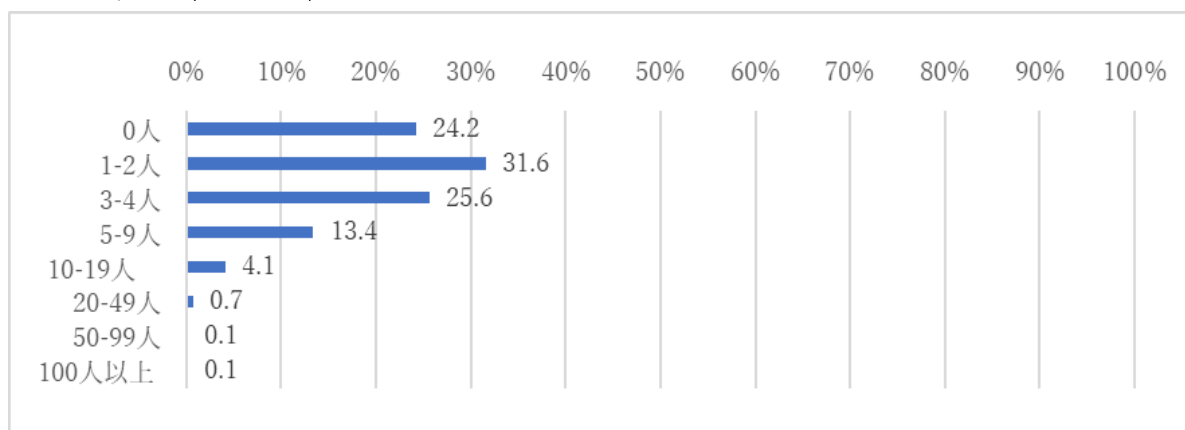


图 5-1 男女別 (N=4171)

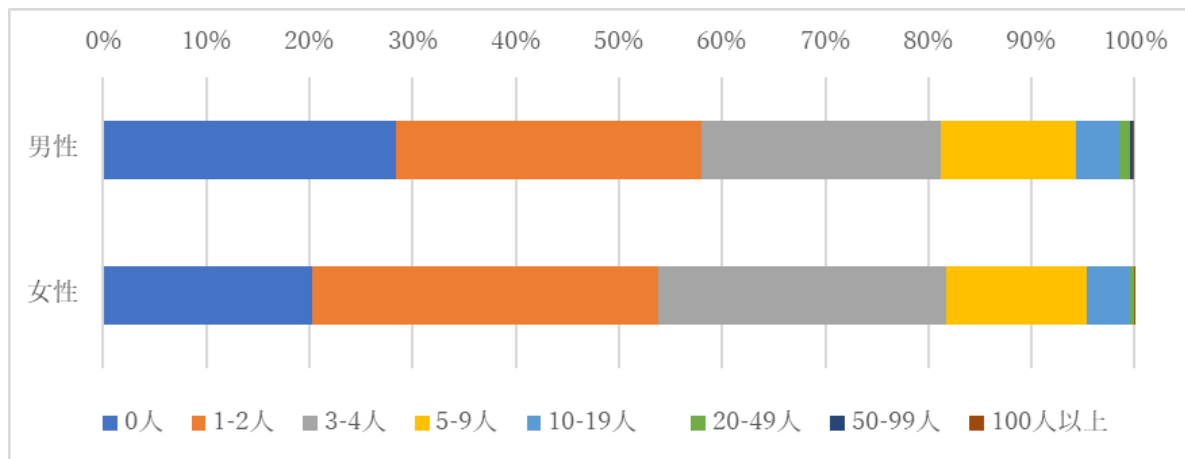


图 5-2 年齢別 (N=4171)

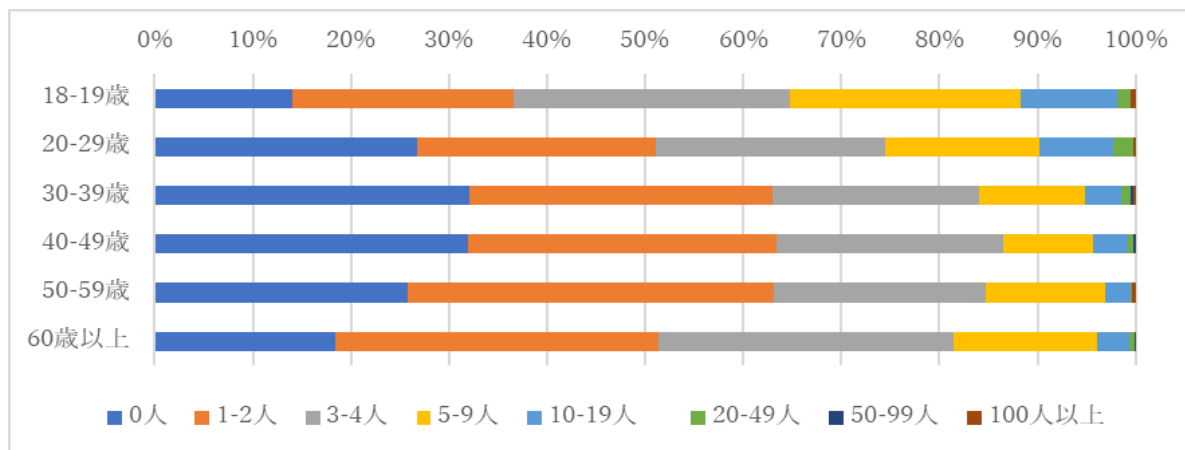


图 5-3 収入別 (N=2235)

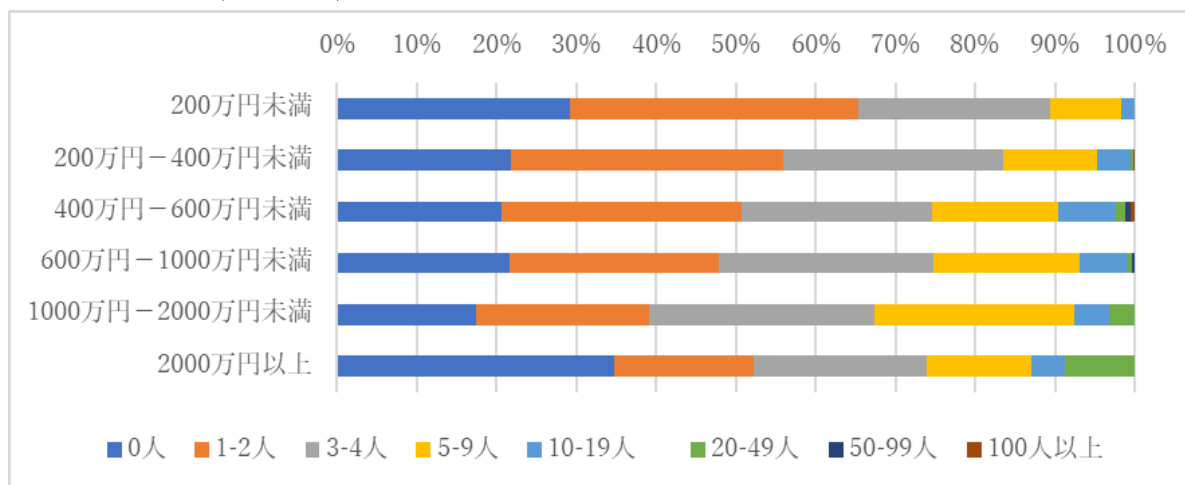
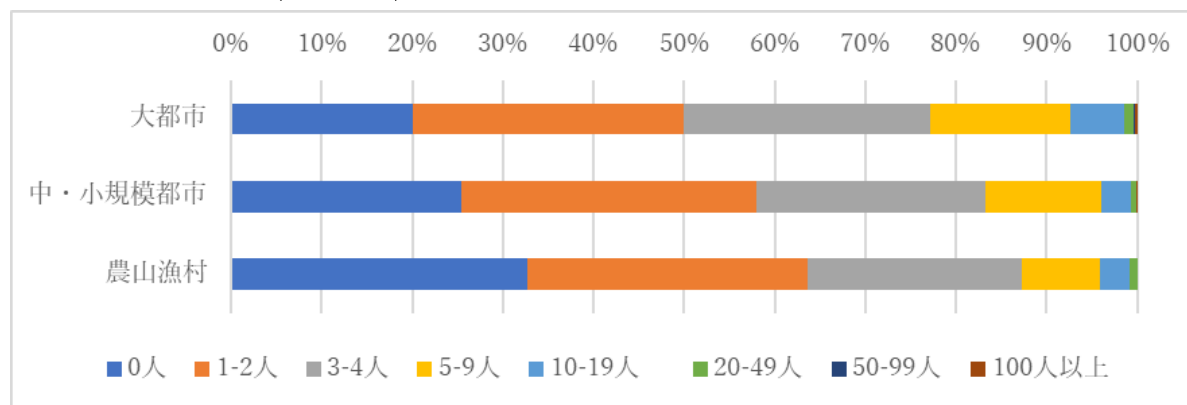




図 5-4 居住地域別 (N=4087)



Q6. あなたは普段、どの程度の頻度で友人・知人と頼み事、相談といった付き合いをされていますか (学校や職場以外で)。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	全くない (もしくは友人・知人はいない)	1030	24.7
2	めったにない (年に1回～数年に1回程度)	1594	38.2
3	時々ある (月に1回～年に数回程度)	1143	27.4
4	ある程度頻繁にある (週に1回～月に数回程度)	321	7.7
5	日常的にある (毎日～週に数回程度)	83	2.0

図 6-0 総計 (N=4171)

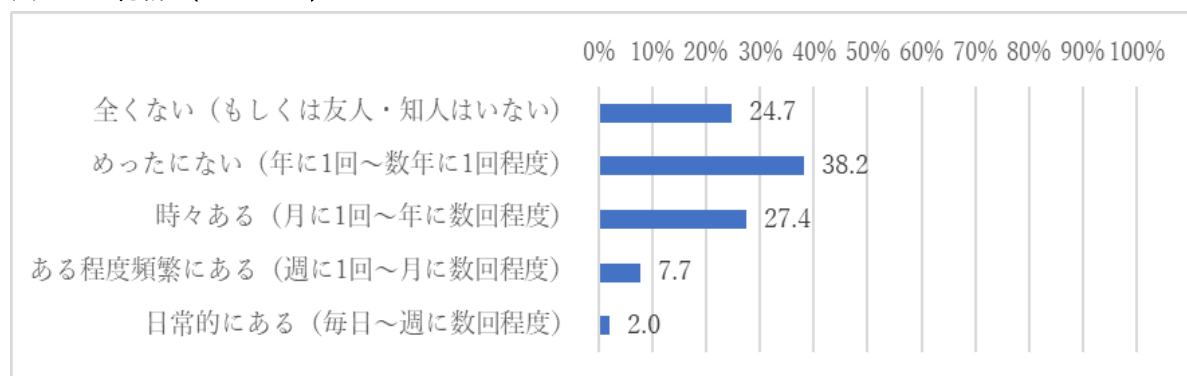


図 6-1 男女別 (N=4171)

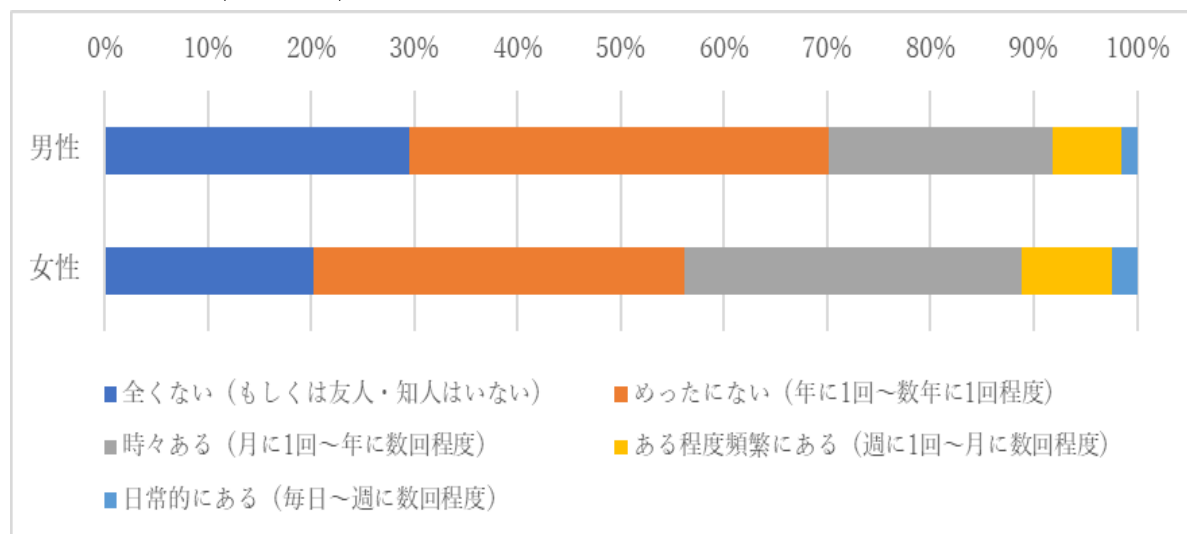


図 6-2 年齢別 (N=4171)

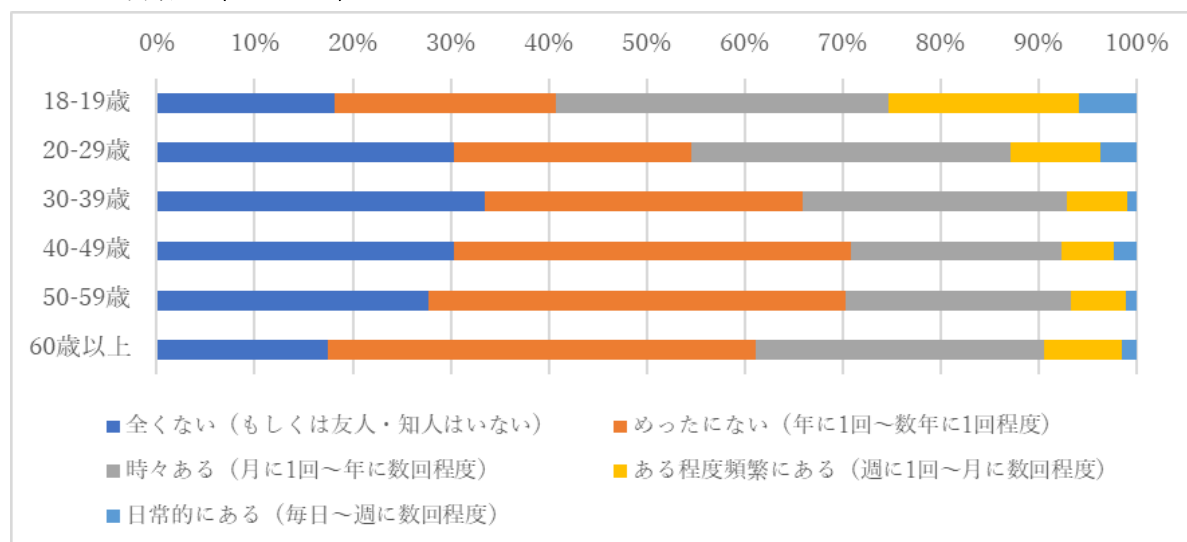


図 6-3 収入別 (N=2235)

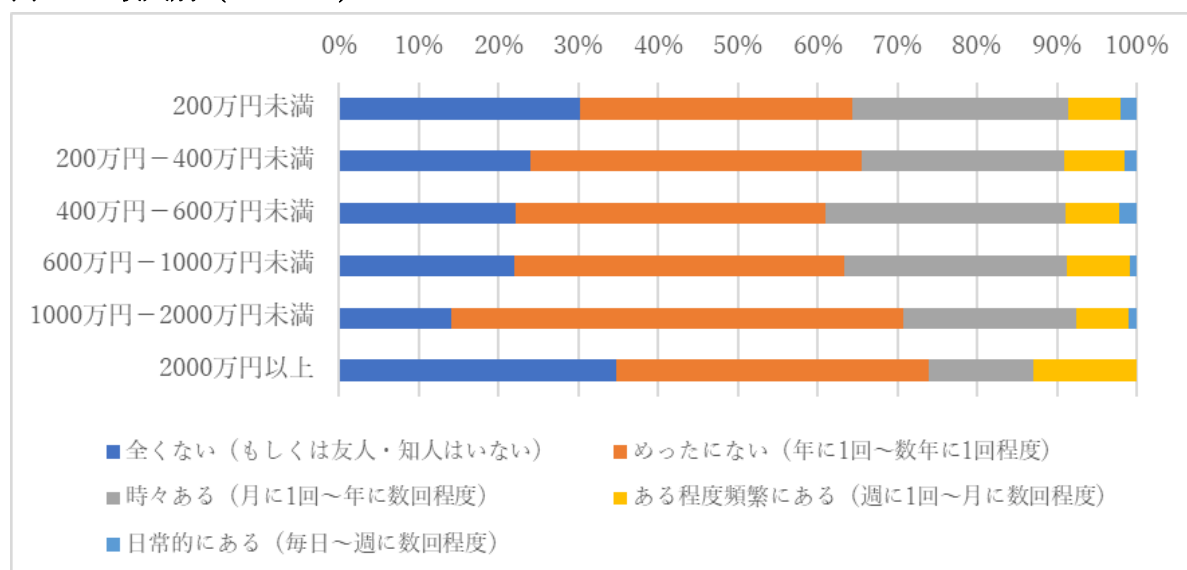
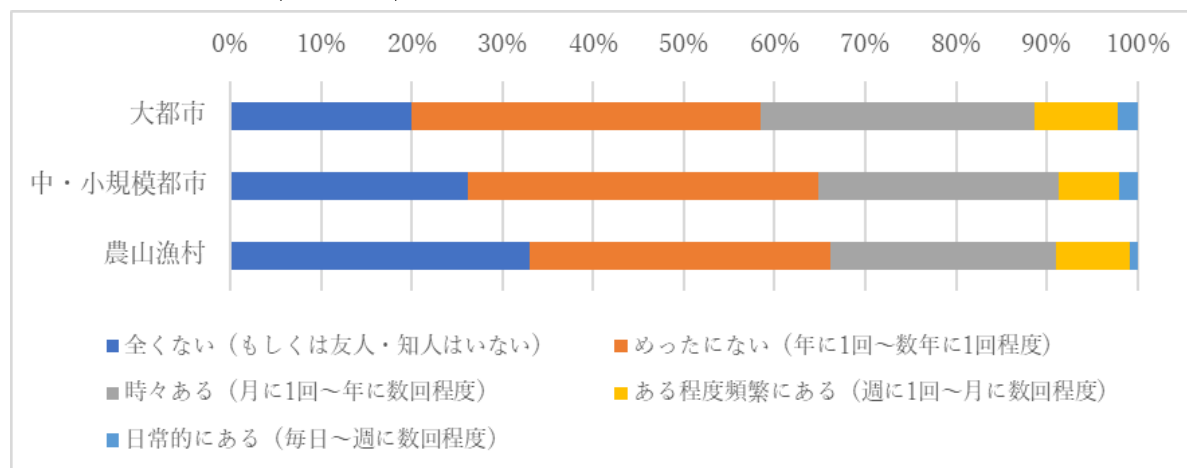


図 6-4 居住地域別 (N=4087)



Q7. あなたが友人・知人との付き合いで使用する主な手段は何ですか。以下からもっともよく使うものを1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	対面	1445	34.6
2	電話	711	17.0
3	電子メール	876	21.0
4	SNS	1028	24.6
5	その他 (具体的にお書きください)	111	2.7

図 7-0 総計 (N=4171)

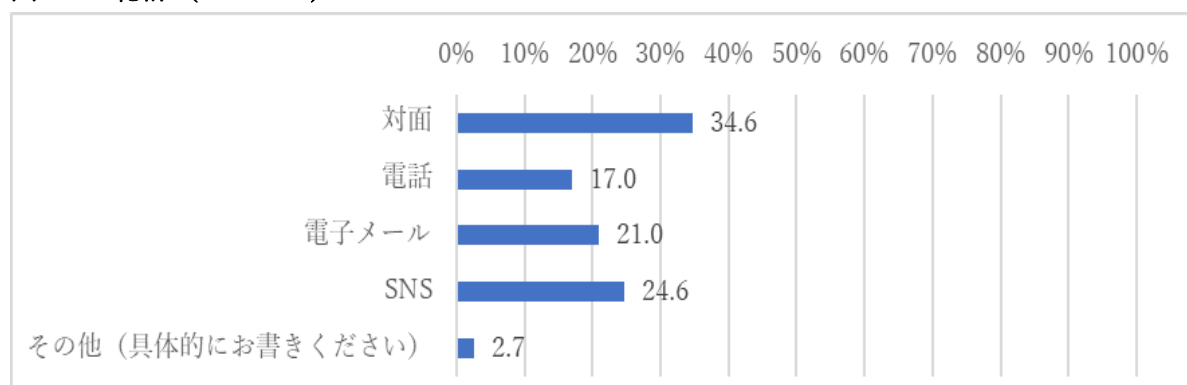


図 7-1 男女別 (N=4171)

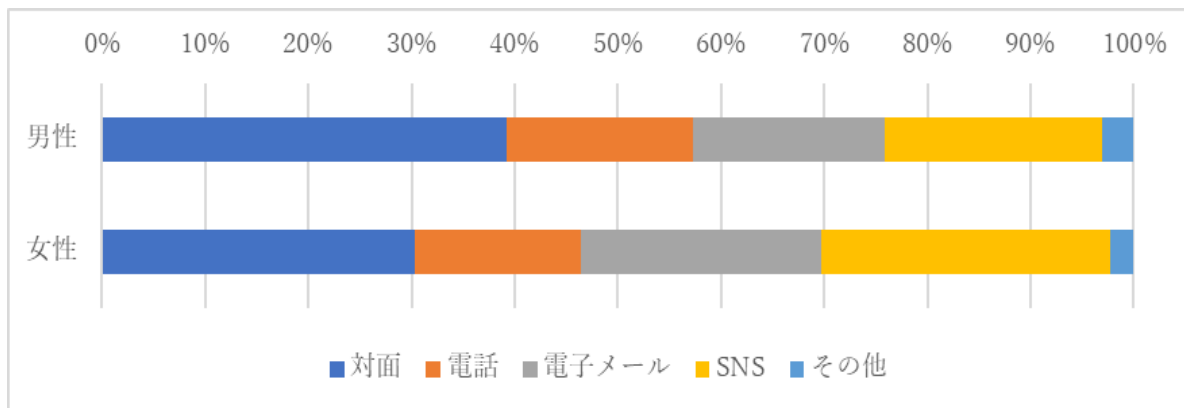


図 7-2 年齢別 (N=4171)

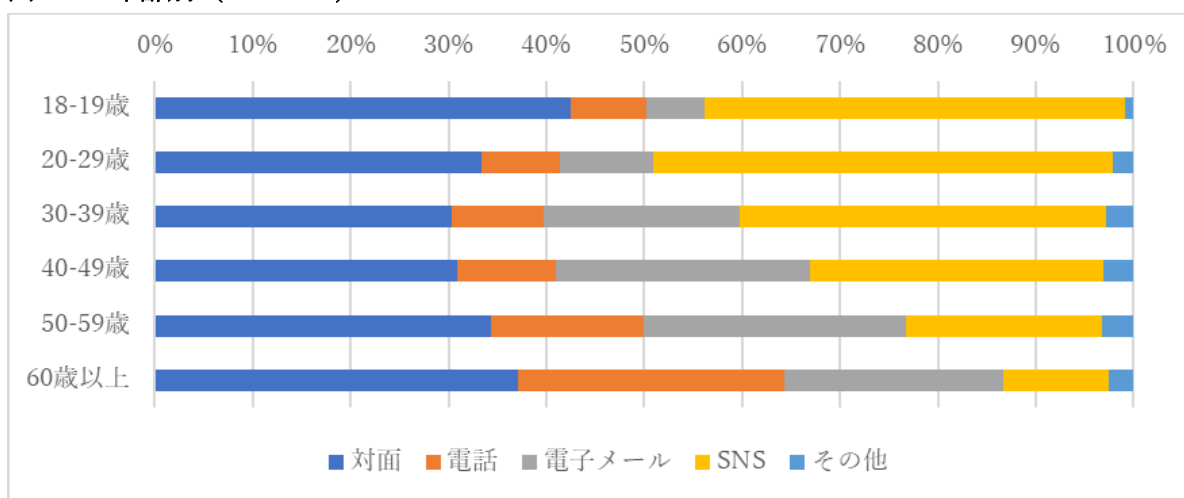


図 7-3 収入別 (N=2235)

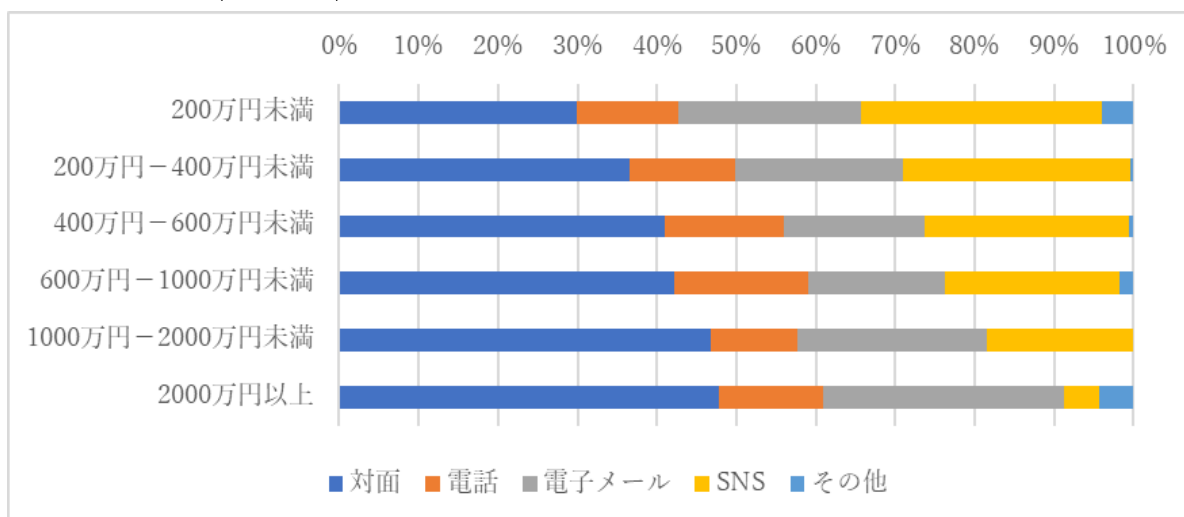
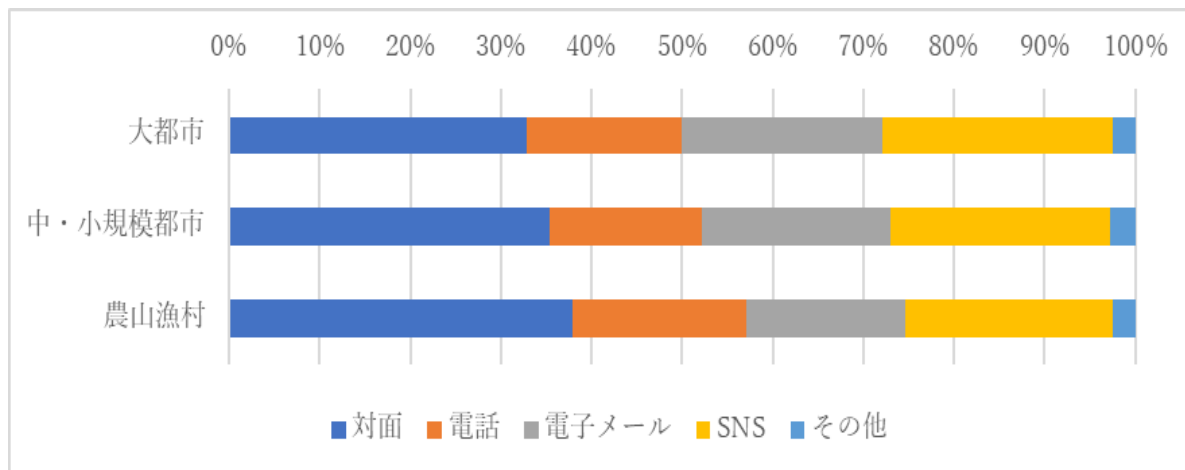


図 7-4 居住地域別 (N=4087)



Q8. あなたが親族以外で日常的によくお付き合いをしている人たちについて、以下のうちどの記述がもっともよく当てはまると感じますか。1つを選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	あなたよりも立場や地位の高い人が多い	452	10.8
2	あなたと立場や地位がほぼ同じ人が多い	3614	86.6
3	あなたよりも立場や地位の低い人が多い	105	2.5

図 8-0 総計 (N=4171)

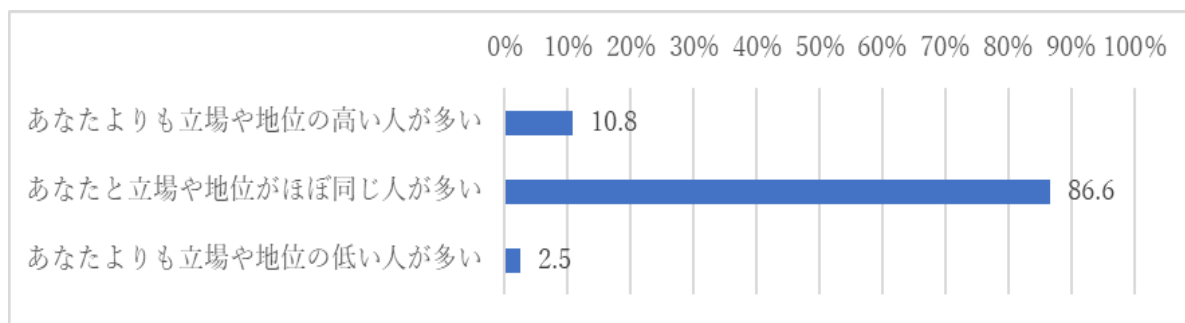


図 8-1 男女別 (N=4171)

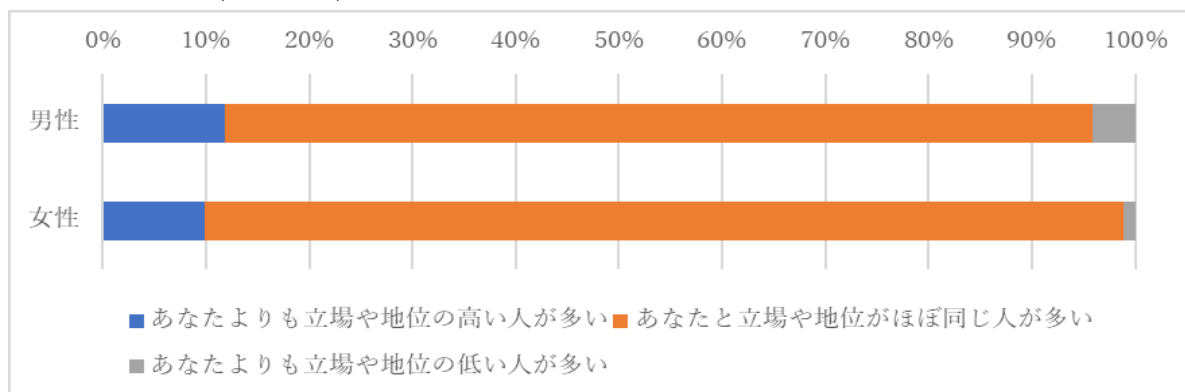


図 8-2 年齢別 (N=4171)

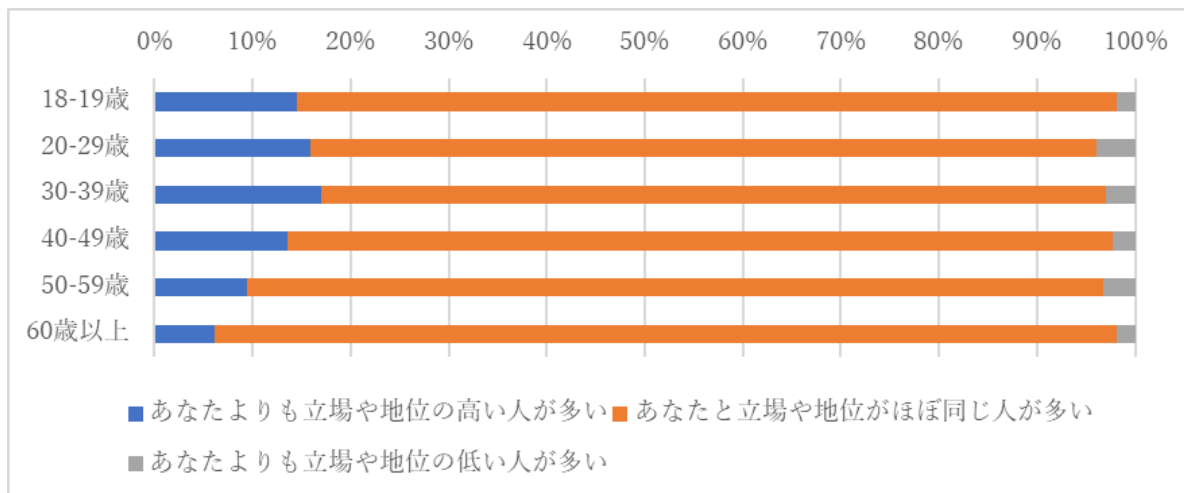


図 8-3 収入別 (N=2235)

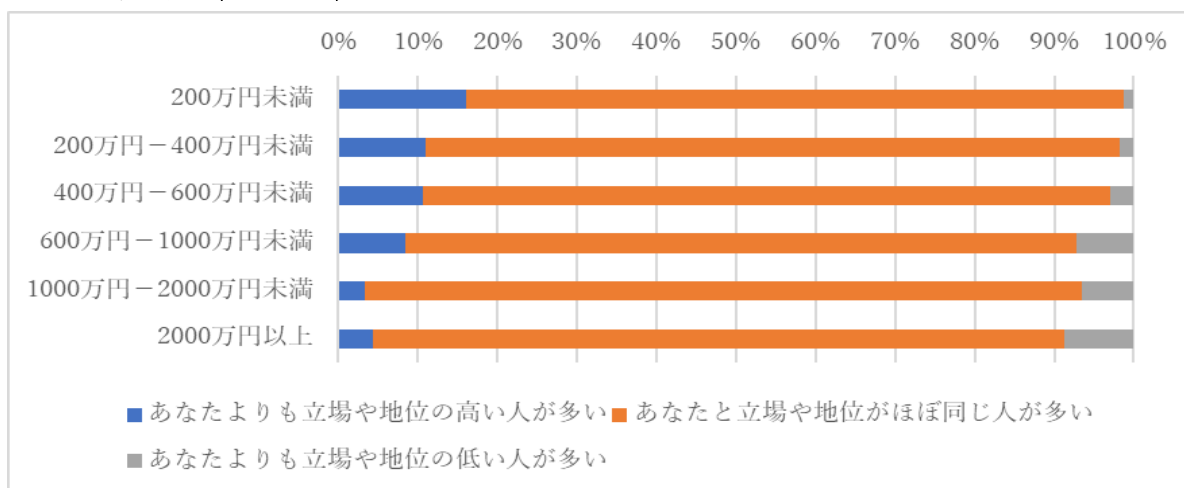
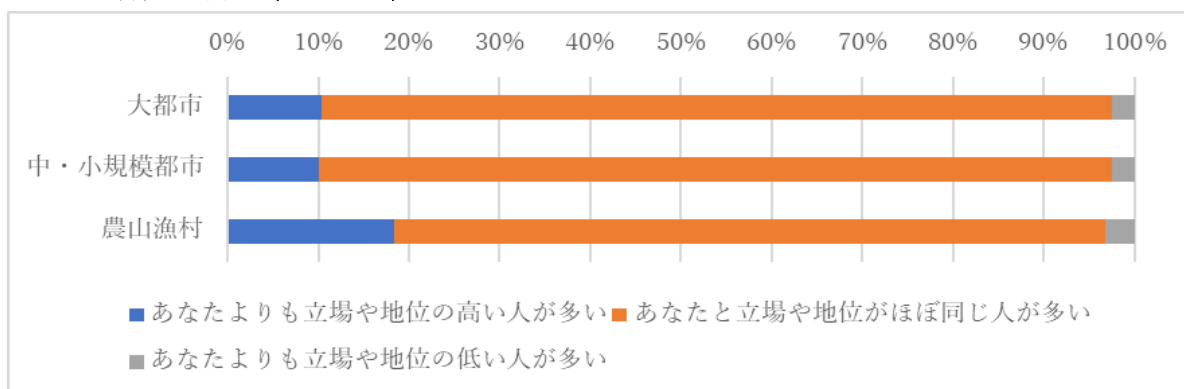


図 8-4 居住地域別 (N=4087)



Q9. あなたには以下の職業に就いている親族、友人、知人がいますか（知人とは、十分会話ができる程度によく知っている人を指します）。

Q9 項目 1	大学教員		全体	はい	いいえ
		%	100.0	8.5	91.5
		実数	4171	353	3818

Q9 項目 2	弁護士	%	100.0	6.1	93.9
		実数	4171	254	3917
Q9 項目 3	医師・看護師	%	100.0	20.8	79.2
		実数	4171	866	3305
Q9 項目 4	コンピューター・プログラマー	%	100.0	12.3	87.7
		実数	4171	512	3659
Q9 項目 5	小中高等学校の教員	%	100.0	17.8	82.2
		実数	4171	741	3430
Q9 項目 6	企業の人事担当者	%	100.0	5.4	94.6
		実数	4171	227	3944
Q9 項目 7	警察官	%	100.0	6.4	93.6
		実数	4171	268	3903
Q9 項目 8	政治家	%	100.0	3.5	96.5
		実数	4171	148	4023
Q9 項目 9	公務員・官僚	%	100.0	20.2	79.8
		実数	4171	843	3328
Q9 項目 10	企業経営者	%	100.0	14.3	85.7
		実数	4171	596	3575

図 9-0 総計 (N=4171)

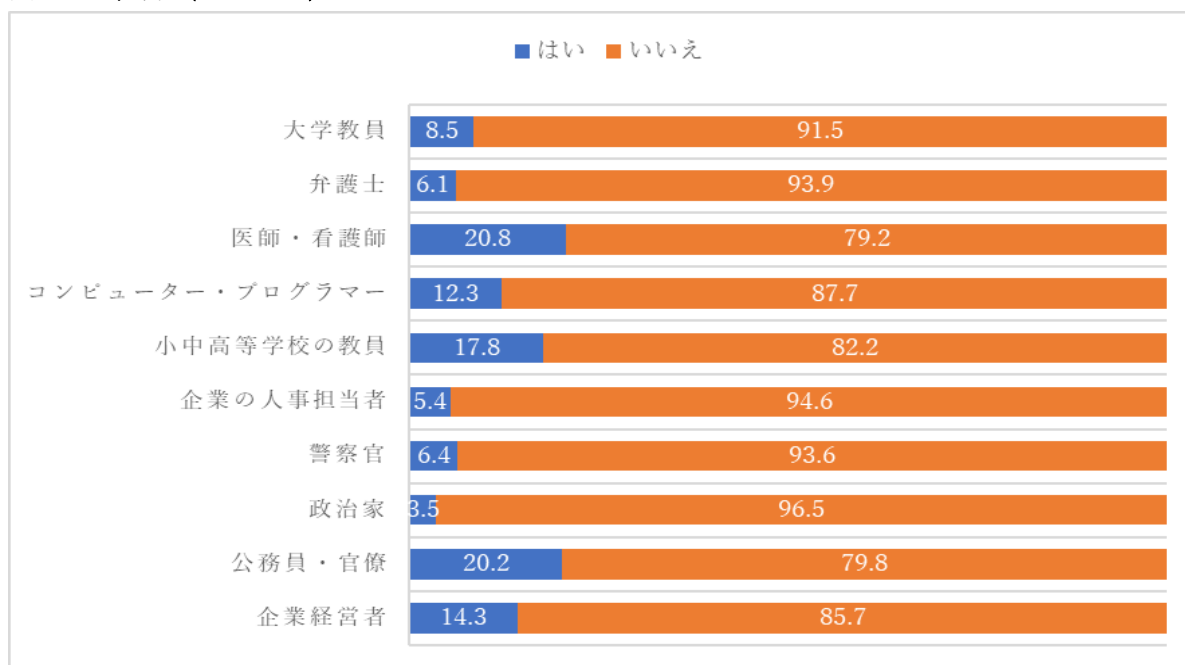


図 9-1 男女別 (N=4171)

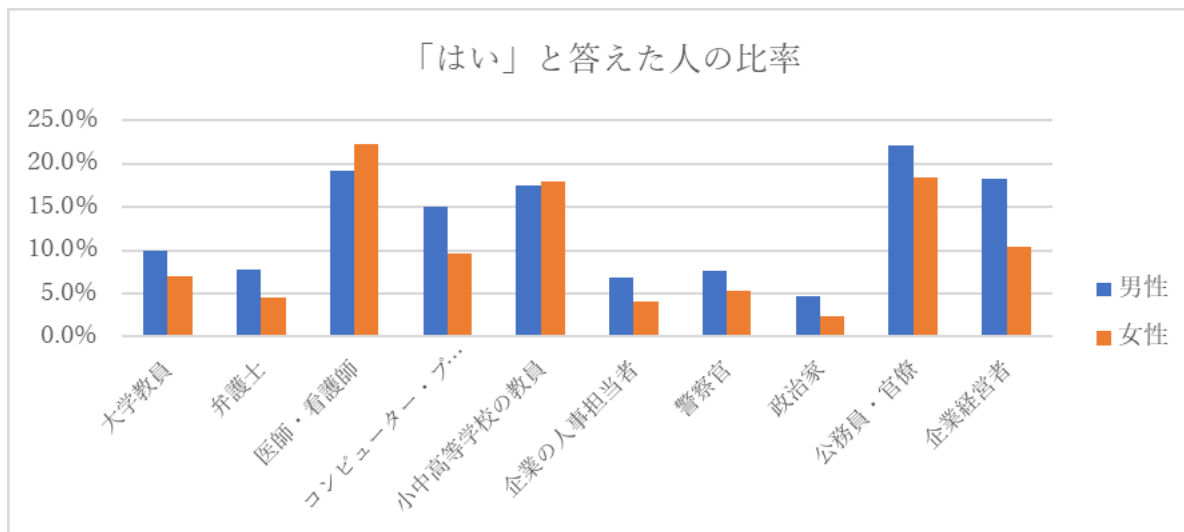


図 9-2 年齢別 (N=4171)

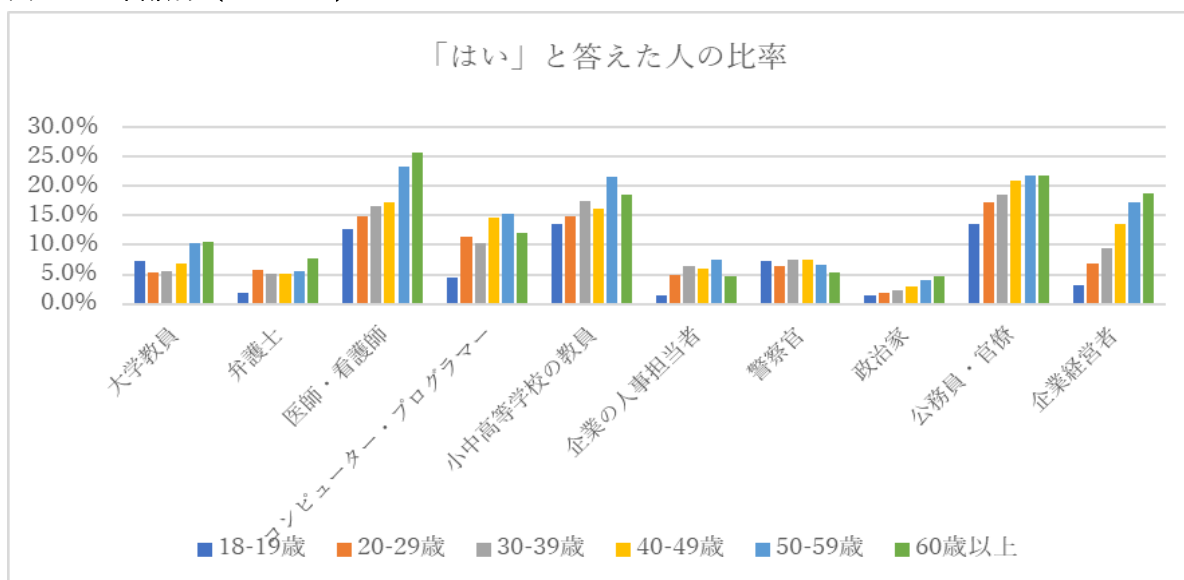


図 9-3 収入別 (N=2235)

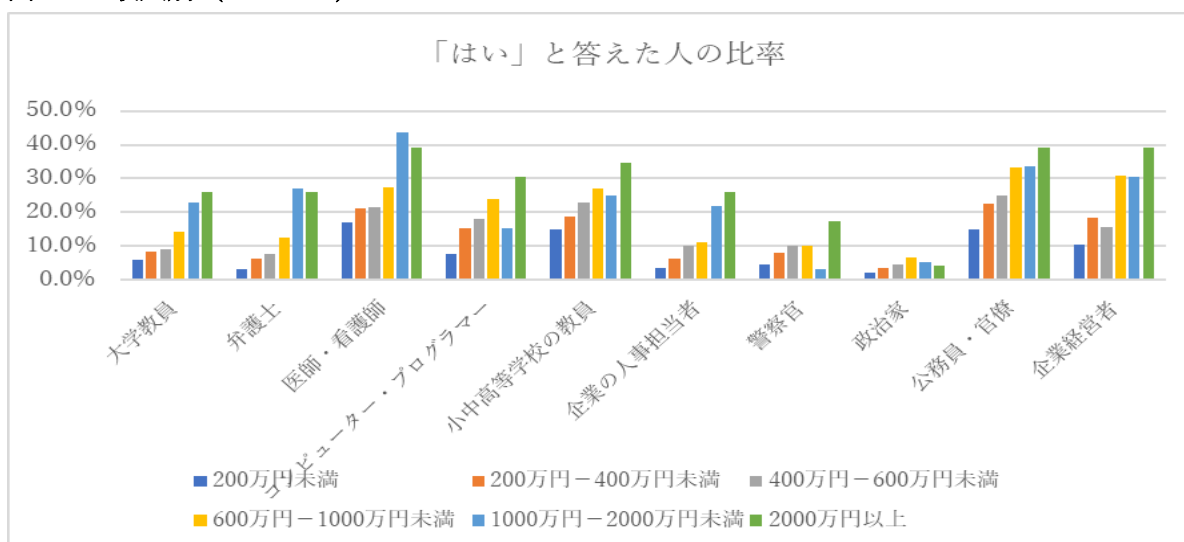
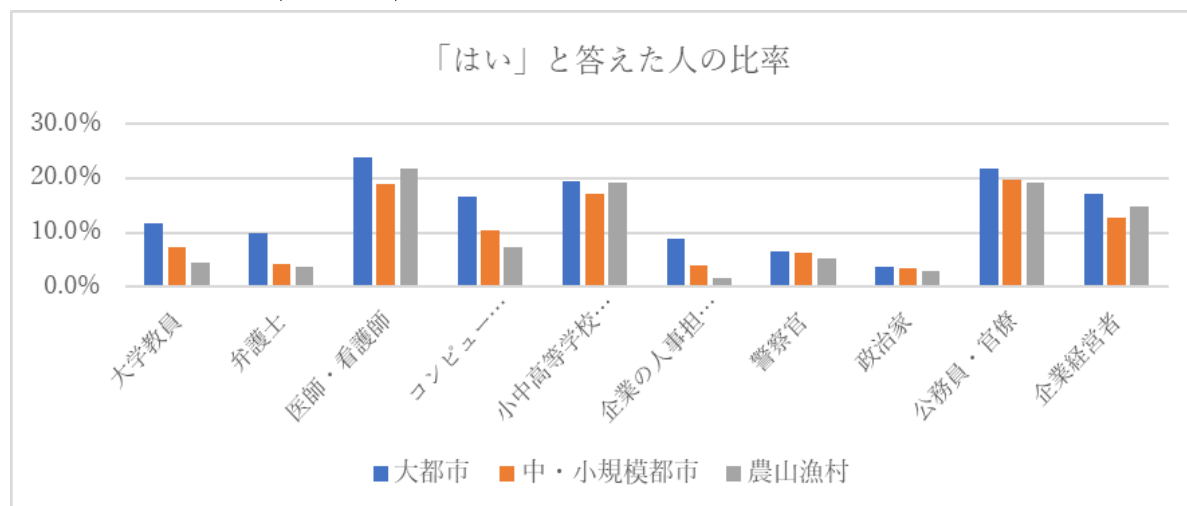




図 9-4 居住地域別 (N=4087)



Q10. あなたは過去に以下のような問題に直面した時、誰に最初に支援を求めましたか。1 つ選んでください (項目ごとに1つチェックを入れてください)。

No.	問題	%	全体	同居家族	その他の親族	職場の人 (学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司(先生))	近所の人	友人	専門職の人 (カウンセラー、精神科医など)	地域コミュニティ (教会、NPOなど)	誰にも助けを求めなかった	そのような経験をしたことがない	その他
			実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数
1	悩み、心理的な問題	%	100.0	37.8	5.3	1.2	0.8	14.0	2.9	0.2	17.9	19.4	0.5
		実数	4171	1576	221	52	32	584	123	7	745	809	22
2	健康上の問題	%	100.0	46.6	6.6	1.1	0.7	6.2	6.1	0.3	12.2	19.1	1.0
		実数	4171	1945	277	46	29	259	255	14	508	795	43
3	家事や育児、介護の問題	%	100.0	31.2	7.3	1.2	0.9	6.7	2.0	0.6	11.5	37.9	0.9
		実数	4171	1301	303	48	37	278	84	24	479	1579	38
4	金銭的な問題	%	100.0	32.8	5.8	0.6	0.7	3.2	1.0	0.4	13.0	41.5	1.0
		実数	4171	1369	243	23	31	132	43	16	541	1731	42
5	緊急時や災害の問題	%	100.0	32.0	4.5	0.6	1.9	3.7	0.7	0.5	10.8	44.5	0.9
		実数	4171	1333	186	27	78	156	29	20	449	1857	36
6	求職に関わる問題	%	100.0	24.1	2.3	2.6	0.6	6.4	2.3	0.4	17.1	42.2	1.9
		実数	4171	1007	95	108	23	269	98	18	713	1760	80
7	教育、進学上の問題	%	100.0	32.6	4.3	1.5	0.4	5.0	1.1	0.6	15.8	37.4	1.3
		実数	4171	1359	178	64	17	210	47	23	657	1560	56

図 10-0 総計 (N=4171)

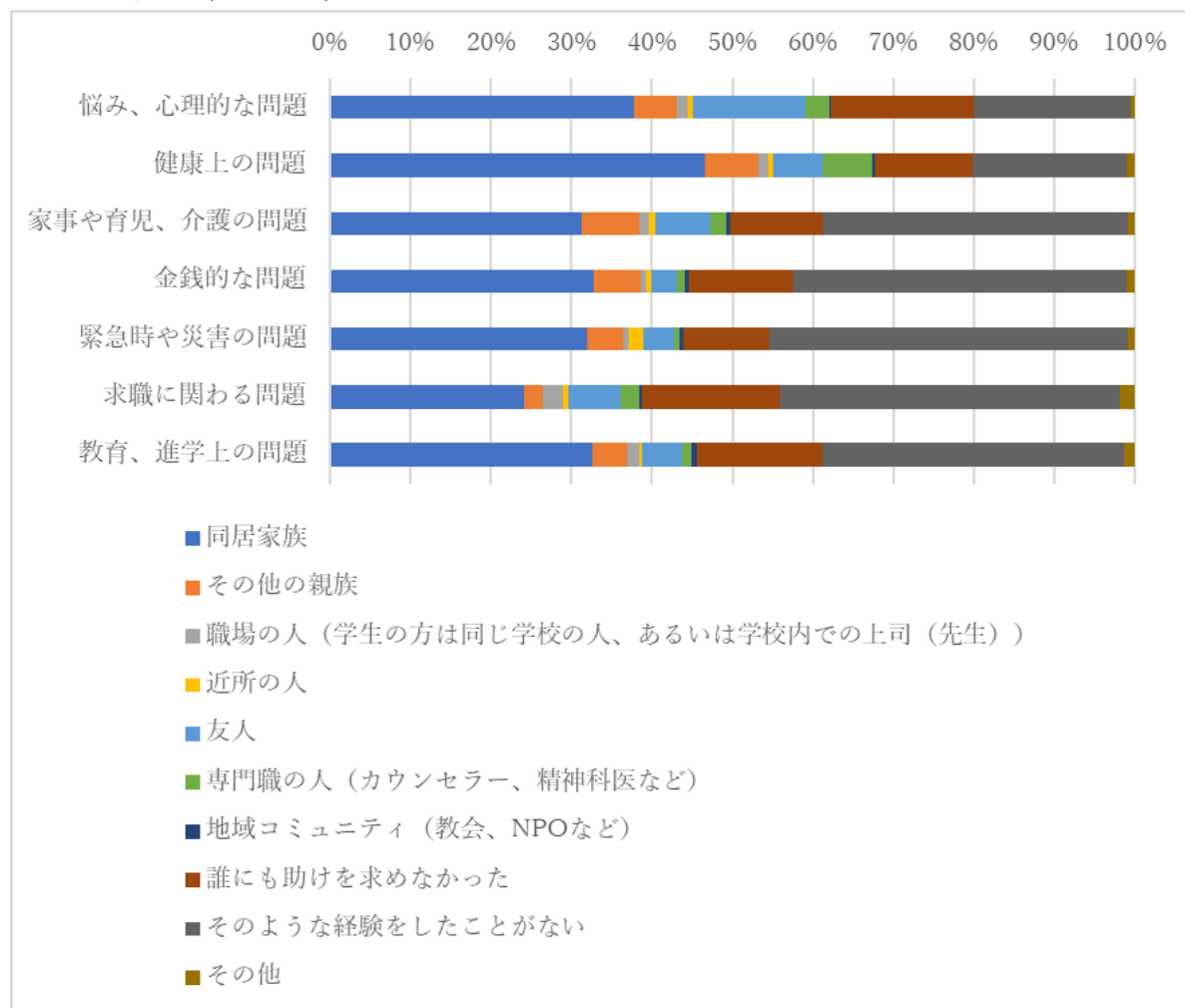
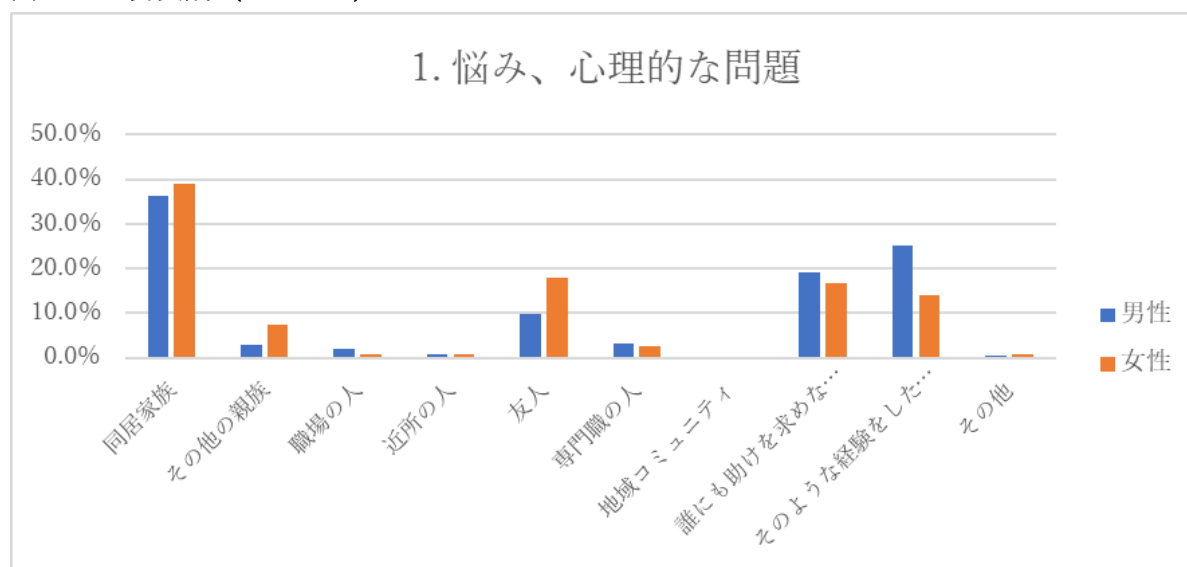
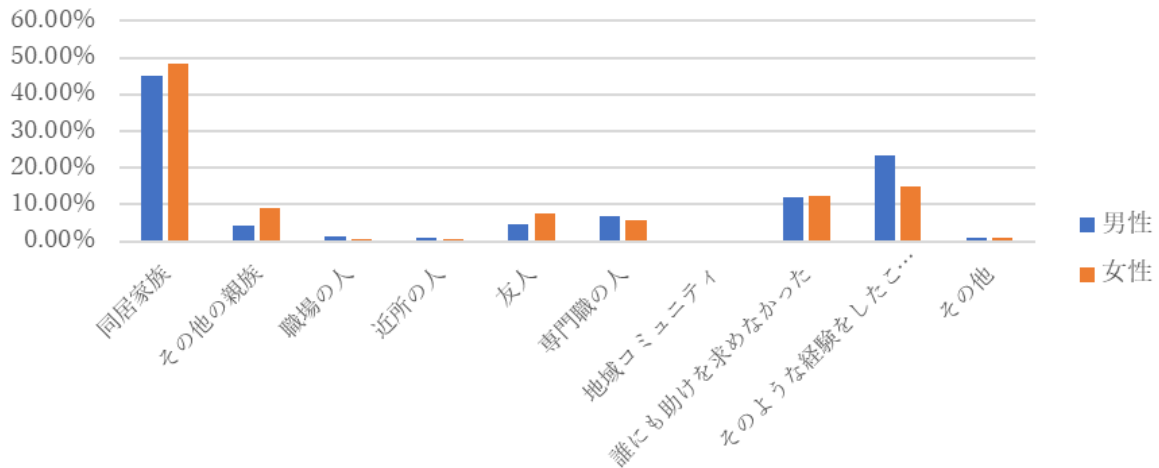


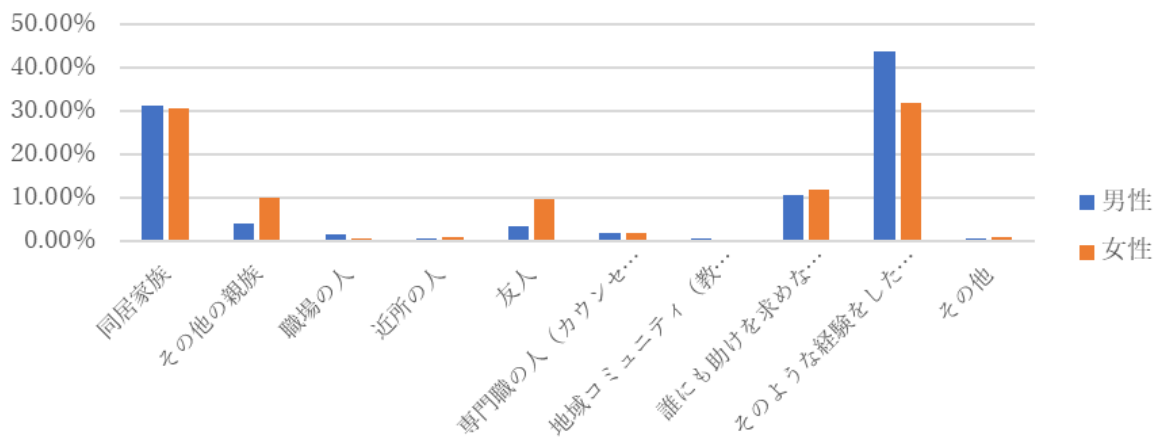
図 10-1 男女別 (N=4171)



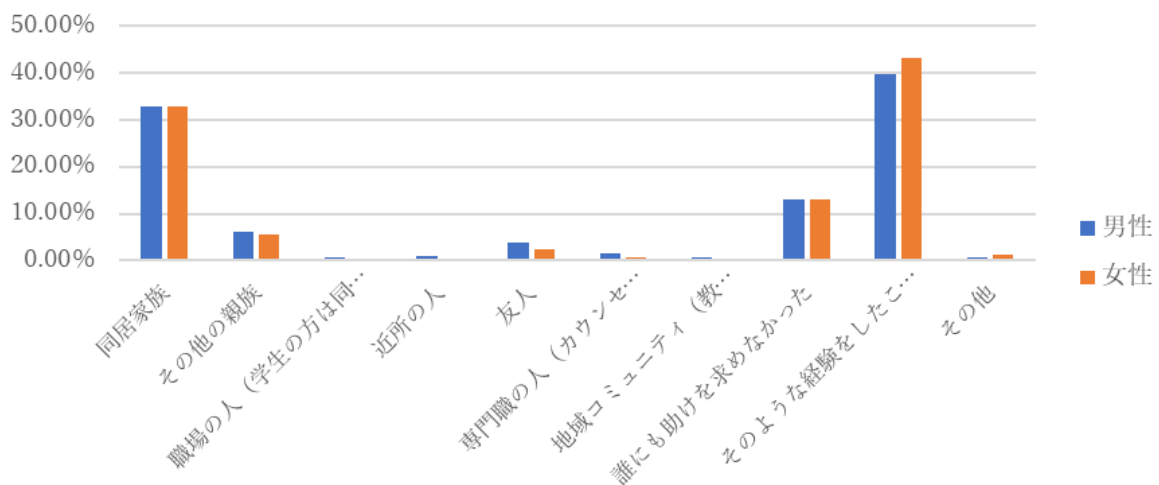
## 2. 健康上の問題



## 3. 家事や育児、介護の問題



## 4. 金銭的な問題



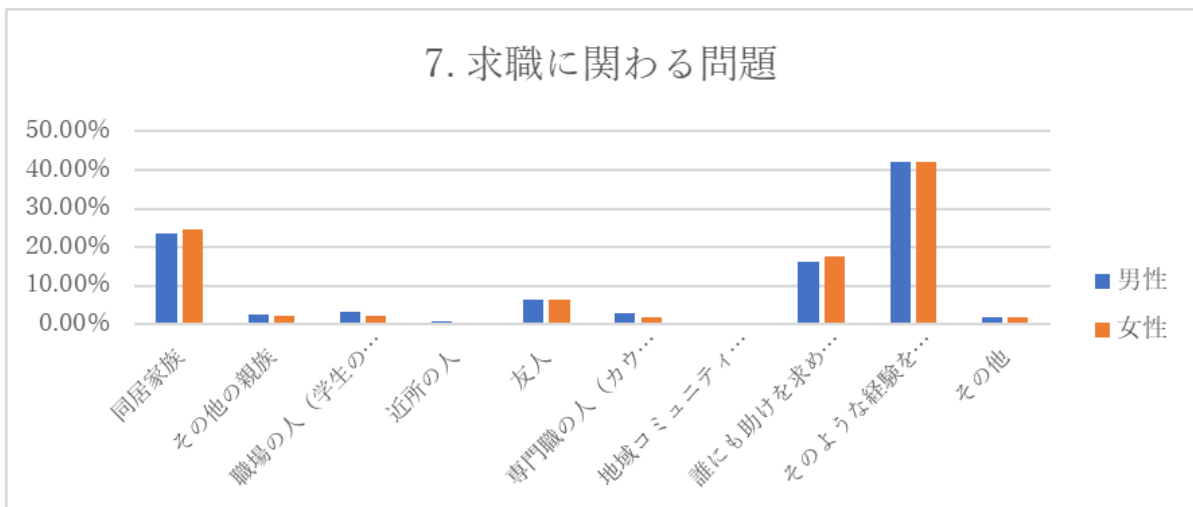
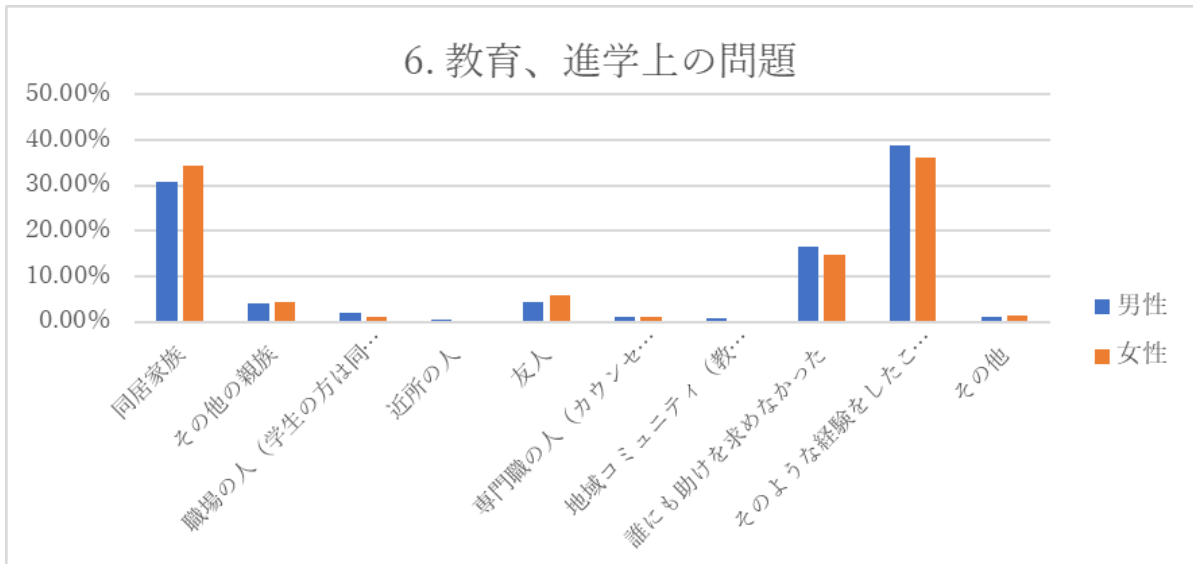
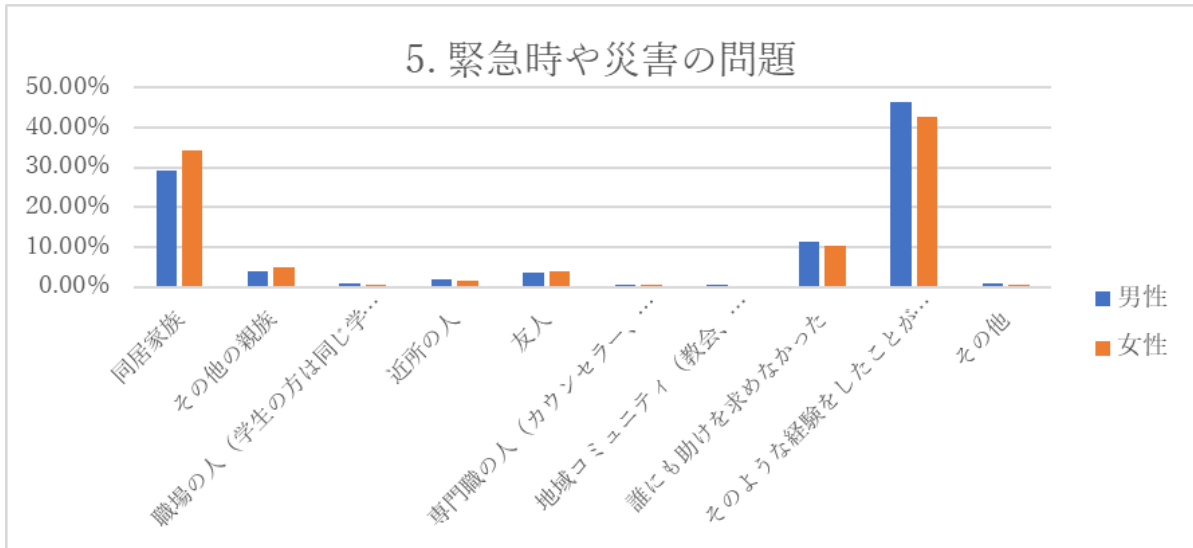
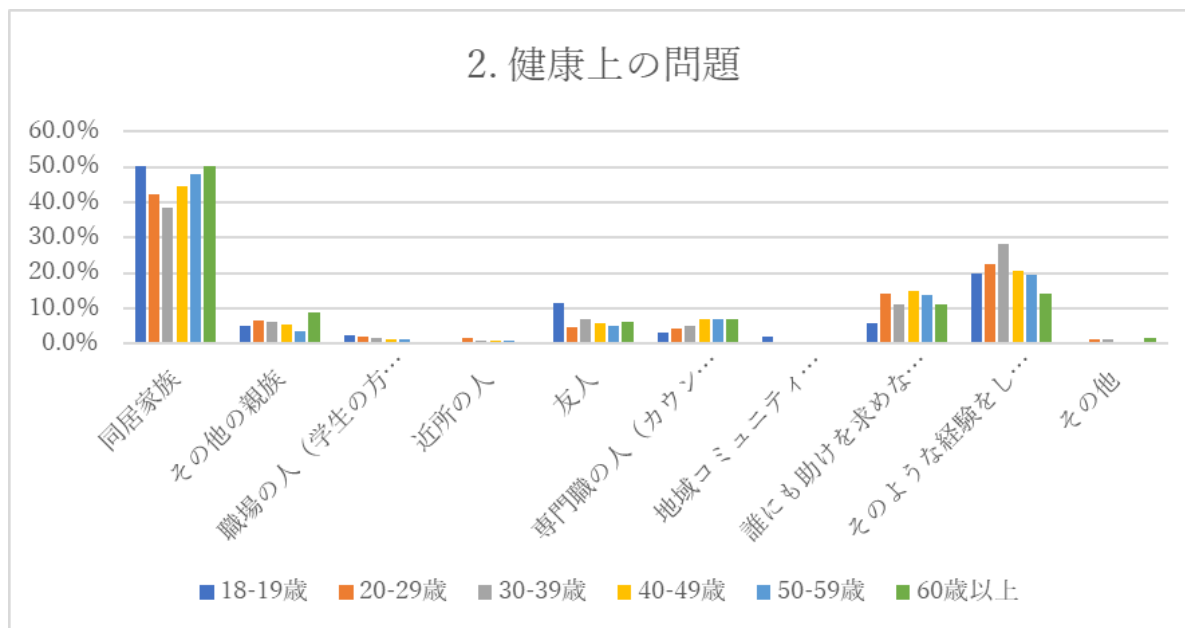
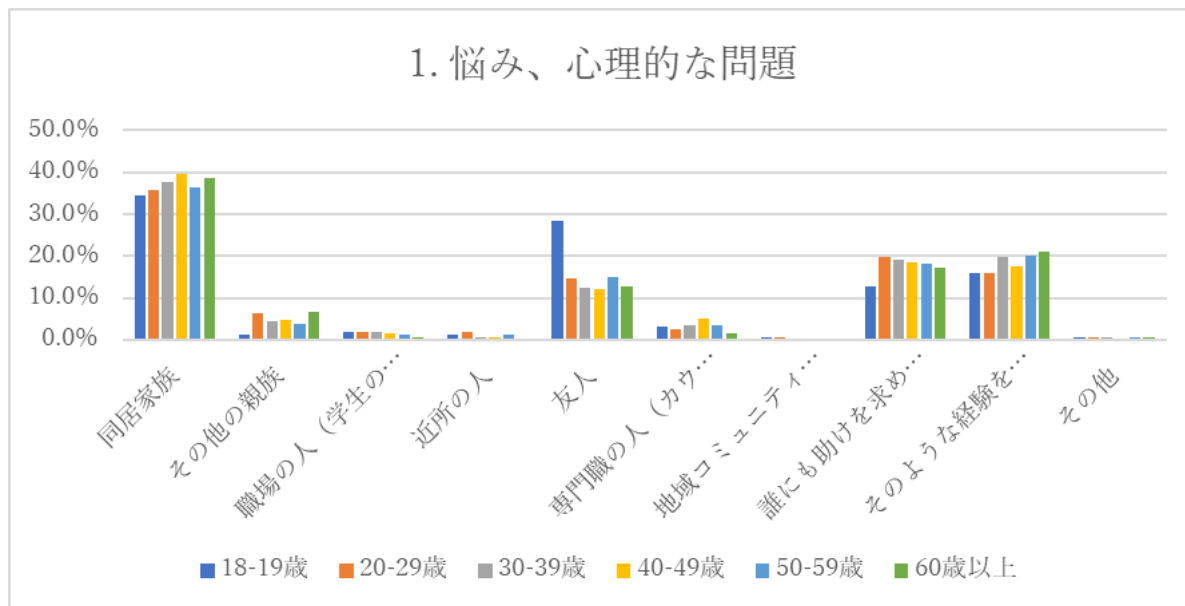
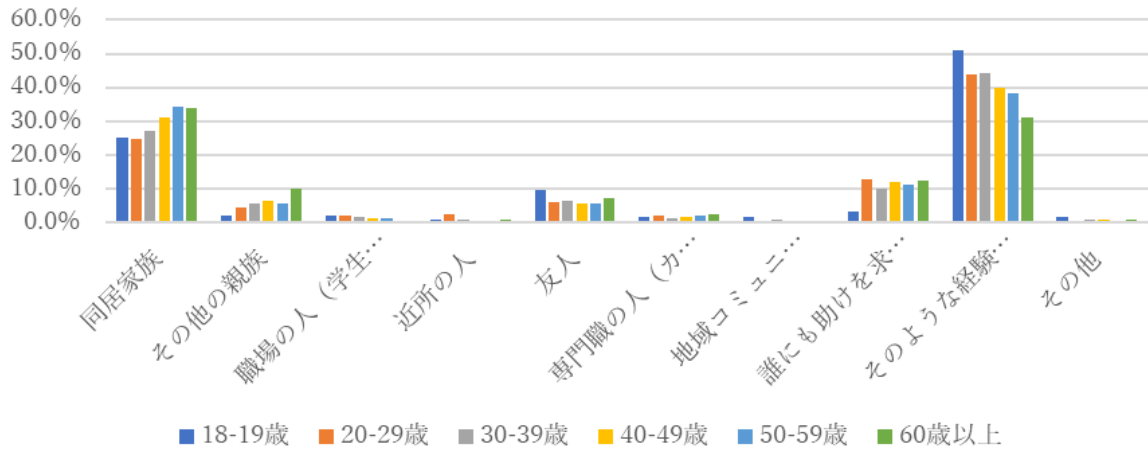


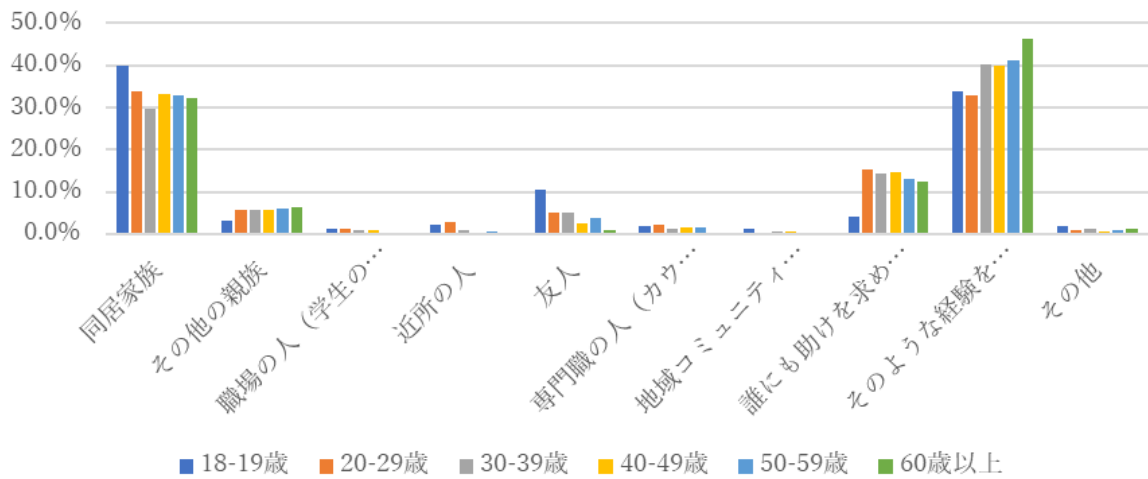
図 10-2 年齢別 (N=4171)



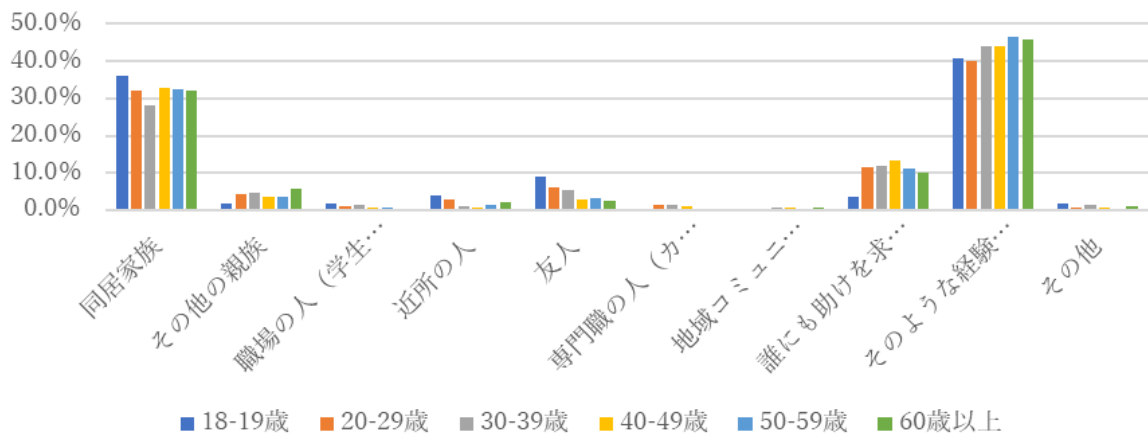
### 3. 家事や育児、介護の問題



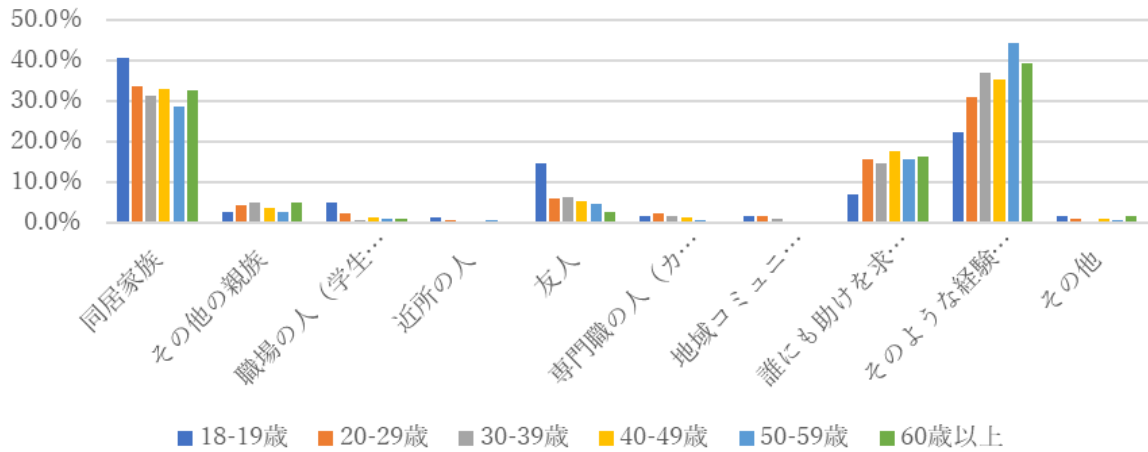
### 4. 金銭的な問題



### 5. 緊急時や災害の問題



## 6. 教育、進学上の問題



## 7. 求職に関わる問題

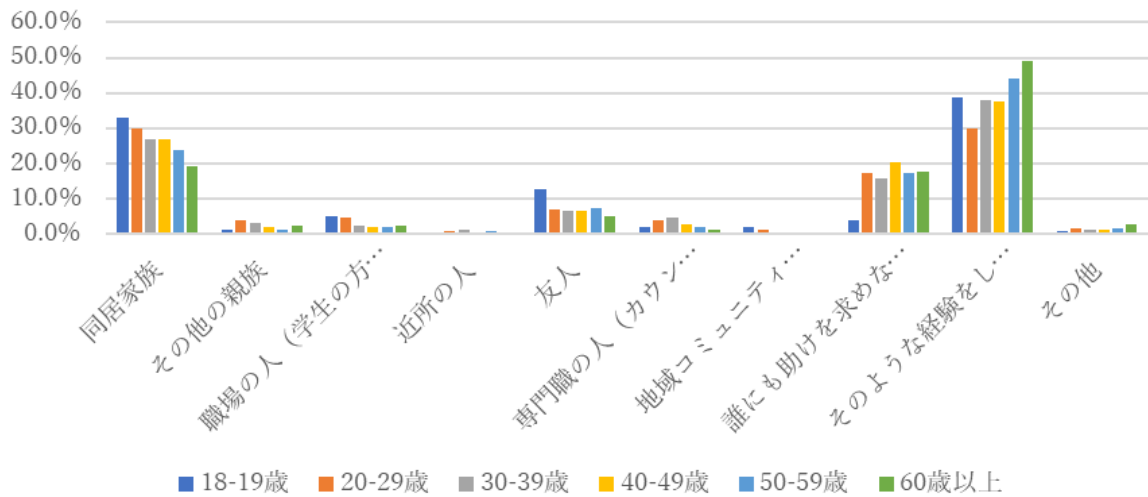
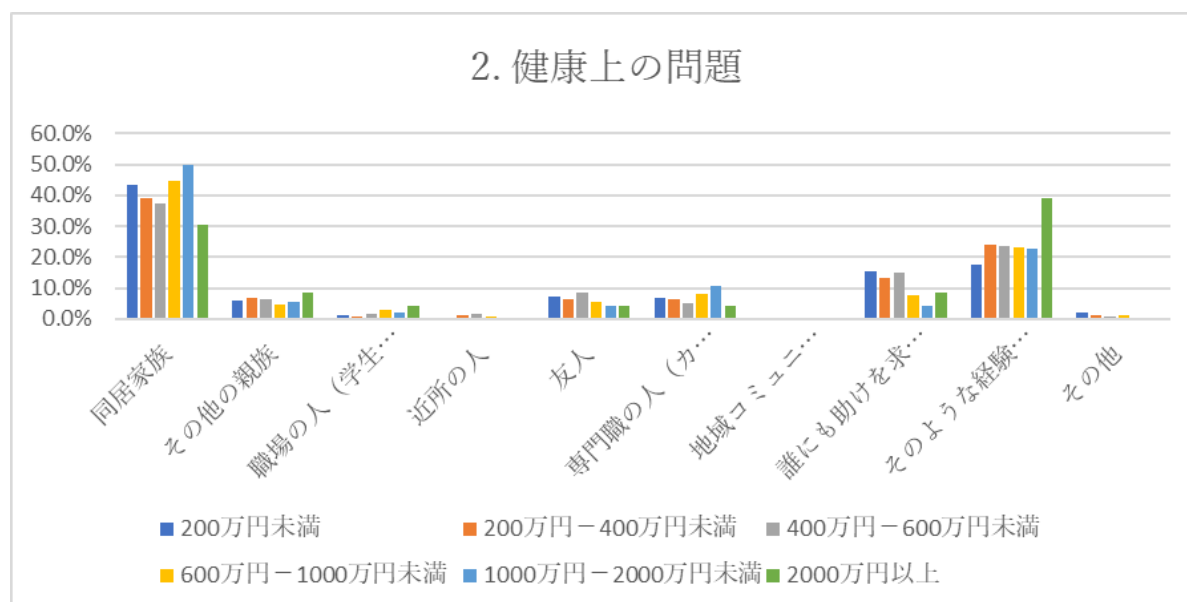
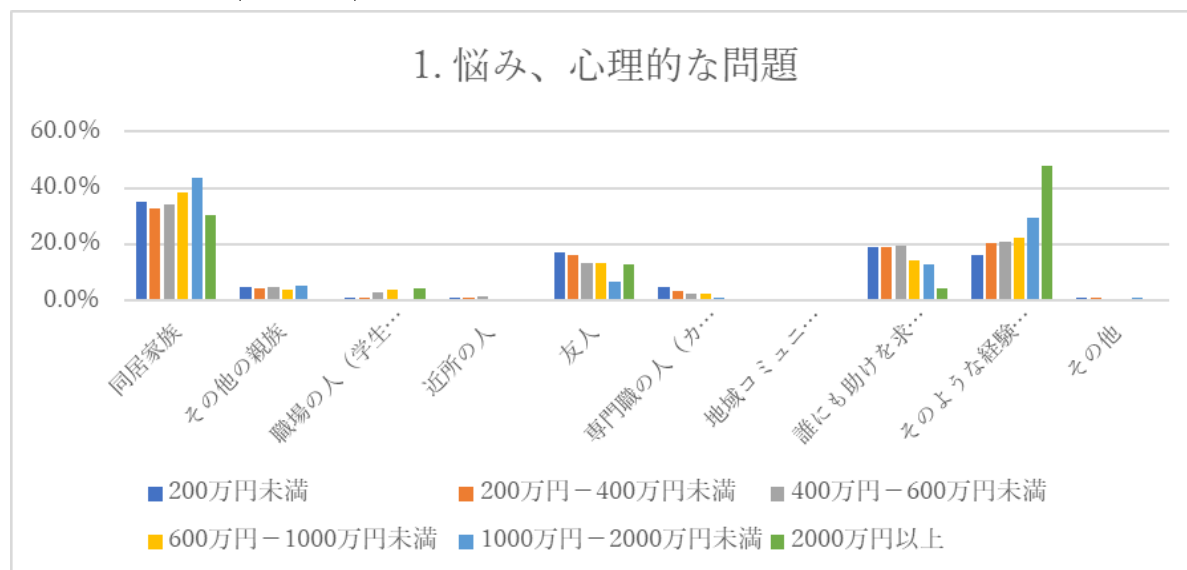
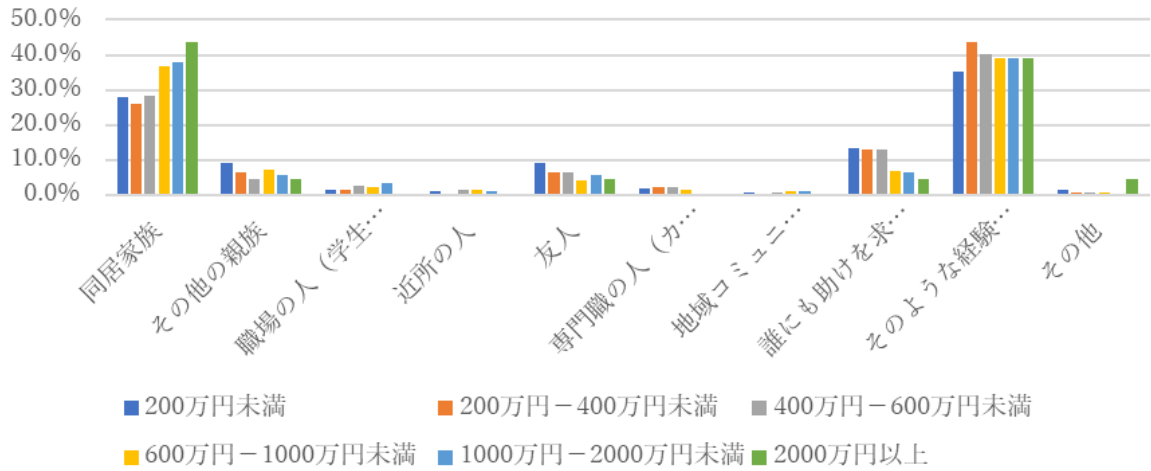


図 10-3 収入別 (N=2235)

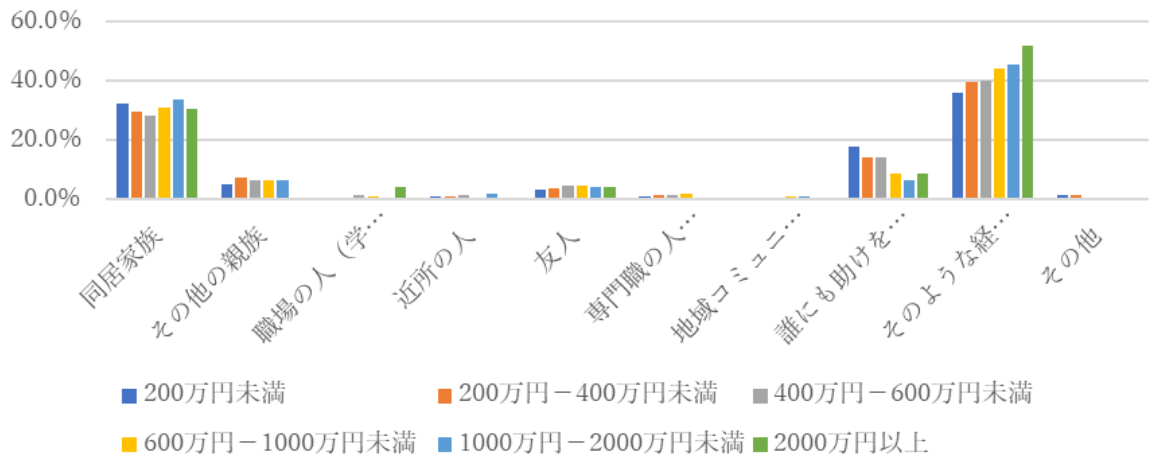




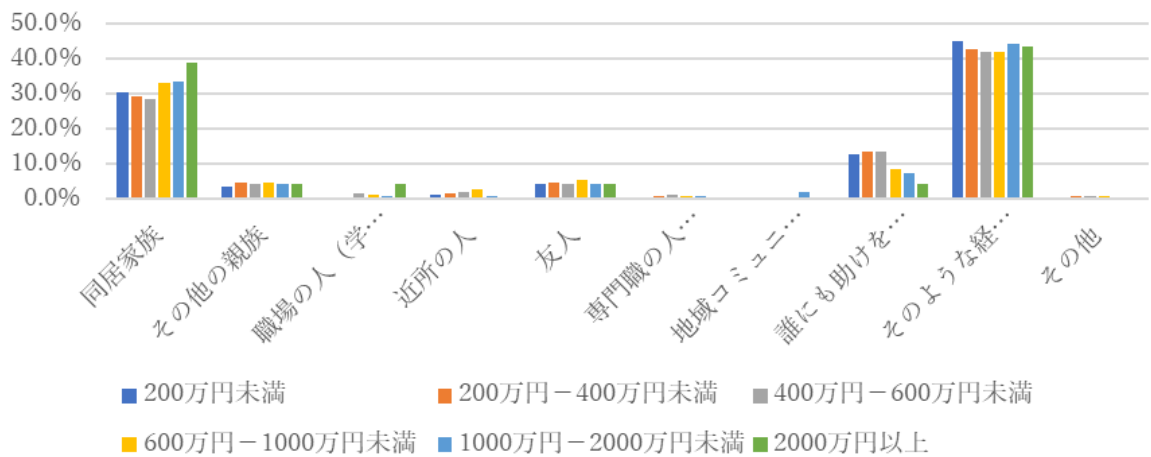
### 3. 家事や育児、介護の問題



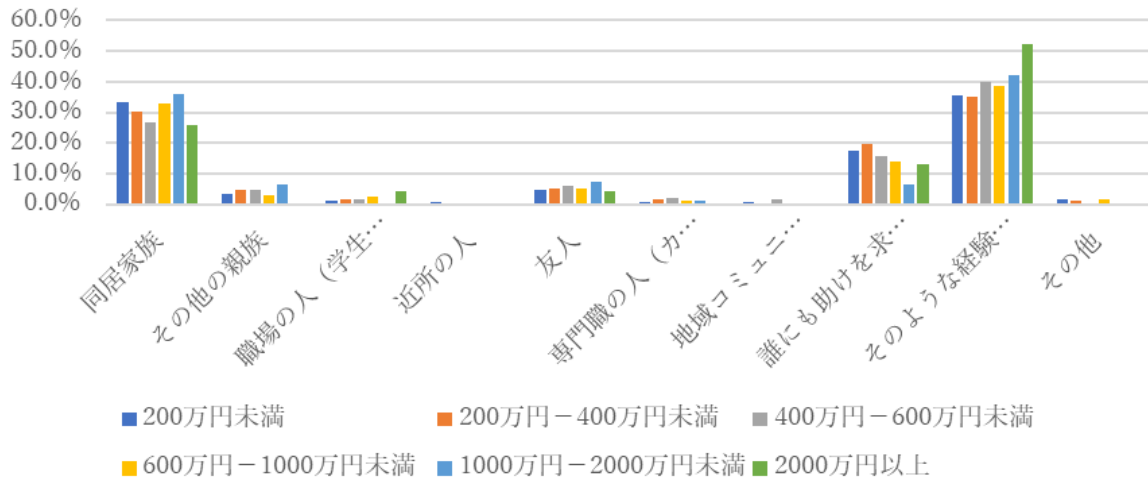
### 4. 金銭的な問題



### 5. 緊急時や災害の問題



## 6. 教育、進学上の問題



## 7. 求職に関わる問題

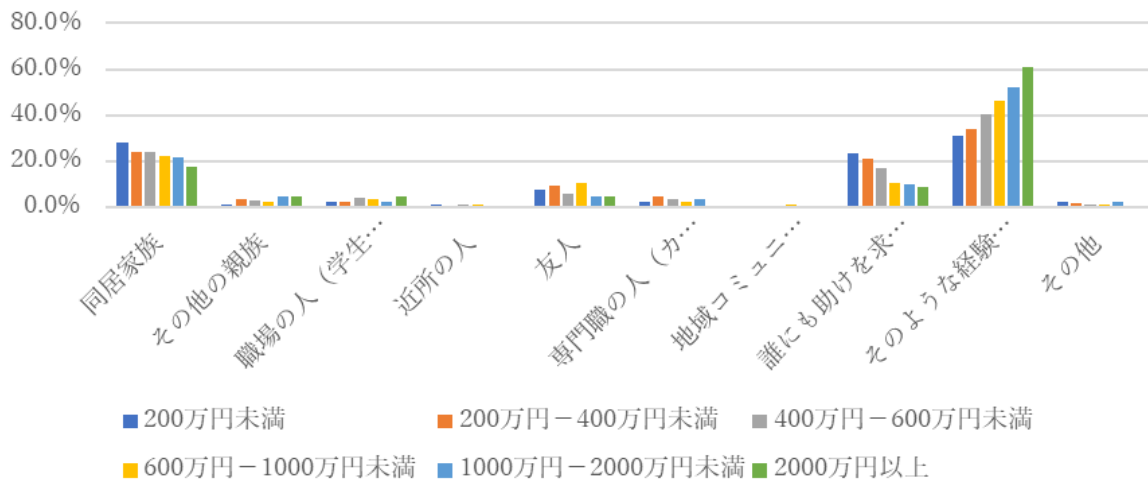
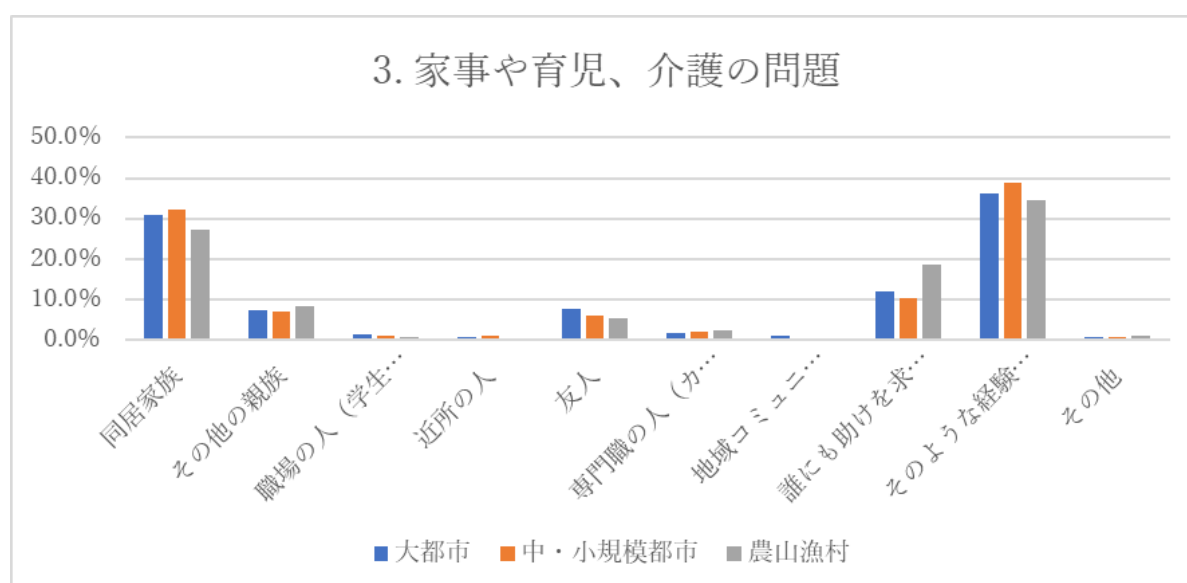
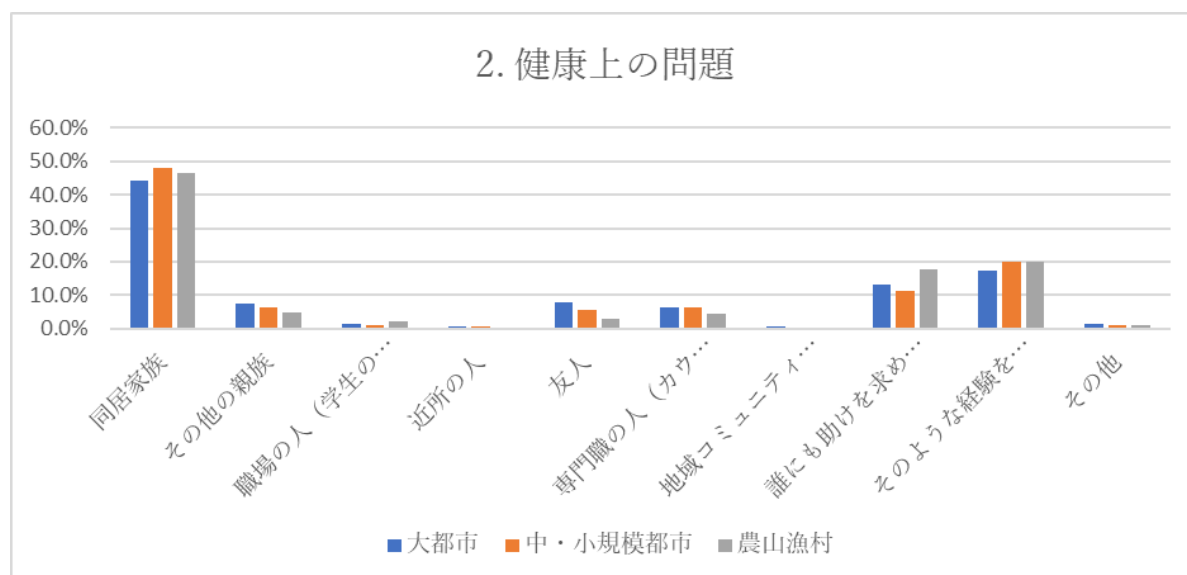
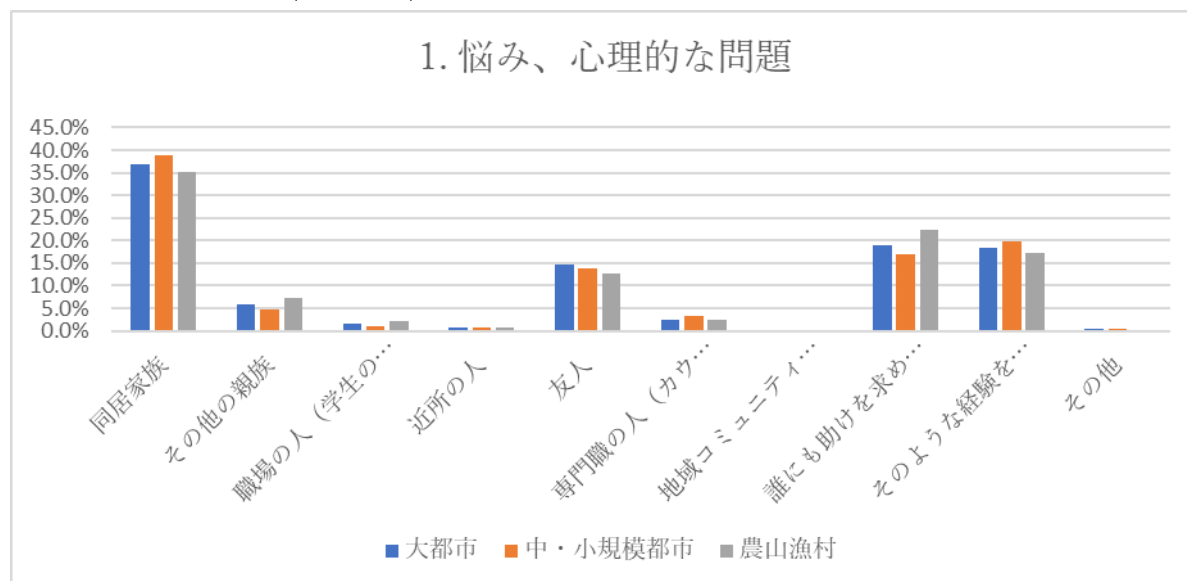
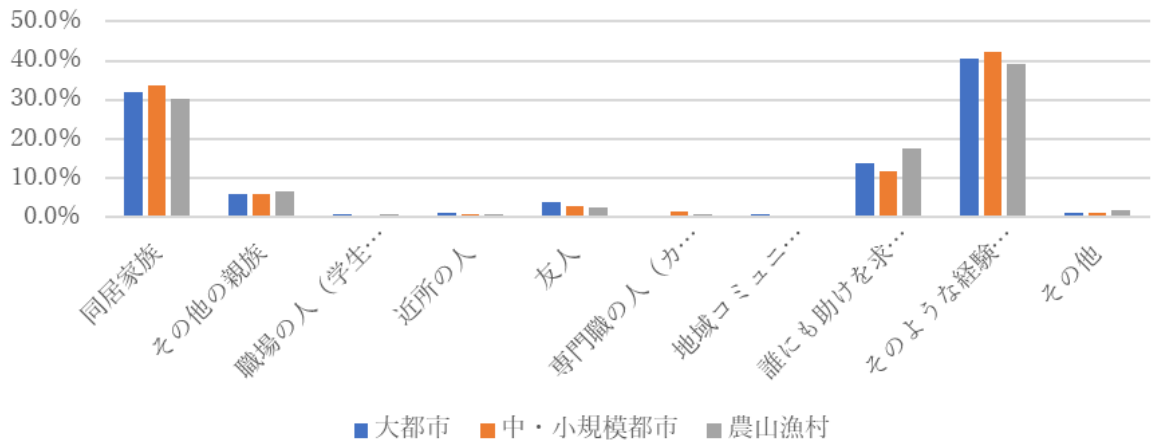


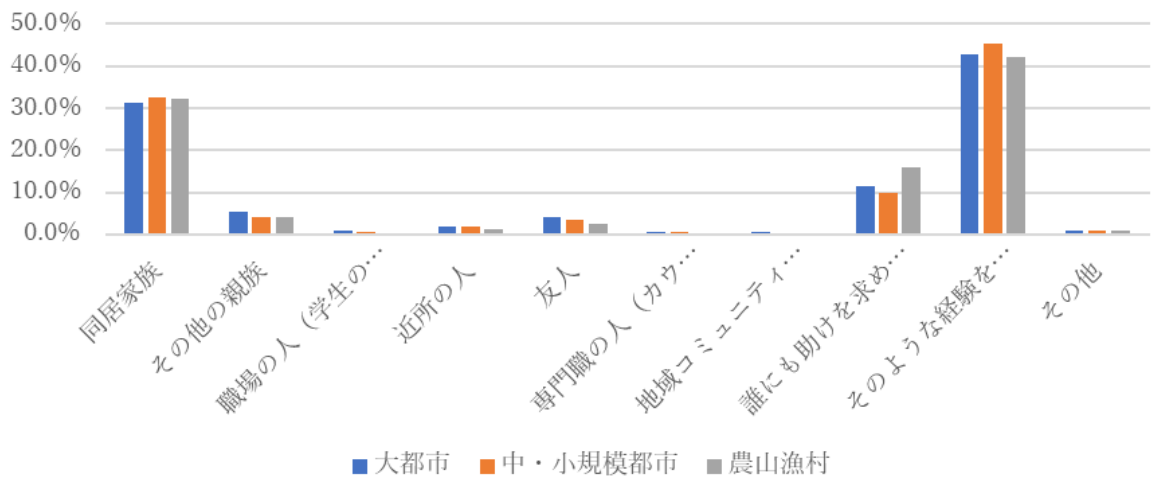
図 10-4 居住地域別 (N=4087)



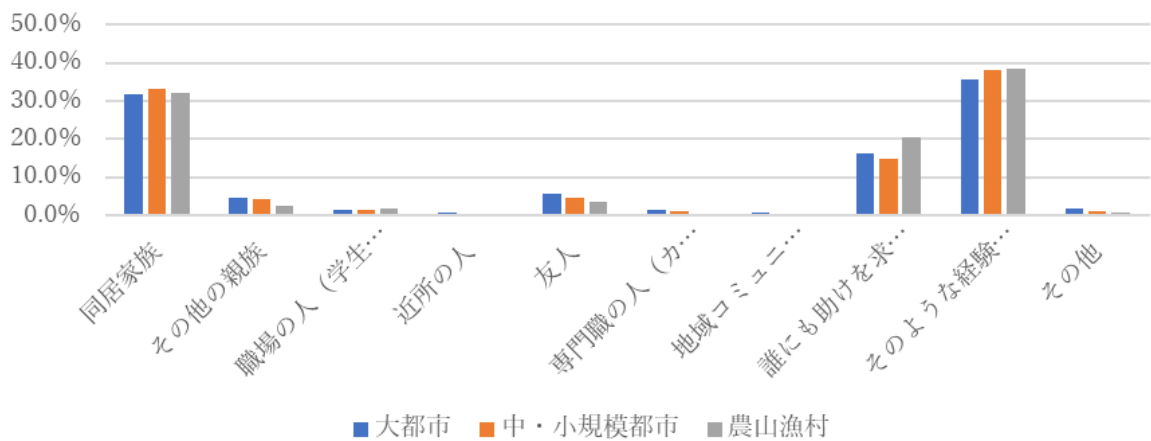
#### 4. 金銭的な問題



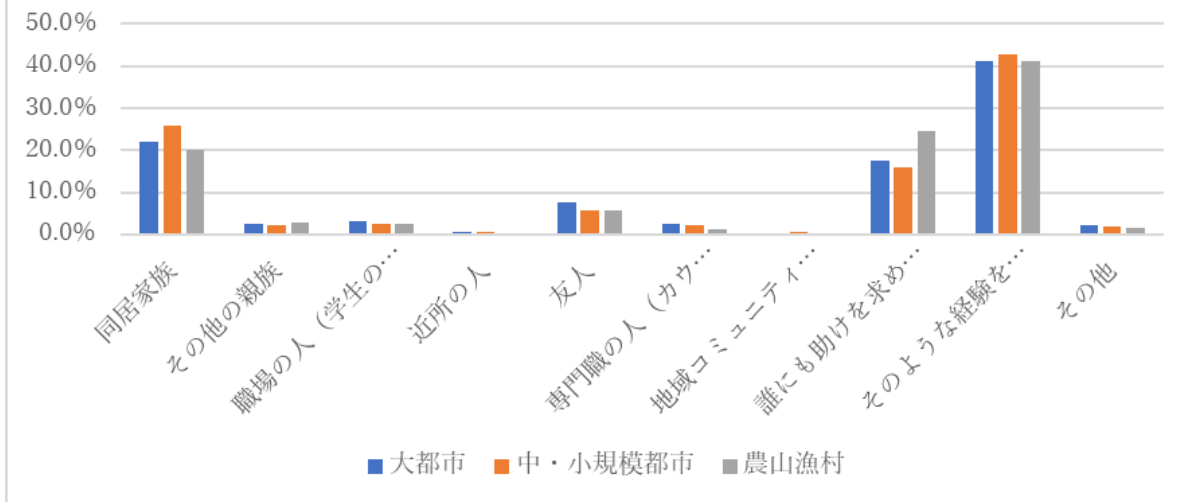
#### 5. 緊急時や災害の問題



#### 6. 教育、進学上の問題



## 7. 求職に関わる問題



### Q10\_その他 (自由回答) の内訳

1. 悩み、心理的な問題 (計 22 名)	家族 (1 人)、恋人 (5 人)、友人に相当する答え (2 人)、病院 (1 人)、習い事の先生 (1 人)、ネット・SNS (3 人)、神 (1 人)、自分で解決・相談しない・いない (8 人)
2. 健康上の問題 (計 43 名)	医師・病院 (27 名)、恋人・パートナー (4 名)、上司 (1 名)、掲示板 (1 名)、いない・なし (10 名)
3. 家事や育児、介護の問題 (計 38 名)	ネット・SNS・WEB セミナー (3 名)、区役所、ケアマネージャー、かかりつけ医など専門職 (3 名)、親や姉妹など親族 (2 名)、知り合い・上司 (各 1 名)、妻やその母に任せきり (1 名)、なし・相談しない (20 名)、経験なし・わからない (6 名)
4. 金銭的な問題 (42 名)	自己解決 (2 名)、恋人 (3 名)、知り合い (1 名)、同居していない家族 (3 名)、銀行、役所、弁護士など専門職相当 (10 名)、インターネット (2 名)、キリスト (1 名)、とくになし (18 名)、経験なし (3 名)
5. 緊急時や災害の問題 (36 名)	インターネット (5 名)、友人・恋人・同僚 (4 名)、同じ体験をした人 (1 名)、役所 (2 名)、管理組合 (1 名)、なし・経験なし (23 名)
6. 求職に関わる問題 (80 名)	ハローワーク・職業安定所など専門機関 (24 名)、ネット・求職サイト (5 名)、同僚・上司・取引先など職場関連の人 (7 名)、友人・恋人 (3 名)、議員 (1 名)、学校の先輩・恩師 (各 1 名)、とくになし (27 名)
7. 教育、進学上の問題 (56 名)	学校・塾の先生 (8 名)、家族 (3 名)、通信教育 (2 名)、自己解決 (2 名)、ネット (2 名)、キリスト (1 名)、とくになし (33 名)

Q11. 一般的に言って、どのような人びとあるいはグループとの交流が、個人的ネットワークを築く上でより有利な機会を与えてくれると思いますか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	家族・親族	1890	45.3
2	近所の人	106	2.5
3	同窓会（同級生）	269	6.4
4	友人・知人（同級生を除く）	1115	26.7
5	職場や仕事に関係する人（学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司（先生））	391	9.4
6	NGO、NPO、ボランティア団体	46	1.1
7	宗教団体	13	0.3
8	政党	10	0.2
9	その他	331	7.9

図 11-0 総計 (N=4171)

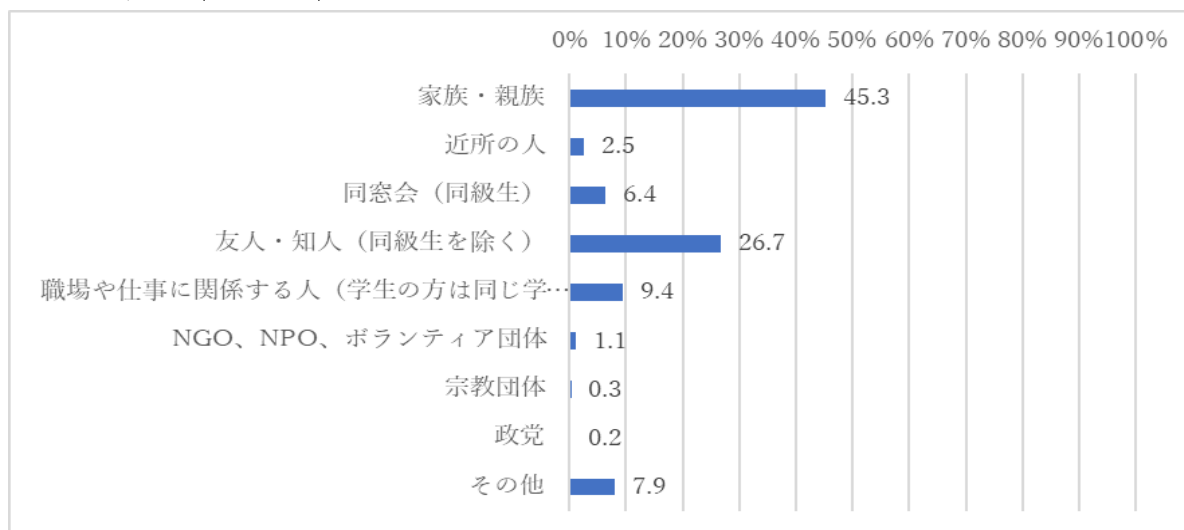


図 11-1 男女別 (N=4171)

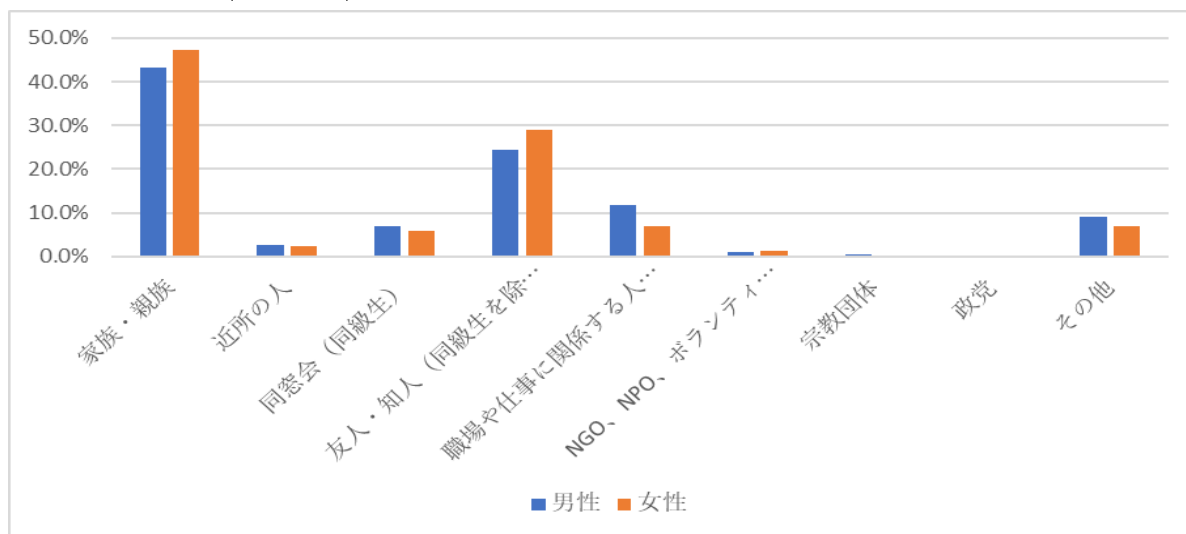


図 11-2 年齢別 (N=4171)

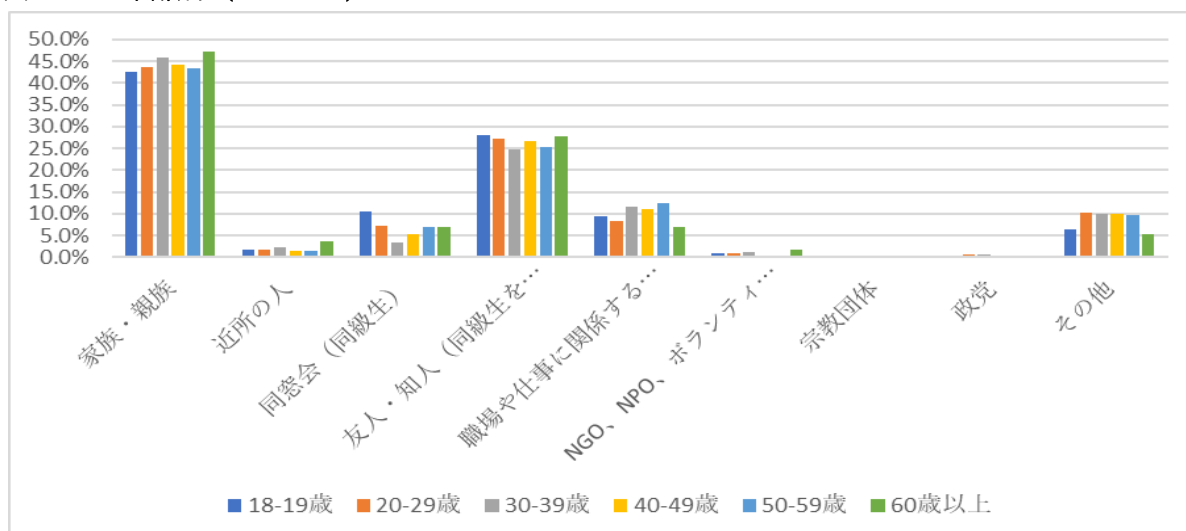


図 11-3 収入別 (N=2235)

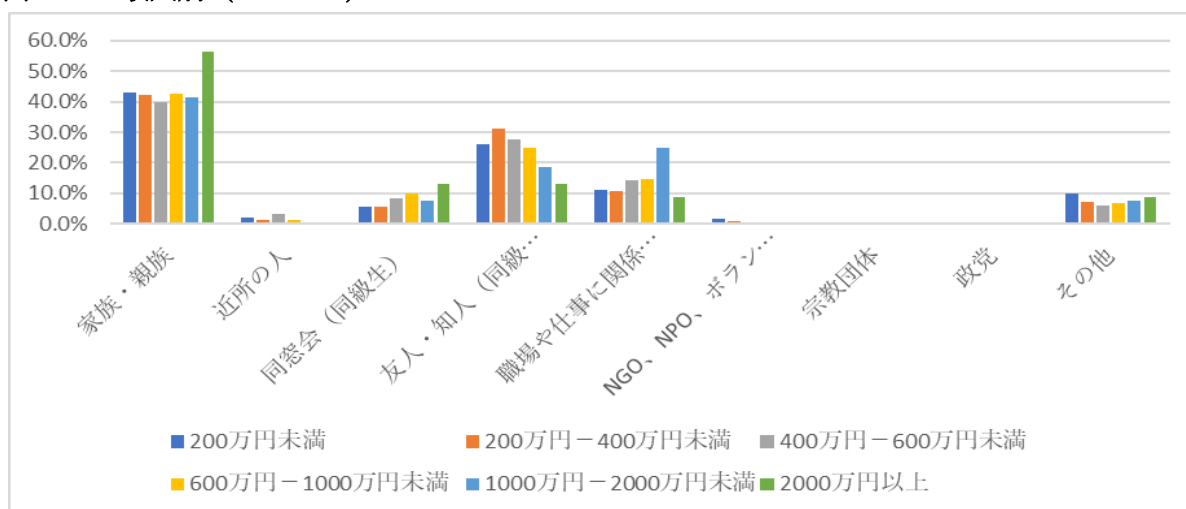
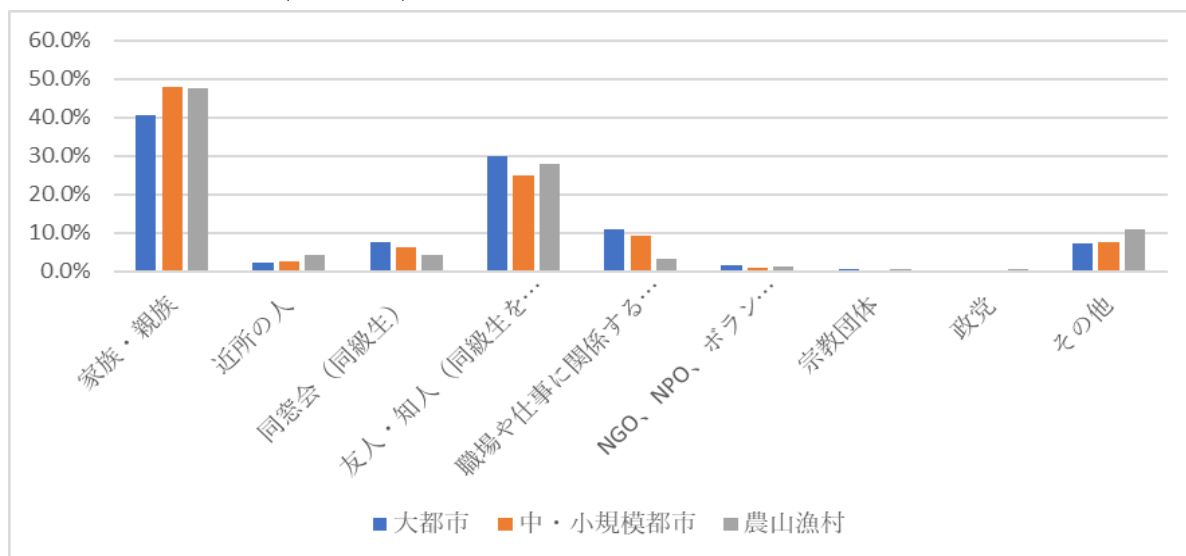


図 11-4 居住地域別 (N=4087)



Q12. 一般的に言って、個人が成功する上で、社会的有力者（政治家、官僚、企業経営者など）との関係はどの程度重要だと思いますか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	まったく重要ではない	387	9.3
2	それほど重要ではない	776	18.6
3	どちらとも言えない	1855	44.5
4	ある程度重要である	968	23.2
5	非常に重要である	185	4.4

図 12-0 総計 (N=4171)

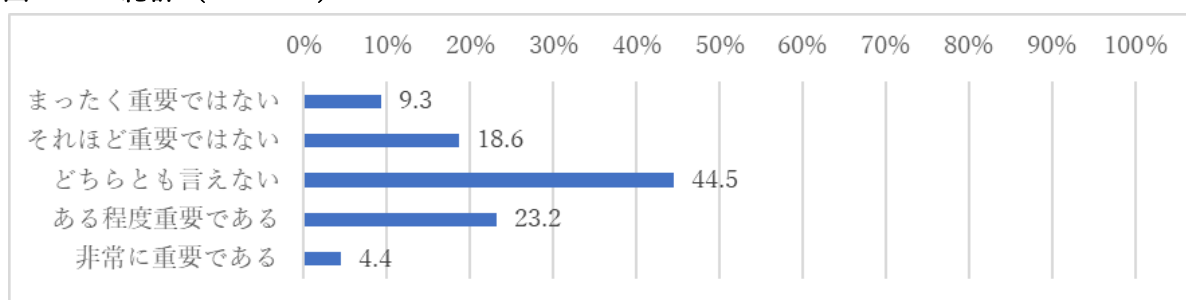




図 12-1 男女別 (N=4171)

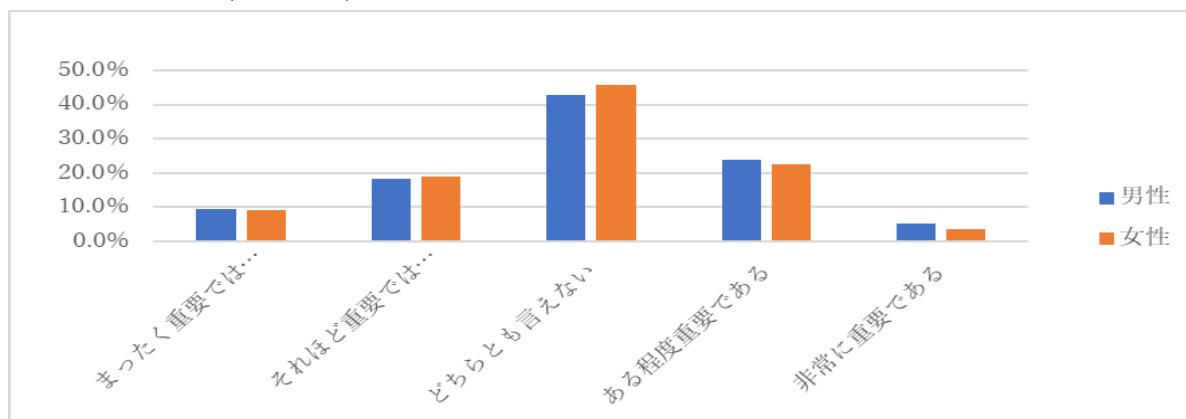


図 12-2 年齢別 (N=4171)

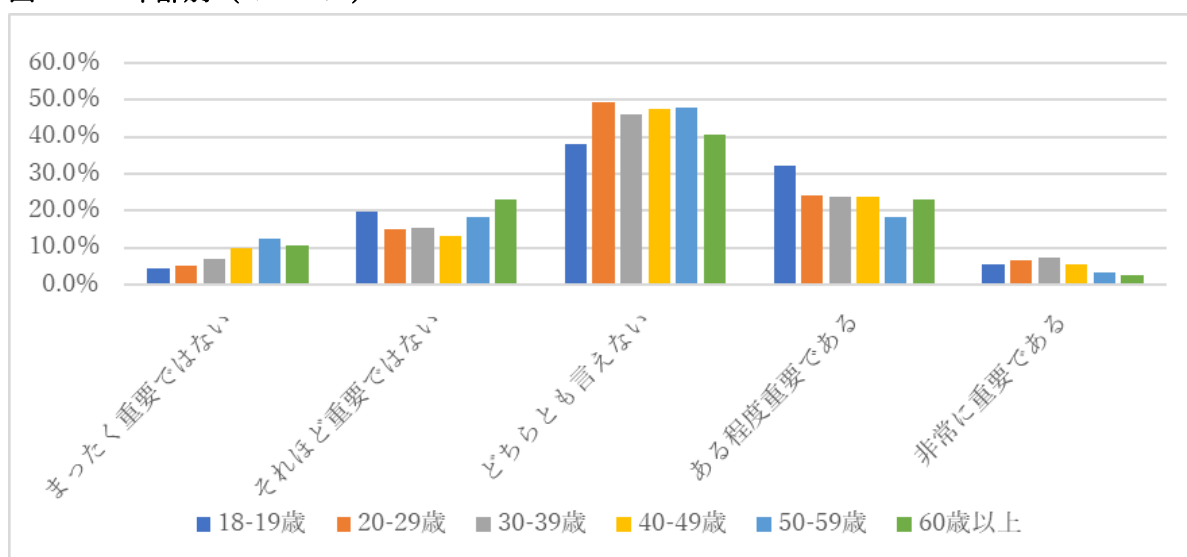


図 12-3 収入別 (N=2235)

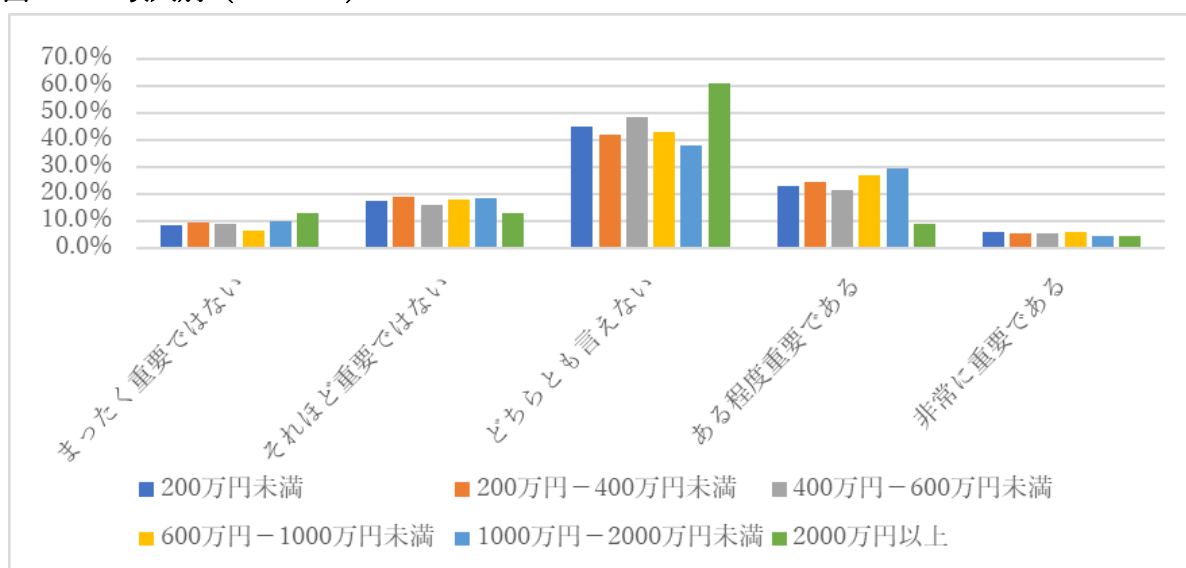
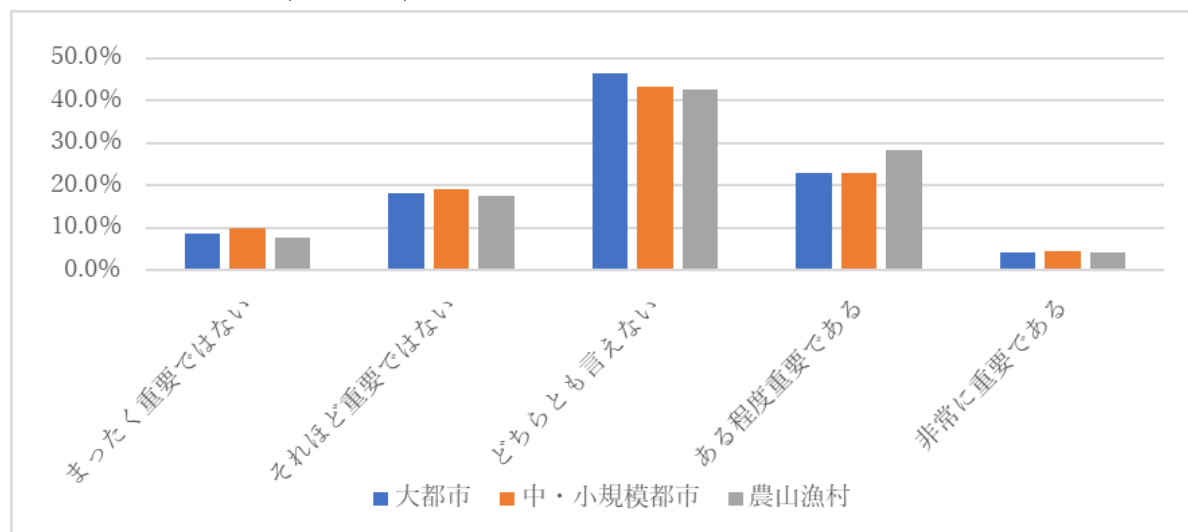


図 12-4 居住地域別 (N=4087)

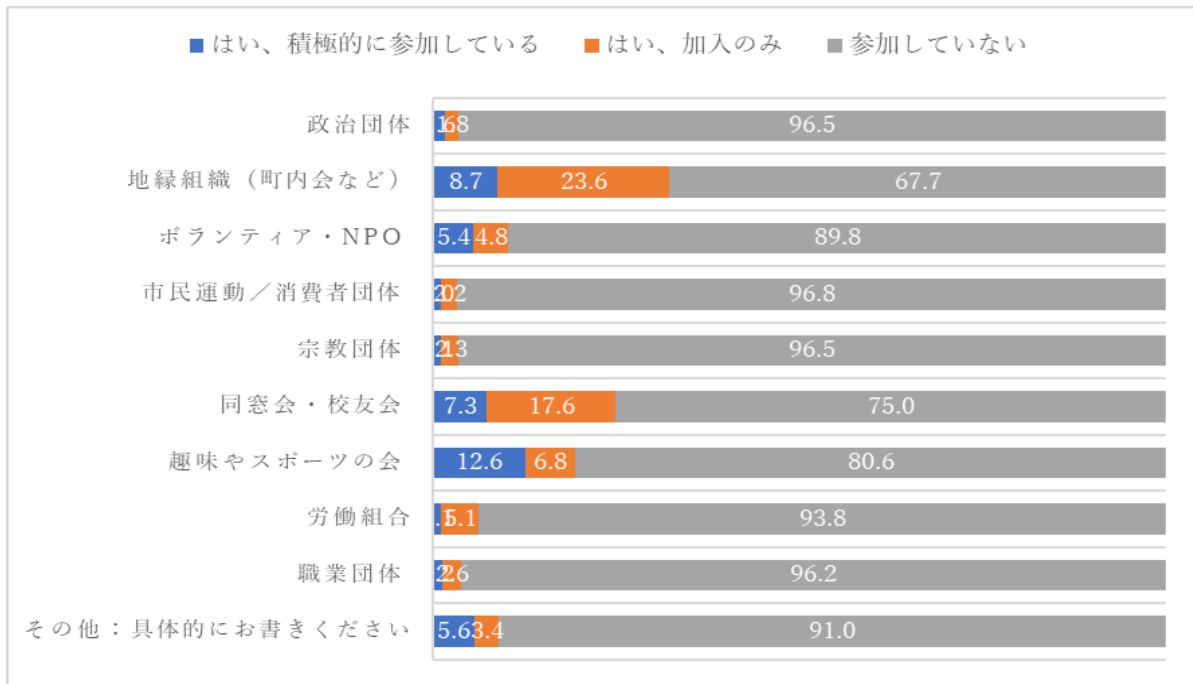


Q13. あなたは以下のような組織・団体に参加していますか。参加している場合は、積極的に活動しているかそうではないかを選んでください。

			全体	はい、積極的に参加している	はい、加入のみ	参加していない
Q13 項目 1	政治団体	%	100.0	1.6	1.8	96.5
		実数	4171	67	77	4027
Q13 項目 2	地縁組織 (町内会など)	%	100.0	8.7	23.6	67.7
		実数	4171	363	984	2824
Q13 項目 3	ボランティア・NPO	%	100.0	5.4	4.8	89.8
		実数	4171	226	200	3745
Q13 項目 4	市民運動/消費者団体	%	100.0	1.0	2.2	96.8
		実数	4171	43	91	4037
Q13 項目 5	宗教団体	%	100.0	1.1	2.3	96.5
		実数	4171	47	98	4026
Q13 項目 6	同窓会・校友会	%	100.0	7.3	17.6	75.0
		実数	4171	306	735	3130
Q13 項目 7	趣味やスポーツの会	%	100.0	12.6	6.8	80.6
		実数	4171	526	285	3360
Q13 項目 8	労働組合	%	100.0	1.1	5.1	93.8
		実数	4171	45	213	3913
Q13 項目 9	職業団体	%	100.0	1.2	2.6	96.2
		実数	4171	52	108	4011
Q13 項目 10	その他：具体的にお書きく	%	100.0	5.6	3.4	91.0

ださい	実数	323	18	11	294
-----	----	-----	----	----	-----

図 13-0 総計 (N=4171)



**Q13\_10FA. その他の内訳**

老人会 (3名)、趣味やスポーツの会 (7名)

祭り、氏子会、町内会、県人会など地縁組織 (5名)

NGO、シルバー人材センター、自助グループ (4名)、学生団体 (1名)、生協 (2名)

SNSなどネット・コミュニティ (4名)、ママ友 (1名)、学会 (1名)

図 13-1 男女別 (N=4171)

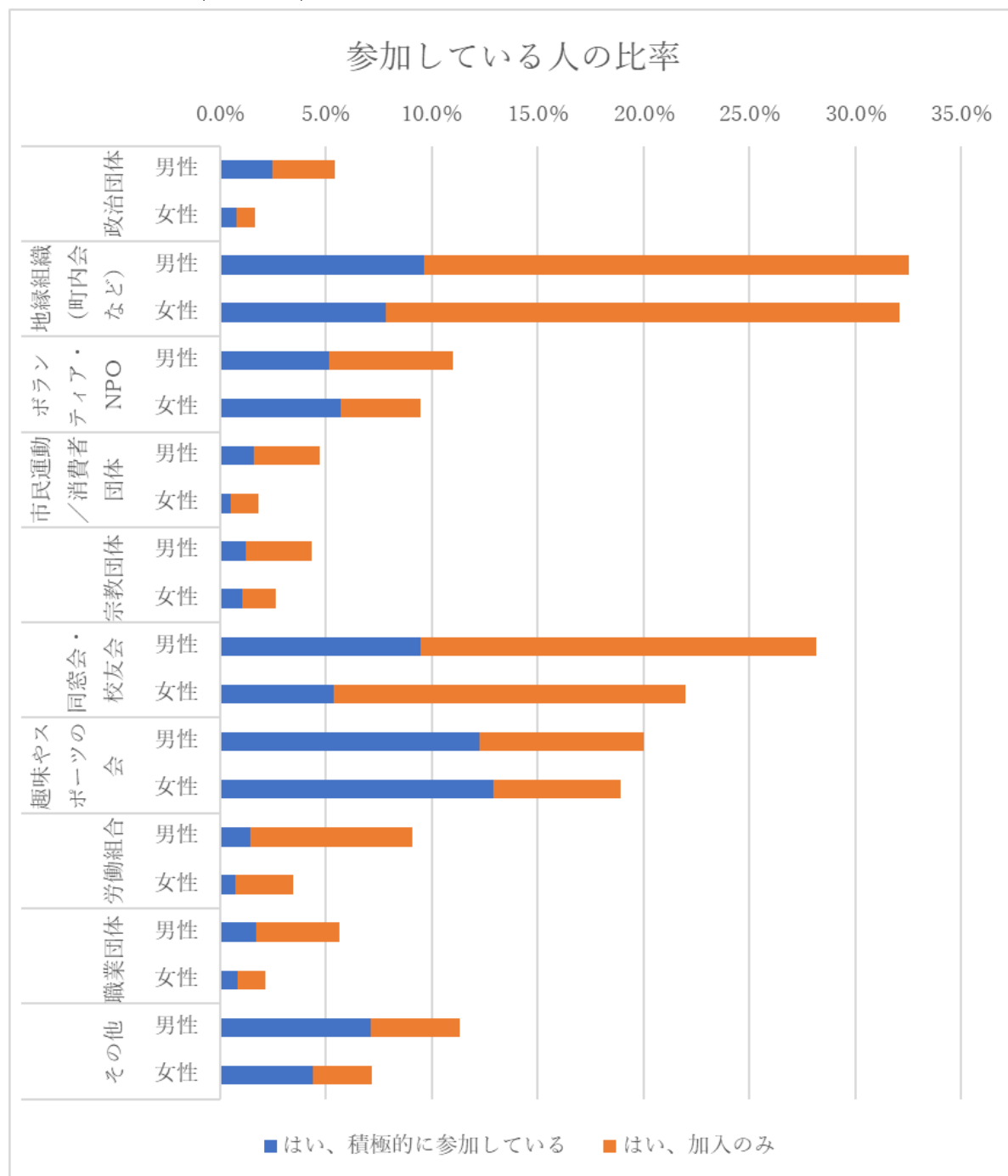


図 13-2 年齢別 (N=4171)

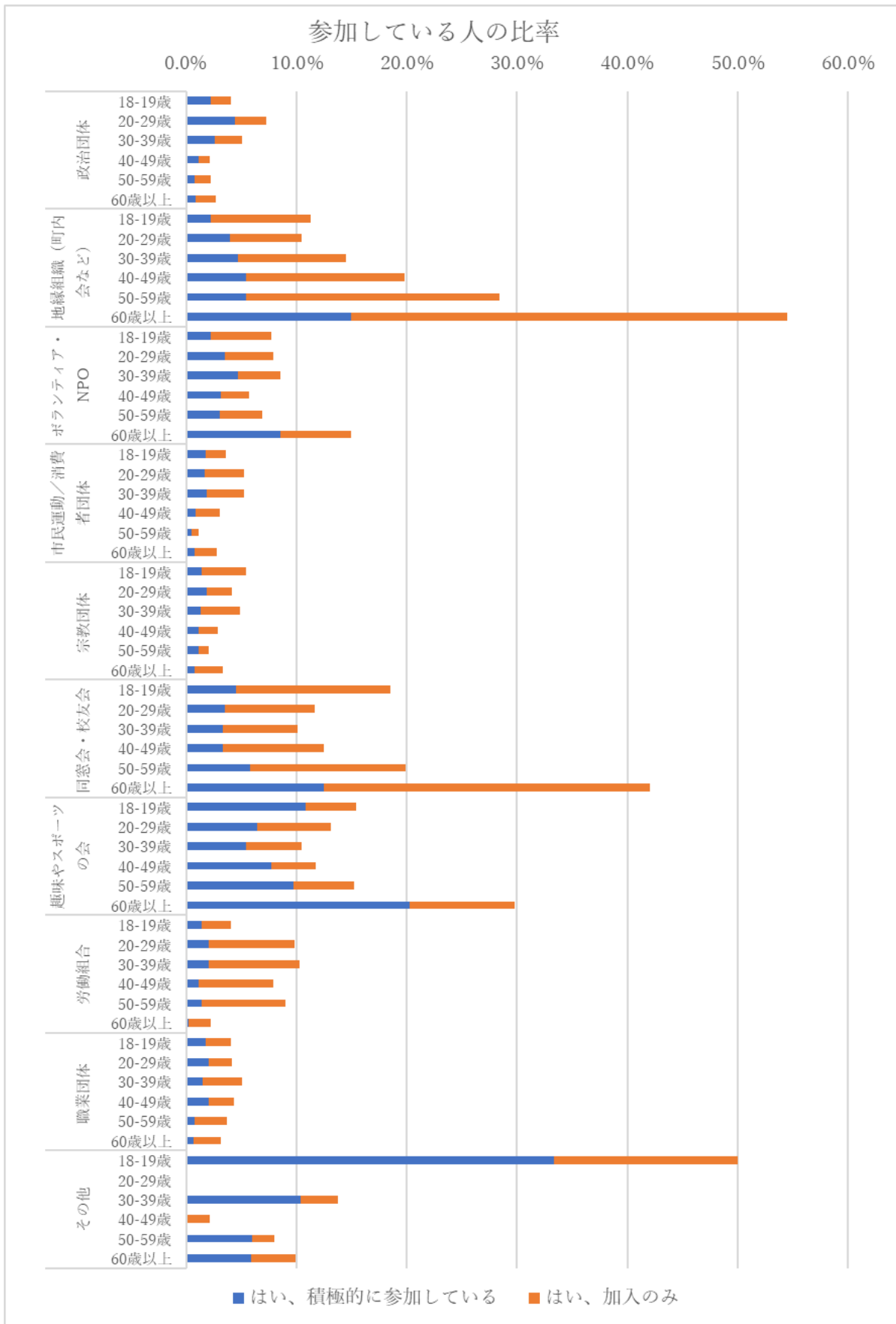


図 13-3 収入別 (N=2235)

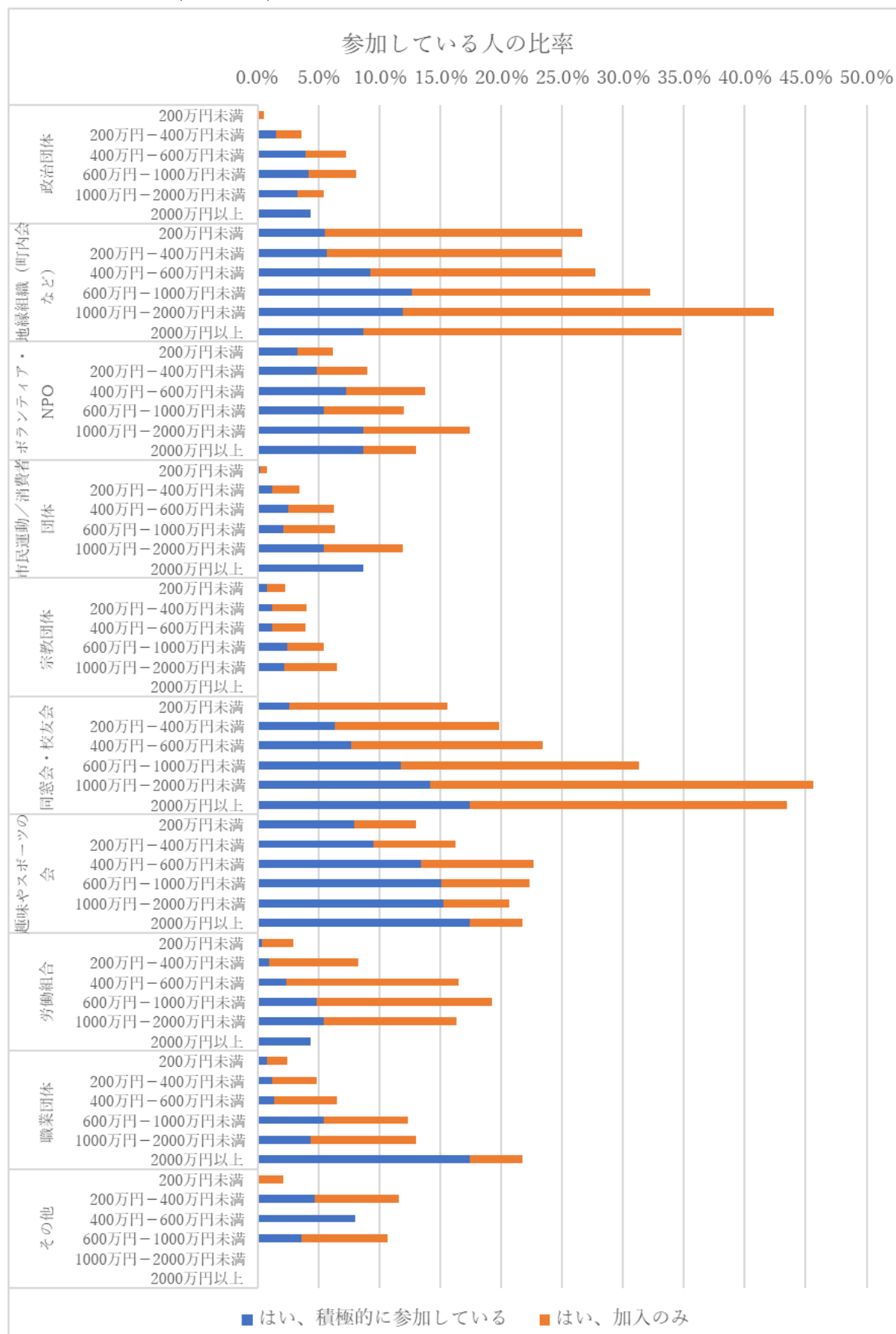
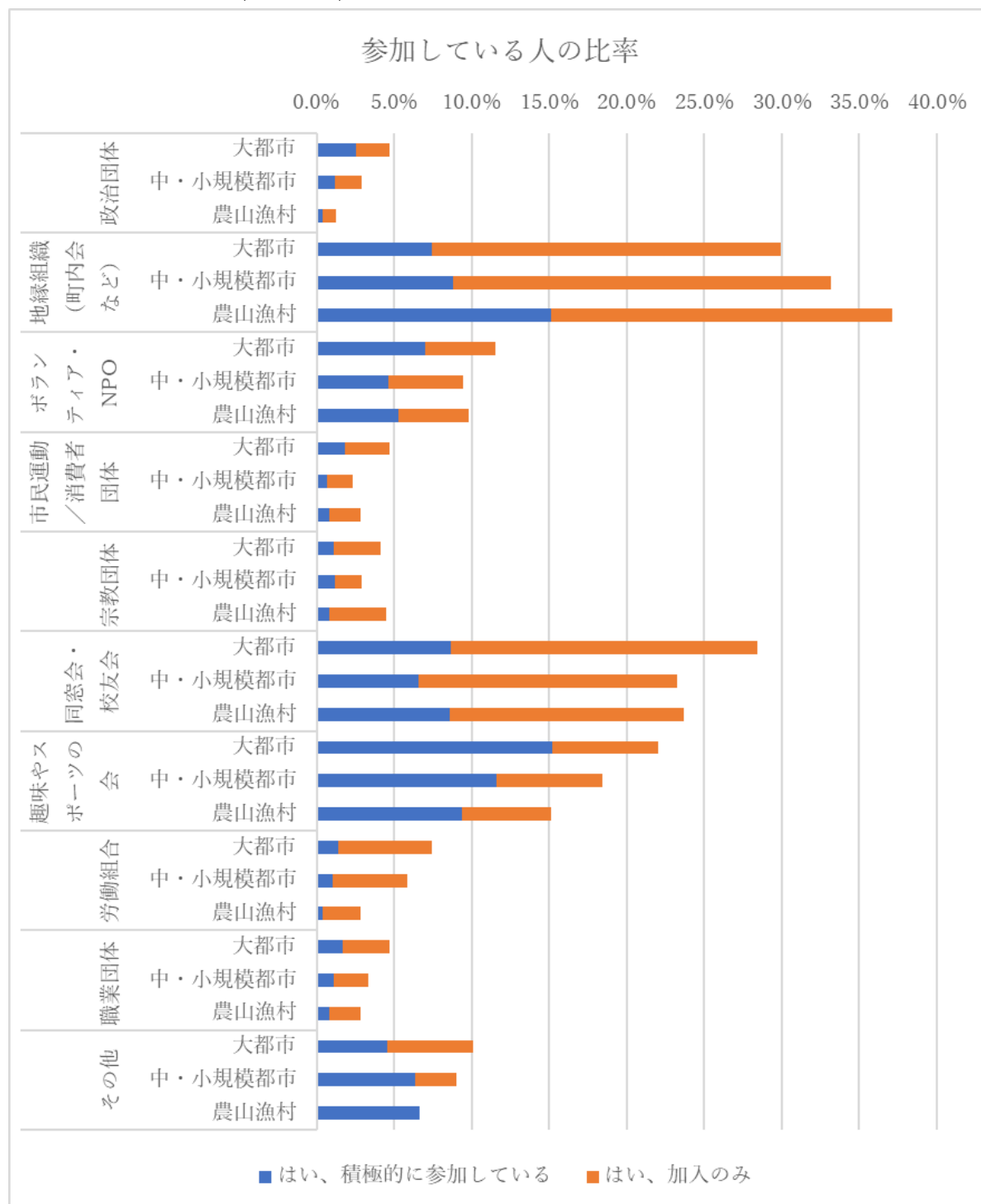


図 13-4 居住地域別 (N=4087)



Q14. 前問にて「はい、積極的に参加している」と回答頂いた項目のうち、あなたが過去1年間にもっとも積極的に参加した会や組織はどれですか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		974	100.0
1	政治団体	16	1.6
2	地縁組織 (町内会など)	197	20.2
3	ボランティア・NPO	98	10.1

4	市民運動／消費者団体	3	0.3
5	宗教団体	20	2.1
6	同窓会・校友会	49	5.0
7	趣味やスポーツの会	399	41.0
8	労働組合	13	1.3
9	職業団体	15	1.5
10	その他 (●●●)	13	1.3
11	過去1年間にはいずれにも参加していない	151	15.5

図 14-0 総計 (N=974)

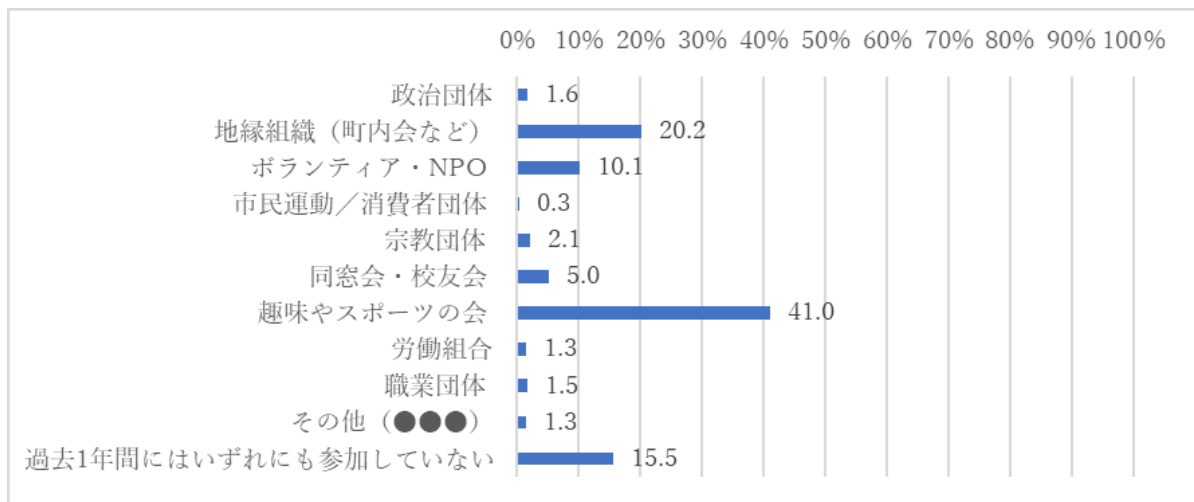


図 14-1 男女別 (N=974)

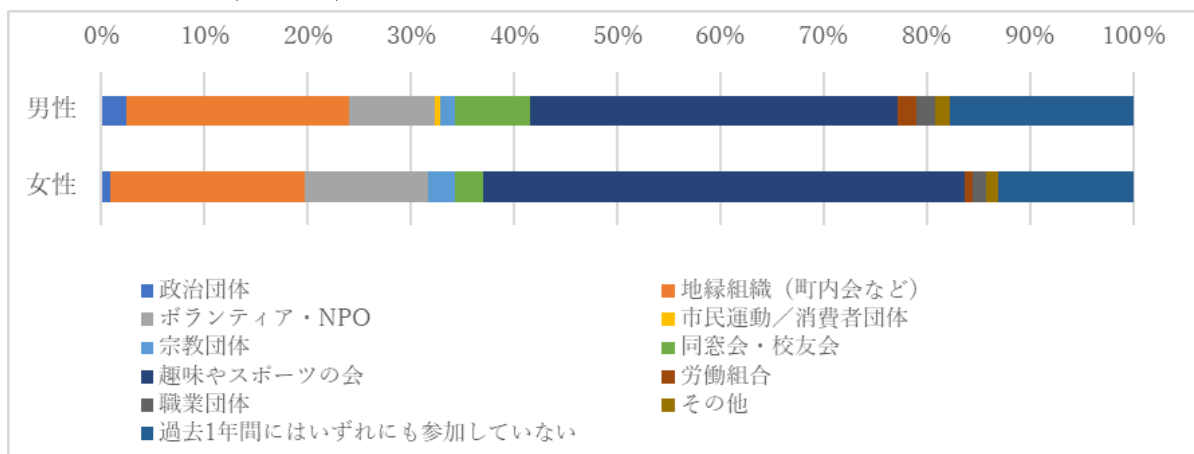




図 14-2 年齢別 (N=974)

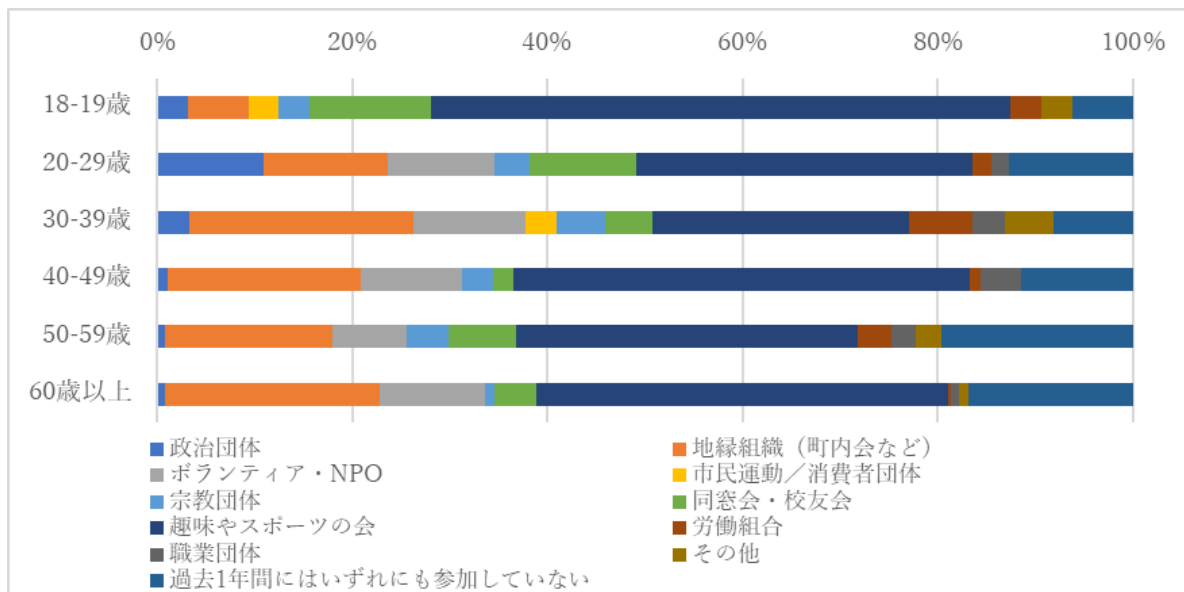


図 14-3 収入別 (N=469)

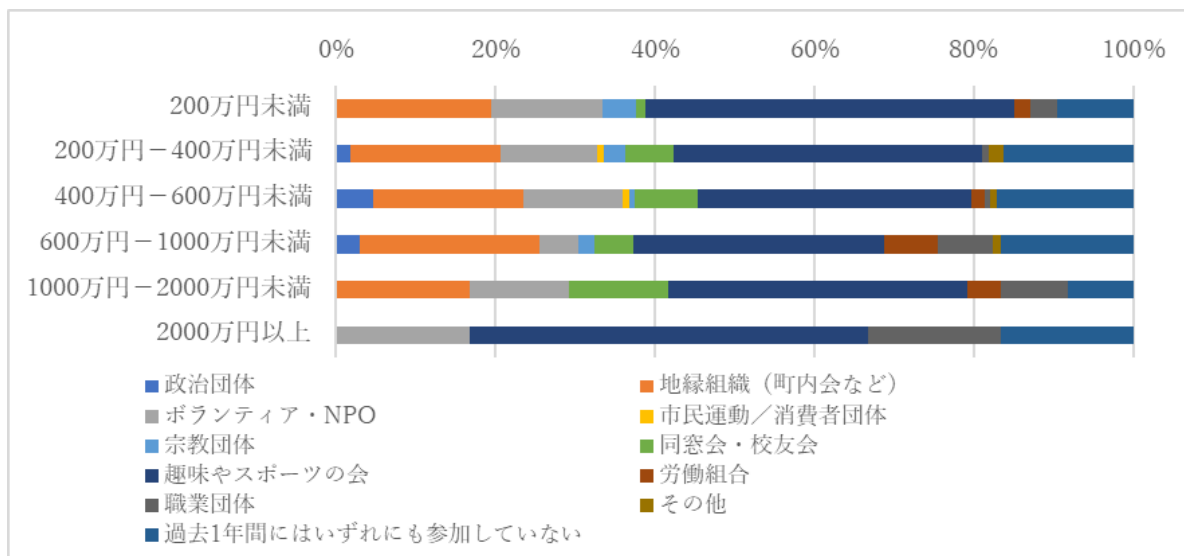
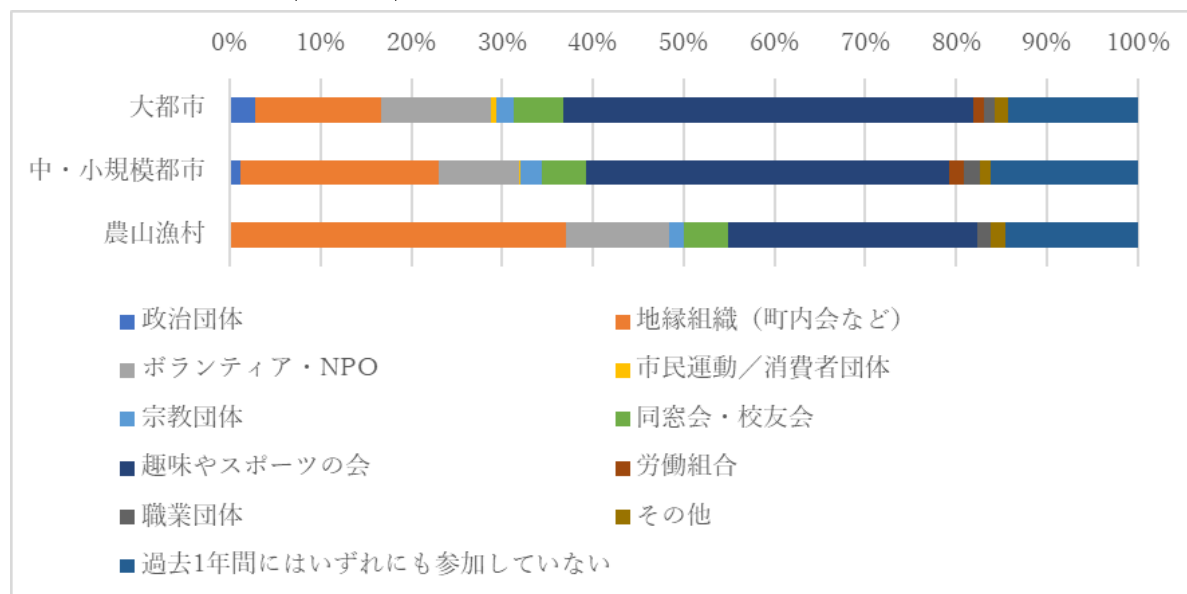


図 14-4 居住地域別 (N=964)



Q15. その組織(Q14)の中の人間関係や考え方は、以下のうちどれにもっとも近いですか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		823	100.0
1	ほとんど全員が同じ考え方や行動をしている	70	8.5
2	同じ考え方や行動をしている人が多い	536	65.1
3	同じ考え方や行動をしている人は少ない	91	11.1
4	ほとんど全員が異なる考え方や行動をしている	49	6.0
5	分からない・答えられない	77	9.4

図 15-0 総計 (N=823)

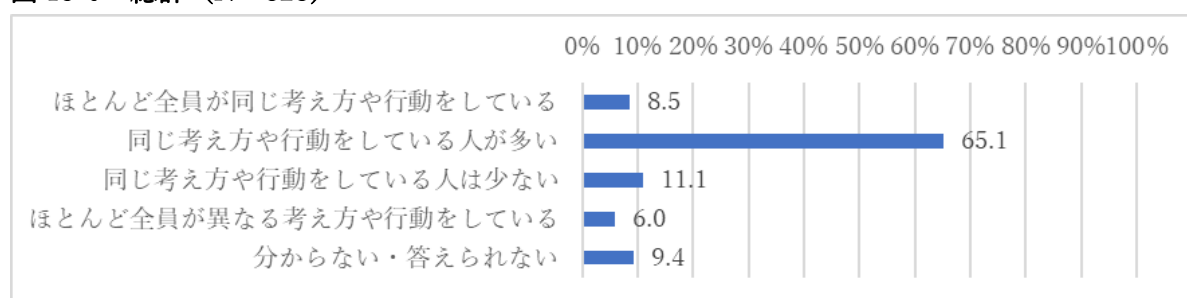
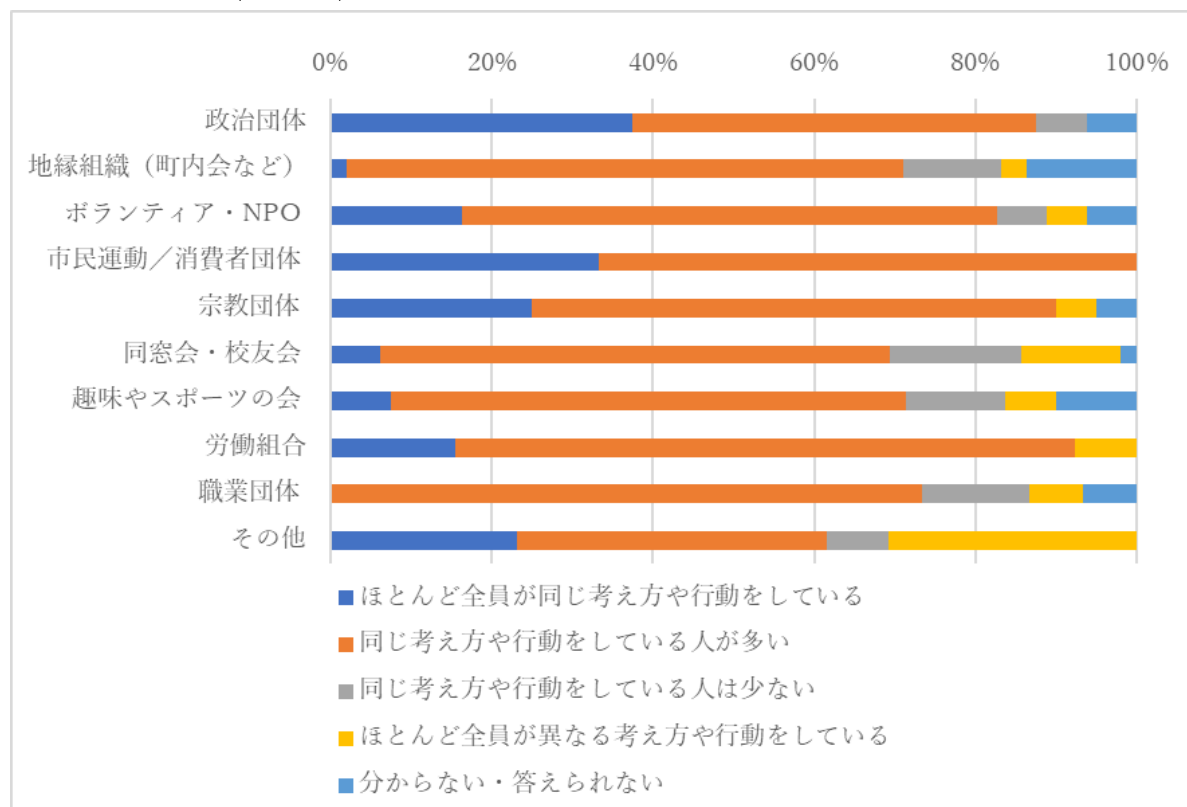


図 15-1 団体別 (N=823)



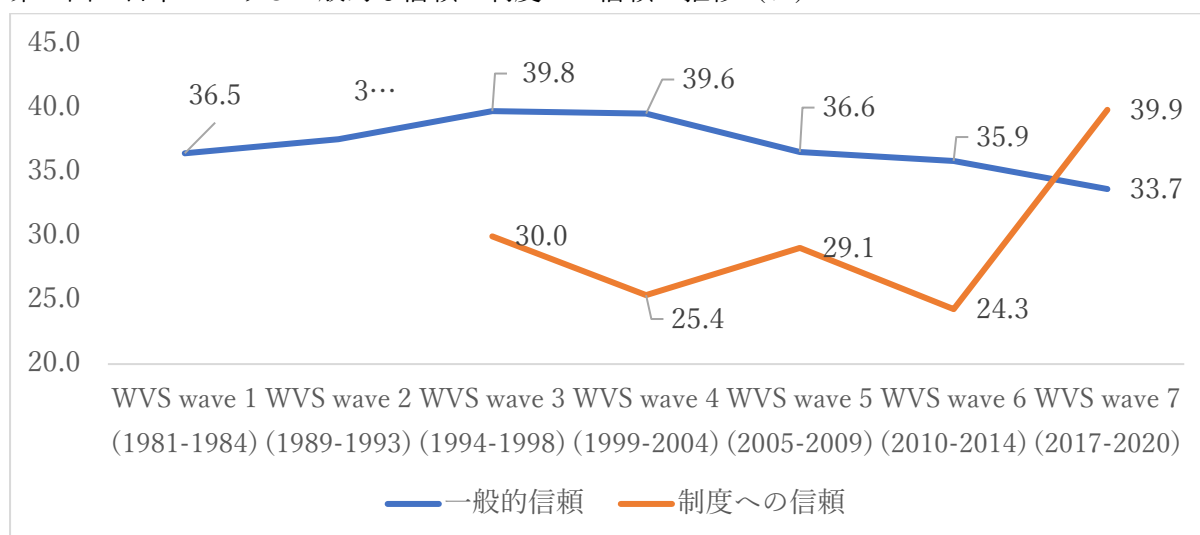
## II. 信頼について

次に、信頼に関して、一般的信頼（general または generalized trust）、特定化信頼（particularistic trust）などにかかわって 8 つの質問に基づいて分析する。個々のアンケート結果については、節末にまとめているので参照されたい。

一般的信頼とは、人間一般に対する信頼のことで、人間は基本的に正直であることと定義されることが多く、性善説に近い概念である。それに対して、特定化信頼は、特定対象に対する信頼のことで、対人信頼（interpersonal trust）や機関・制度への信頼（institutional trust）などが含まれる。

第 3 図は『世界価値観調査』（World Value Survey）の時系列データを用いて、日本における一般的な信頼と制度への信頼の推移を表している。一般的な信頼は低いレベルにあり、WVS wave 3（1994-1998）をピークに、減少し続けている。また、制度（政府へ）の信頼は WVS wave 7（2017-2020）の調査結果を除いて一般的な信頼よりも遥かに低いレベルにあると分かる。

第 3 図 日本における一般的な信頼と制度への信頼の推移（%）



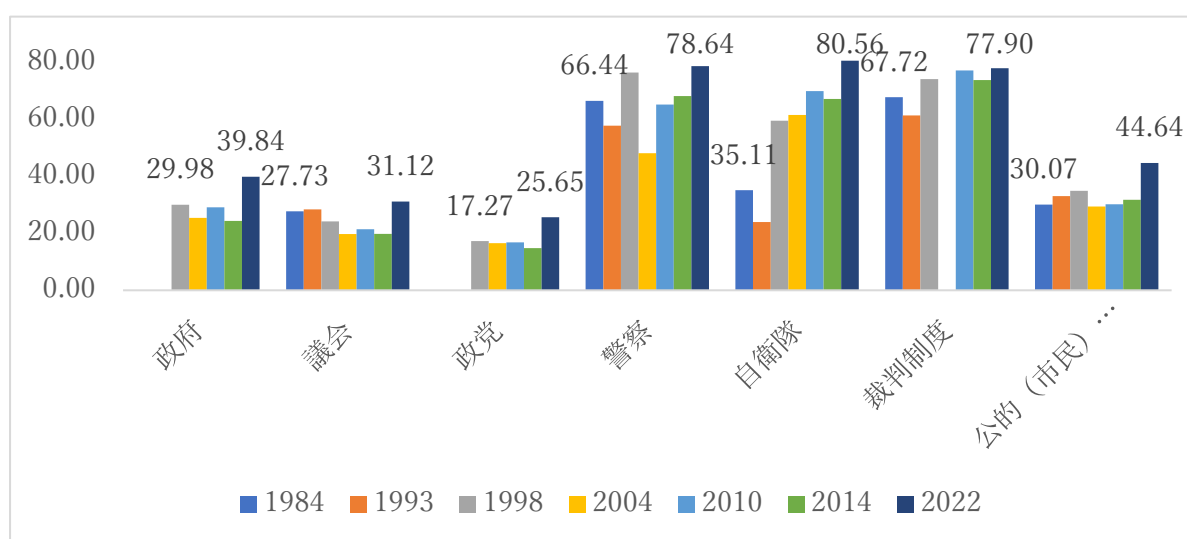
注) 一般的な信頼は「Most people can be trusted」の質問項目の肯定的な回答で作成。制度への信頼は「Confidence: government」の質問項目の「a great deal」と「quite a lot」の合わせた回答。

(出所) : Inglehart et al. (2020). 『世界価値観調査』のデータにも基づいて筆者作成

先行研究では、一般的に、欧米諸国に比べ、日本において一般的な信頼が低いとされている。例えば、山岸（1999）および Yamagishi（2011）は、日本社会は信頼より安心を重視している傾向があると指摘している。彼はとりわけ日米の比較を行い、アメリカでは、対人関係の自由度が高く、人との出会いは機会の創出を与える社会であり、初対面の人ともコミュニケーションをとるのが一般的であるから、一般的な信頼は日本より高いと結論づけている。それに対して、日本では、対人関係や所属集団の関係が一旦確立すると、そこから移動することが困難な傾向があり、そのため、日本のような社会では、所属する集団との関係を悪化させないことが重視される。このように、日本人は相手が正直かどうか思っているのではなく、相手は周囲の監視があるから、想定外の行動をしないと考える傾向があり、信頼に関する特殊な考え方が存在する（山岸 1999; Yamagishi, 2011）。

第4図は日本における公的機関・制度への信頼の推移を表している。警察と自衛隊への信頼度が最も高い一方で、政府、議会、政党への信頼はいずれも低いレベルにあることが分かる。2022年に、政府、議会、政党への信頼が増加していることが、いまだに低い水準である。Eldman Trust Barometer のデータでは、2024年の日本の信頼度指数<sup>6</sup>は39であり、不信頼の傾向が強い国のグループに分類されている。雇用者（60）とビジネス（50）が最も信頼されている制度になっているが、NGO（40）、政府（32）、メディア（33）への信頼はいずれも低い水準となっている。日本はまさに低信頼社会である。

第4図 日本における公的機関・制度への信頼の推移（％）



（出所）Integrated Values Surveys (2022)のデータベースを元に筆者作成

Q.16の質問では、対人信頼、一般的信頼、機関・制度への信頼度について尋ねている。

まず、対人信頼を構成する「家族・親類」、「友人」、「近所の人」、「職場の人」に対する信用の程度について5件法で尋ねている。回答者は家族・親類を信用している割合が最も高く、「ある程度信頼している」と「とても信頼している」を合わせた回答が80.4%となっており、続いて「友人」（68.1%）、「職場の人」（36.1%）、「近所の人」（29.9%）の順になっている。日本人は身近にある人への信頼（家族・親類、友人）が高いことがうかがえる。「家族・親類」への信頼に関しては、『世界価値観調査』（WVS wave 7）との整合性がとられている。友人、近所の人、職場の人への信頼は、岩井・宍戸（2021）の調査結果（それぞれ90%、63.7%、71.6%）を下回っているが、その理由は4件法での測定を行っていたからだと考えられる。

属性別に集計すると、「家族・親類」、「友人」、「近所の人」の項目では、女性の信頼度が高い。年齢別では、60歳以上の回答者と18-19歳の回答者の「家族・親類」、「友人」、「近所の人」への信頼が最も高く、当該年齢層は生活上で身近にいる対人に依存していることが多いと考えられる。近所への信頼は、若年層ほど低くなる傾向が見られ、日本人の世代ごとの近所との付き合いの変化を表している。収入別では、顕著な差異が見られないものの、収入

<sup>6</sup> Eldman Trust Barometer の信頼度指数（Trust Index）は自国の政府、企業、メディア、NGO/NPO に対する信頼度の平均値で測定している。1-49の数値は不信頼（distrust）、50-59は中立（neutral）、60-100は信頼があるとされている。

1000 万—2000 万円未満の回答者は「友人」、「近所の人」、「職場の人」への信頼が他の収入層に比べて若干高い水準となっている。居住地域別では、「近所の人」への信頼を除いて、全ての項目においては、大都市、中・小規模都市、農山漁村、その他の順となっているが、数値に大きな差異が見られない。

次に、一般的信頼の指標の一つ「初対面の人への信頼」である。ソーシャル・キャピタルの理論では、一般的信頼が高い人は他者から得られる潜在的な資源に敏感で、幅広い社会的なネットワークを構築するとされる（岩井・宍戸、2021）。日本人の「初対面の人」に対する信頼が極めて低く、「全く信頼していない」と「あまり信頼していない」を合わせた数値が 51.5%であり、「ある程度信頼している」と「とても信頼している」と回答した人はほとんどいなかった。この結果は、『世界価値観調査』（WVS wave 7）と岩井・宍戸（2021）の調査との整合性がとられている。男女別では、「ある程度信頼している」と「とても信頼している」と回答した男性の方が若干少ない。年齢別では数値に大きな差異がないものの、収入別では、「初対面の人」を信頼すると回答した 400—600 万円未満の回答者が他の収入層より若干多い。居住地域別では、中・小規模都市と農山漁村に住んでいる回答者の方が「初対面の人」を信頼していない傾向が見られる。

そして、最後に、様々な制度・機関への信頼である。いずれの項目においても、「どちらでもない」という回答が圧倒的に多い。公的機関で働いている人への信頼は、「自衛隊」（37.4%）、「警察」（35.7%）、「裁判官」（33.0%）、「地方公務員」（20.2%）、「選挙」（19.9%）、「首相」（19.2%）、「国家公務員」（18.4%）の順と続いており、全体を通して低いレベルとなっている。「自衛隊」と「警察」への比較的に高い信頼度は、同職業の人びとは自然災害の際のサポートや交番等で市民サポートを提供しており、日本人の生活において最も身近にある公的制度の代表者である。一方で、「政党」（41.5%）と「首相」（33.1%）を「全く信頼していない」と「あまり信頼していない」と回答した日本人が多く、Eldman Trust Barometer 2022 の調査でも指摘されているように、日本政府に対する国民の信頼が失われている。属性別で集計してみると、男女別では大きな差がなく、「政党」への信頼が若干男性の方が高くなっている。年齢別では、18—19 歳と 60 歳以上の年齢層の公的機関への信頼が比較的高いものに対して、20—59 歳では年齢が上がるにつれて信頼度が低くなる傾向が見られ、全体を通して右側に緩やかな曲線（逆 U 字型）を描いている。収入別では、1000 万—2000 万円未満の回答者の公的機関への信頼が他の収入層より若干高い。居住地域別では、差が見られない。

非公的機関で働いている人への信頼は、「医者」（55.5%）、「科学者」（32.9%）、従来のメディア（29.3%）、教員（26.2%）、企業経営者・役員（15.8%）、ソーシャルメディア（11.9%）、NGO・NPO リーダー（11.8%）の順となっている。男女別では、女性の方が若干信頼度が高い傾向が見られる。収入別では、顕著な差がほとんど見られない。居住地域別では、大都市ほど、非公的機関で働いている人への信頼は高い傾向が見られる。

Q17 は人間の本性について「人間の本性は本来「悪」である」「人間の本性は本来「善」である」を両端とする 7 件法で尋ねたものである。人間の本性が「善」よりだと答えた回答者は、40%であり、岩井・宍戸（2021）の調査結果（45%）を下回った<sup>7</sup>。性別では、女性の方が「善」であるという回答がやや多かった。年齢別では、18—19 歳と 60 歳以上の年齢層では、「善」と

<sup>7</sup> この調査ではどちらでもないという回答がない。

回答した人が高く、当該年齢ではポジティブな傾向があるように見えるが、他の年齢層では、年齢が上がるにつれて、「善」の比率が低くなり、全体を通して右側に緩やかな曲線（逆 U 字型）を描いている。収入別では顕著な差異が見られないものの、居住地域別では、小さな都市ほど「善」の回答比率が少なくなっている。

Q18 は、一般的信頼に対する尋ねる質問であり、総計では、「人はほとんどの場合、信用できる」と「たいていは、信用できる」と答えた回答者が 41.2%であり、岩井・宍戸（2021）の調査結果（55.5%）を著しく下回ったが、『世界価値観調査』（WVS wave 7）とはある程度整合性がとられている。女性の方が若干人を信用できる傾向が見られる。年齢別では、18-19 歳と 60 歳以上の年齢層の信頼が最も高く、他の年齢層では、年齢が上がるにつれて信頼度が高くなる。収入別では、100 万-2000 万円未満の収入層は著しく高く 56.5%である。また、居住地域の規模が小さいほど、人を信用できると答えた回答者が少ない傾向が見られ、小規模の都市では、人口が少ないことから、日常生活上で接する人が少なく、知らない人への不信感がやや強いことが考えられる。

Q19 は、「自分の人生を自らの力で変えることができると感じますか」と尋ねており、回答者の 58.7%は肯定的に答えている一方、4 割強の回答者は自分の人生を変えることができなと感じている。性別では、ほとんど違いが見られないが、年齢別では、18-19 歳と 60 歳以上の回答者の肯定的な回答が最も多く、それぞれ 63.4%と 62.5%であった。それに対して、30-39 歳と 40-49 歳の年齢層では、肯定的な回答が若干少ない。働く年齢層は社会的な責任が重く、義務も比較的多いため、自分が置かれている状況を変えることの難しさを物語っていると推察できる。収入別の集計では、収入が上がるにつれて肯定的な回答の比率が高くなるため、金銭的な余裕のある人びとは行動の自由度が比較的高いと考えられる。居住地域別の集計では、大都市ほど肯定的な回答が多いため、大都市ほど、生活を変えるための環境と機会がより整っていると考えられる。

Q20 は、さまざまな事柄への満足度を尋ねた質問である。家族関係を除き、いずれの項目に関しても、「どちらとも言えない」の回答が先立っている。総計では、比較的満足度が高い項目は、「家族関係」（53.2%）、「余暇」（42.6%）、「住宅」（40.6%）、「医療サービス」（40.2%）、「人間関係」（39.4%）、「娯楽・文化」（37.9%）、「デジタル・情報サービス」（35.5%）、「交通」（34%）、「消費」（31.1%）、「治安・警察」（31%）であった。一方、「全く満足していない」「どちらかと言えば満足していない」を合わせた回答をみると、「収入」（48.1%）、「政治」（47.1%）、「年金・社会保障」（41%）、「仕事」（30.6%）行政サービス（16.6%）であった。概して、政治や社会保障関連サービスへの不満が伺える。

男女別の集計では、「仕事」、「年金・社会保障」、「金融サービス」、「政治」、「行政サービス」、「環境」の項目を除いて、女性の方が満足度が高い。年齢別では、「娯楽・文化」、「住宅」、「近所付き合い」、「交通・インフラストラクチャー」、「医療サービス」、「デジタル・情報サービス」、「金融サービス」の項目においては、60 歳以上の回答者の満足度が他の年齢層より比較的高い傾向にある。一方、「年金・社会保障」、「政治」、「行政サービス」に関しては、年齢が上がるにつれて「全く満足していない」と「どちらかと言えば満足していない」の比率が高くなっている。

収入別では、「収入」「仕事」「人間関係」「家族関係」「消費」、「余暇」、「娯楽」、「住宅」、「近所付き合い」、「医療サービス」、「デジタル・情報サービス」、「金融サー

ビス」の項目に関しては、高収入者ほど満足度が高い傾向が見られる。一方、「年金・社会保障」、「政治」、「行政サービス」の項目に関しては、全ての収入層の不満が大きい。

居住地域別では、一部例外があるものの、ほぼ全ての項目において、大都市ほど満足度が高い。

Q21 は、引き立ててくれる人の存在についての質問である。74%の回答者は、引き立ててくれる人がいないと回答している。引き立てる人がいると答えた回答者には、職場の上司がそれにあたるという回答が最も多く（13.1%）、自由回答欄には 241 件のうち、最も多い回答として友人（42.3%）、家族・親類（31.45%）、配偶者・パートナー（14.1%）、仕事関係の仲間・同僚（6.2%）があった。

男女別の集計では、女性（8.9%）より男性（17.5%）の方が引き立てる人として「職場の上司」をあげている。日本は依然として男性中心とした社会であり、働く男性の方が依然として多いからであると考えられる。また、18-19 歳の回答者には、学校の先生（29.4%）が引き立ててくれる人の役割を果たしている。

収入別の集計では、収入が上がるにつれて「職場の上司」の比率が高くなっている。居住地域別では、大都市ほど、「職場の上司」という回答が多い。

Q22 は、社会的結束性（social cohesion）について尋ねたものである。住んでいる地域では、特性の相違があるか否かという質問に対して、「どちらとも言えない」は 49.8%、「ほとんど見られない」は 20.9%、「ある程度見られる」は 9.2%、「強く見られる」は 2.2%であった。概して、日本社会において同質性が高いレベルにあると結論できる。

男女別の集計では、女性の方が特性の相違がないと回答している。年齢別では、年齢層ごとにとりわけ差異が見られないが、60 歳上の年齢層は「ほとんど見られない」と「少し見られる」を合わせた回答が若干高くなっている。

収入別の集計では、2000 万円以上の収入層は「ほとんど見られない」と「少し見られる」を合わせた回答が高くなっているが、他の年齢層では大きな差異が見られない。

居住地域別の集計では、住んでいる地域の規模が大きいほど、特性の差異が存在すると感じる回答者が比較的多い。

Q23 では、特性の相違のうち対立を生みやすいと考えられる主な理由として、回答者は「富や物質所有に関する格差」（40.5%）、「世代間の格差」（25.4%）、「社会的地位の格差」（24.2%）、「教育格差」（18.3%）をあげている。したがって、総計では、富の分配、不平等への関心が相対的に高いと結論できる。

男女別の集計では、顕著な差異が見られないが、年齢別と収入別の両方の集計では、年齢と収入が上がるにつれて「富や物質所有に関する格差」の回答比率が高くなっている。居住地域別の集計では、大都市ほど、特性の相違の主な理由として、「富や物質所有に関する格差」をあげている回答者が多い。

**Q16. あなたは以下の人びと、もしくは機関・制度をどの程度信頼していますか。当てはまるものをそれぞれお答えください。**

		全体	全く信頼していない	あまり信頼していない	どちらとも言えない	ある程度信頼している	とても信頼している
家族・親類	%	100.0	2.0	3.3	14.3	34.2	46.2



	実数	4171	85	137	597	1427	1925
友人	%	100.0	3.1	4.4	24.4	53.0	15.1
	実数	4171	131	182	1019	2209	630
近所の人	%	100.0	9.3	12.5	48.3	27.6	2.3
	実数	4171	388	520	2015	1152	96
職場の人（学生の方は 同じ学校の人、あるいは 学校内での上司（先生））	%	100.0	6.7	10.0	51.7	28.2	3.4
	実数	4171	280	416	2157	1177	141
初対面の人	%	100.0	22.8	28.7	43.8	4.1	0.6
	実数	4171	952	1196	1826	171	26
医者	%	100.0	3.0	6.5	34.9	49.0	6.5
	実数	4171	127	273	1457	2044	270
企業経営者・役員	%	100.0	7.4	12.9	63.9	14.6	1.2
	実数	4171	309	536	2664	610	52
従来のメディア（テレ ビ、ラジオ、新聞）	%	100.0	9.9	14.9	45.8	27.9	1.4
	実数	4171	415	623	1909	1165	59
ソーシャルメディア （SNS、ブログ、 YouTube など）	%	100.0	12.2	26.9	49.0	10.9	1.0
	実数	4171	509	1124	2043	455	40
NGO/NPO のリーダ ー	%	100.0	9.9	17.1	61.2	10.9	0.9
	実数	4171	411	714	2551	456	39
教員	%	100.0	7.1	12.9	53.7	24.8	1.4
	実数	4171	297	540	2241	1033	60
科学者	%	100.0	4.7	7.7	52.3	32.9	2.3
	実数	4171	197	323	2182	1372	97
地方公務員	%	100.0	7.4	14.7	57.8	19.2	1.0
	実数	4171	308	612	2412	799	40
国家公務員	%	100.0	8.8	15.4	57.4	17.4	1.0
	実数	4171	366	643	2396	725	41
首相	%	100.0	14.2	18.9	47.7	17.8	1.4
	実数	4171	594	789	1988	743	57
政党	%	100.0	15.9	25.6	47.1	10.4	1.0
	実数	4171	663	1067	1965	434	42
警察	%	100.0	6.9	12.6	44.8	32.1	3.6
	実数	4171	287	525	1868	1339	152
自衛隊	%	100.0	5.8	8.9	47.9	32.0	5.4
	実数	4171	243	373	1996	1333	226
裁判官	%	100.0	6.8	11.6	48.6	29.6	3.4
	実数	4171	283	482	2028	1236	142
選挙	%	100.0	10.2	18.0	51.9	18.4	1.5
	実数	4171	424	749	2166	769	63

図 16-0. 総計 (N=4171)

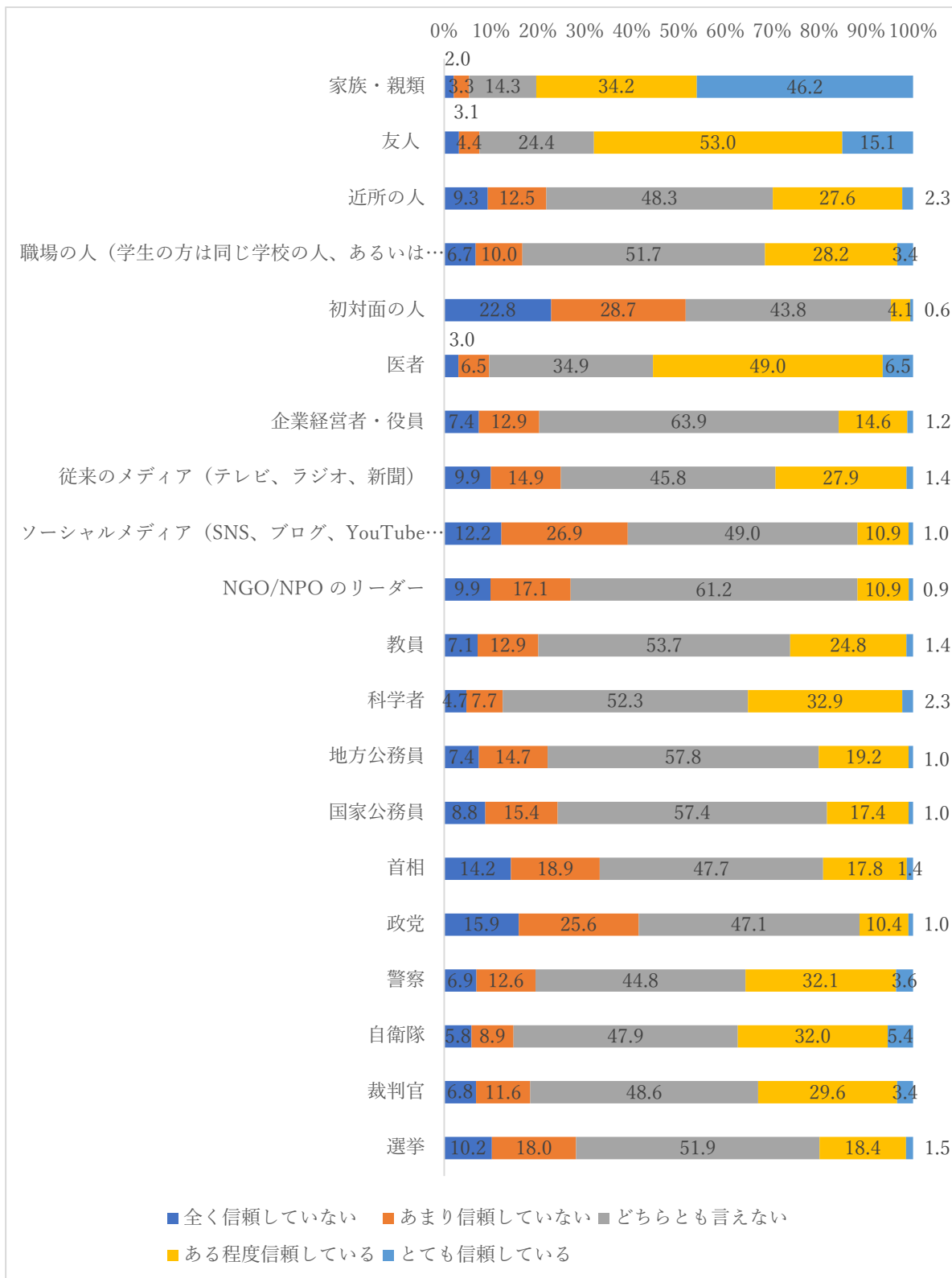


図 16-1. 男女別

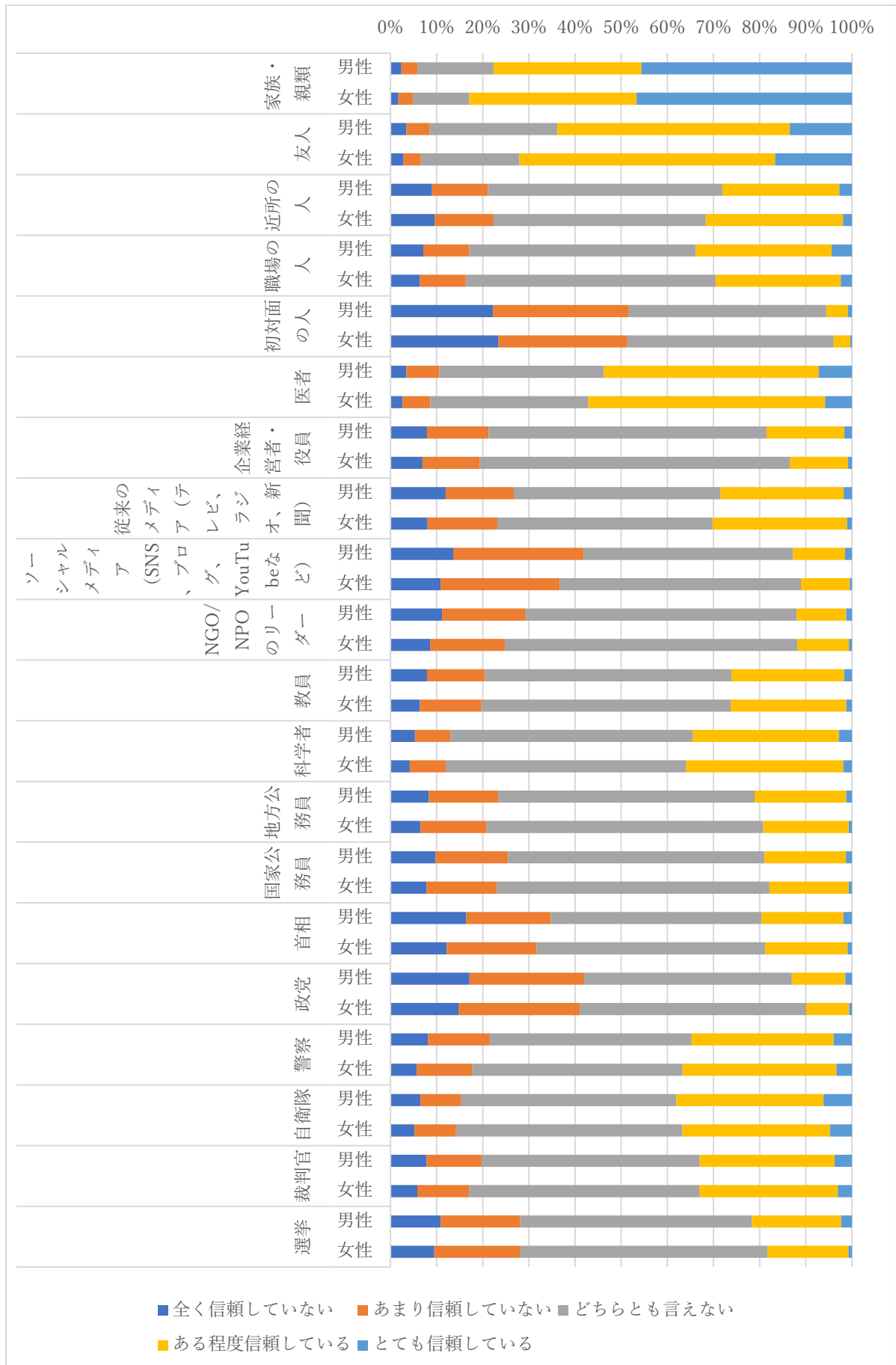
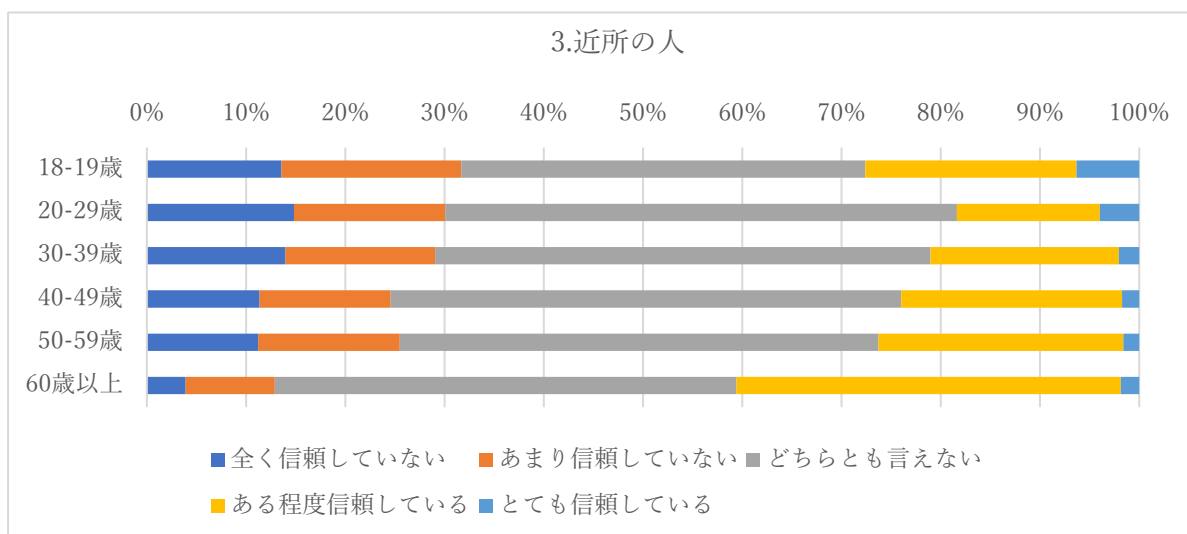
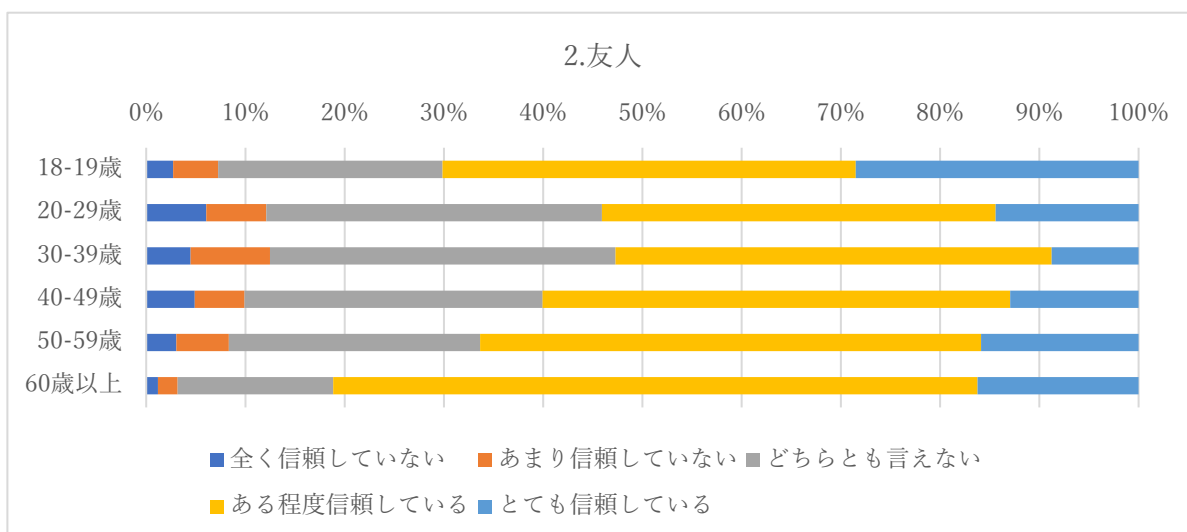
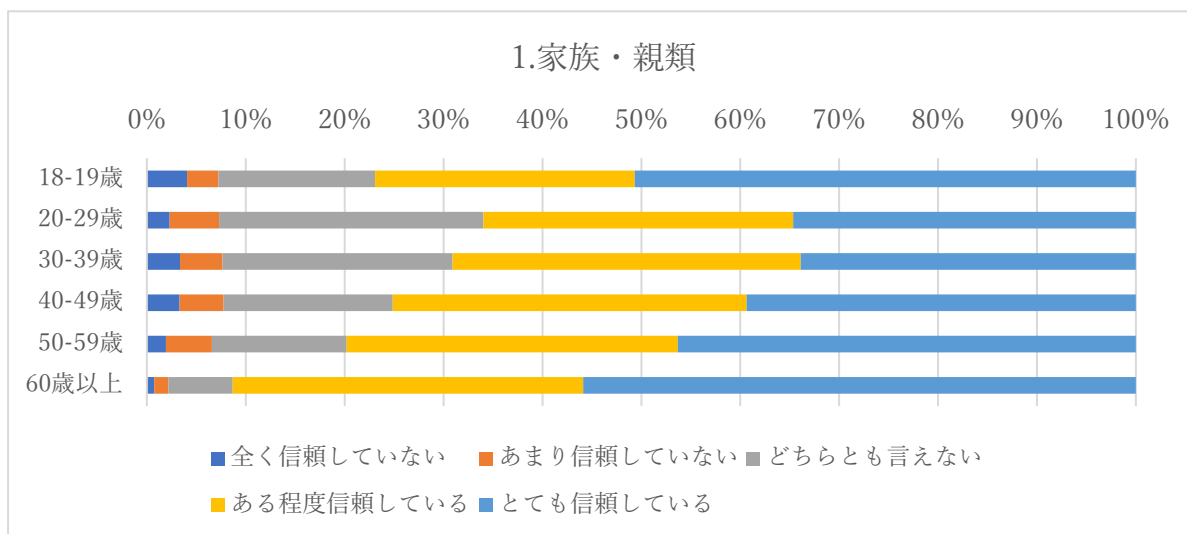
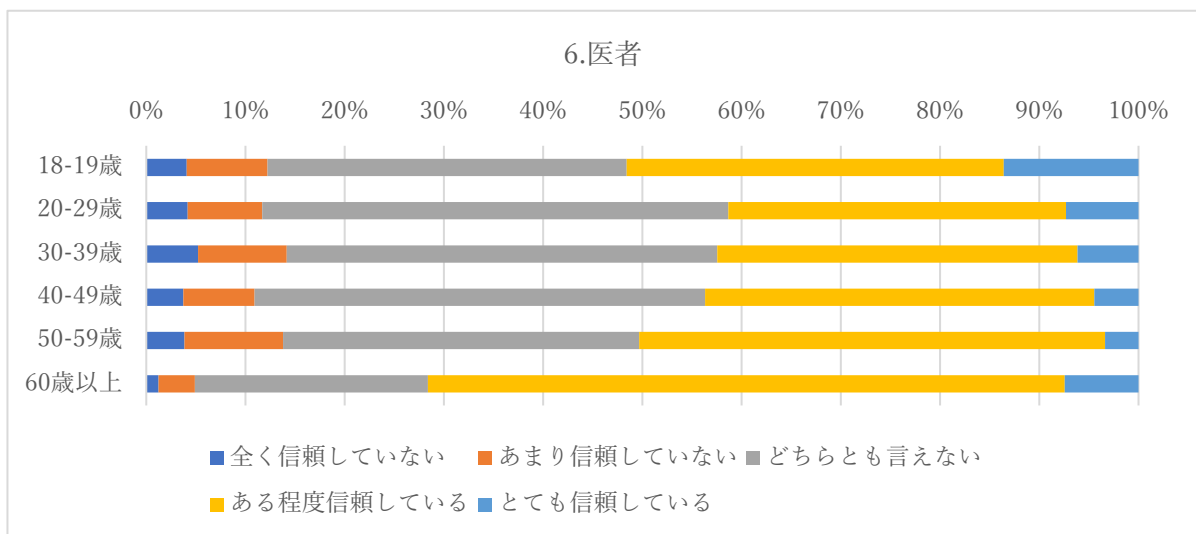
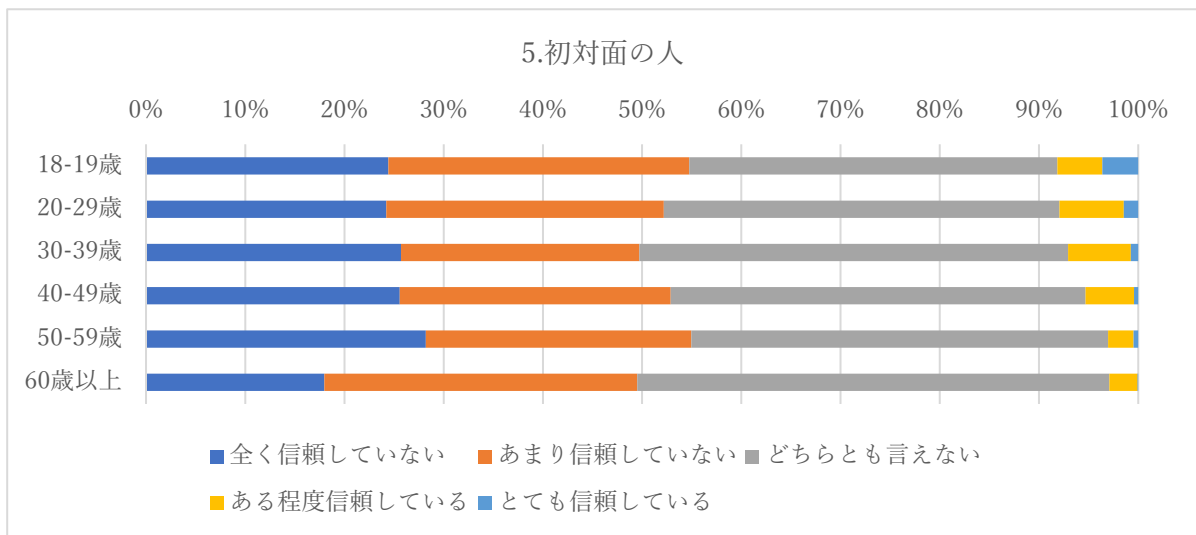
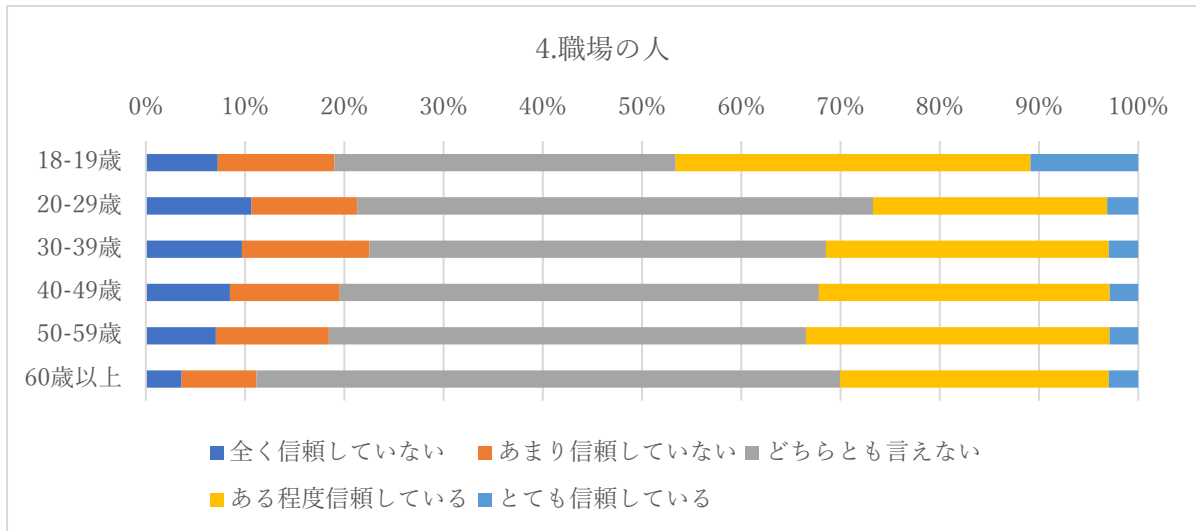
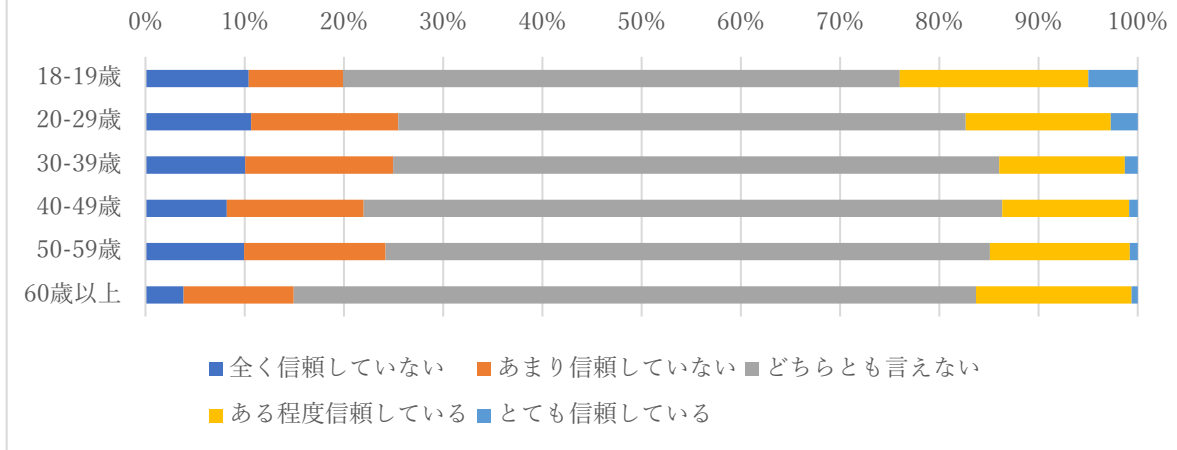


図 16-2. 年齢別 (N=4171)

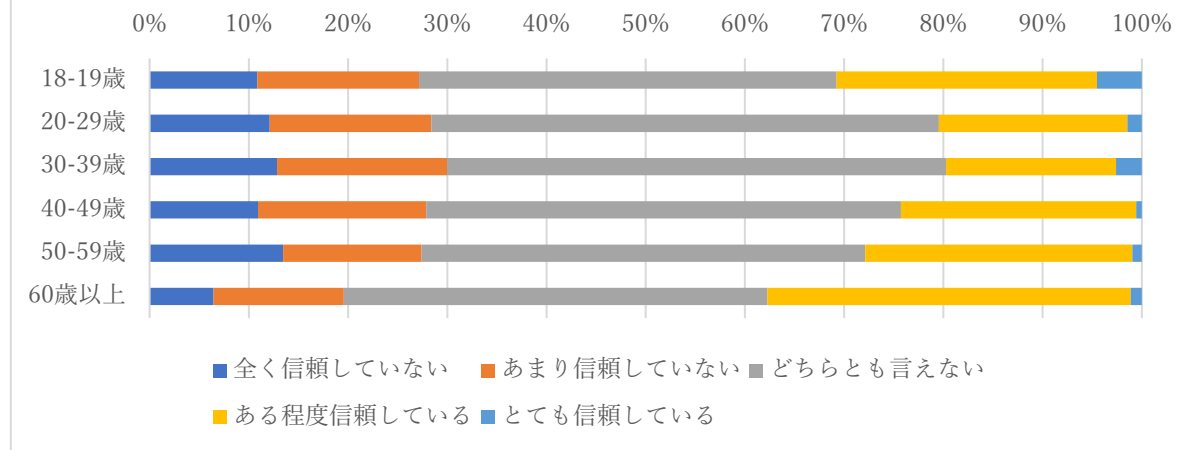




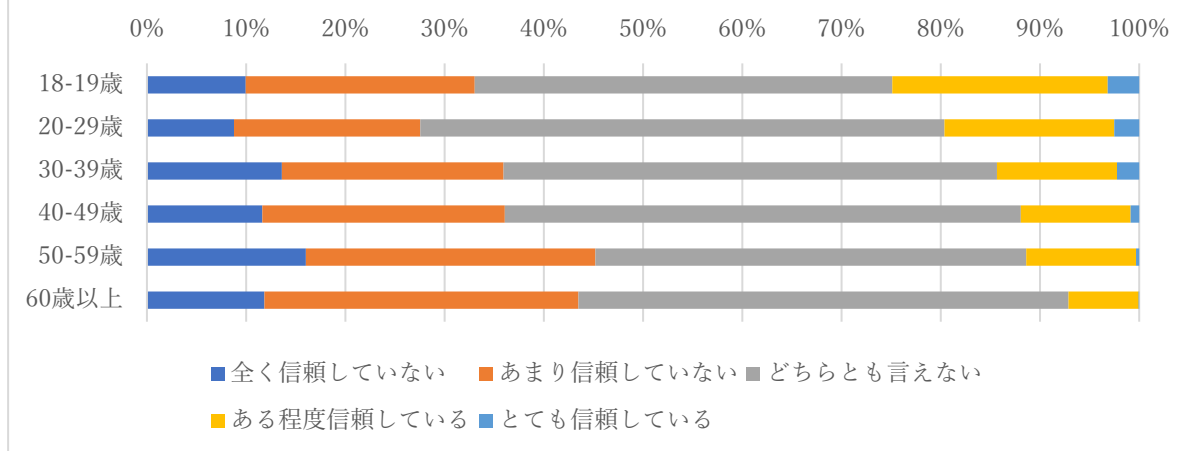
### 7. 企業経営者・役員

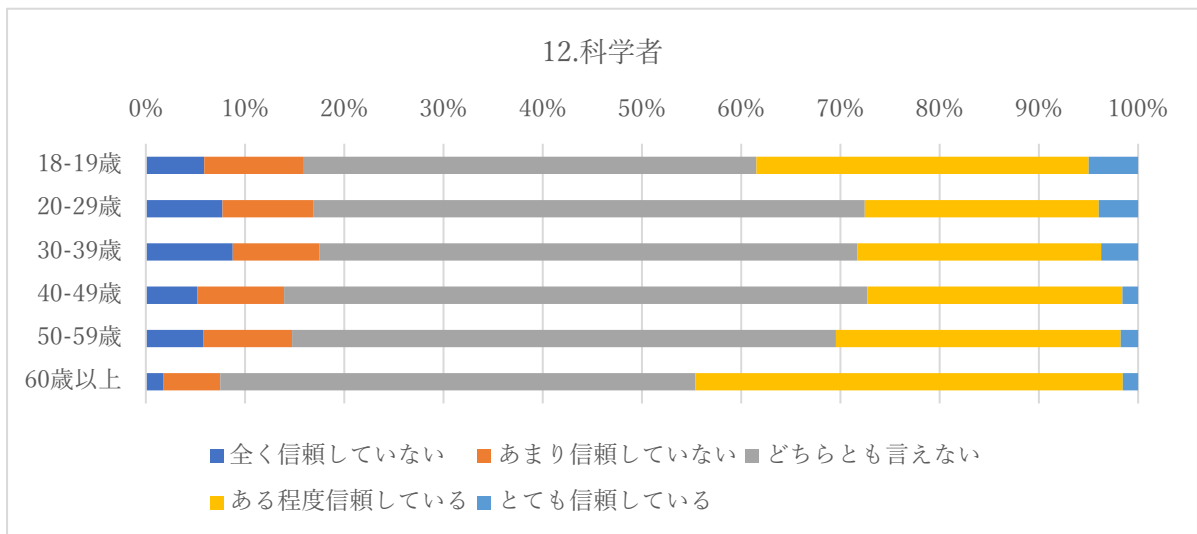
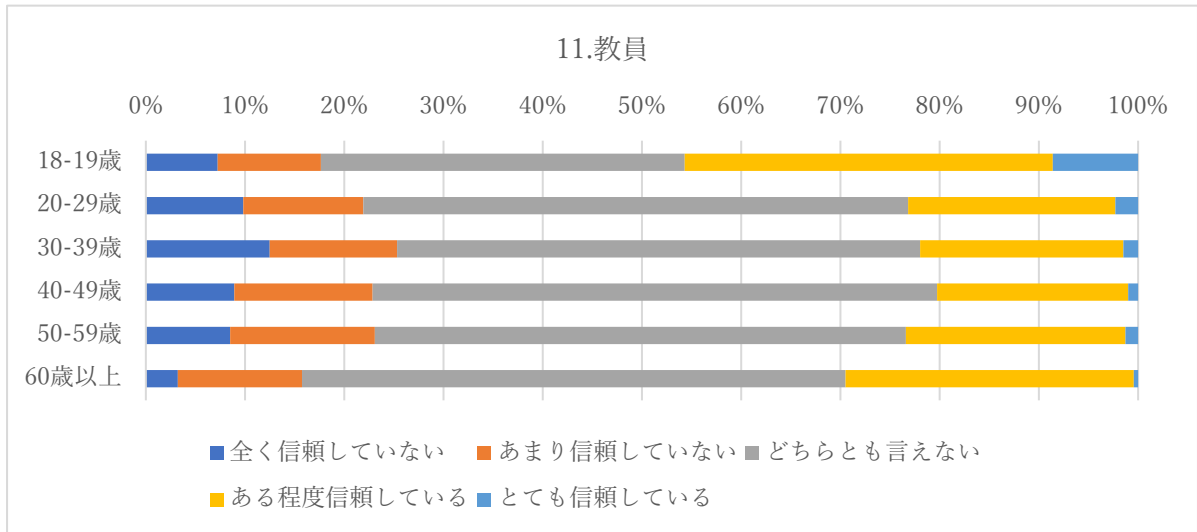
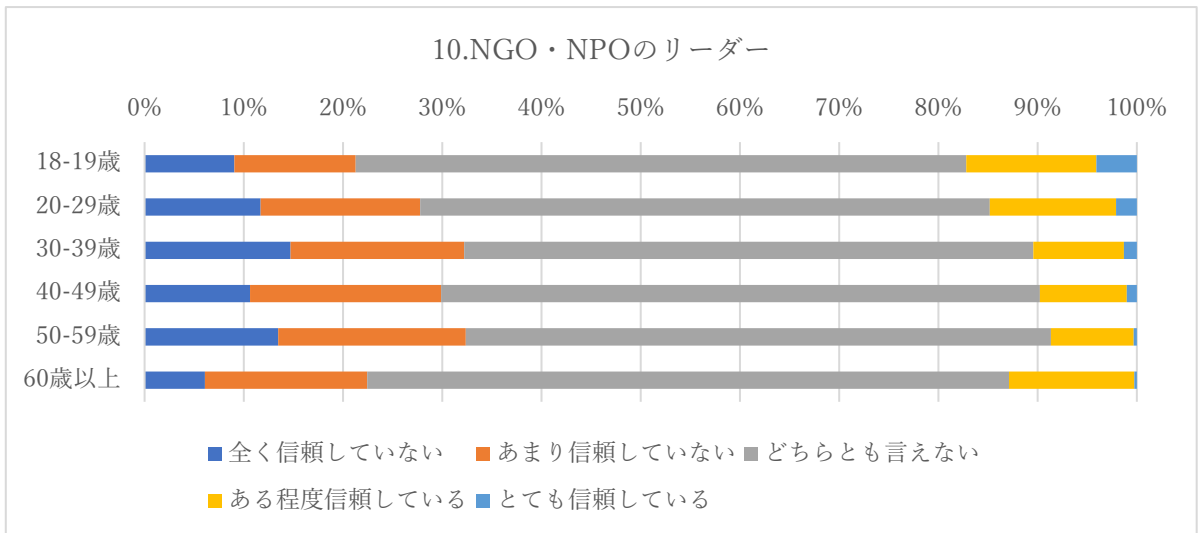


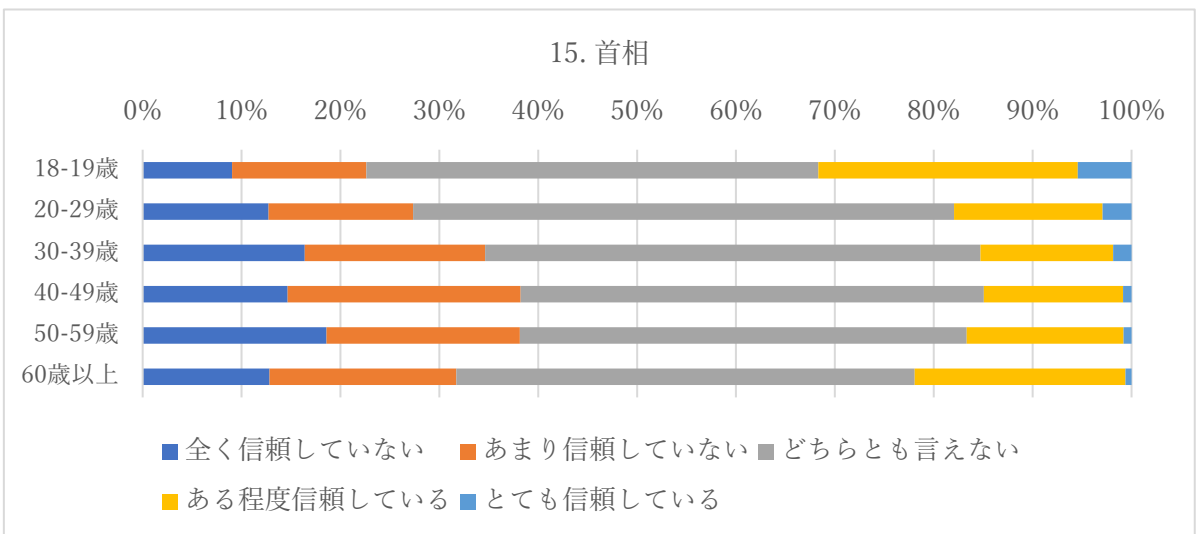
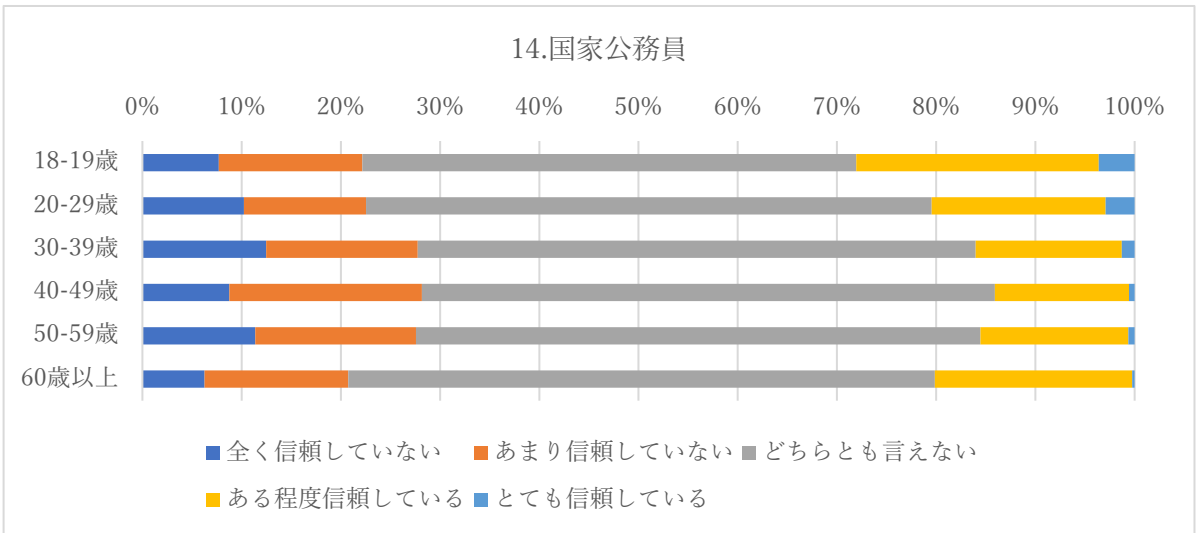
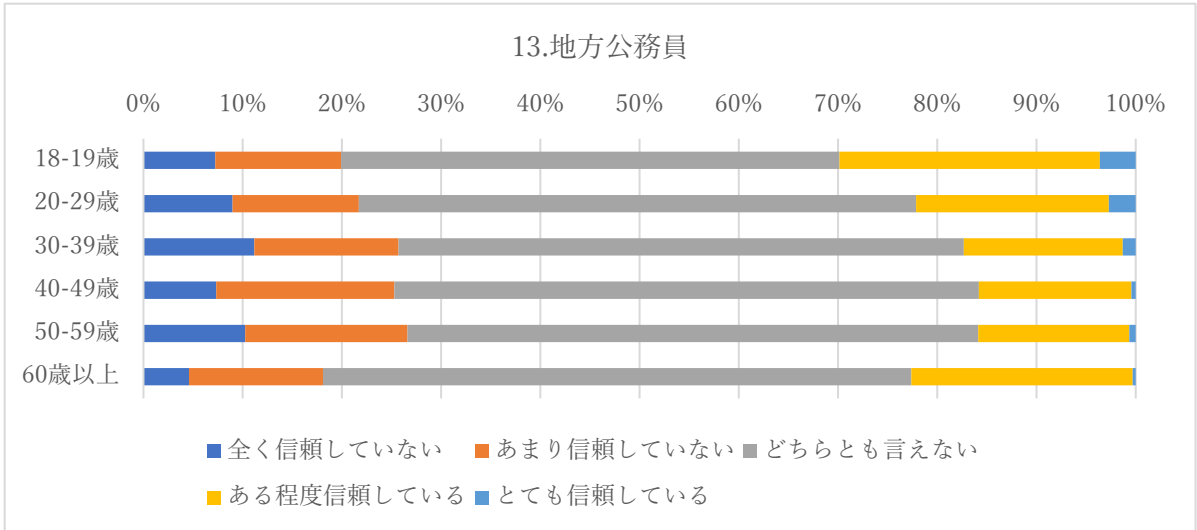
### 8. 従来のメディア（テレビ、ラジオ、新聞）



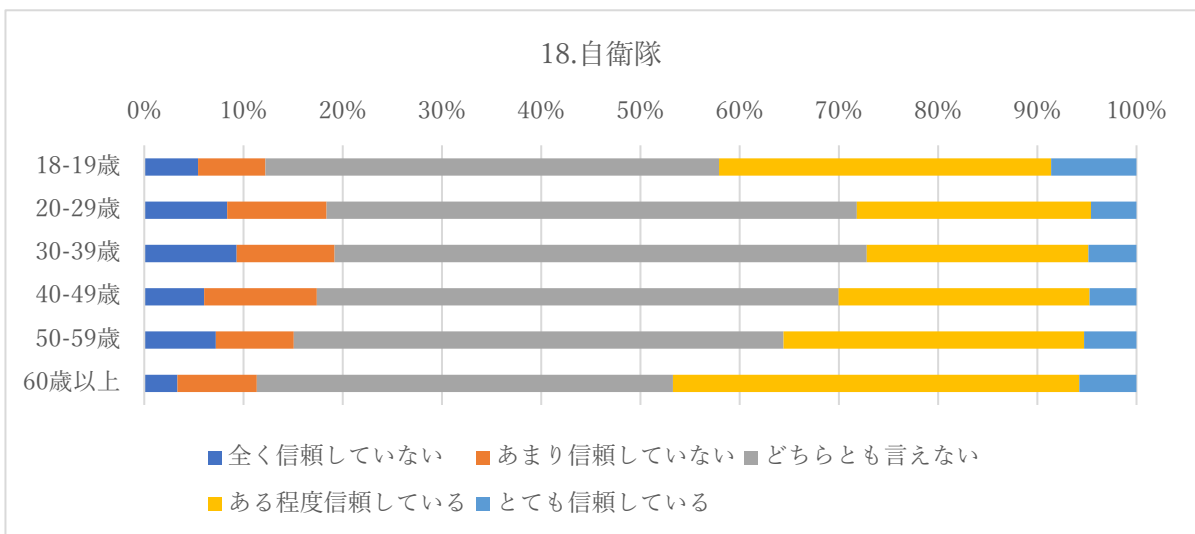
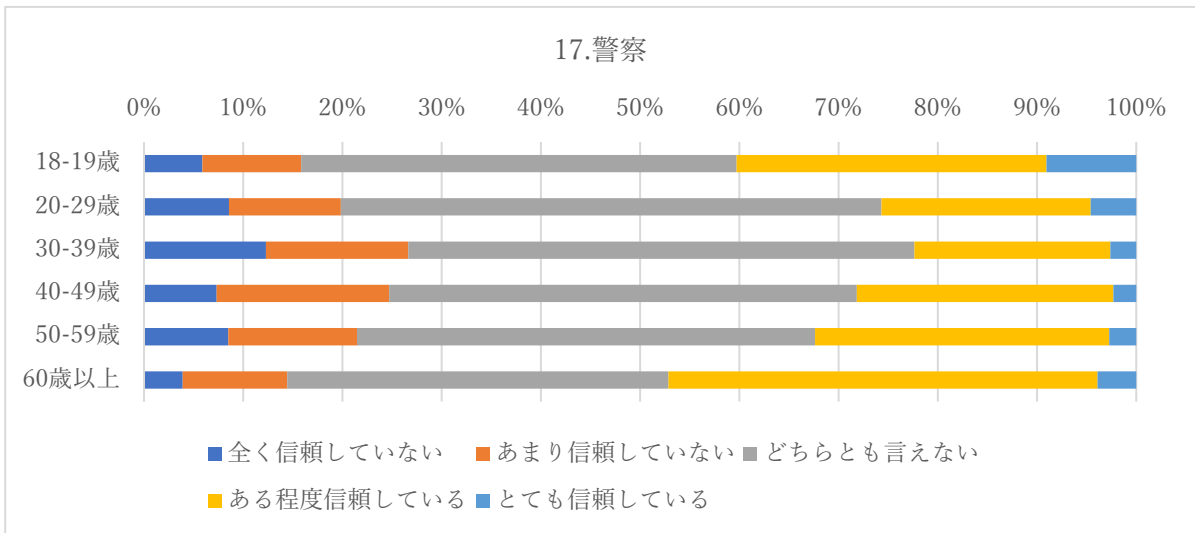
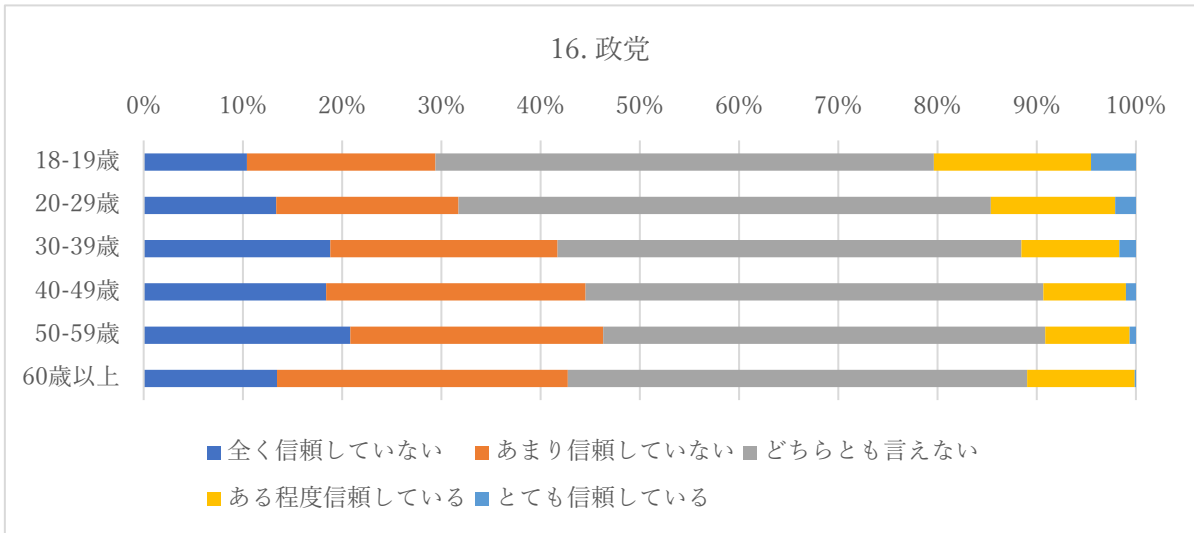
### 9. ソーシャルメディア（SNS、ブログ、Youtubeなど）











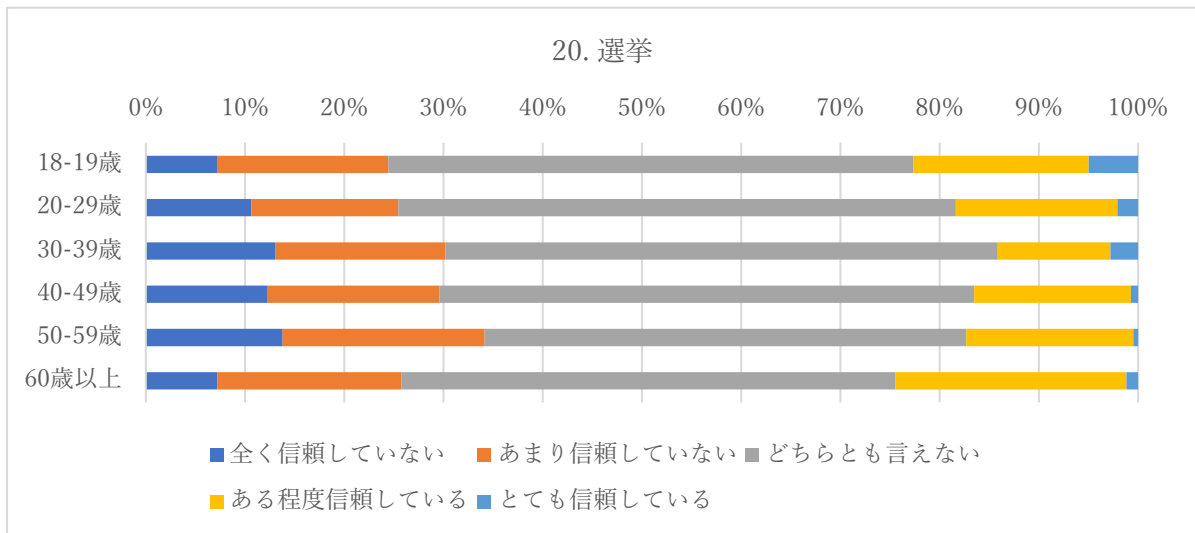
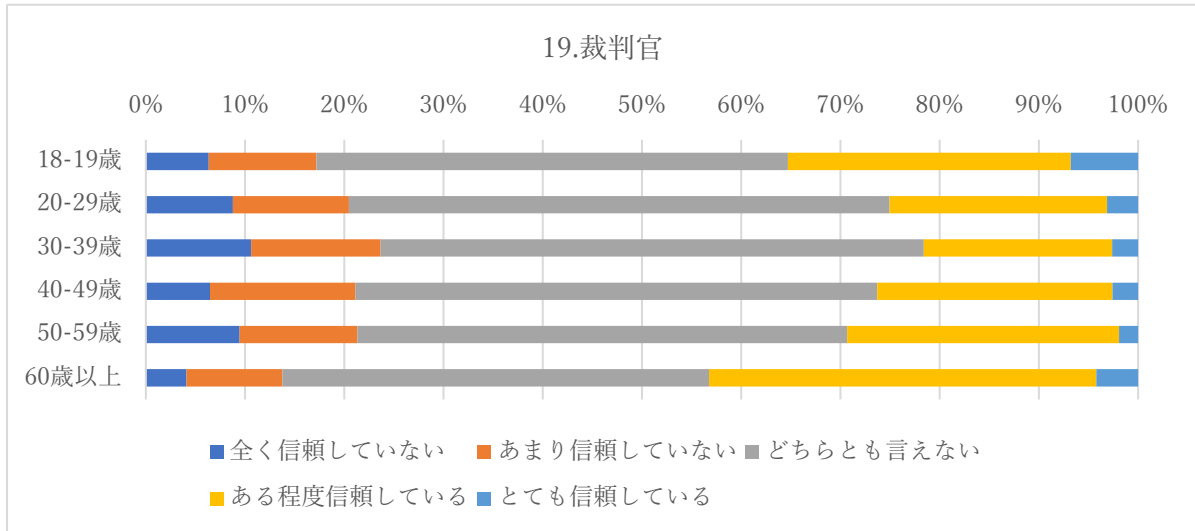
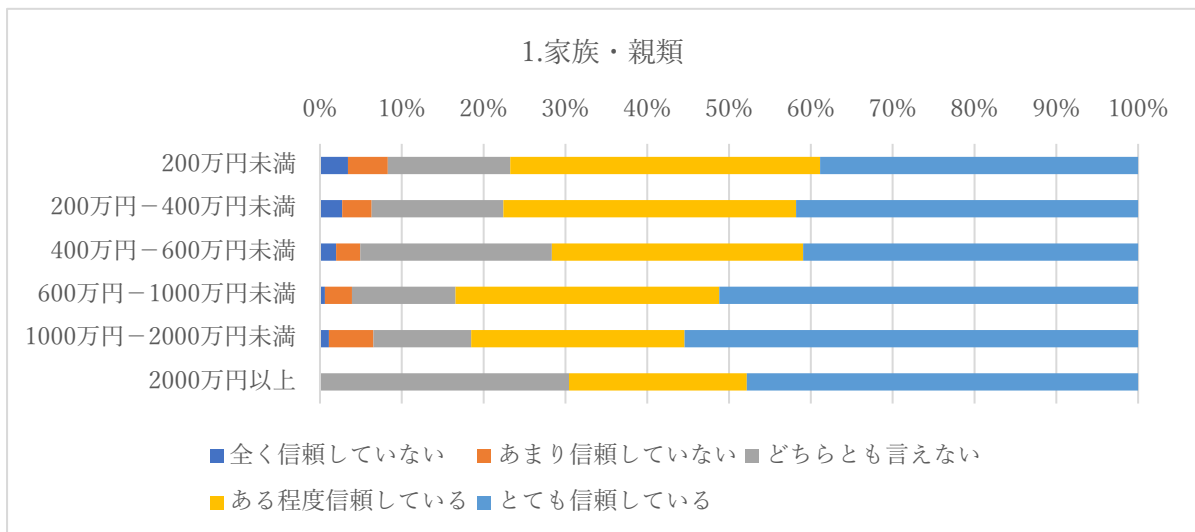
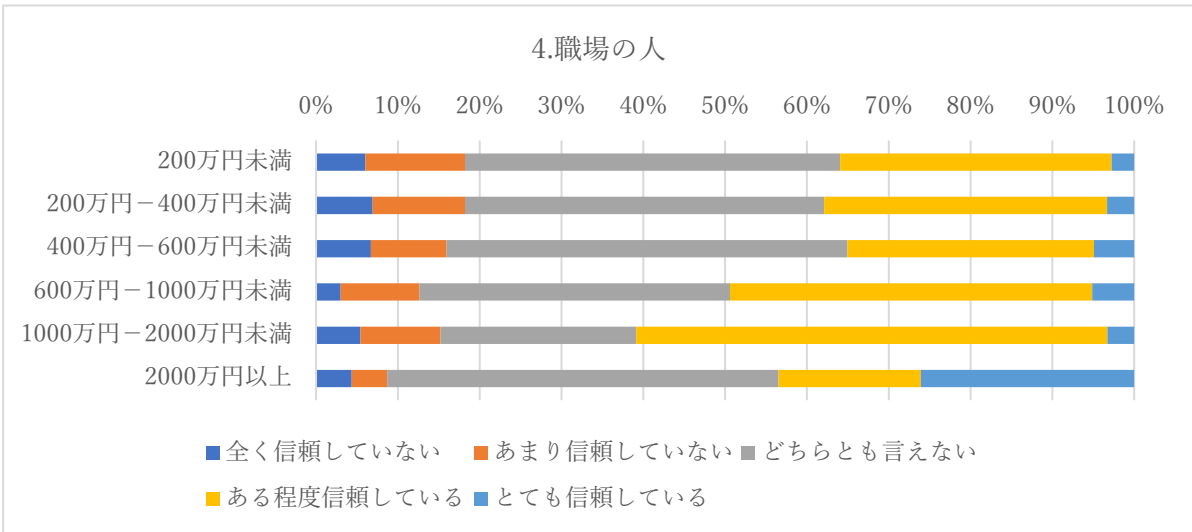
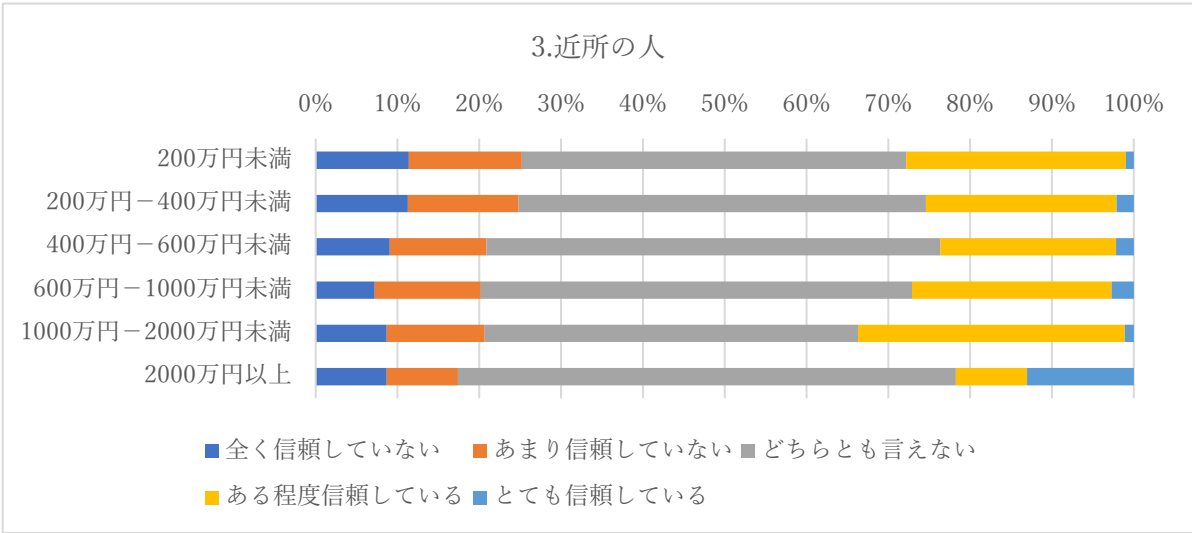
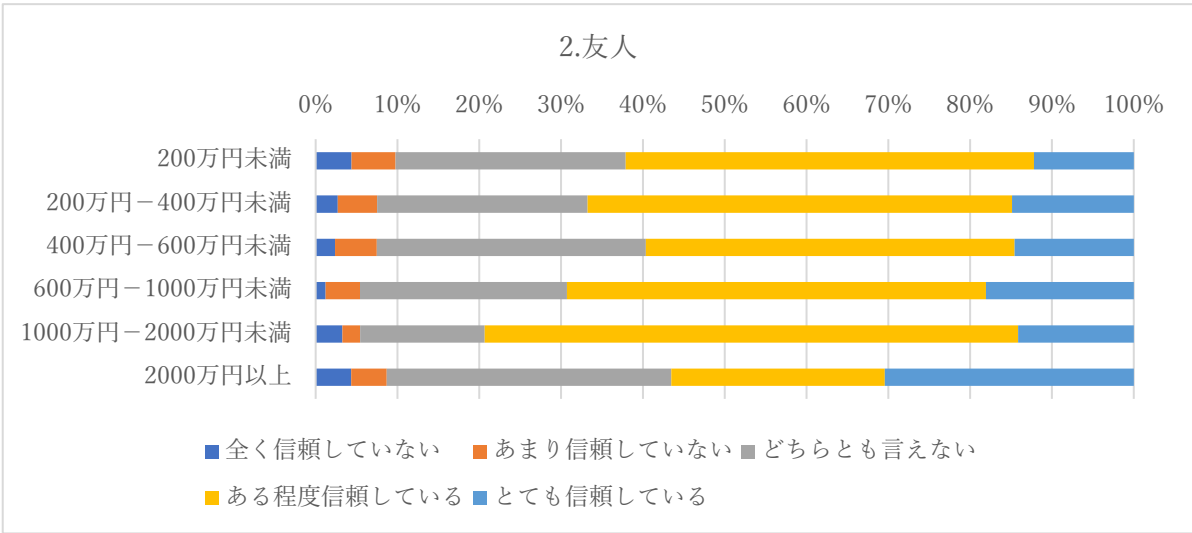
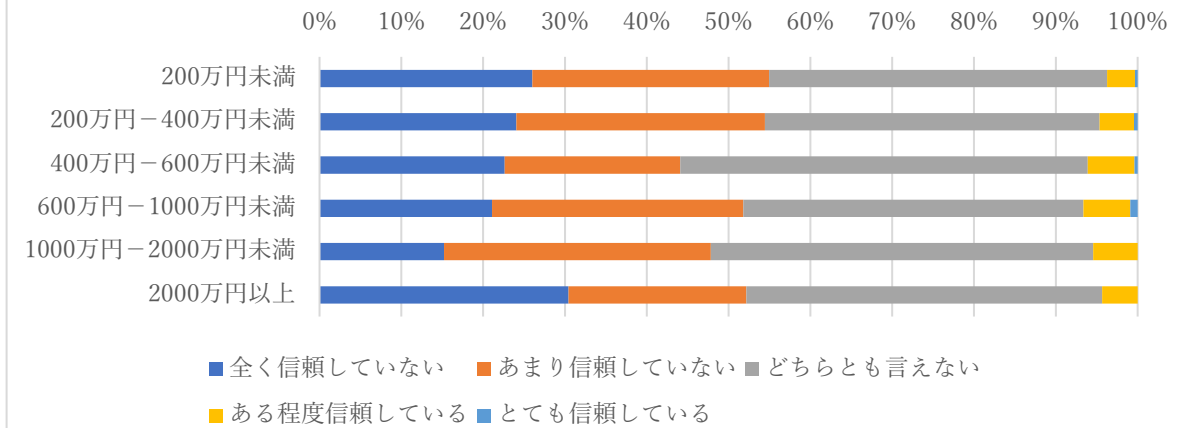


図 16-3. 収入別 (N=2235)

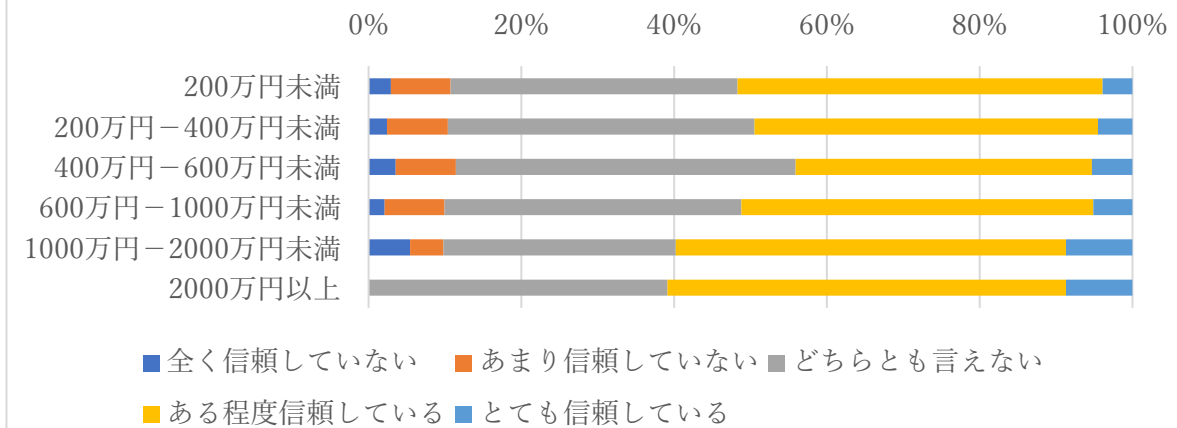




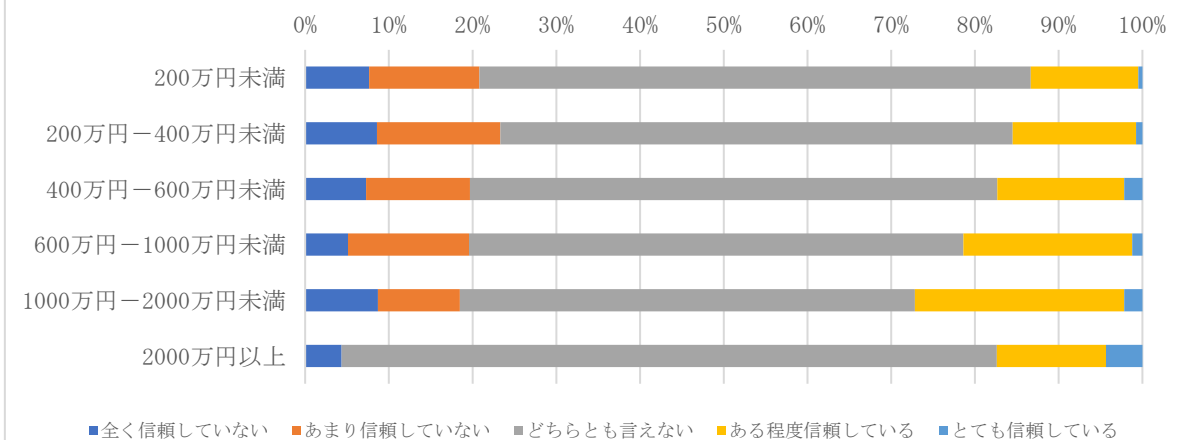
### 5.初対面の人



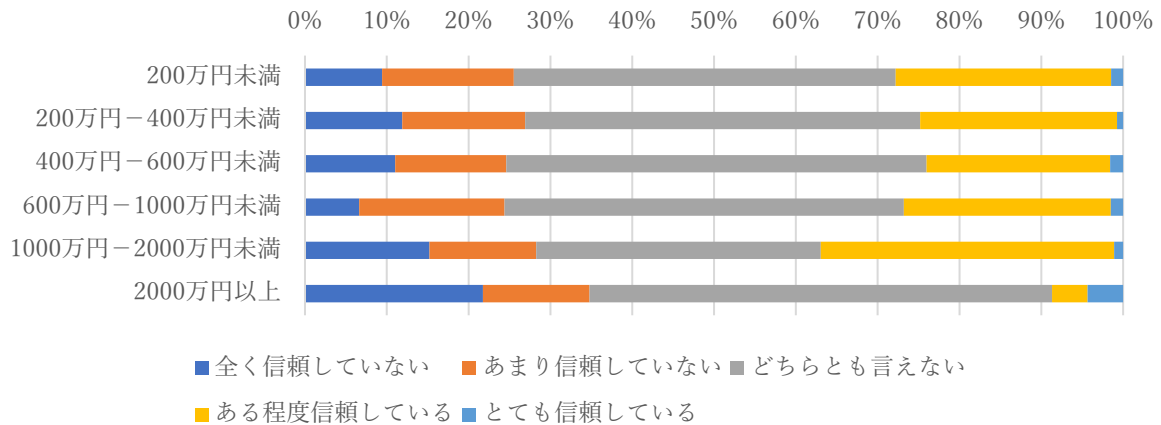
### 6.医者



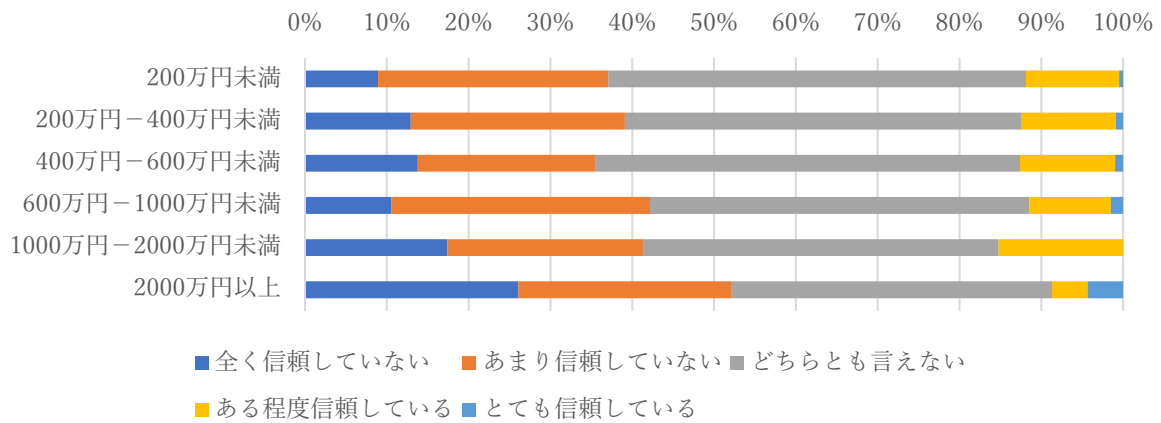
### 7.企業経営者・役員



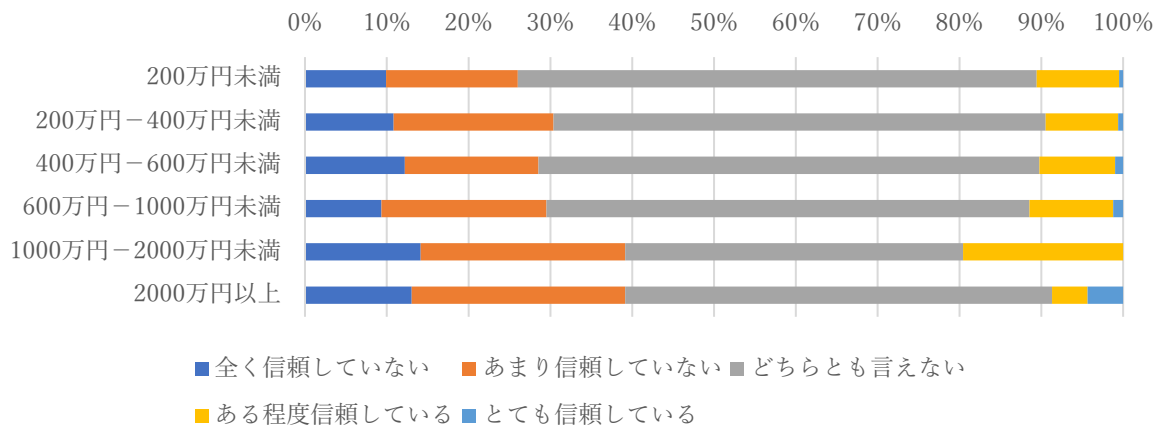
### 8.従来のメディア（テレビ、ラジオ、新聞）



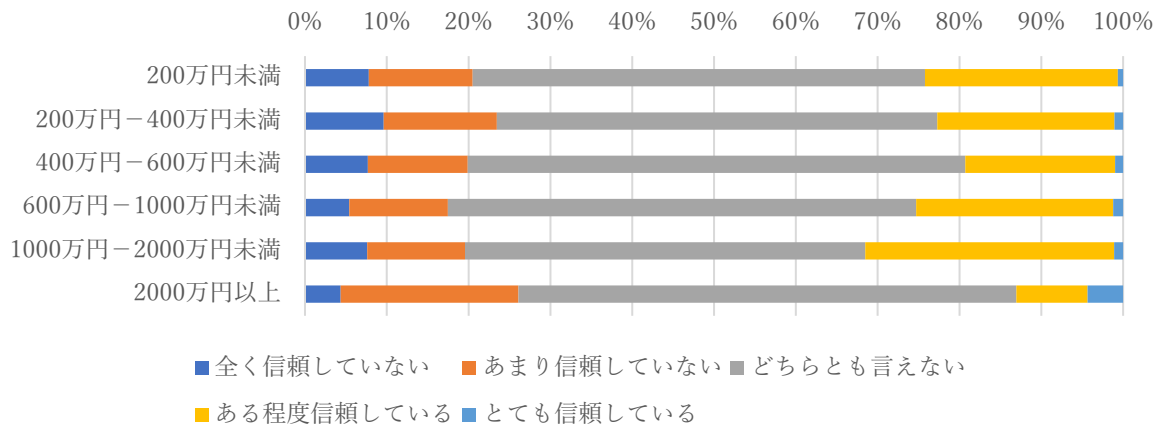
### 9.ソーシャルメディア（SNS、ブログ、YouTubeなど）



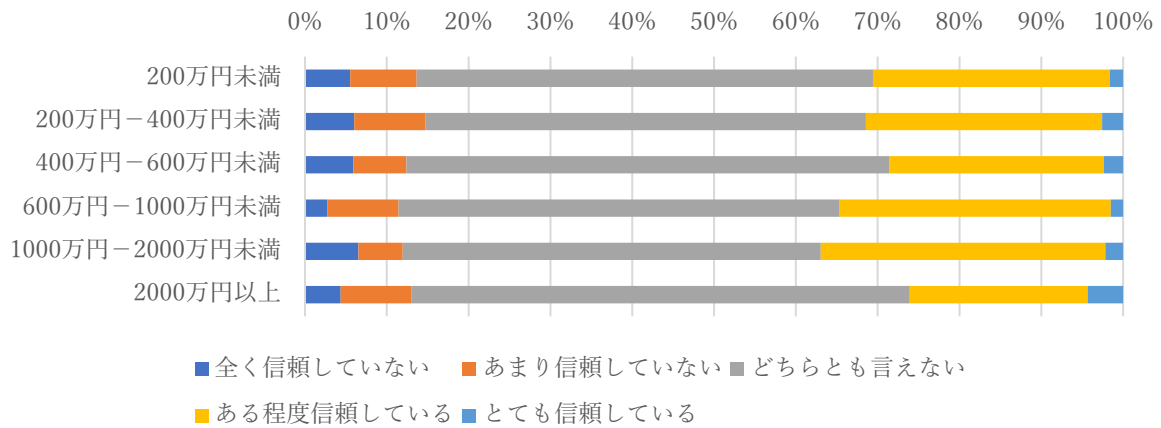
### 10.NGO/NPOリーダー



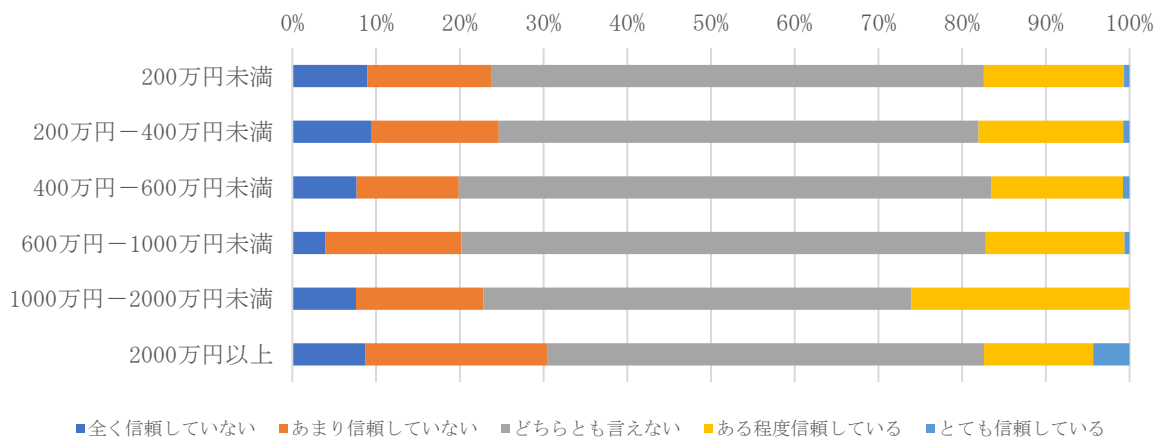
### 11. 教員



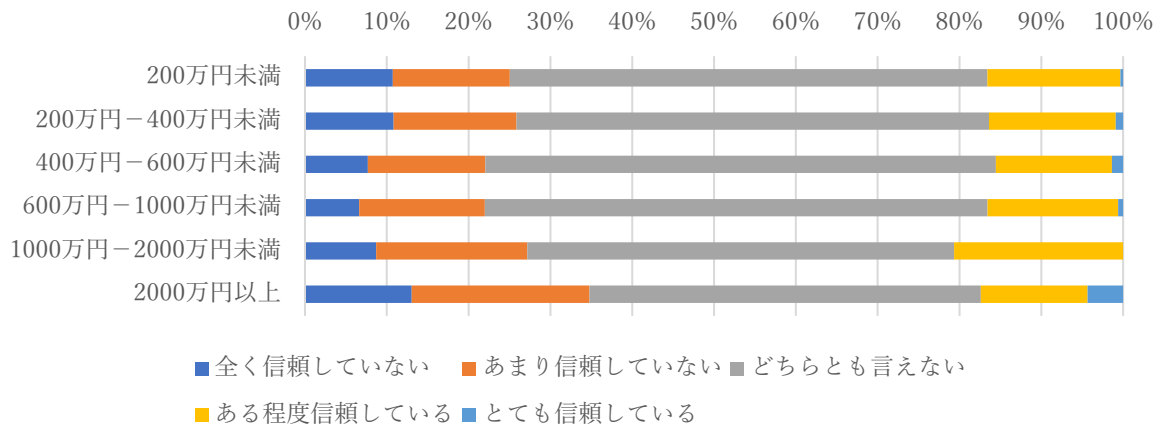
### 12. 科学者



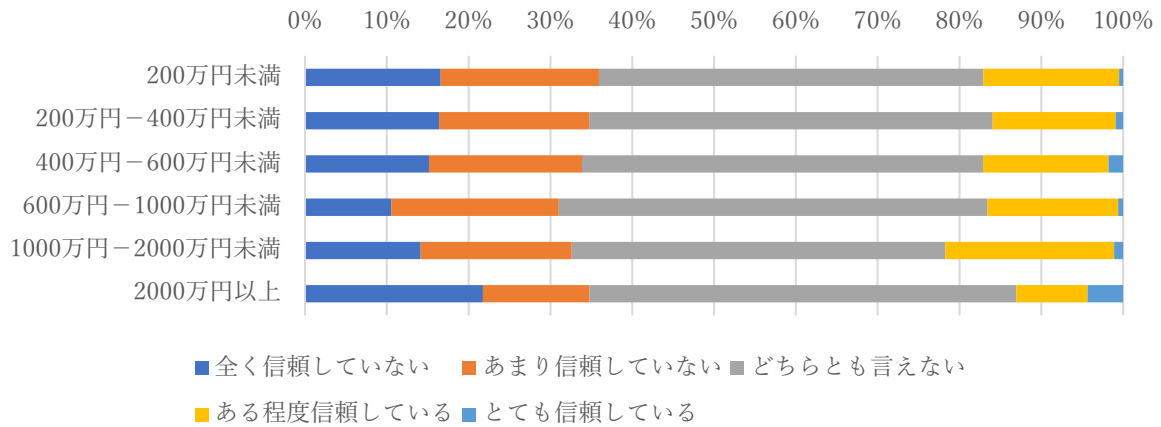
### 13. 地方公務員



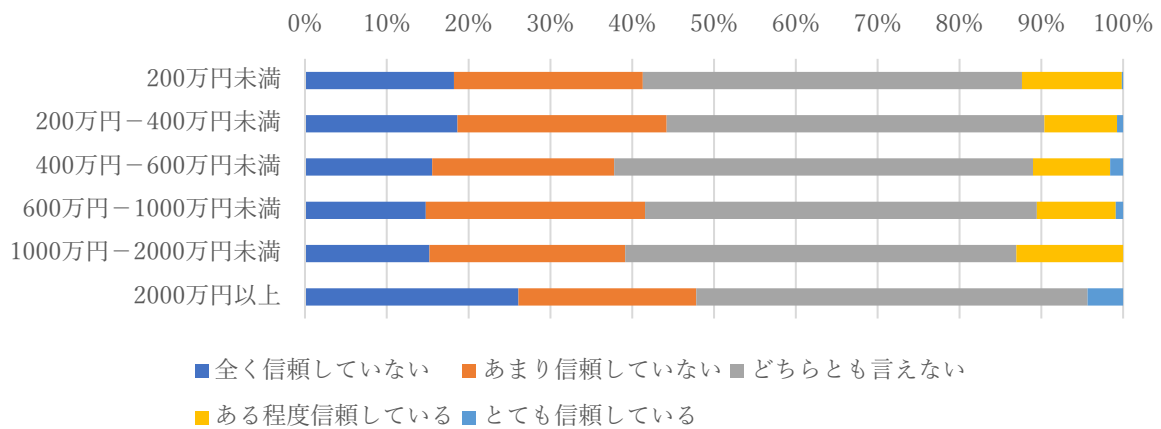
### 14.国家公務員



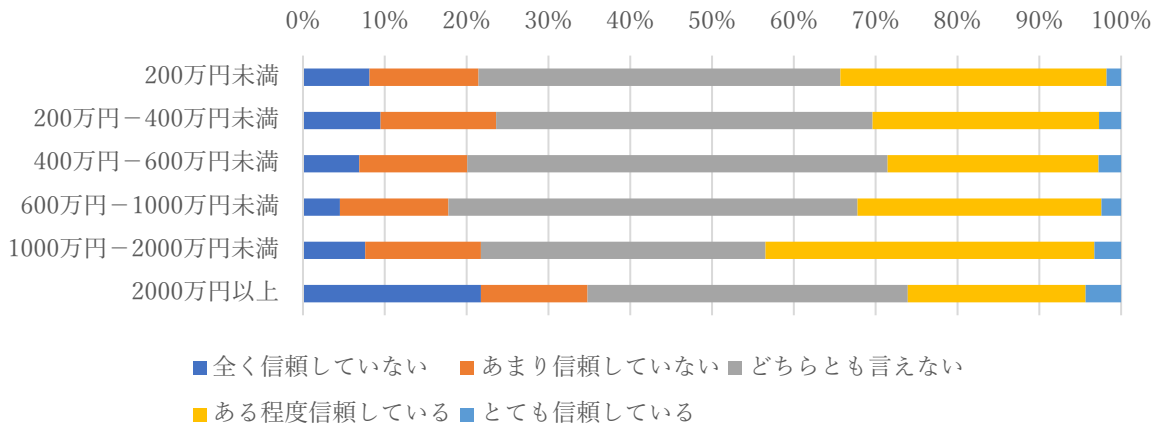
### 15.首相



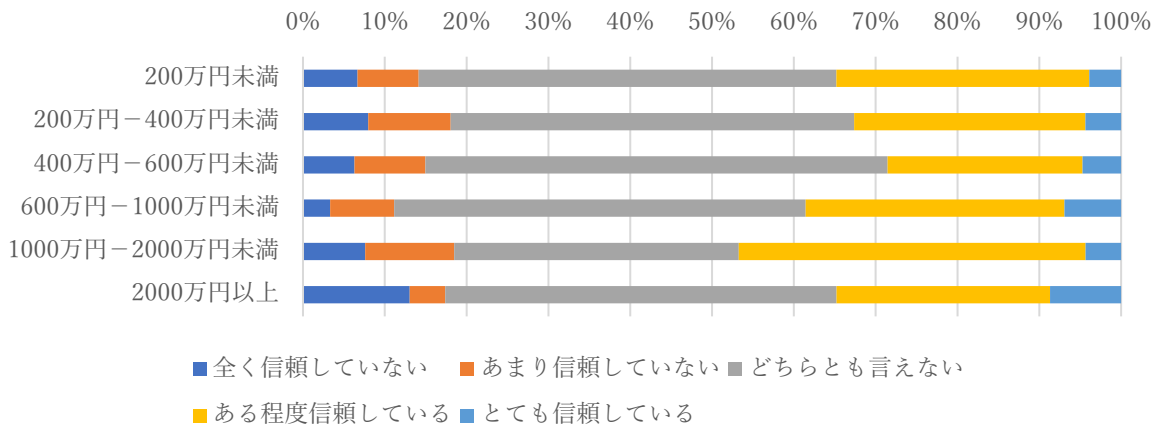
### 16.政党



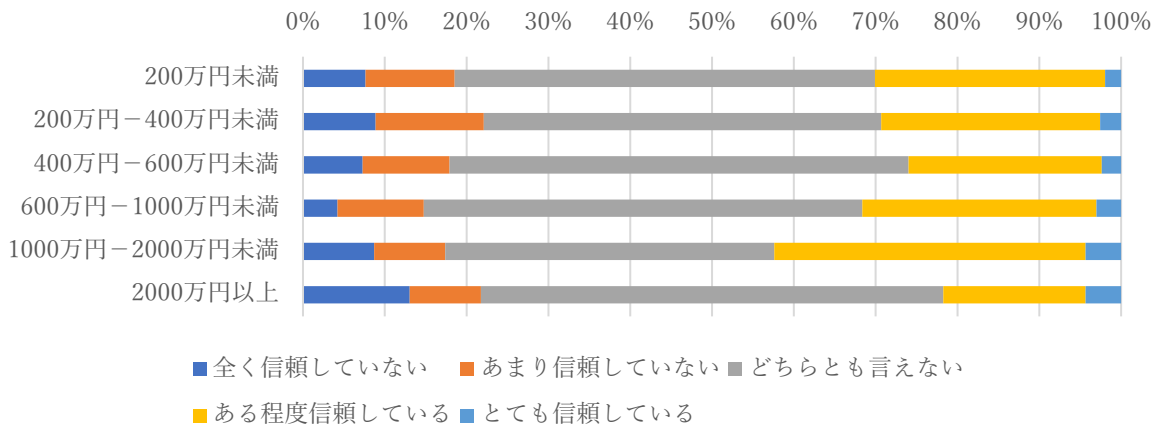
### 17.警察



### 18.自衛隊



### 19.裁判官





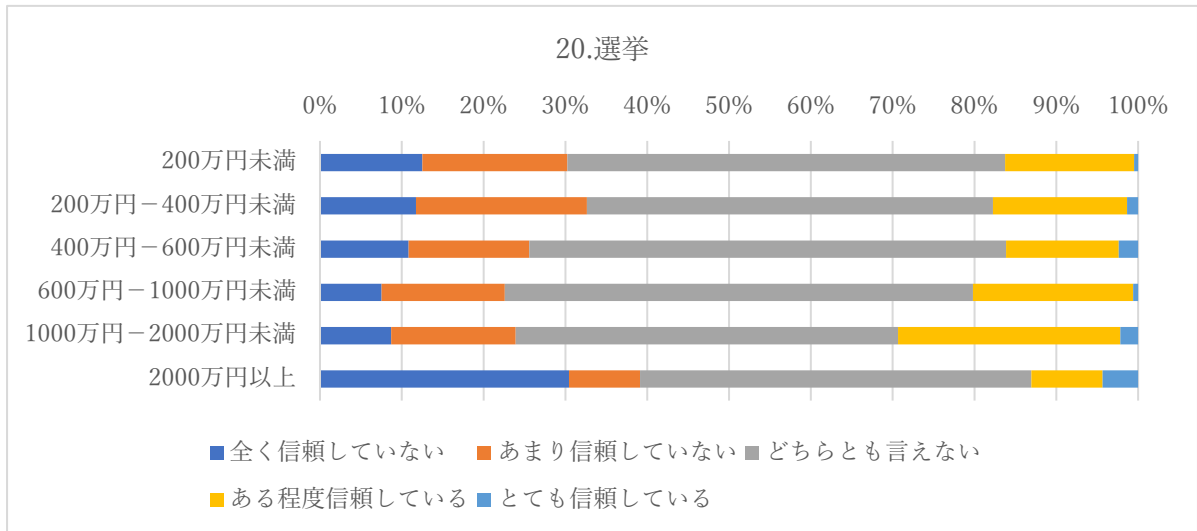
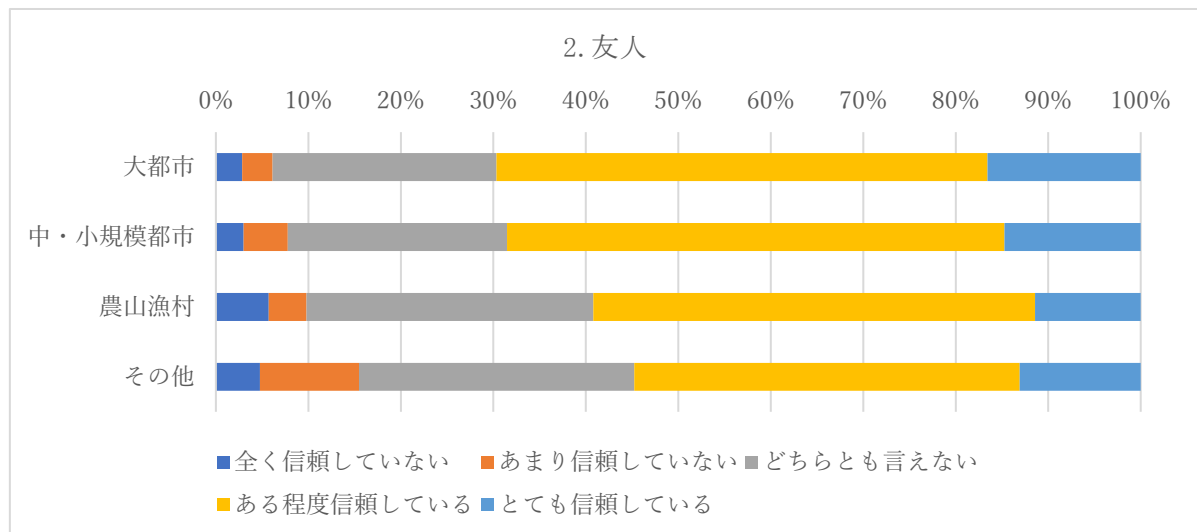
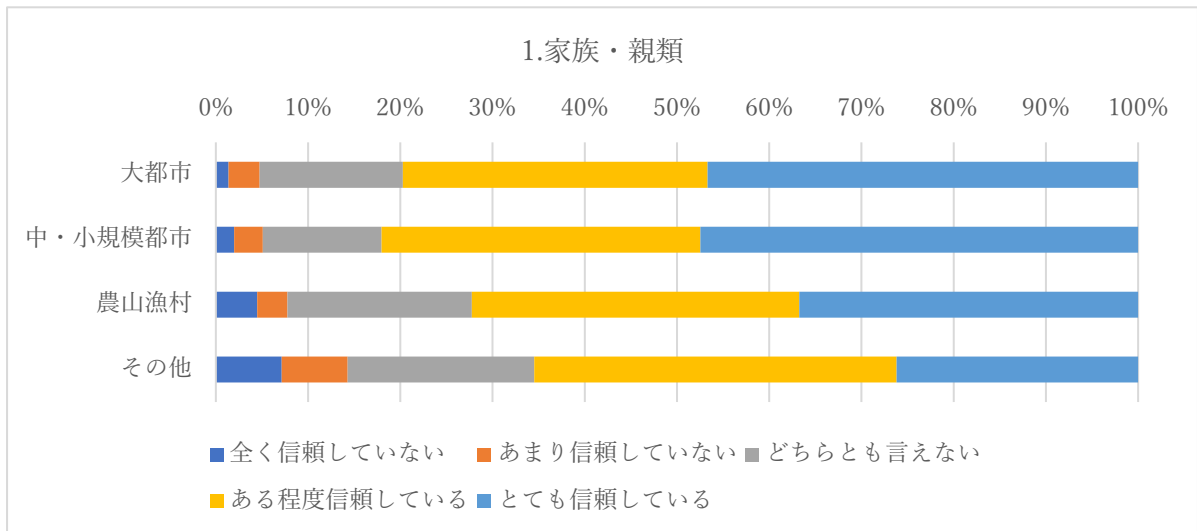
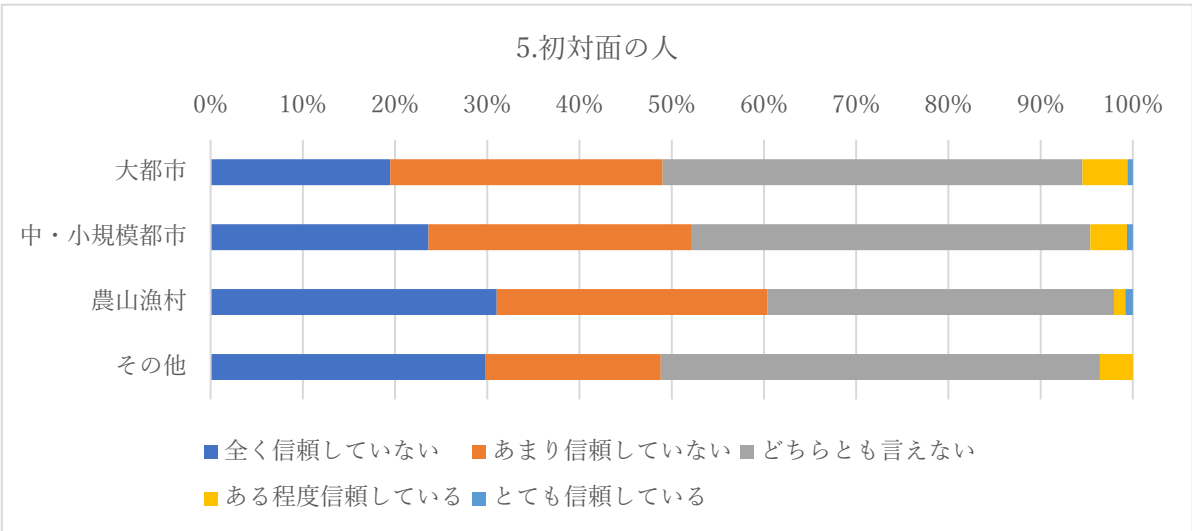
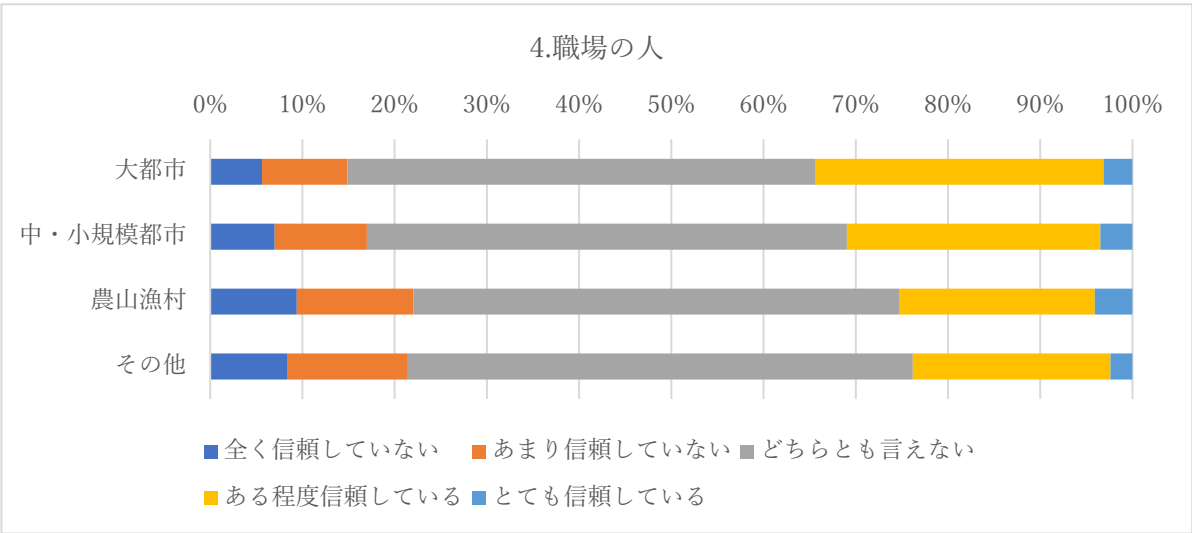
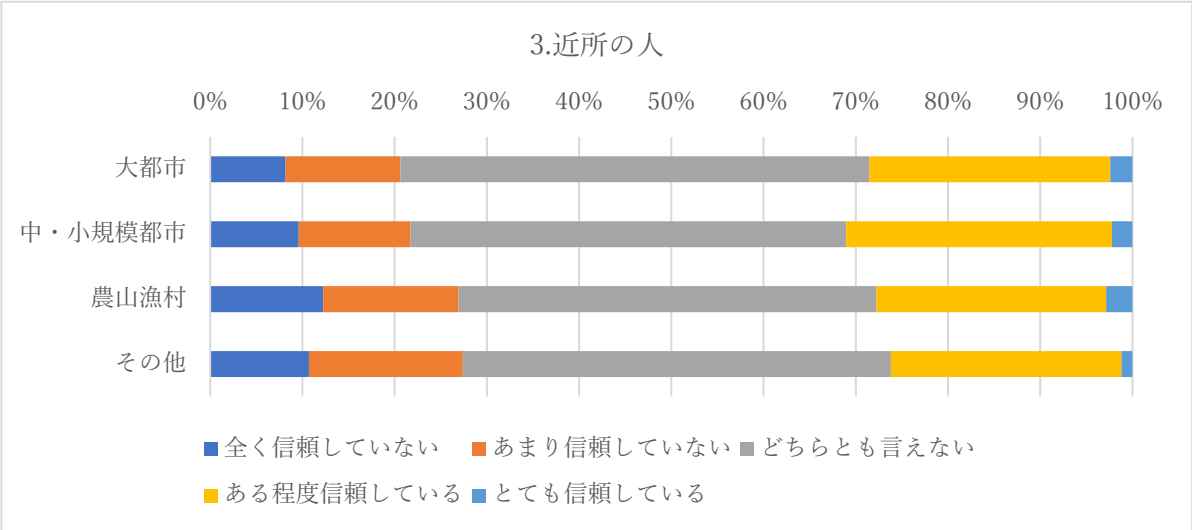
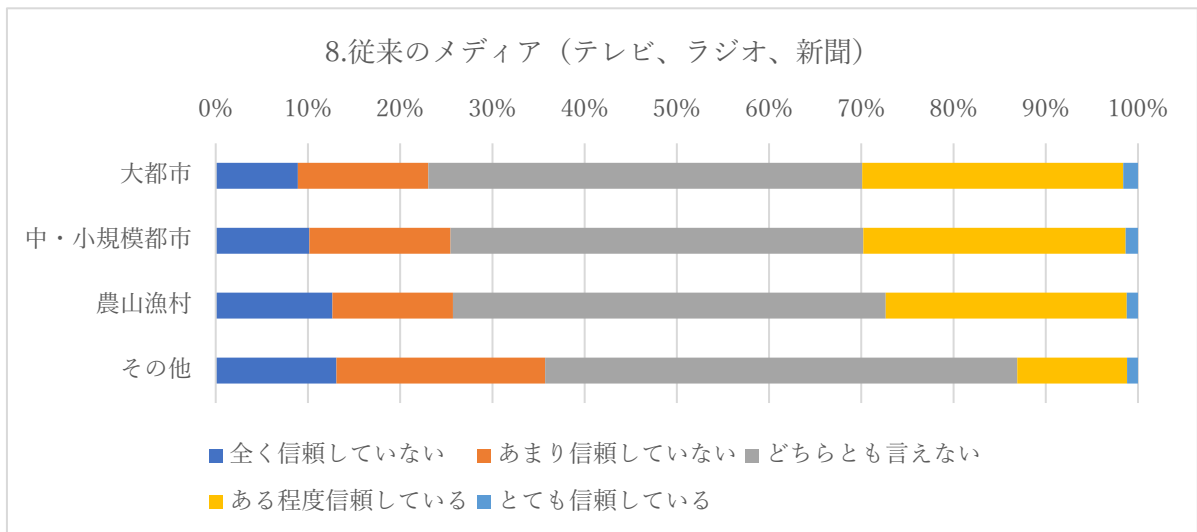
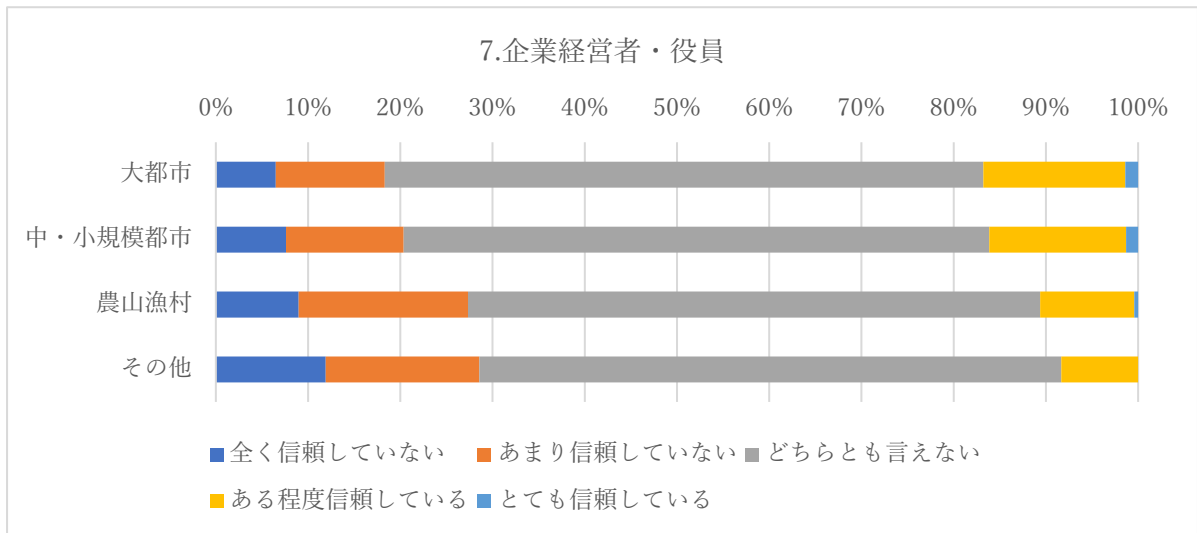
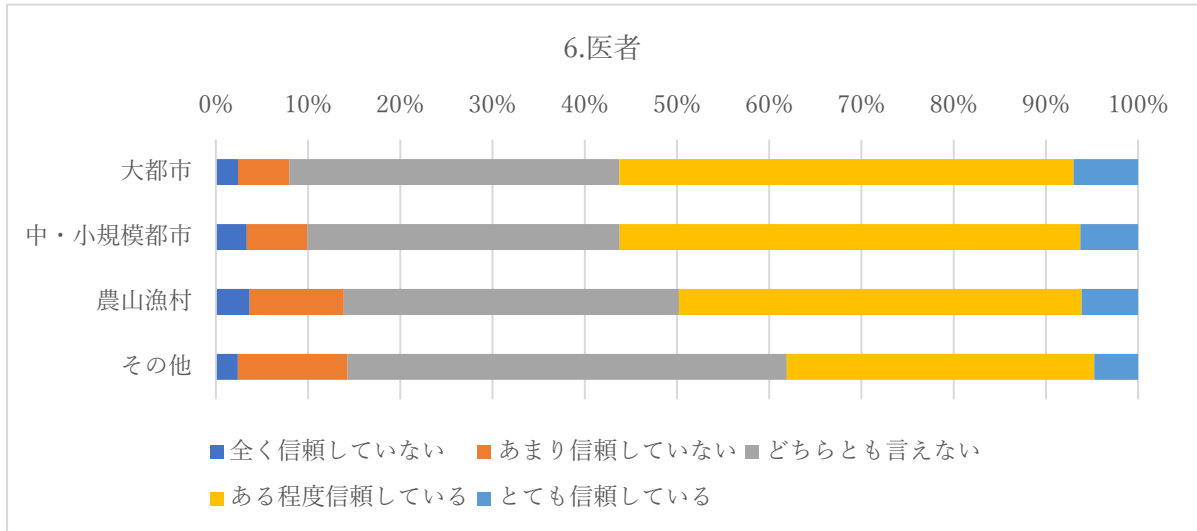


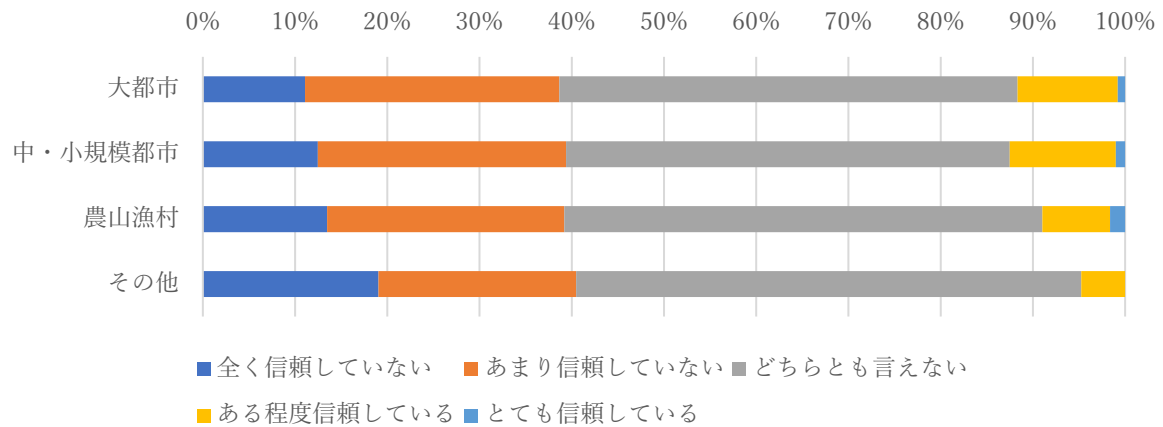
図 16-4. 居住地域別 (N=4171)



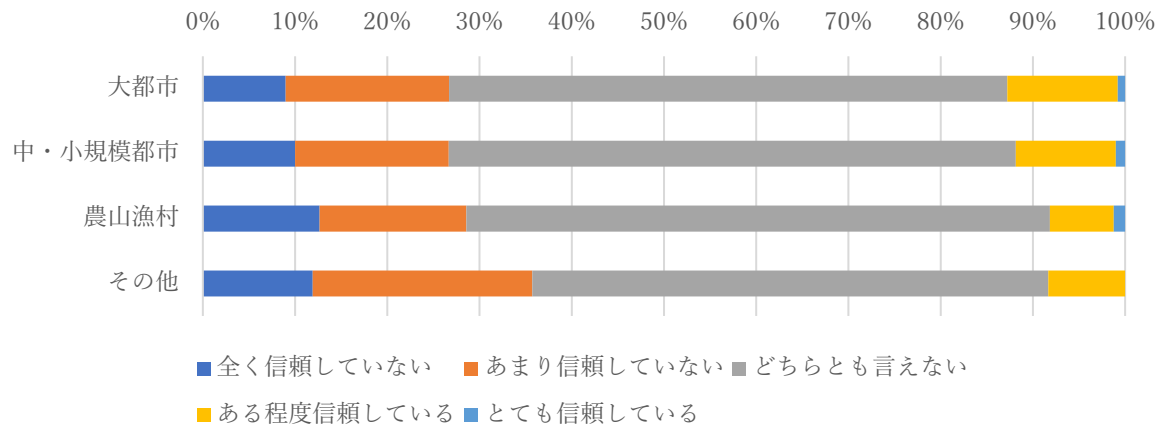




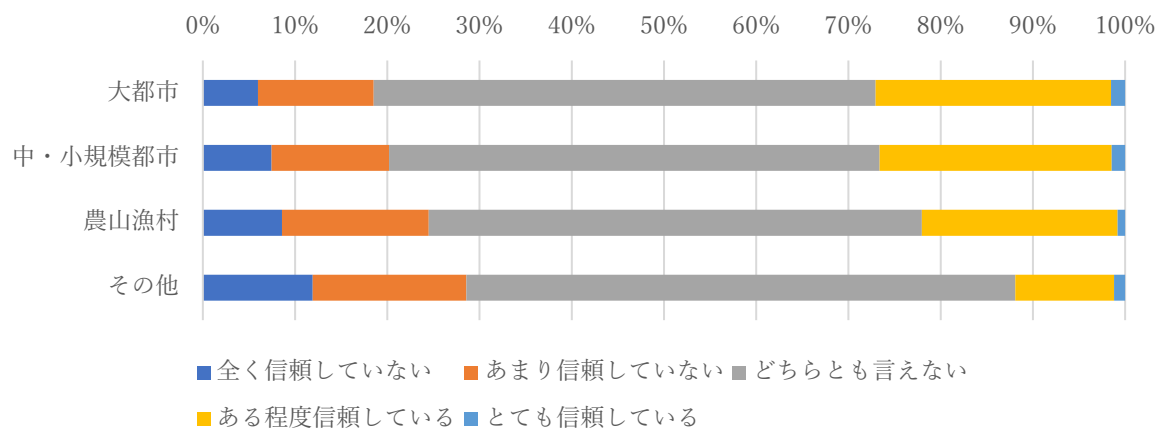
### 9.ソーシャルメディア（SNS、ブログ、YouTube）

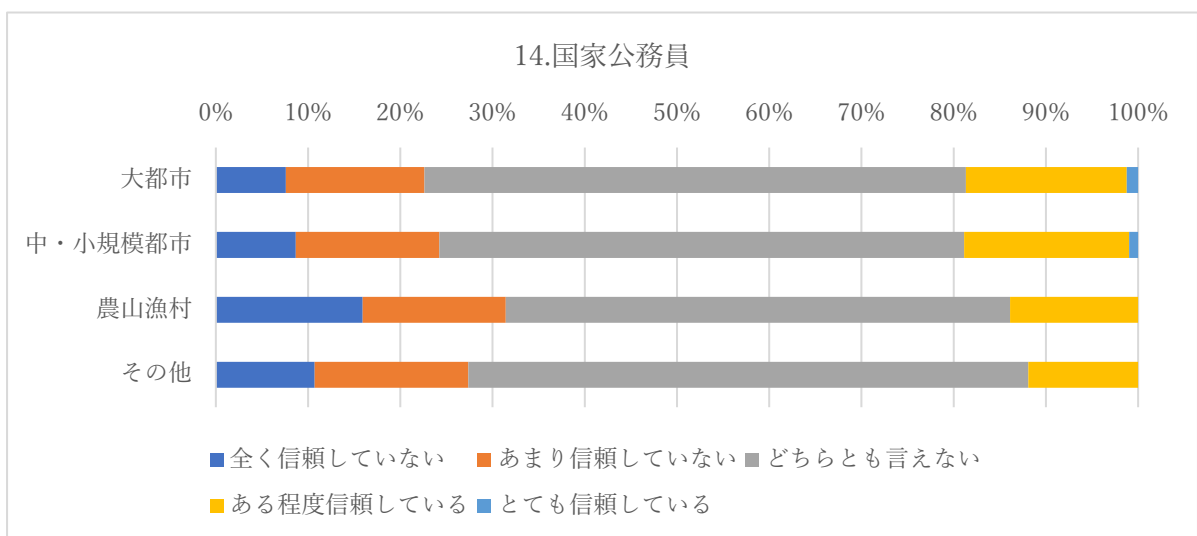
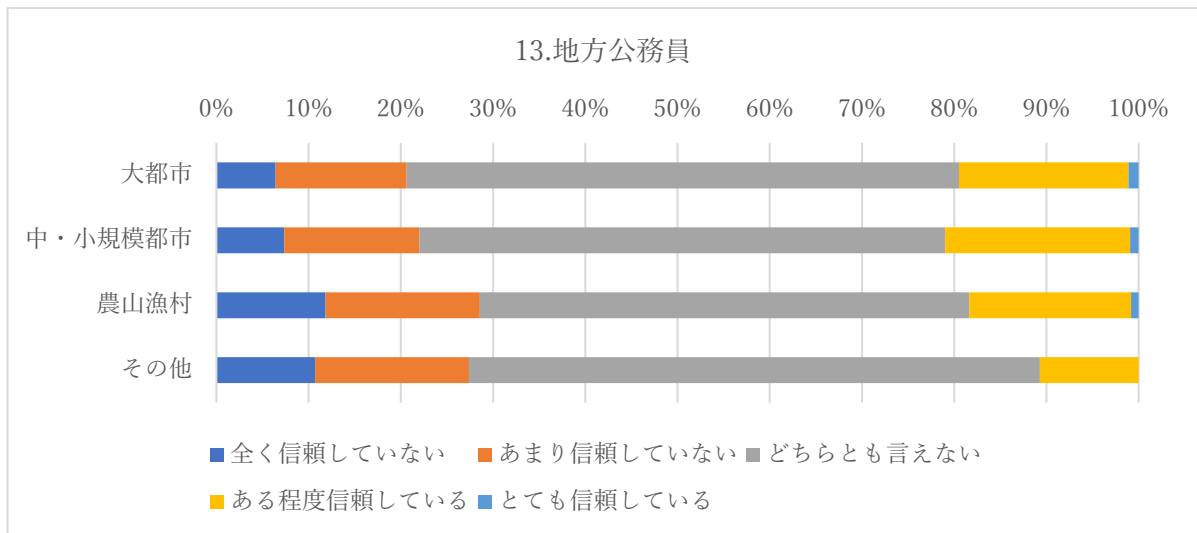
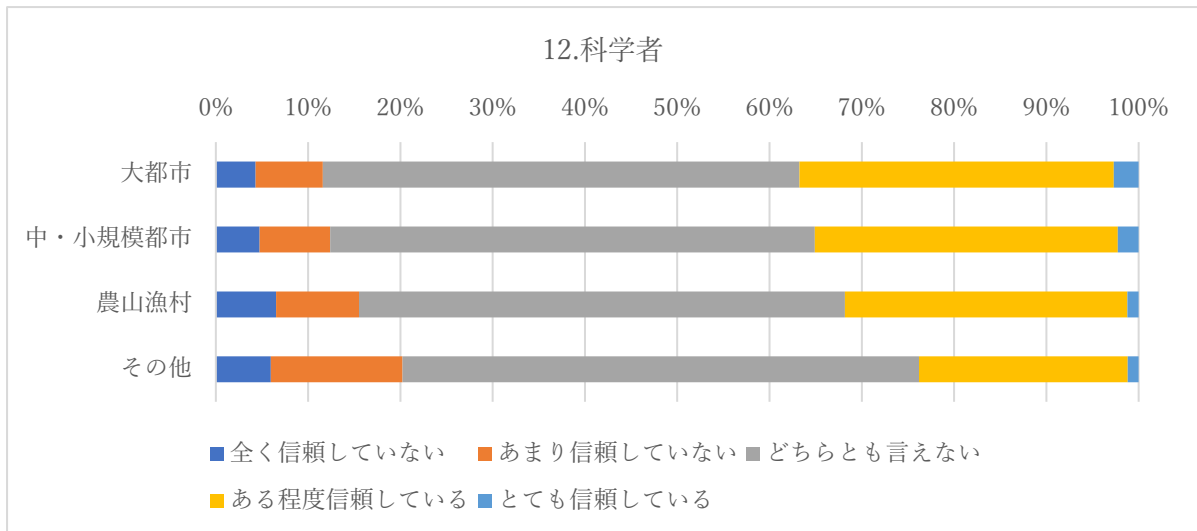


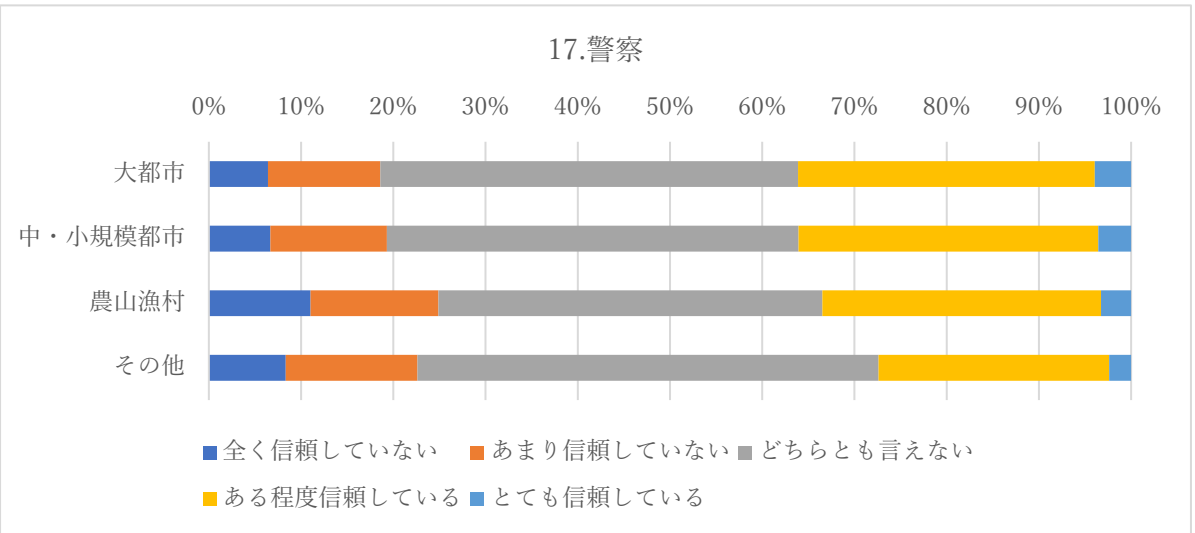
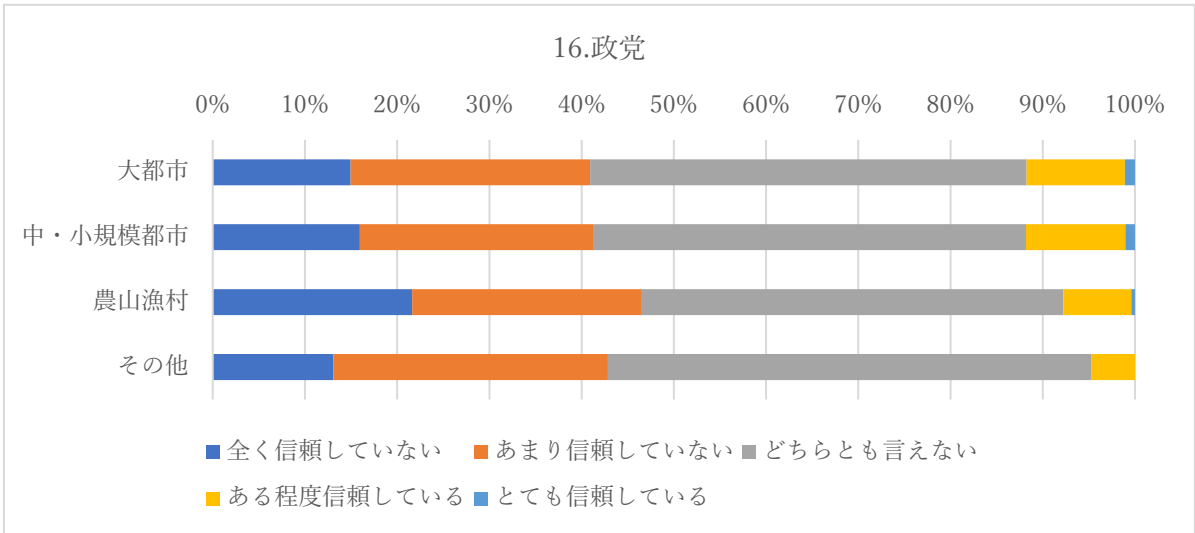
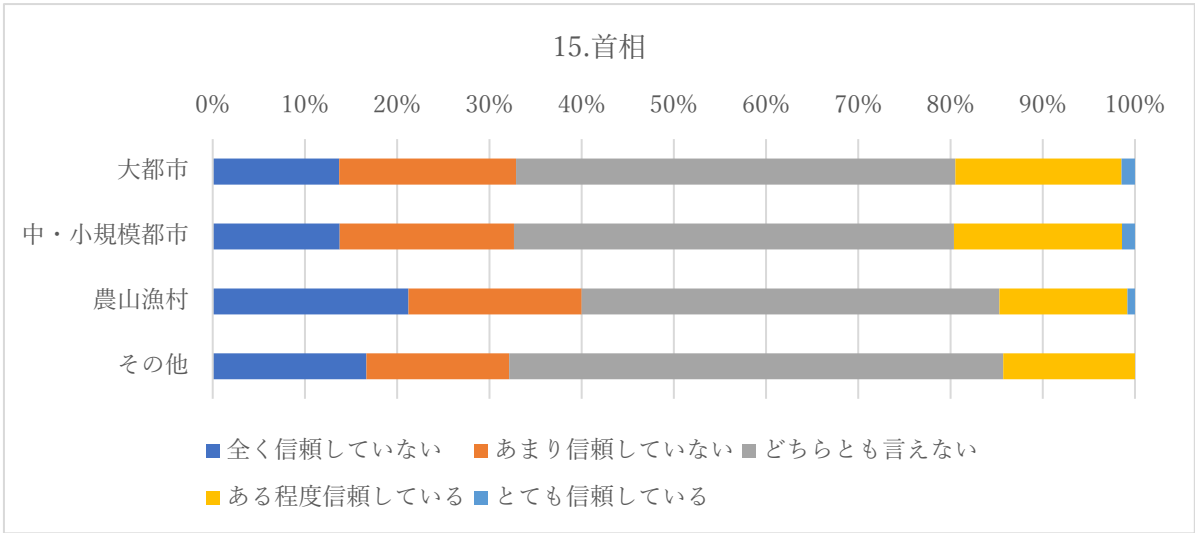
### 10.NGO/NPOリーダー

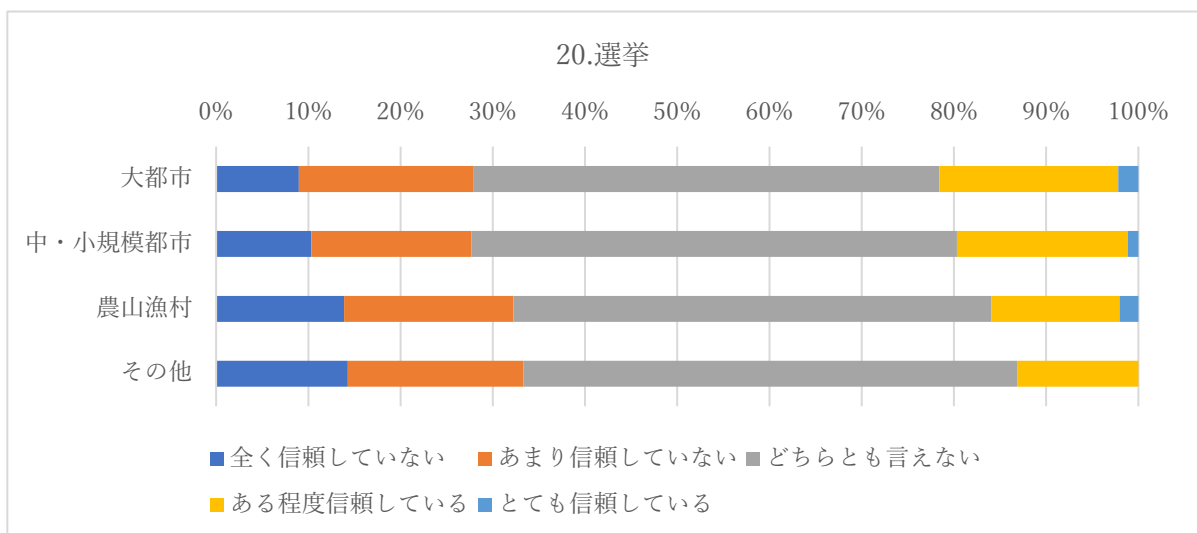
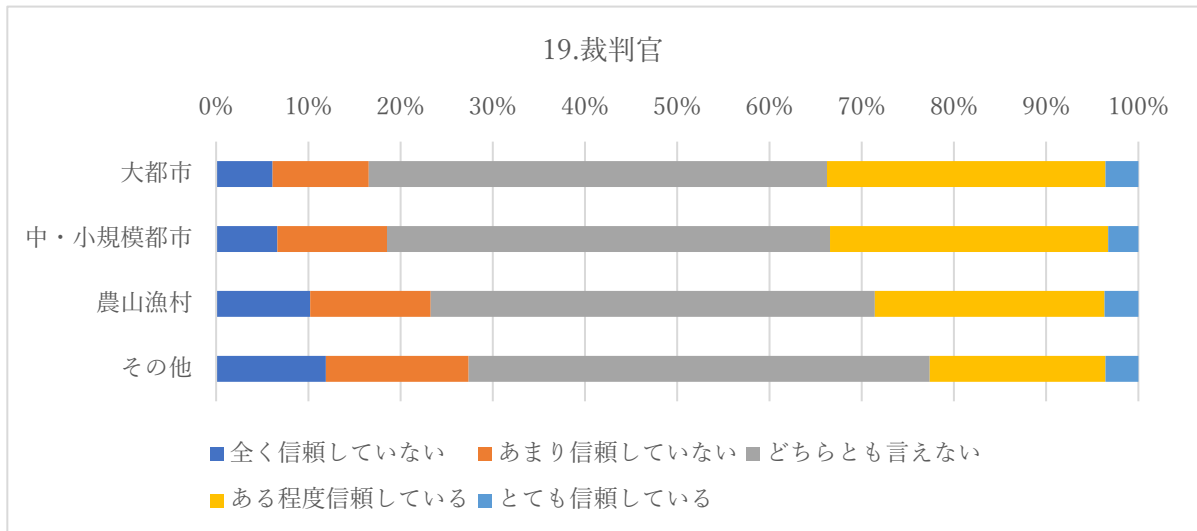
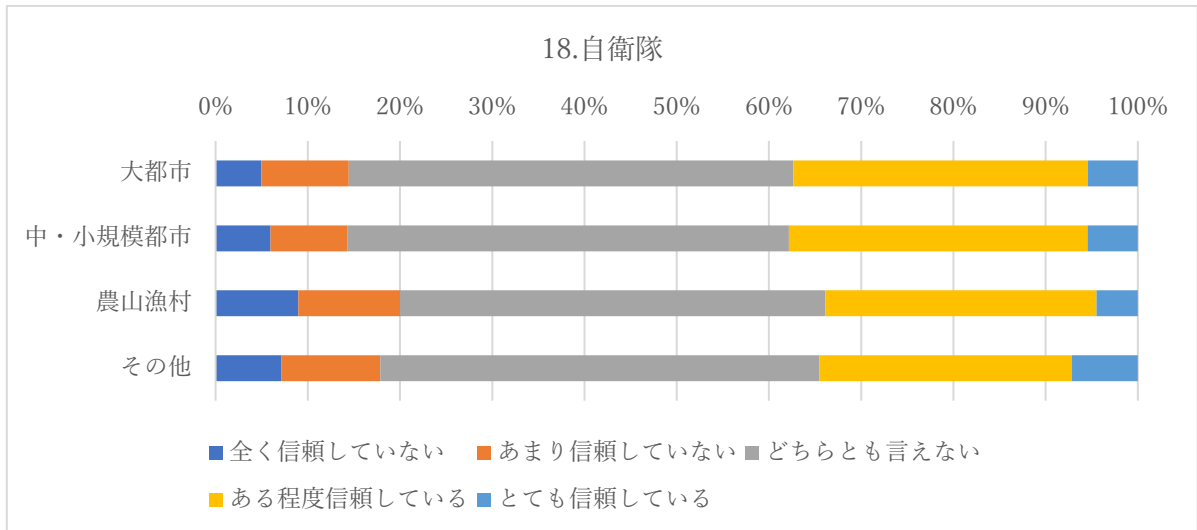


### 11.教員









Q17. あなたは人間の本性についてどう思いますか。1～7の数字を選んでください。

全体	実数	%	男性	%	女性	%
	4171	100.0	2021	100	2150	100.0
1	225	5.4	140	6.9	99	4.0
2	259	6.2	160	7.9	200	4.6
3	452	10.8	252	12.5	854	9.3
4	1571	37.7	717	35.5	537	39.7
5	995	23.9	458	22.7	284	25.0
6	504	12.1	220	10.9	91	13.2
7	165	4.0	74	3.7	85	4.2

図 17-0. 総計 (N=4171)

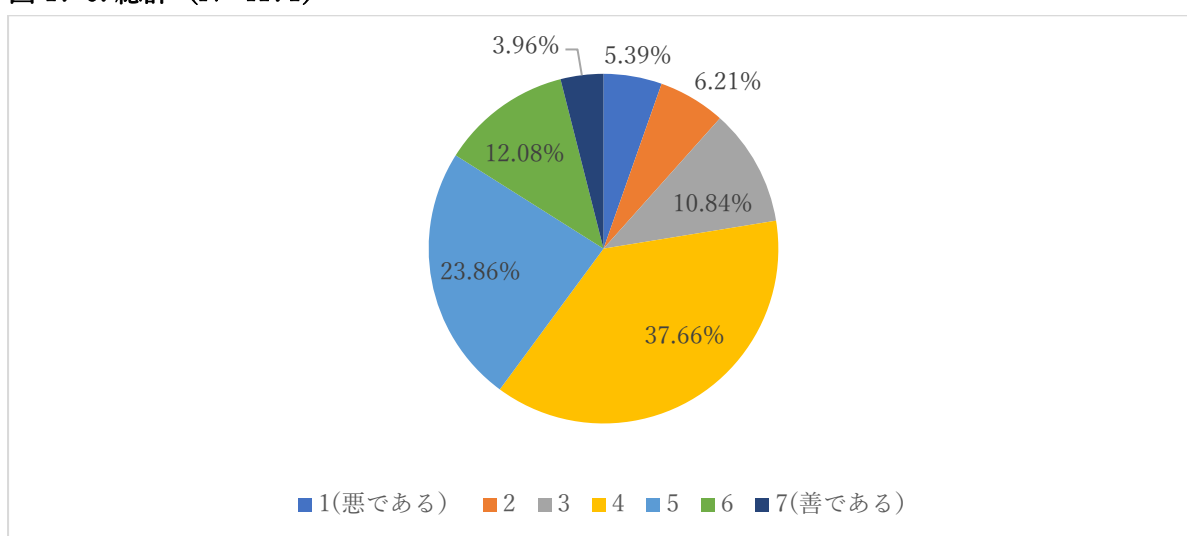


図 17-1. 男女別 (N=4171)

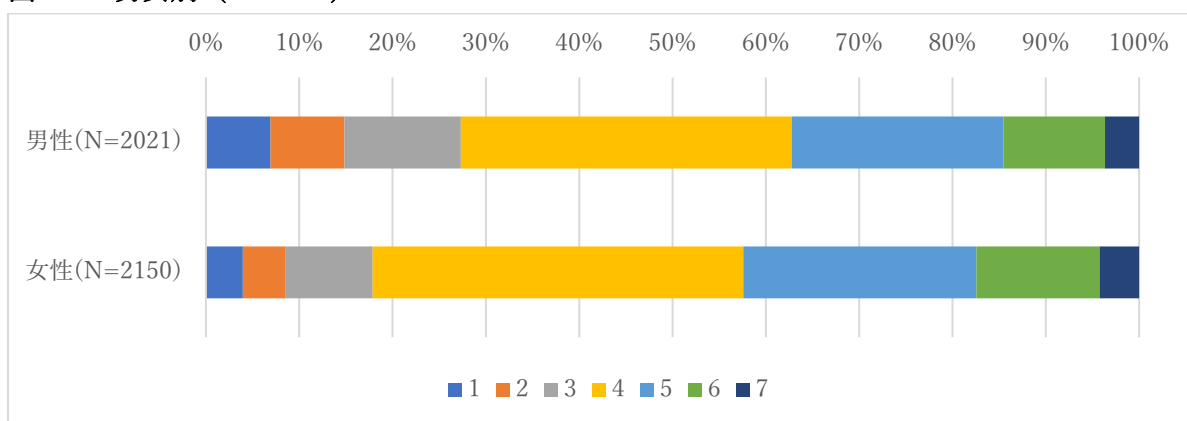




図 17-2. 年齢別 (N=4171)

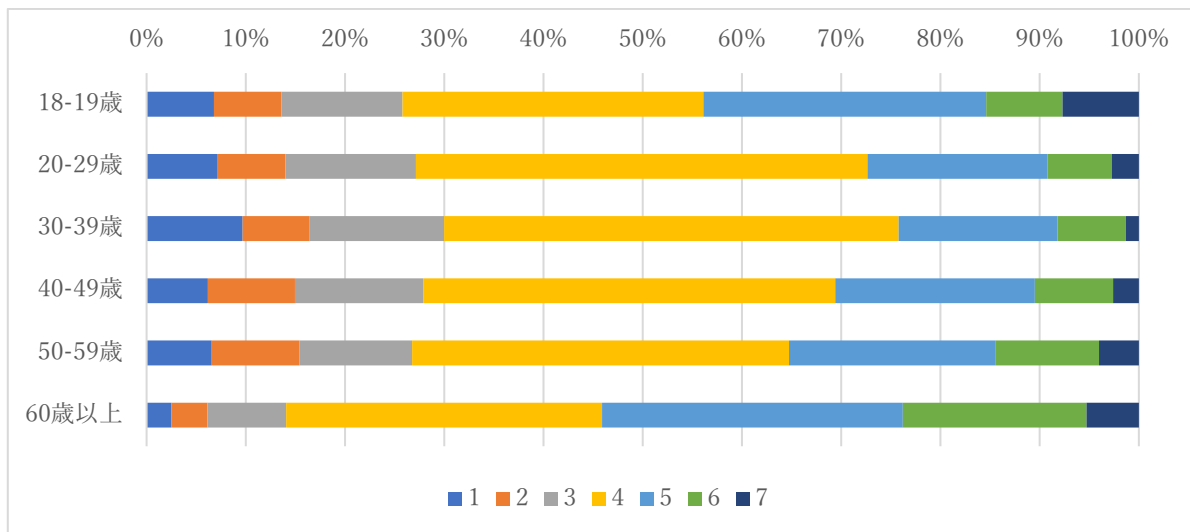


図 17-3. 収入別 (N=2235)

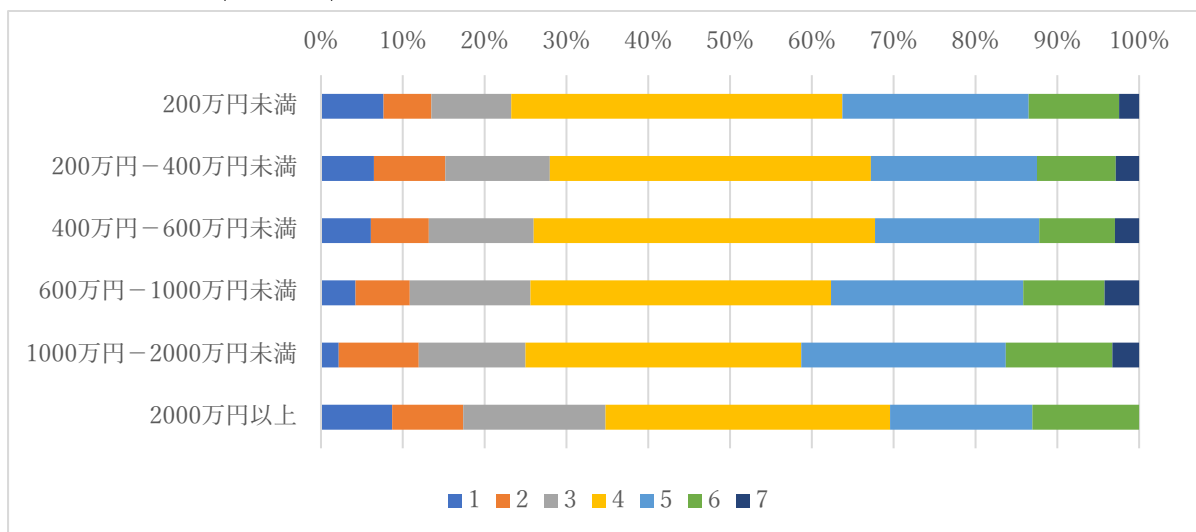
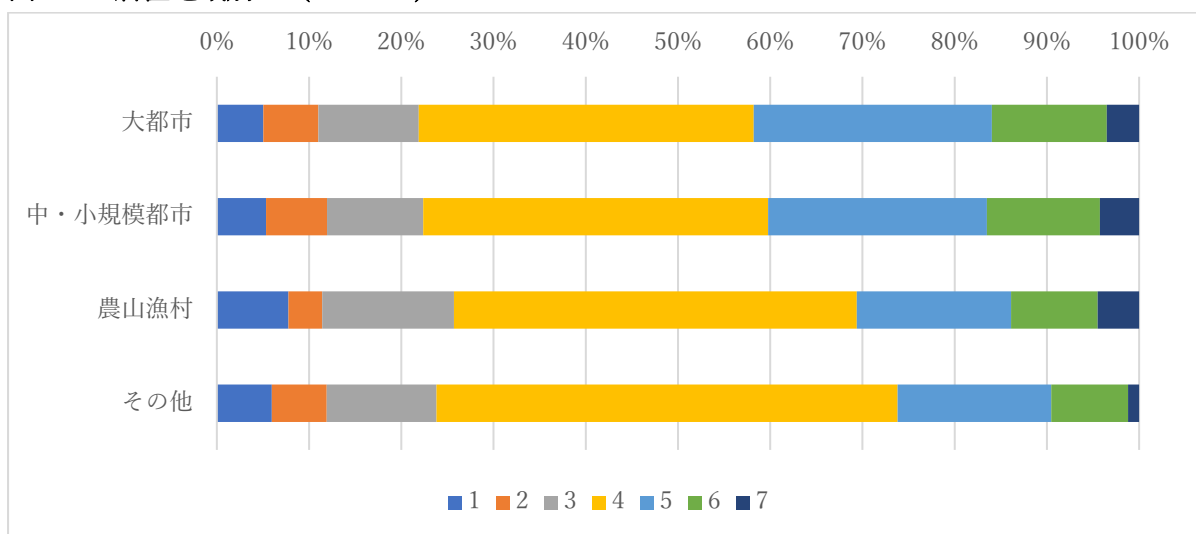


図 17-4. 居住地域別 (N=4171)



Q18. 一般的に言って、人は信用できると思いますか。1つを選んでください。

全体		実数	%
		4171	100.0
1	ほとんどの場合、信用できる	129	3.1
2	たいていは、信用できる	1588	38.1
3	どちらとも言えない	1388	33.3
4	たいていは、用心した方がよい	711	17.0
5	ほとんどの場合、用心した方がよい	355	8.5

図 18-0. 総計 (N=4171)

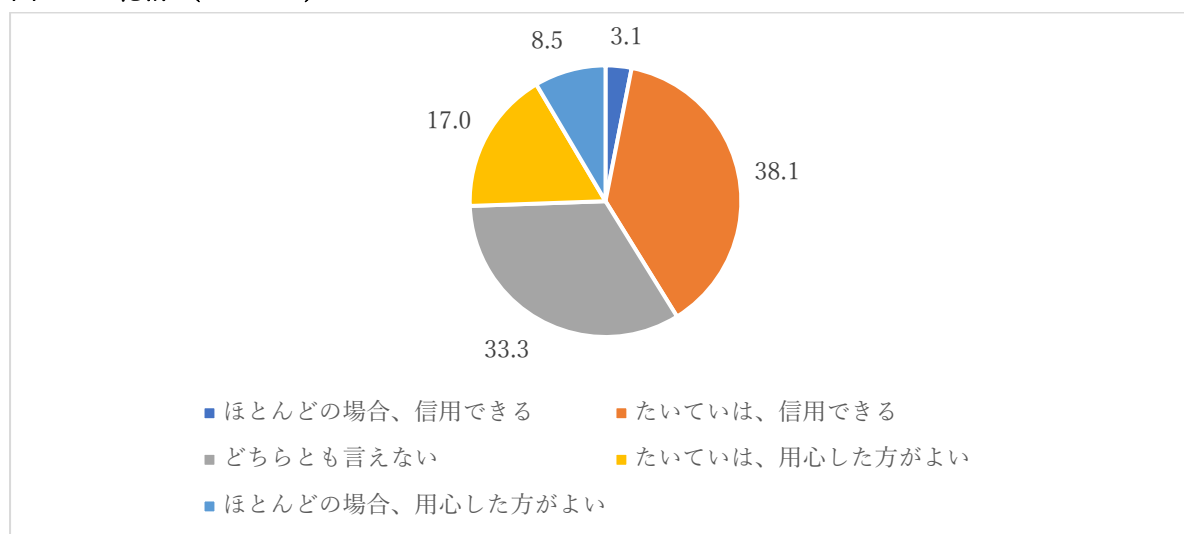


図 18-1. 男女別 (N=4171)

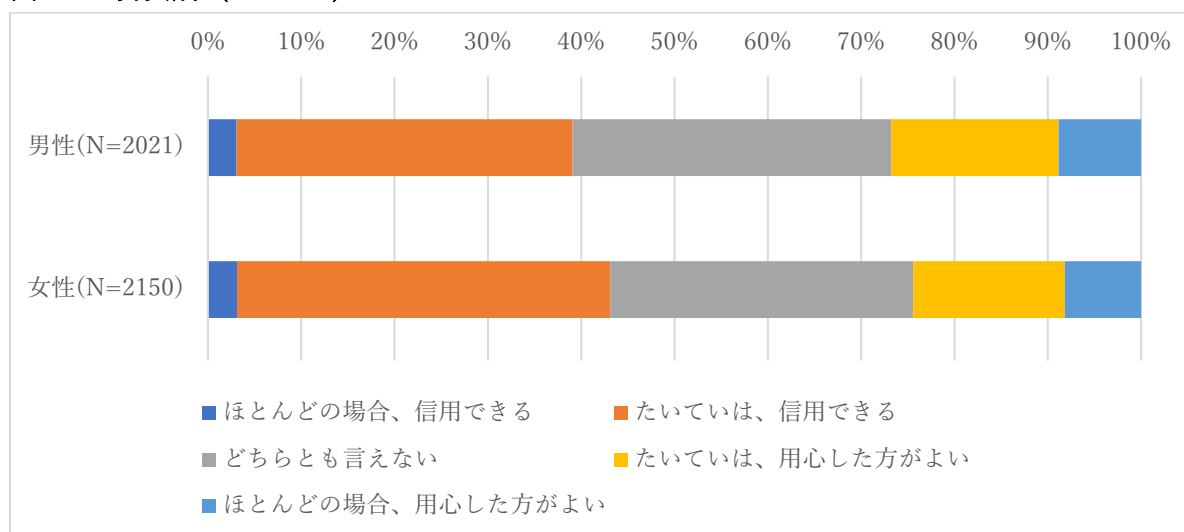


図 18-2. 年齢別 (N=4171)

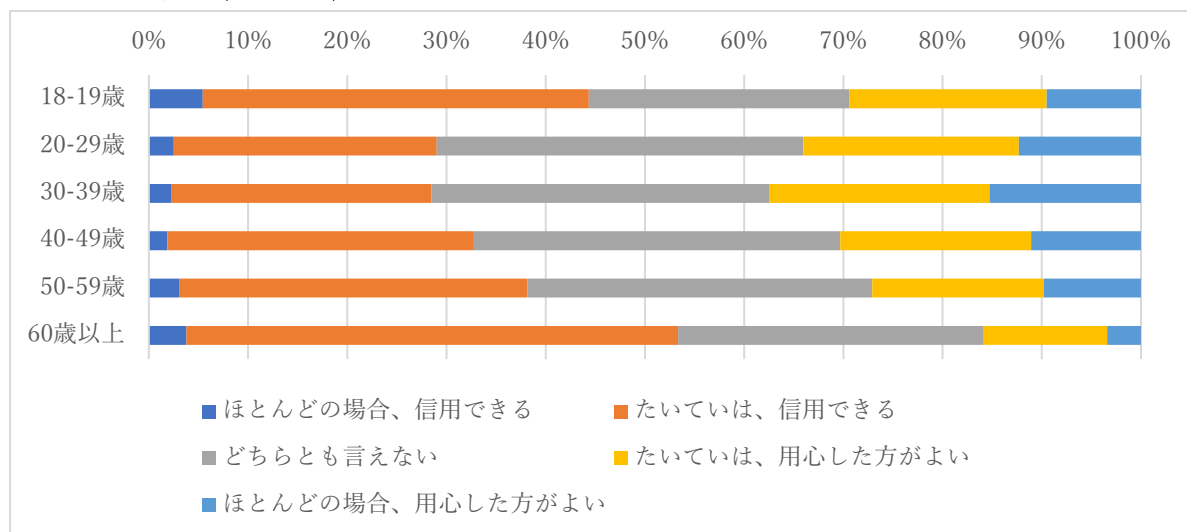


図 18-3. 収入別 (N=2235)

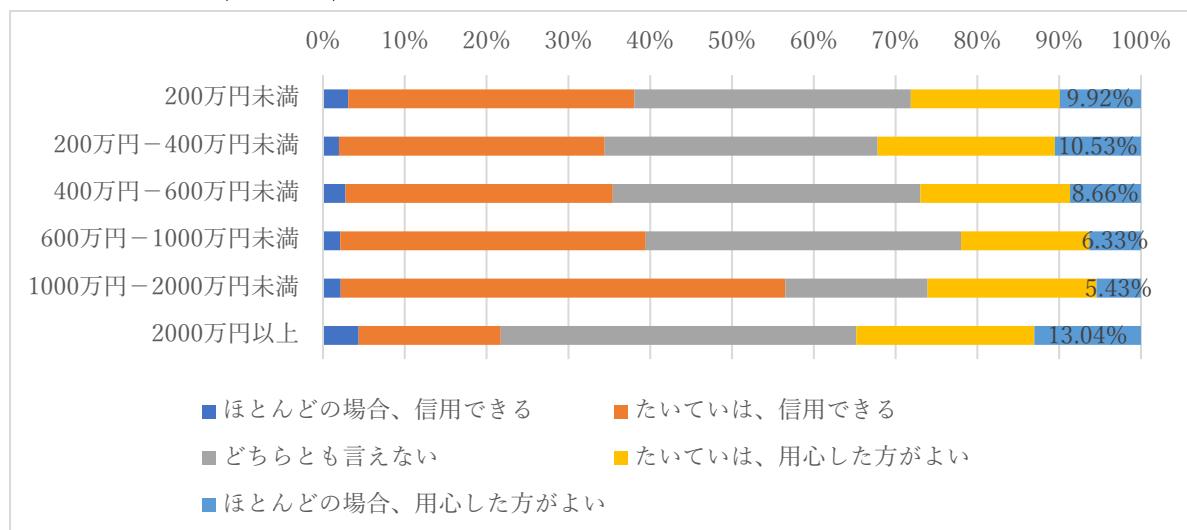
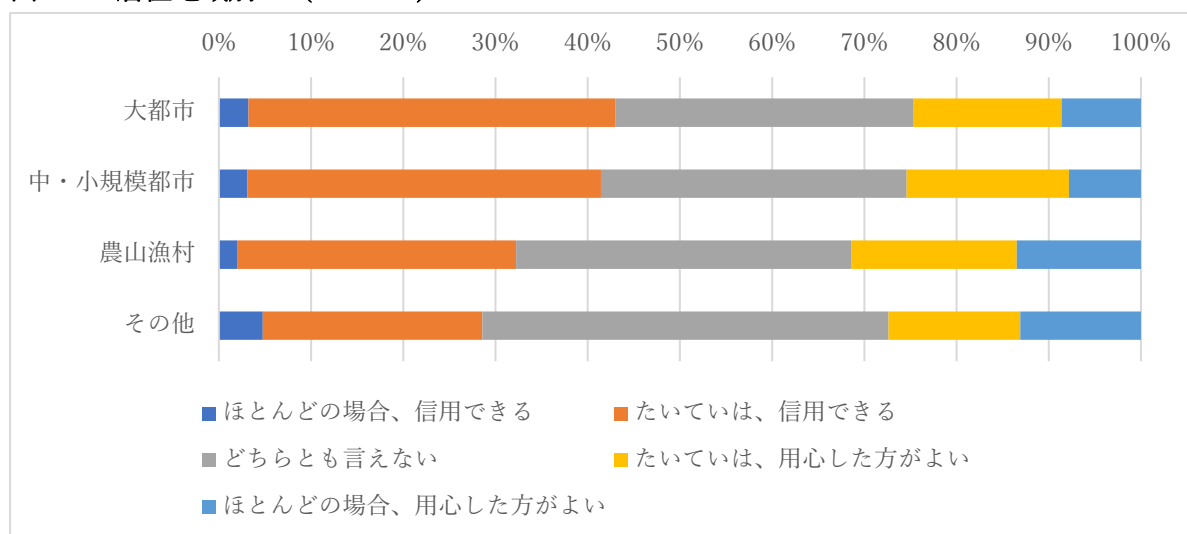


図 18-4. 居住地域別 (N=4171)



Q19. あなたは自分の人生を自らの力で変えることができると感じますか。1つを選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	人生を変えることは、ほとんどできないと感じている	381	9.1
2	どちらかと言えば、人生を変えることはできないと感じている	1339	32.1
3	どちらかと言えば、人生を変えることはできると感じている	2129	51.0
4	人生を変えることは、十分にできると感じている	322	7.7

図 19-0. 総計 (N=4171)

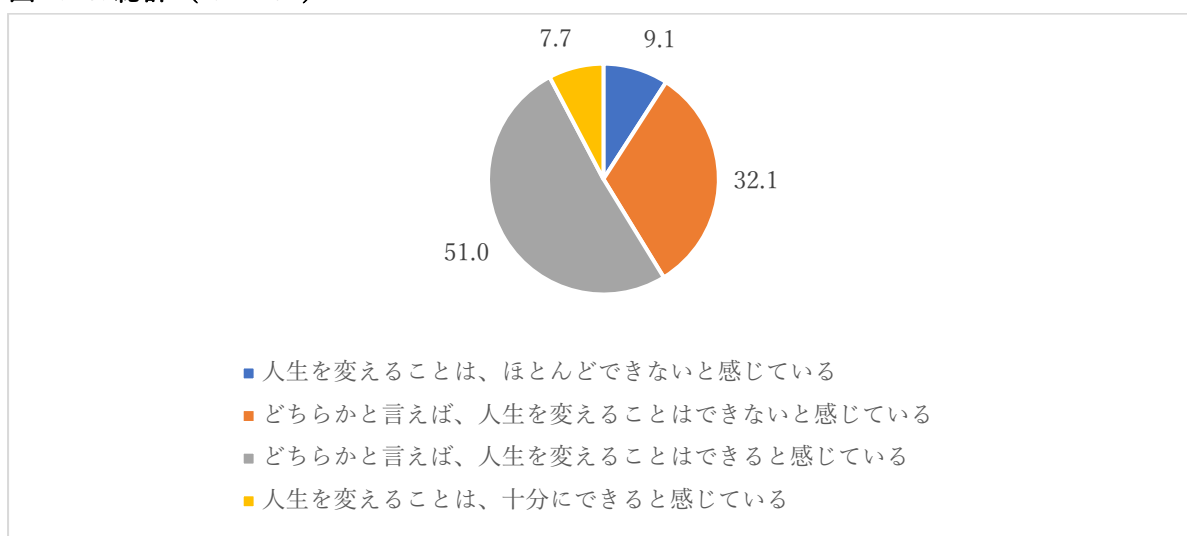


図 19-1. 男女別 (N=4171)

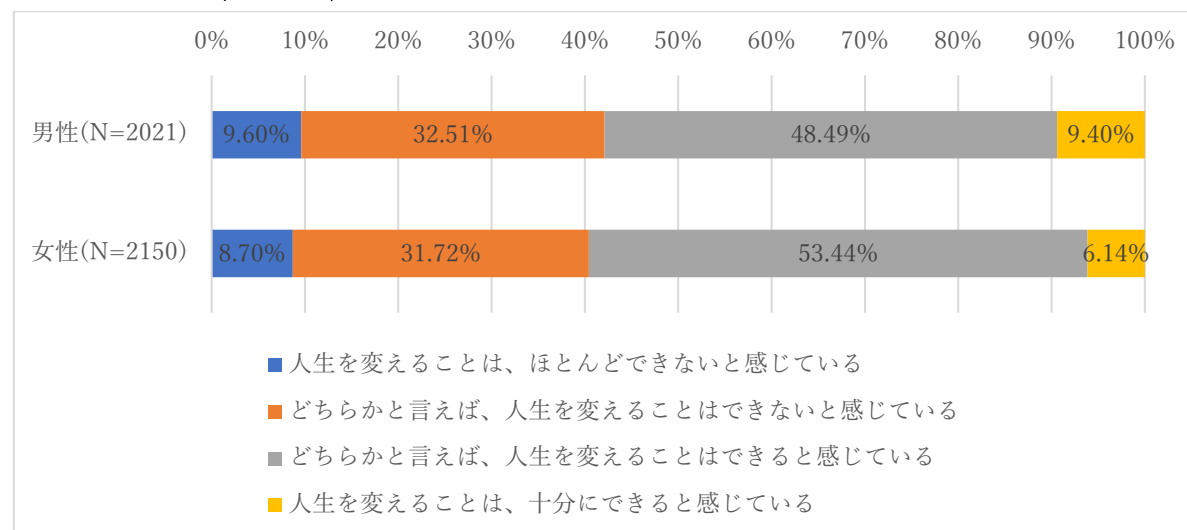


図 19-2. 年齢別 (N=4171)

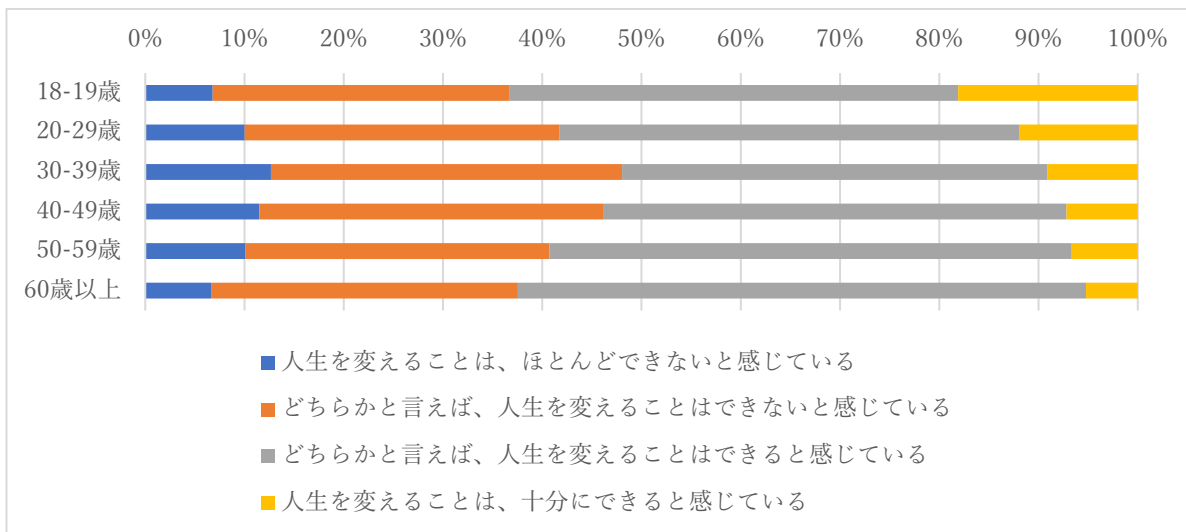


図 19-3. 収入別 (N=2235)

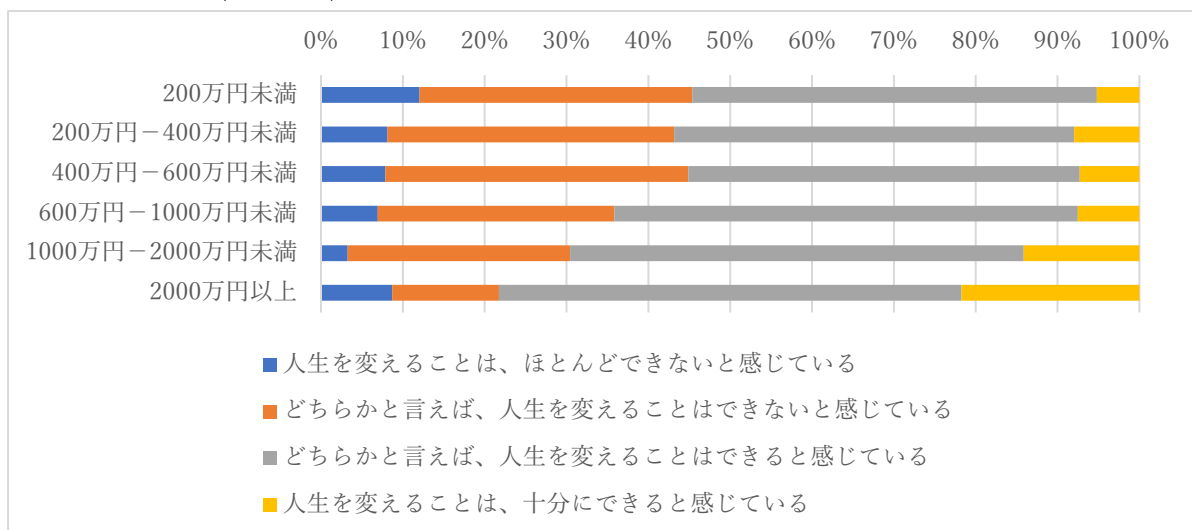
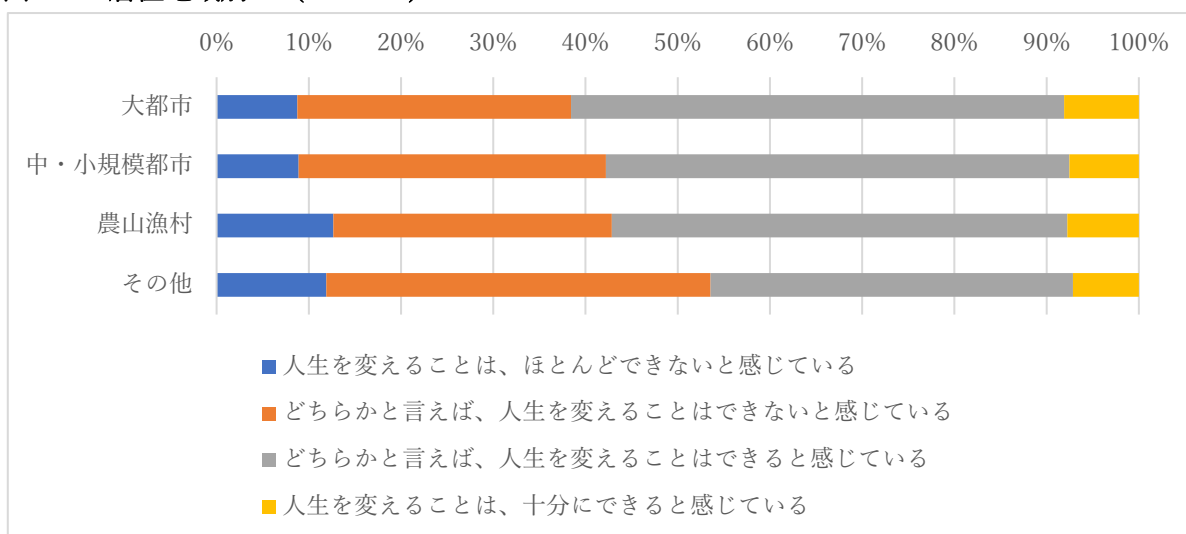


図 19-4. 居住地域別 (N=4171)



Q20. あなたは以下の事柄について、どの程度満足していますか。当てはまるものをそれぞれお答えください。

		全体	全く満足していない	どちらかと言えば満足していない	どちらとも言えない	どちらかと言えば満足している	とても満足している
収入	%	100.0	23.5	24.6	30.8	18.9	2.3
	実数	4171	980	1024	1284	788	95
仕事（学生の方は学校での授業など）	%	100.0	14.5	16.1	45.5	20.7	3.2
	実数	4171	604	670	1898	864	135
人間関係（家族以外との）	%	100.0	8.7	13.4	38.5	34.7	4.7
	実数	4171	364	560	1605	1448	194
家族関係（親・パートナー・子供との）	%	100.0	7.5	9.1	30.1	38.3	14.9
	実数	4171	314	378	1257	1599	623
消費	%	100.0	8.4	14.4	46.1	27.7	3.4
	実数	4171	352	600	1922	1155	142
余暇	%	100.0	7.7	13.5	36.2	34.8	7.8
	実数	4171	322	564	1510	1451	324
娯楽・文化	%	100.0	7.3	13.2	41.7	32.6	5.3
	実数	4171	303	551	1740	1358	219
住宅	%	100.0	9.3	14.6	35.6	33.3	7.3
	実数	4171	387	607	1483	1391	303
近所づきあい	%	100.0	7.4	10.5	53.1	25.9	3.2
	実数	4171	310	436	2213	1079	133
交通・インフラストラクチャー	%	100.0	7.7	13.0	45.3	29.7	4.3
	実数	4171	320	543	1891	1237	180
医療サービス	%	100.0	4.8	8.6	46.4	36.5	3.7
	実数	4171	201	358	1937	1521	154
教育	%	100.0	5.2	8.2	59.5	25.1	2.0
	実数	4171	215	342	2482	1047	85
デジタル・情報サービス	%	100.0	4.4	7.5	52.6	32.4	3.1
	実数	4171	185	312	2193	1350	131
保育サービス	%	100.0	4.6	7.3	74.7	11.8	1.5
	実数	4171	192	304	3117	494	64
金融サービス	%	100.0	6.0	11.1	62.5	18.5	1.9
	実数	4171	251	461	2608	771	80
年金・社会保障	%	100.0	15.5	25.5	44.4	12.9	1.7
	実数	4171	647	1065	1851	539	69
政治	%	100.0	20.2	26.9	42.8	8.8	1.2
	実数	4171	842	1123	1787	367	52

行政サービス	%	100.0	10.0	19.9	53.6	15.1	1.5
	実数	4171	416	830	2234	630	61
治安、警察	%	100.0	6.4	12.3	50.3	28.4	2.6
	実数	4171	269	512	2099	1183	108
環境（大気、水）、景観、ごみ処理	%	100.0	8.2	16.6	52.2	21.1	1.9
	実数	4171	344	691	2177	879	80

図 20-0. 総計 (N=4171)

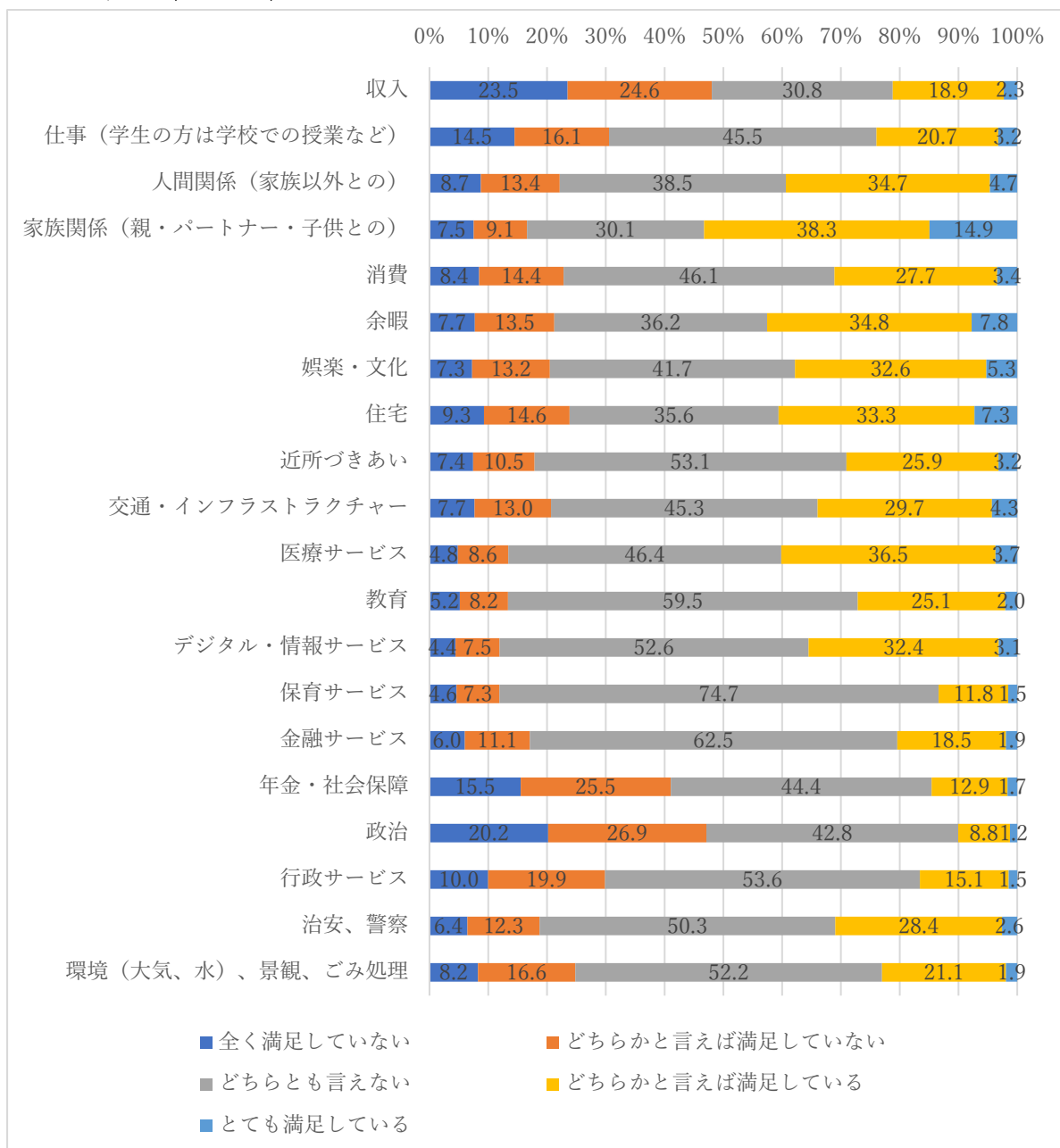


図 20-1. 男女別 (N=4171)

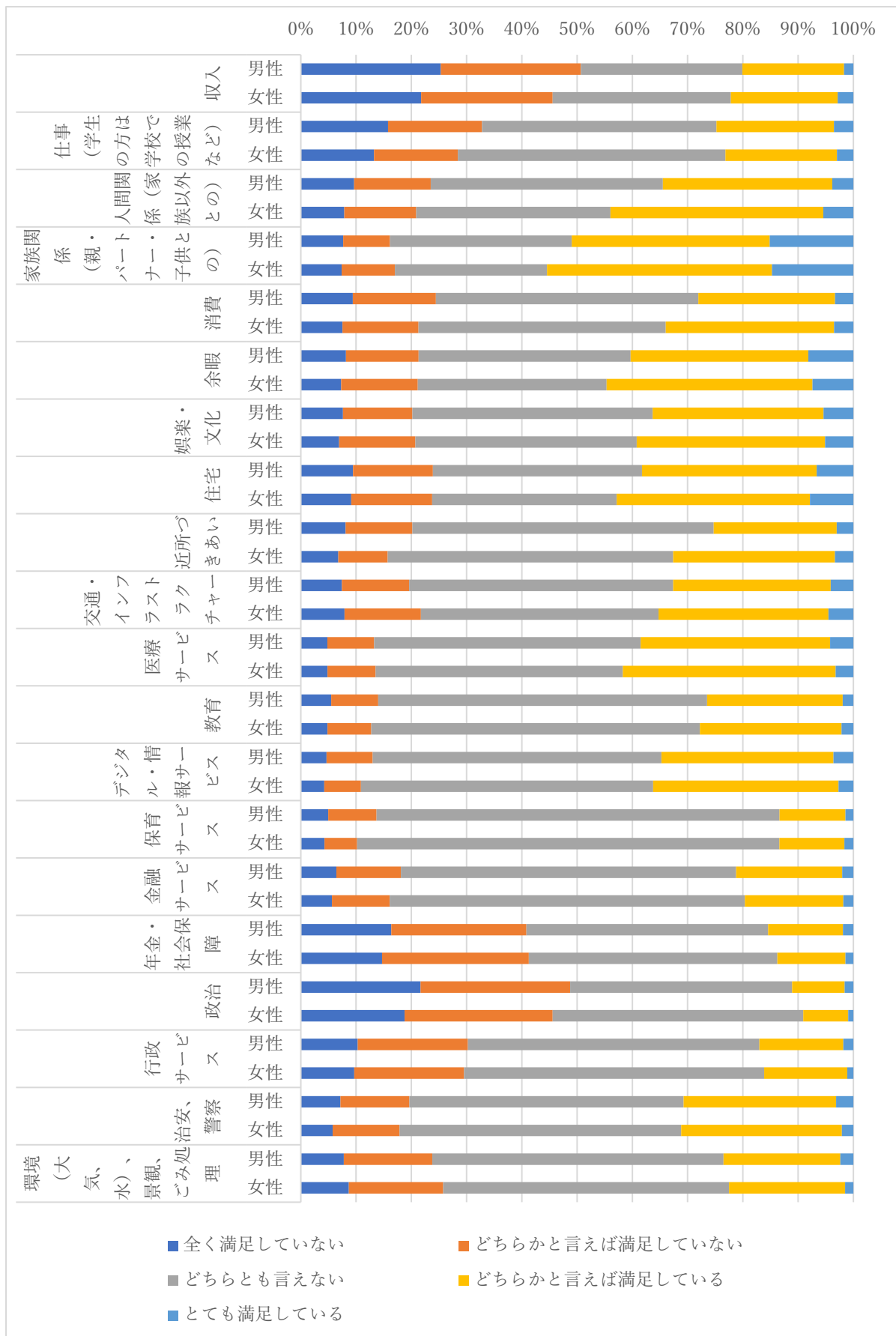
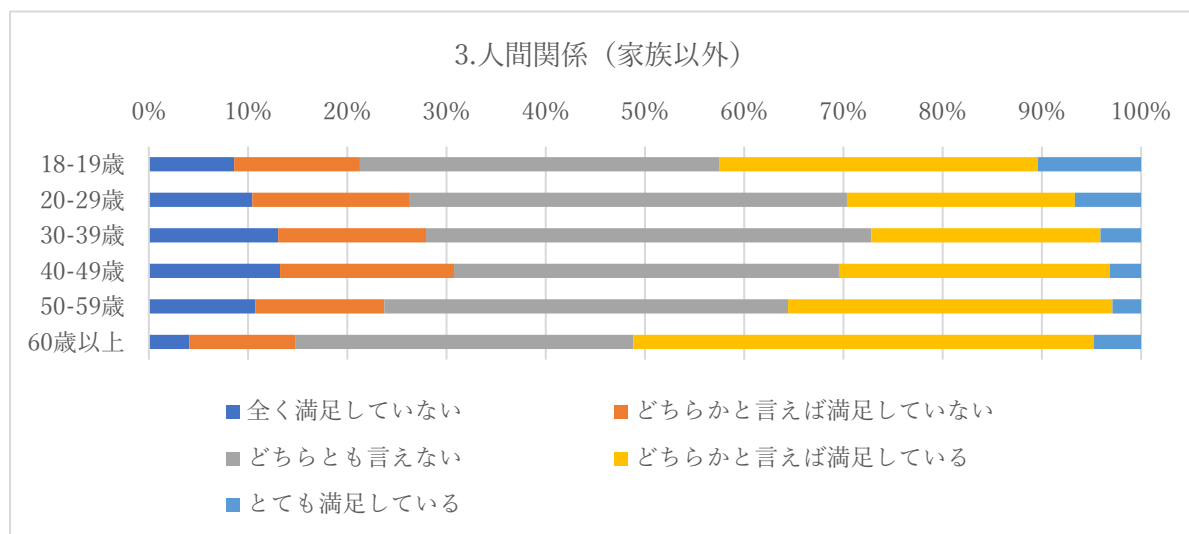
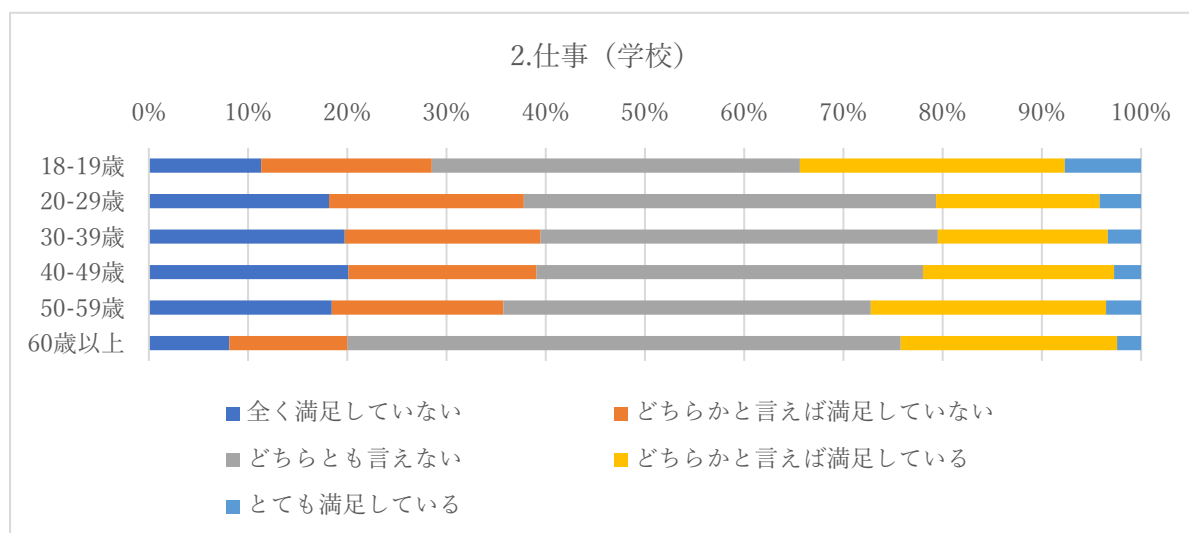
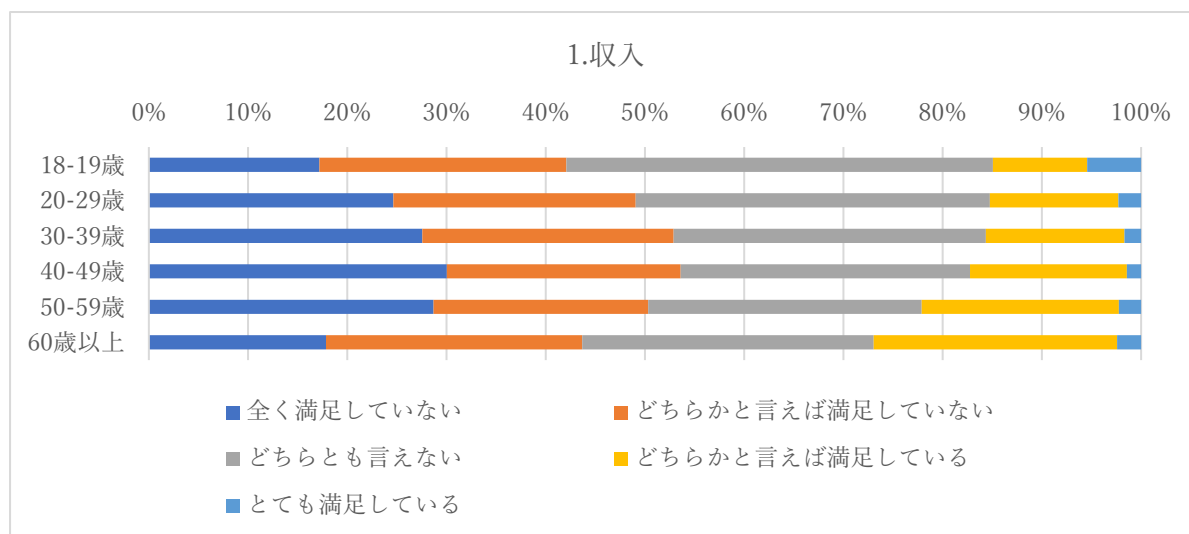
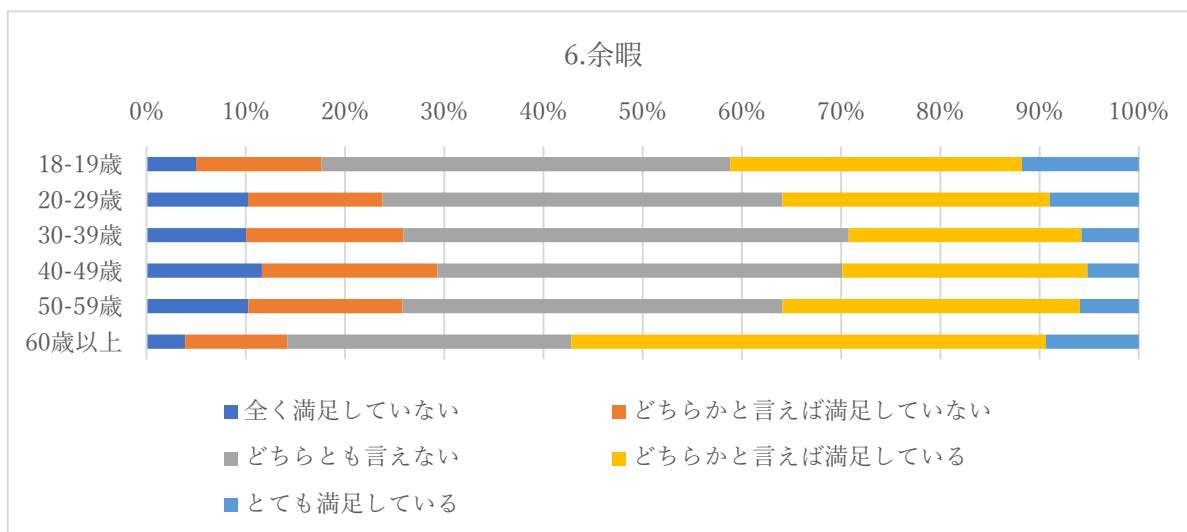
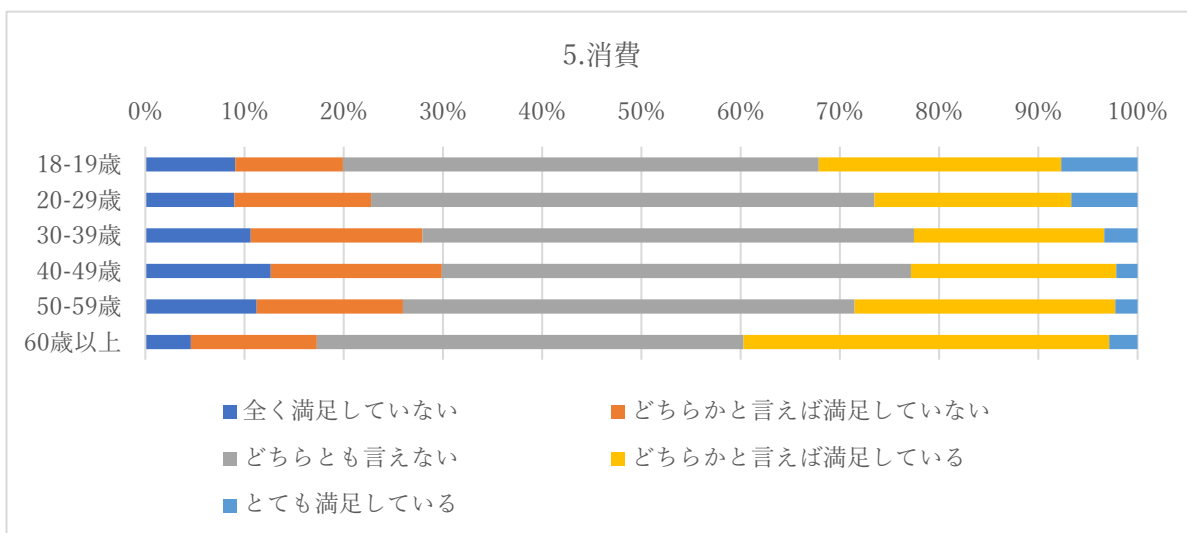
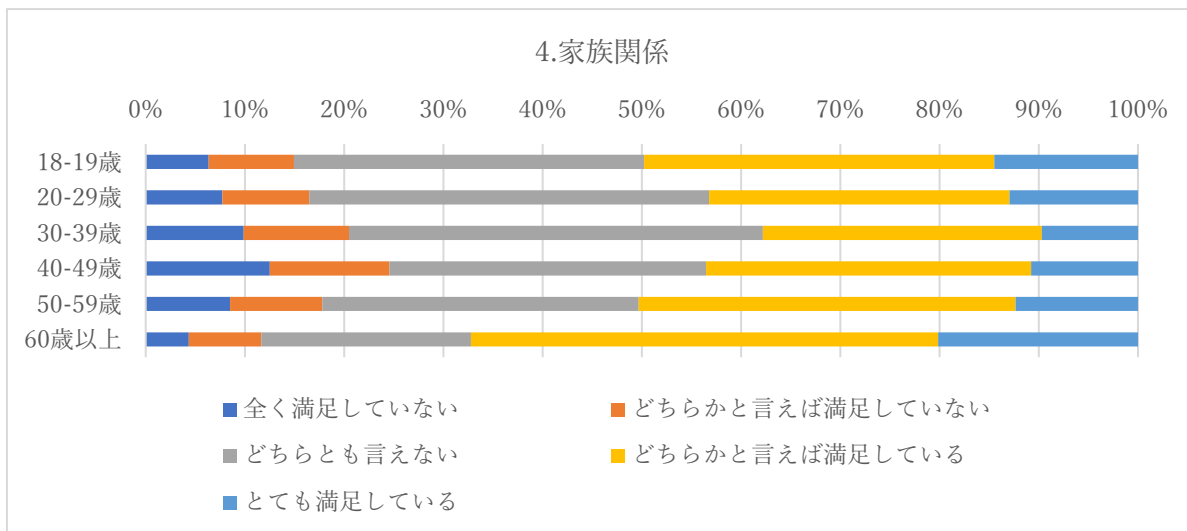


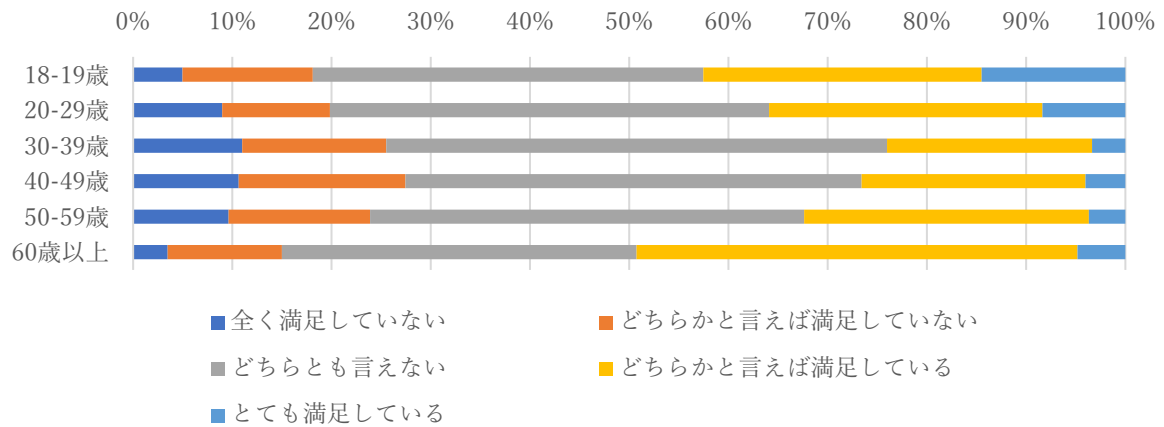


図 20-2. 年齢別 (N=4171)

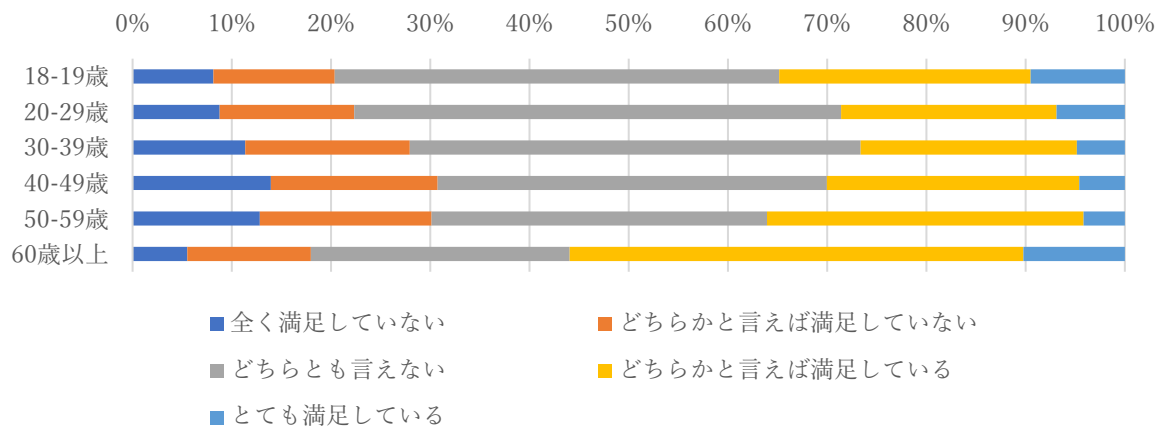




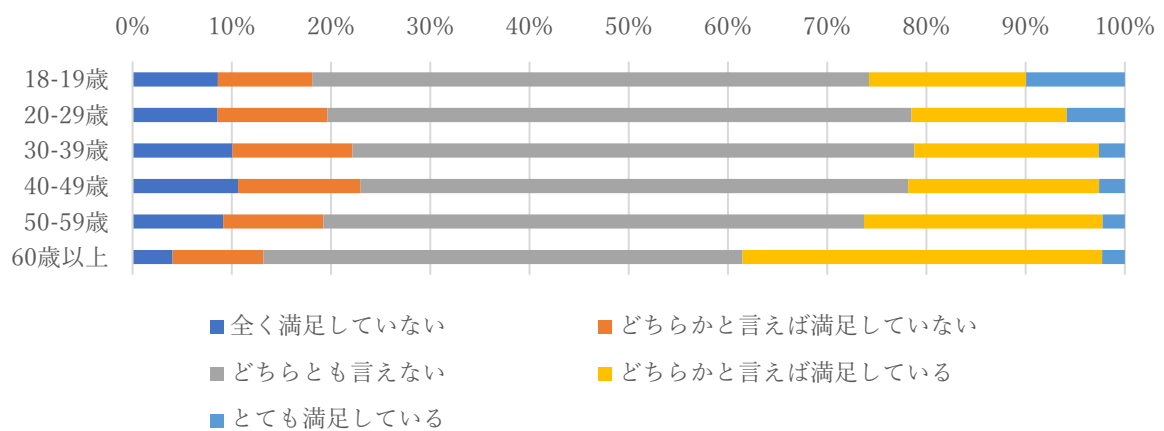
### 7. 娯楽・文化

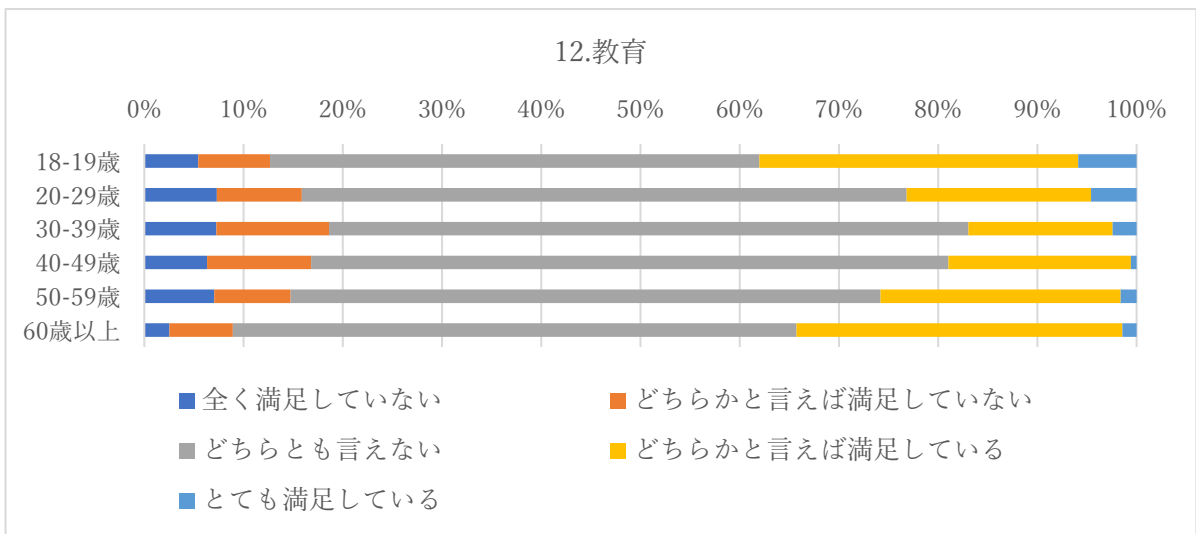
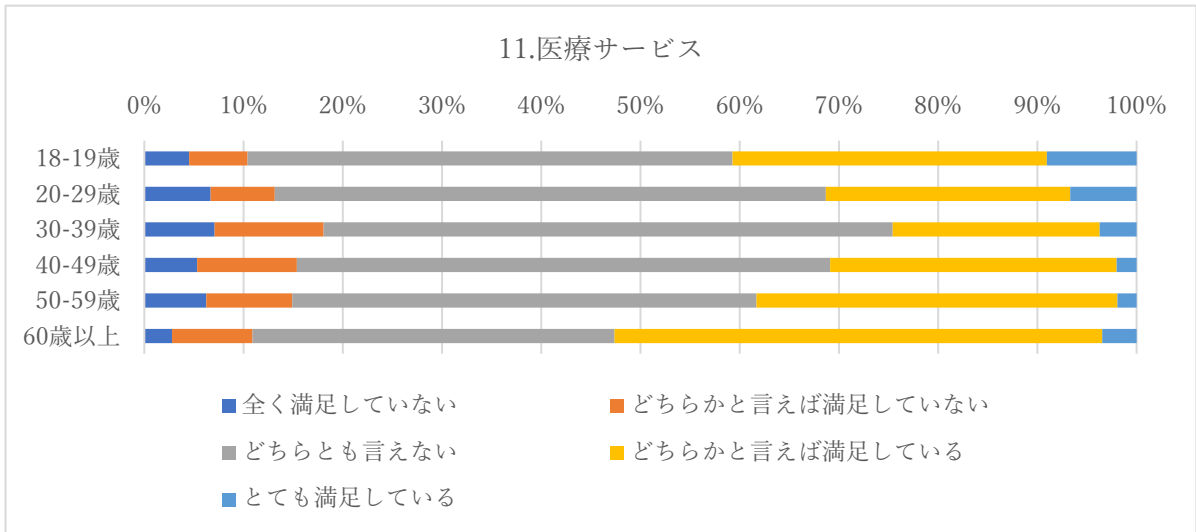
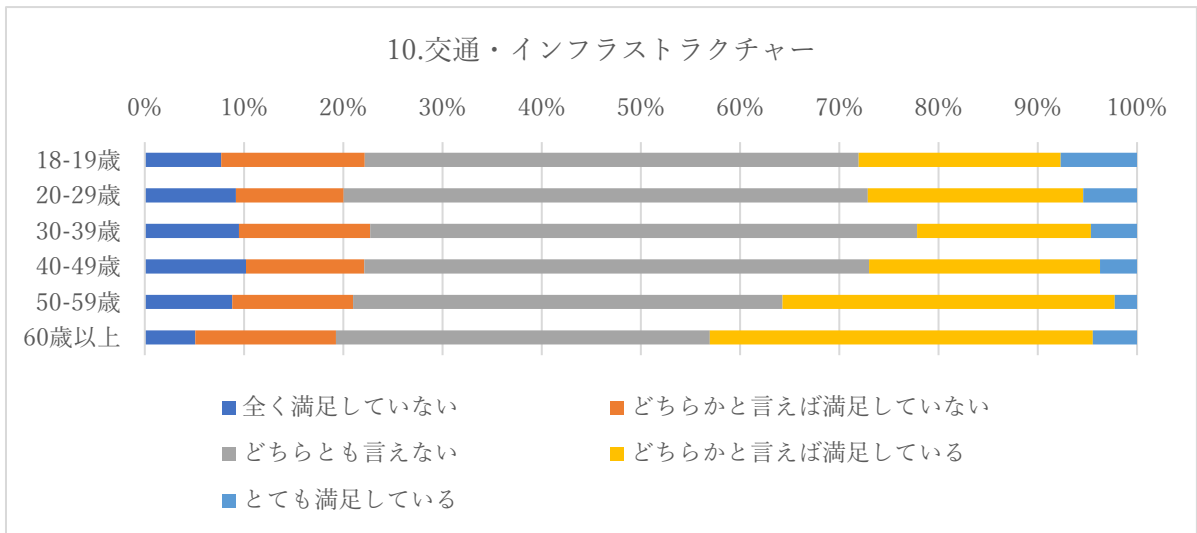


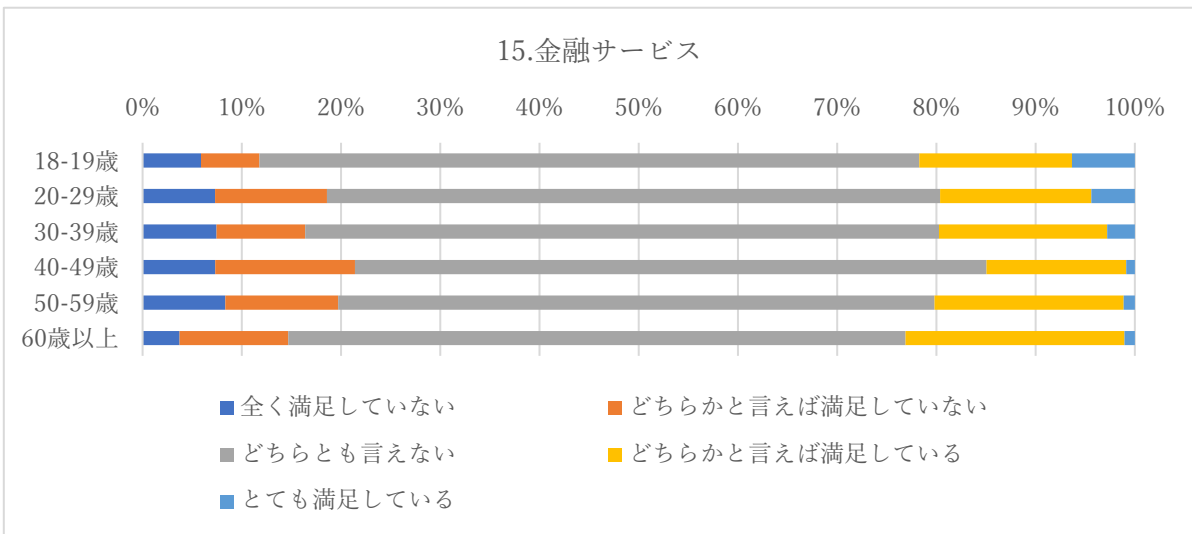
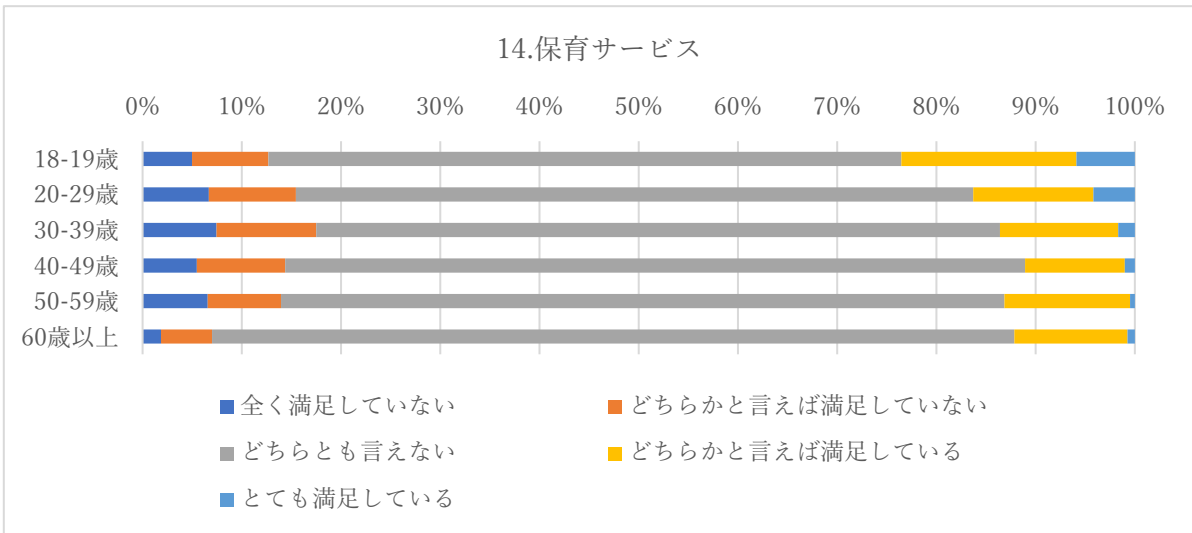
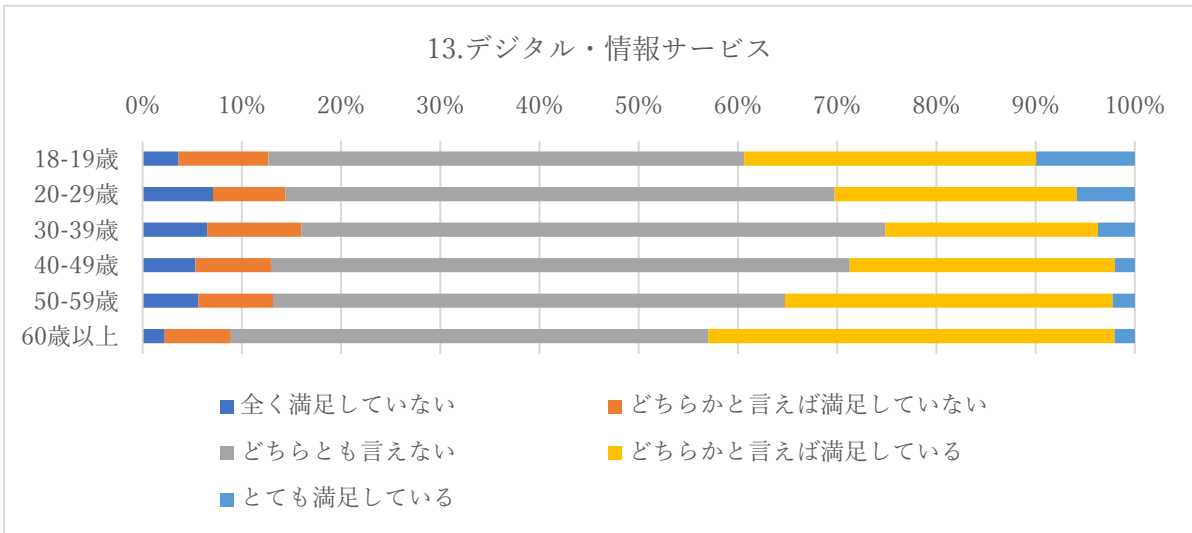
### 8. 住宅



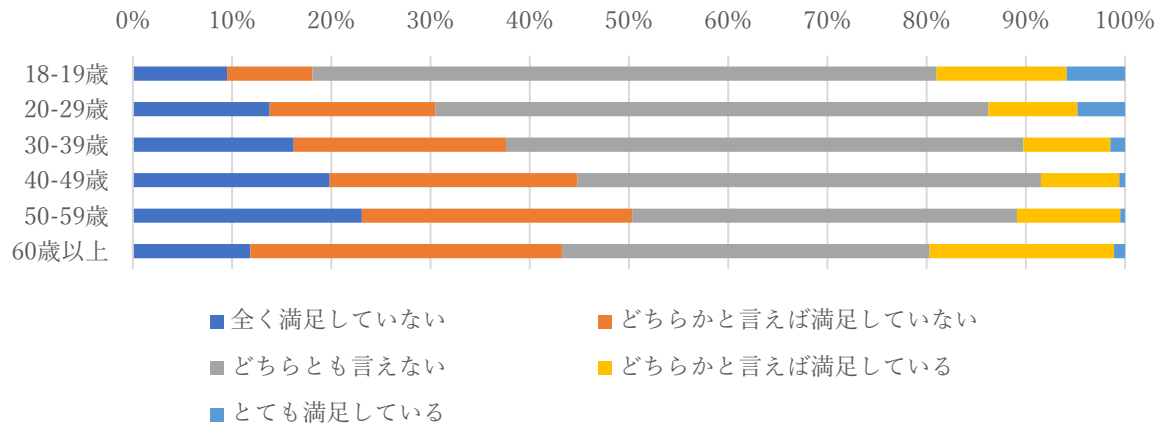
### 9. 近所付き合い



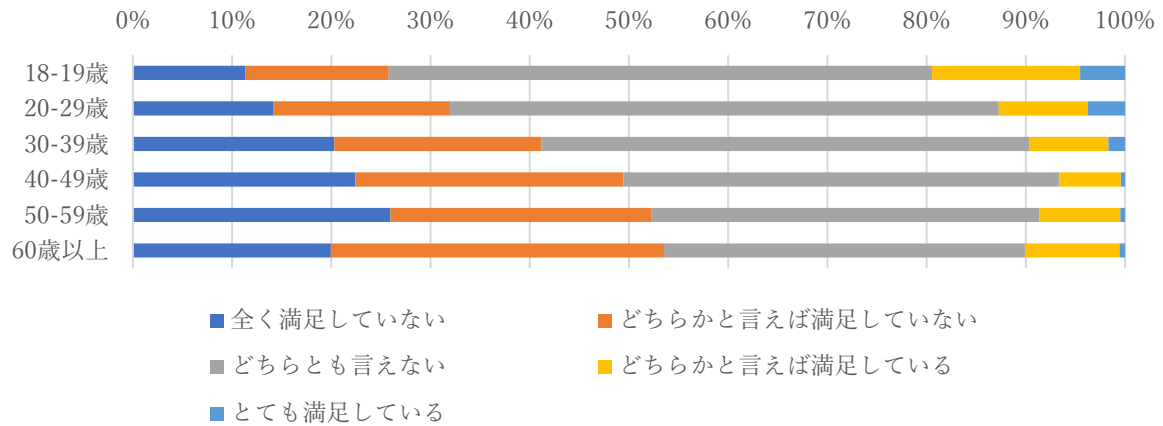




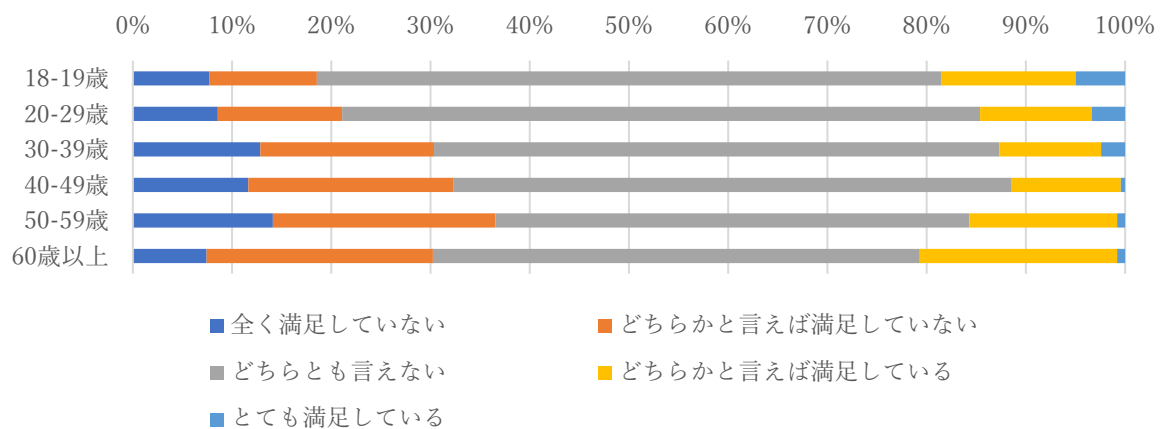
### 16.年金・社会保障



### 17.政治



### 18.行政サービス



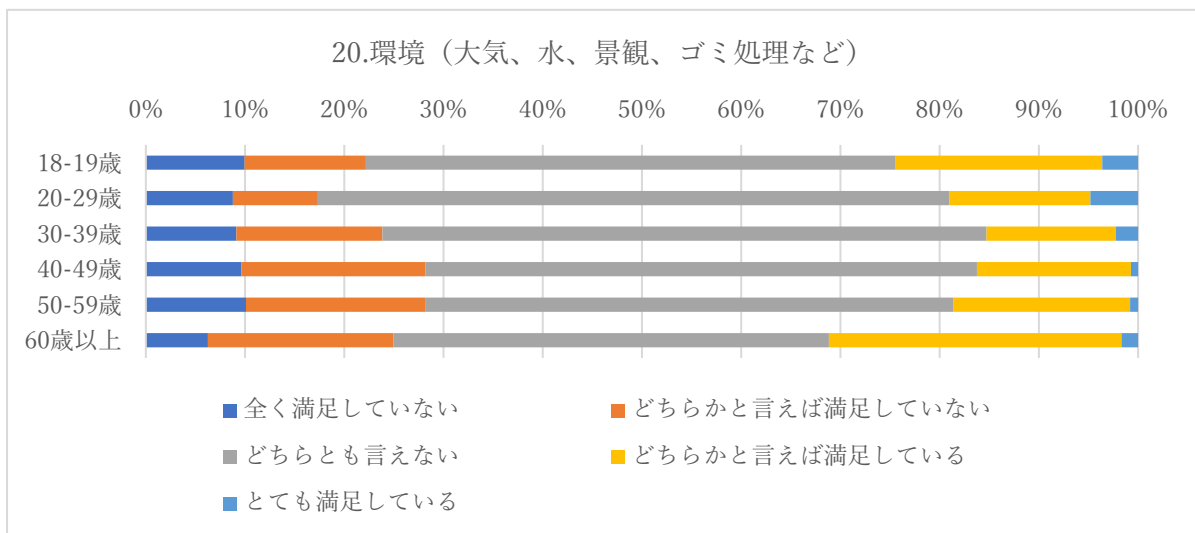
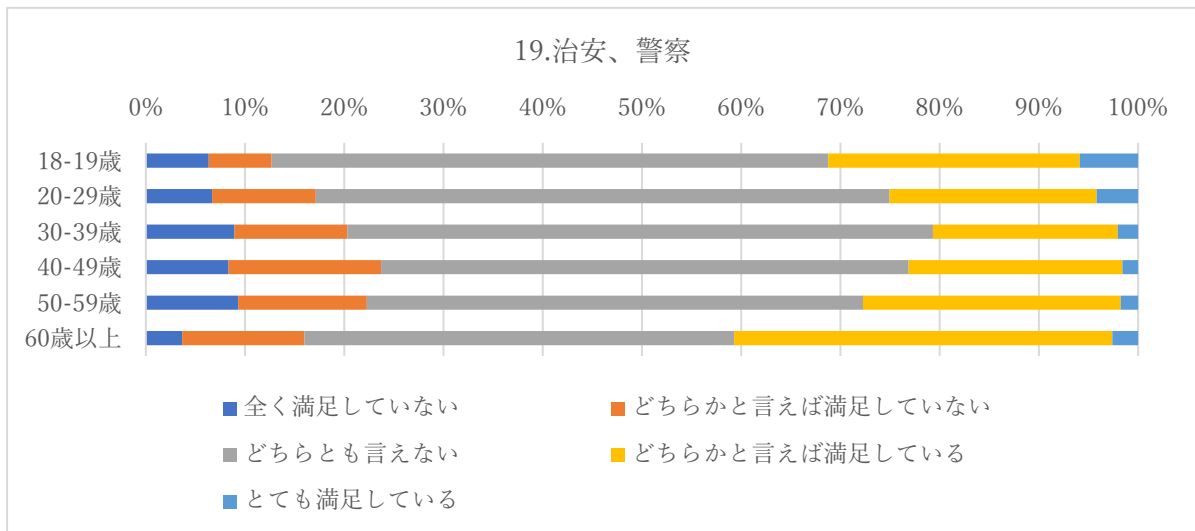
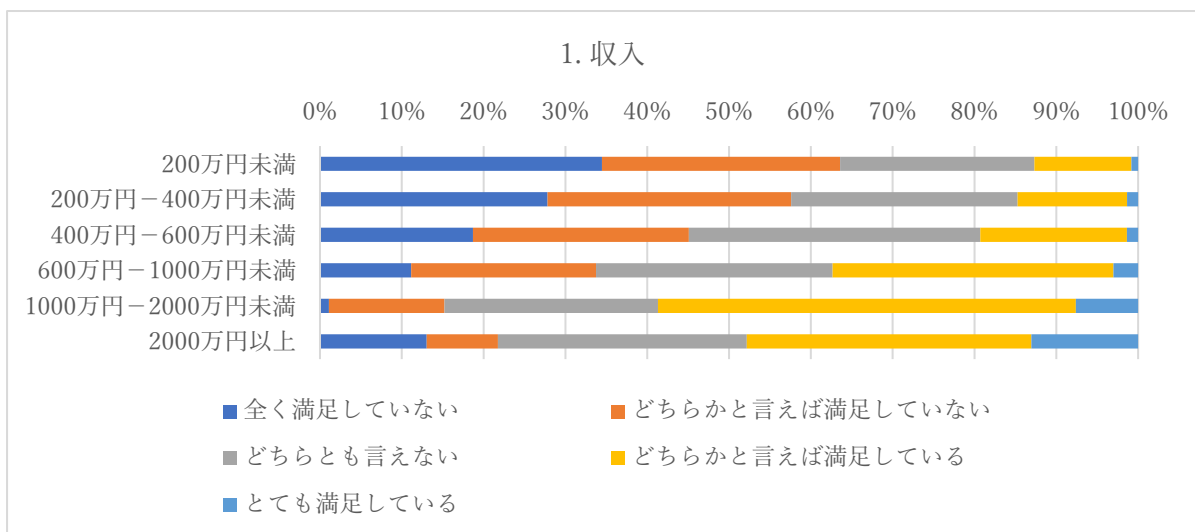
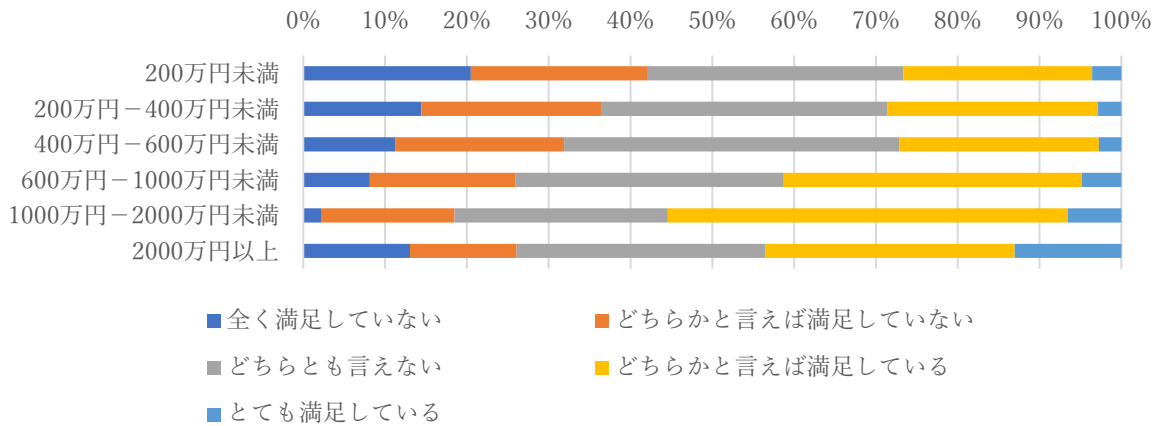


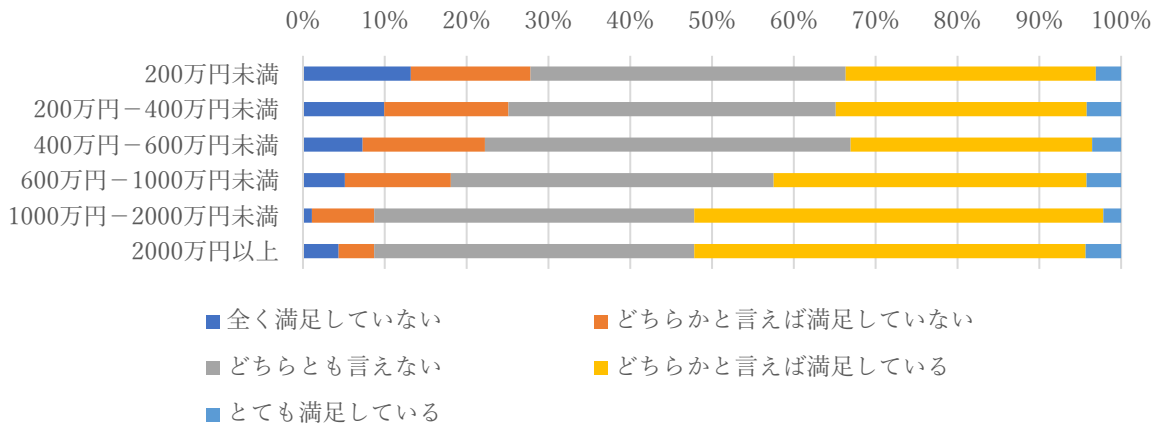
図 20-3. 収入別 (N=2235)



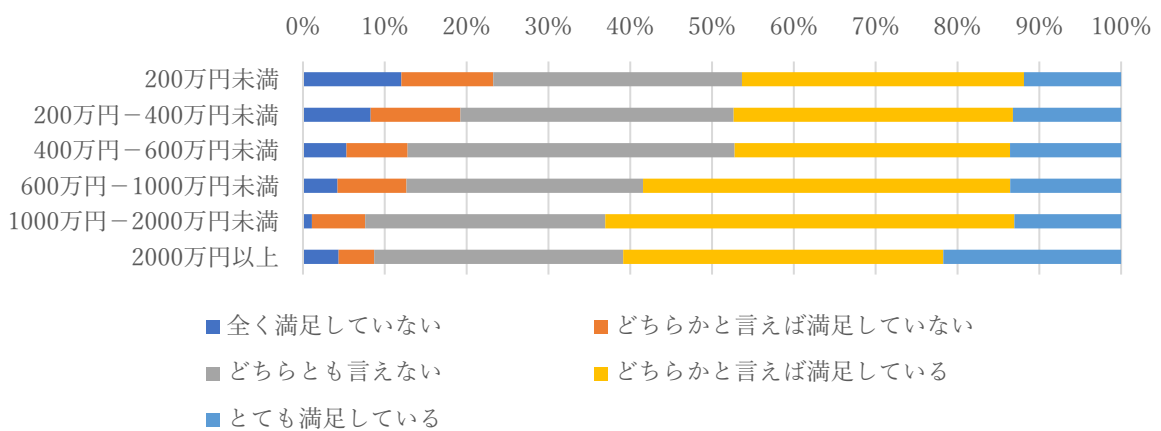
## 2. 仕事 (学校)



## 3. 人間関係 (家族以外)

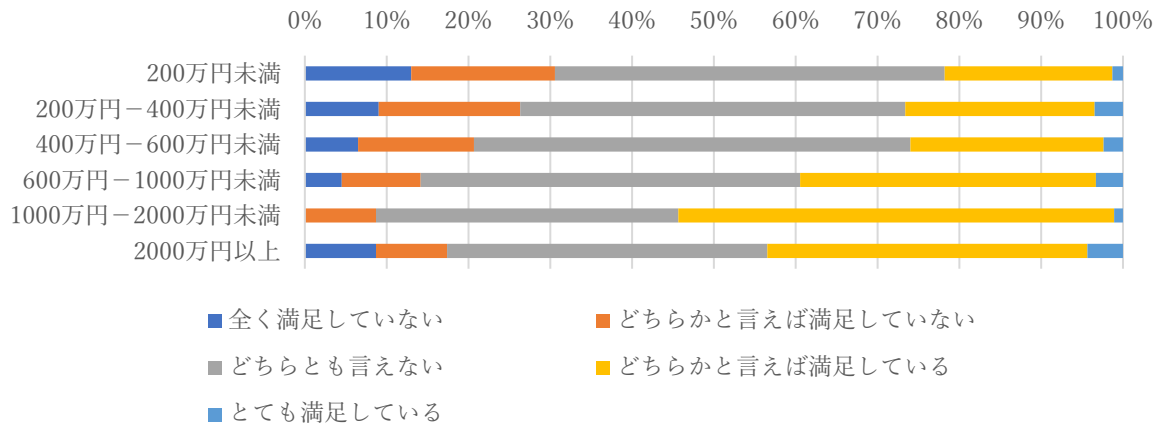


## 4. 家族関係

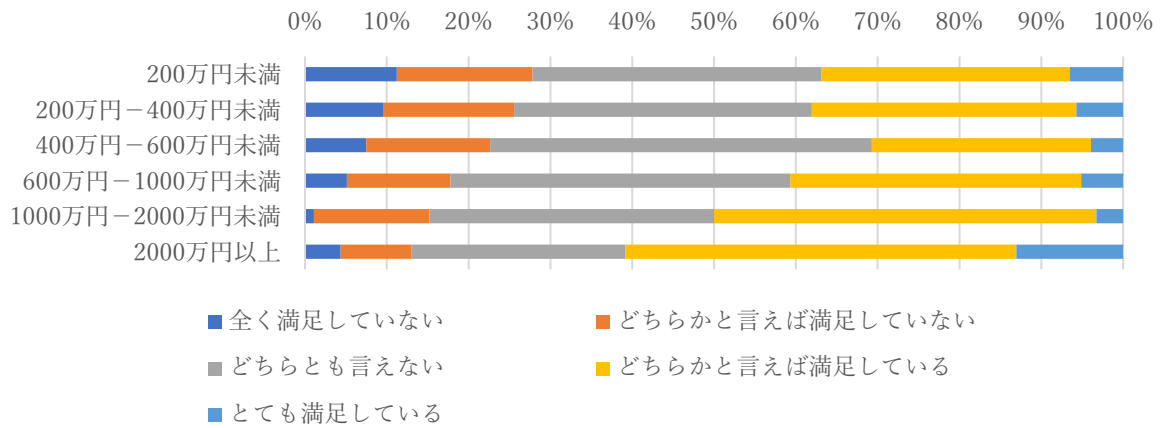




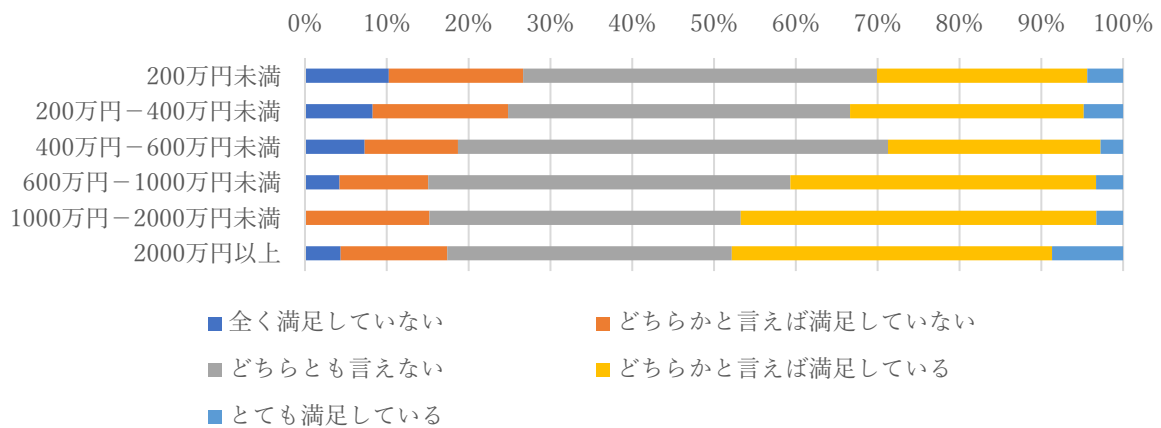
### 5. 消費



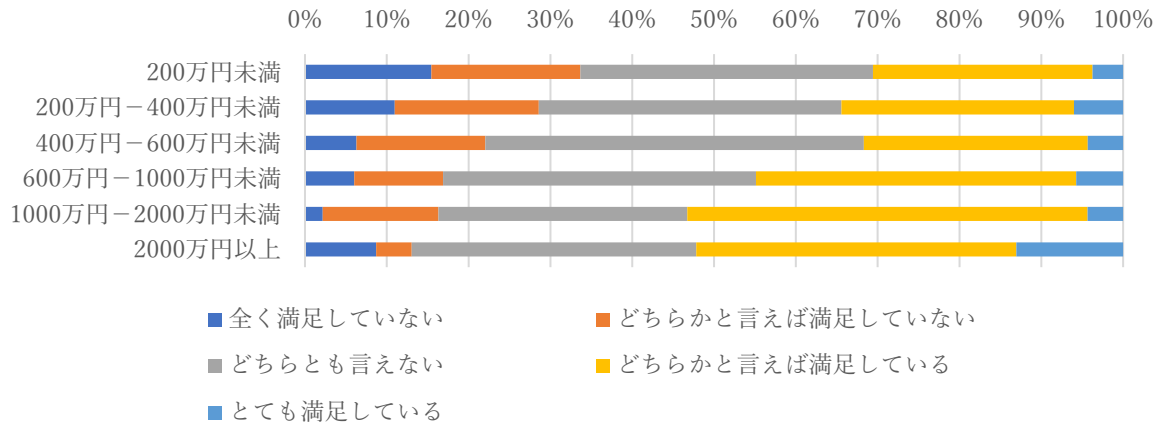
### 6. 余暇



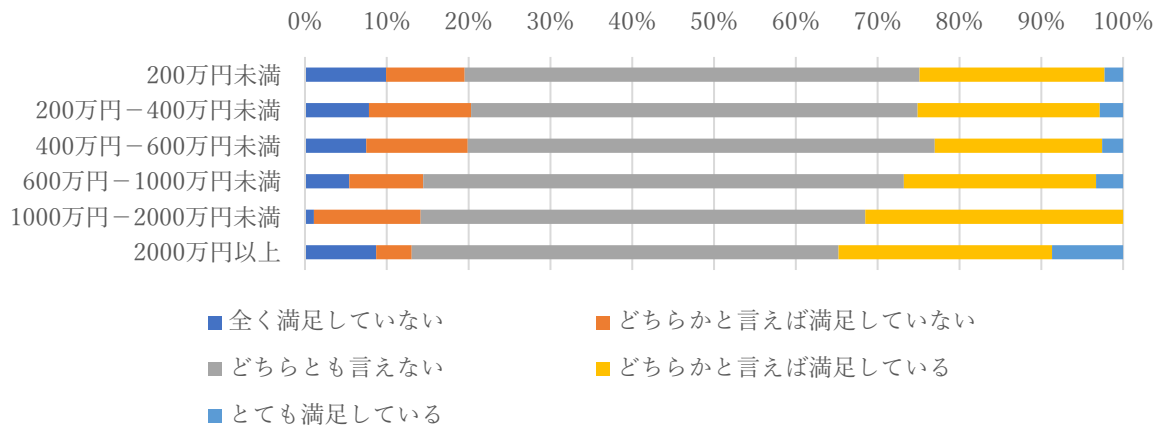
### 7. 娯楽・文化



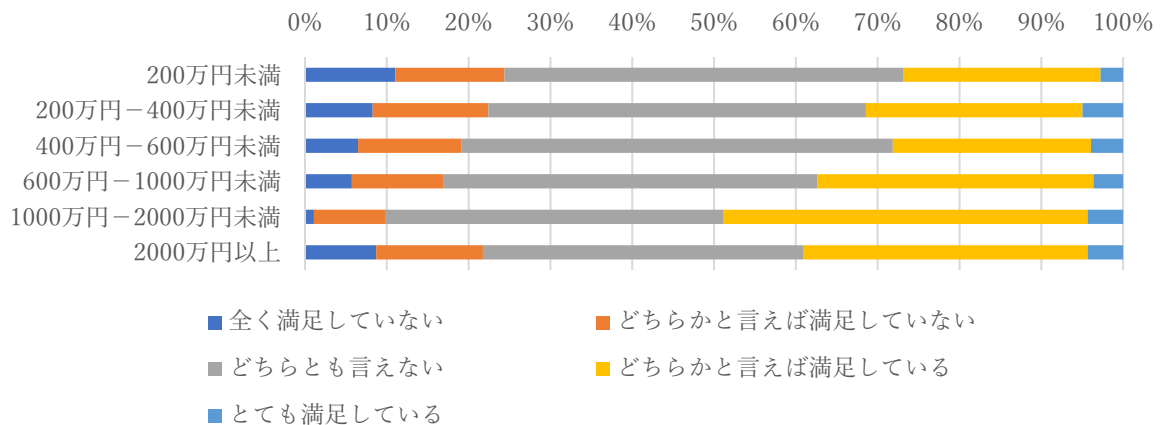
### 8. 住宅



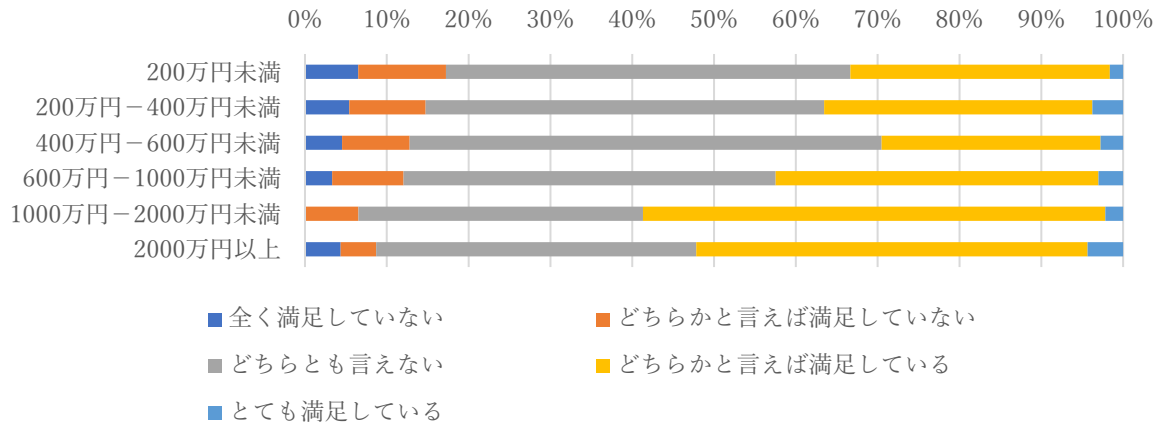
### 9. 近所付き合い



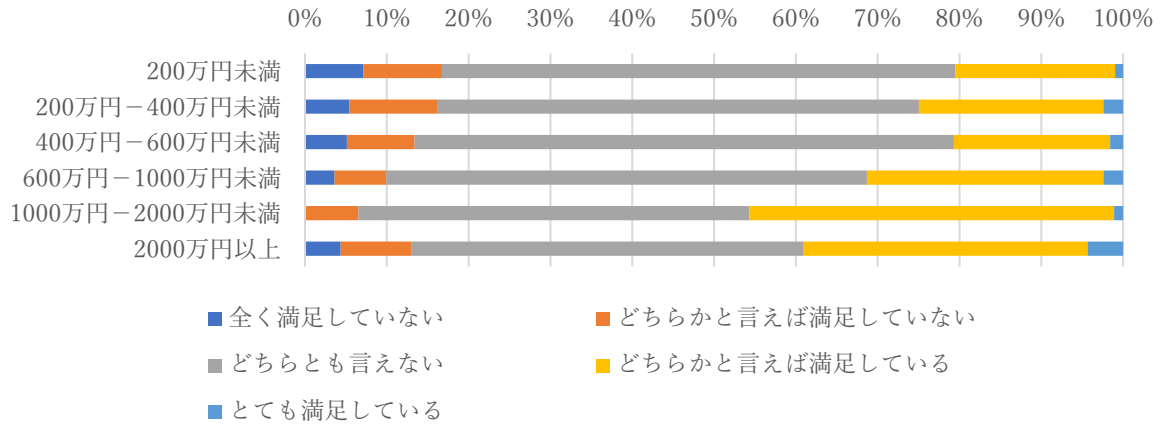
### 10. 交通・インフラストラクチャー



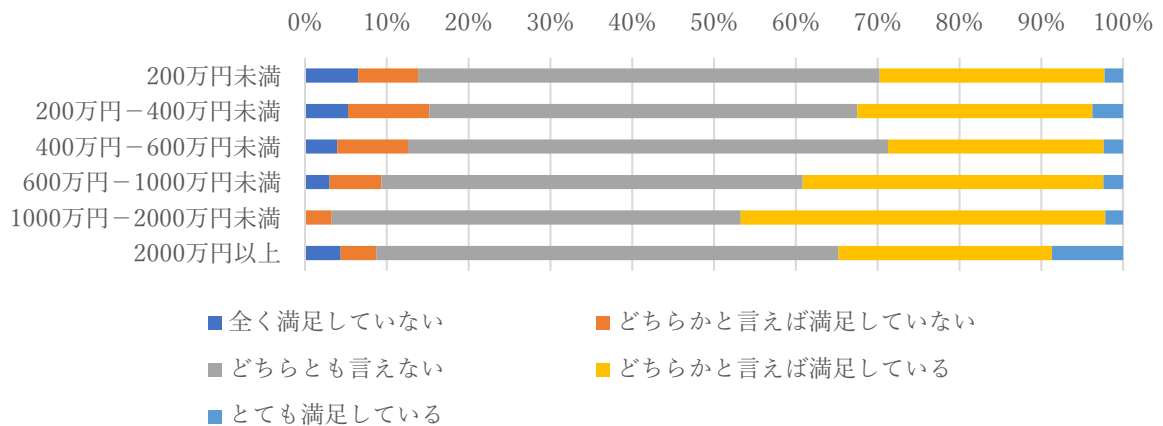
### 11. 医療サービス



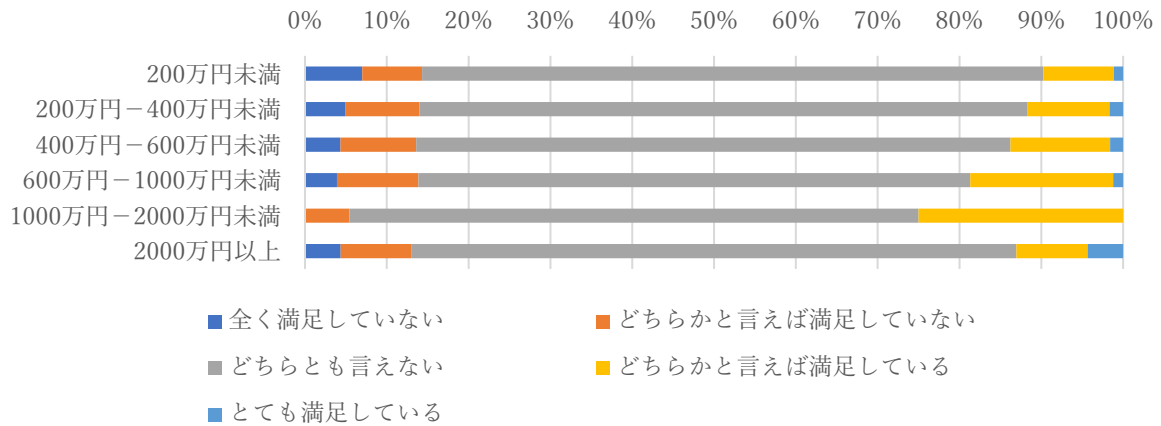
### 12. 教育



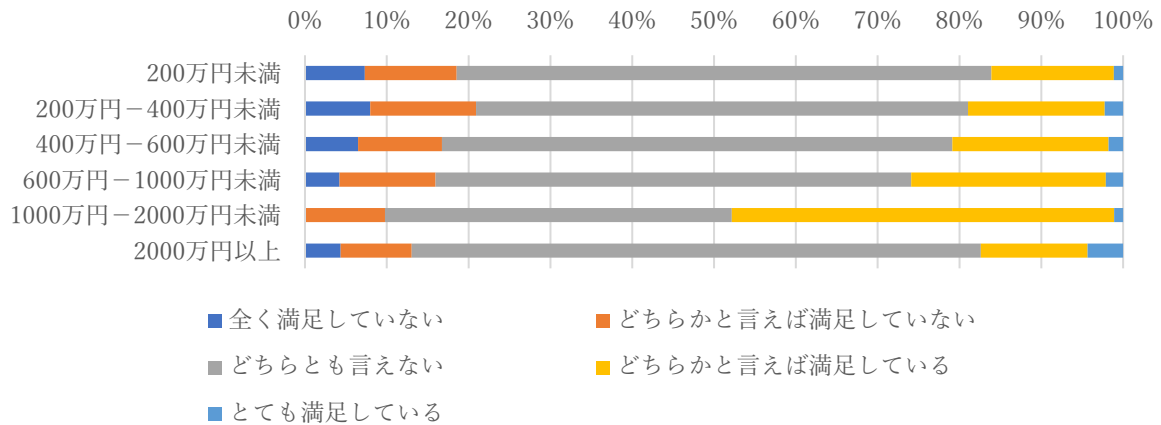
### 13. デジタル・情報サービス



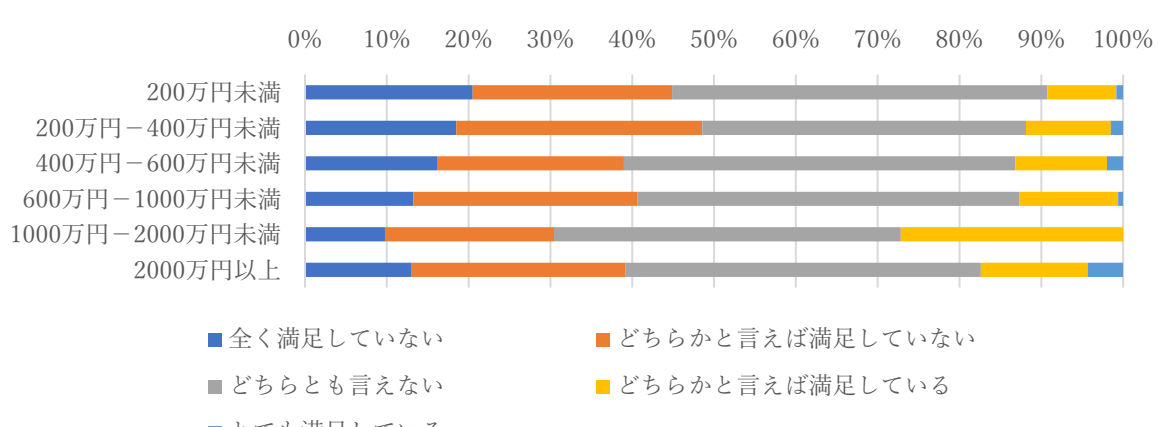
### 14. 保育サービス



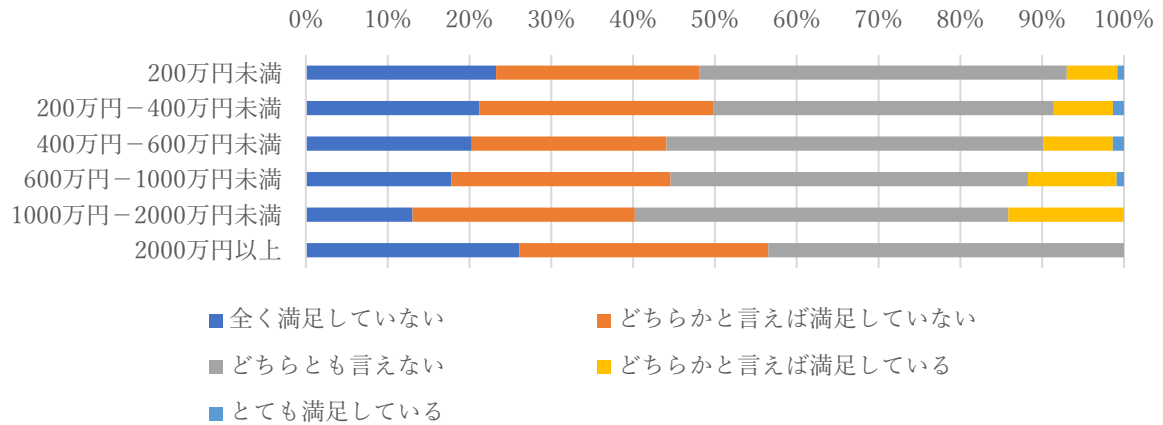
### 15. 金融サービス



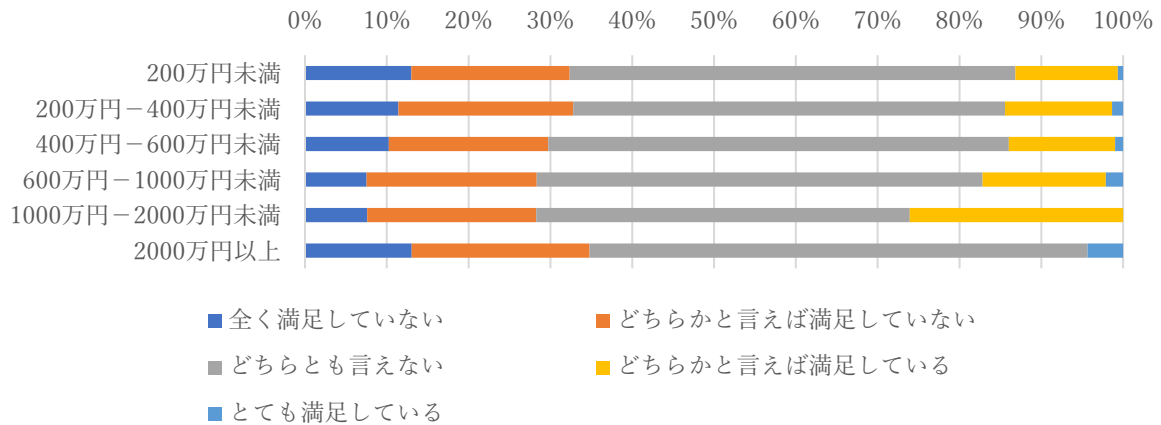
### 16. 年金・社会保障



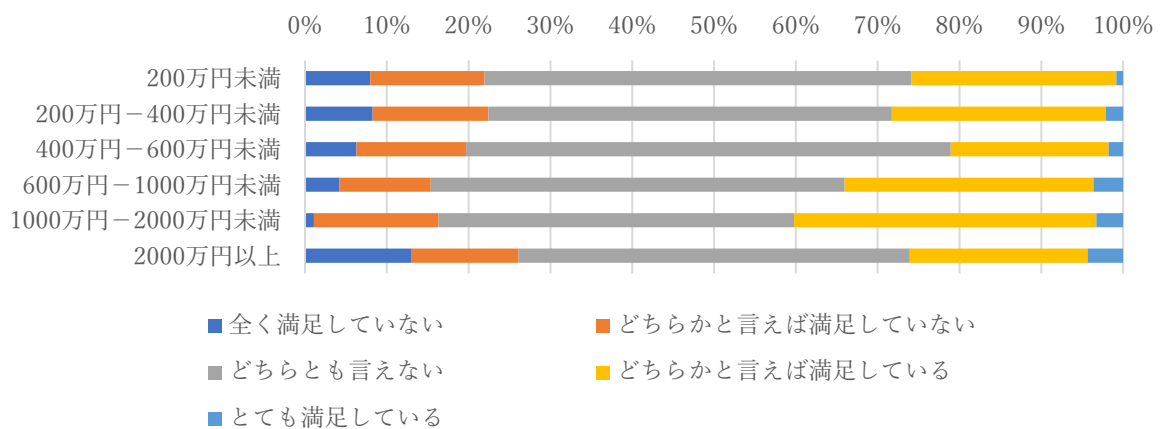
### 17. 政治



### 18. 行政サービス



### 19. 治安、警察



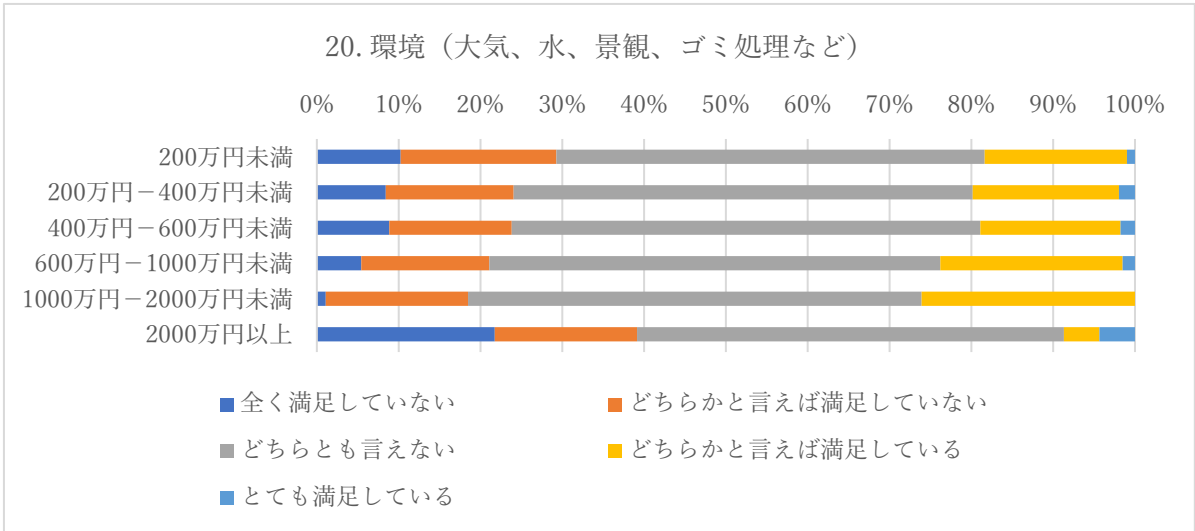
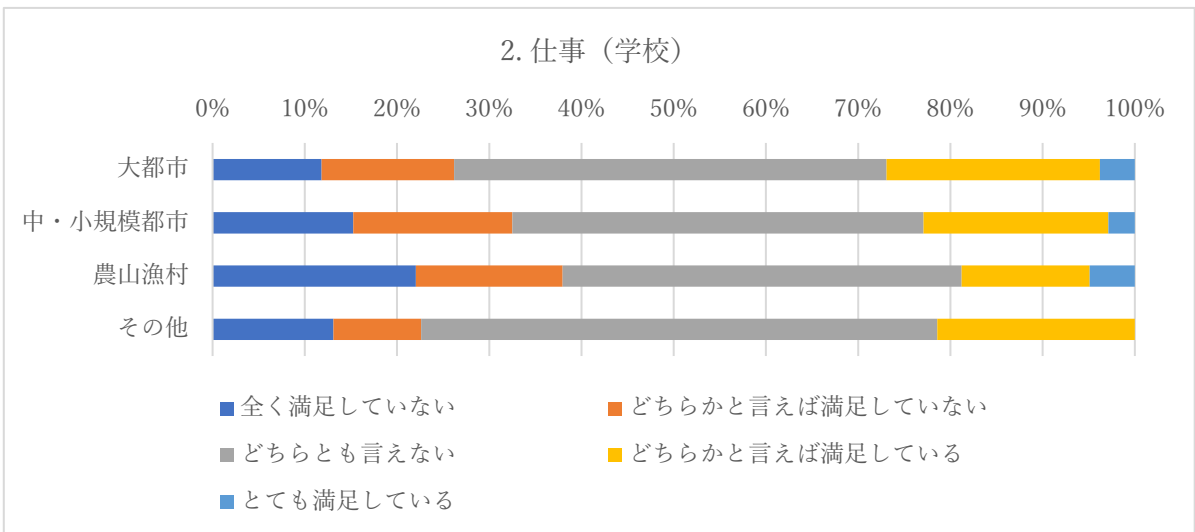
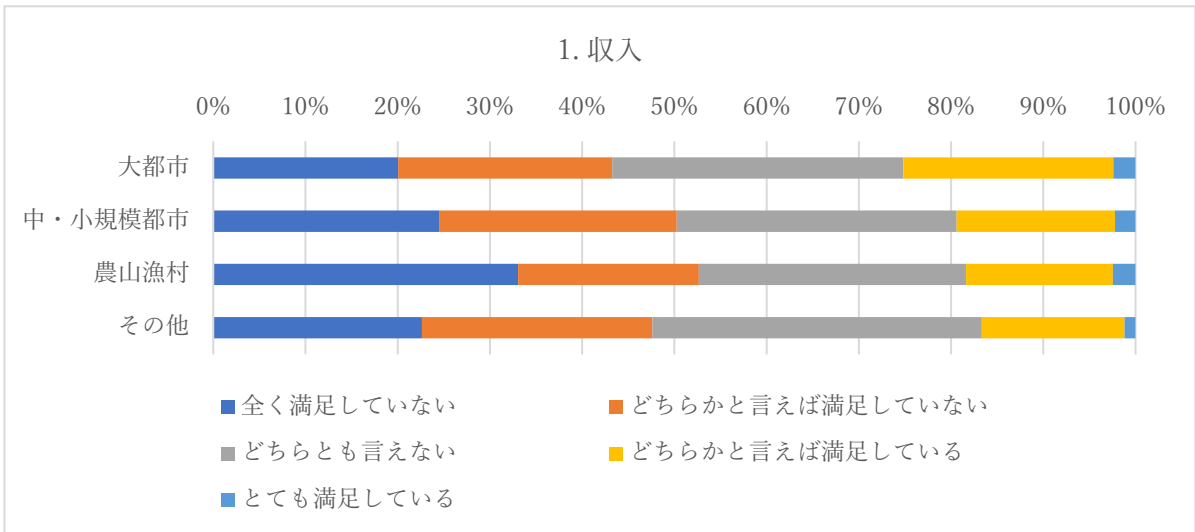
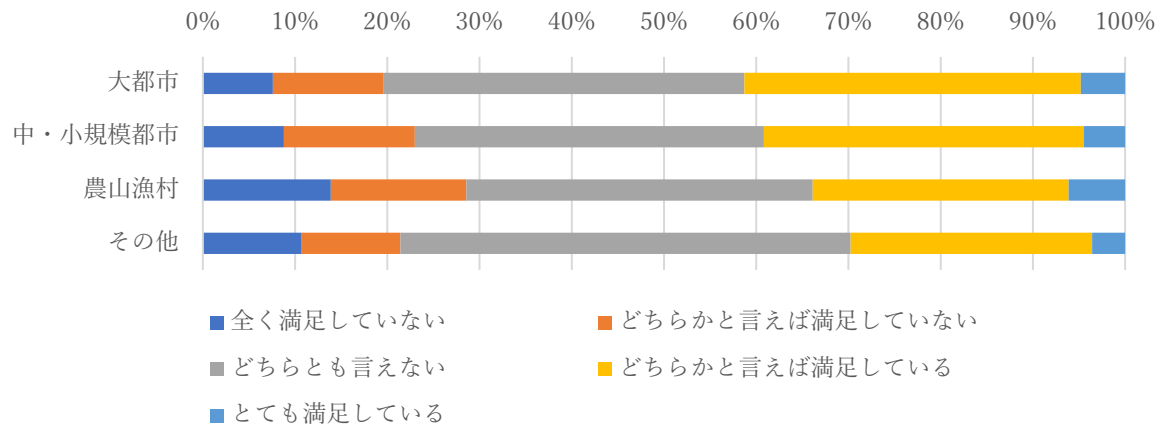


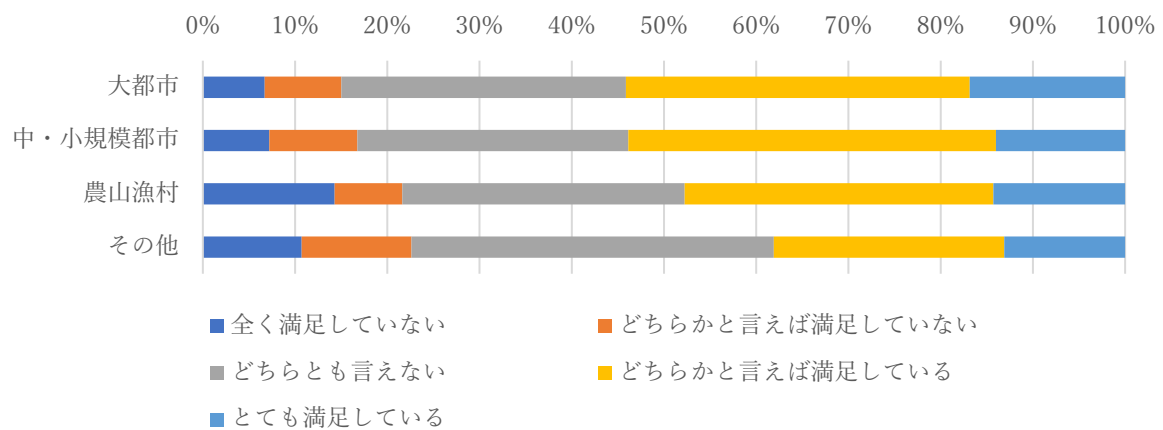
図 20-4. 居住地域別 (N=4171)



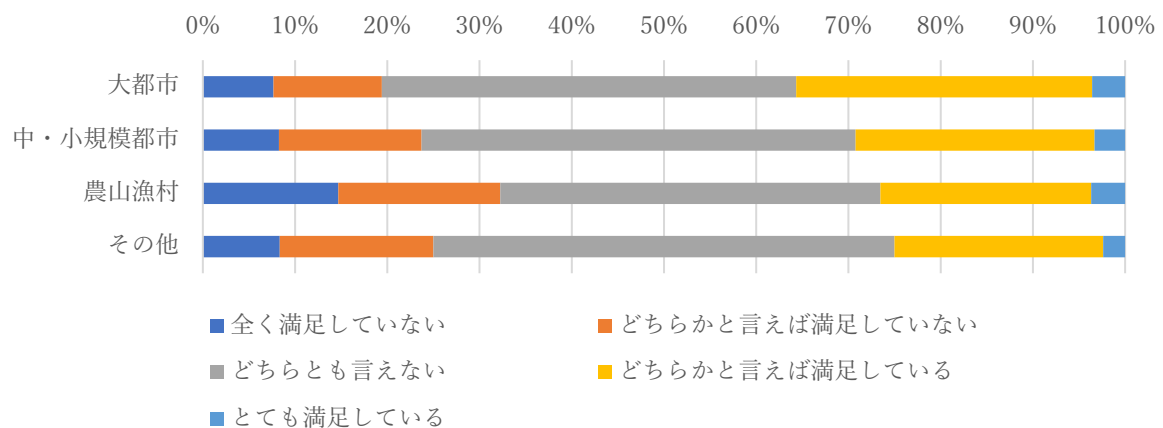
### 3. 人間関係（家族以外）

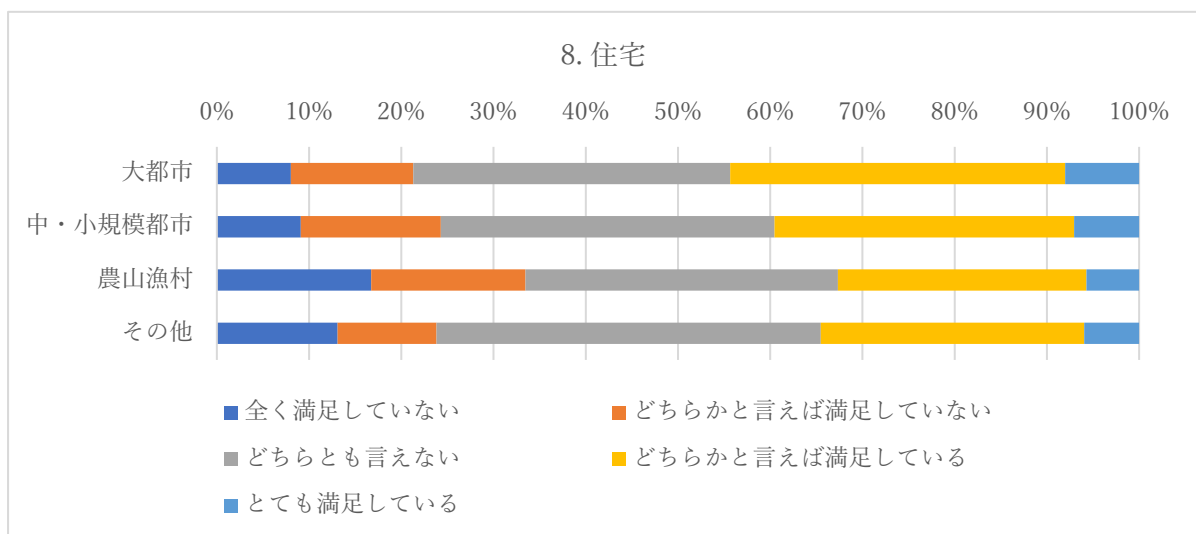
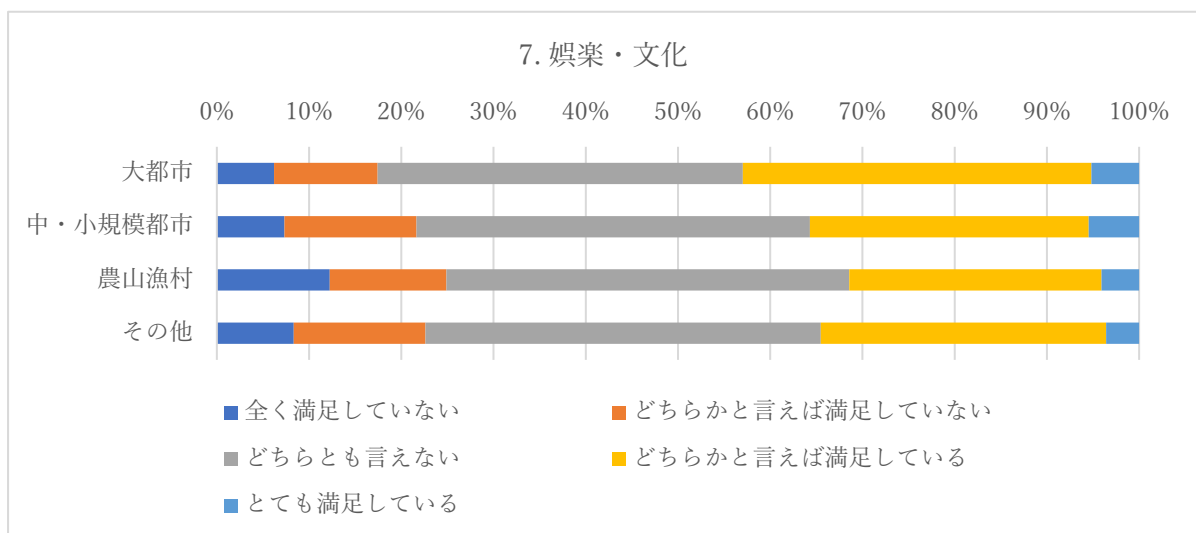
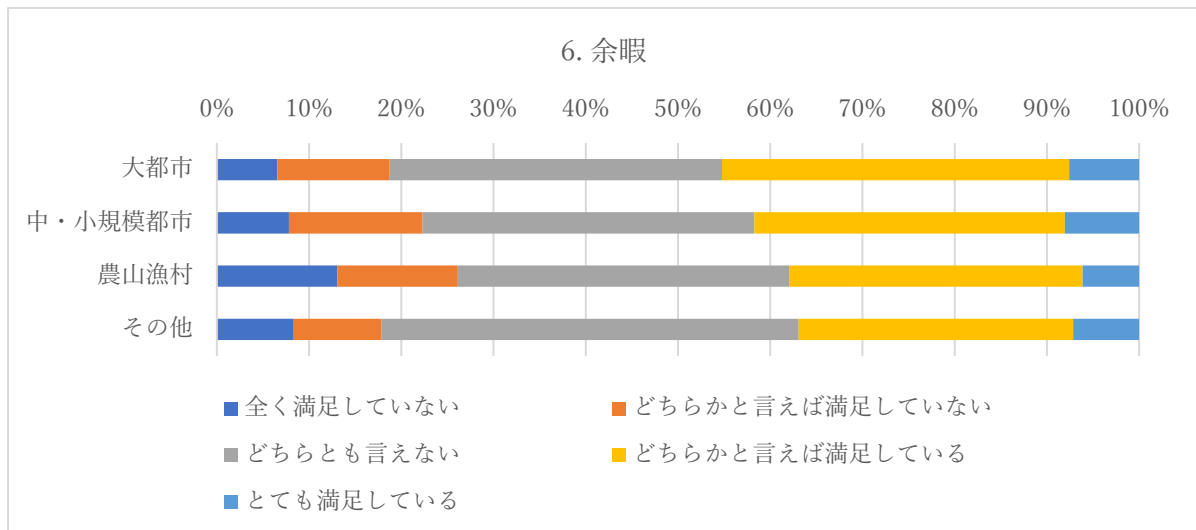


### 4. 家族関係



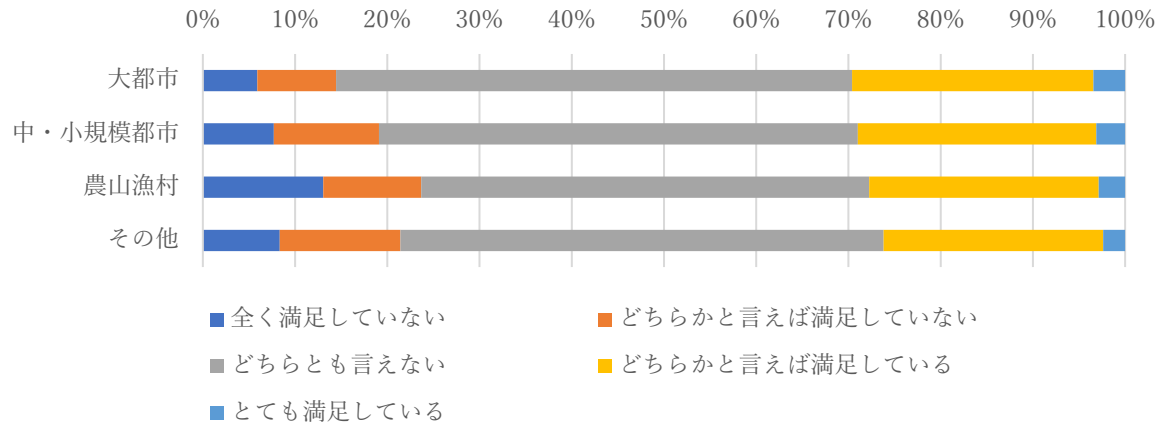
### 5. 消費



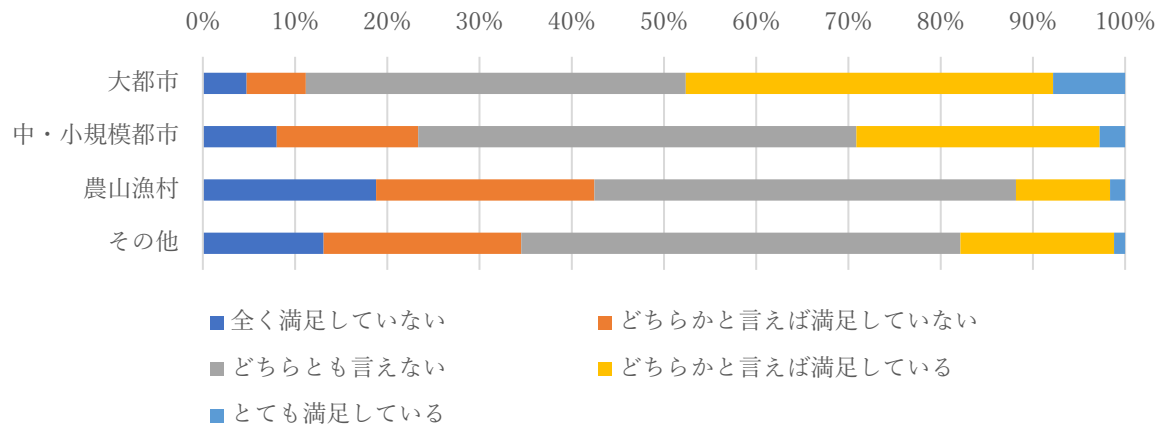




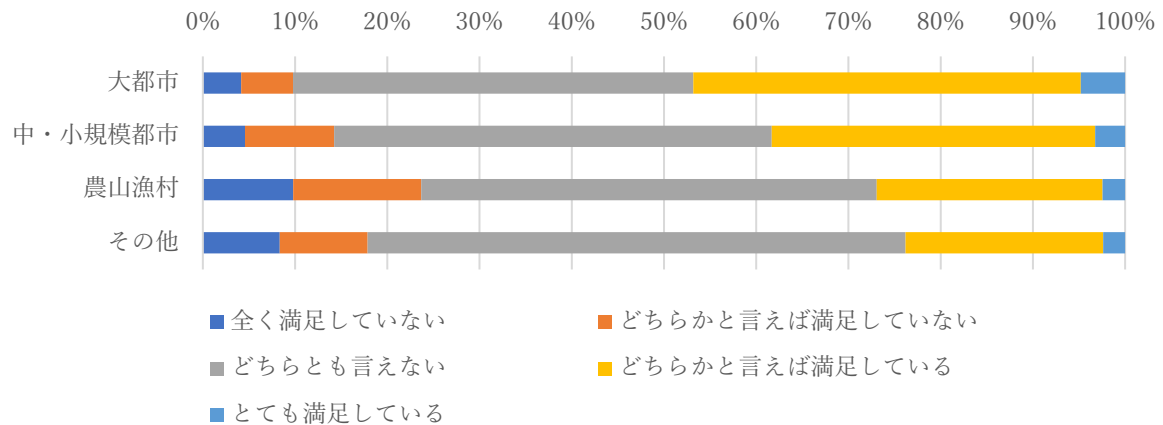
### 9. 近所付き合い

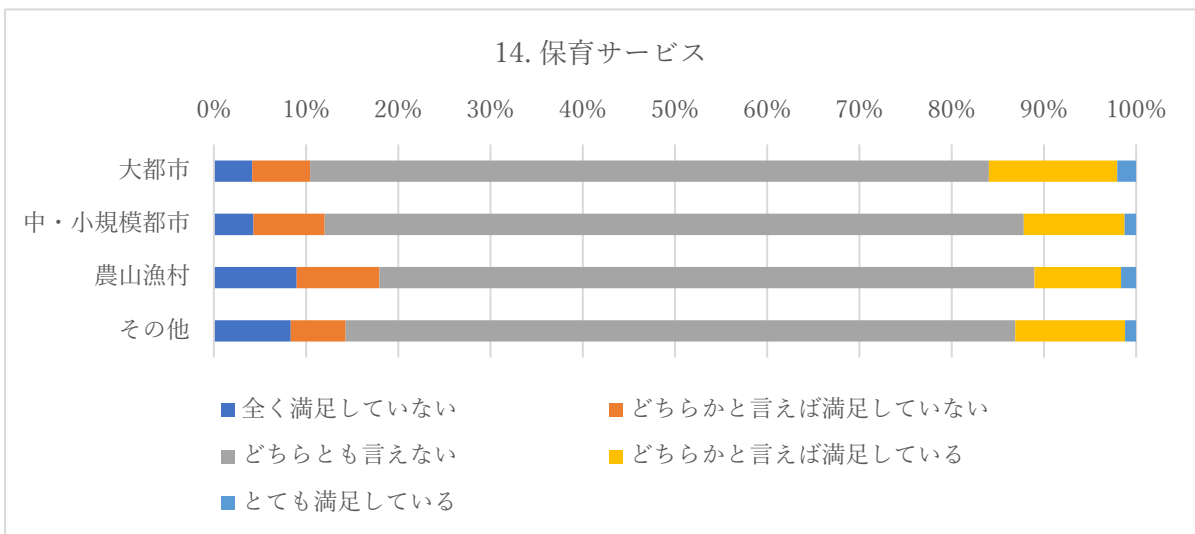
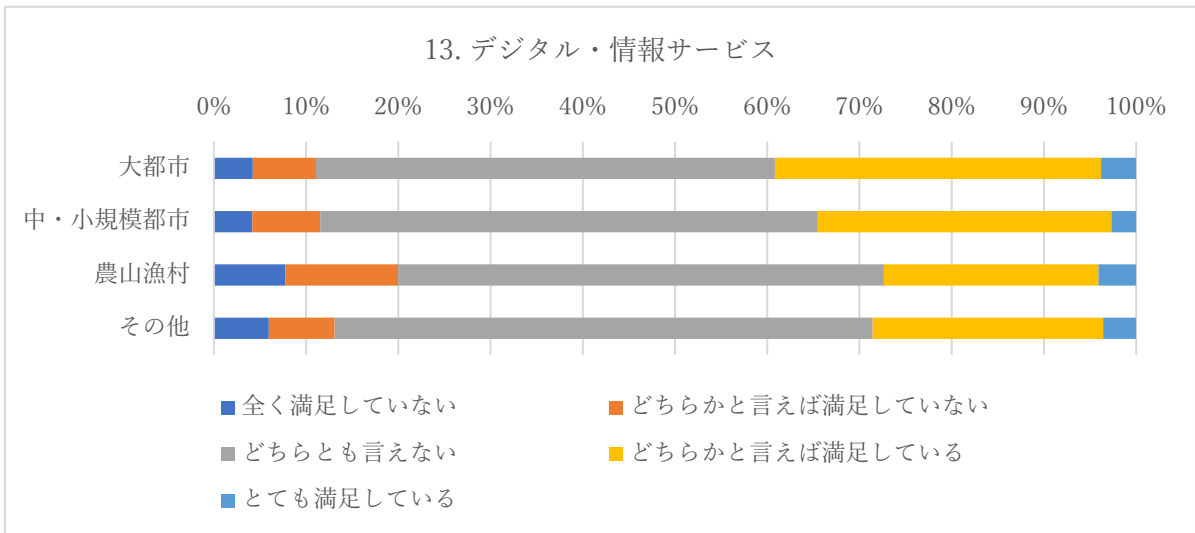
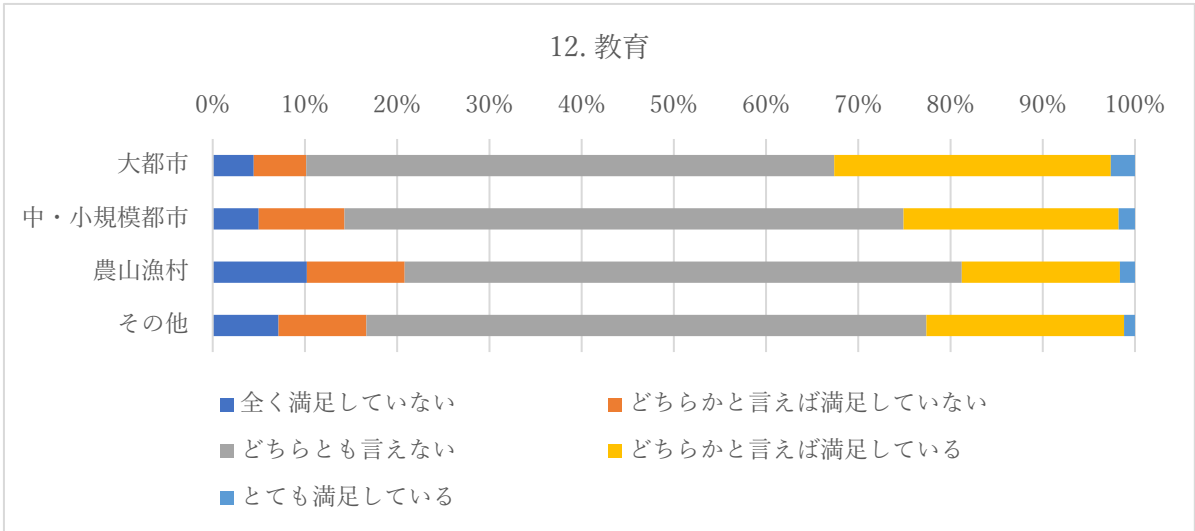


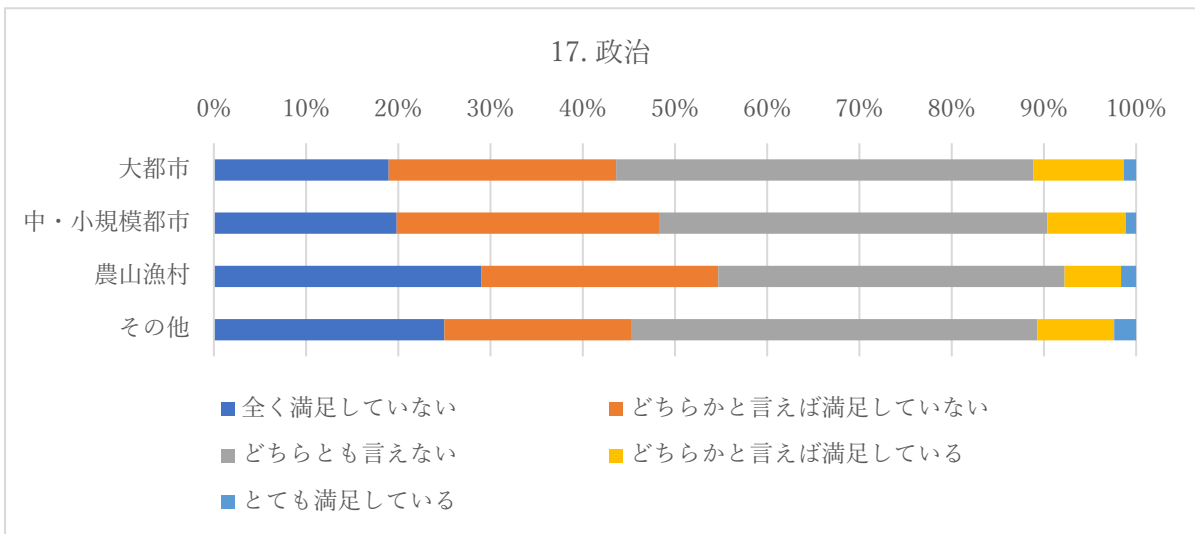
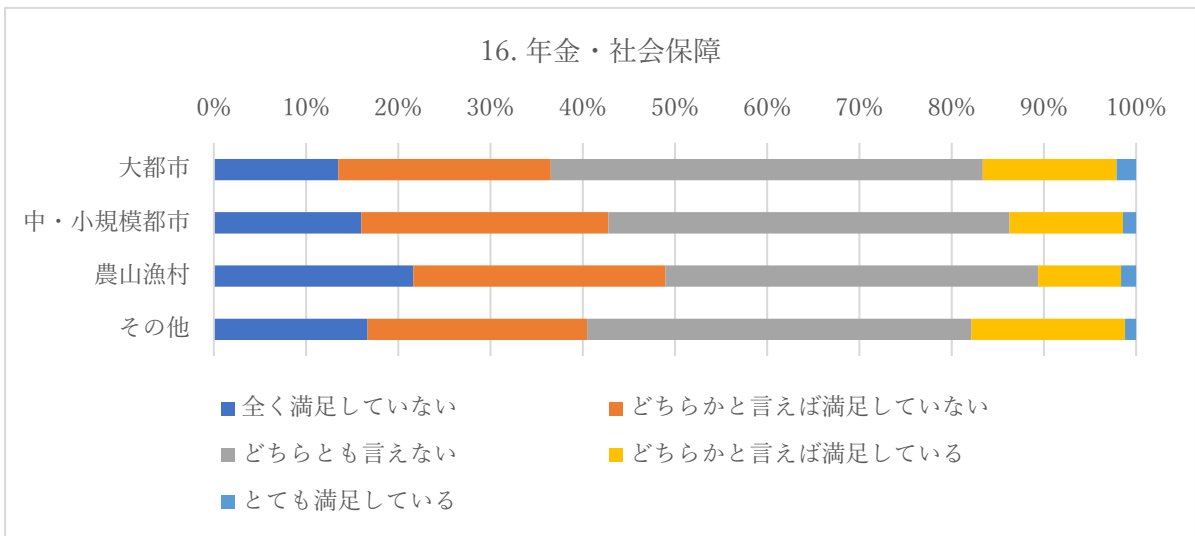
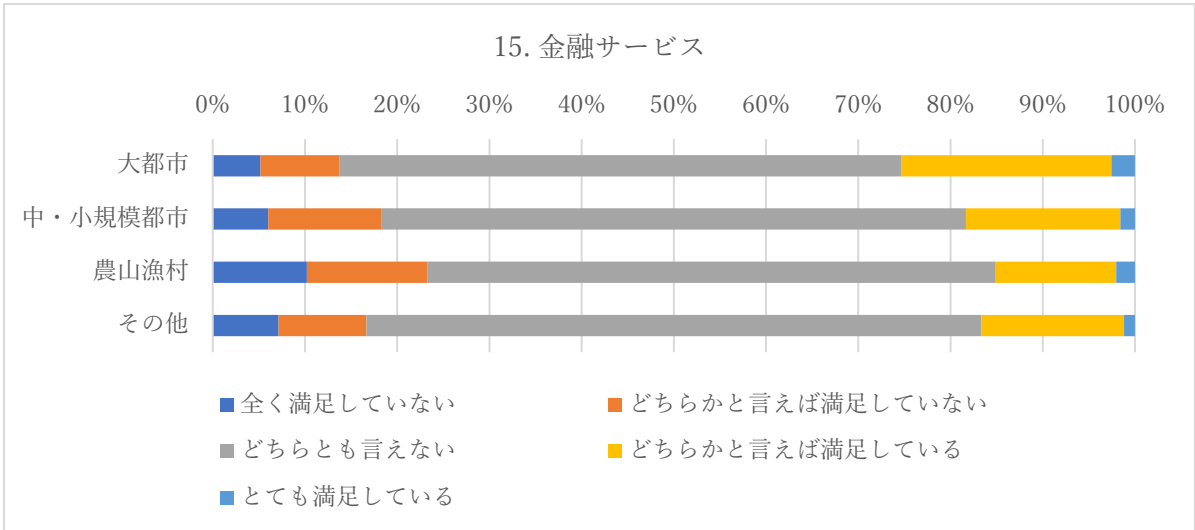
### 10. 交通・インフラストラクチャー

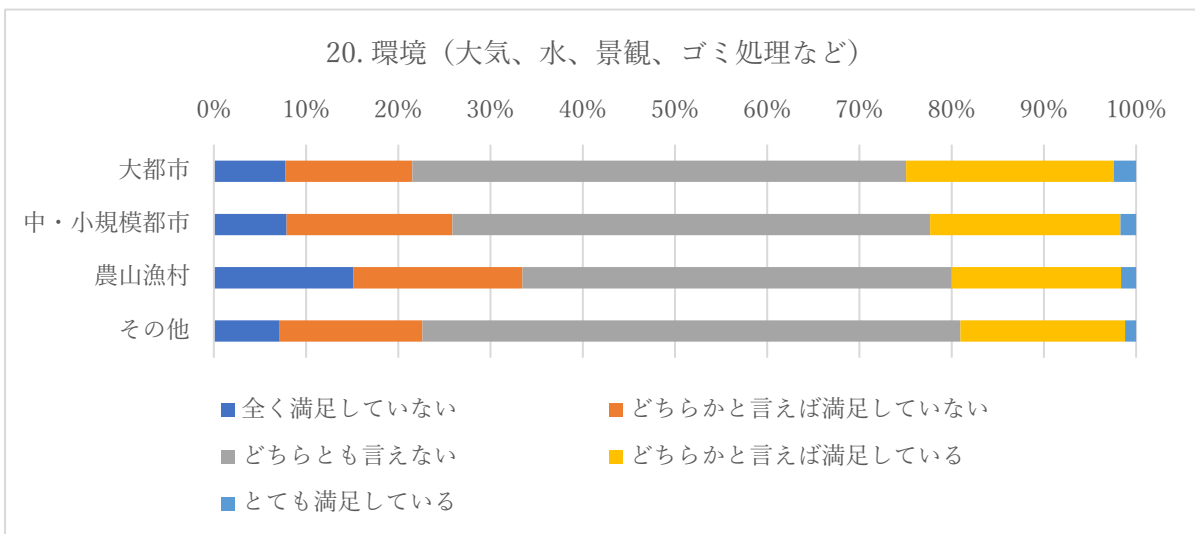
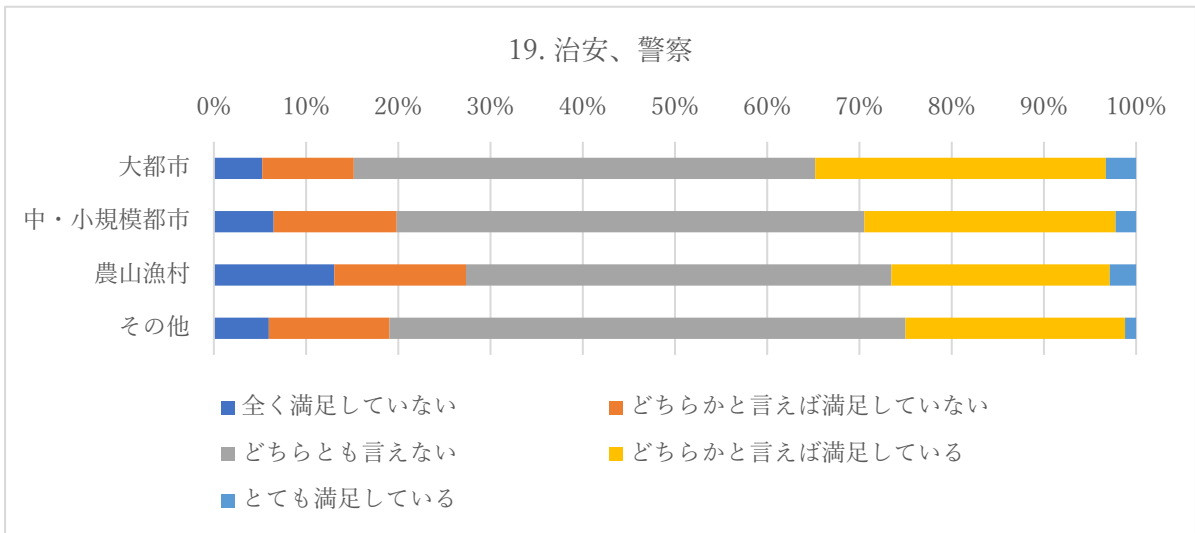
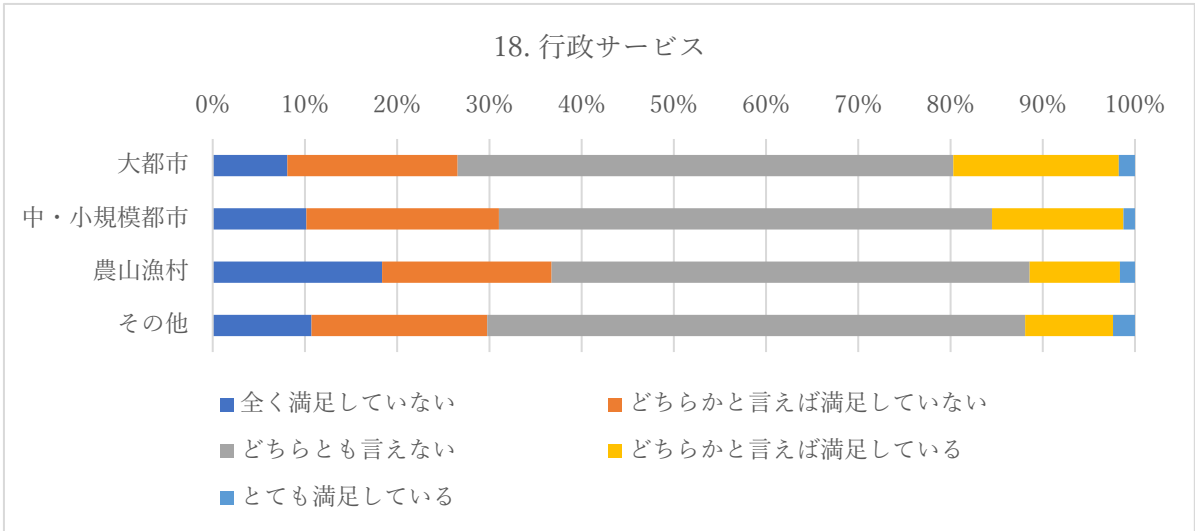


### 11. 医療サービス









Q21. あなたを引き立ててくれる人がいるとすれば誰を想起しますか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	職場の上司	547	13.1
2	公務員	29	0.7
3	政治家	26	0.6
4	学校の先生	116	2.8
5	地域の有力者（個人）	129	3.1
6	その他（具体的にお書きください）	241	5.8
7	誰もいない	3083	73.9

図 21-0. 総計 (N=4171)

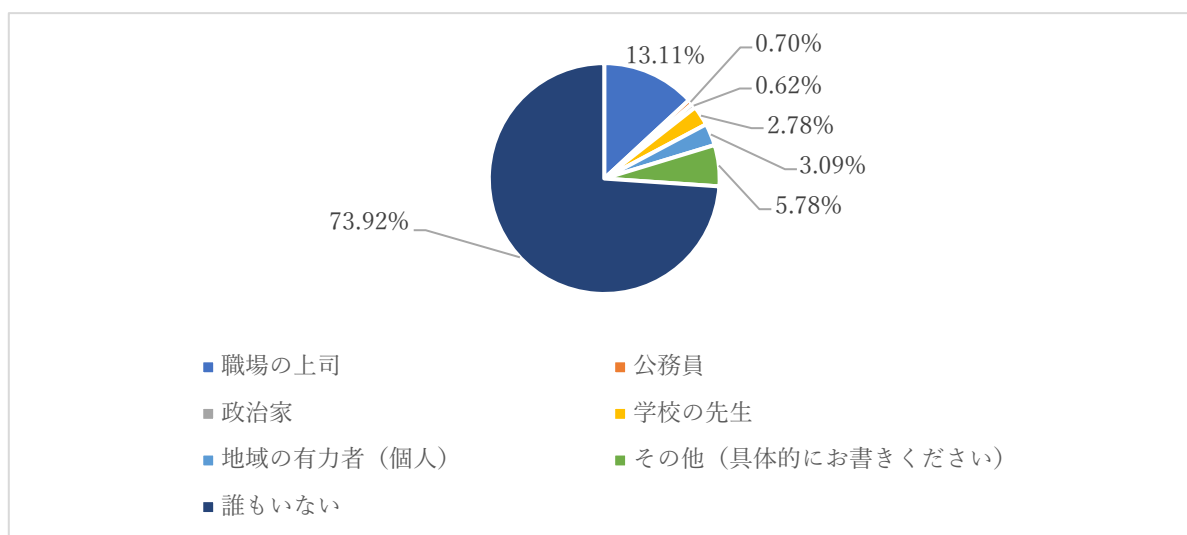


図 21-1. 男女別 (N=4171)

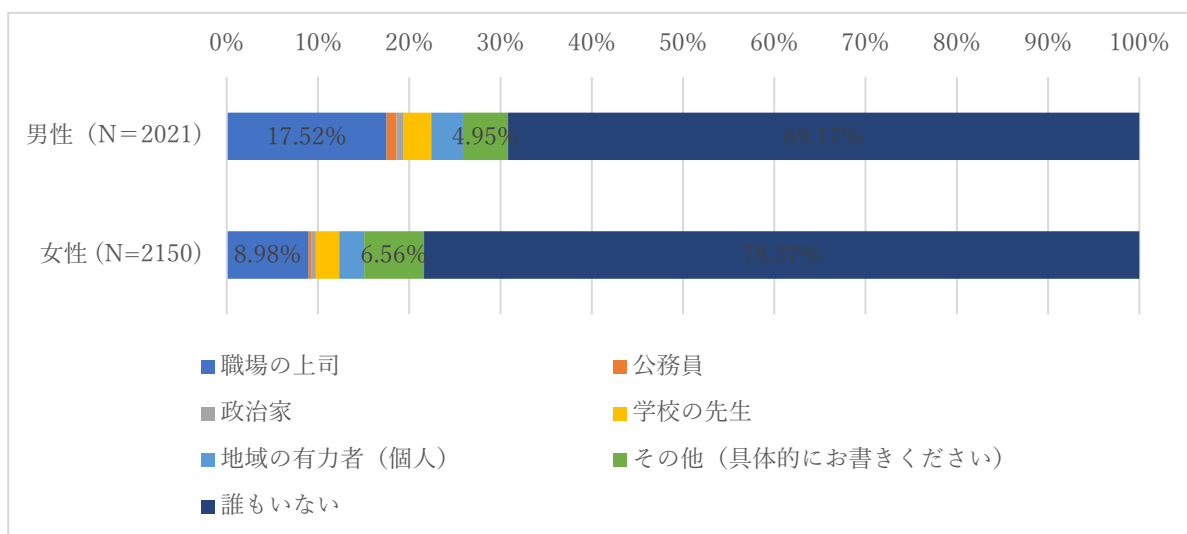


図 21-2. 年齢別 (N=4171)

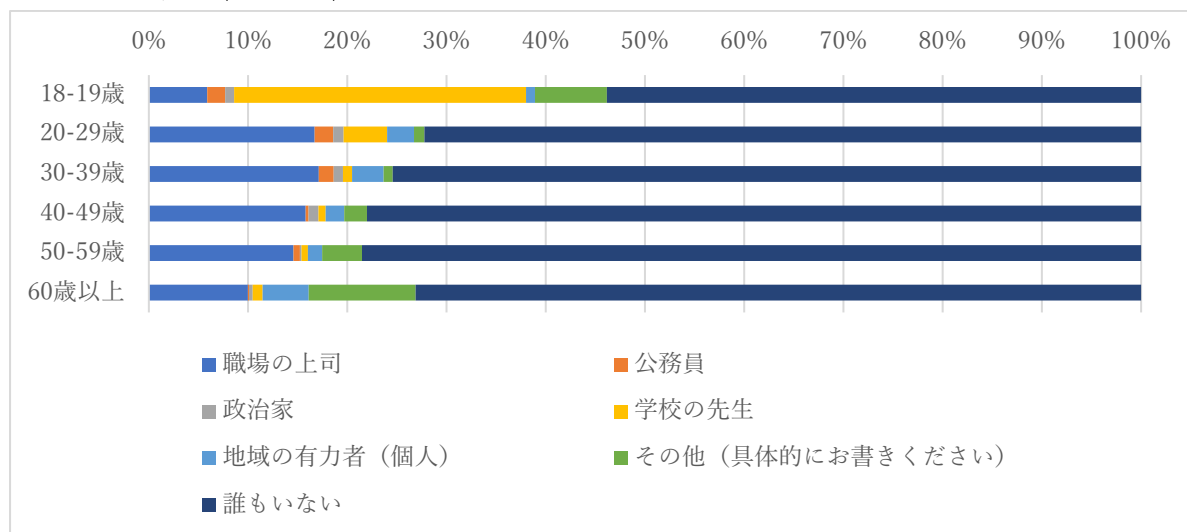


図 21-3. 収入別 (N=2235)

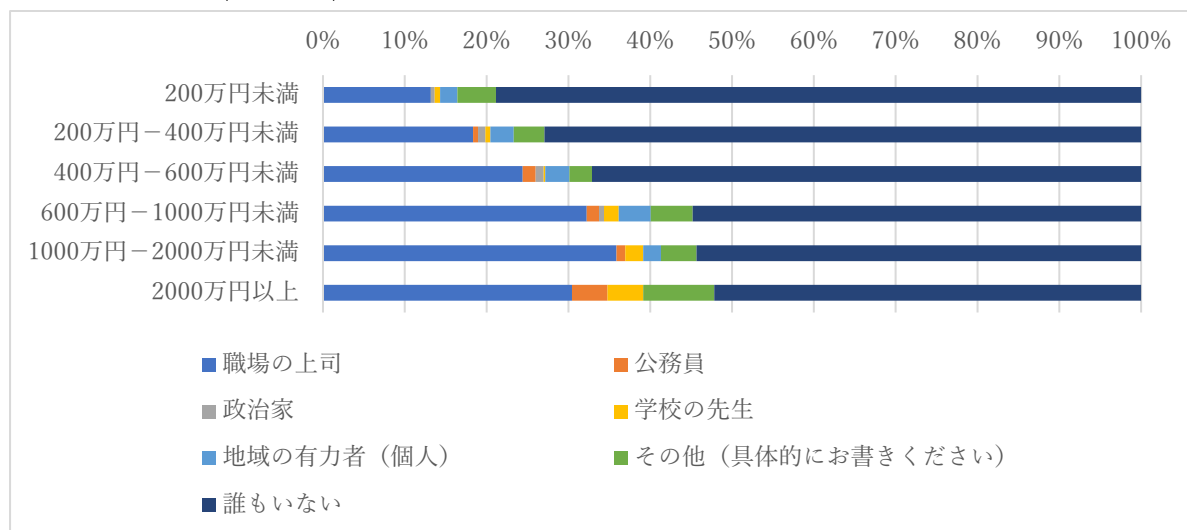
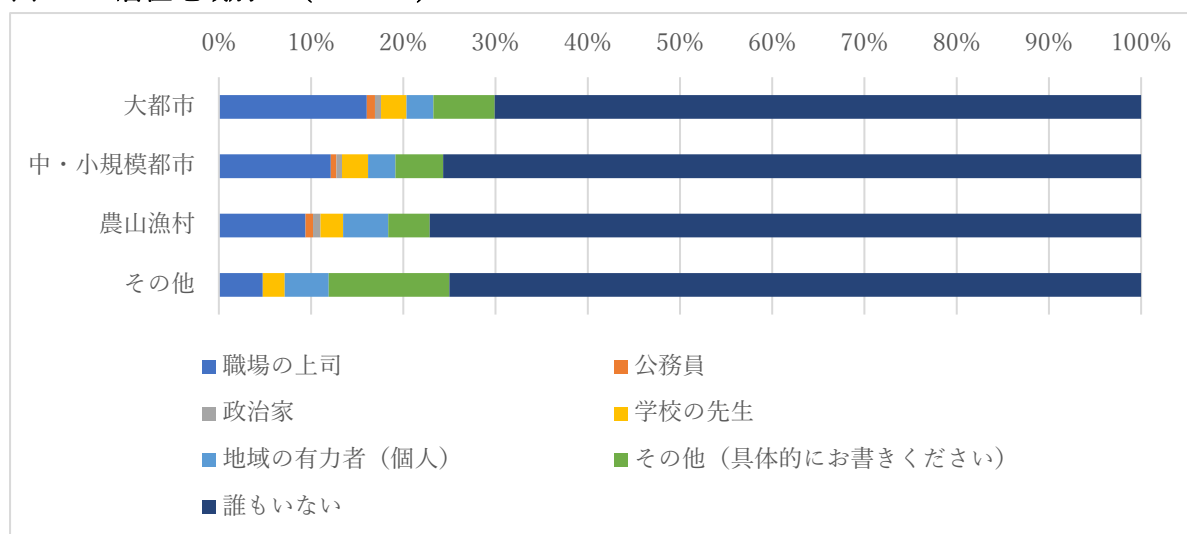


図 21-4. 居住地域別 (N=4171)



Q22. 同じ地域に住んでいる人びとの間には特性の相違がみられることがよくあります。例えば、経済力、社会的地位、民族、言語の違い、さらに宗教や政治信条の違い、年齢や性別による相違もあるでしょう。そうした特性の相違はあなたの地域ではどの程度はっきりとみられますか。以下から1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	ほとんどみられない	873	20.9
2	少しみられる	743	17.8
3	どちらとも言えない	2077	49.8
4	ある程度みられる	385	9.2
5	非常に強くみられる	93	2.2

図 22-0. 総計 (N=4171)

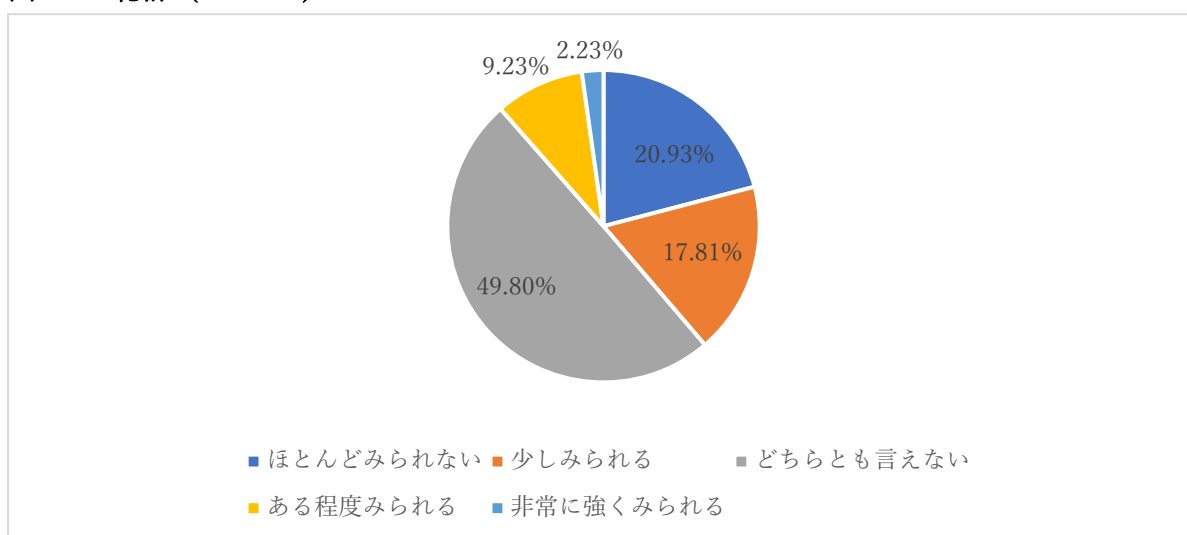


図 22-1. 男女別 (N=4171)

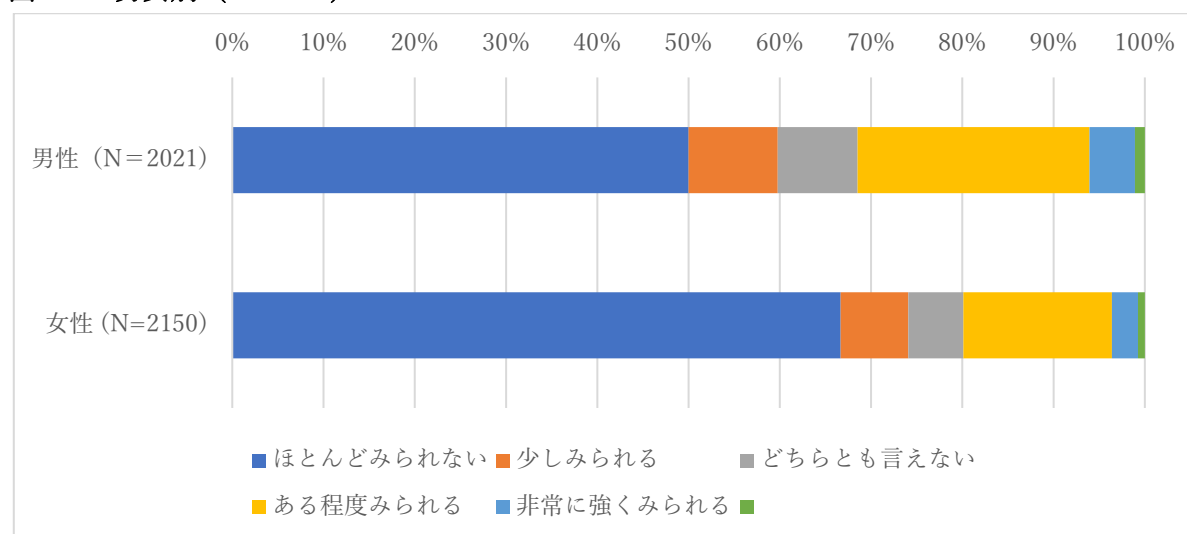


図 22-2. 年齢別 (N=4171)

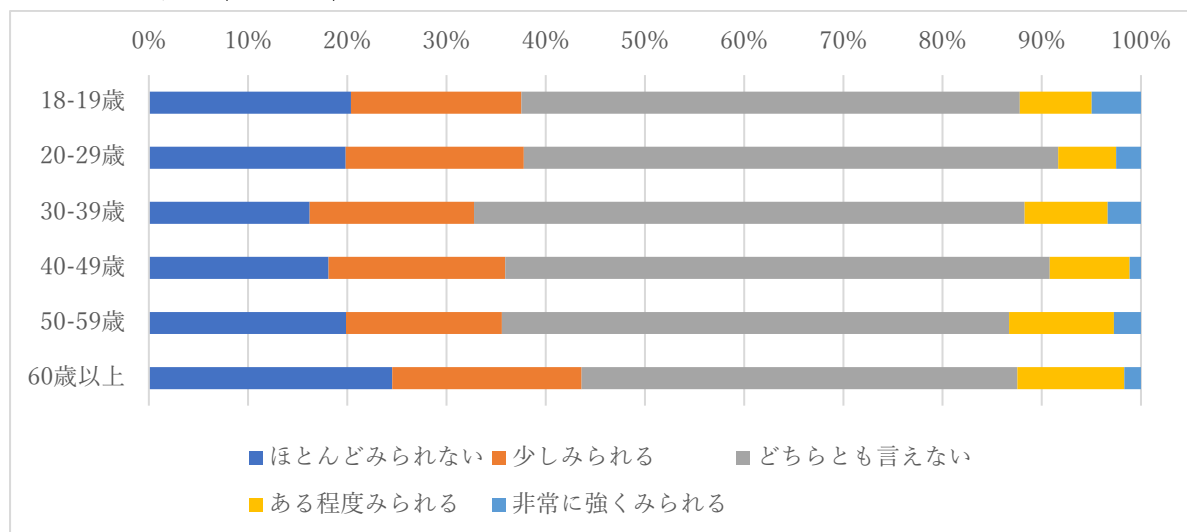


図 22-3. 収入別 (N=2235)

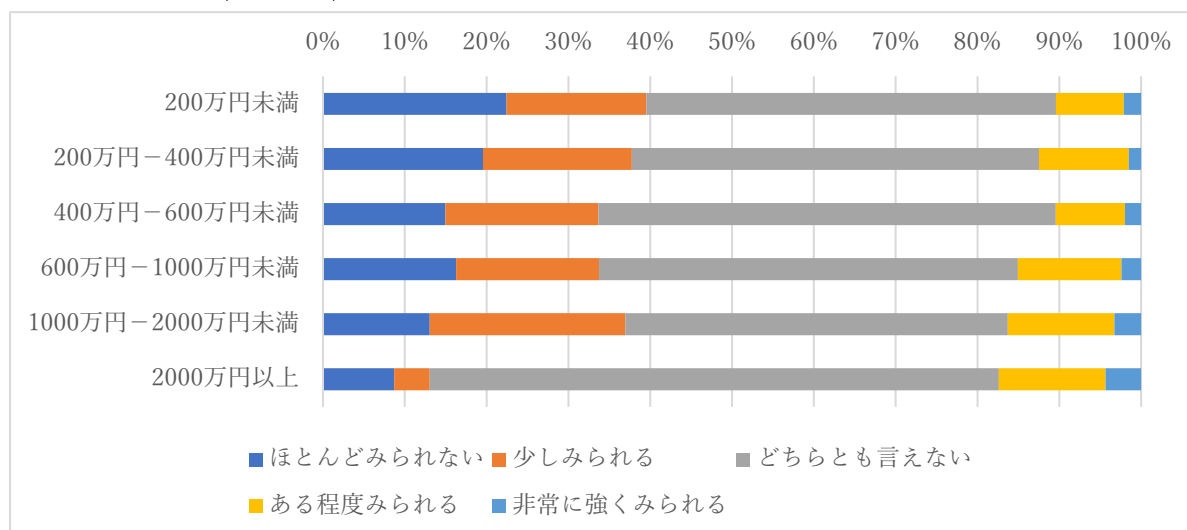
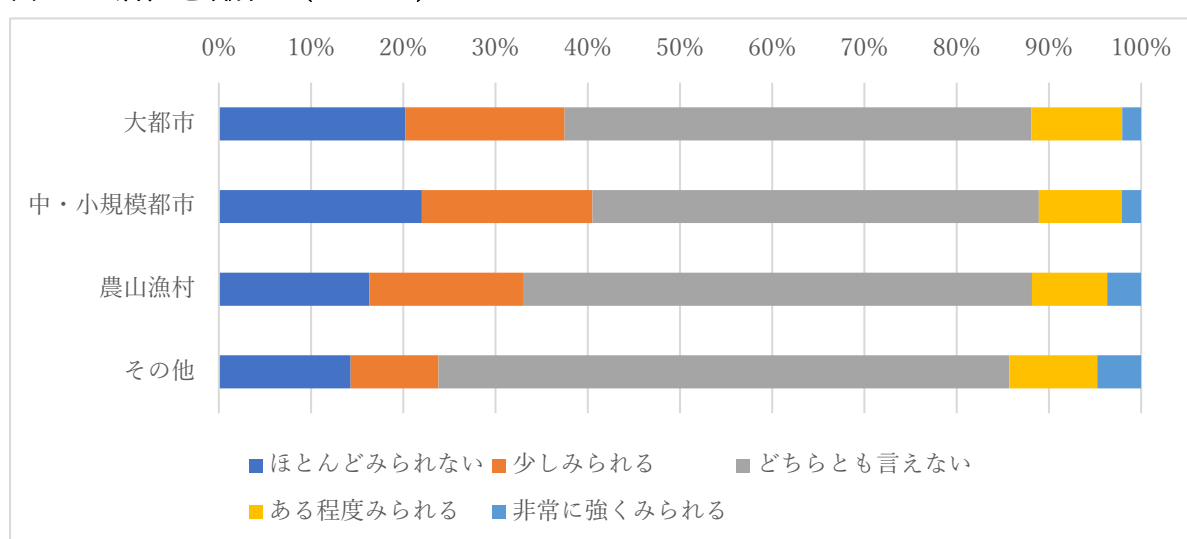


図 22-4. 居住地域別 (N=4171)





Q23. 以下の特性の相違のうち対立を生みやすいと考えられるものを2つまで挙げてください。

全体		実数	%
1	教育の格差	765	18.3
2	土地所有の格差	232	5.6
3	富や物的所有に関する格差	1691	40.5
4	社会的地位の格差	1008	24.2
5	男女間の格差	448	10.7
6	世代間の格差（若者と高齢者）	1059	25.4
7	居住年数の格差（長く住んでいる人と新しく来た人）	398	9.5
8	所属政党の相違	150	3.6
9	宗教上の信条の相違	564	13.5
10	民族あるいは言語的背景の相違	509	12.2
11	その他の相違	426	10.2

図 23-0. 総計 (N=4171)

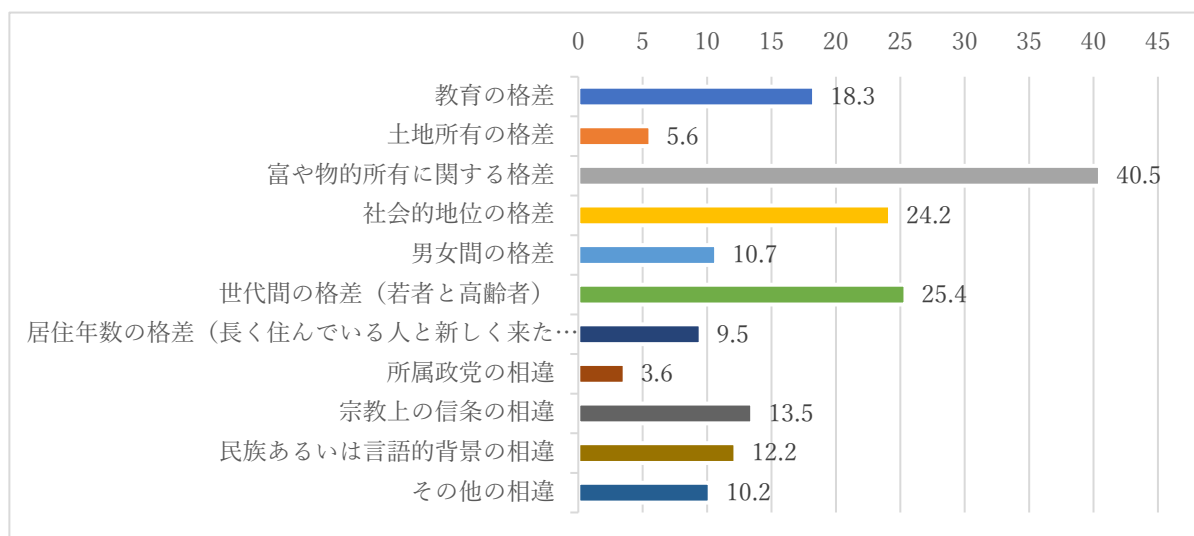


図 23-1. 男女別 (N=4171)

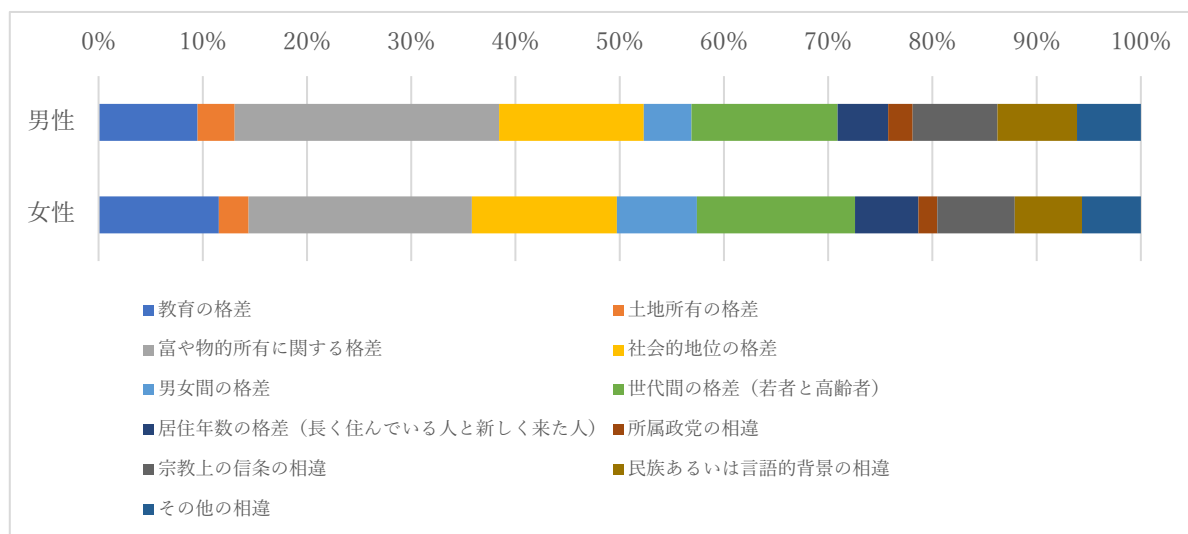


図 23-2. 年齢別 (N=4171)

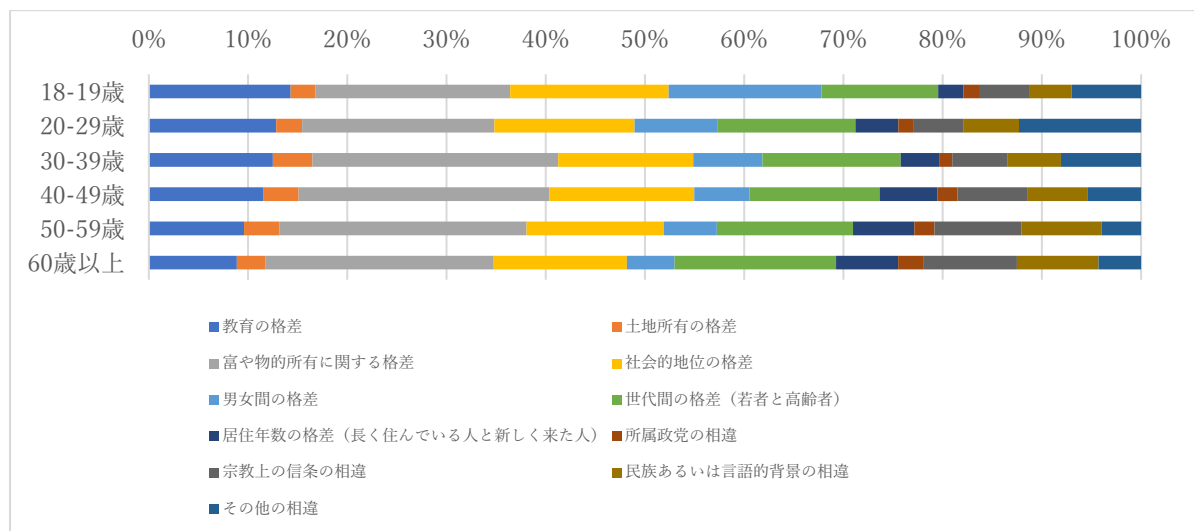


図 23-3. 収入別 (N=2235)

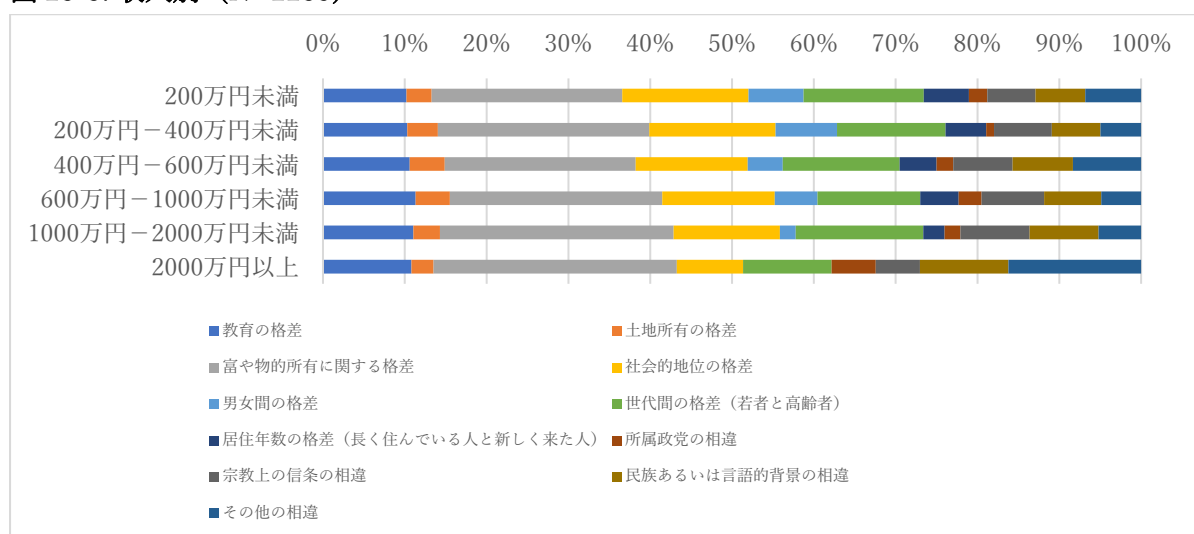
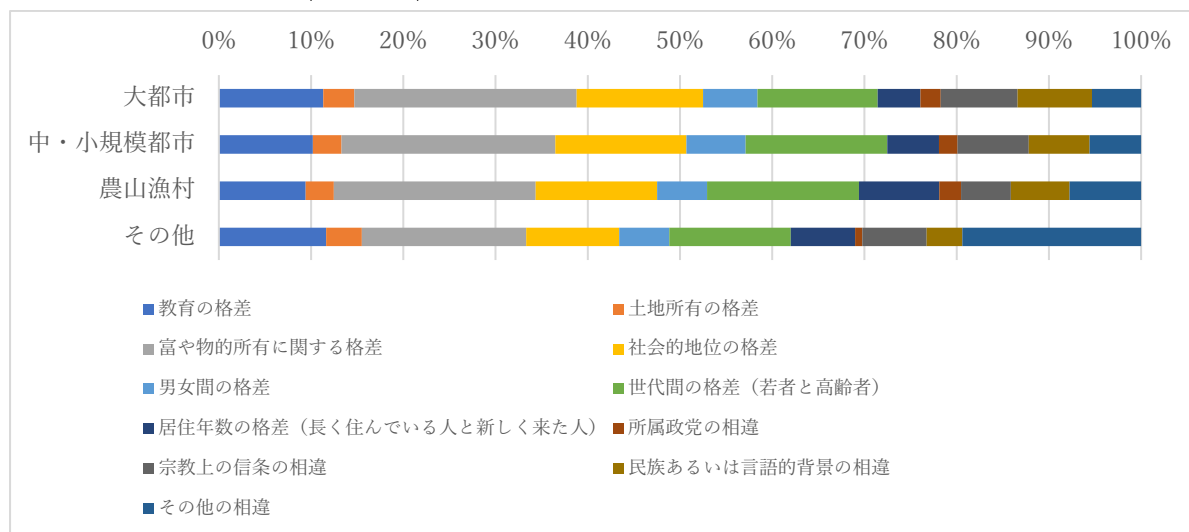


図 23-4. 居住地域別 (N=4171)



### Ⅲ. 市民社会参画について

市民社会参加に関しては、社会問題への関心、ボランティア活動、選挙活動への参加などにかかわる5つの質問に基づいて分析する。個々のアンケート結果については、節末にまとめているので参照されたい。

Q24では、市民参加(civic engagement)の指標の一つとして、社会問題への関心について尋ねている。総計では、いずれの項目に関しても、「上記の問題に対して3人以上で話し合ったことがない」との回答が最も多い。教育問題(16.0%)を除き、いずれの項目に関しても、過去一年で数回程度の話し合いをしたと回答した人は2割強であった。COVID-19の影響で人びとの出会いが難しくなり、そういった話し合いが減ったことも考えられる。

男女別の集計では、大きな差異が見られないが、年齢別の集計では、60歳以上の回答者は他の年齢層に比べ、いずれの項目についても「数回」話し合ったことがあると回答している比率が高い。

収入別の集計では、2000万円以上の収入層を除き、収入が高いほど、地域や社会問題について3人以上で話し合ったことがあると回答している人が多い。

居住地域別では、大都市ほど、地域や社会問題について3人以上で話し合ったことがあると回答している人が多い。

Q25では、市民参加(civic engagement)の指標の一つとして、ボランティア活動への参加について尋ねている。総計のいずれの項目においても参加率が著しく低く、COVID-19の影響を否定できない。地域ボランティアへの参加度が最も高く、13.9%であり、次に、スポーツ・文化(7.9%)、社会的支援を必要とする人びとを対象としたボランティア(8.2%)の順番であった。本結果は岩井・宍戸(2021)の調査結果を著しく下回っているが、COVID-19の影響が大きかったと考えられる。

男女別の集計では、男性のボランティア参加率の方がやや高いことがわかる。年齢別の集計では、いずれのボランティア活動においても、18-19歳のボランティア参加率が高い。

収入別の集計では、2000万円以上の収入層のボランティア参加率がやや高く、一部の項目を除いて収入が上がるにつれてボランティア参加率が高くなる傾向が見られる。

居住地域別の集計では、「地域ボランティア」の項目を除いて大都市ほどボランティア参加率が高くなっている。

Q26では、選挙において、誰かに特定の候補者への投票や、選挙活動への参加を頼まれたことがあるか尋ねたものである。総計では、「頼まれたことがない」の回答が最も多く、68.7%を占めている。頼まれたことがあると答えた人は、身近にいる人に頼まれている傾向が見られる。男女別の集計では、男性の方が「頼まれた経験がある」と回答している比率がやや高く、その中で、「職場の人」を女性より多くあげている。

年齢別の集計では、年齢が上がるにつれて「頼まれた経験がある」の回答が多くなり、また、年齢が高いほど「近所の人」や「友人」の回答比率が高くなる傾向が見られる。また、全ての年齢層において、「家族・親類」、「職場の人」に頼まれたことがあると回答している人が相対的に多い。

居住地域別の集計では、顕著な差異が見られない。

Q27では、市民権、政府、近所付き合いに関する考え方について尋ねている。

まず、「自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、影響を及ぼせるほどの力がない」という項目では、「強く賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた回答が39.9%であり、市民の影響力に限界があると感じている回答者が相対的に多いことが伺える。この結果は岩井・宍戸（2021）の調査結果と整合性がとられている。

男女別の集計では、差異が見られないが、年齢別では、年齢が上がるにつれて政府に影響を及ぼすことができると感じる回答者が少なくなっている。収入別では、大きな差異が見られないが、居住地域別では、「その他地域」に居住する回答者の「強く賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた回答が比較的低い。

次に、「政治や政府は複雑なので、何をやっているのかよく理解できない」という項目では、「強く賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた回答が38.7%であり、日本社会では政治や政府への理解がやや不十分であることがわかる。この結果は岩井・宍戸（2021）の調査結果と整合性がとられている。女性の方が政府・政治への理解度が低い。年齢別の集計では、顕著な差異が見られないが、収入が上がるにつれて政治への理解度が低くなる傾向が見られる。居住地域別の集計では、「中・小規模都市」と「農山漁村」の回答者の方が政治や政府への理解度が低い。

「私は政治に対して関心がある」という項目では、「強く賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた回答が39.2%であり、男性の回答者の方が政治に関心を示している。年齢別の集計では、年齢が上がるにつれて政治への関心が高くなっており、60歳以上の年齢層では、政治に関心を持つ割合がおよそ45%となっている。収入別では、1000-2000万未満の回答者が最も政治に関心を示している。居住地域別では、大都市ほど政治への関心の高さが見られる。

「私は社会のために役に立ちたい」という項目では、「強く賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた回答が34.9%であり、岩井・宍戸（2021）の調査結果（60.1%）を大きく下回っている。属性別の集計では、男女の差異がないが、年齢別では、18-19歳と60歳以上の「強く賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた肯定的な回答が多い。収入別では、600-2000万円未満の年齢層はより社会のために役に立ちたいと回答している。居住地域別では、大都市ほど社会のために役に立ちたい傾向が強い。

「近所の人とは、お互いを気にかけている」という項目では、「強く賛成」と「どちらかと言えば賛成」を合わせた回答が26.4%であり、近隣関係がやや薄くなっていることがわかる。男女別では差異がなく、年齢別では、18-19歳と60歳以上の肯定的な回答が多い。収入別では、2000万円以上の収入層を除いて、収入が上がるにつれて「近所の人とは、お互いに気にかけている」と回答している人がやや増加傾向にある。居住地域別では、住んでいる地域規模が小さいほど肯定的な回答が多い。女性および18-19歳と60歳以上の年齢層では、肯定的な回答が多く見られる。一方、収入別と居住地域別では、大きな差異が見られない。

Q28では、住民が共同で政治家や役所に対して陳情を行ったり請願書を提出したりしたことがあるか否か、尋ねた質問である。総計では、93.2%の回答者が「一度もない」と回答している。男女別の集計では、男性の方が「一度のみ」そういった活動の経験があると回答している。年齢別では、18-39歳また60歳以上の年齢層では、そういった活動の経験が「一度のみある」と回答している。収入の高い回答者ほど、そういった活動の経験がやや高くなっている。居住地域別では、差異が見られない。

Q24. 過去1年間に、以下のような地域や社会の問題について3人以上で話し合うことがどのくらいありましたか（オンラインも含む）。項目ごとに1つ選んでください。

		全体	まったく くない	数回	ほぼ 毎月	ほぼ 毎週
環境問題（大気、水、騒音、廃棄物、山火事、洪水など）	%	100.0	74.7	20.9	3.4	0.9
	実数	4171	3117	873	142	39
教育問題（教育費、塾、青少年の非行など）	%	100.0	80.2	16.0	3.2	0.6
	実数	4171	3345	667	132	27
安全・安心（防災、防犯など）	%	100.0	69.1	25.5	4.6	0.8
	実数	4171	2882	1063	191	35
消費者問題（食品の安全性、モノの品質、物価変動など）	%	100.0	70.9	22.7	5.3	1.1
	実数	4171	2958	947	221	45
社会的問題（年金、失業その他の社会的給付、税金、医療など）	%	100.0	68.7	25.2	5.2	0.9
	実数	4171	2864	1053	216	38

図 24-0. 総計 (N=4171)

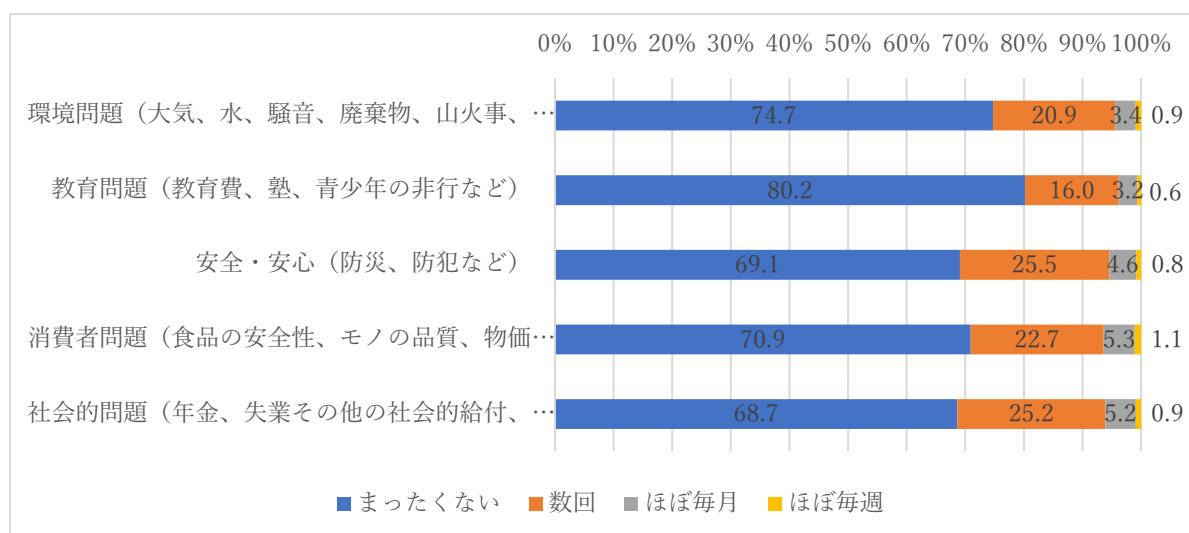


図 24-1. 男女別 (N=4171)

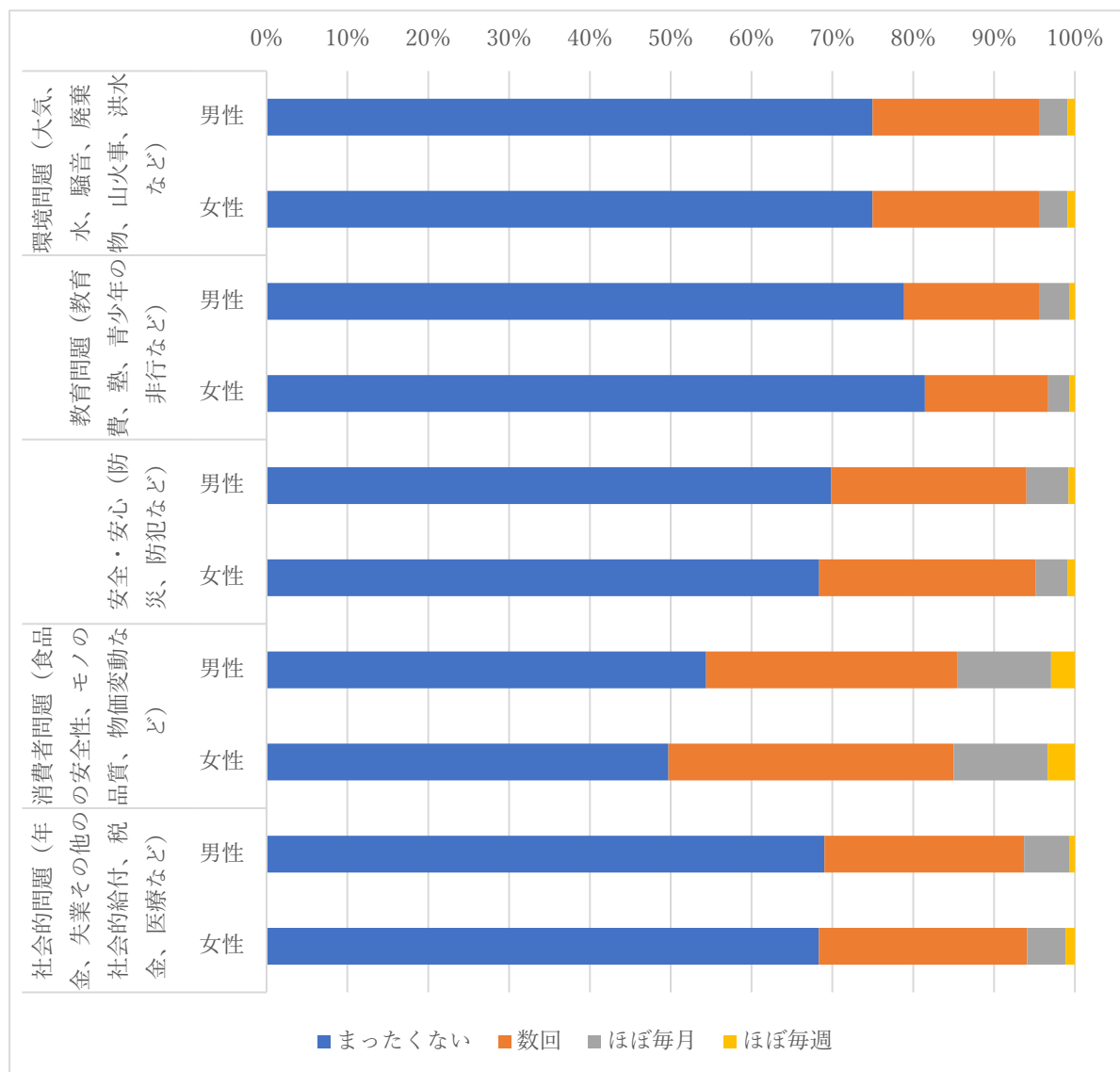


図 24-2. 年齢別 (N=4171)

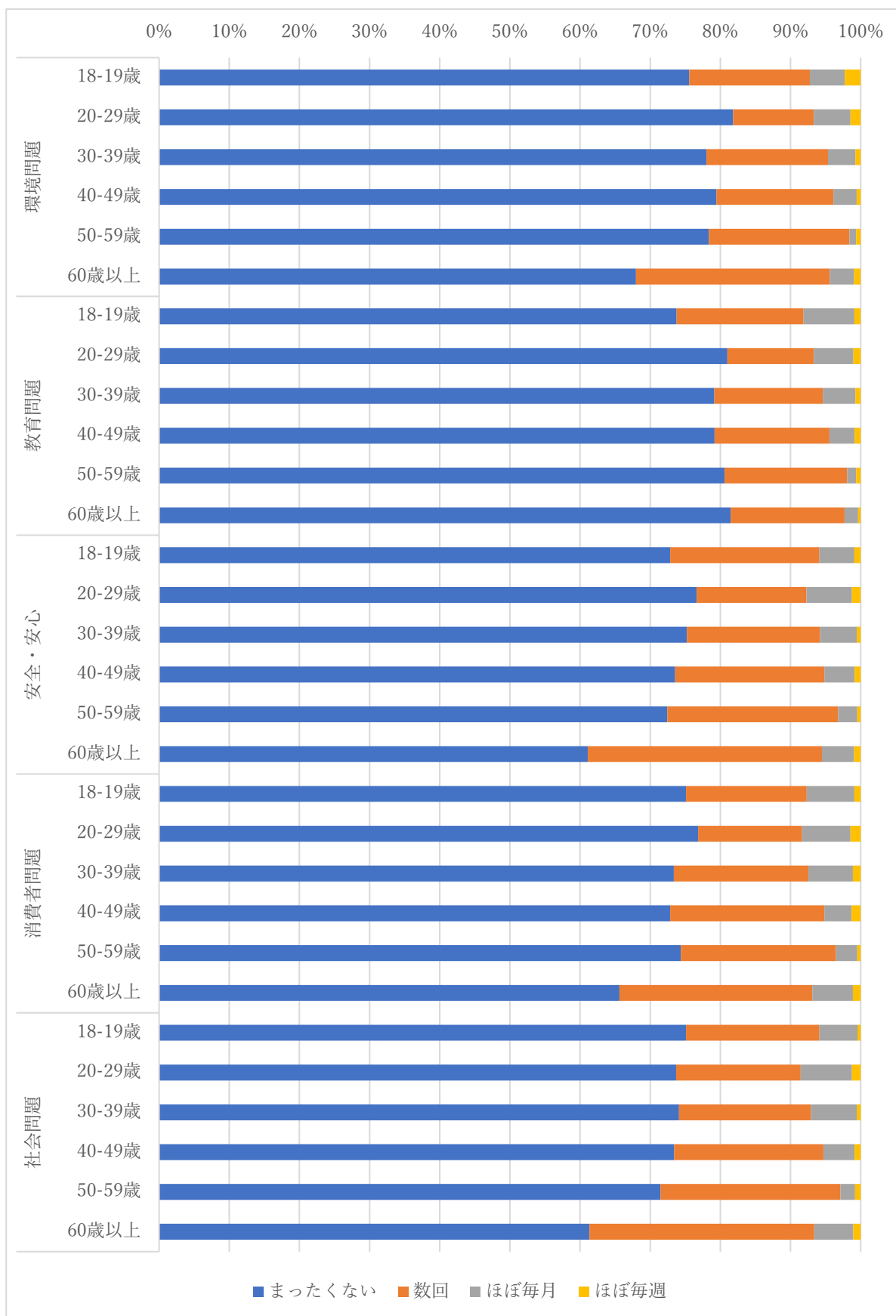




図 24-3. 収入別 (N=2235)

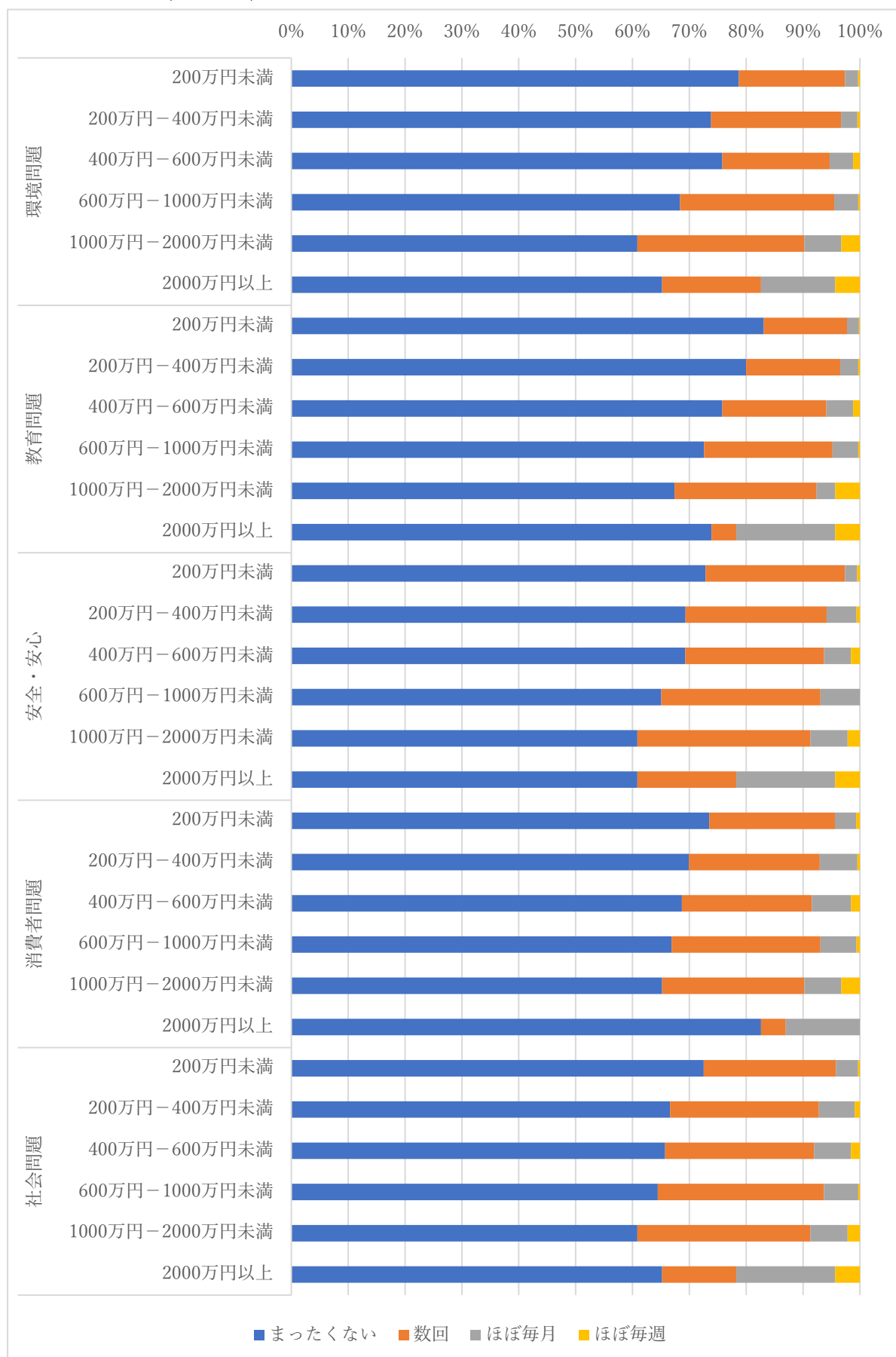
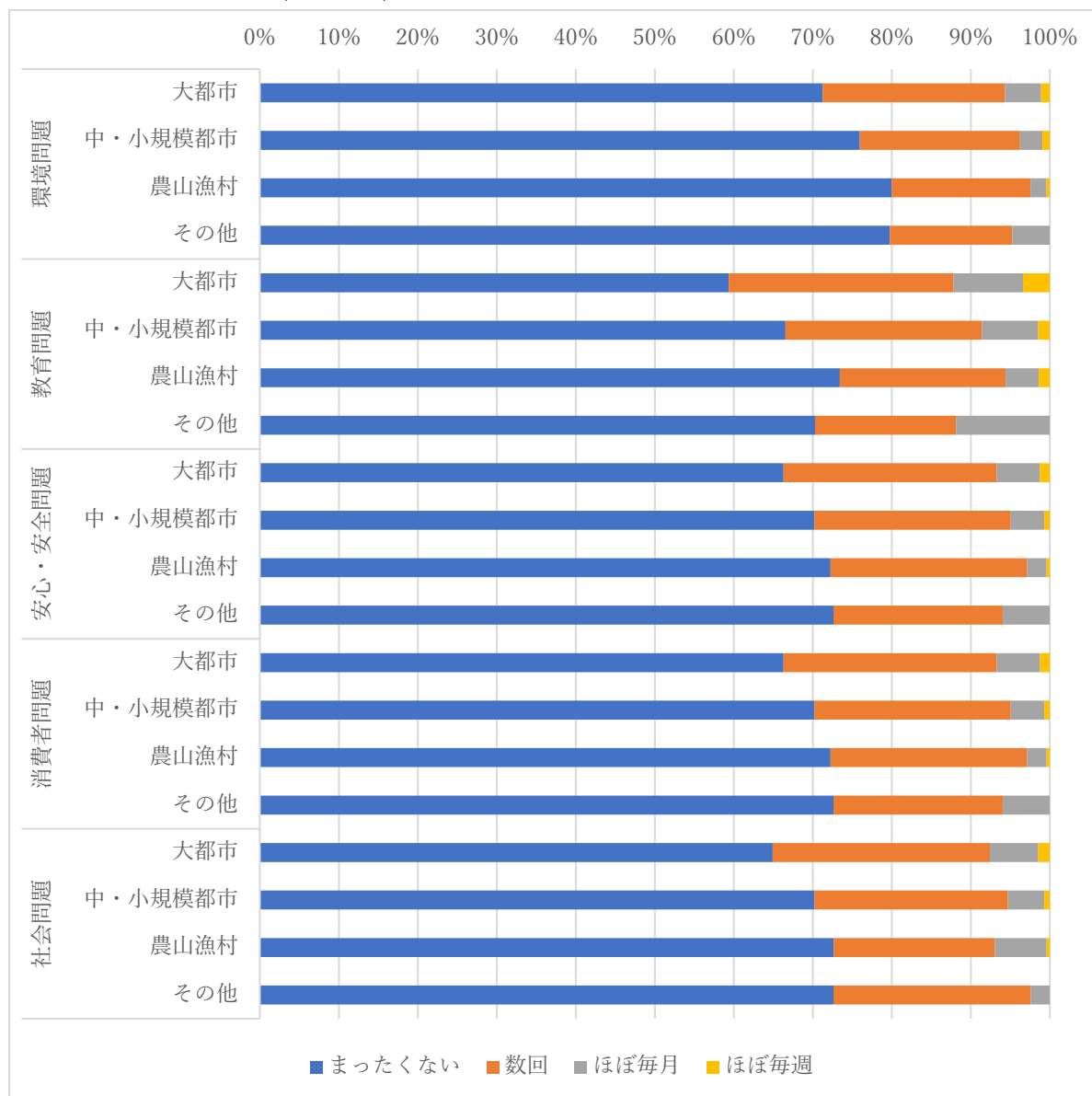


図 24-4. 居住地域別 (N=4171)



Q25. 過去1年間にボランティア活動に参加したことがありますか (オンラインも含む)。

		全体	はい	いいえ
自分の住んでいる地域をよくするためのボランティア (活動環境の改善、治安の向上、街の活性化、その他)	%	100.0	13.9	86.1
	実数	4171	581	3590
スポーツ・文化・芸術・学術に関連したボランティア活動 (スポーツのコーチ、伝統文化の継承、専門的知識の伝達、その他)	%	100.0	7.9	92.1
	実数	4171	329	3842
社会的な支援を必要とする人びとを対象としたボランティア活動 (障がい者、子ども、高齢者、その他)	%	100.0	8.2	91.8
	実数	4171	343	3828
政治的問題に関連した活動 (請願書への署名、デモや抗議運動への参加、その他)	%	100.0	4.2	95.8
	実数	4171	177	3994

図 25-0. 総計 (N=4171)

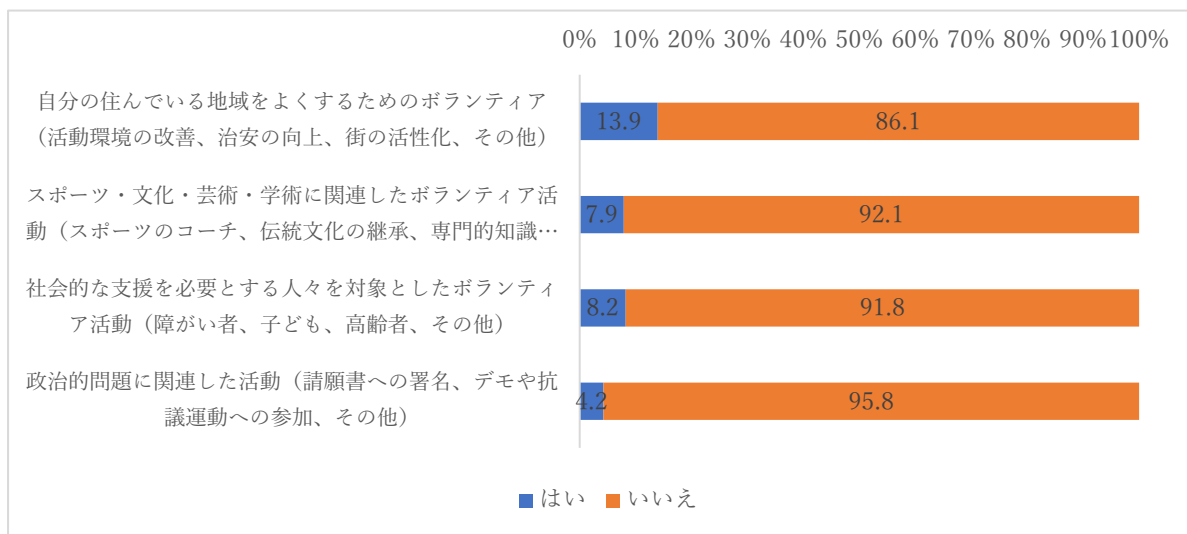


図 25-1. 男女別 (N=4171)

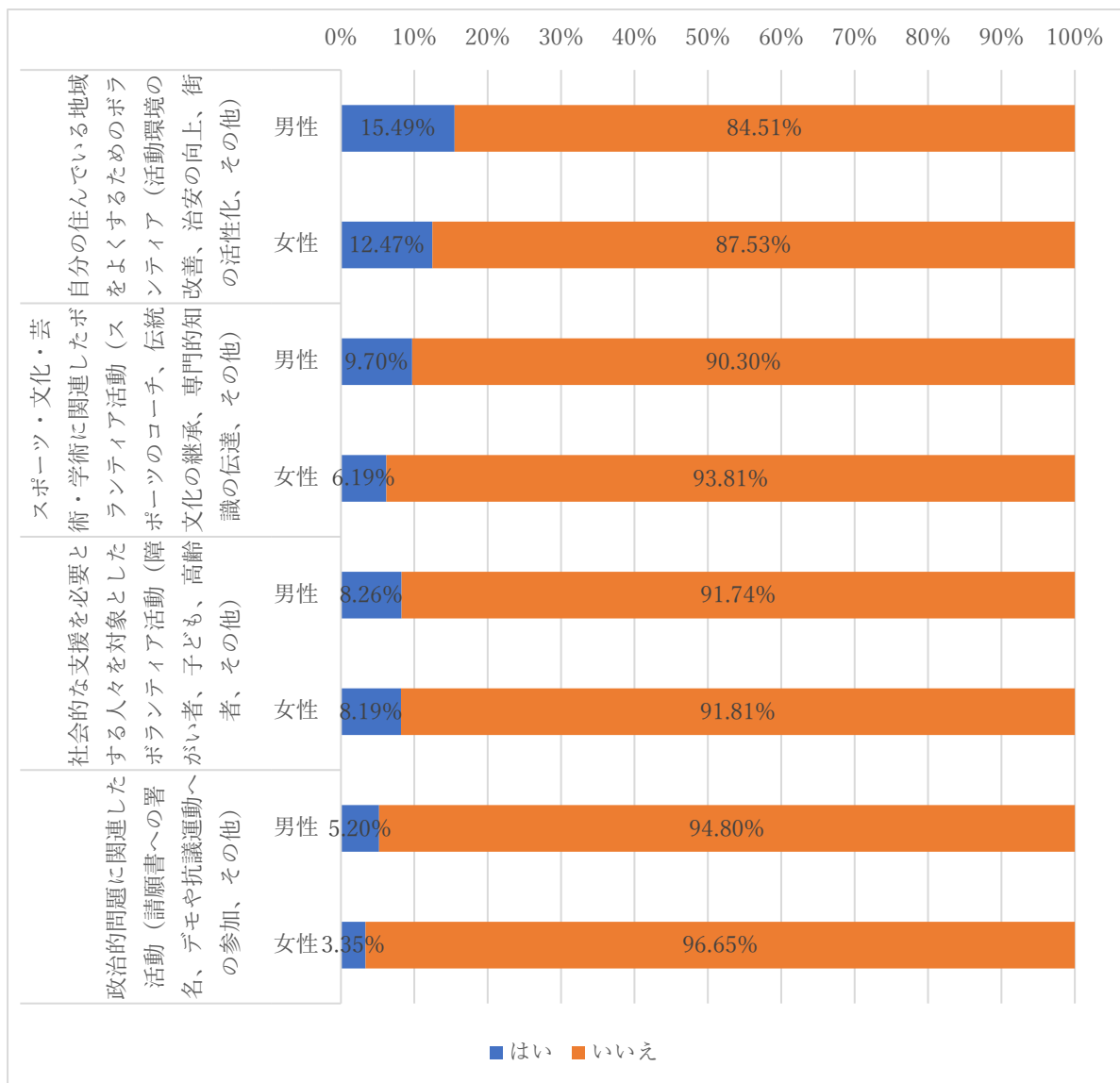


図 25-2. 年齢別 (N=4171)

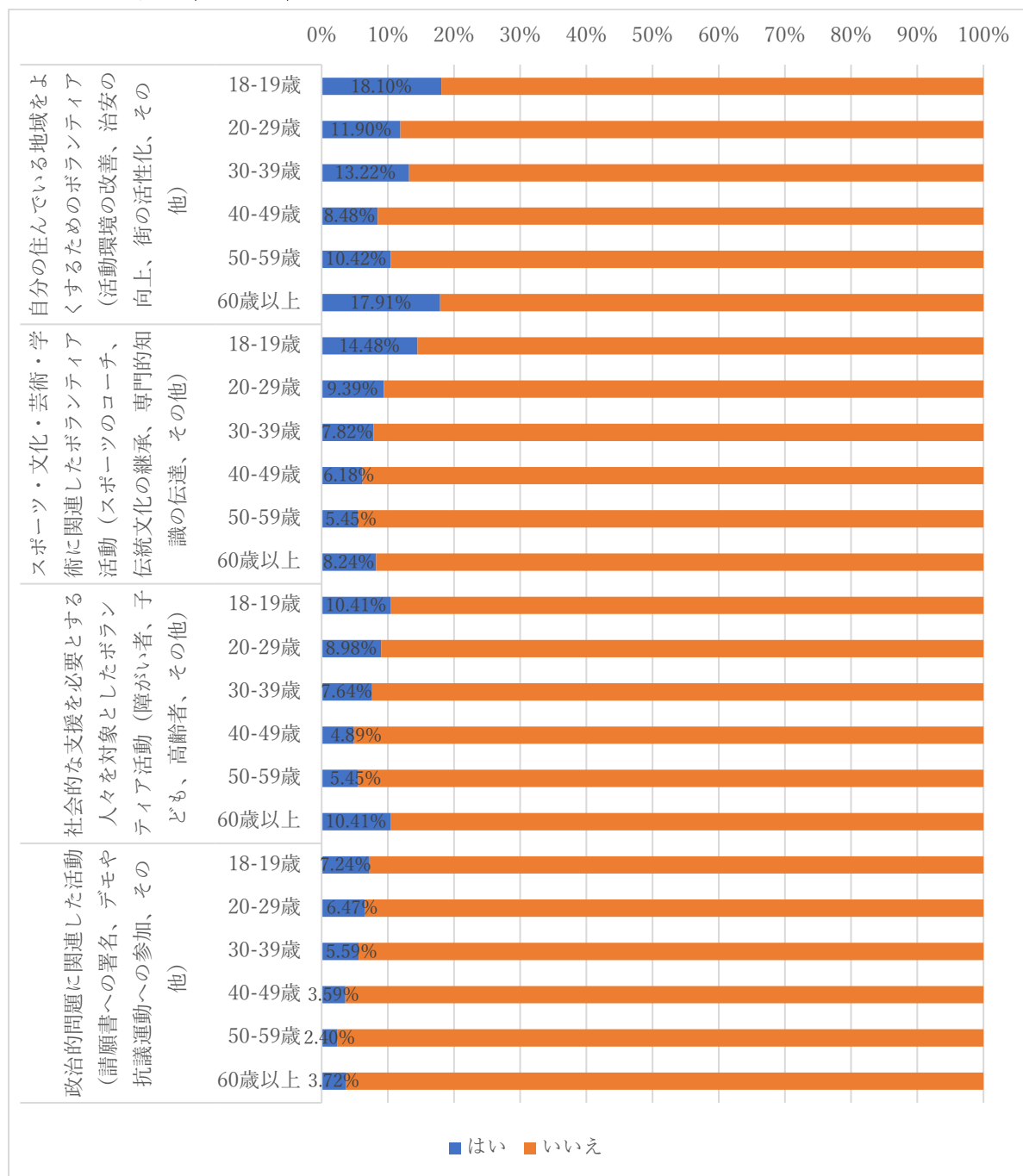


図 25-3. 収入別 (N=2235)

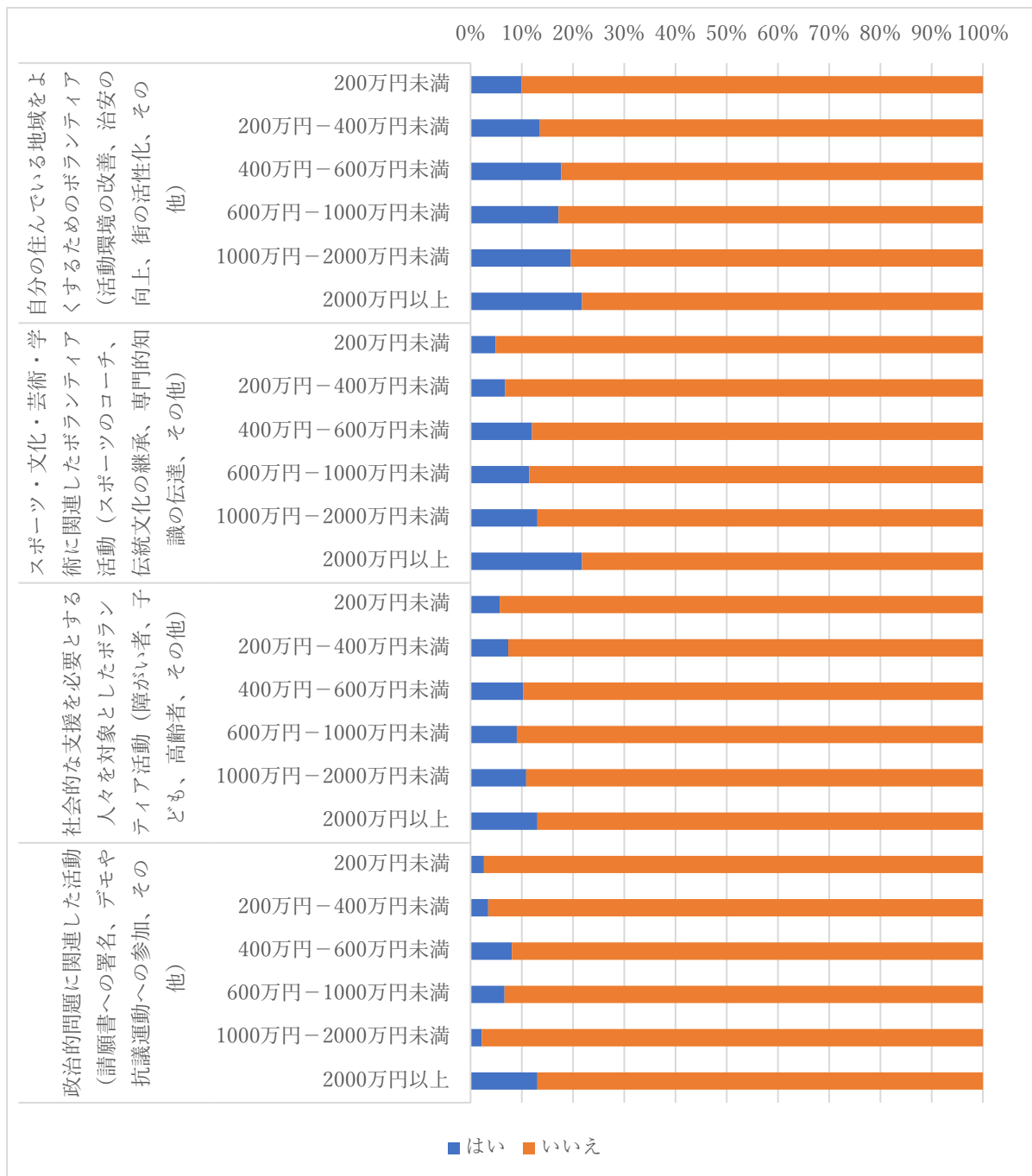
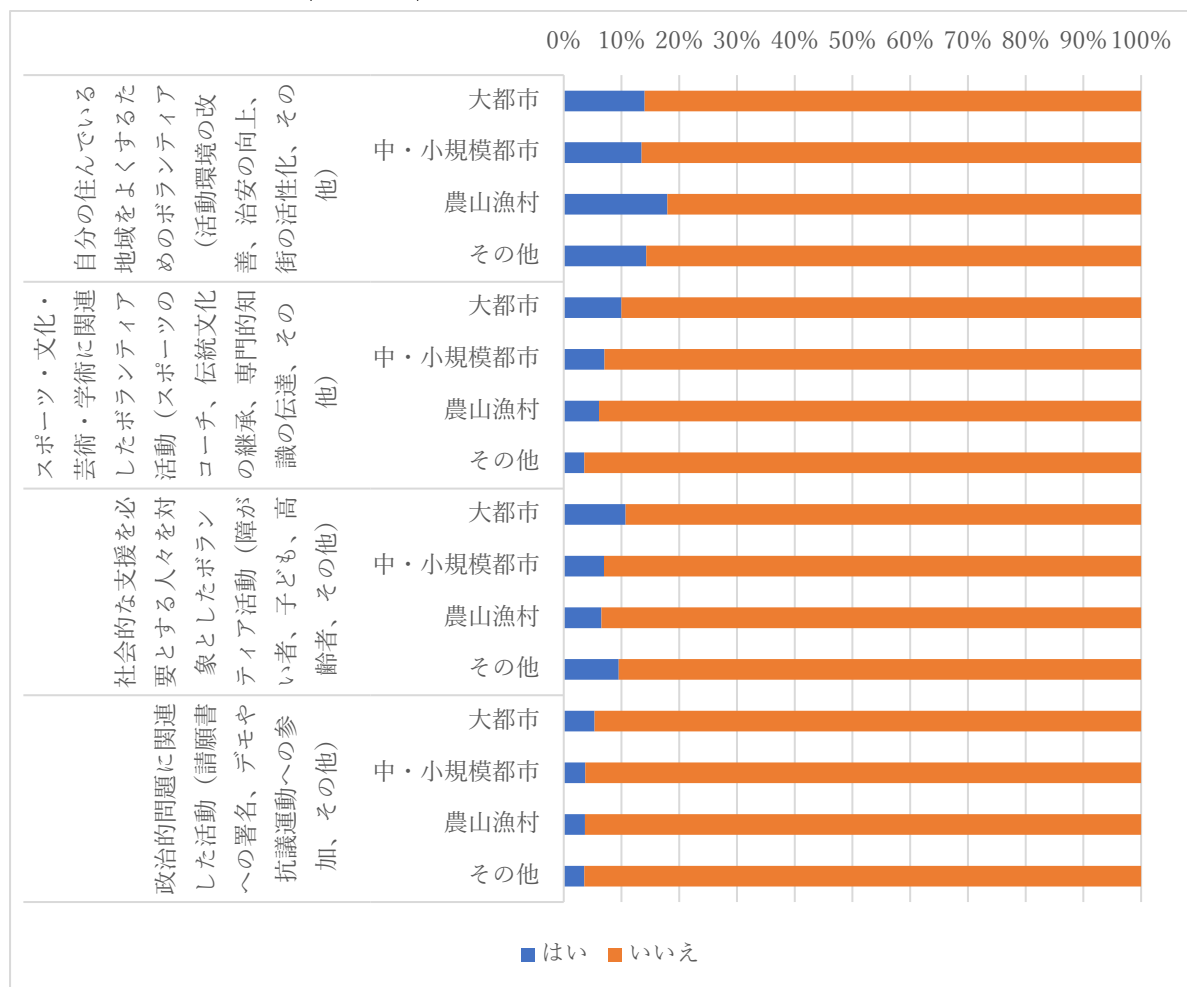


図 25-4. 居住地域別 (N=4171)



Q26. 過去の主な選挙において、以下の誰かに特定の候補者への投票や、選挙運動への参加を頼まれましたか。

全体		実数	%
1	家族・親類	303	7.3
2	職場の人 (学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司 (先生) )	316	7.6
3	近所の人	399	9.6
4	友人	347	8.3
5	お寺や神社や教会の人	29	0.7
6	趣味やスポーツ、ボランティアなどの会の人	63	1.5
7	選挙運動員	290	7.0
8	その他 (具体的にお書きください)	63	1.5
9	頼まれたことはない	2866	68.7

図 26-0. 総計 (N=4171)

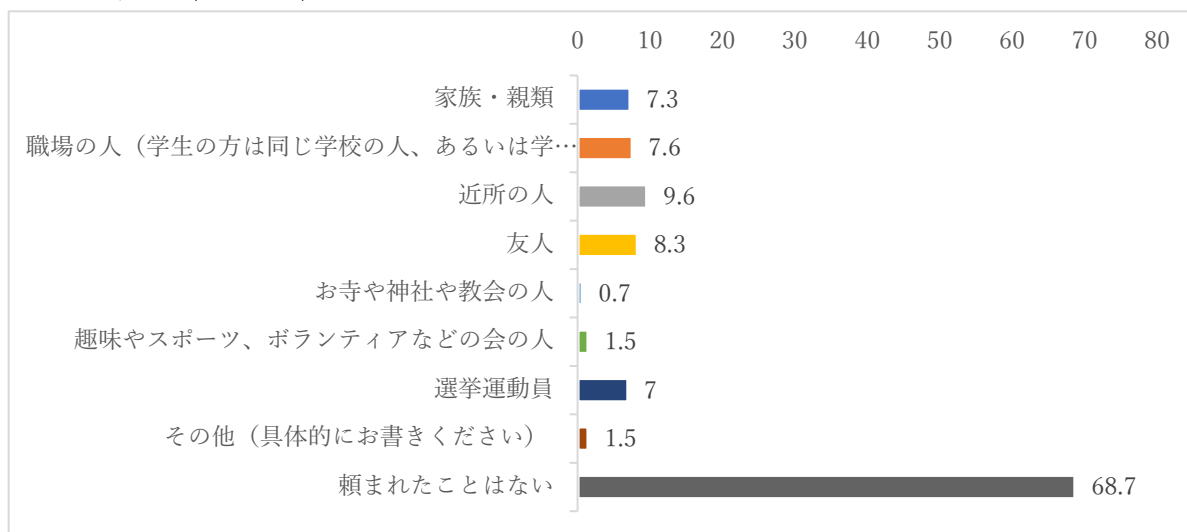


図 26-1. 男女別 (N=4171)

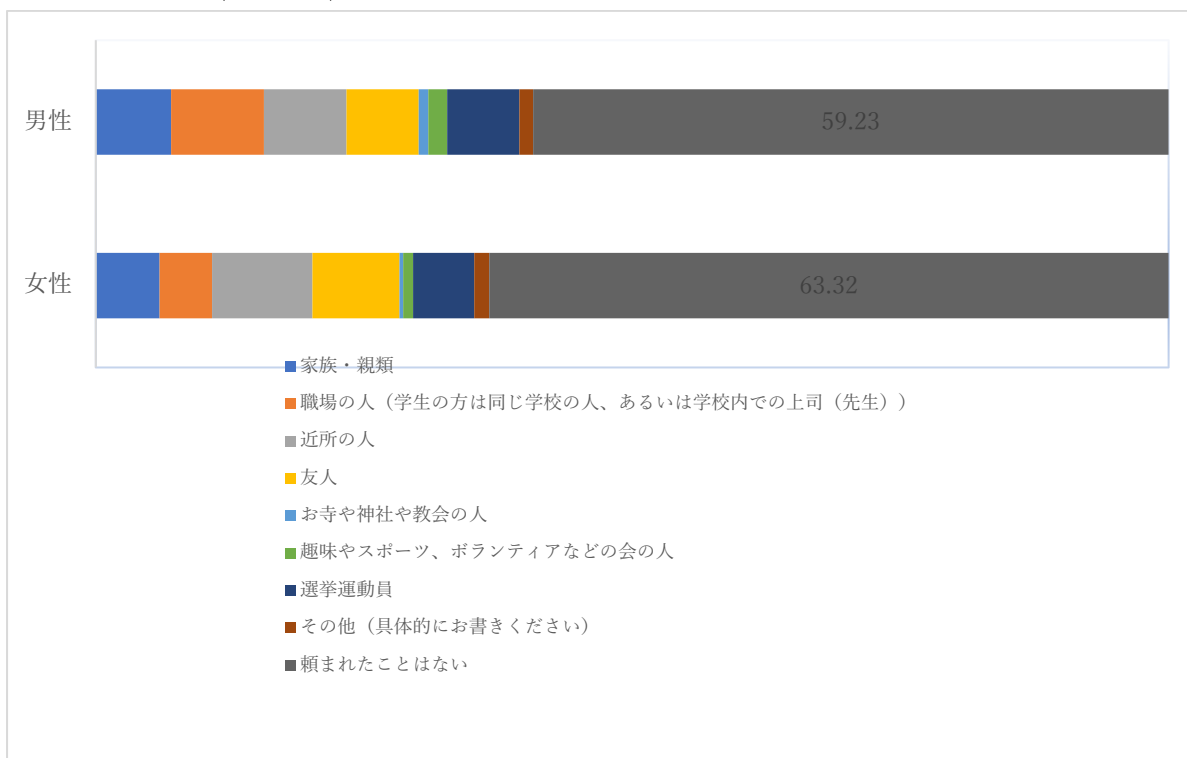


図 26-2. 年齢別 (N=4171)

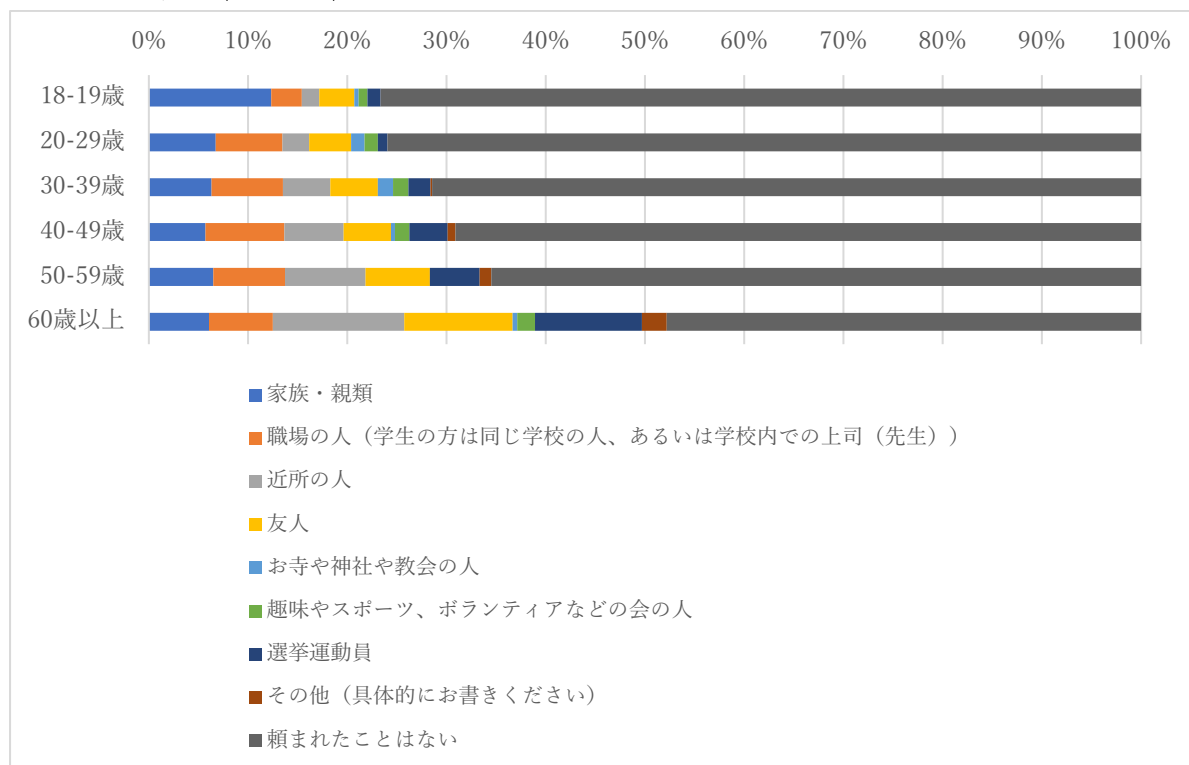


図 26-3. 収入別 (N=2235)

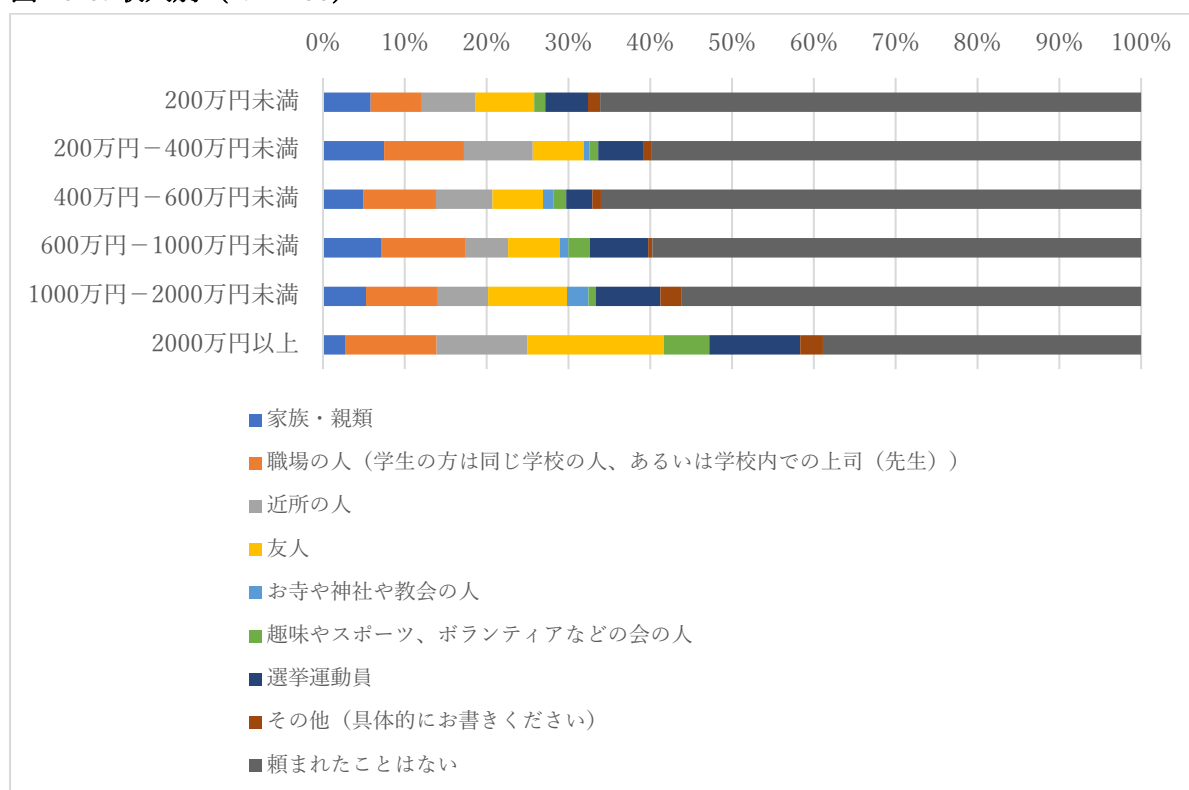
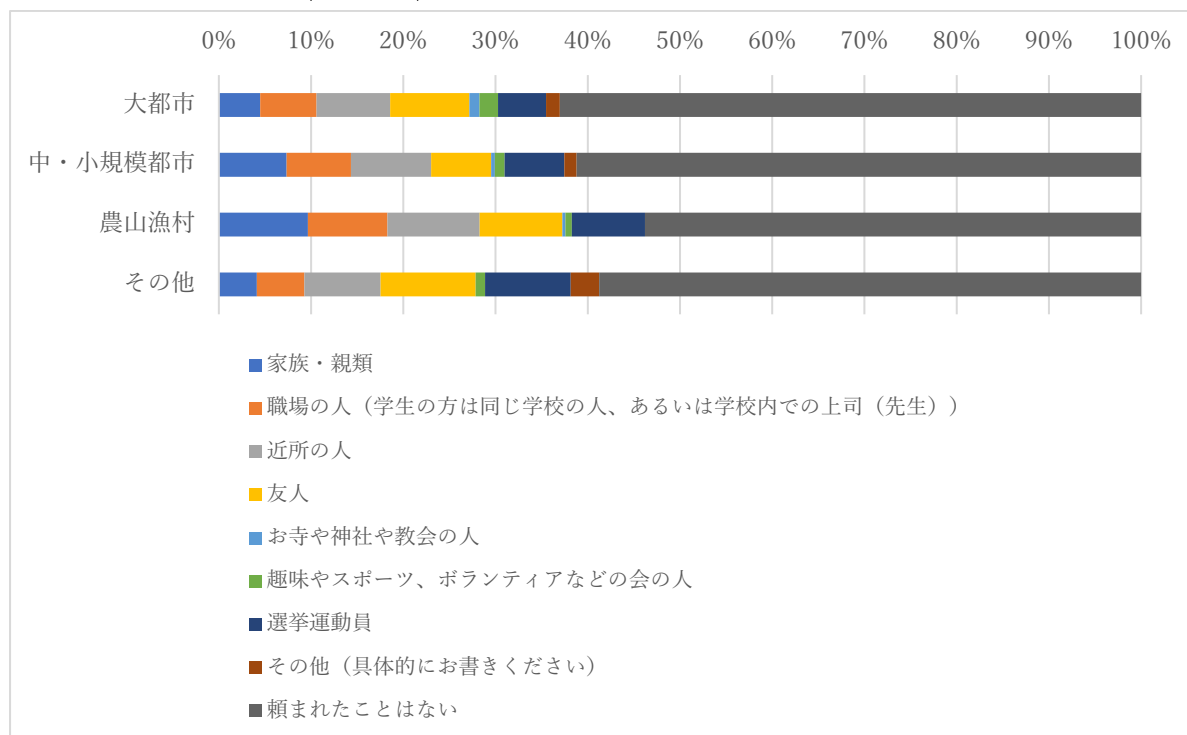




図 26-4. 居住地域別 (N=4171)



Q27. あなたは市民権、政府、近所づき合いに関する以下の考え方に賛成しますか、あるいは反対しますか。当てはまるものをそれぞれお答えください。

			全体	強く賛成	どちらかと言えば賛成	どちらとも言えない	どちらかと言えば反対	強く反対
Q27 項目 1	自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、影響を及ぼせるほどの力がない	%	100.0	12.5	27.4	41.8	14.5	3.9
		実数	4171	522	1141	1743	604	161
Q27 項目 2	政治や政府は複雑なので、何をやっているのかよく理解できない	%	100.0	10.9	27.8	43.0	14.2	4.1
		実数	4171	454	1158	1793	594	172
Q27 項目 3	私は政治に対して関心がある	%	100.0	8.7	30.5	43.1	12.8	4.9
		実数	4171	364	1272	1799	532	204
Q27 項目 4	私は社会のために役立ちたい	%	100.0	4.7	30.2	50.8	10.0	4.3
		実数	4171	196	1260	2119	416	180
Q27 項目 5	近所の人、お互いを気にかけている	%	100.0	2.6	23.8	52.6	13.9	7.1
		実数	4171	110	991	2195	578	297
Q27 項目 6	近所の人、私が困っていたら手助けしてくれる	%	100.0	2.1	19.9	55.2	13.9	9.0
		実数	4171	86	828	2301	579	377

図 27-0. 総計 (N=4171)

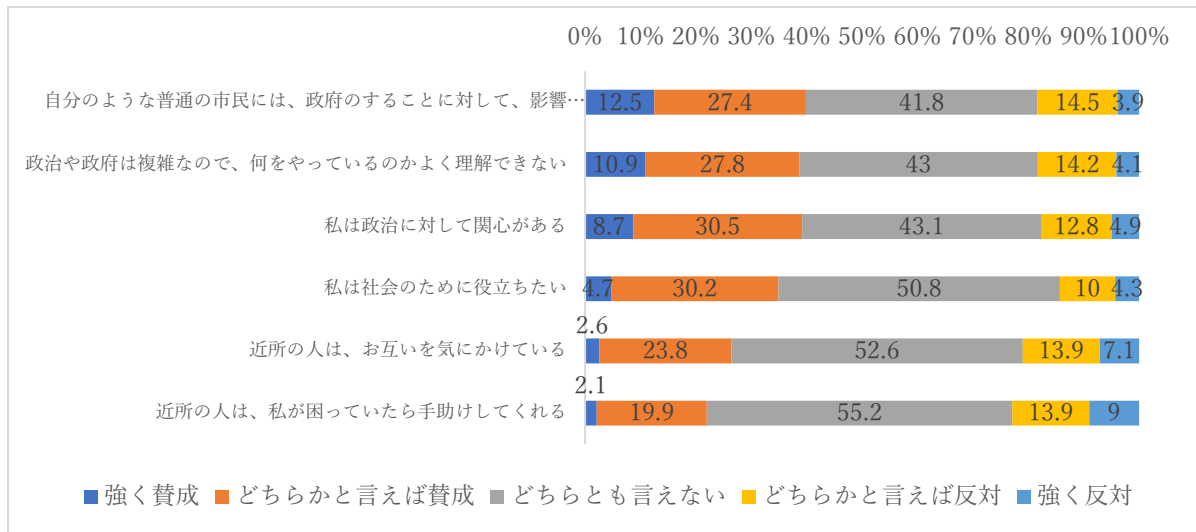


図 27-1. 男女別 (N=4171)

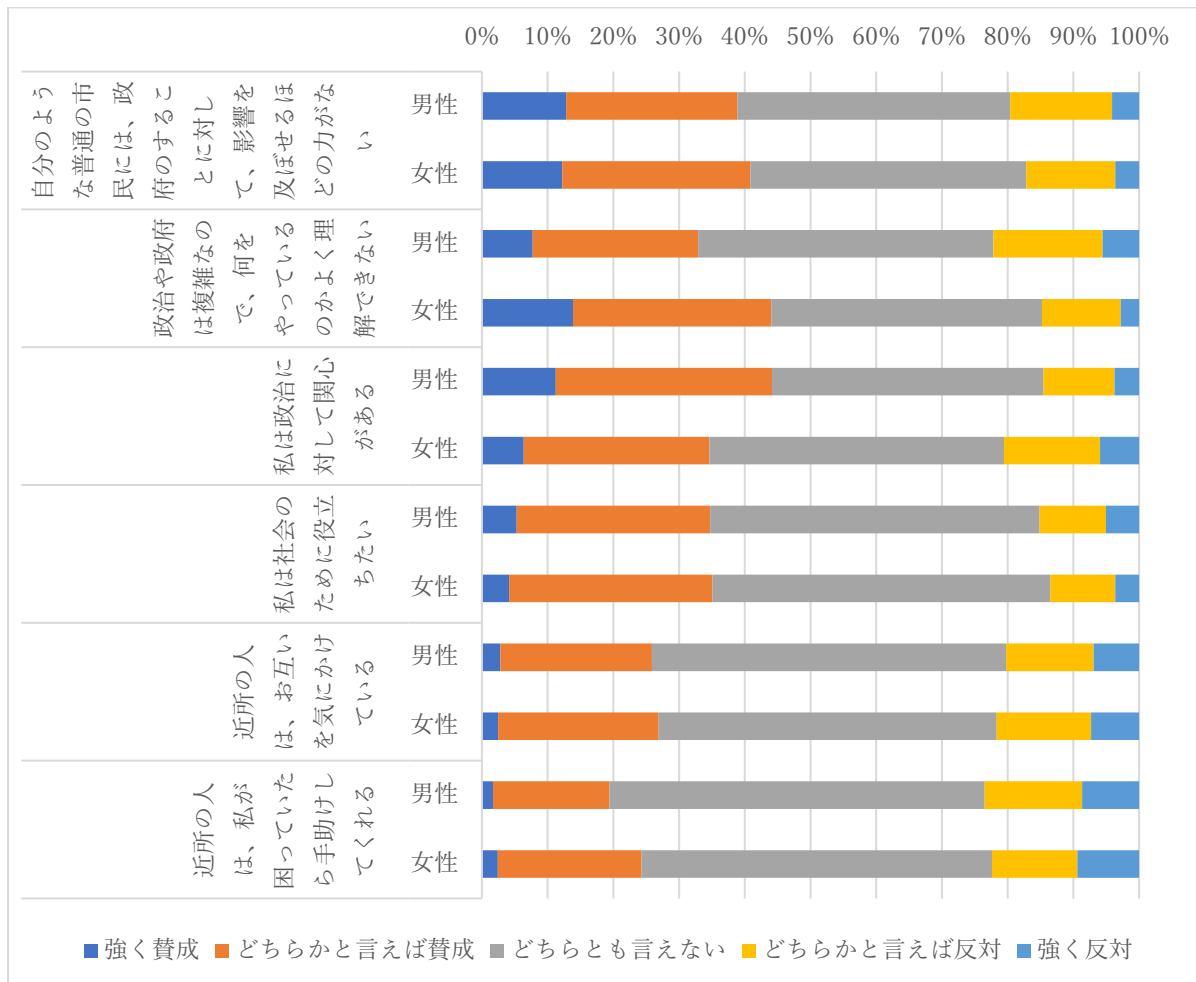


図 27-2. 年齢別 (N=4171)

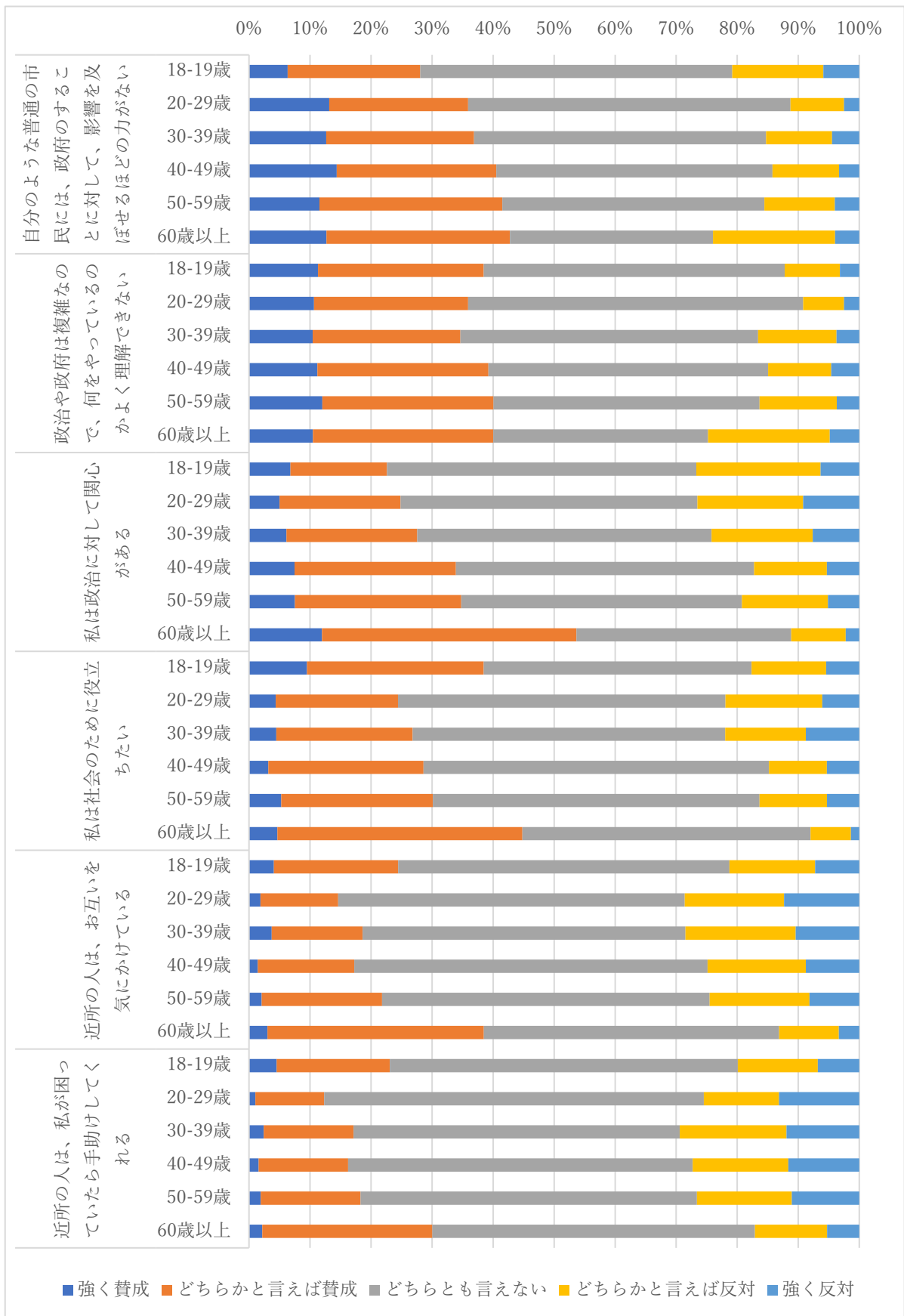


図 27-3. 収入別 (N=2235)

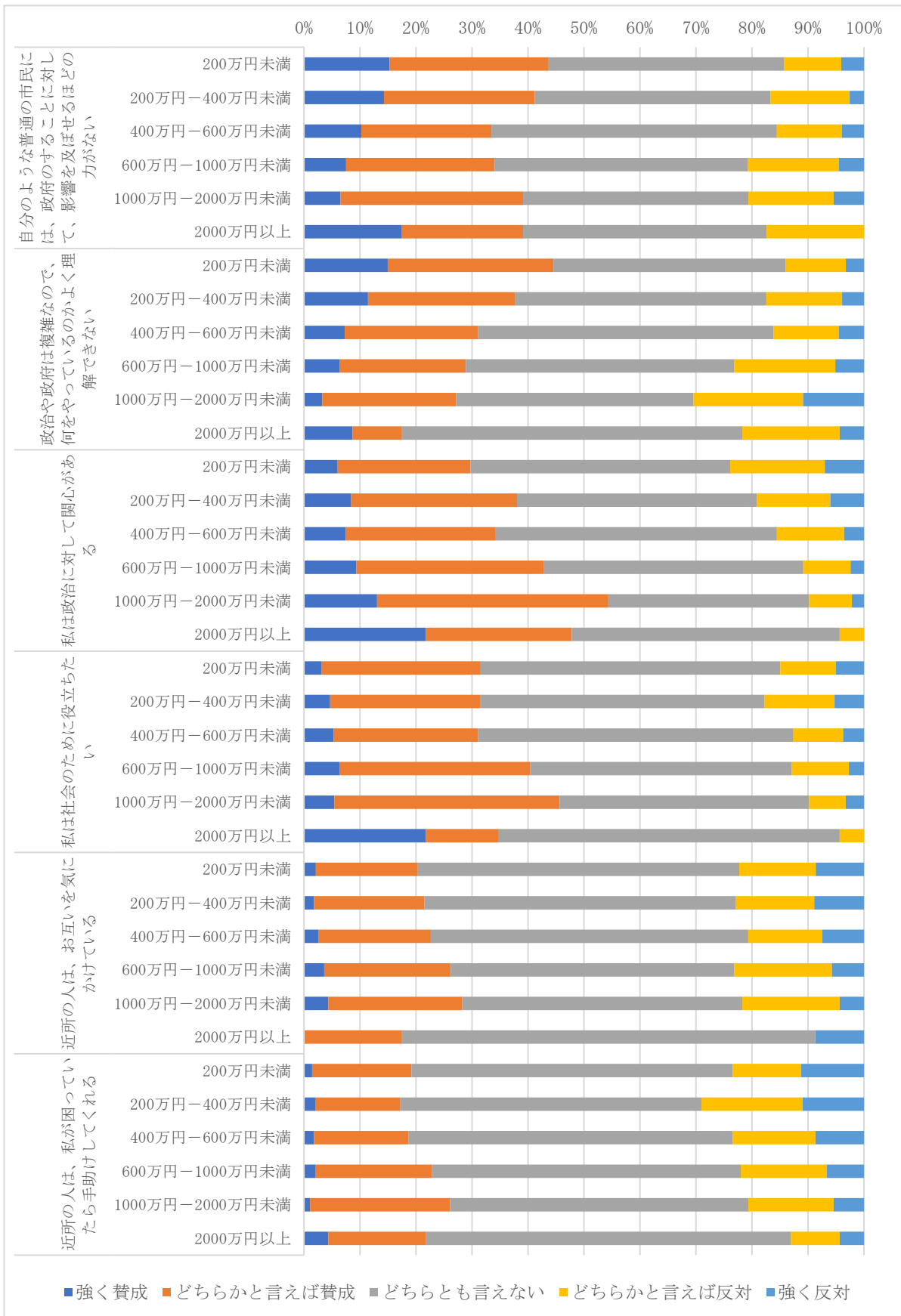
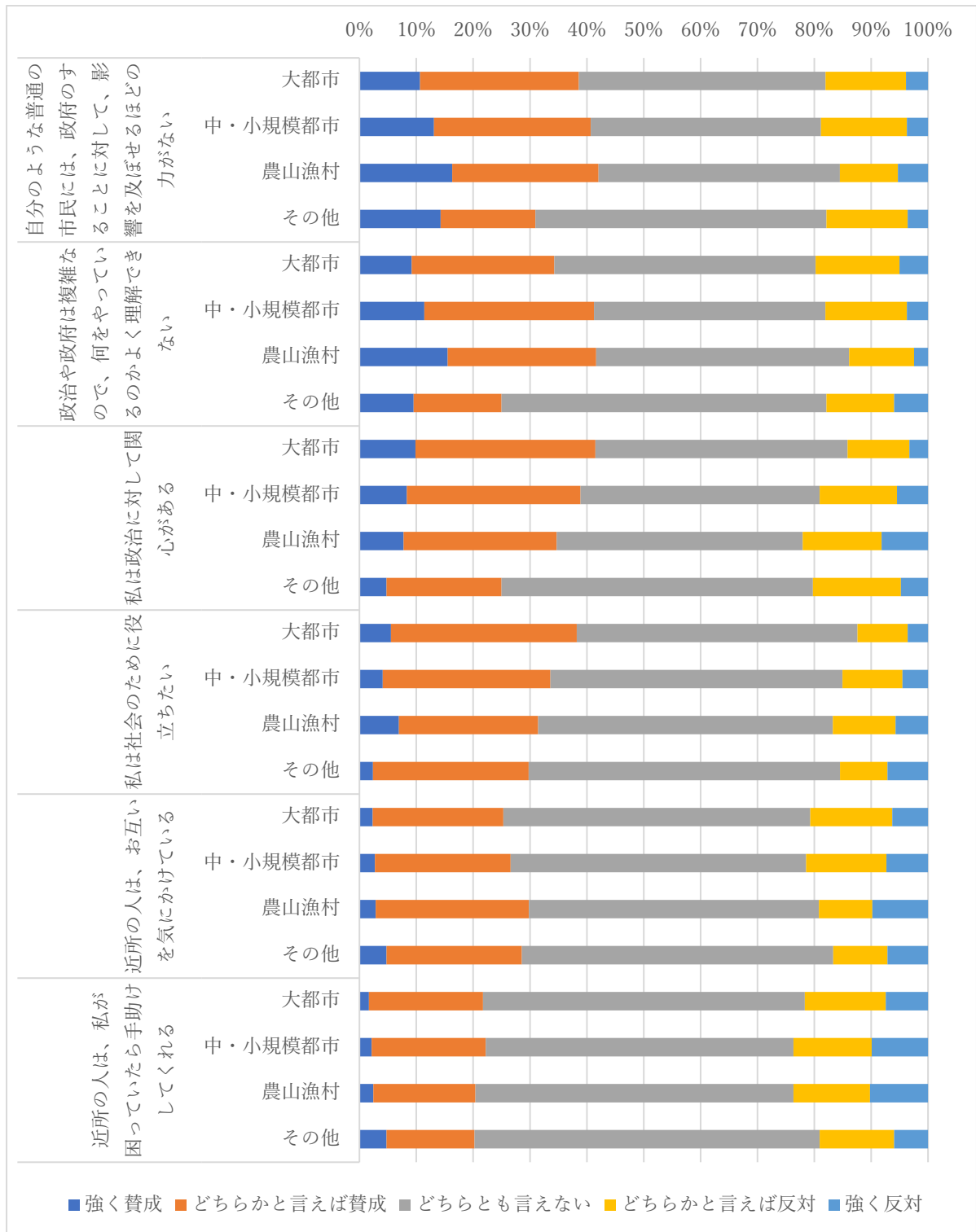


図 27-4. 居住地域別 (N=4171)



Q28. 過去3年間に、あなたのお住まいの地域の問題について、住民が共同で政治家や役所に対して陳情を行ったり請願書を提出したりしたことはありましたか？

		実数	%
全体		4171	100.0
1	一度もない	3887	93.2
2	一度のみ	182	4.4
3	2～5回	86	2.1
4	6回以上	16	0.4

図 28-0. 総計 (N=4171)

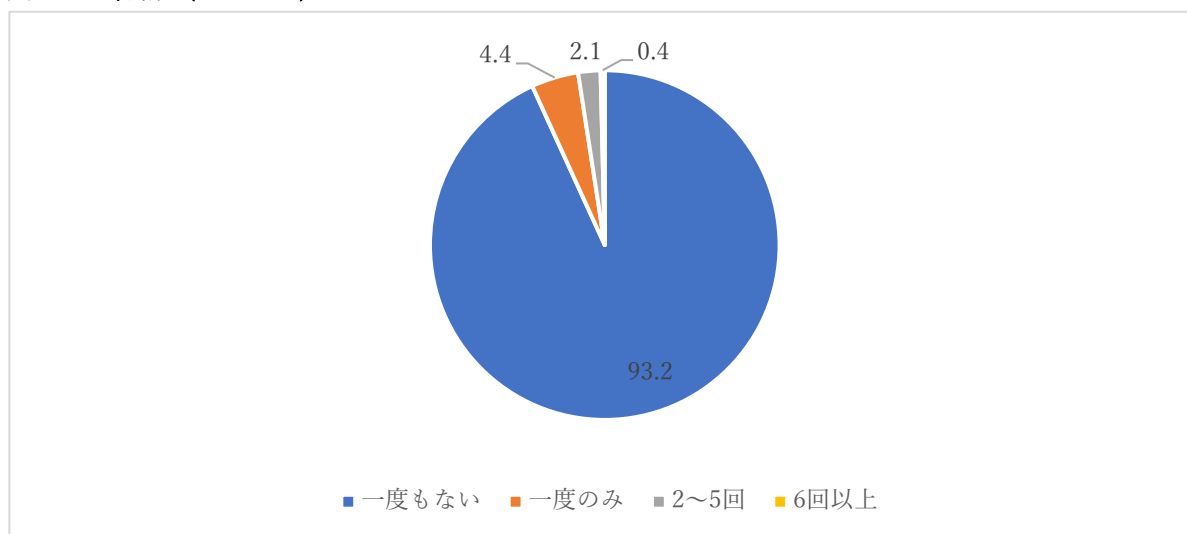


図 28-1. 男女別 (N=4171)

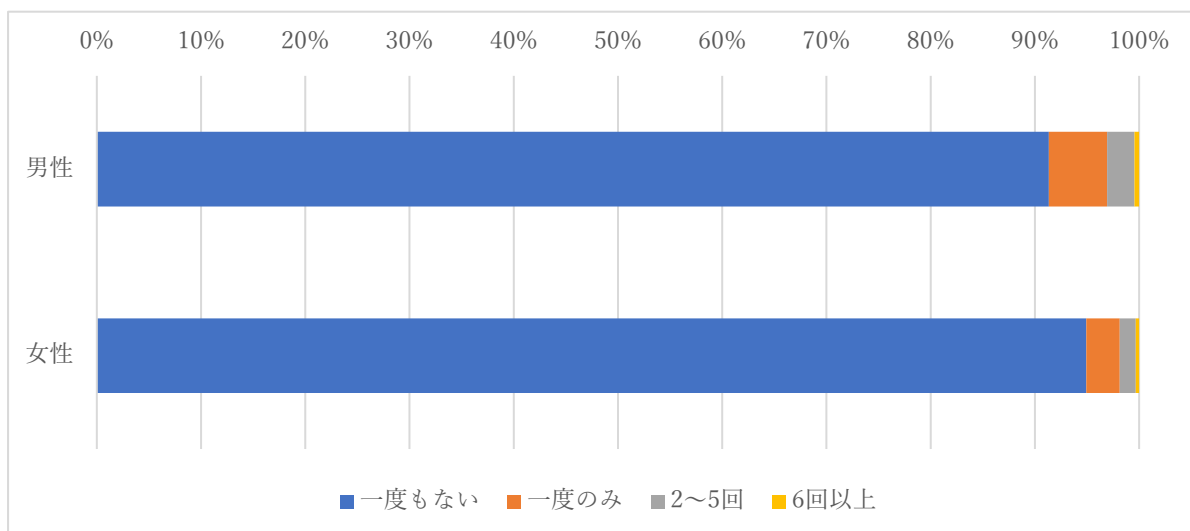


図 28-2. 年齢別 (N=4171)

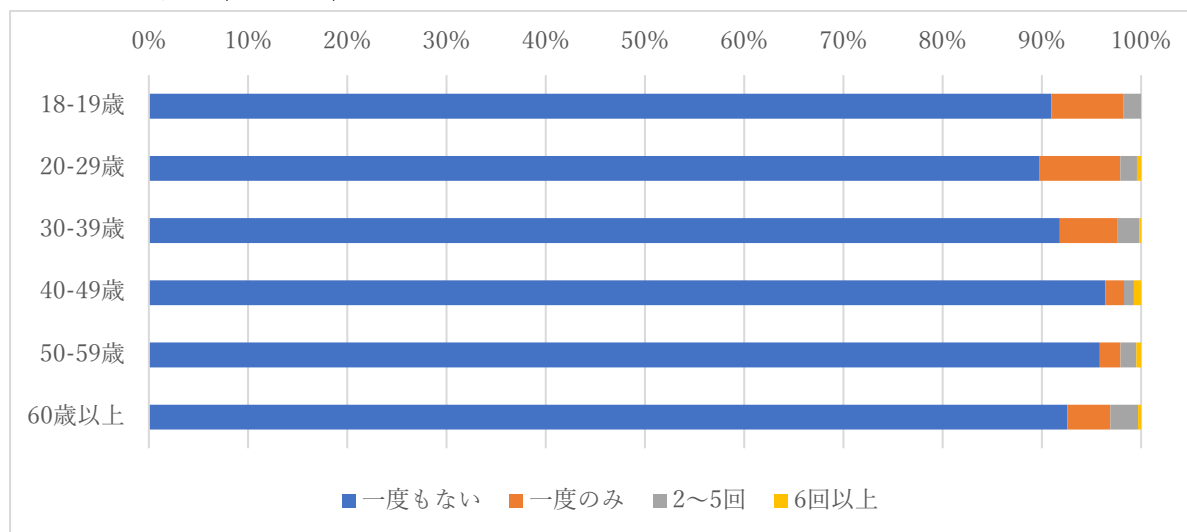


図 28-3. 収入別 (N=2235)

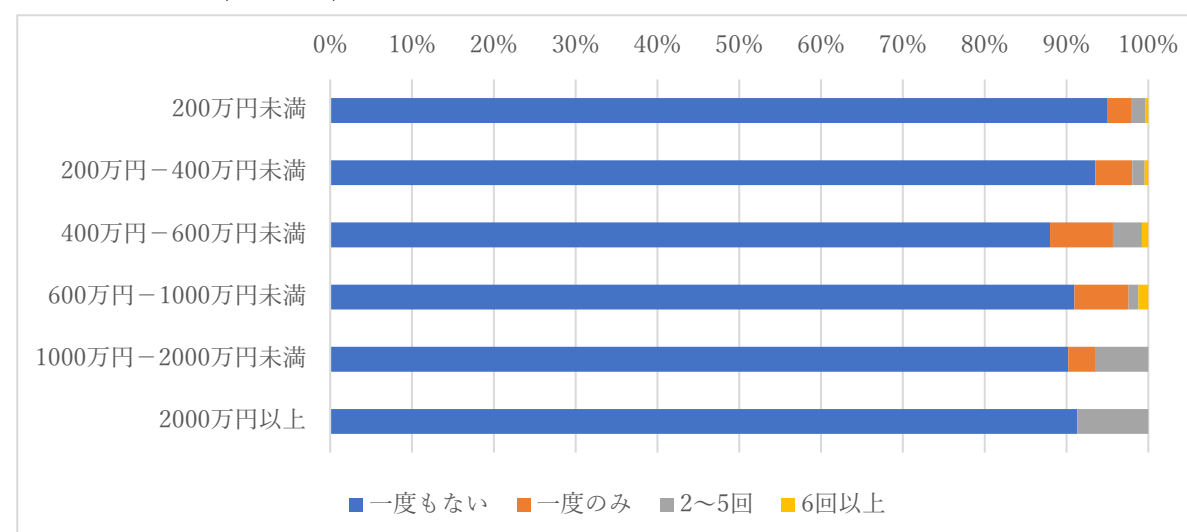
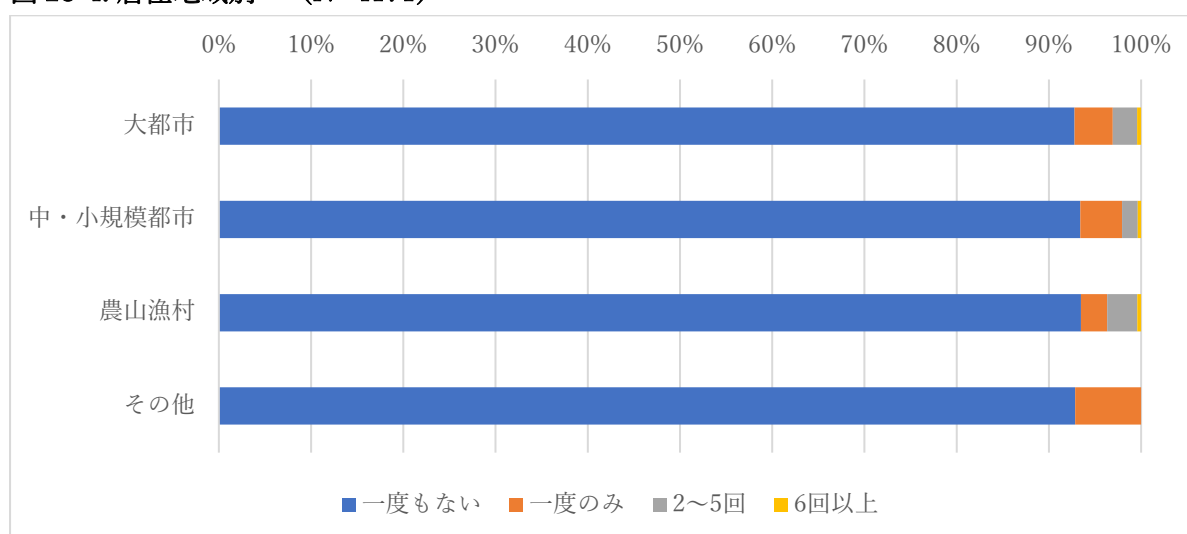


図 28-4. 居住地域別 (N=4171)



#### IV. 新型コロナウイルス感染症に関する質問

新型コロナウイルス感染症に関して、責任の所在、情報の入手先、生活や収入の変化などにかかわる 10 の質問に基づいて分析する。個々のアンケート結果については、節末にまとめているので参照されたい。

Q29 では新型コロナウイルス感染症の感染拡大の責任の所在を問うている。ウイルスの変異特性に注目すれば、あるいは誰も予測できなかった(World Economic Forum, 2020)という意味では、「誰の責任でもない」という見方が多くなることは言を俟たないが、それにもかかわらず、次の3者に責任が分布していることも明らかになる。第1は国民(自分自身)の責任であり、普通の人びとの行動に原因を求める。自己責任追及の姿勢もまたそれに加わるだろう。第2は、政府・政治家・官僚であり、とくに政府・首相の責任は重視されている。医療制度の失敗(土居, 2020)や、内閣府の台頭や官僚制度の劣化が注目される(黒木, 2020)が、政治の失敗を問う声は大きいと言わざるを得ない。第3に、外国人・外国政府を問題視する向きは次いで多い。中国発の感染拡大、あるいは初期段階での欧州での感染拡大、さらに在日米軍からの感染や感染期間中のオリンピック開催など、いずれの場合にも開放性、外国に責任を求めるスタンスは相対的に大きい。こうした傾向は、男性、と年齢が高いほど多くなり、かれらは社会に寛容ではなくなっている。また、所得が高いほど自己責任を重視する。

Q30 は新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先を問うている。人びとは圧倒的に従来メディアからの情報に依存しており、次いでインターネット情報になる。国家(中央および地方政府)からの情報は不十分と言わざるを得ない。年齢が高くなればなるほど上位2つのメディアに依存するが、若者は SNS を利用しがちである。ただし、新しいメディア(インターネット、SNS)の信用水準は他に対し相対的に劣り、従来メディアの方が信用を得ている。国家・地方自治体からの情報の信用度は高く、とくに地方自治体からの情報は住民との直接の接触のために一段と信用度が高い。また、若者と高齢者が従来メディアとインターネットを信用しており、とくに若者の国家機関、地方自治体に対する信用度はとびぬけて高い。

新型コロナウイルス感染症と生活(Q31)および収入(Q32)の変化との関係について、生活が悪化したものは34.8%ときわめて高い。この数値は収入が減少したという27.1%の回答を反映していると推定される。なお、生活が変わらないもの、収入が変わらないものが57.5%、66.9%それぞれ存在している。年齢が高くなるにつれ、収入が減少し、生活が悪くなっている。また所得が低い層ほど、所得が減少し、生活が悪化している。また、わずかだが大都市よりも中小都市、農村部で所得が低下し、生活の悪化が観察される。新型コロナウイルス感染症が社会的結束を弱め、分断を強め、かつ貧困削減と不平等是正に向けた取り組みを後退させるとする見方(World Economic Forum, 2021)を反映している。

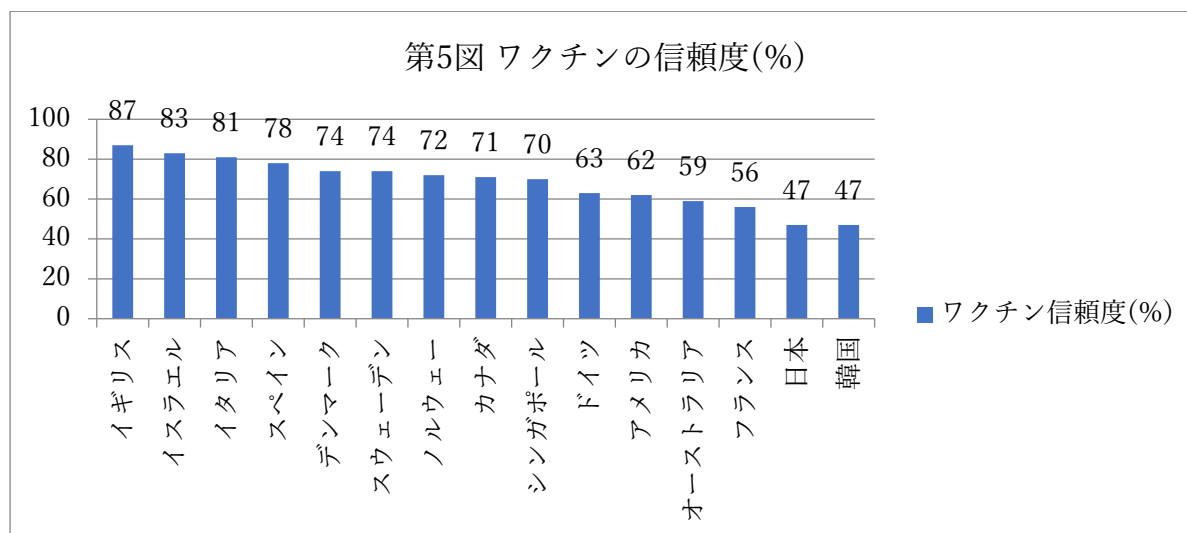
Q33 について、新型コロナウイルス感染症は労働のあり方に大きく影響したが、実際には仕事についても64.8%に変化はなかった。それでも、在宅勤務が増加しており(16.6%)、ついで出張がなくなっており(13.4%)、失業・転職者が5%存在する。失業・転職は若い階層と低所得層に相対的に多く、在宅労働や出張の半減は高齢層に、高所得層、大都市に観察される。また、変化なしは所得の低い層、大都市よりも中小都市・農村部に多く見られる。少なくとも、労働に対する影響は階層間で大きく異なることが明らかになる。

半数ほどは何も変わらないと回答したが、新型コロナウイルス感染症は生活にも大きな変化を及ぼし



ている（Q34）。在宅労働の増加にも対応して、家族との時間が増加し(28.2%)、ついで趣味・余暇・レジャー(17.6%)、学習や新しい知識の習得(8.1%)が伸びている。家族との時間は女性、所得の高い層、大都市で強く見られ、趣味・余暇・レジャーは男性、若い層、大都市で見られる。

ワクチンの有効性（Q35）について、国際比較では、2021年5月中央に日本のワクチン信用度は47%で、この比率は先進国の中で韓国と並んで最下位にある（第5図）。とくに65歳以下の者には、受けるには適格でない、副作用があげられている（Imperial College London, Institute of Global Health Innovation, 2021）。日本国内の調査(NHK, 2021)では、ワクチンの安全性を信用している比率は2021年8月に68%で、年初の57%から上昇している。本調査結果は、55.8%で、上記2つの数値の中間にあり、不信も大きい。18-19歳および高齢になるほどワクチンの信用は高く、かつ大都市部での信用も高い。とくに、60歳以上の高齢者の信用度は高く、不信は著しく低い。



(注) 2021年5月中央時点の調査。

(出所) Imperial College London, Institute of Global Health Innovation (2021)

政府に対する信頼度の高さはそれほど高くなく責任を求める意見があったが、新型コロナウイルス感染症に対する政府の政策の有効性（Q36）に関しても有効とは考えないという意見が25.4%を占めている。ただし、有効と考える意見は36.9%を占め、より多い。相対的に、所得水準が上がるにつれ、年齢が高くなるにつれ、有効ではないとする見解は大きくなる。

新型コロナウイルス感染症では国家の財政出動を中心に、各種の給付金・支援策など助成措置が講じられた。その有効性を問うた Q37 の項目の中で、もっとも有効と感じられたのは国家・地方自治体からの支援である。国家の公的支援は、友人や家族などほかの項目に比べると有効だが、全体として見れば概して「有効」、「どちらとも言えない」、「有効ではない」の3つに分裂している（国の支援では順に31%、35.4%、33.6%）。それ以外では相対的に家族からの支援が有効ではあるが決して高くはなく、企業、地域、NGO、友人、家族いずれの場合でも有効ではないという意見が圧倒的に大きくなっている。つまり、政策そのものはそれほど信用がなくとも、公的支援依存が大きいのである。国の支援は高齢になるほど、所得が高いほど有効ではないとする

意見が多くなる。地方自治体の支援については高齢になるほど有効ではないと認識され、収入ではそれほど明確に意見の違いはない。企業の支援は若い層、所得の高い層、大都市で有効と見なされている。地域、近所・隣人、NGO・NPO・ボランティア、知人・友人、家族・親戚いずれの支援も、年齢の若い層に有効と認識され、逆に高齢になると有効とは認識されていない。

Q38 は新型コロナウイルス感染症感染拡大にともなって利用頻度が増えたものを問うている。新型コロナウイルス感染症が対面の機会を減じたことから、デジタル化の浸透が確認され、とくにインターネット通販は増加し(33.4%)、それとともに電子決済規模もまた拡大している(22.1%)。ネットショッピングと対照的に、コミュニケーションのツールとしてのデジタル化は増加しているが、それほど拡大していない。増えたものがないという反応が過半数を占めたことは、すでにデジタル化が新型コロナウイルス感染症とは別に浸透していることを示唆する。

**Q29. 日本における新型コロナウイルス感染症感染拡大を引き起こした責任はどこにあると思いますか。最も重要と思うものを1つ選んでください。**

		実数	%
全体		4171	100.0
1	自分自身を含めた国民	704	16.9
2	首相・政府	683	16.4
3	地方自治体	38	0.9
4	政治家・議員	146	3.5
5	役人・官僚	50	1.2
6	企業や経済人	17	0.4
7	外国人	296	7.1
8	外国政府	360	8.6
9	その他（具体的にお書きください）	131	3.1
10	だれの責任でもない	1746	41.9

図 29-0 総計（単位%）

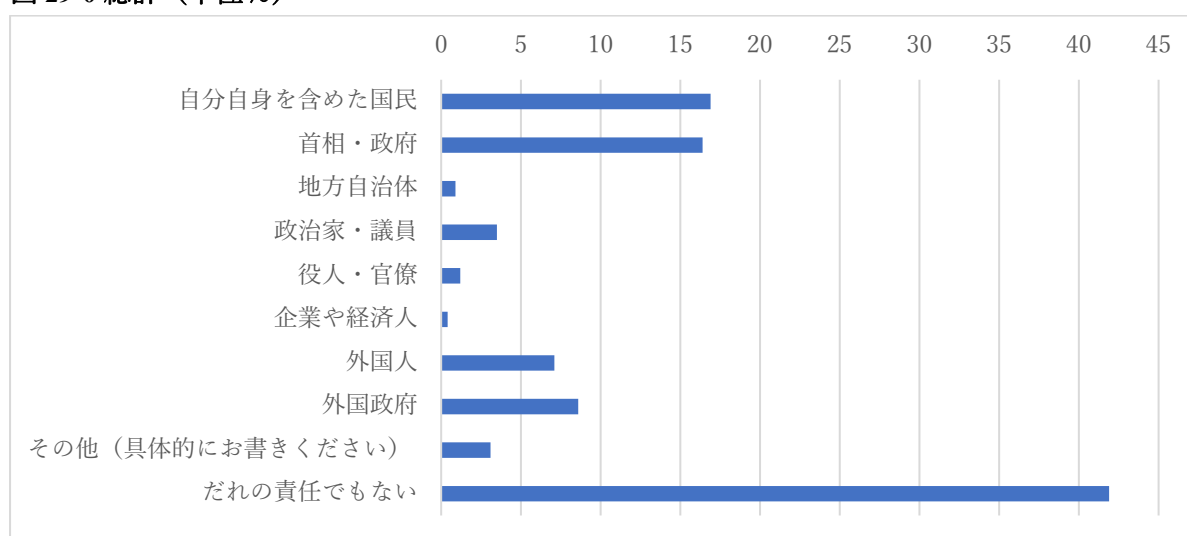


図 29-1 男女別 (N=4171)

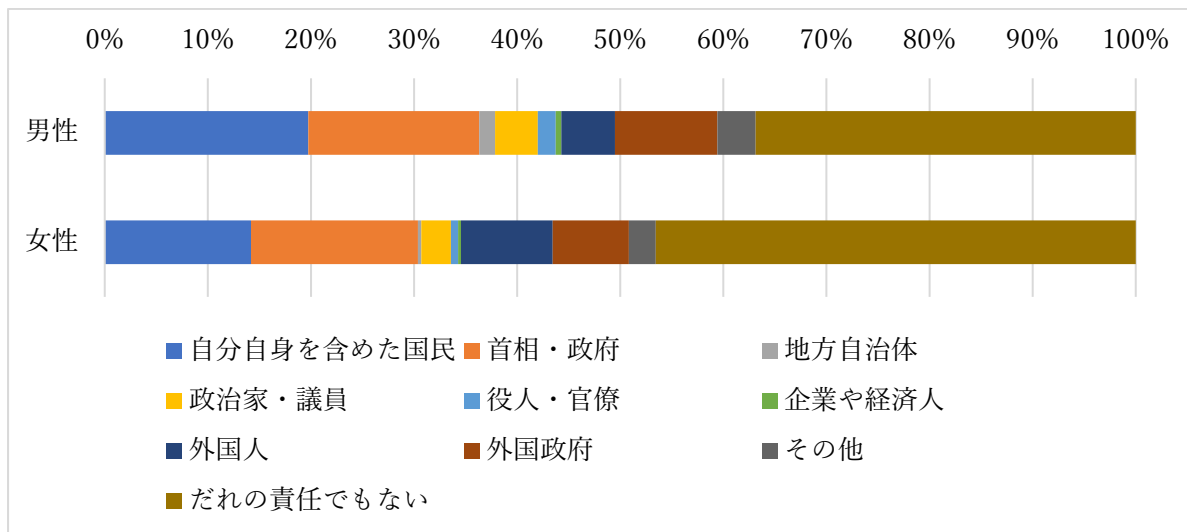


図 29-2 年齢別 (N=4171)

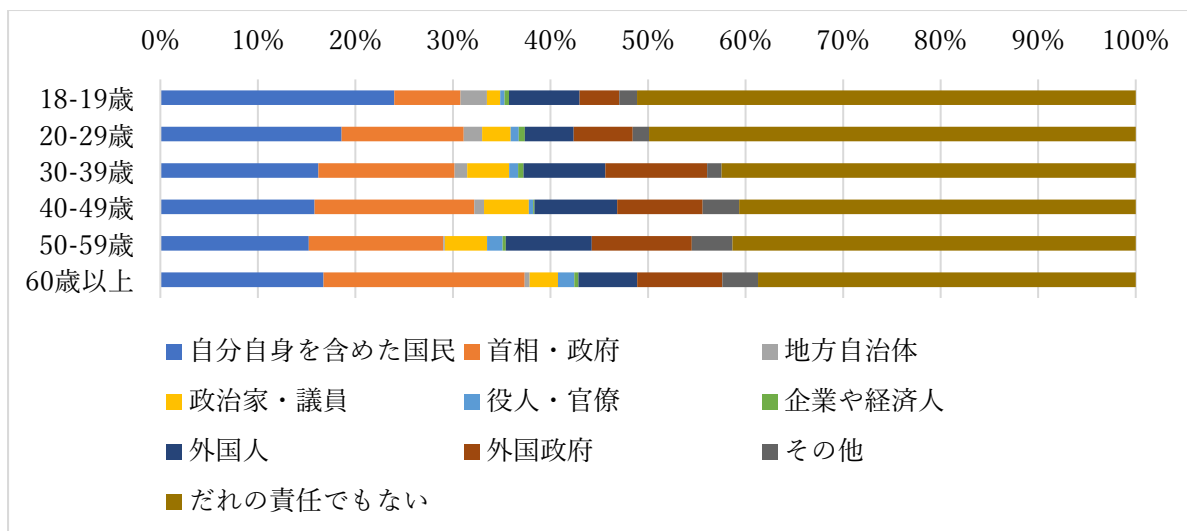


図 29-3 収入別 (N=2235)

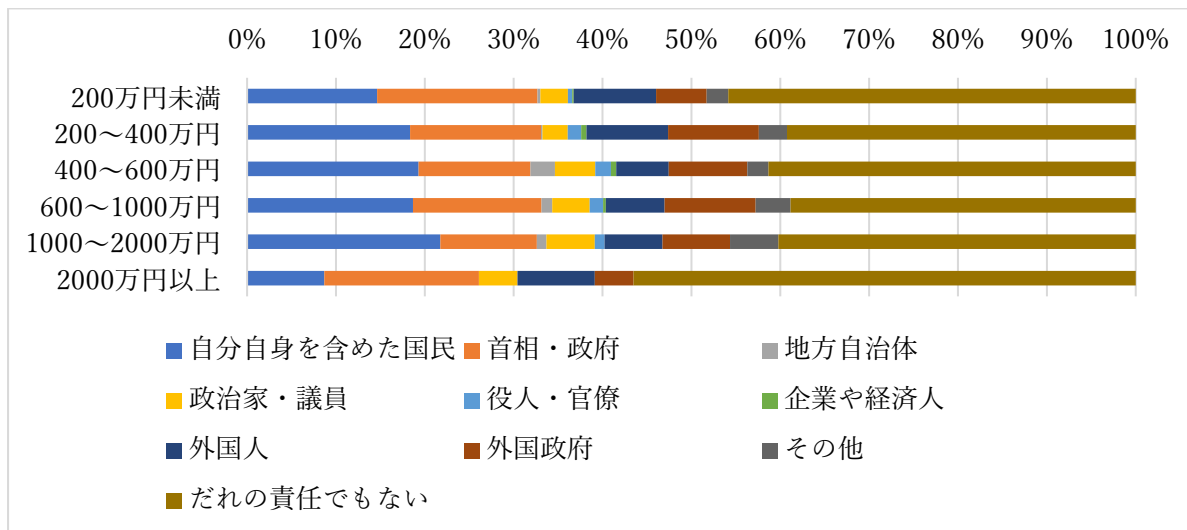
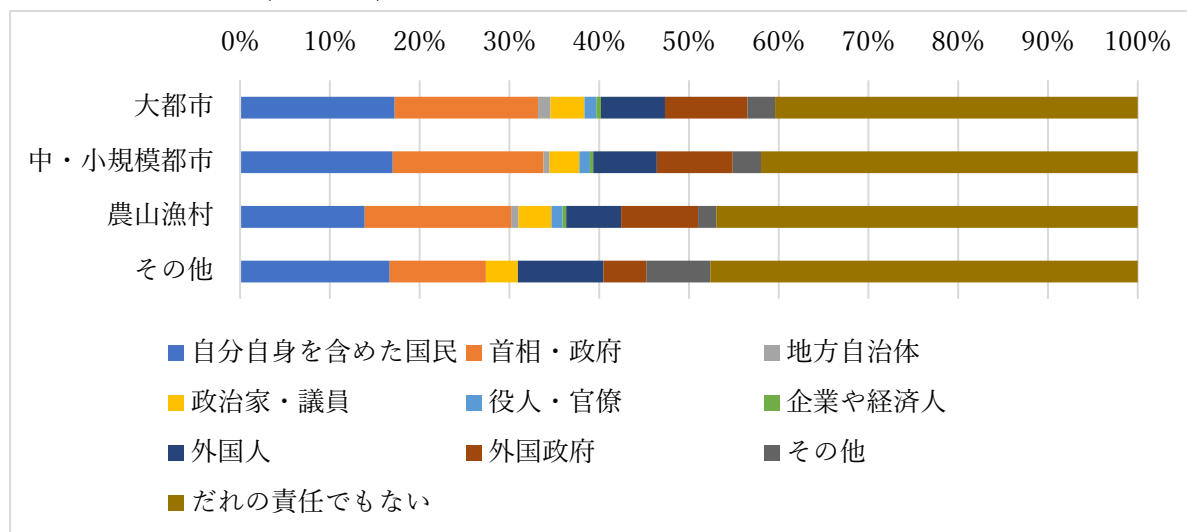


図 29-4 居住地域別 (N=4171)



Q30s1. 新型コロナウイルス感染症に関する情報はどこから取得しましたか。取得した情報源をすべてチェックしてください。(複数回答)

		実数	%
全体		4171	
1	従来のメディア (テレビ、新聞など)	3366	80.7
2	インターネット	2878	69.0
3	SNS	885	21.2
4	知人・友人から	966	23.2
5	国家機関	540	12.9
6	地方自治体	1061	25.4
7	その他	25	0.6
8	どこからも情報を得ていない	271	6.5

図 30s1-0 総計 (単位%)

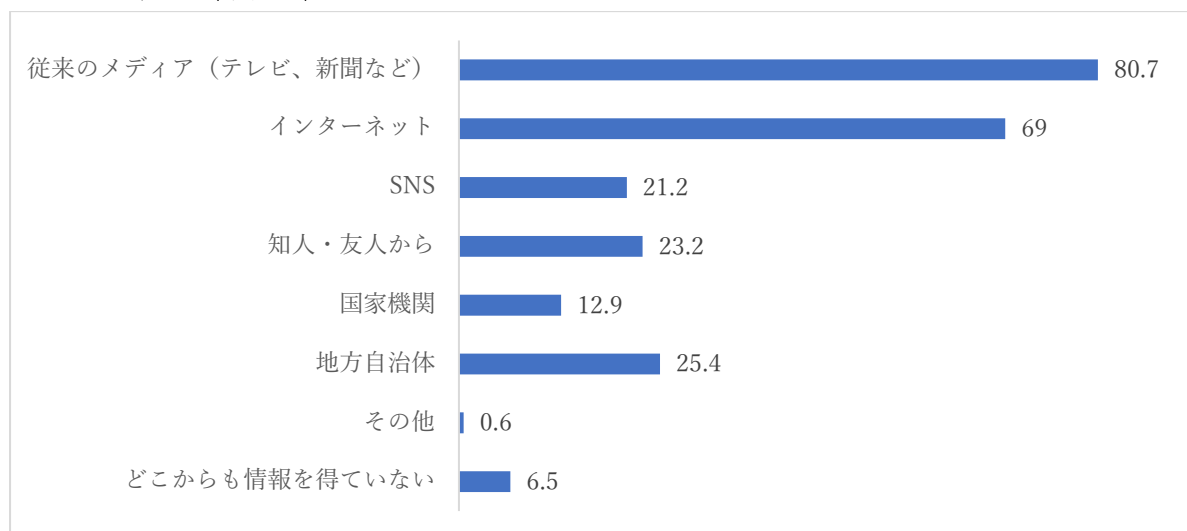


図 30s1-1 男女別 (N=4171)

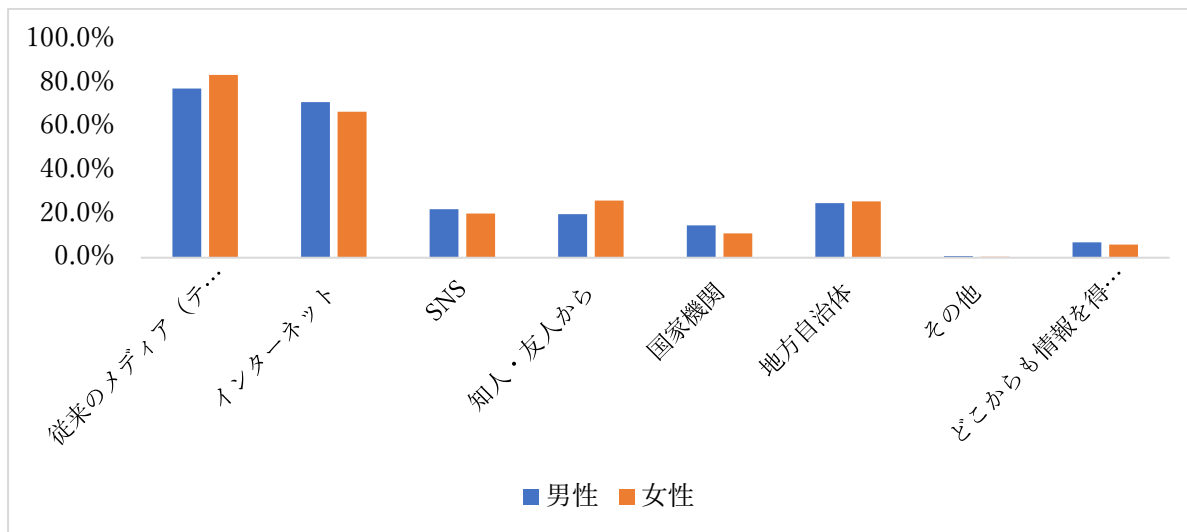


図 30s1-2 年齢別 (N=4171)

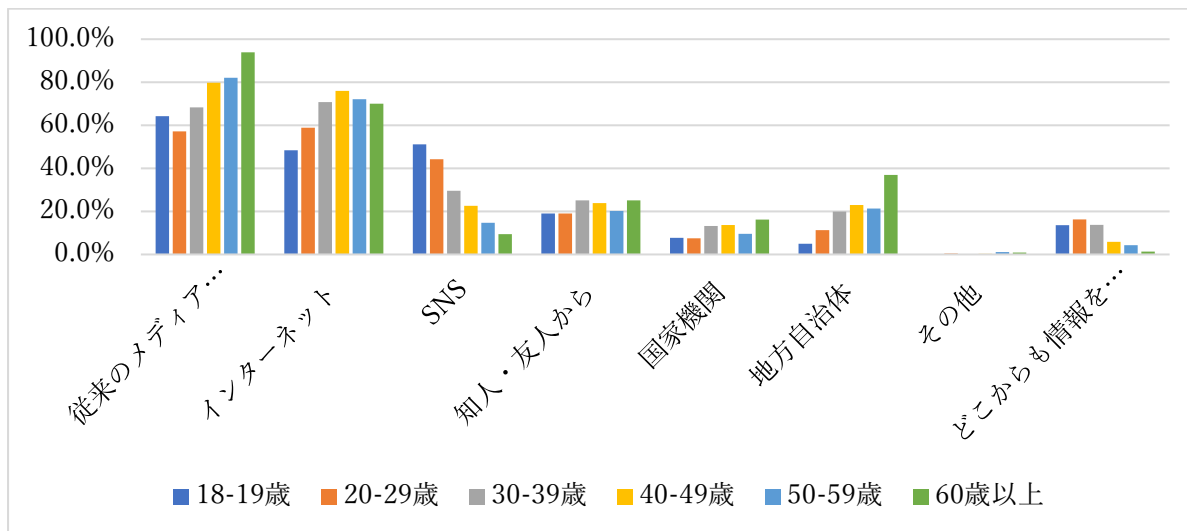


図 30s1-3 収入別 (N=2235)

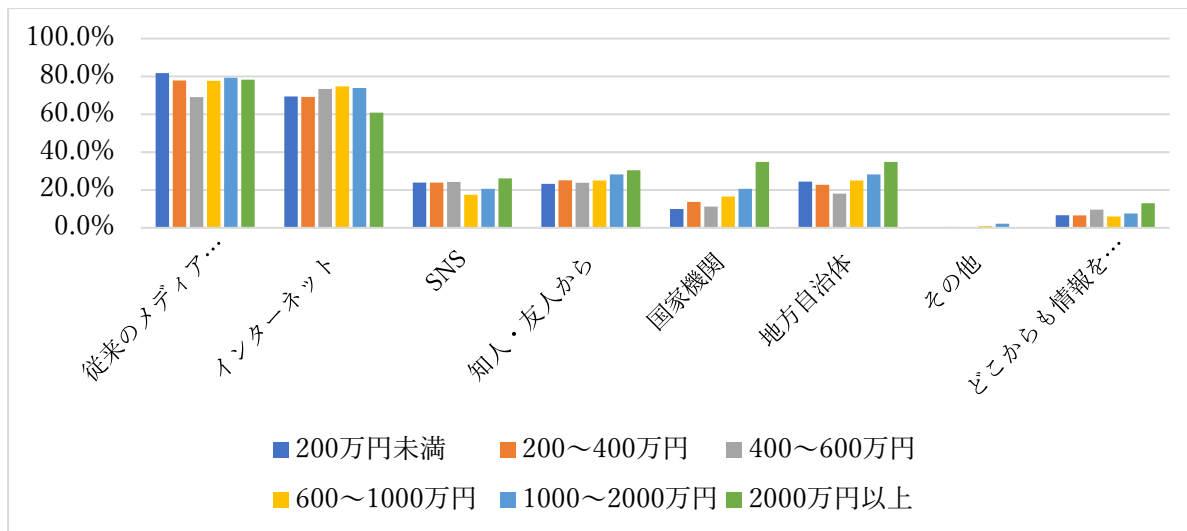
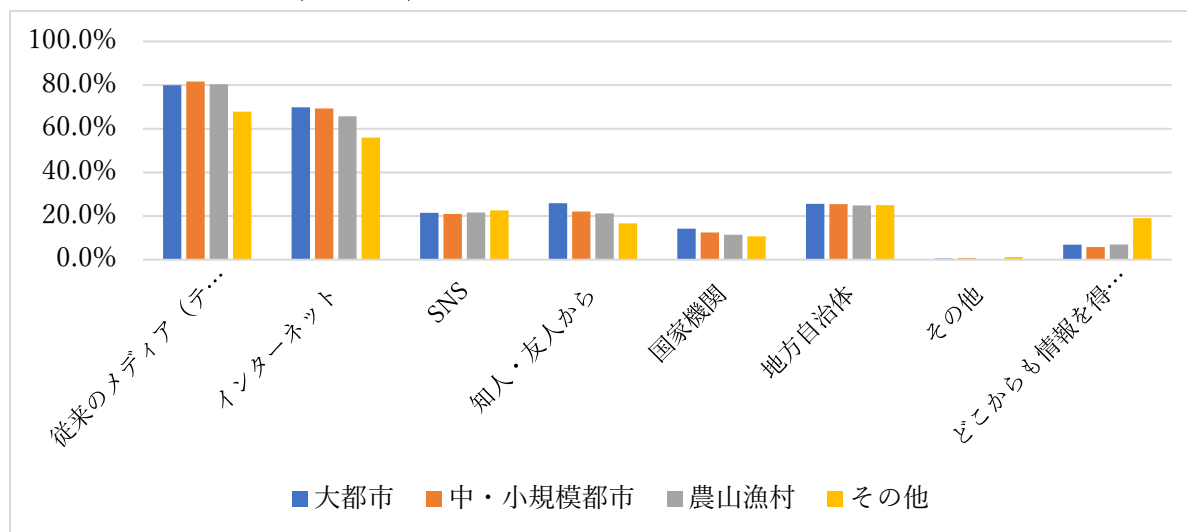


図 30s1-4 居住地域別 (N=4171)



Q30s2. 前問にてお答え頂いた、取得した情報源について伺います。その信頼度はどの程度ですか。当てはまるものをそれぞれお答えください。

			全体	まったく信用しない	どちらかと言うと信用しない	何とも言えない	どちらかと言うと信用に値する	きわめて信用に値する
Q30s2 項目 1	従来のメディア (テレビ、新聞など)	%	100.0	4.0	12.0	36.6	43.6	3.7
		実数	3366	136	403	1232	1469	126
Q30s2 項目 2	インターネット	%	100.0	2.5	13.3	56.3	26.1	1.8
		実数	2878	71	383	1620	751	53
Q30s2 項目 3	SNS	%	100.0	4.0	16.7	54.7	22.6	2.0
		実数	885	35	148	484	200	18
Q30s2 項目 4	知人・友人から	%	100.0	0.8	4.2	46.6	44.2	4.1
		実数	966	8	41	450	427	40
Q30s2 項目 5	国家機関	%	100.0	3.9	7.6	36.7	45.9	5.9
		実数	540	21	41	198	248	32
Q30s2 項目 6	地方自治体	%	100.0	1.0	5.1	33.5	54.5	5.9
		実数	1061	11	54	355	578	63
Q30s2 項目 7	その他(●●●)	%	100.0	0.0	0.0	24.0	52.0	24.0
		実数	25	0	0	6	13	6

図 30s2-0 総計

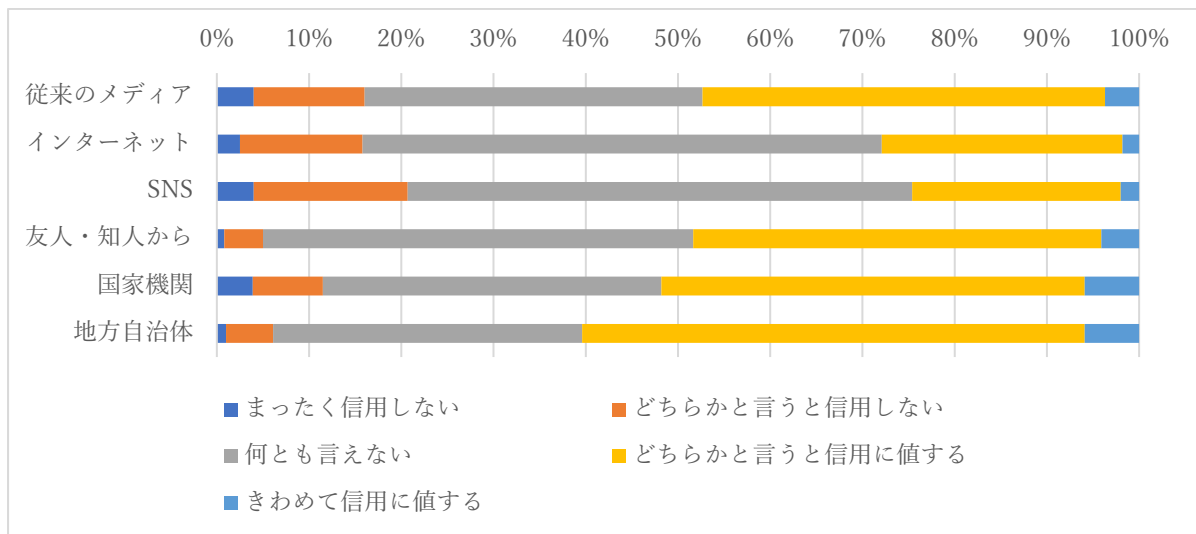


図 30s2-1-1 男女別 (N=3366) 従来のメディア (テレビ、新聞など)

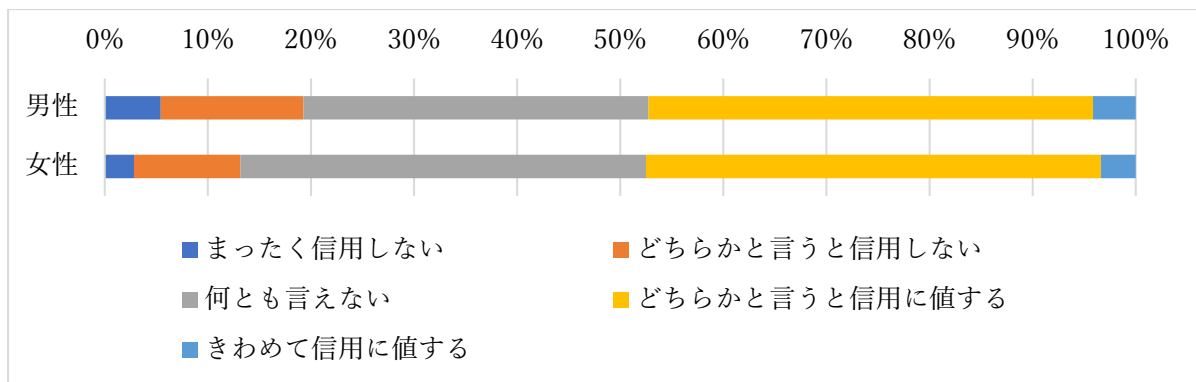


図 30s2-1-2 年齢別 (N=3366) 従来のメディア (テレビ、新聞など)

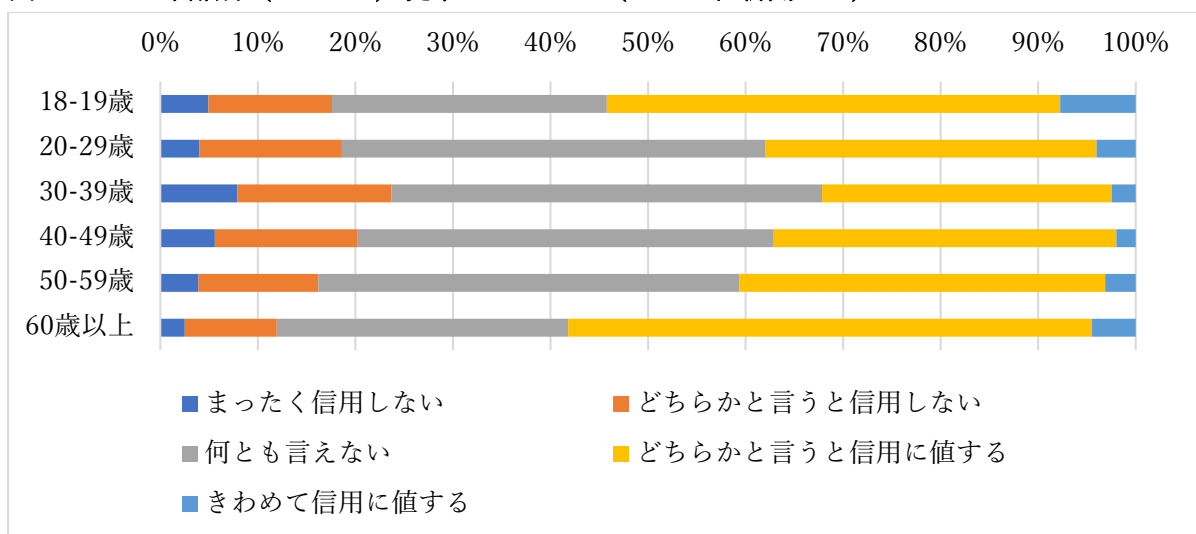


図 30s2-1-3 収入別 (N=1721) 従来のメディア (テレビ、新聞など)

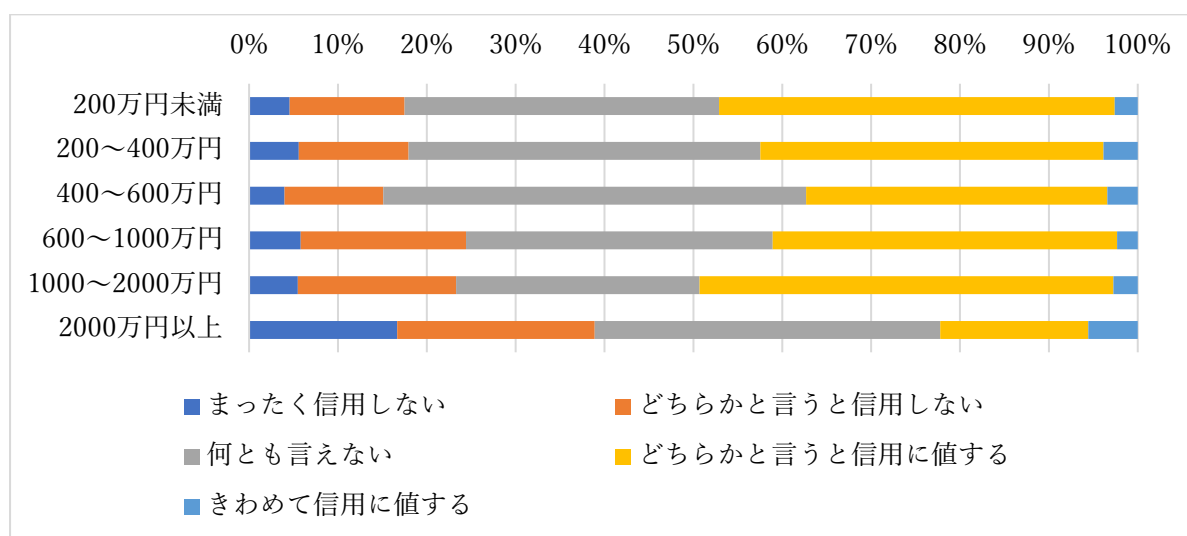


図 30s2-1-4 居住地地域別 (N=3366) 従来のメディア (テレビ、新聞など)

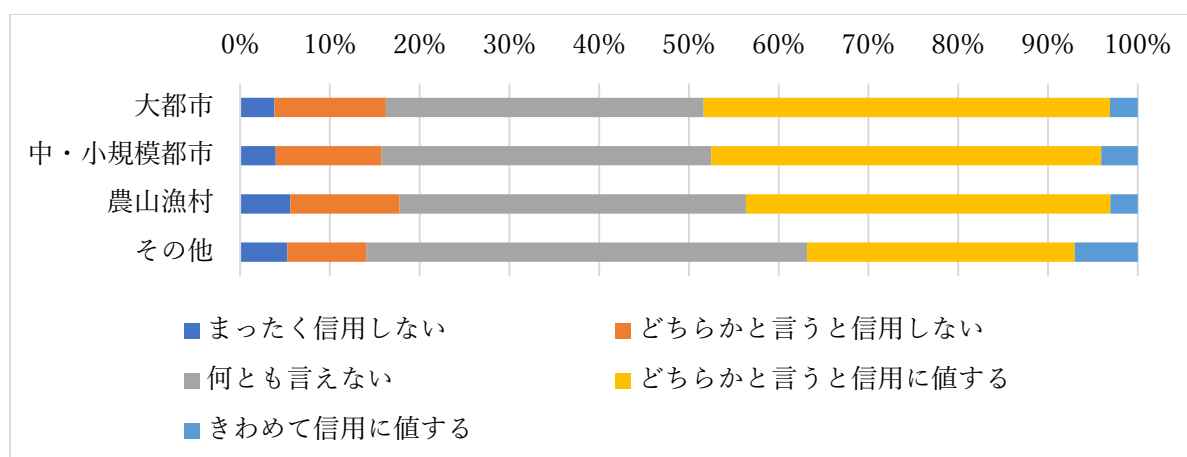


図 30s2-2-1 男女別 (N=2878) インターネット

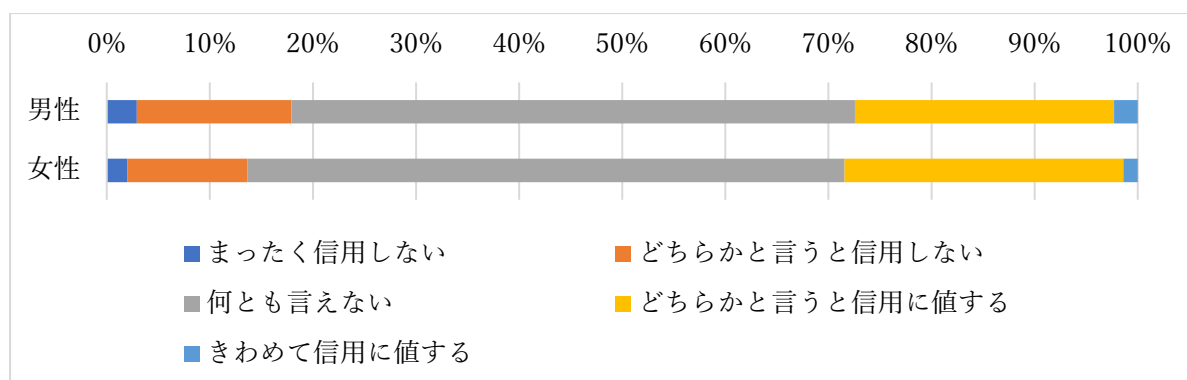




図 30s2-2-2 年齢別 (N=2878) インターネット

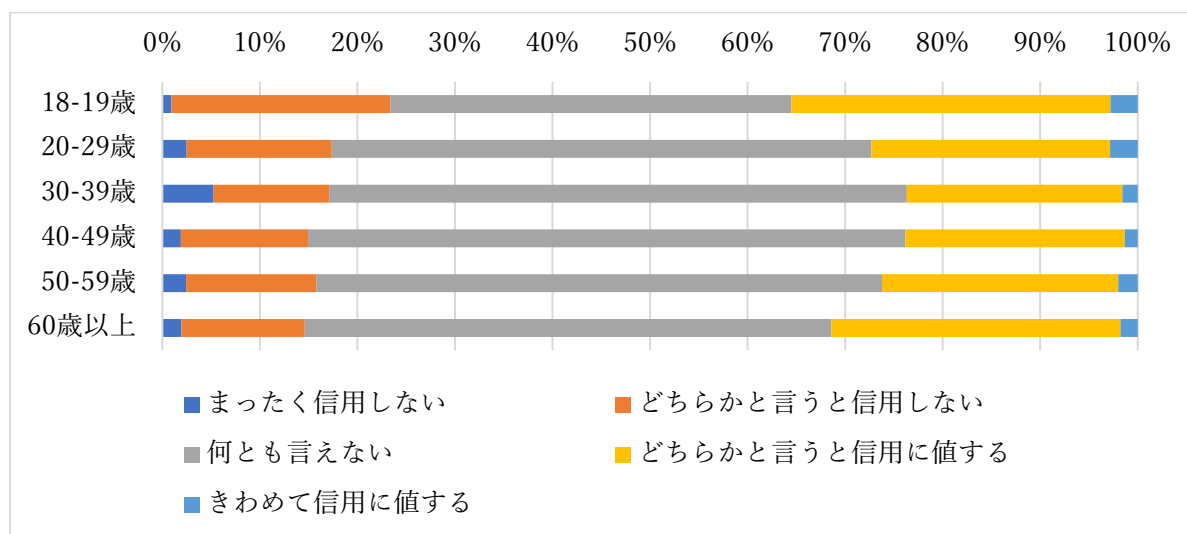


図 30s2-2-3 収入別 (N=1590) インターネット

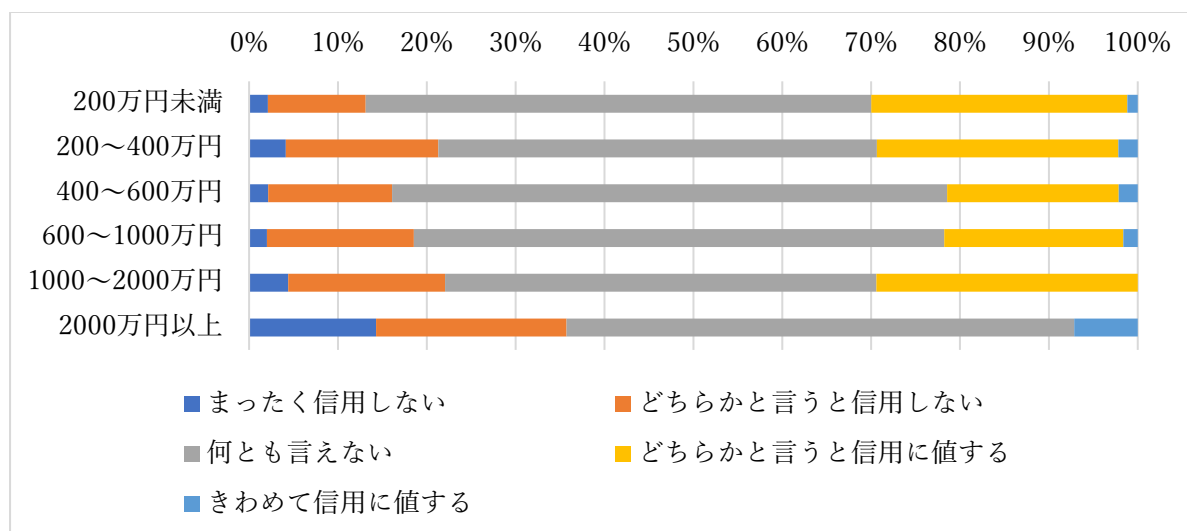


図 30s2-2-4 居住地域別 (N=2878) インターネット

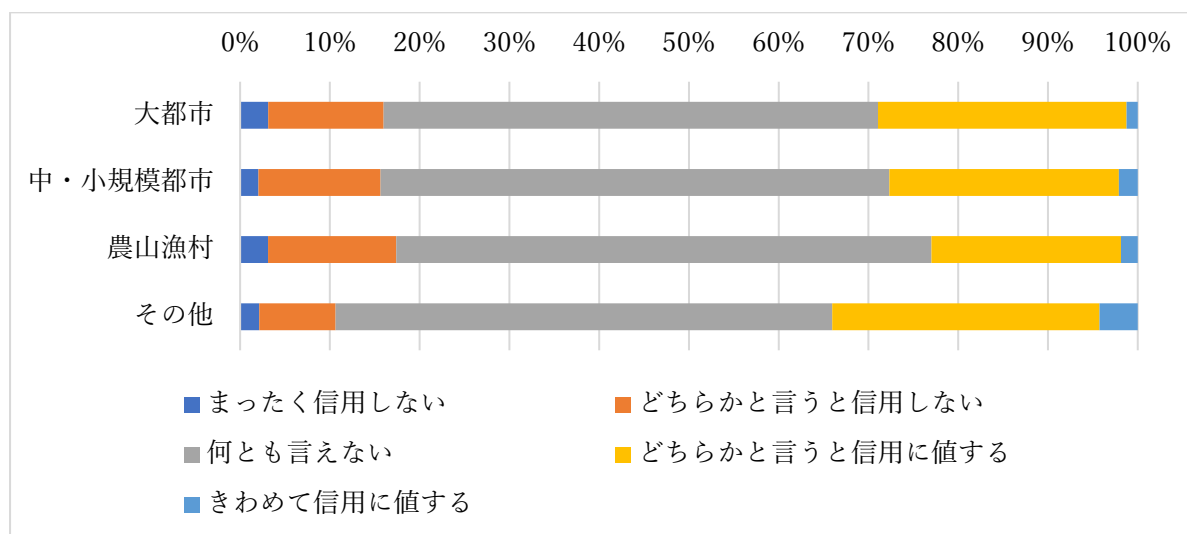


図 30s2-3-1 男女別 (N=885) SNS

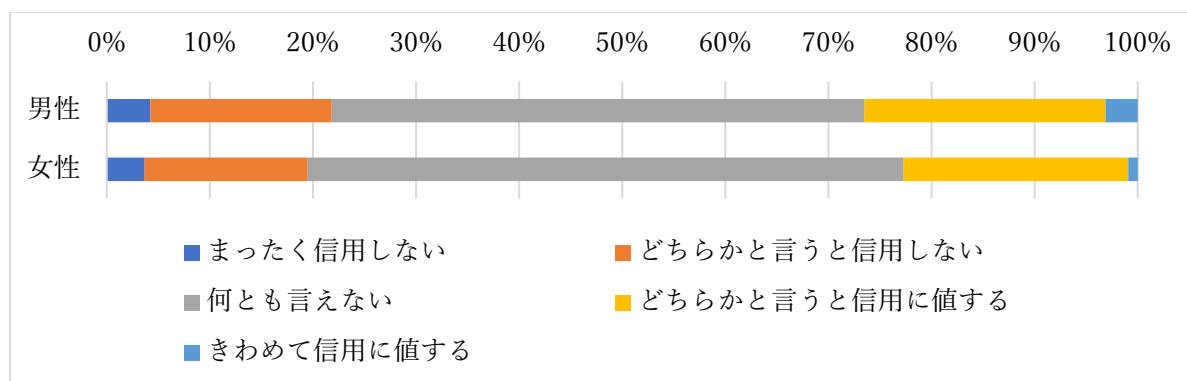


図 30s2-3-2 年齢別 (N=885) SNS

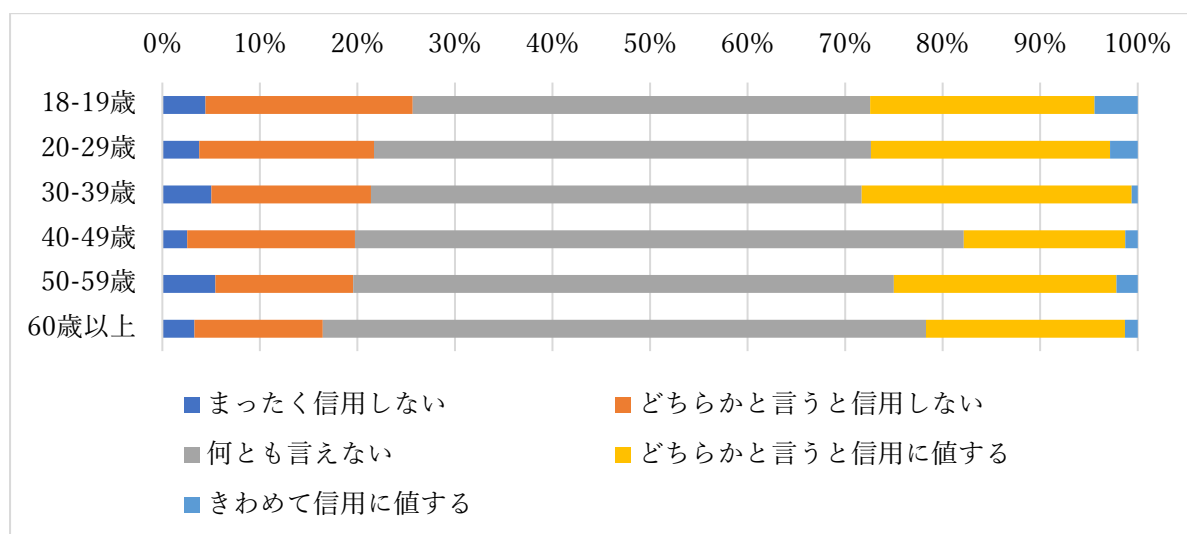


図 30s2-3-3 収入別 (N=512) SNS

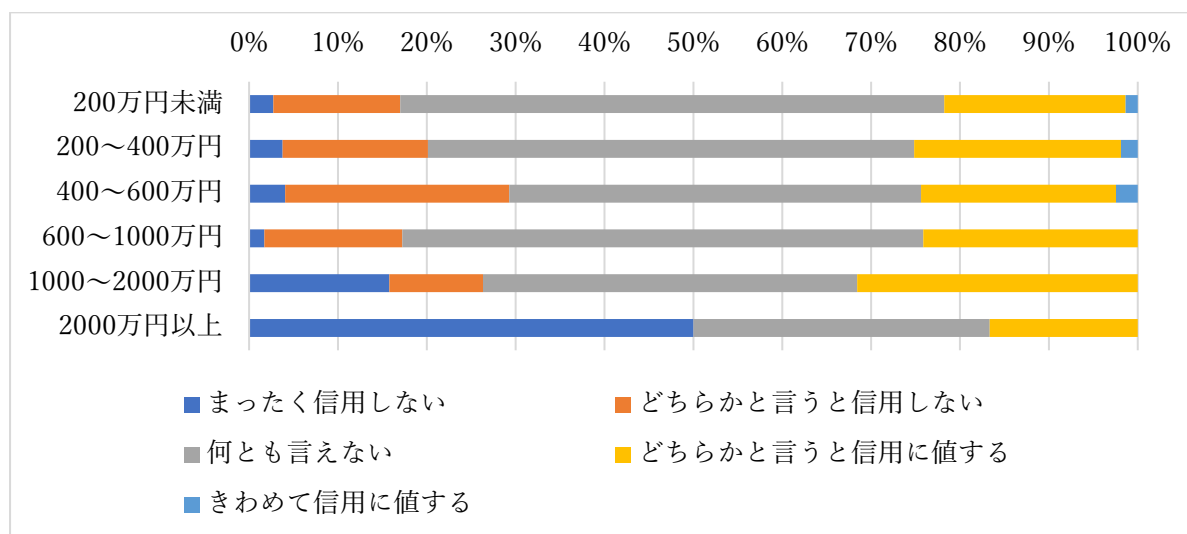


図 30s2-3-4 居住地域別 (N=885) SNS

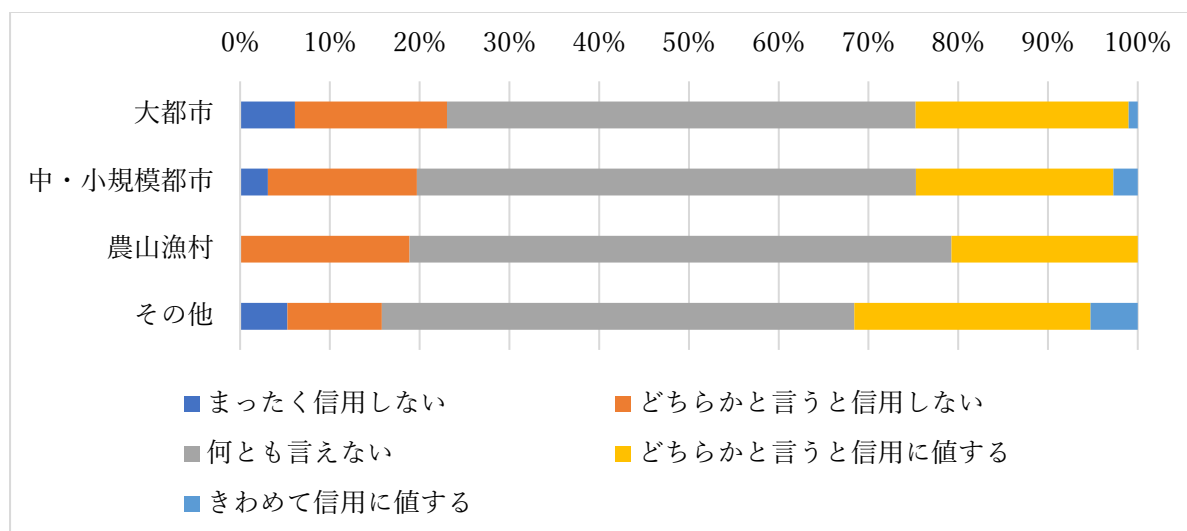


図 30s2-4-1 男女別 (N=966) 知人・友人から

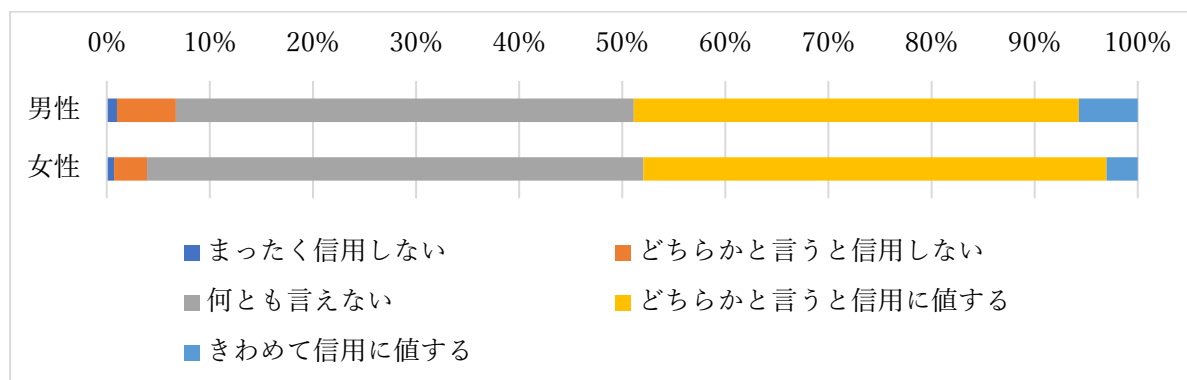


図 30s2-4-2 年齢別 (N=966) 知人・友人から

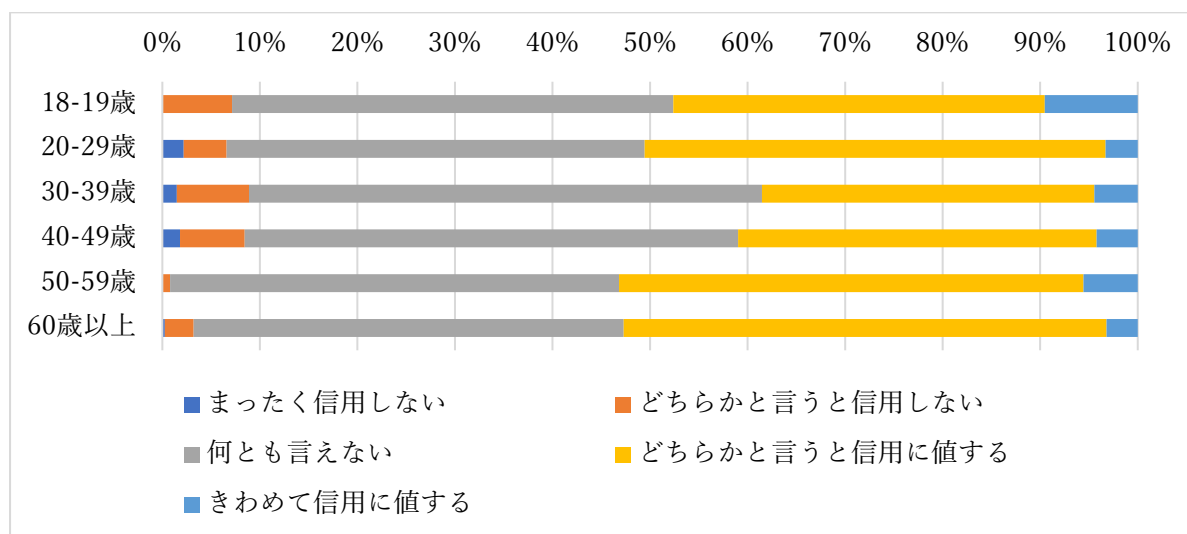


図 30s2-4-3 収入別 (N=547) 知人・友人から

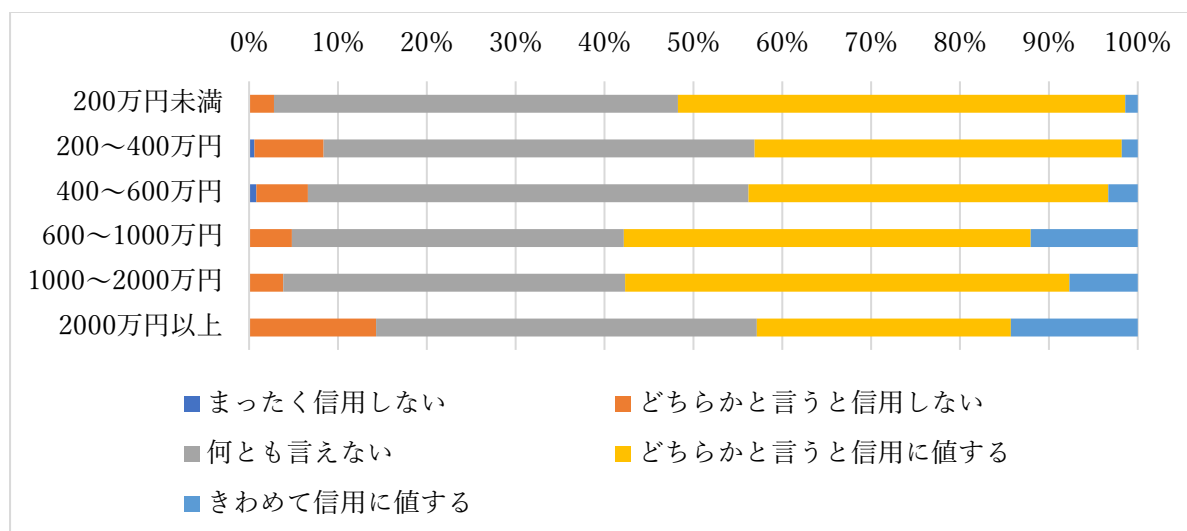


図 30s2-4-4 居住地域別 (N=966) 知人・友人から

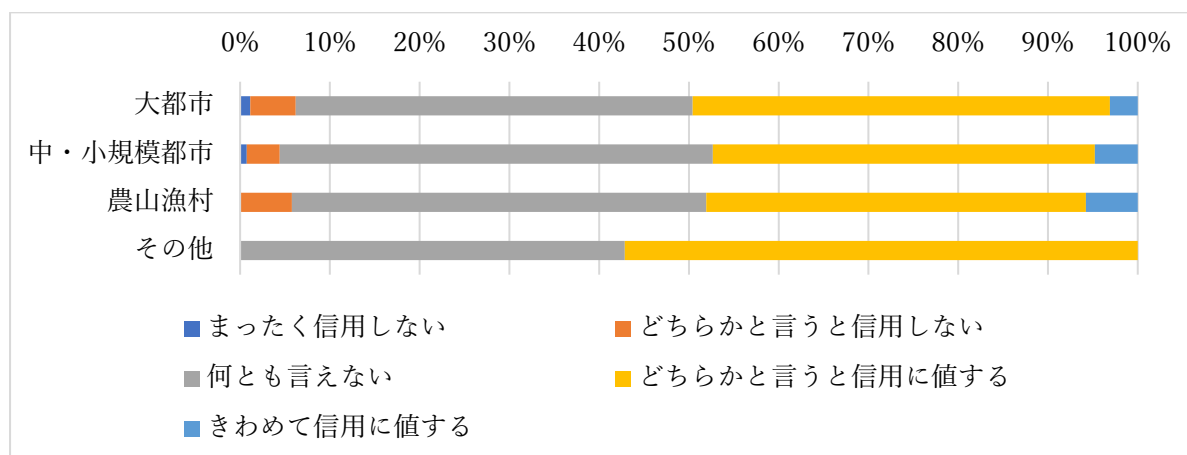


図 30s2-5-1 男女別 (N=540) 国家機関

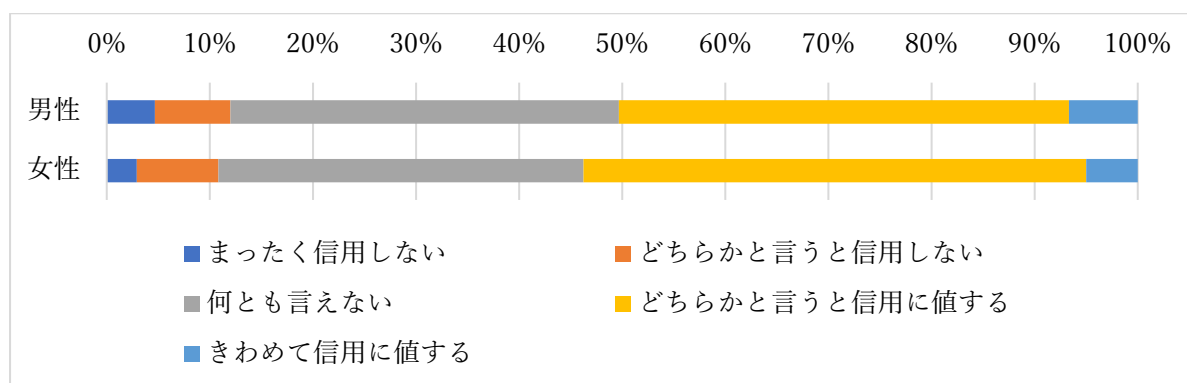


図 30s2-5-2 年齢別 (N=540) 国家機関

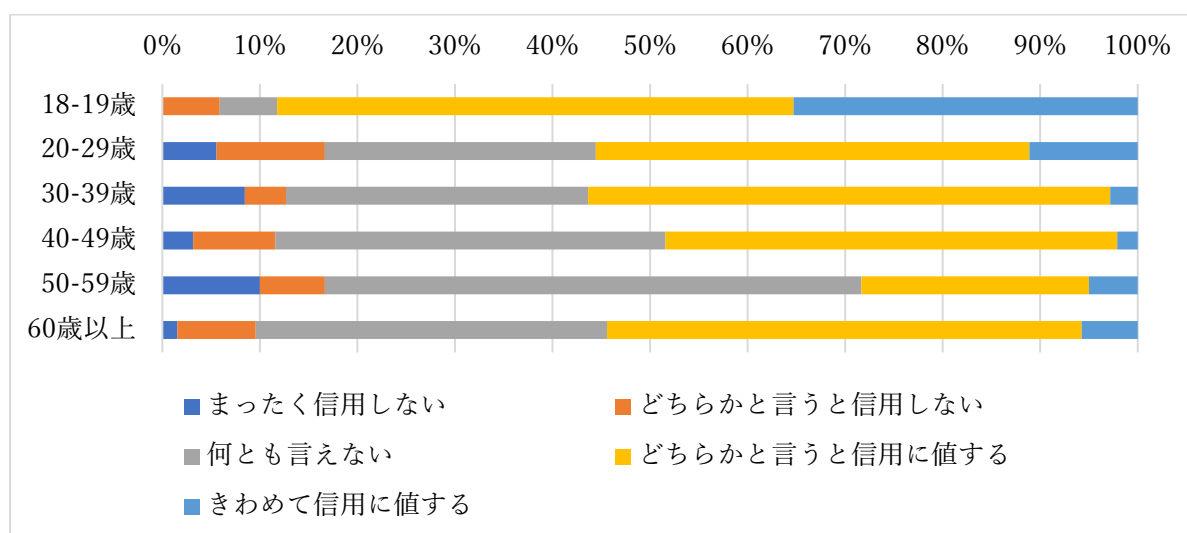


図 30s2-5-3 収入別 (N=291) 国家機関

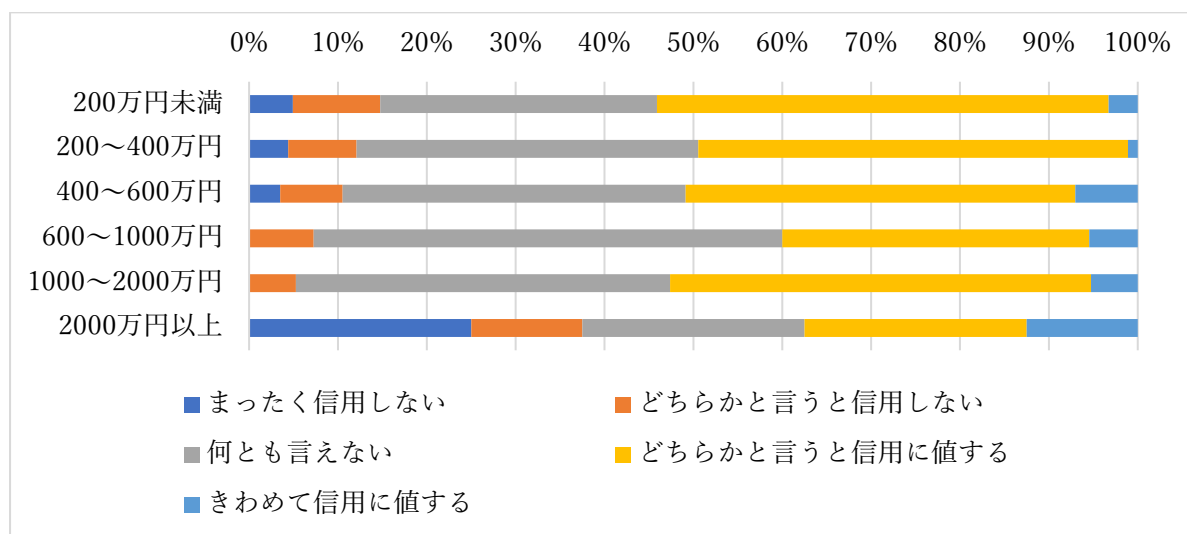


図 30s2-5-4 居住地域別 (N=540) 国家機関

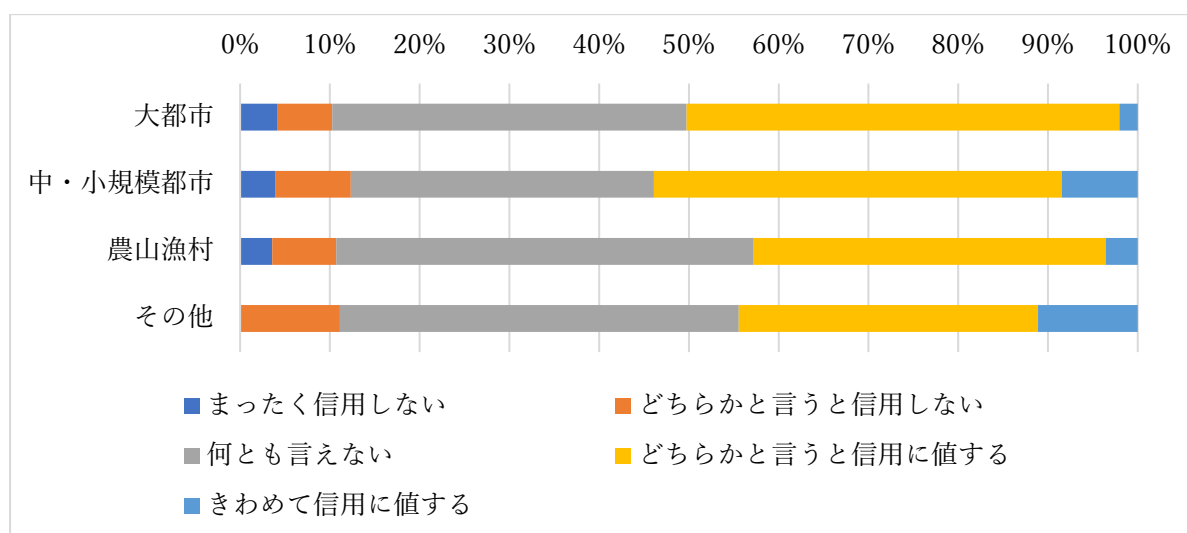


図 30s2-6-1 男女別 (N=1061) 地方自治体

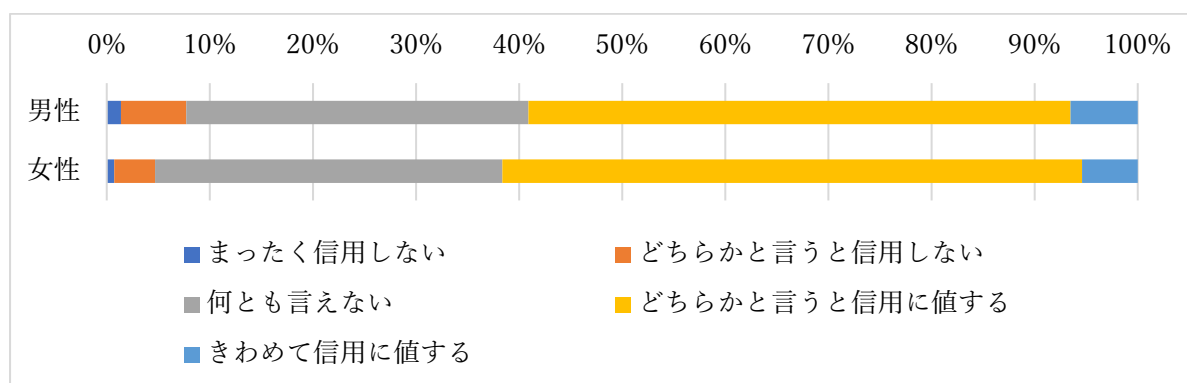


図 30s2-6-2 年齢別 (N=1061) 地方自治体

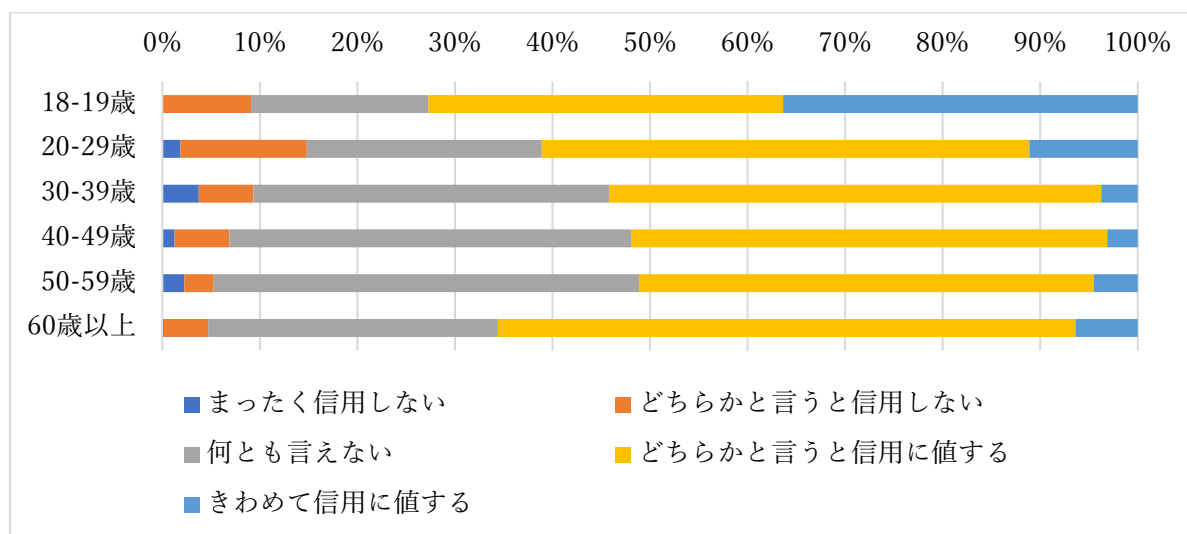


図 30s2-6-3 収入別 (N=510) 地方自治体

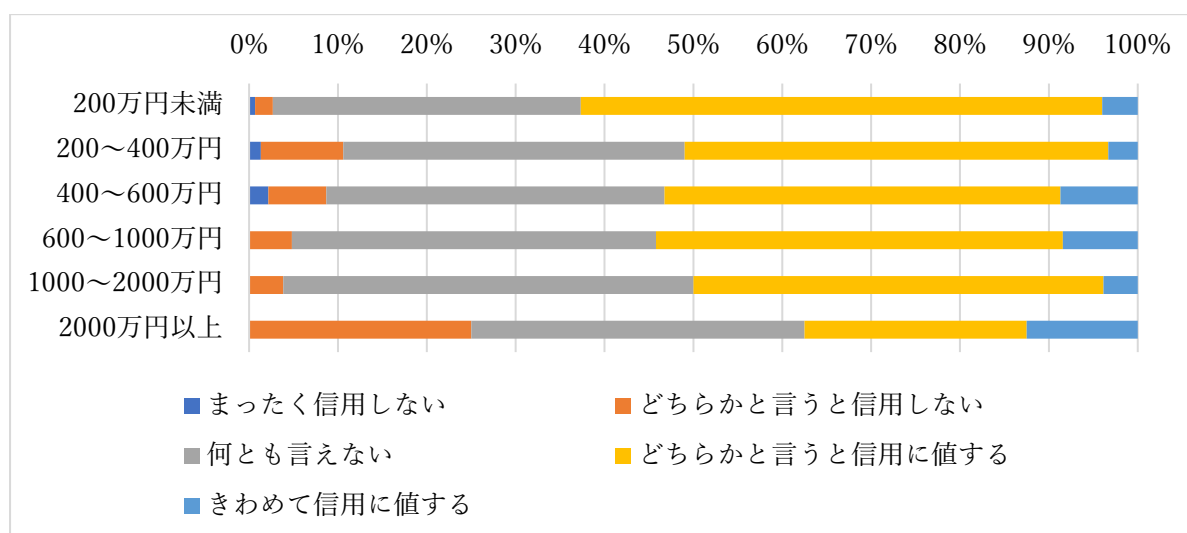
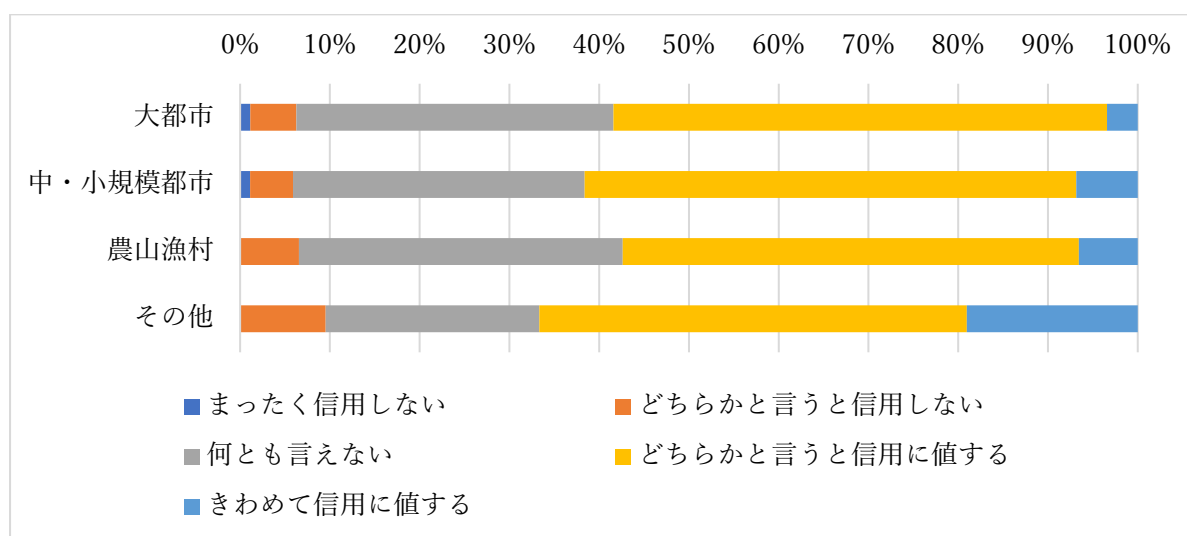


図 30s2-6-4 居住地域別 (N=1061) 地方自治体



Q31 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりあなたの生活はどのように変わりましたか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	悪くなった	1450	34.8
2	変わらない	2399	57.5
3	よくなった	136	3.3
4	こたえられない	186	4.5

図 31-0 総計

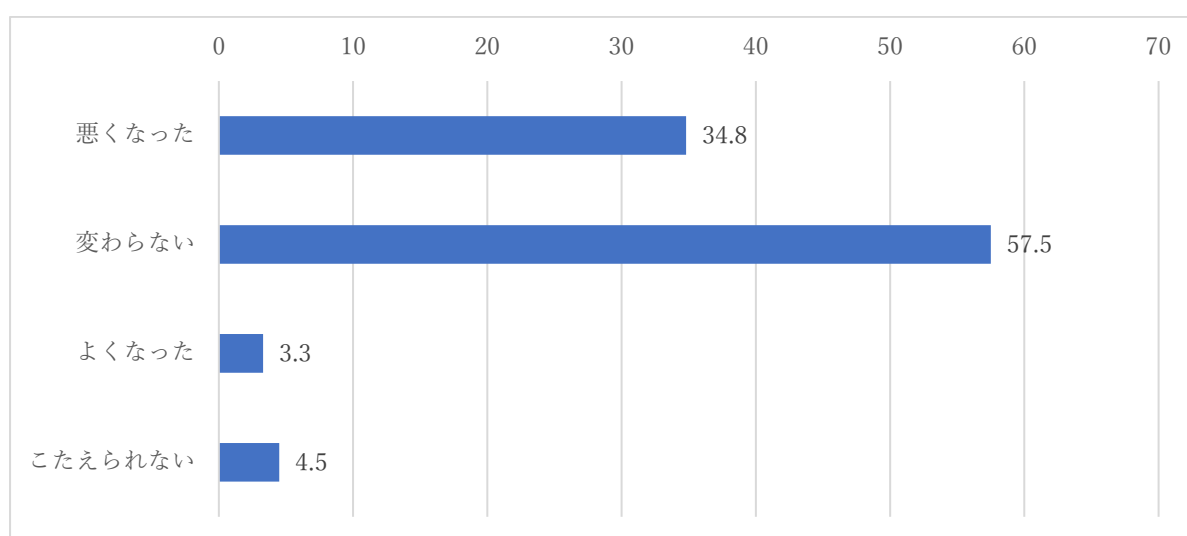




図 31-1 男女別 (N=4171)

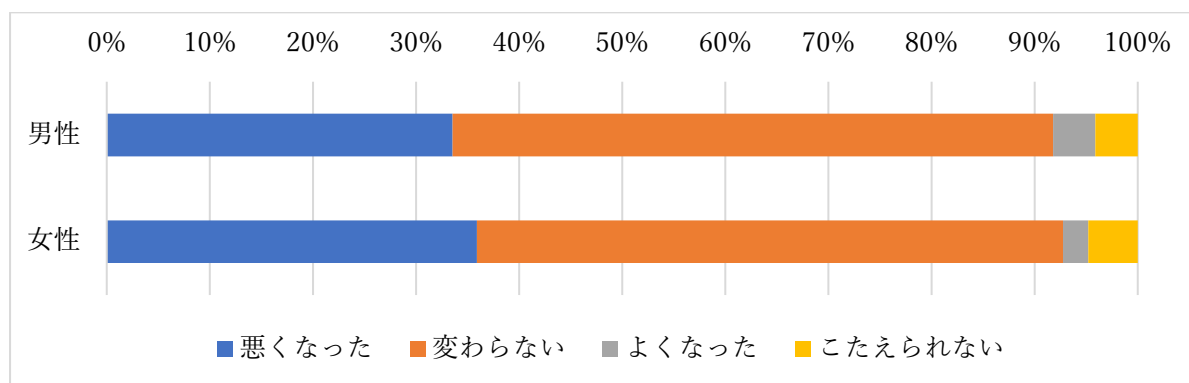


図 31-2 年齢別 (N=4171)

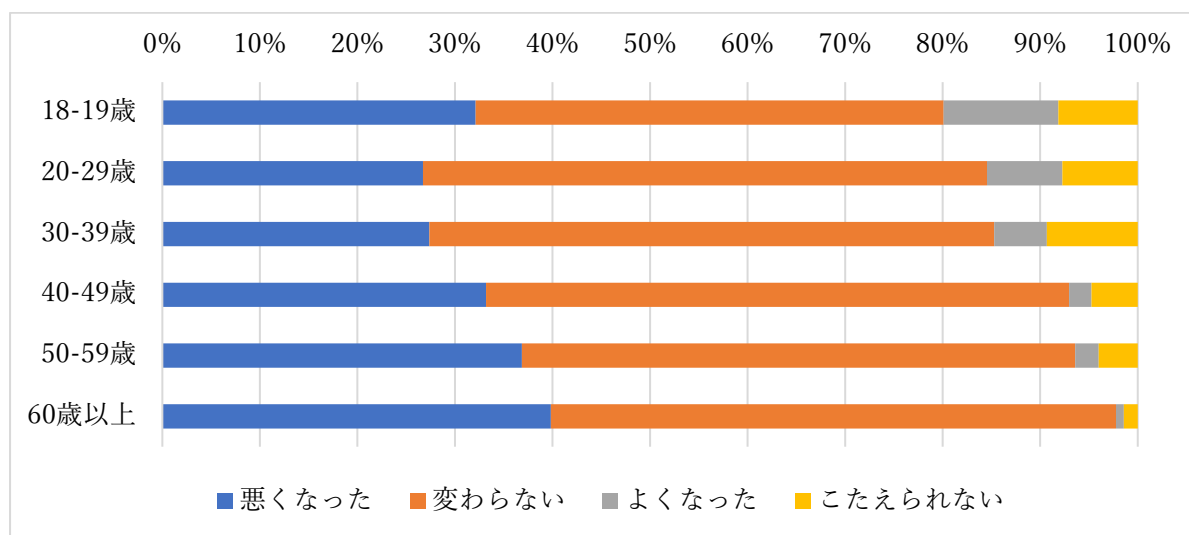


図 31-3 収入別 (N=2235)

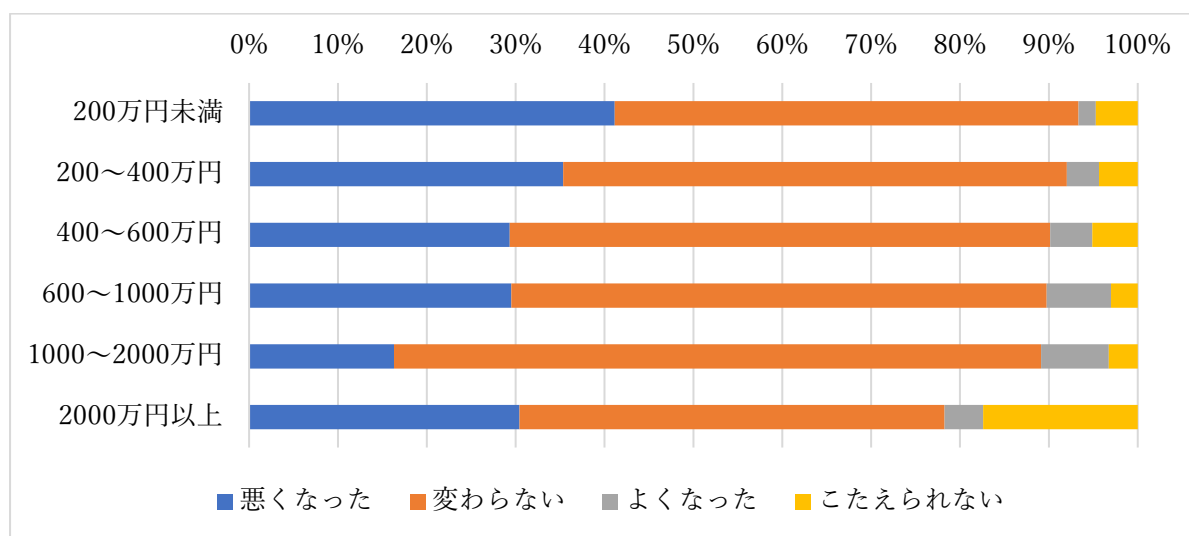
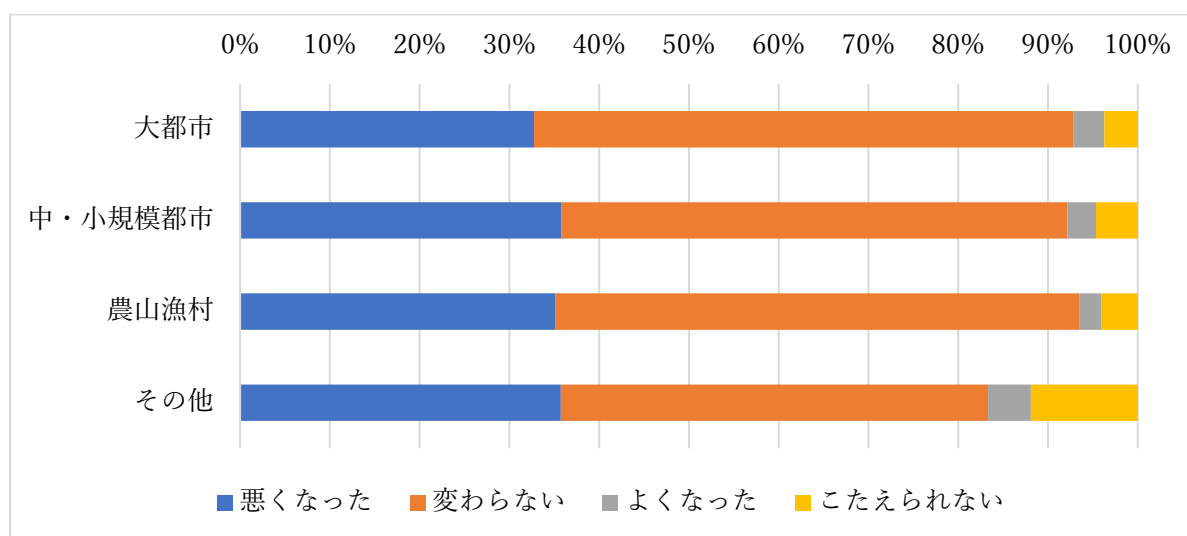


図 31-4 居住地域別 (N=4171)



Q32. 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりあなたの収入はどのように変わりましたか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		2235	100.0
1	増加した	60	2.7
2	変わらない	1496	66.9
3	減少した	606	27.1
4	こたえられない	73	3.3

図 32-0 総計

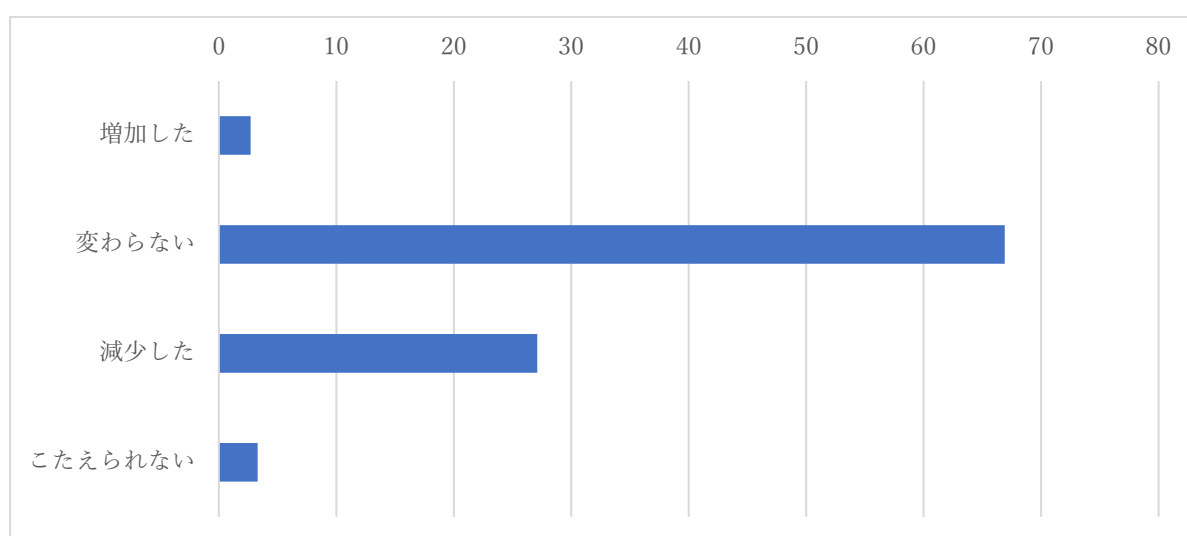


図 32-1 男女別 (N=2235)

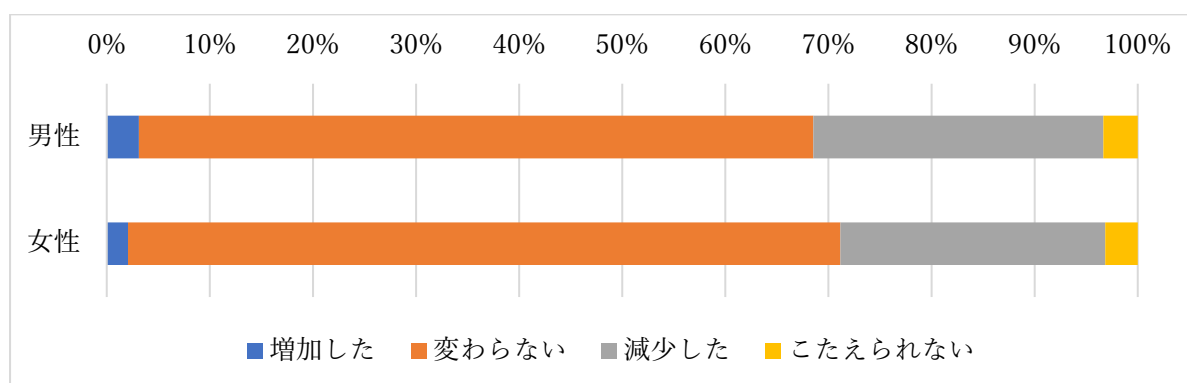


図 32-2 年齢別 (N=2235)

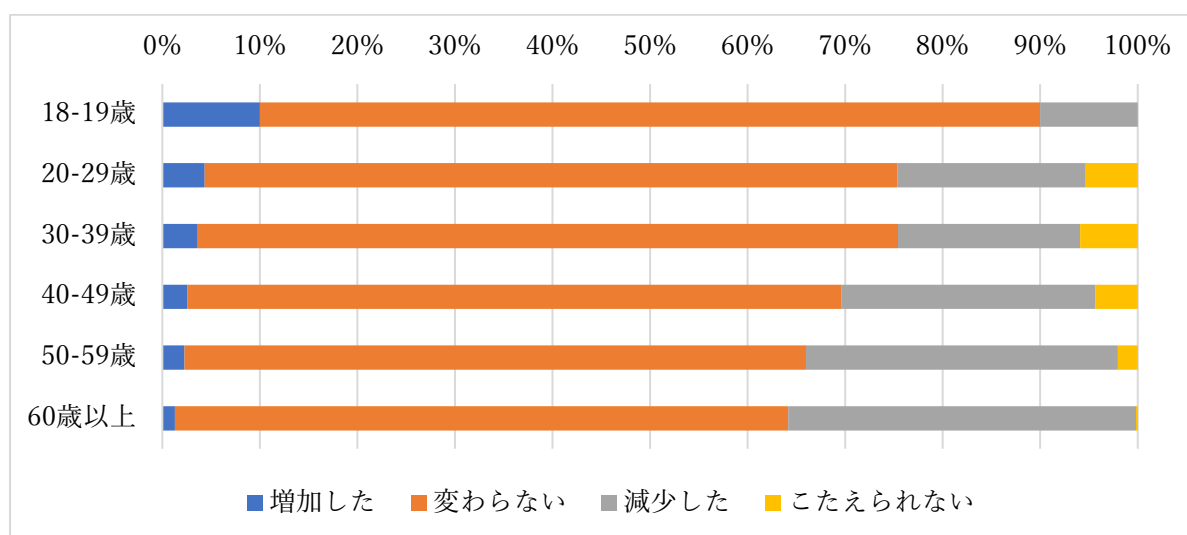


図 32-3 収入別 (N=2235)

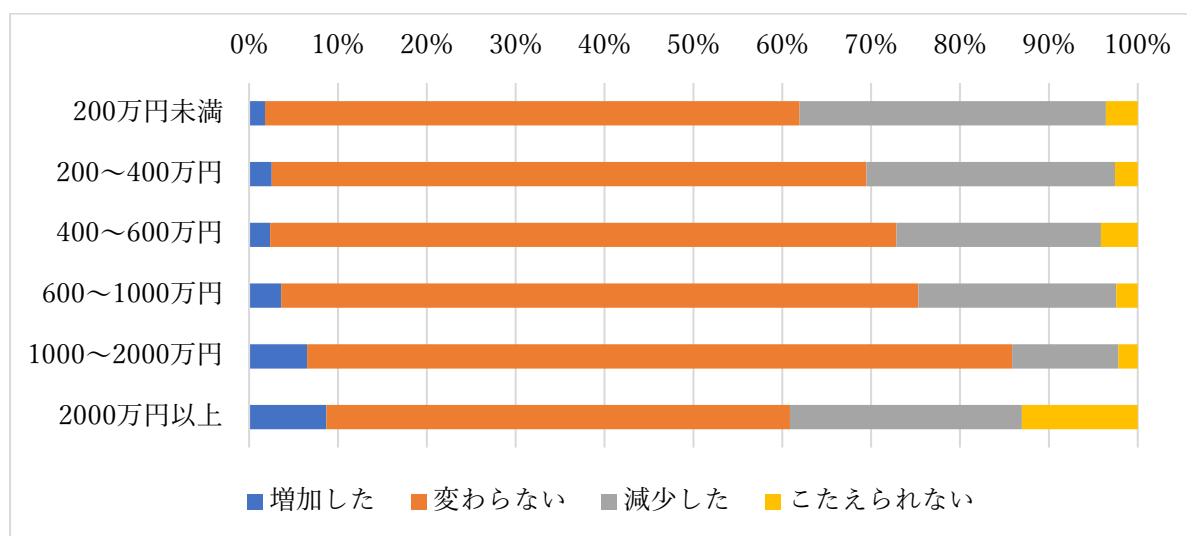
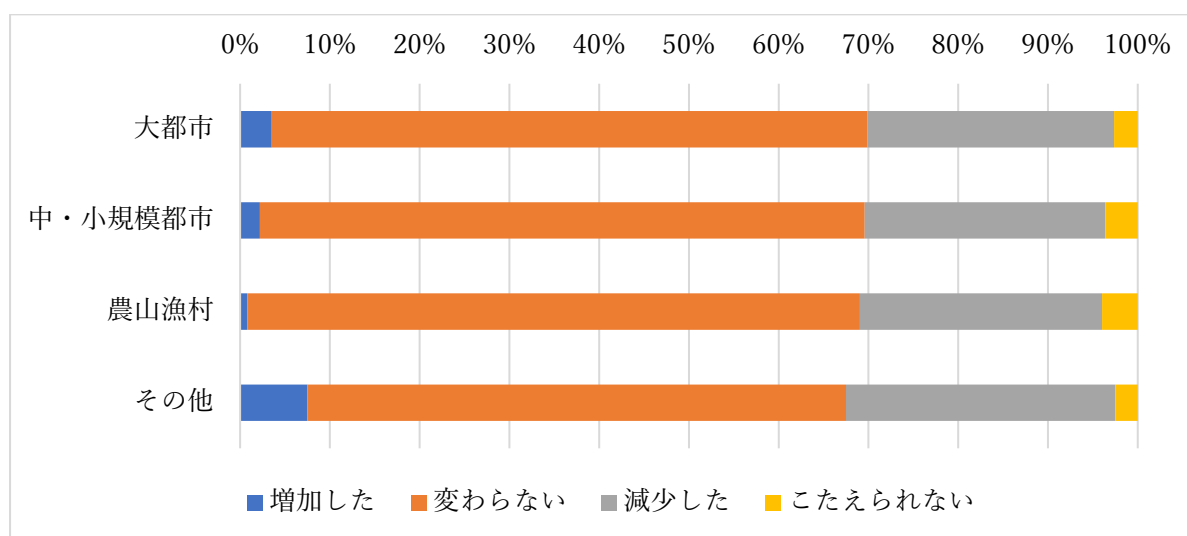


図 32-4 居住地域別 (N=2235)



Q33. 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりあなたの仕事はどのように変わりましたか。(複数回答)

		実数	%
全体		2235	100.0
1	仕事をやめた・転職した	111	5.0
2	在宅勤務(週の半分以上)になった	371	16.6
3	時差出勤が多くなった	223	10.0
4	出張がなくなった(半減した)	299	13.4
5	何も変わらない	1448	64.8

図 33-0 総計

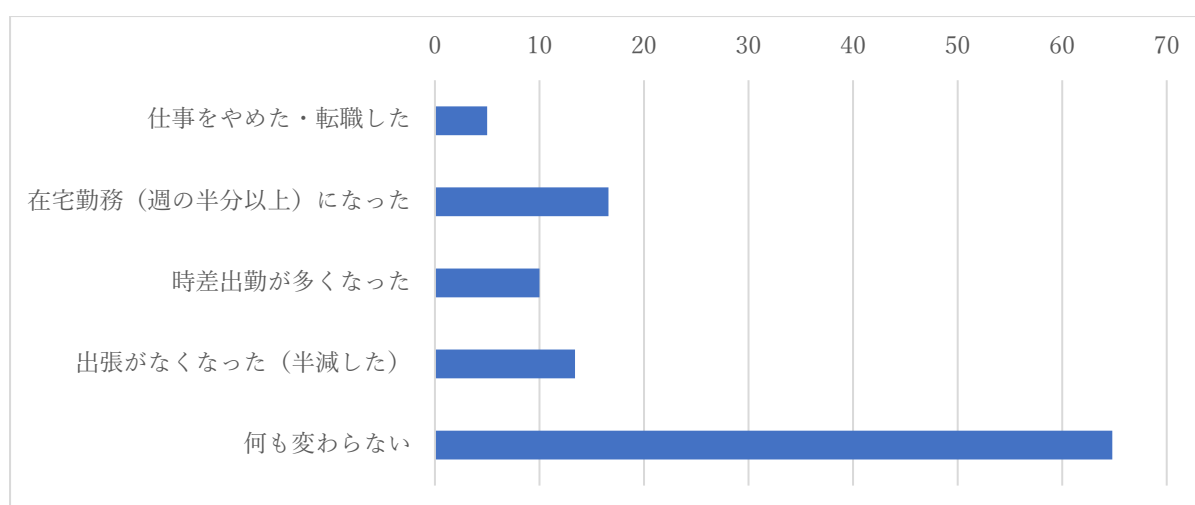


図 33-1 男女別 (N=2235)

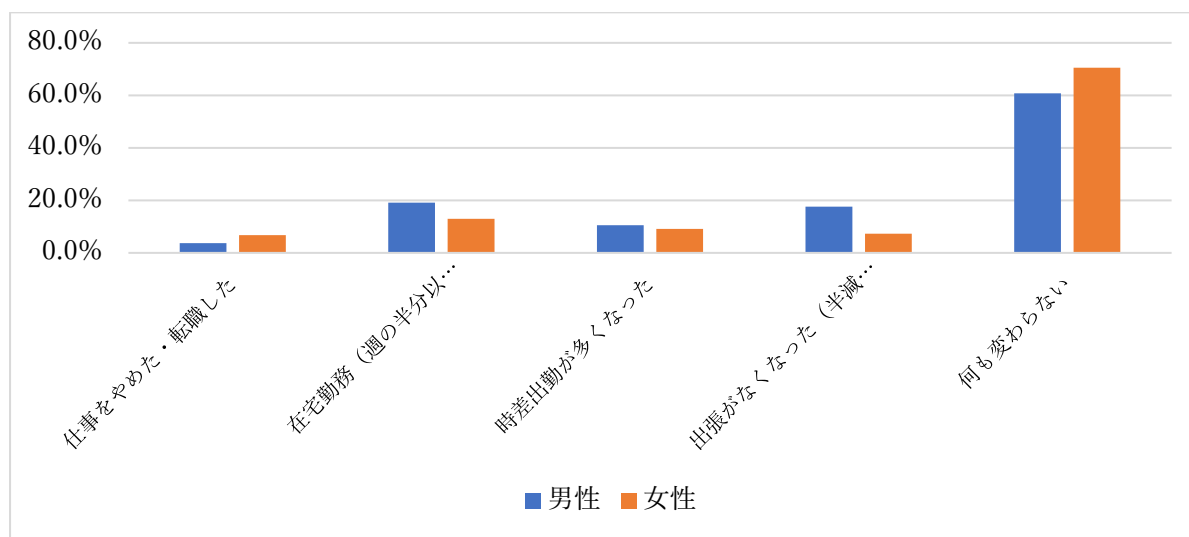


図 33-2 年齢別 (N=2235)

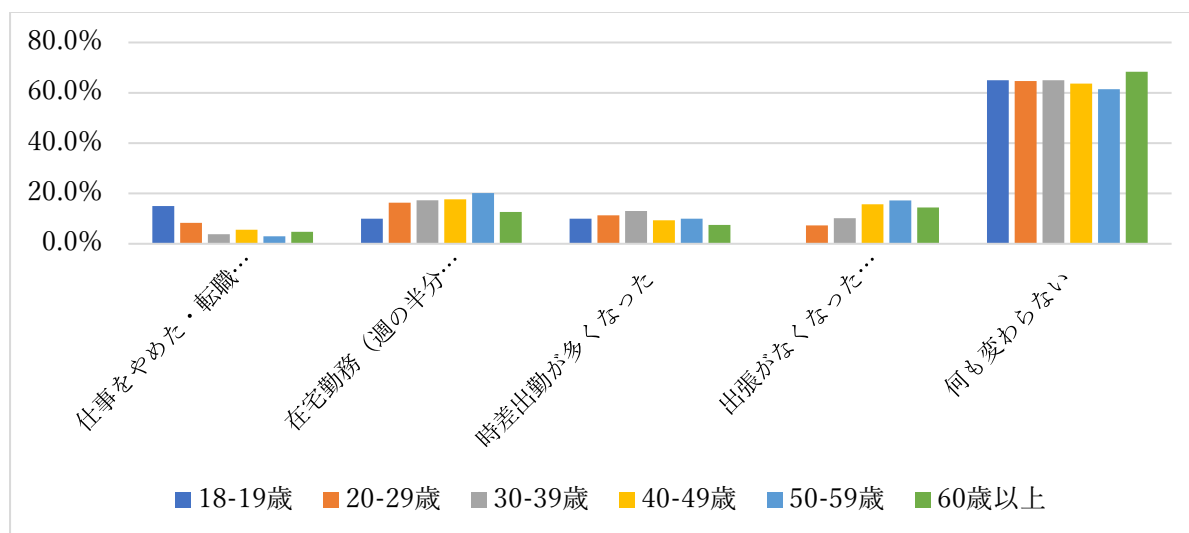


図 33-3 収入別 (N=2235)

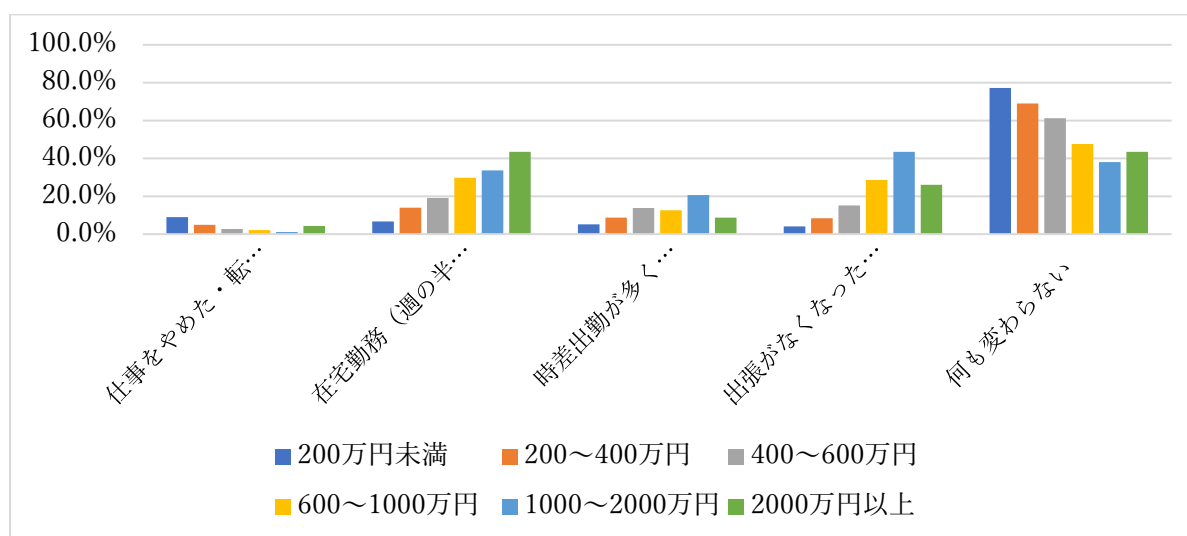
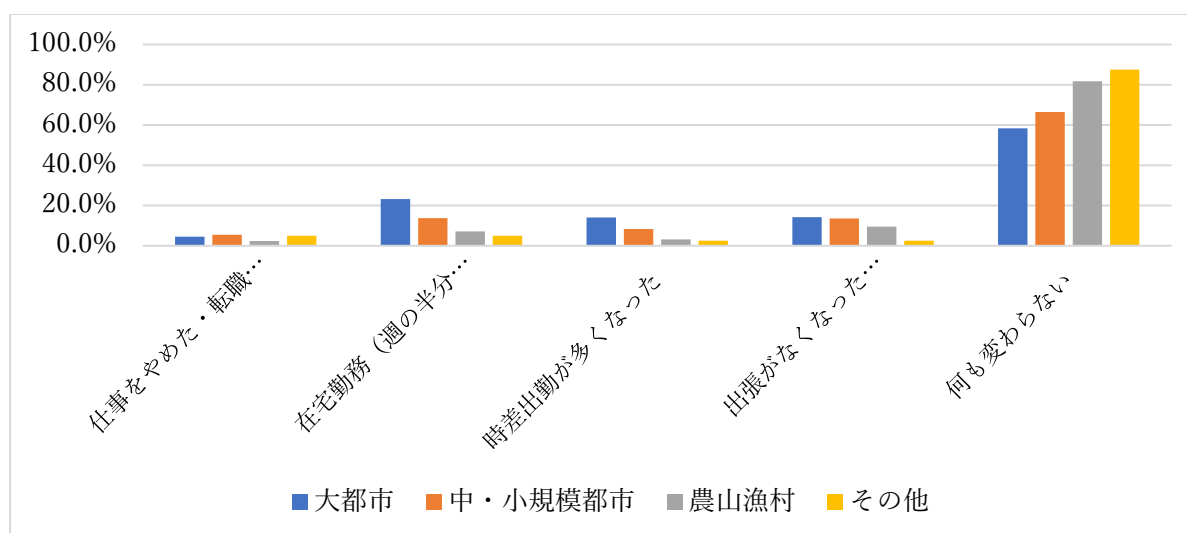


図 33-4 居住地域別 (N=2235)



Q34. 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりかける時間数が増えたものをチェックして下さい。(複数回答)

		実数	%
全体		4171	100.0
1	仕事 (学生の方は学校の勉強など)	207	5.0
2	家族との時間	1176	28.2
3	親戚との付き合い	97	2.3
4	近所づきあい	81	1.9
5	趣味・余暇・スポーツ	735	17.6
6	ボランティア	51	1.2
7	学習・新しい知識の習得	338	8.1

8	何も変わらない	2273	54.5
---	---------	------	------

図 34-0 総計

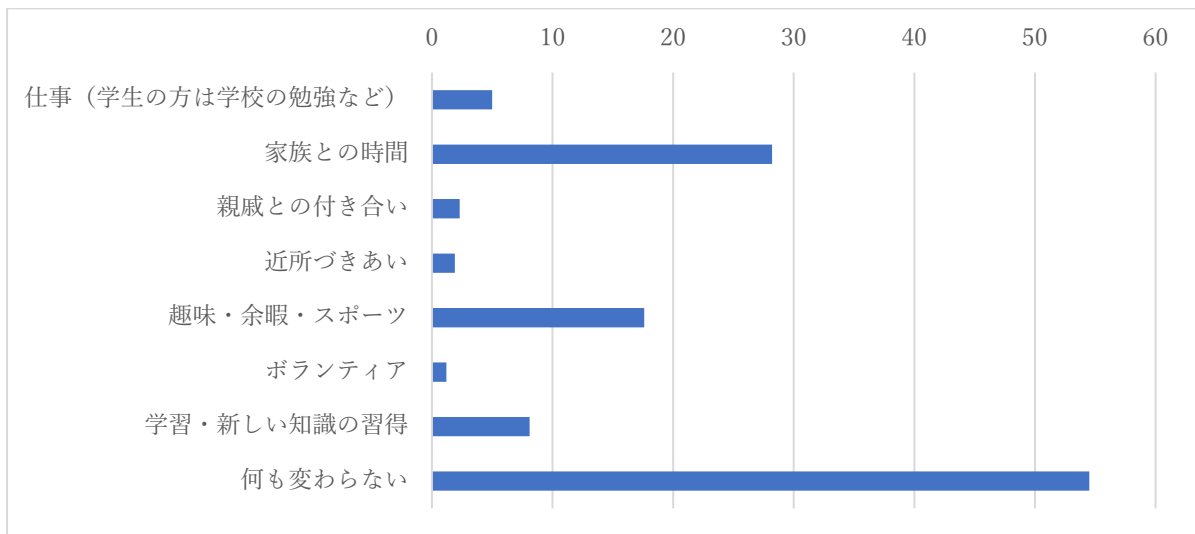


図 34-1 男女別 (N=4171)

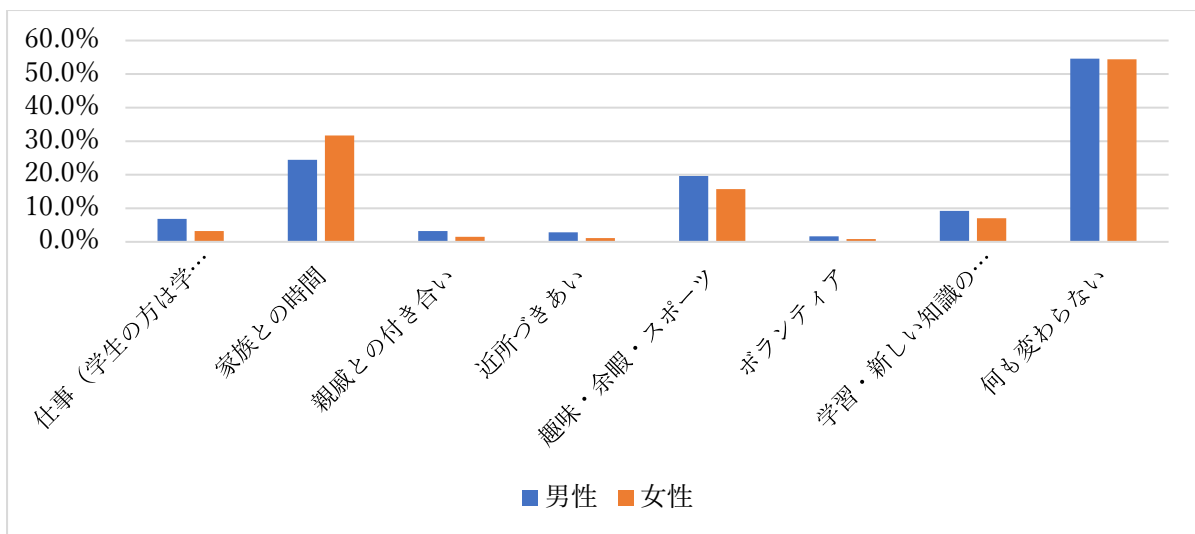


図 34-2 年齢別 (N=4171)

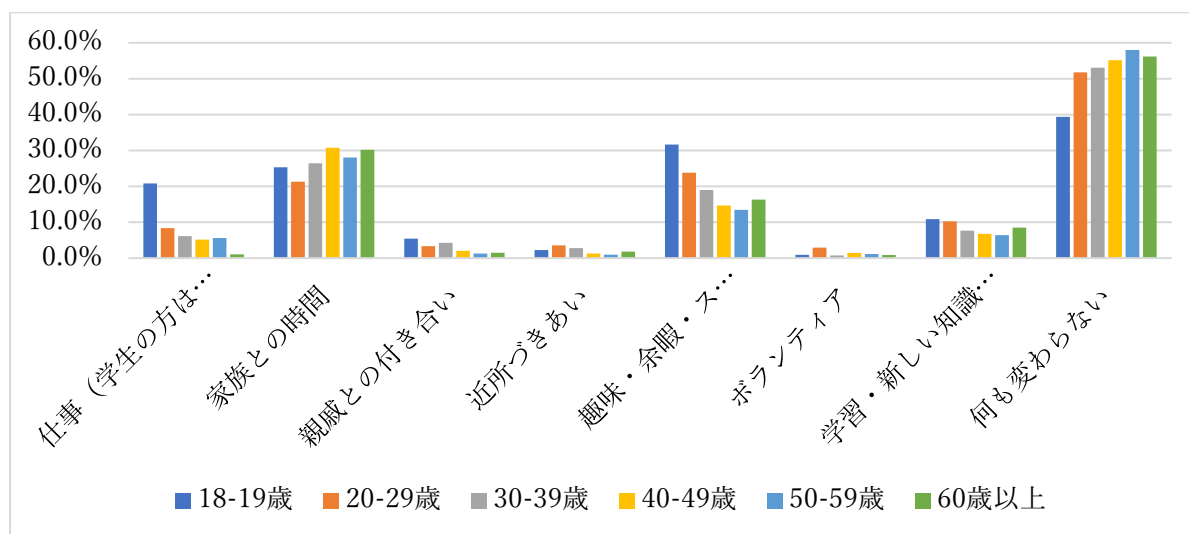


図 34-3 収入別 (N=4171)

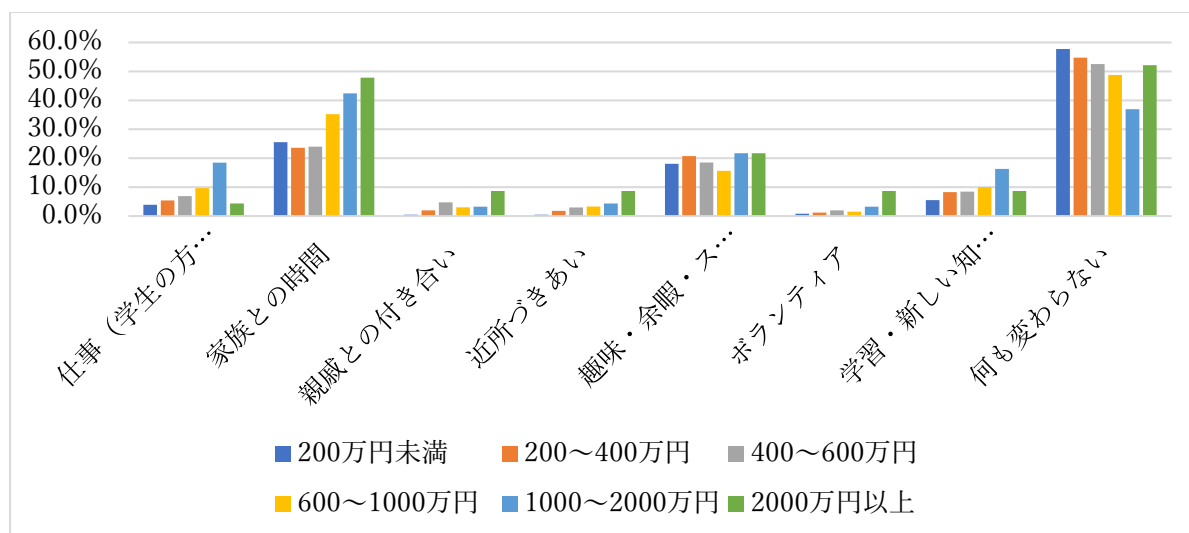
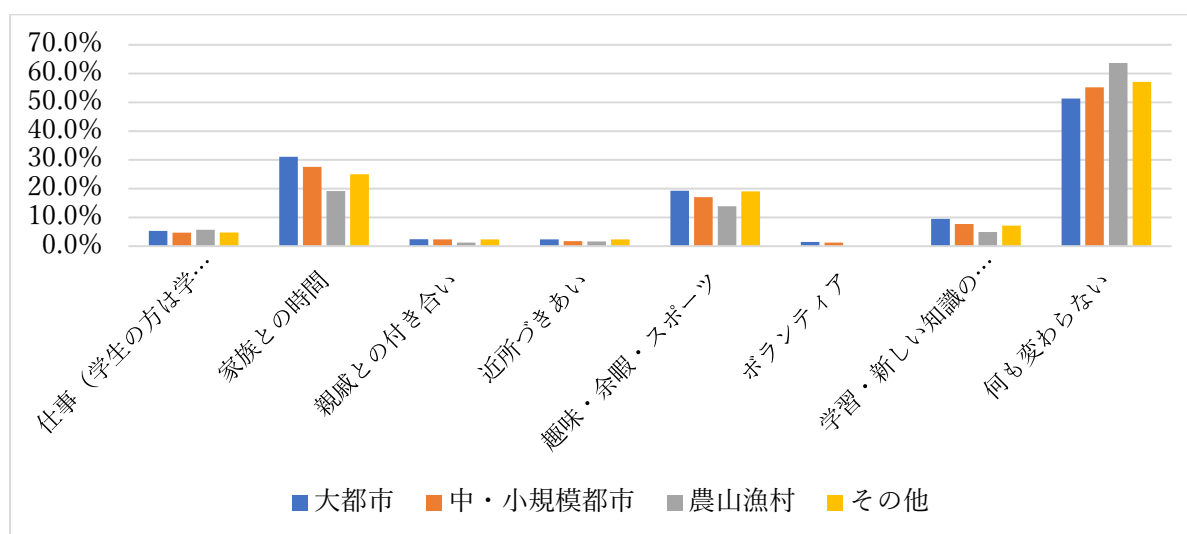




図 34-4 居住地域別 (N=4171)



Q35. あなたは新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの有効性を信用していますか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	信用している	2327	55.8
2	信用していない	607	14.6
3	どちらともいえない	1237	29.7

図 35-0 総計

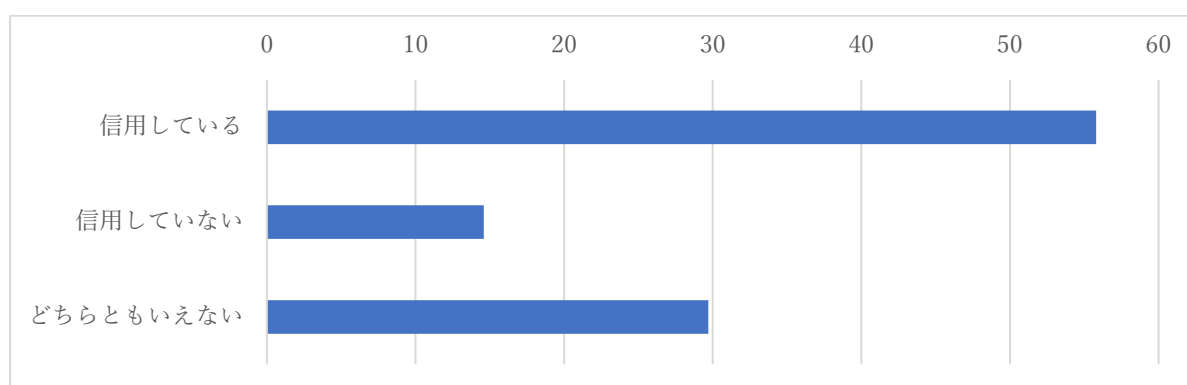


図 35-1 男女別 (N=4171)

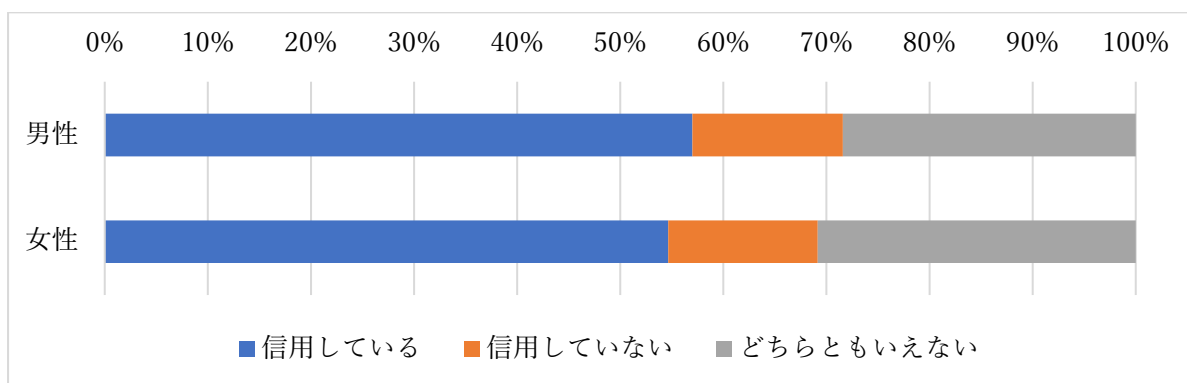


図 35-2 年齢別 (N=4171)

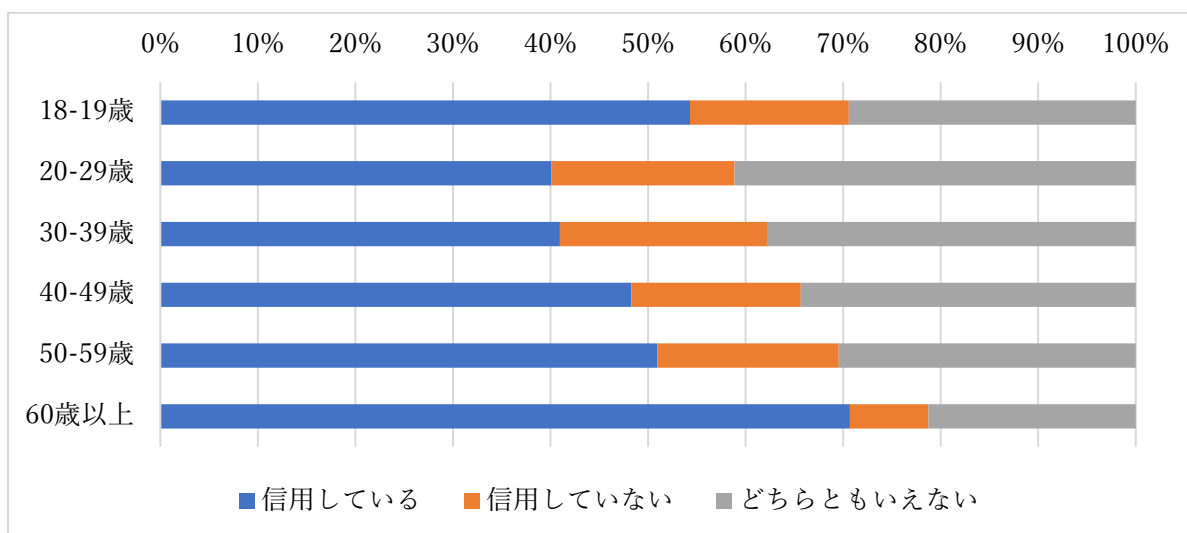


図 35-3 収入別 (N=4171)

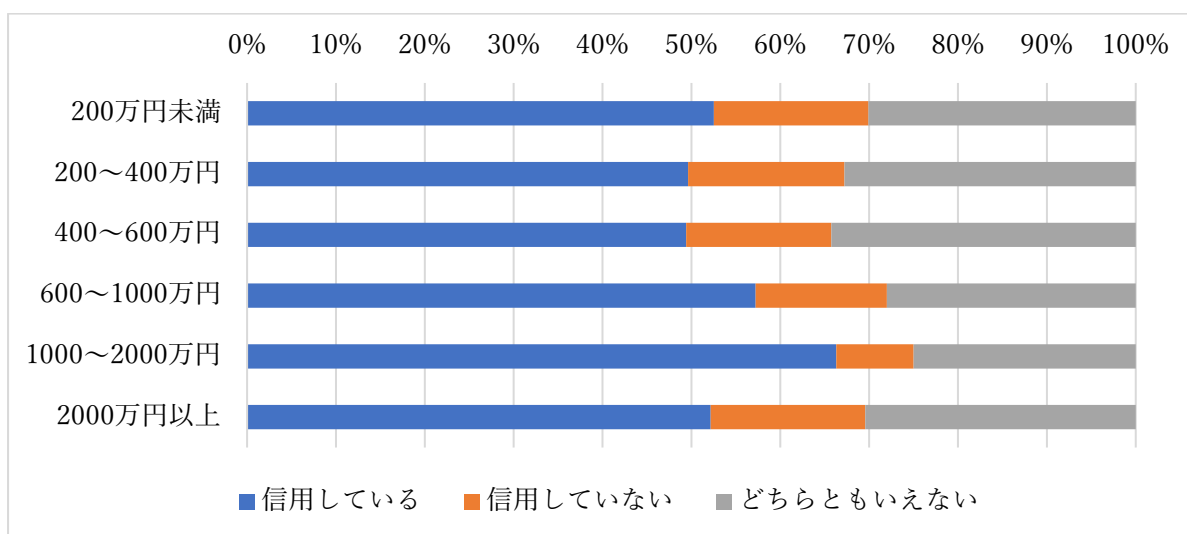
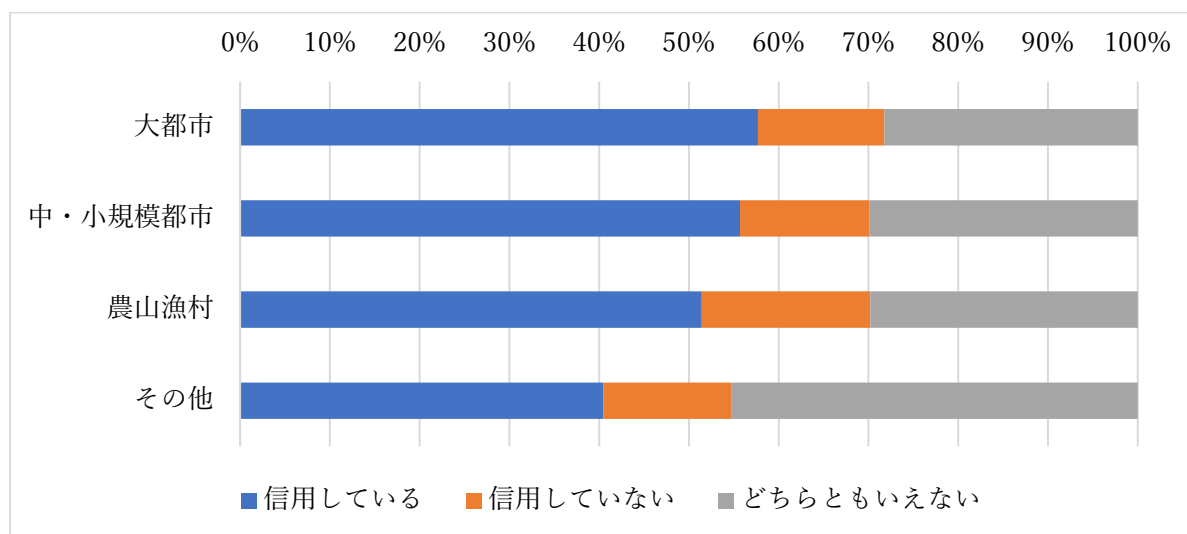


図 35-4 居住地域別 (N=4171)



Q36. あなたは新型コロナウイルス感染症に対する政府の政策は、あなたの生活にとってどの程度有効だと思いますか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	きわめて有効である	220	5.3
2	どちらかといえば有効である	1316	31.6
3	どちらとも言えない	1574	37.7
4	あまり有効ではない	701	16.8
5	まったく有効ではない	360	8.6

図 36-0 総計

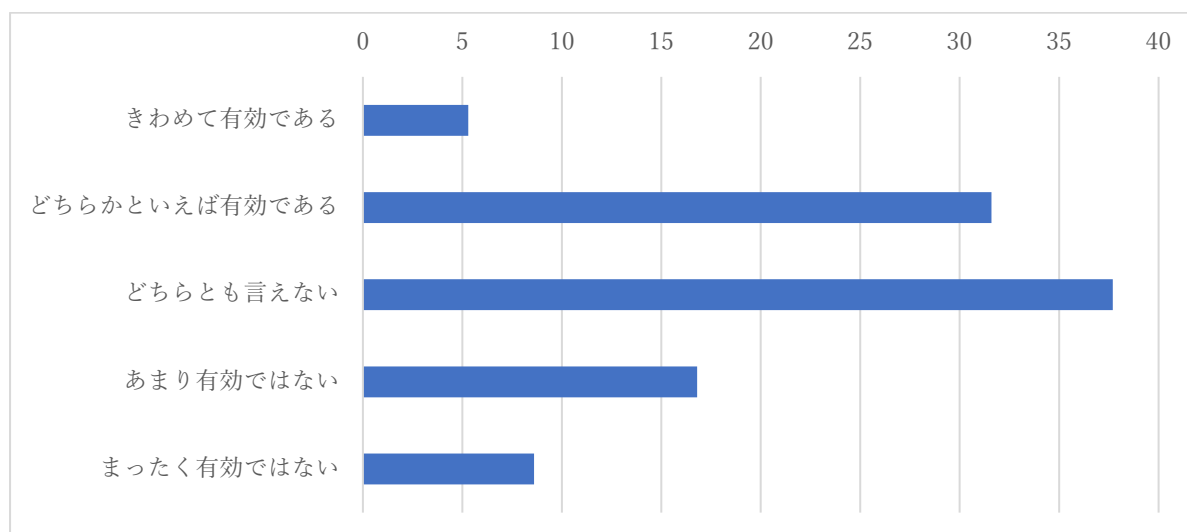


図 36-1 男女別 (N=4171)

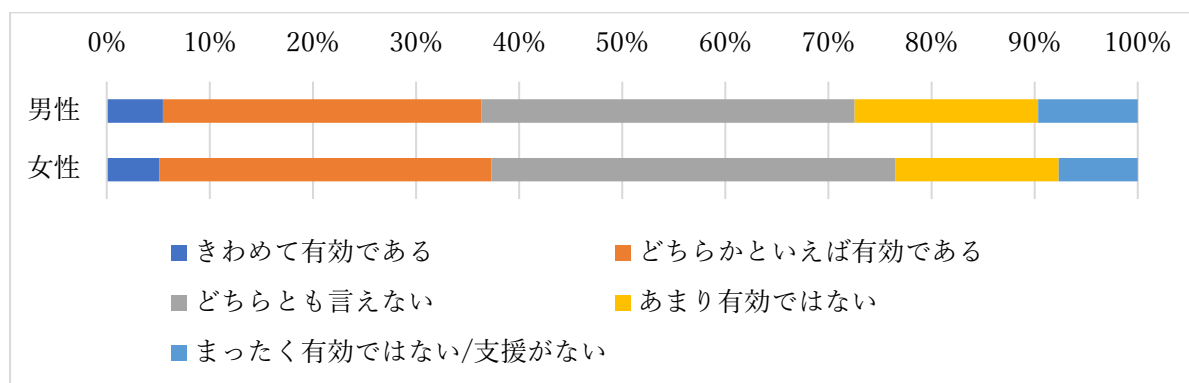


図 36-2 年齢別 (N=4171)

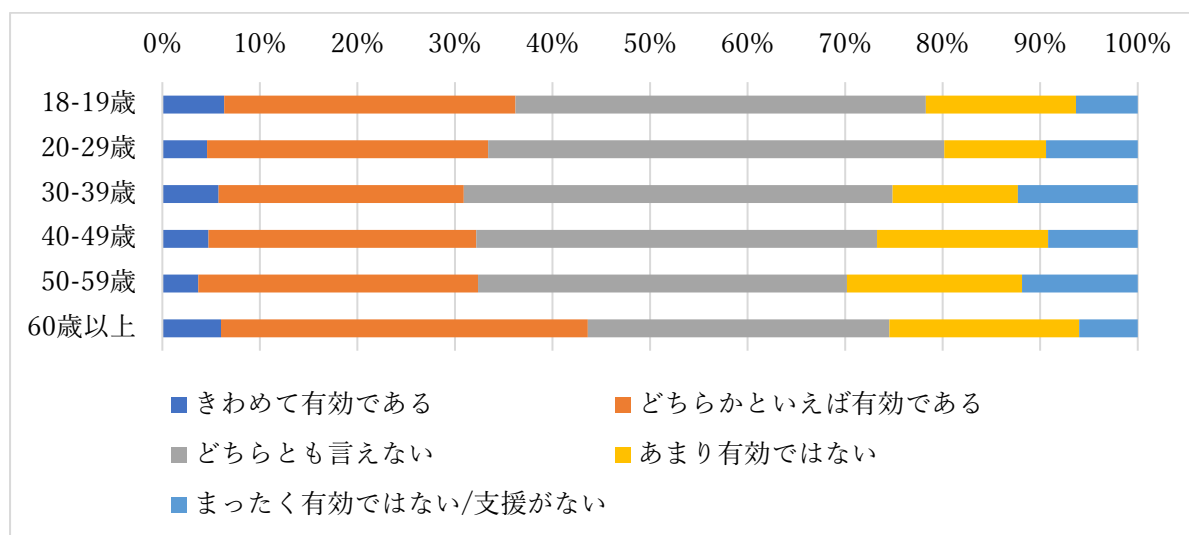


図 36-3 収入別 (N=2235)

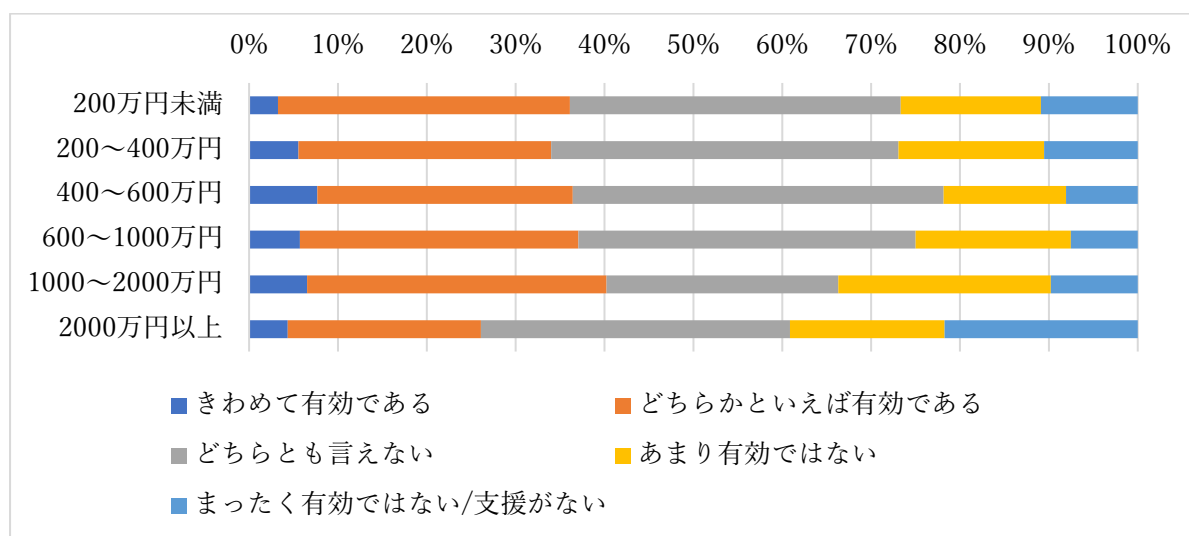
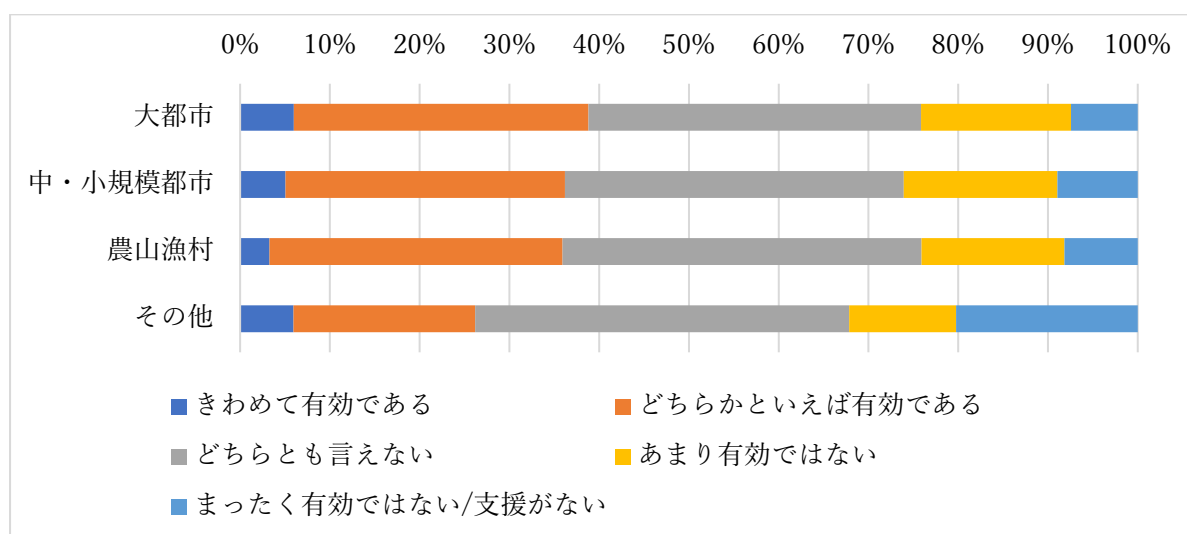


図 36-4 居住地域別 (N=4171)



Q37. 新型コロナウイルスの影響が広がる中での次の物的・金銭的支援は、あなた自身、およびあなたの家族にどの程度有効なものでしたか。当てはまるものをそれぞれお答えください。

		全体	きわめて有効である	どちらかといえば有効である	どちらとも言えない	あまり有効ではない	まったく有効ではない/支援がない
国（政府）からの公的な支援	%	100.0	7.2	23.8	35.4	14.0	19.6
	実数	4171	300	992	1476	584	819
地方自治体からの公的な支援	%	100.0	5.3	20.0	35.9	11.4	27.5
	実数	4171	220	834	1496	474	1147
企業（職場）からの支援	%	100.0	3.0	12.7	40.7	8.9	34.7
	実数	4171	126	528	1698	371	1448
地域からの支援	%	100.0	2.8	11.4	39.7	9.1	37.0
	実数	4171	115	476	1656	379	1545
近所・隣人からの支援	%	100.0	2.0	9.2	41.4	9.3	38.0
	実数	4171	83	385	1728	388	1587
NGO・NPO・ボランティアからの支援	%	100.0	1.9	8.2	40.0	9.5	40.3
	実数	4171	80	343	1669	398	1681
友人・知人からの支援	%	100.0	2.2	12.0	42.1	7.9	35.9
	実数	4171	90	500	1756	329	1496
家族・親戚からの支援	%	100.0	4.6	17.2	40.9	6.4	30.9
	実数	4171	190	719	1708	265	1289
	%	100.0	1.2	3.0	55.0	3.0	37.9

その他：あれば記入してください	実数	169	2	5	93	5	64
-----------------	----	-----	---	---	----	---	----

図 37-0 総計

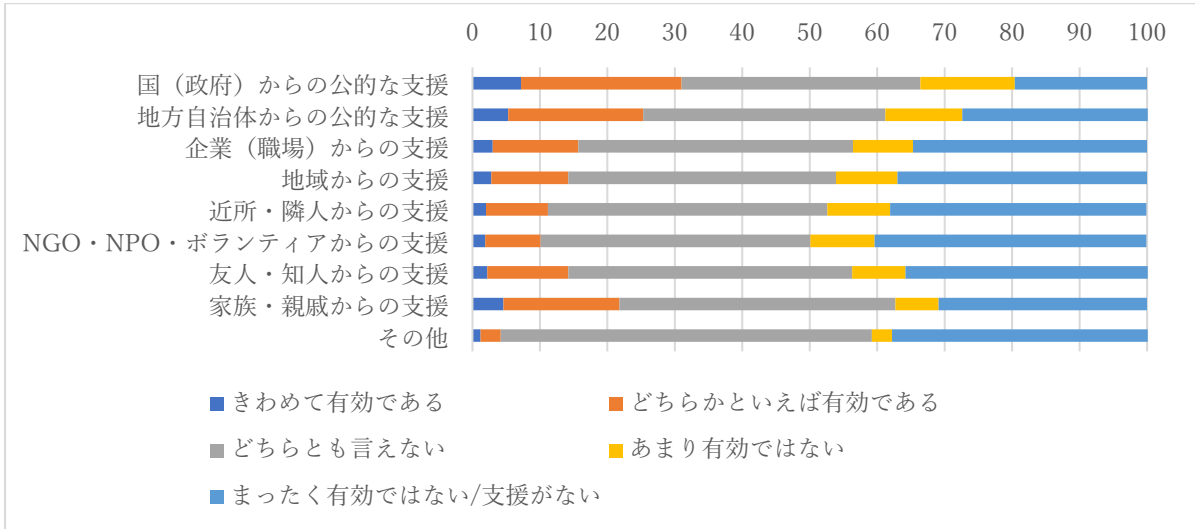


図 37-1-1 男女別（N=4171）国（政府）からの公的な支援

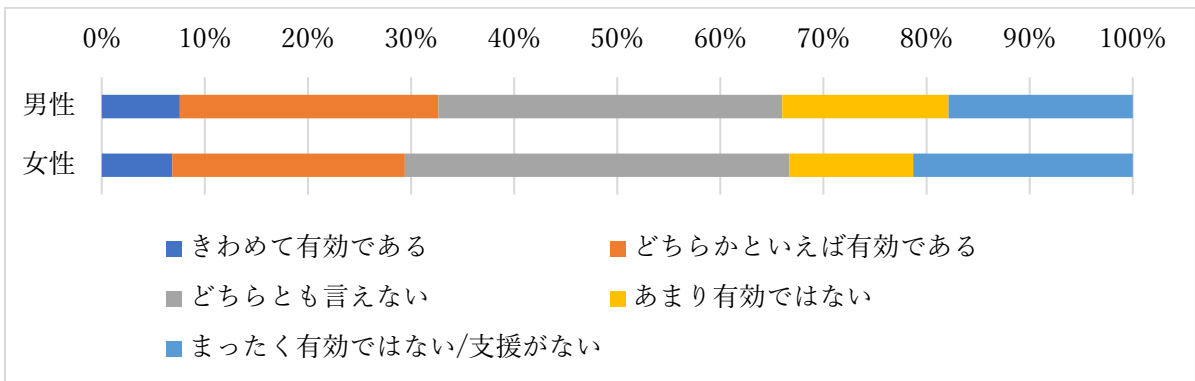


図 37-1-2 年齢別 (N=4171) 国 (政府) からの公的な支援

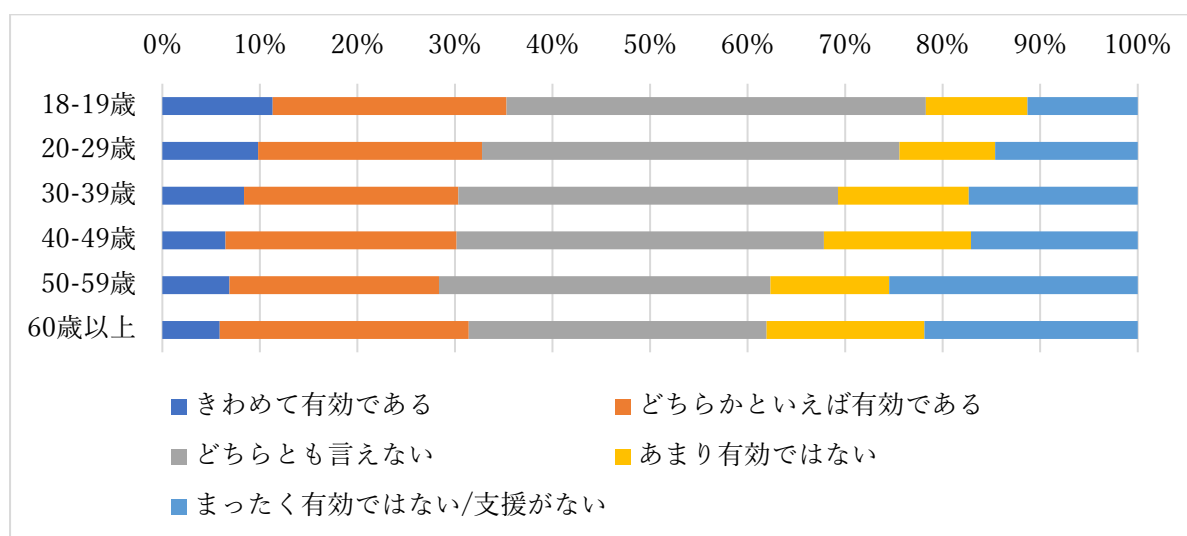


図 37-1-3 収入別 (N=2235) 国 (政府) からの公的な支援

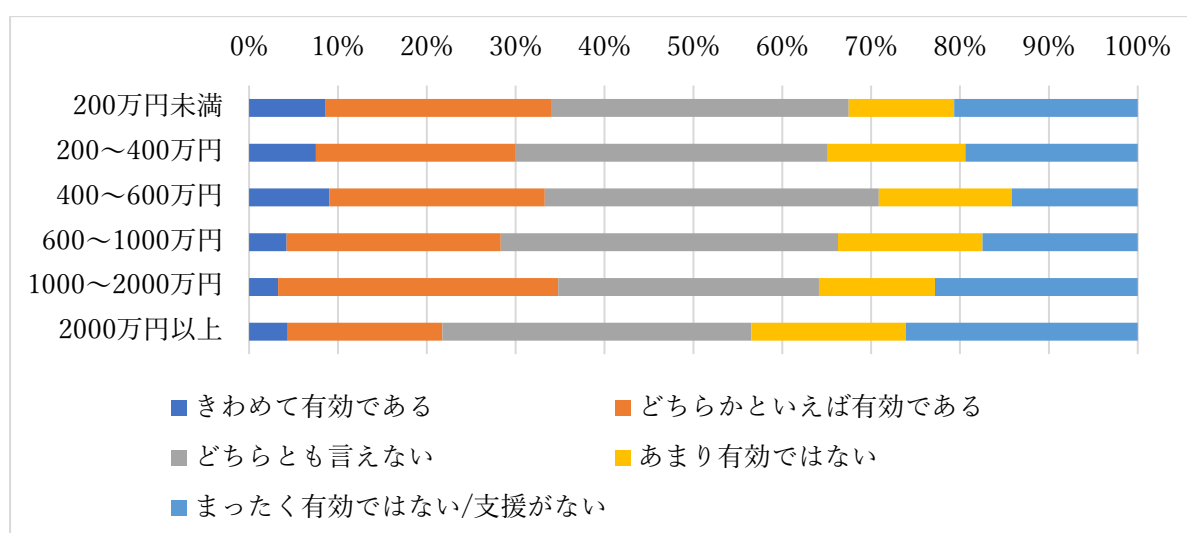


図 37-1-4 居住地域別 (N=4171) 国 (政府) からの公的な支援

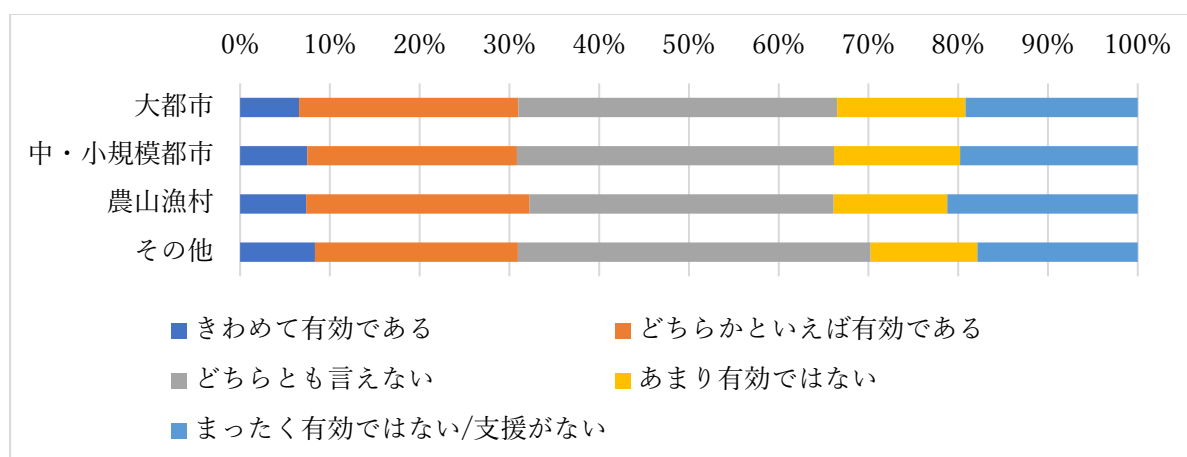


図 37-2-1 男女別 (N=4171) 地方自治体からの公的な支援

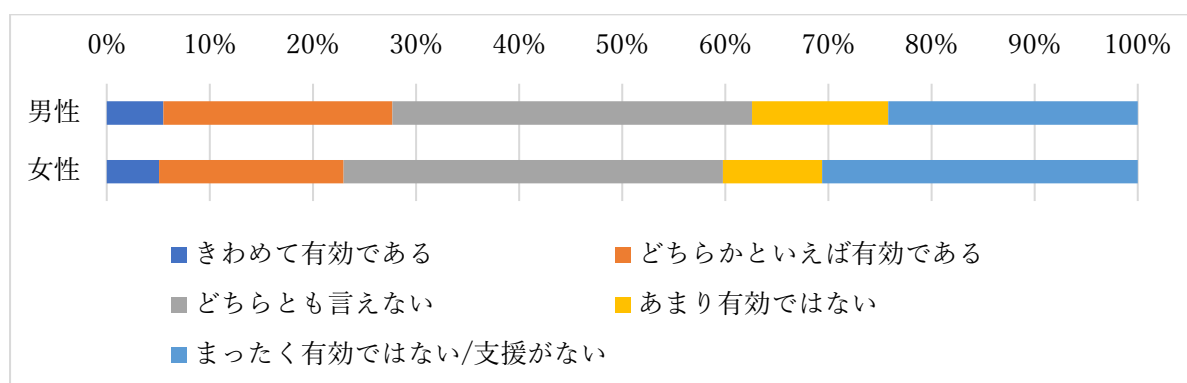


図 37-2-2 年齢別 (N=4171) 地方自治体からの公的な支援

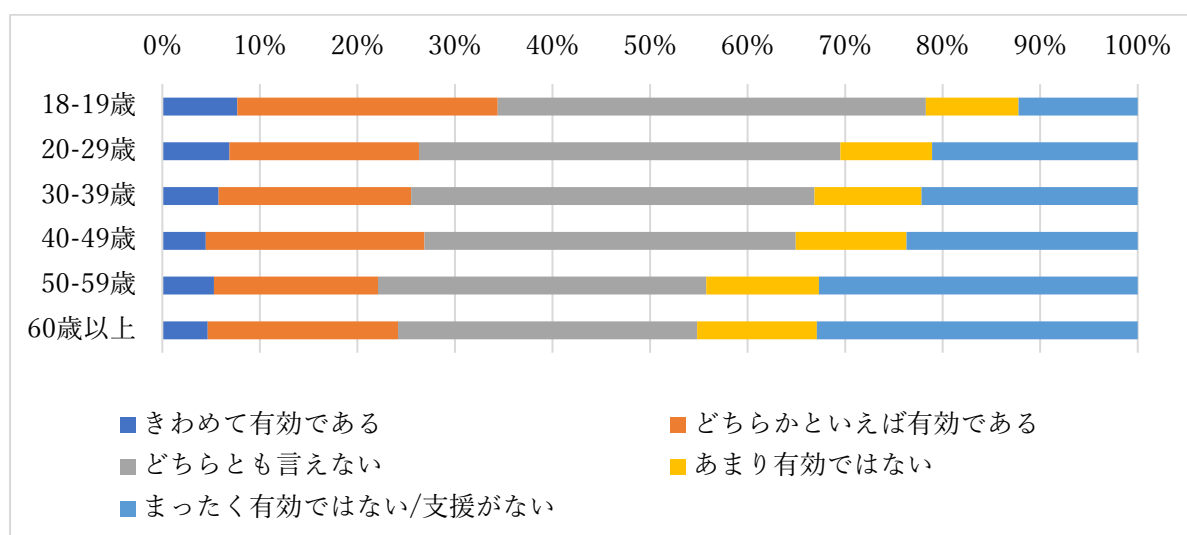


図 37-2-3 収入別 (N=2355) 地方自治体からの公的な支援

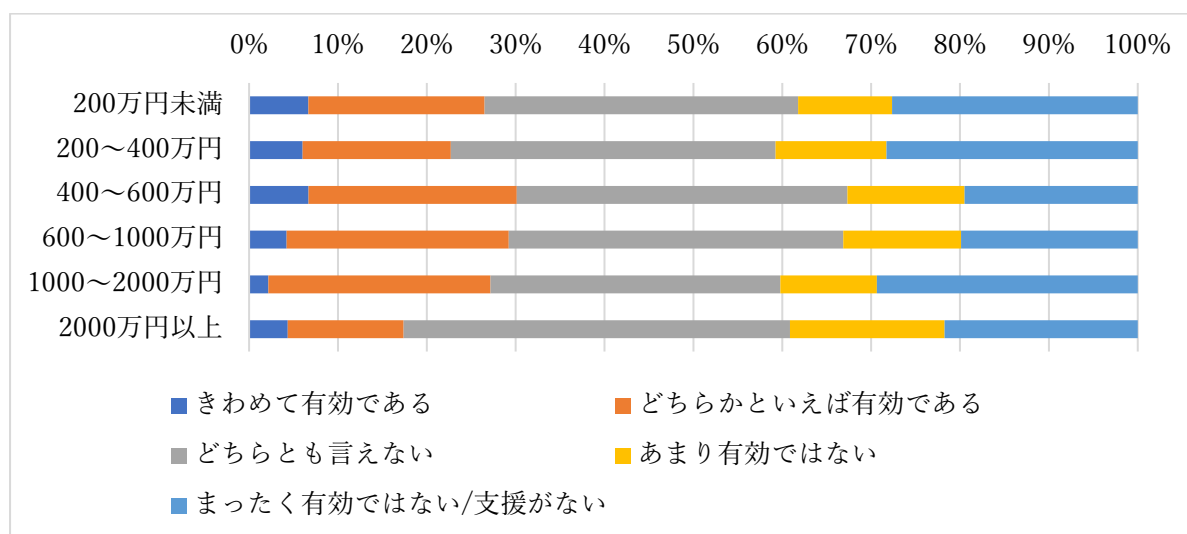




図 37-2-4 居住地地域別 (N=4171) 地方自治体からの公的な支援

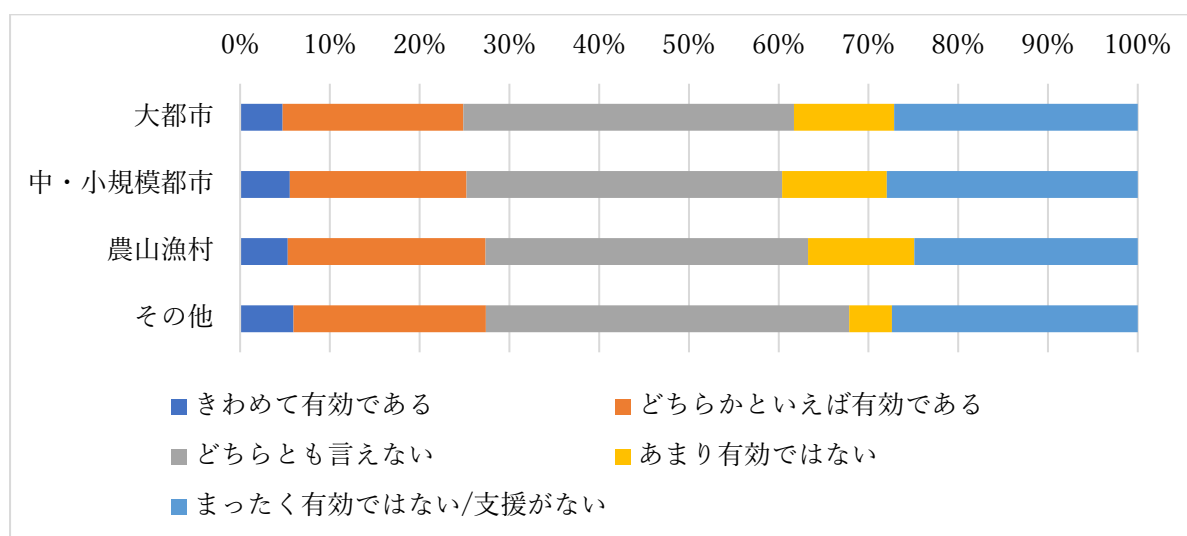


図 37-3-1 男女別 (N=4171) 企業 (職場) からの支援

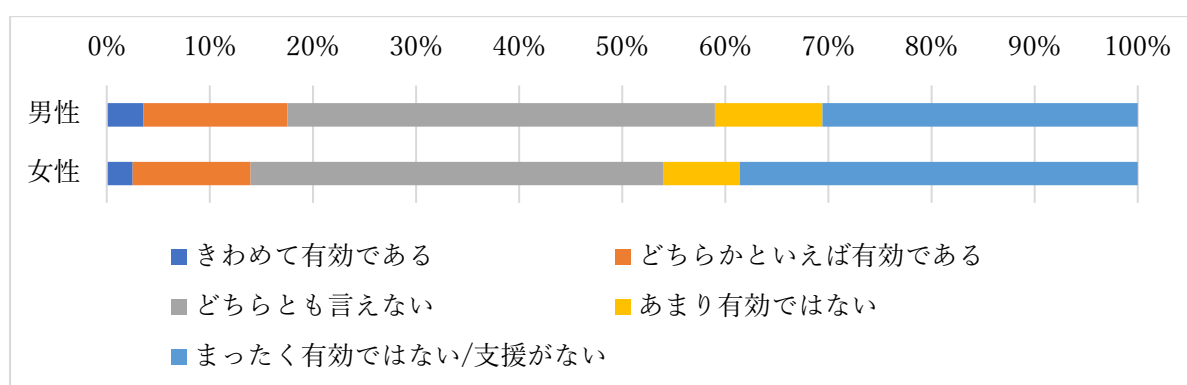


図 37-3-2 年齢別 (N=4171) 企業 (職場) からの支援

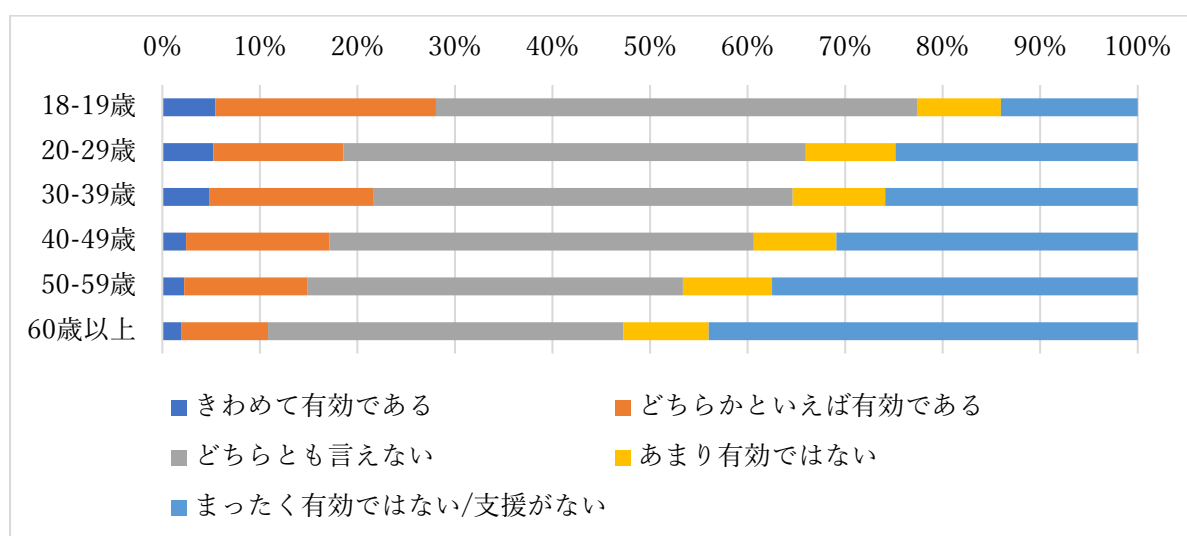


図 37-3-3 収入別 (N=2235) 企業 (職場) からの支援

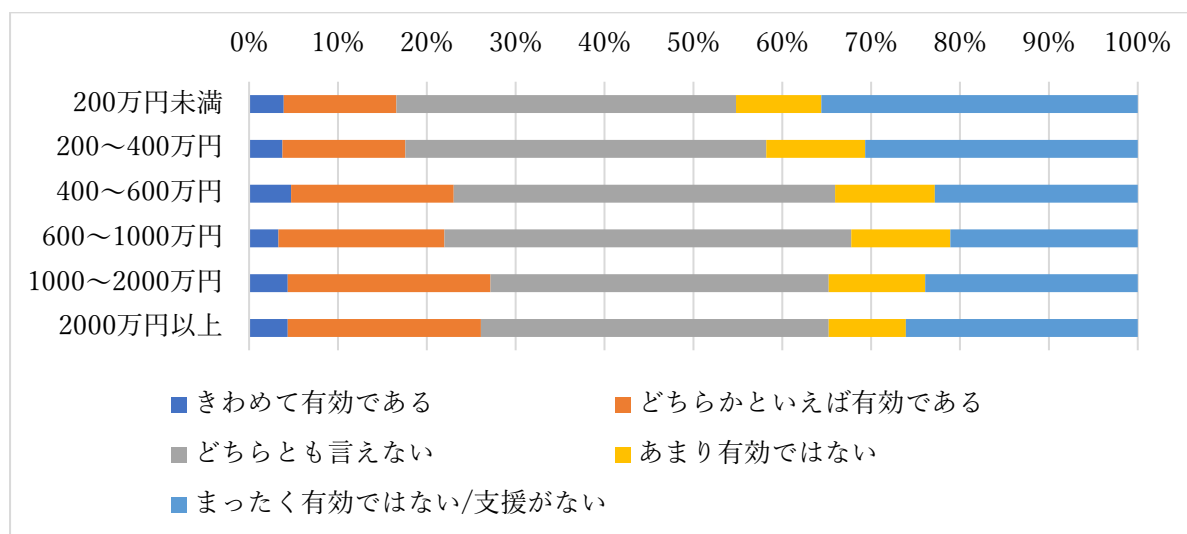


図 37-3-4 居住地地域別 (N=4171) 企業 (職場) からの支援

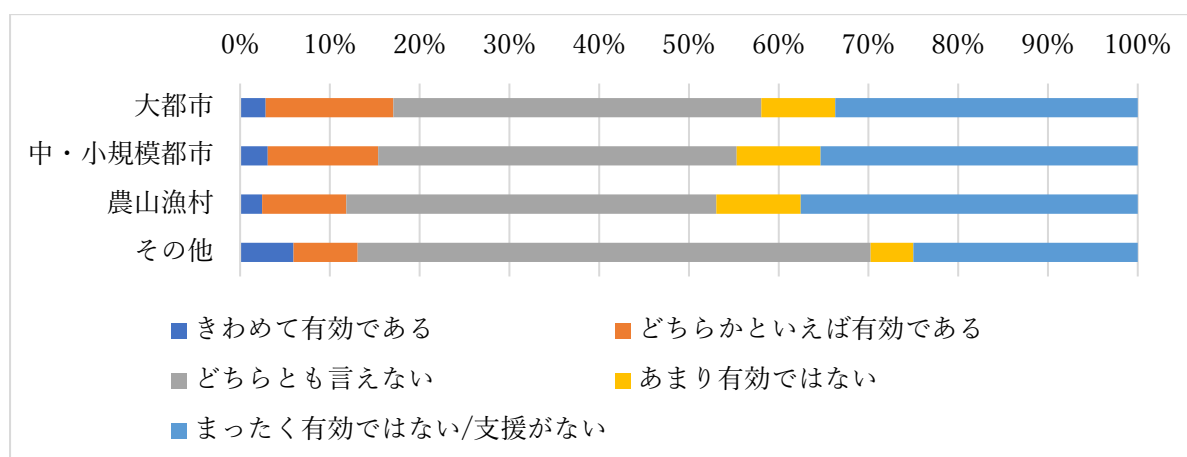


図 37-4-1 男女別 (N=4171) 地域からの支援

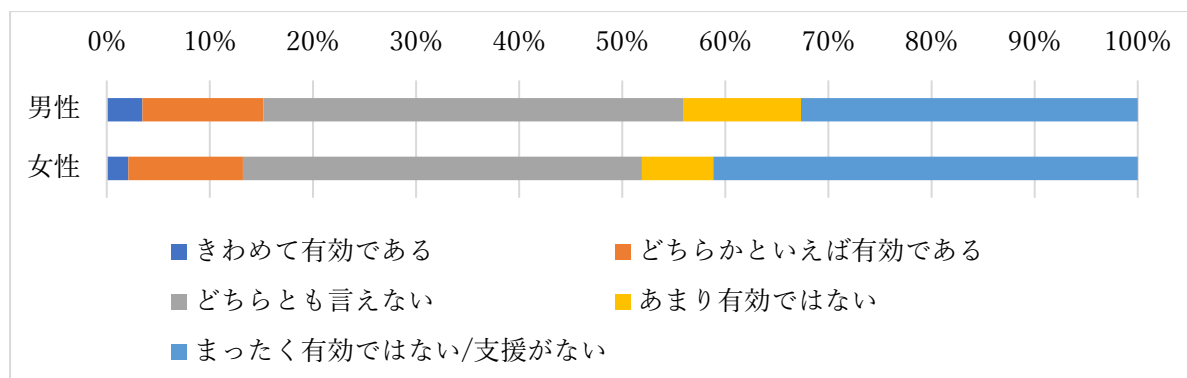


図 37-4-2 年齢別 (N=4171) 地域からの支援

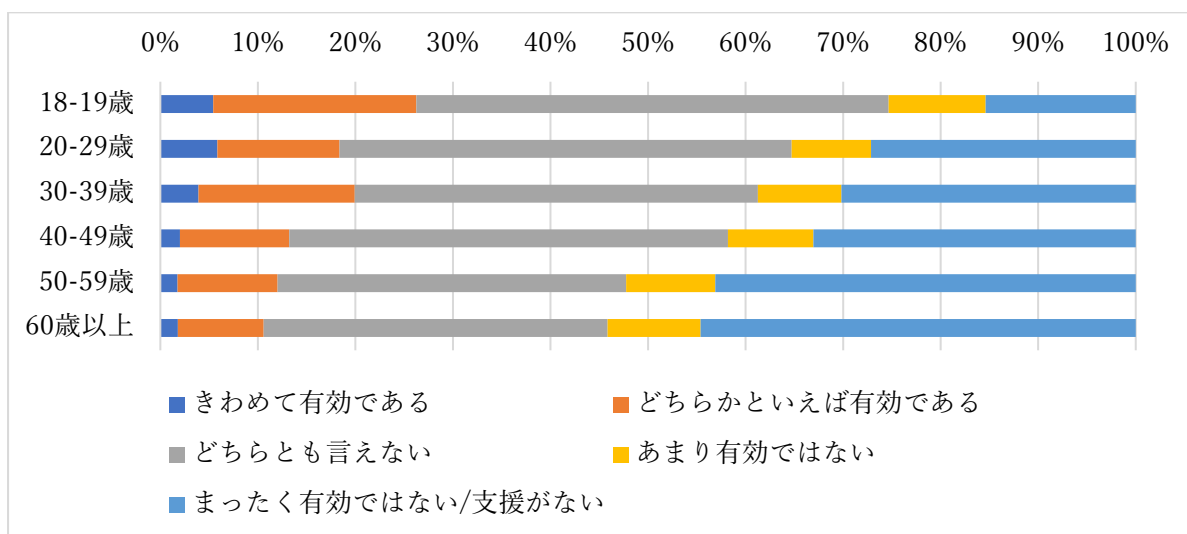


図 37-4-3 収入別 (N=2235) 地域からの支援

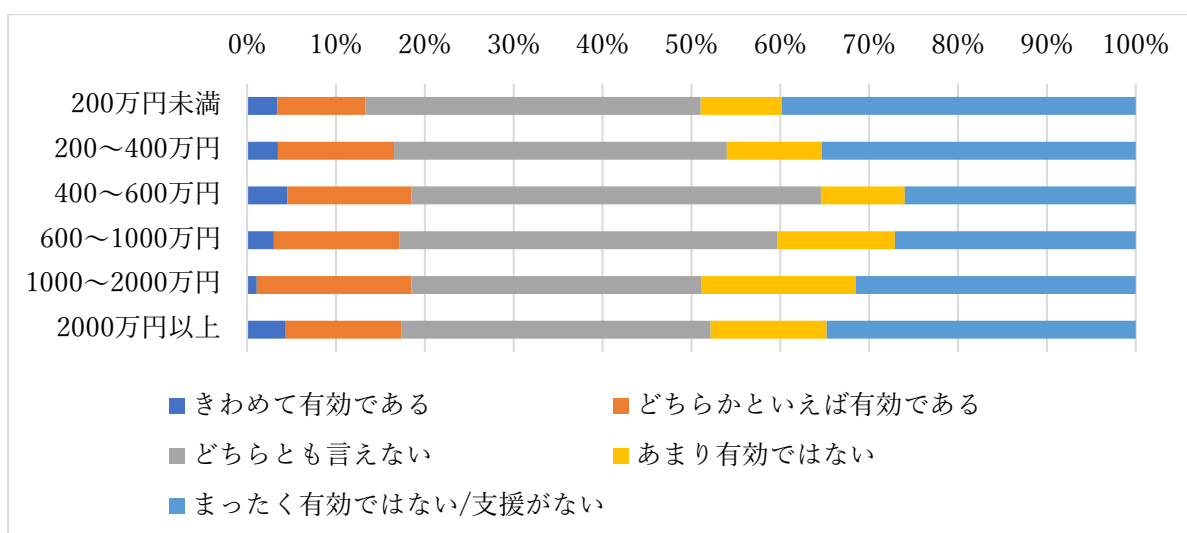


図 37-4-4 居住地域別 (N=4171) 地域からの支援

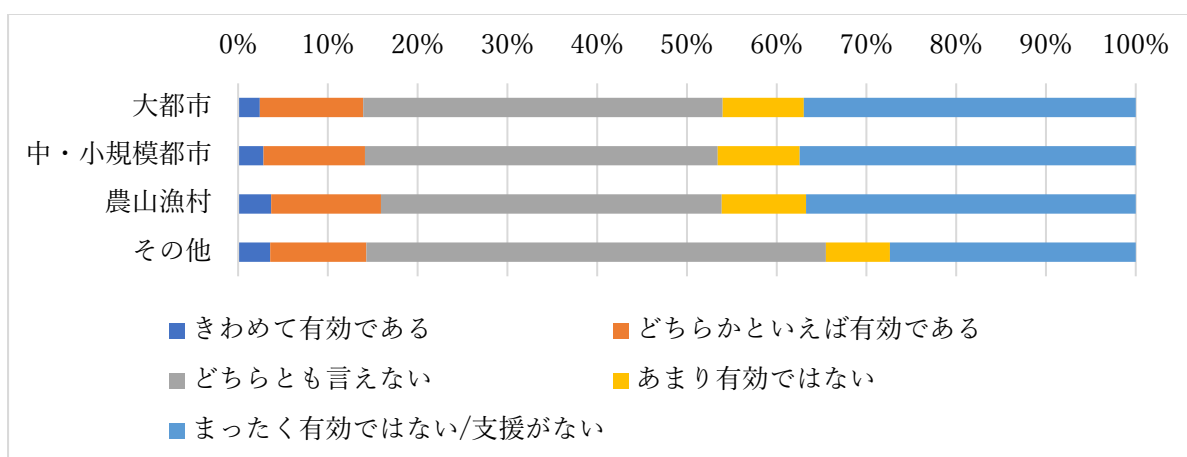


図 37-5-1 男女別 (N=4171) 近所・隣人からの支援

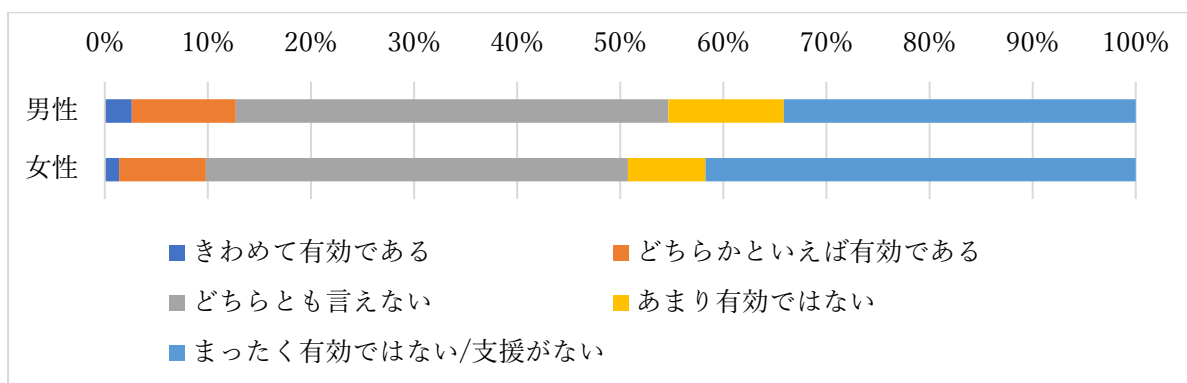


図 37-5-2 年齢別 (N=4171) 近所・隣人からの支援

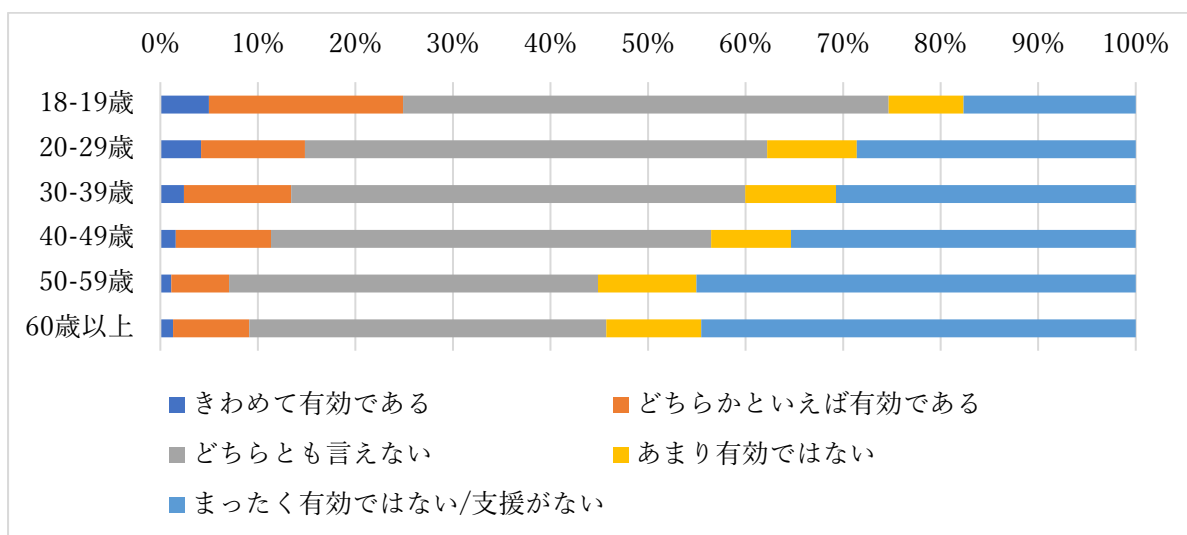


図 37-5-3 収入別 (N=2235) 近所・隣人からの支援

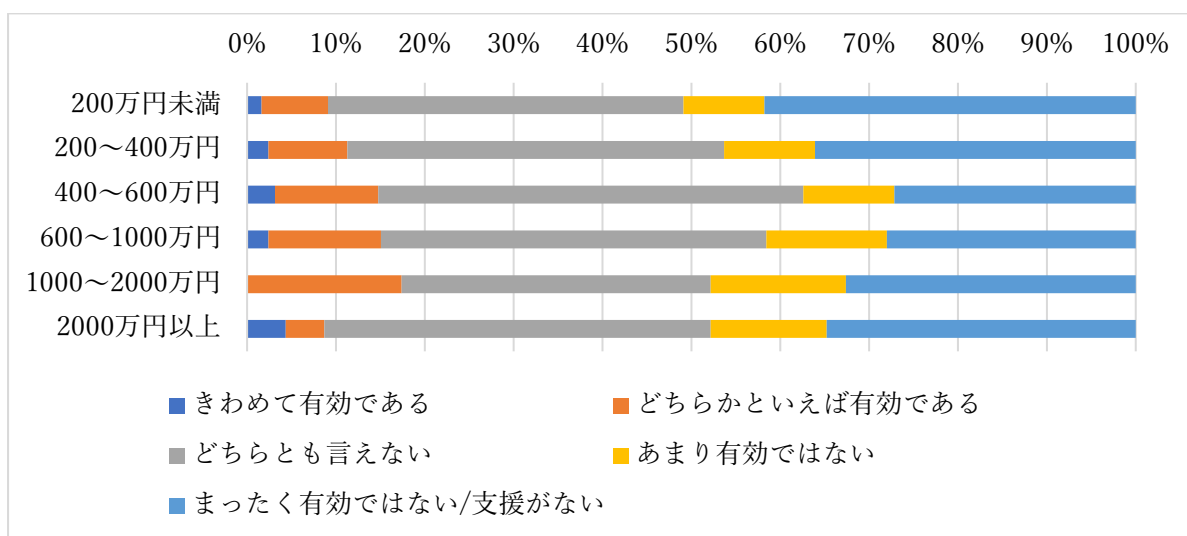


図 37-5-4 居住地地域別 (N=4171) 近所・隣人からの支援

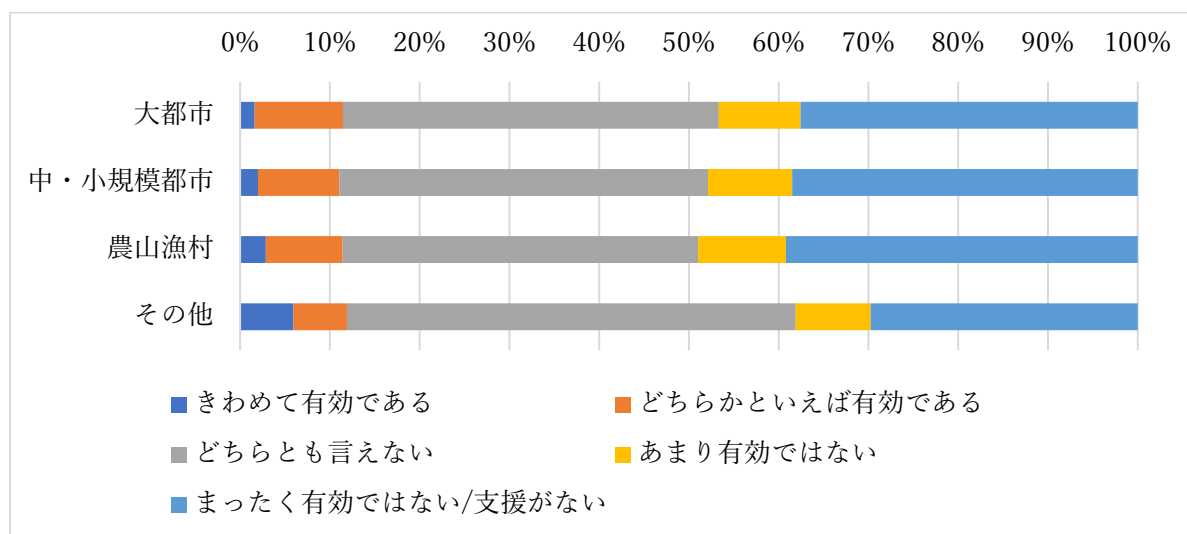


図 37-6-1 男女別 (N=4171) NGO・NPO・ボランティアからの支援

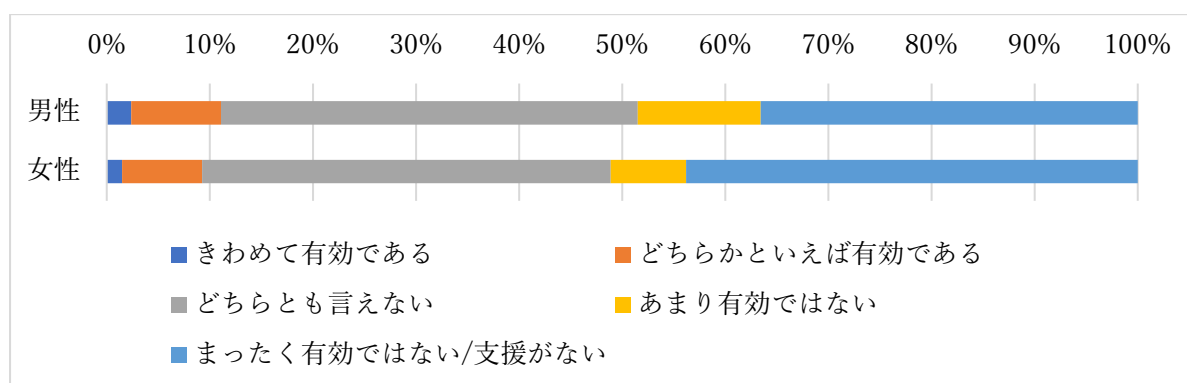


図 37-6-2 年齢別 (N=4171) NGO・NPO・ボランティアからの支援

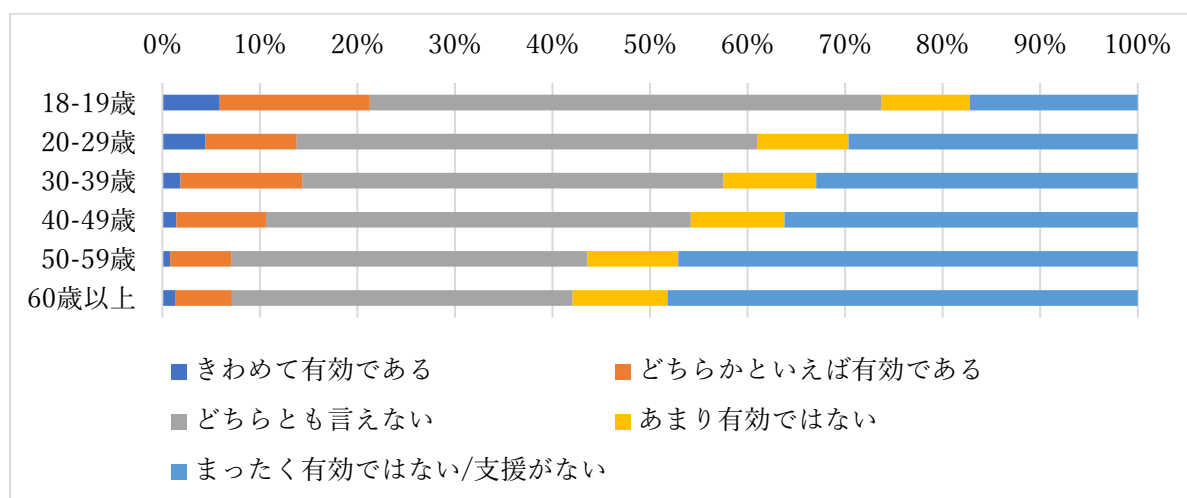


図 37-6-3 収入別 (N=2235) NGO・NPO・ボランティアからの支援

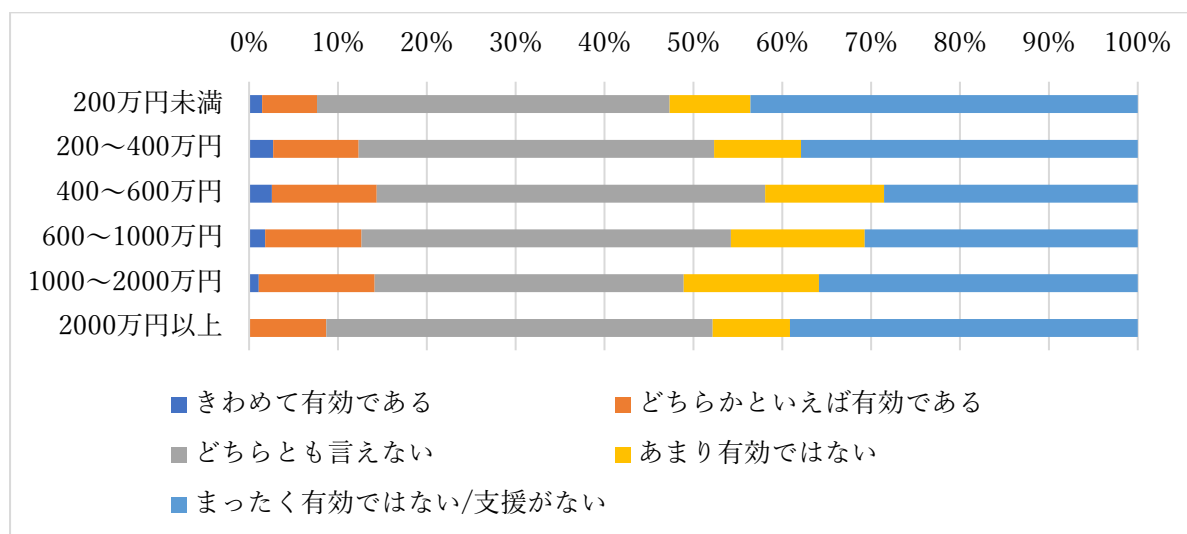


図 37-6-4 居住地地域別 (N=4171) NGO・NPO・ボランティアからの支援

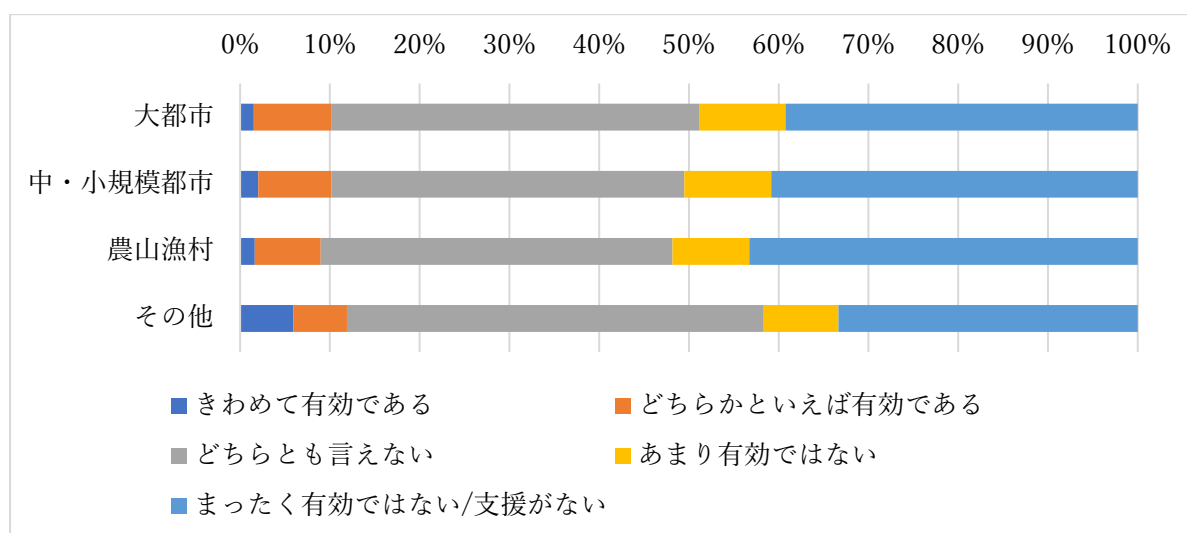


図 37-7-1 男女別 (N=4171) 友人・知人からの支援

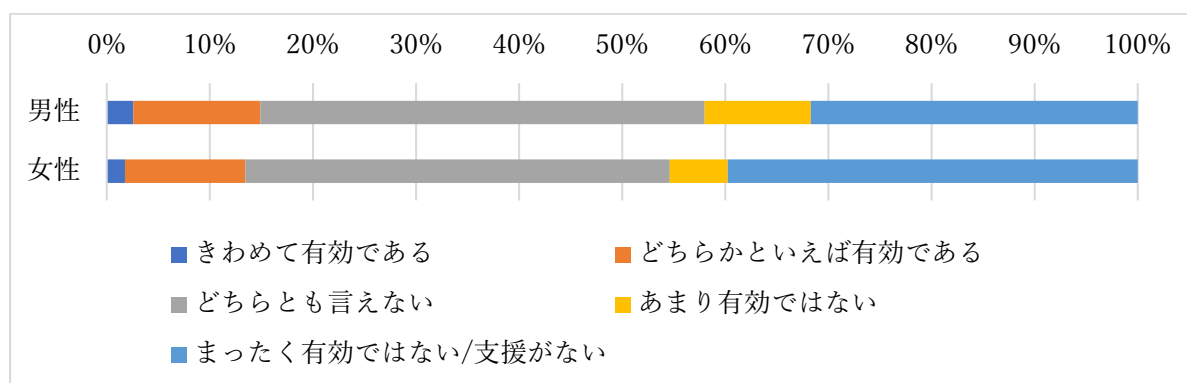


図 37-7-2 年齢別 (N=4171) 友人・知人からの支援

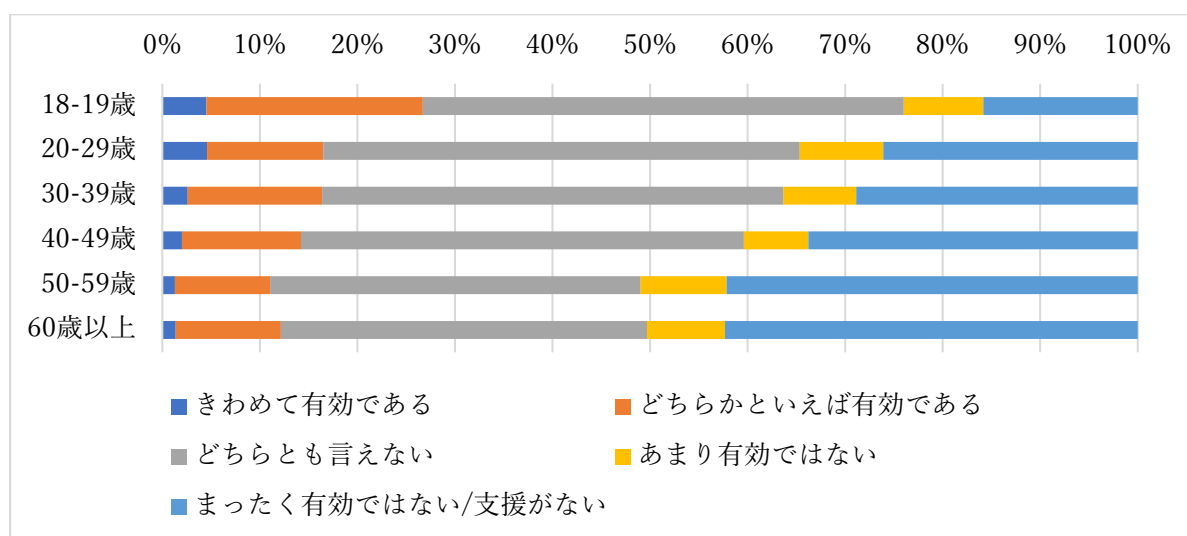


図 37-7-3 収入別 (N=2235) 友人・知人からの支援

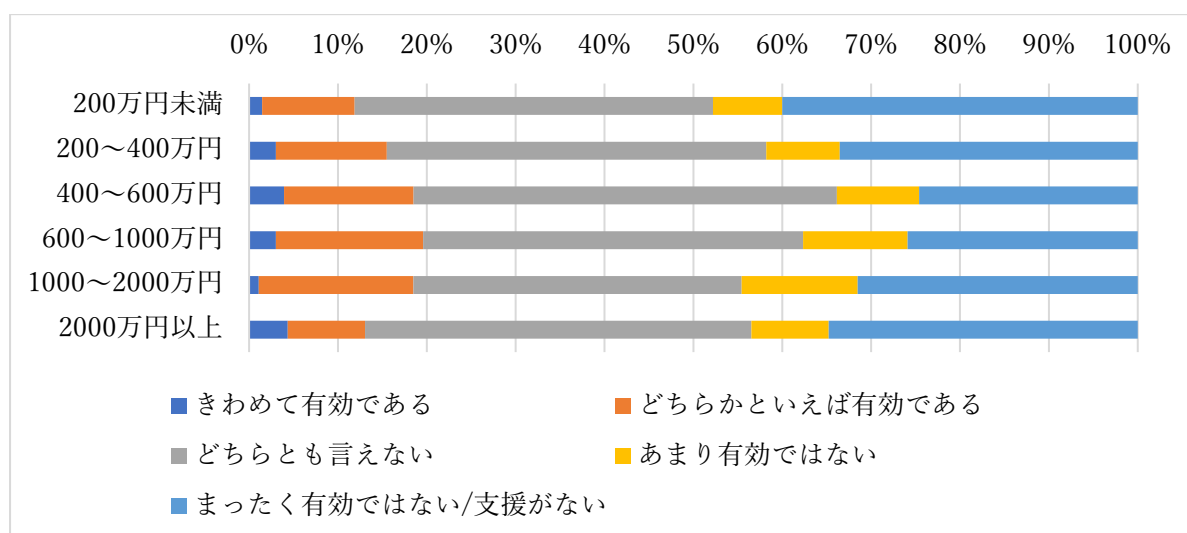


図 37-7-4 居住地域別 (N=4171) 友人・知人からの支援

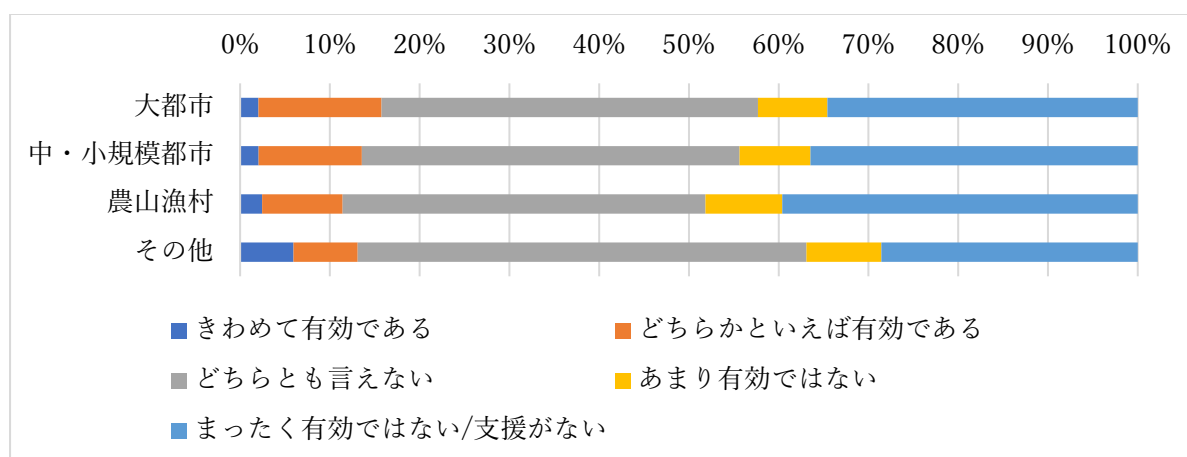


図 37-8-1 男女別 (N=4171) 家族・親戚からの支援

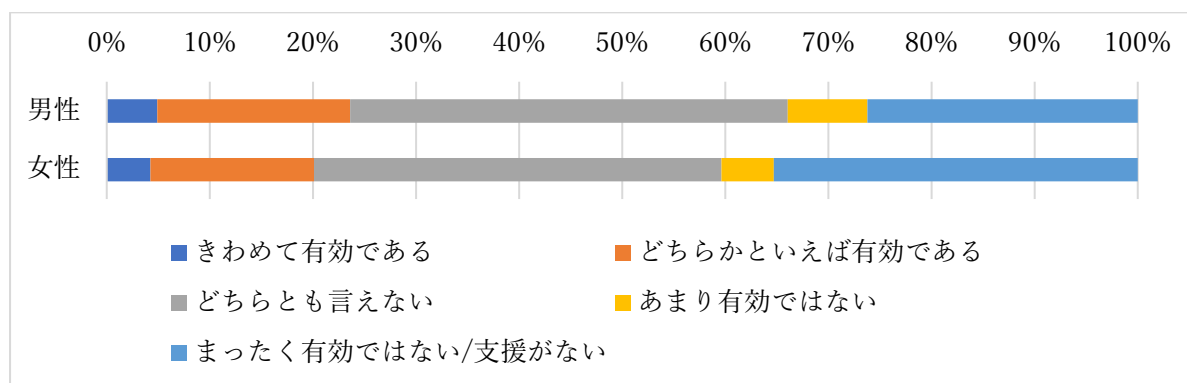


図 37-8-2 年齢別 (N=4171) 家族・親戚からの支援

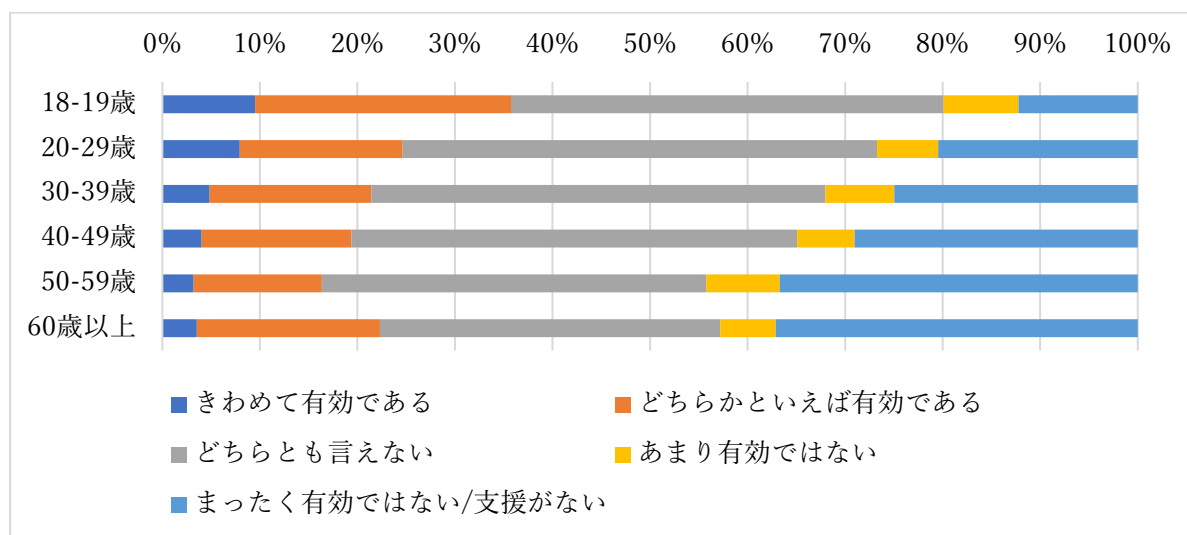


図 37-8-3 収入別 (N=2235) 家族・親戚からの支援

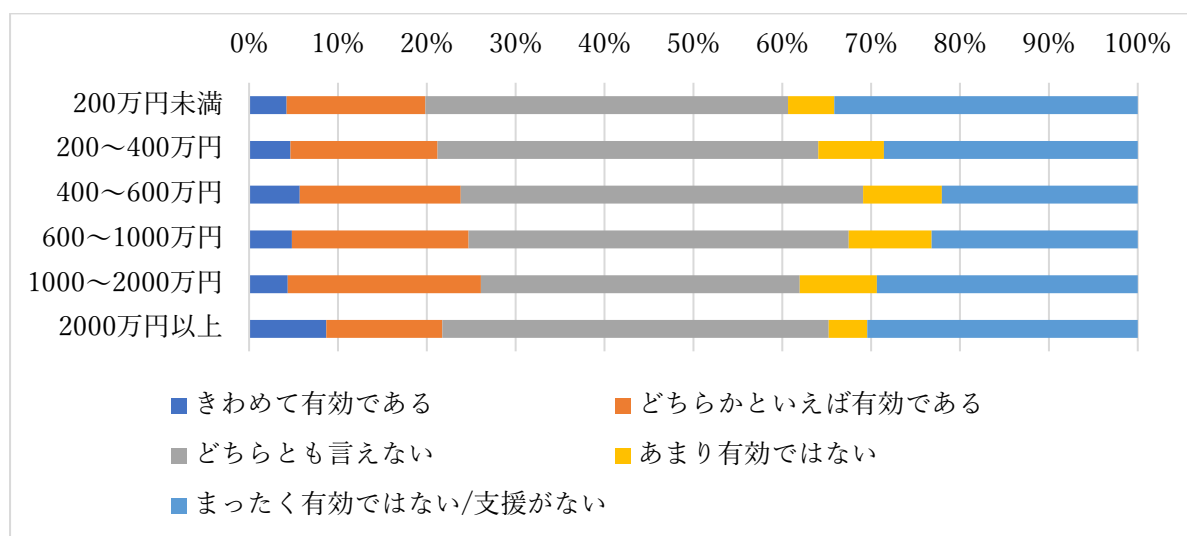
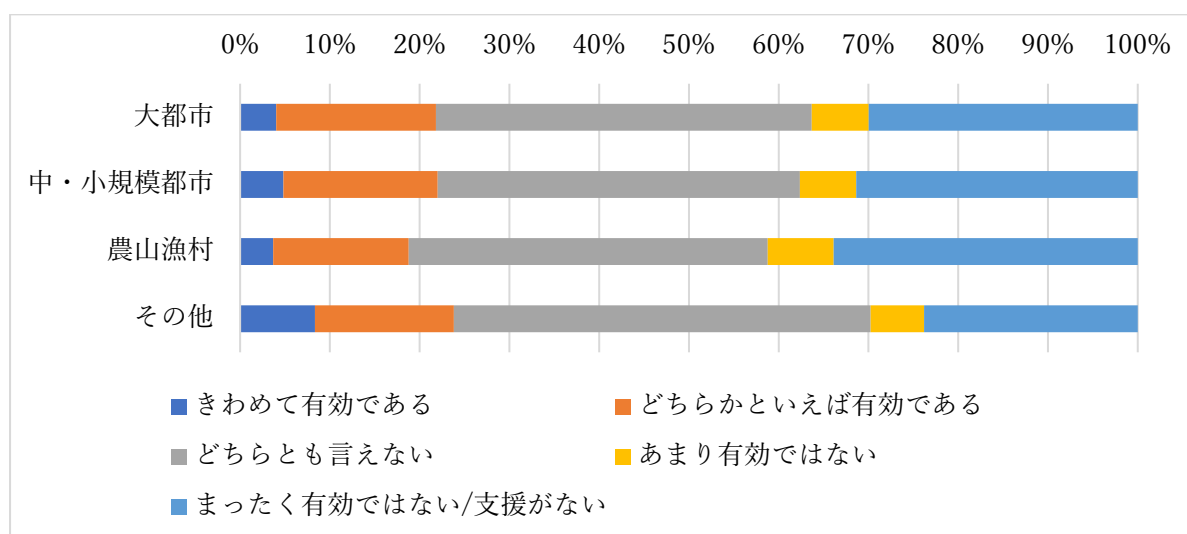




図 37-8-4 居住地地域別 (N=4171) 家族・親戚からの支援



Q38. あなたが新型コロナウイルス感染症感染拡大にともなって利用頻度が増えたものがあればチェックしてください。(複数回答)

		実数	%
全体		4171	100.0
1	インターネット通販	1393	33.4
2	電子決済	923	22.1
3	ソーシャルメディア	481	11.5
4	オンライン会合	381	9.1
5	eメール	304	7.3
6	増えたものはない	2139	51.3

図 38-0 総計

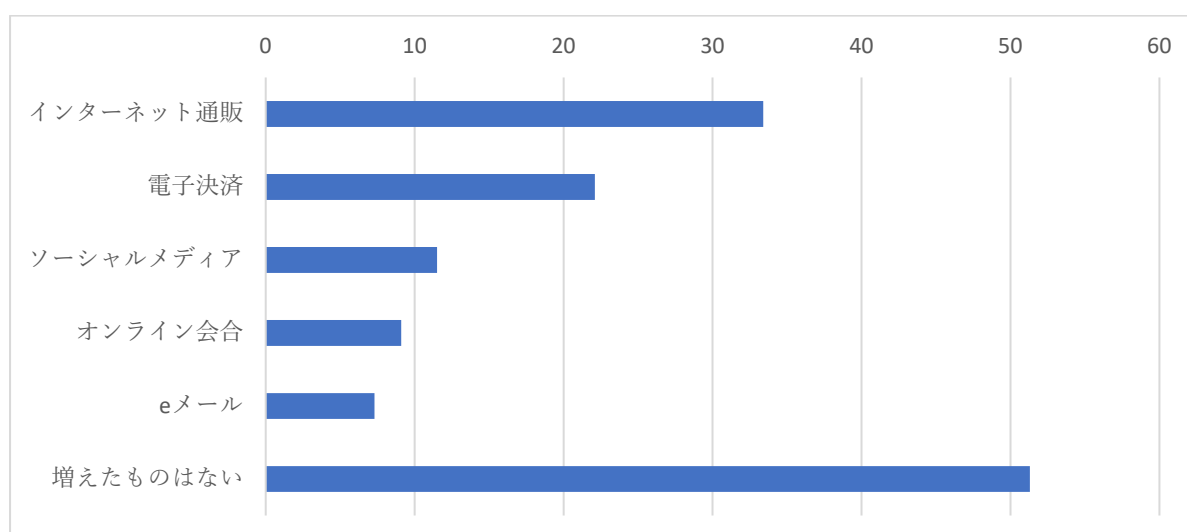


図 38-1 男女別 (N=4171)

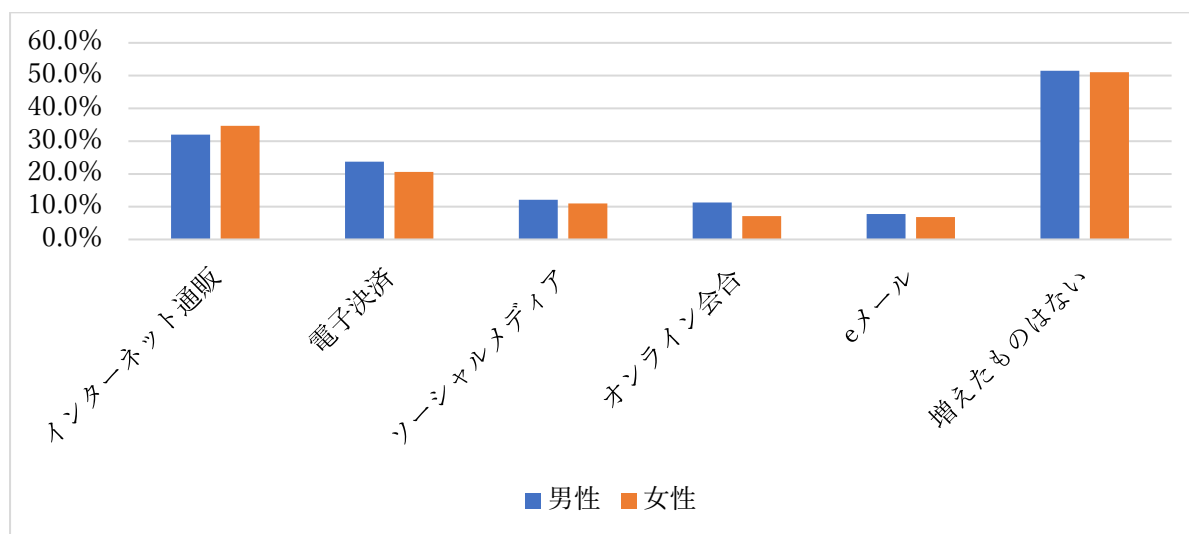


図 38-2 年齢別 (N=4171)

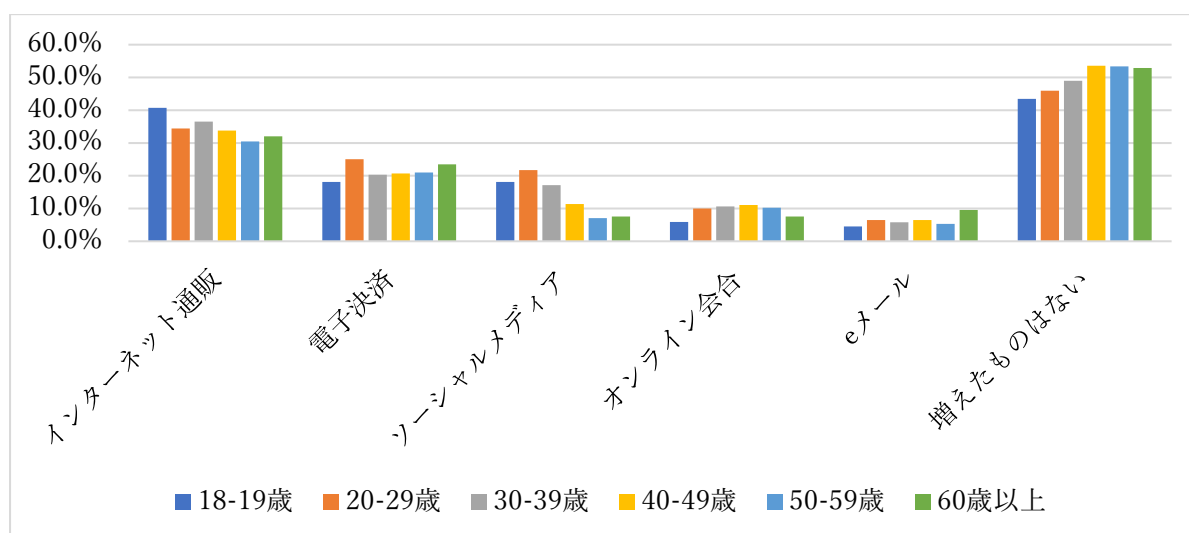


図 38-3 収入別 (N=2235)

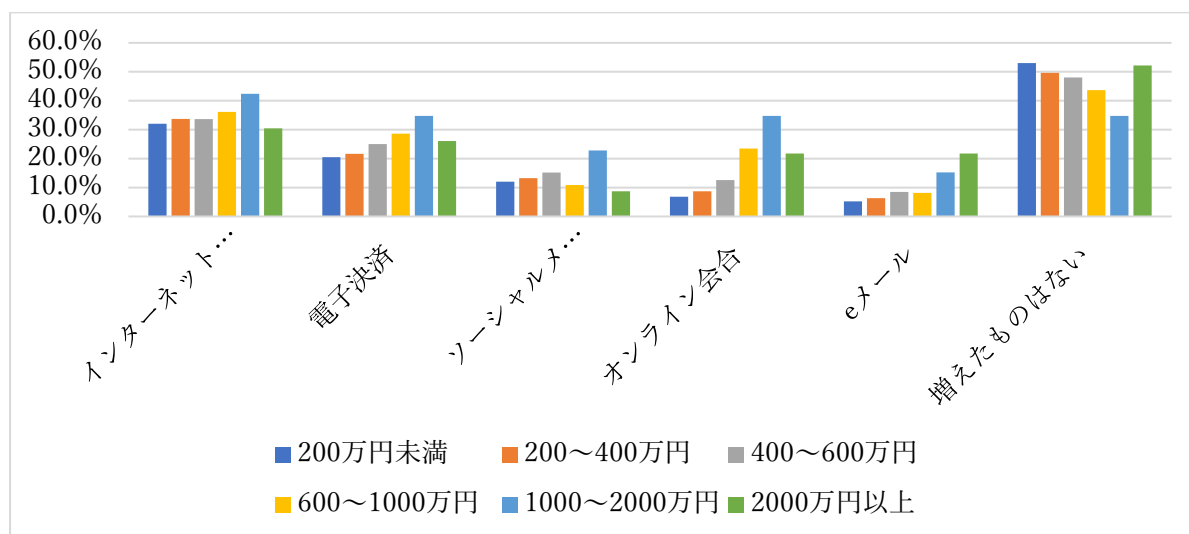
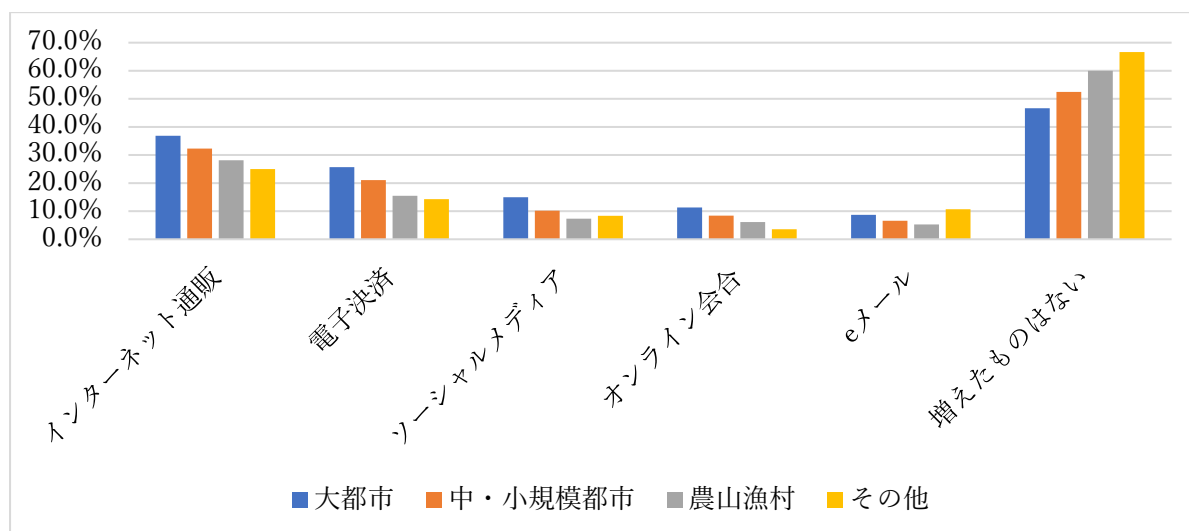


図 38-4 居住地域別 (N=4171)



## V. その他の質問

その他の質問として、税負担の大きさ、政府の政策に対する評価などにかかわる7つの質問に基づいて分析する。個々のアンケート結果については、節末にまとめているので参照されたい。

税負担の大きさについて問うた Q39 について、負担が軽いと感じる人（回答 1 および 2 の合計）は 3%あまりであるのに対し、負担が重く感じている人（回答 4 および 5 の合計）が 56.4%と過半数であり、総じて負担の重さが指摘されている。「適切な負担である」との回答も 21.5%ある。「わからない」との回答も 19%あり、ここには学生など納税していない人も含まれているものと推察される。

なお、過去の調査で、日本では国民負担率の低さに比して、税負担を重く感じる人の比率が相対的に高いこと、日本人の納税コンプライアンス意識の高さ等が指摘されている（日本総合研究所, 2017）。また、男女別でみると、女性の方がわからないと回答する比率が高く、男性の方が「適切な負担である」と回答する比率がやや高い。年齢別では、当然ではあるが、若年層では「わからない」が多くなり、30-50 歳代で負担の重さがより多く指摘されている。収入別では、1000~2000 万円のグループで「負担が重く」と感じる比率が最も高くなっている。居住地別では、大都市、中・小規模都市、農山漁村の順で、「適切な負担」の比率が減り、負担の重さを指摘する比率が高まっている。

所得格差に対する対応について問うた Q40 について、賛成でも反対でもないが 41.8%で最大となっているが、反対（回答 1、2 の合計）と賛成（回答 4、5 の合計）を比較すると賛成が大きく上回っている（12.3% ⇔ 46.0%）。所得格差の大きさそのものについて見解を問うた質問項目があれば、それとの関係と比較することも面白いのではないかと思う。また、次の質問（Q41）でこの5年間の日本政府の政策評価を問うたものがあり、その項目2に「経済格差の縮小」がある。「極めて悪い」16.8%、「悪い」35.1%、「良くも悪くもない」42.5%、「良い」5.0%、「極めて良い」0.6%となっている。所得格差は大きく、減ずる必要性を感じるものの、政府に対策を期待しても難しいと感じる人も多いのかもしれない。

年齢別では、賛成の比率は30歳代が最も低く、40歳代、50歳代と増えていき、60歳代が最多となっている。収入別では2000万円以上のグループを除き、所得が増えるにつれて、賛成の比率が低下する。

Q41（日本政府の政策評価）について、全体として、すべての質問項目で、「良くも悪くもない」が最大で、いずれも40%以上となっている。肯定的な評価（「良い」と「極めて良い」の合計）と否定的な評価（「悪い」と「極めて悪い」の合計）を比較すると、すべての質問項目で、否定的な評価が大きく上回っている。中でも、「経済格差の縮小」、「景気刺激」、「雇用機会の創出」といった人びとの物的生活にかかわる項目で否定的な評価が目立っている。「インフラ整備」や「国の安全保障」では、他の項目と比べて肯定的な評価が若干多い。背景に、政府への無関心、あきらめも推察される。

年齢別で見ると、いずれの質問項目でも、年齢が上がるにつれて、「良い」と評価する比率がおおむね低下（ないし変化なし）し、「悪い」と評価する比率が増加している。

社会における満足度を問うた Q42 について、すべての質問項目において、「満足でも不満足でもない」が最大で、いずれも40%を超えている。満足（「完全に満足」と「どちらかといえば満

足」の合計)と不満足(「完全に不満足」と「どちらかといえば不満足」の合計)で比較すると、すべての質問項目で不満足が上回っている。4項目の中で比較すると、「民主主義的な政治制度」への満足度が相対的に高く、次いで「先進国としての経済発展水準」が、最後に「国民に責任を果たす政府」や「地域の問題を解決する地方自治体」となる。人びとの生活への関与も大きいと考えられる地方自治体において、「満足でも不満足でもない」が最大の数値(55.8%)となっている点に、地方自治体の存在感のなさが垣間見える。

年齢別で見ると、すべての質問項目について、年齢が上がるにつれて、不満足を示す比率が高くなっている。

仕事での理想とする組織形態について問うた Q43 について、「民間企業」が 49.0%で最大となっており、次いで「公的機関」、「起業・自営業」、「ボランティアなど」の順となっている。「VI. 回答者に関する質問」の中に「現在お勤めの組織」についての質問項目(F3)があり、そこでは民間企業が7割を超えており、「国家・公的機関」が7.7%であることを考慮すると、希望する組織形態として「公的機関」の人气が相対的に高いことがわかる。「自営業」については、F3で13.5%であることから、理想と現実には大きな差はない。「ボランティアなど」については、一対一対応になっているわけではないが、F3の「非営利機関(NGO)」が1.2%となっていることから、理想と現実の間に大きな格差がある。その他を選択した63回答では、「わからない」や「ない」に加えて、「働きたくない」が18回答と相当数を占めた。

実際に保有している資産について問うた Q44 について、「預貯金」、「現金」、「不動産・住宅」、「株式」、「投資信託」、「外貨」、「金・貴金属」、「社債など債券」の順番となった。日本では、預貯金、現金が好まれ、相対的に有価証券の比重が小さいことは特徴としてあげることができるだろう。収入が高くなるにつれ、また年齢が高くなるにつれ、不動産・住宅、株式、投資信託の比重が高いこと、大都市で不動産・住宅、株式の比重が相対的に高いことも確認される。

保有している資産についての詳細を問うた Q45 について、「1年以上暮らしていけるだけの十分な貯蓄がある」が42.2%と最大の値を示している。外国との比較を行うことはできないが、日本における貯蓄の大きさ、貯蓄している人の比率の多さを示しているのではないかと考える。また、年齢が高くなるにつれ、所得が高くなるにつれ、この比重は相対的に高くなる。「銀行その他の金融機関から借入れがある」が7.0%となっており、低金利下で想像していたよりも低い値であった。その他、債務や滞納などの比率もかなり低い。

**Q39. あなたはご自身の納税についてどのようにお考えですか。1つ選んでください。**

		実数	比率
1	負担が軽すぎる	22	0.5
2	どちらかといえば負担が軽い	111	2.7
3	適切な負担である	895	21.5
4	どちらかといえば負担が重い	1317	31.6
5	負担が重すぎる	1034	24.8
6	わからない	792	19.0
	総計	4171	100

図 39-0 総計

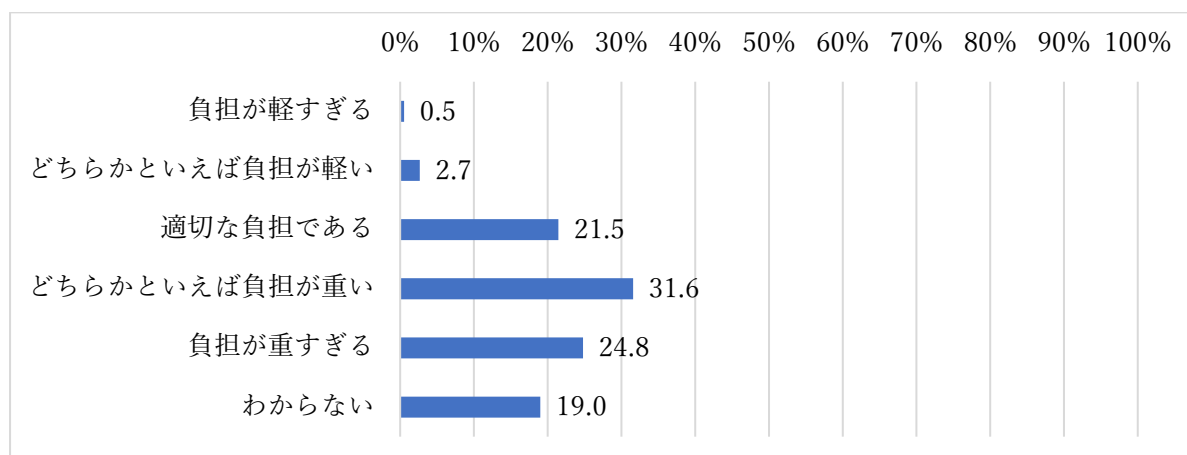


図 39-1 男女別(N=4171)

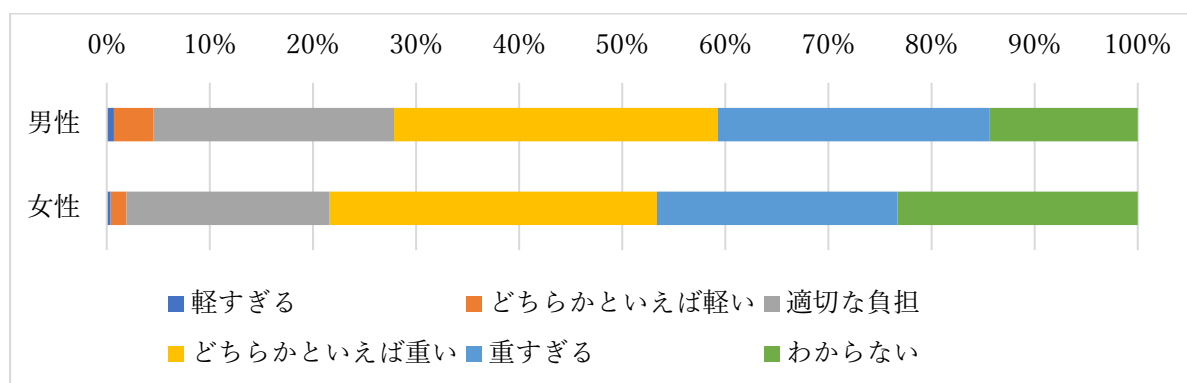


図 39-2 年齢別(N=4171)

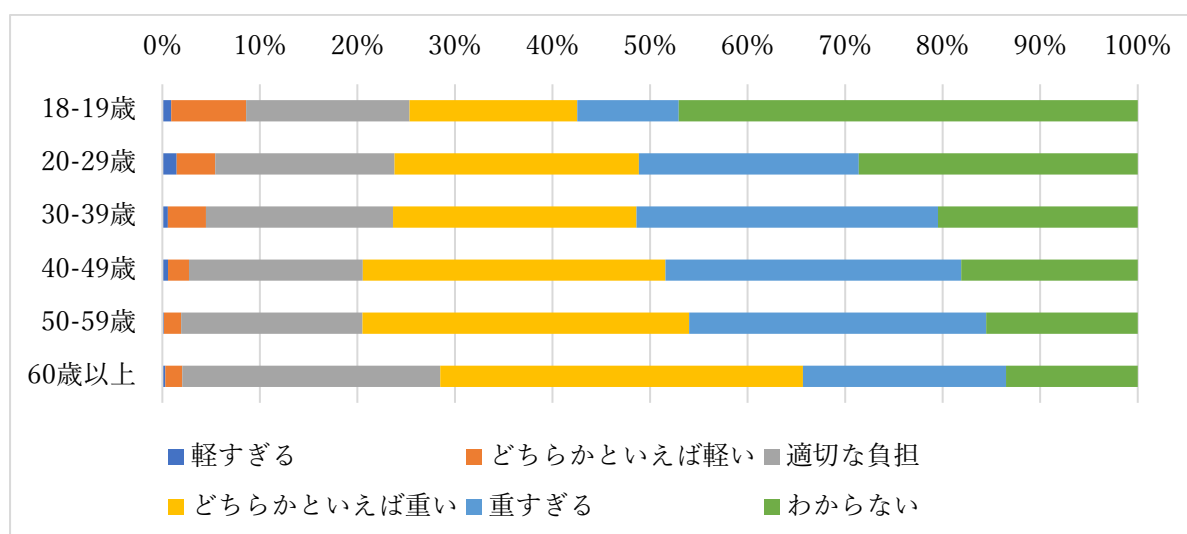


図 39-3 収入別(N=2235)

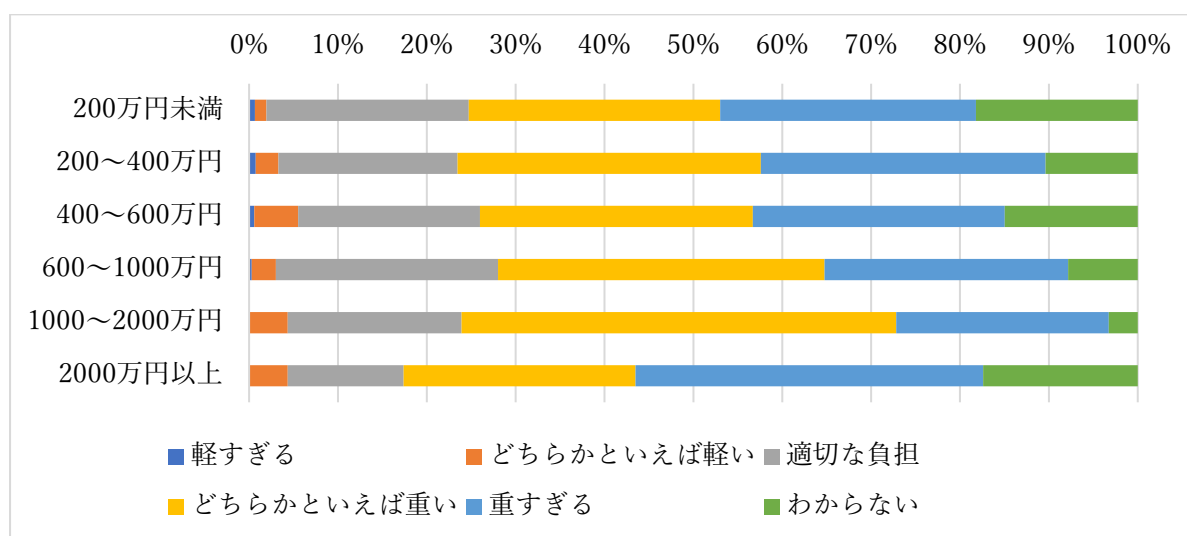
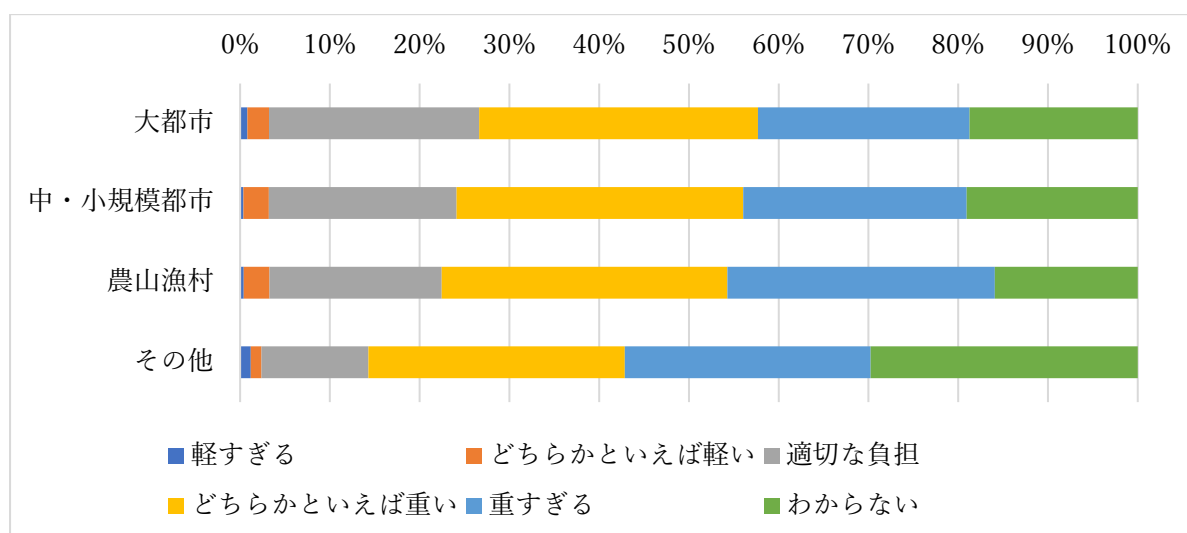


図 39-4 居住地域別(N=4171)



Q40. あなたは「政府が人びとの間の所得格差を減ずるべき」という意見に賛成しますか。1つ選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	まったく反対	129	3.1
2	どちらかといえば反対	382	9.2
3	賛成でも反対でもない	1743	41.8
4	どちらかといえば賛成	1342	32.2
5	完全に賛成	575	13.8

図 40-0 総計

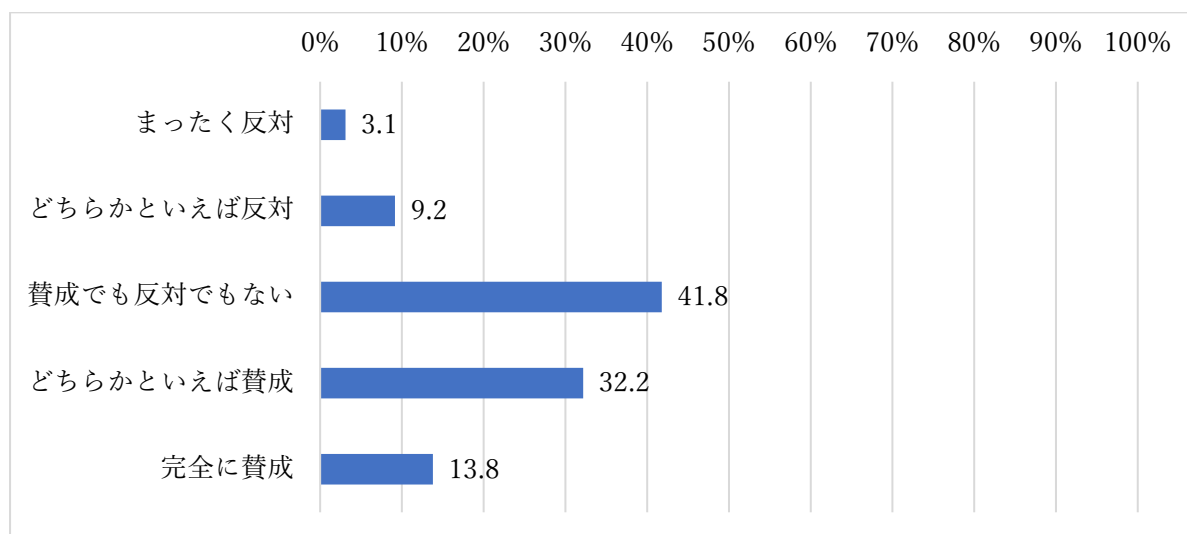


図 40-1 男女別(N=4171)

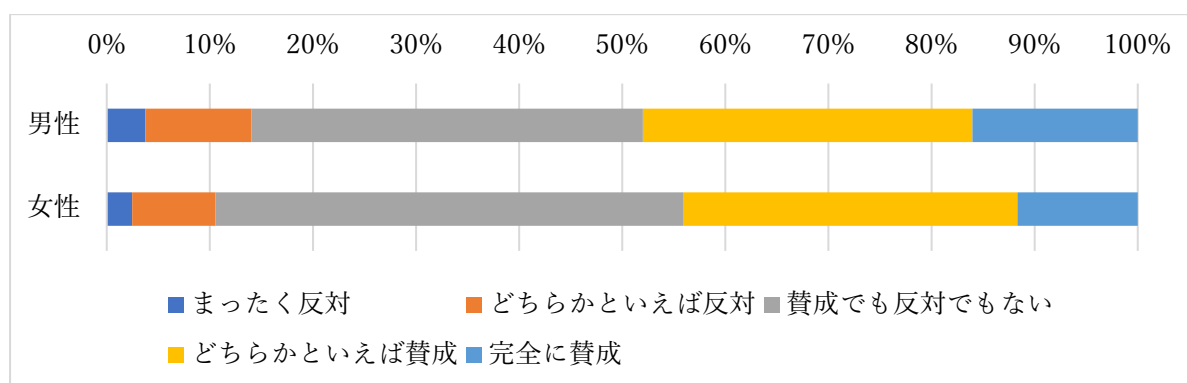


図 40-2 年齢別(N=4171)

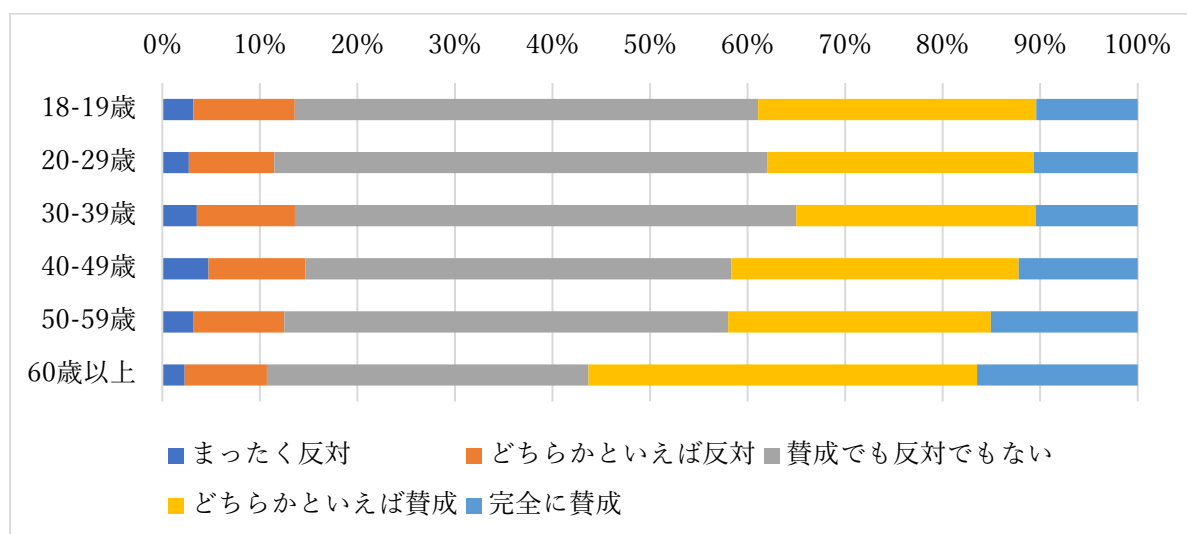




図 40-3 収入別(N=2235)

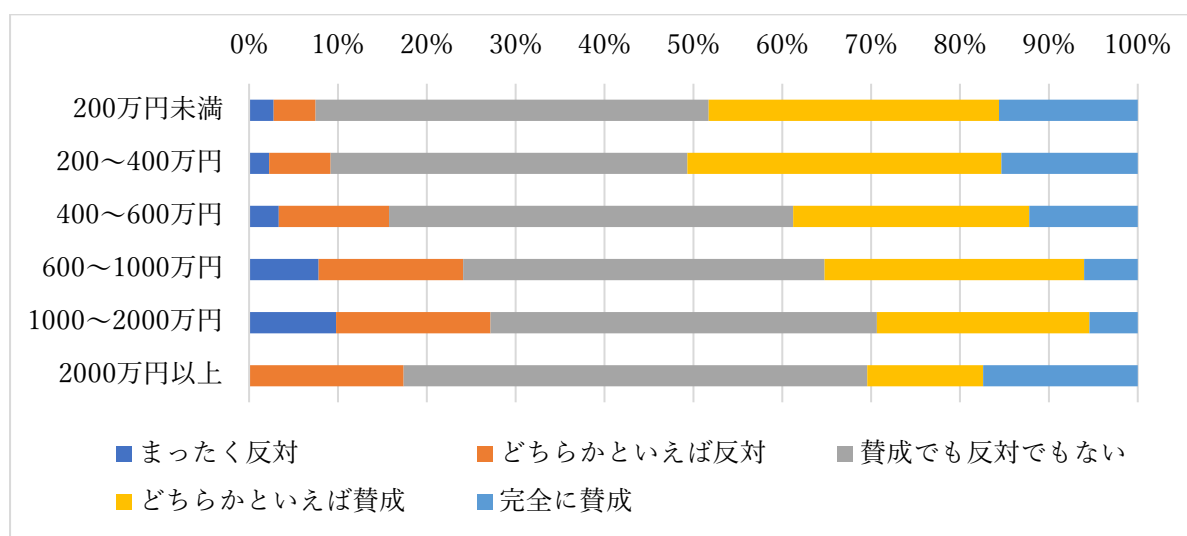
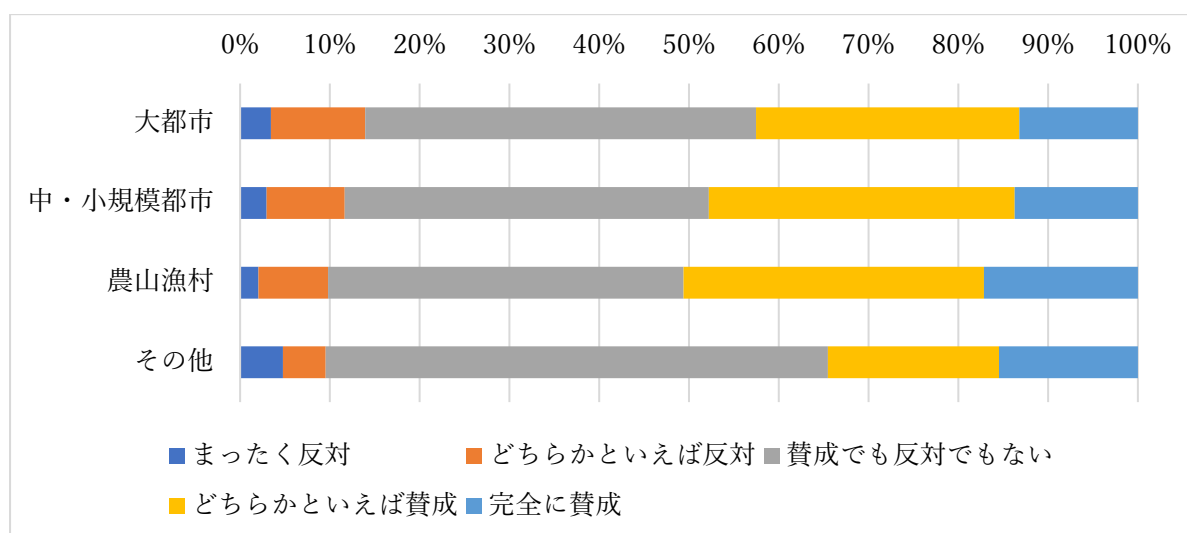


図 40-4 居住地域別(N=4171)



Q41. この5年間の日本政府の政策に関してあなたはどのように評価しますか。項目ごとに1つ選んでください。

			全体	極めて悪い	悪い	良くも悪くもない	良い	極めて良い
Q41 項目 1	雇用機会の創出	%	100.0	11.4	31.2	48.9	7.7	0.9
		実数	4171	475	1300	2039	320	37
Q41 項目 2	経済格差の縮小	%	100.0	16.8	35.1	42.5	5.0	0.6
		実数	4171	699	1466	1771	208	27
	景気刺激	%	100.0	16.1	34.9	41.1	7.0	0.9

Q41 項目 3		実数	4171	672	1456	1713	293	37
Q41 項目 4	インフラ整備	%	100.0	9.3	22.9	55.6	11.1	1.1
		実数	4171	389	955	2319	464	44
Q41 項目 5	国の安全保障	%	100.0	12.1	25.1	51.8	10.0	1.1
		実数	4171	503	1046	2159	417	46
Q41 項目 6	教育・科学技術振興	%	100.0	12.5	25.1	53.1	8.1	1.2
		実数	4171	521	1049	2213	339	49
Q41 項目 7	環境対策	%	100.0	10.7	25.6	54.0	8.8	0.9
		実数	4171	445	1068	2254	367	37

図 41-0 総計

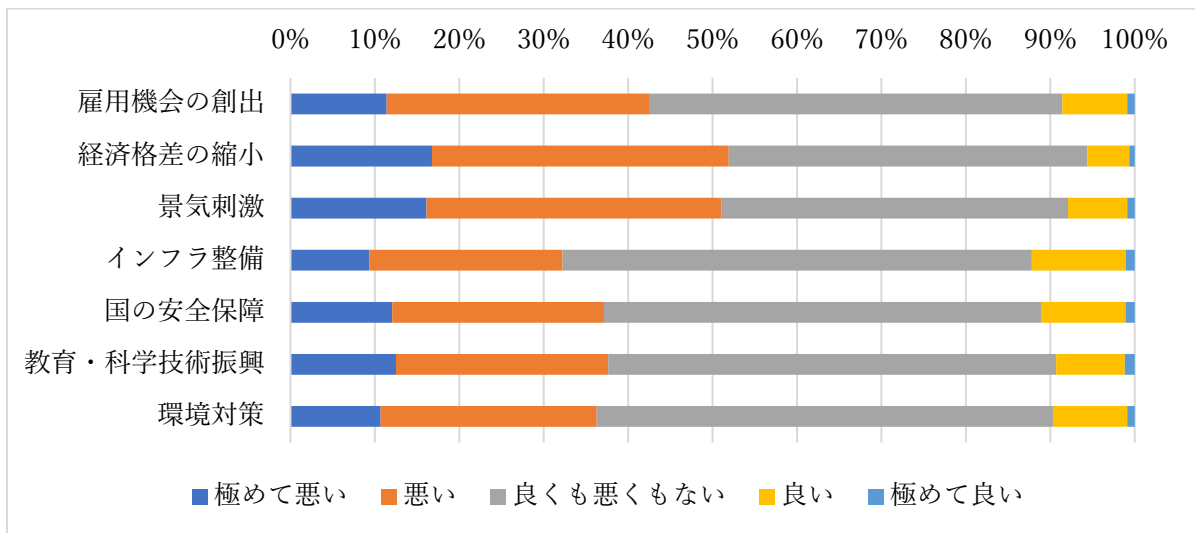


図 41-項目 1-1 男女別(N=4171) 雇用機会の創出

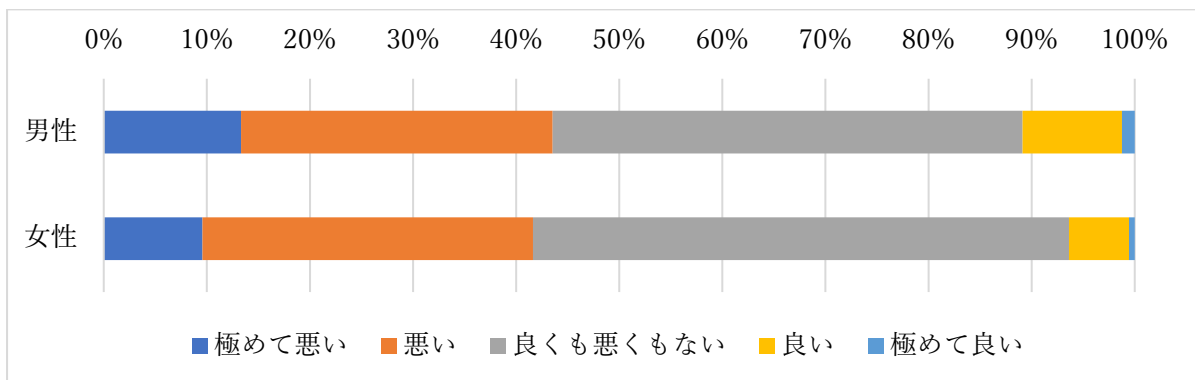


図 41-項目 1-2 年齢別(N=4171)

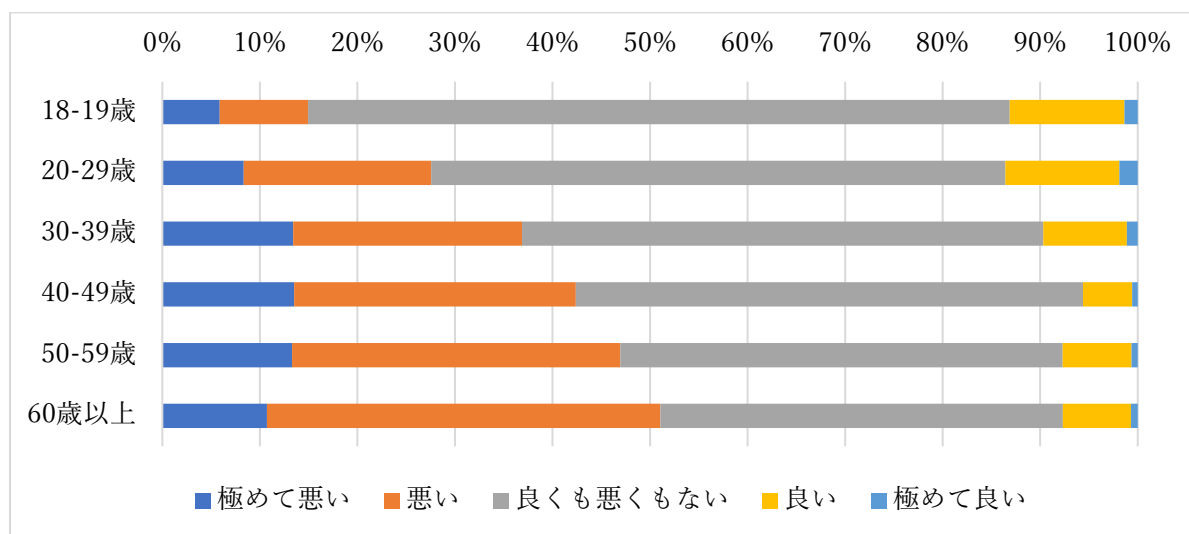


図 41-項目 1-3 収入別(N=2235)

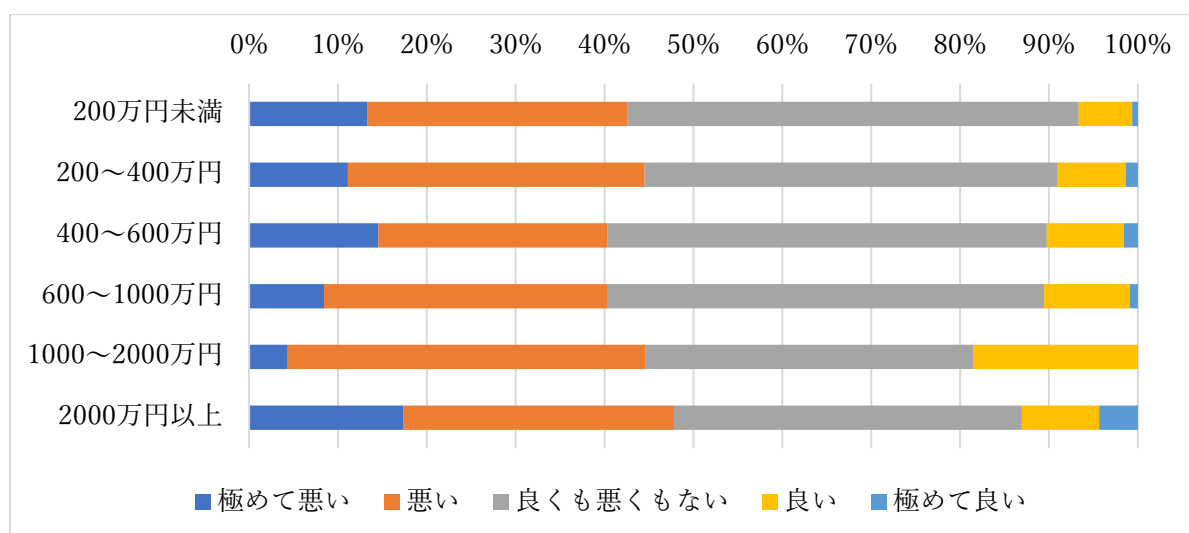


図 41-項目 1-4 居住地地域別(N=4171)

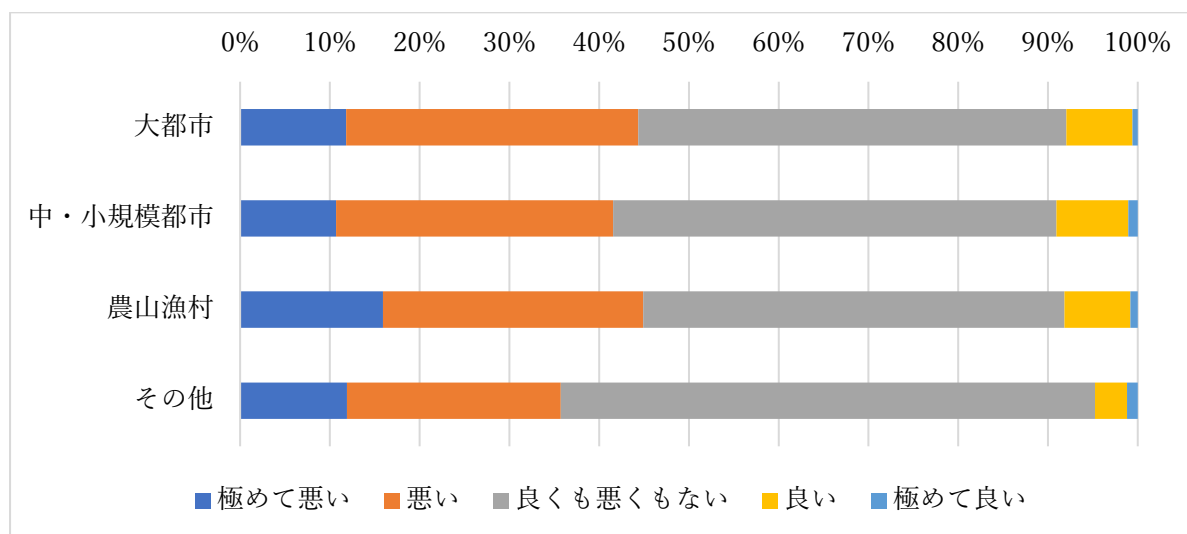


図 41-項目 2-1 男女別(N=4171) 経済格差の縮小

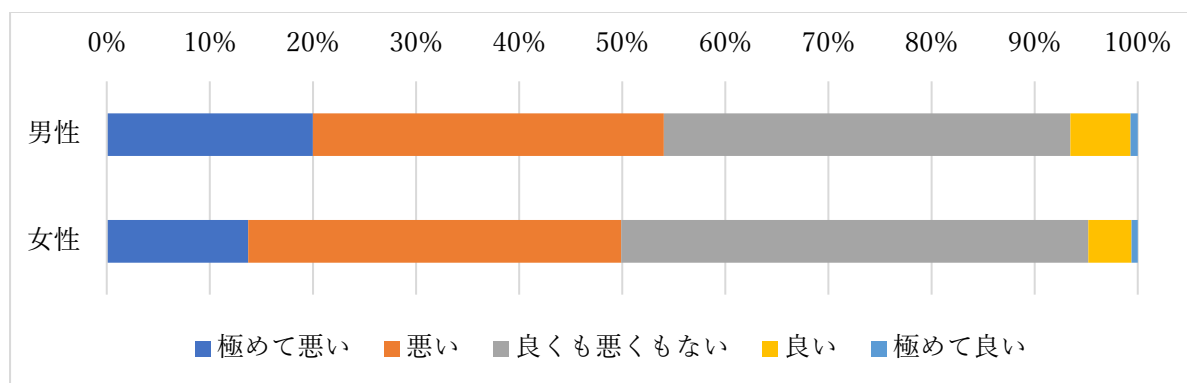


図 41-項目 2-2 年齢別(N=4171)

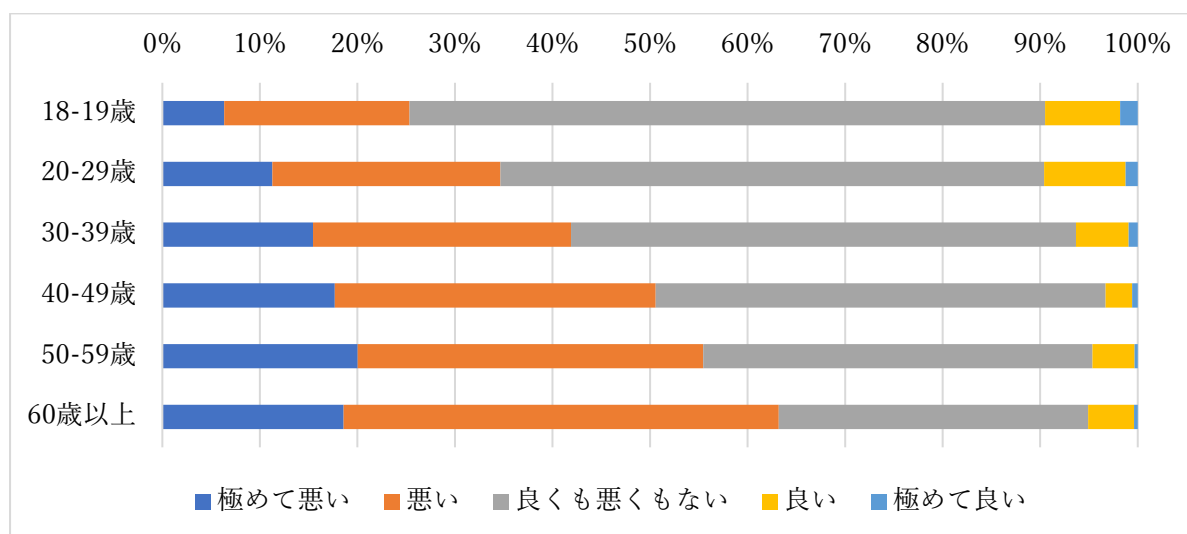


図 41-項目 2-3 収入別(N=2235)

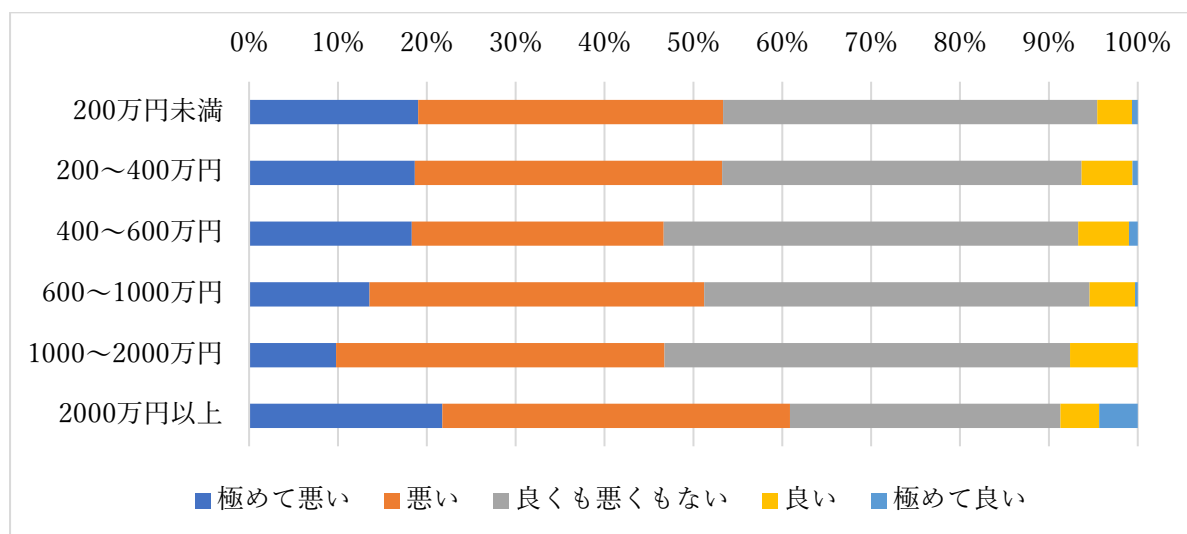


図 41-項目 2-4 居住地域別(N=4171)

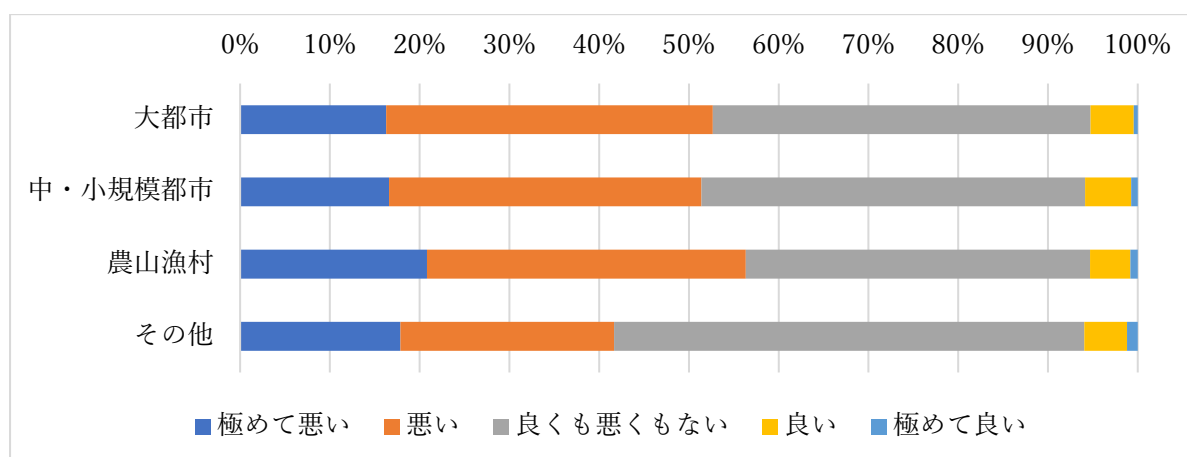


図 41-項目 3-1 男女別(N=4171) 景気刺激

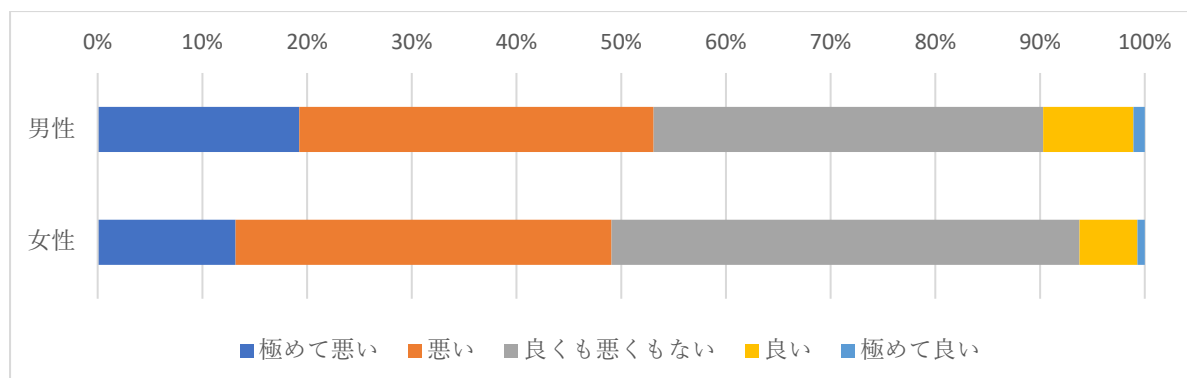


図 41-項目 3-2 年齢別(N=4171)

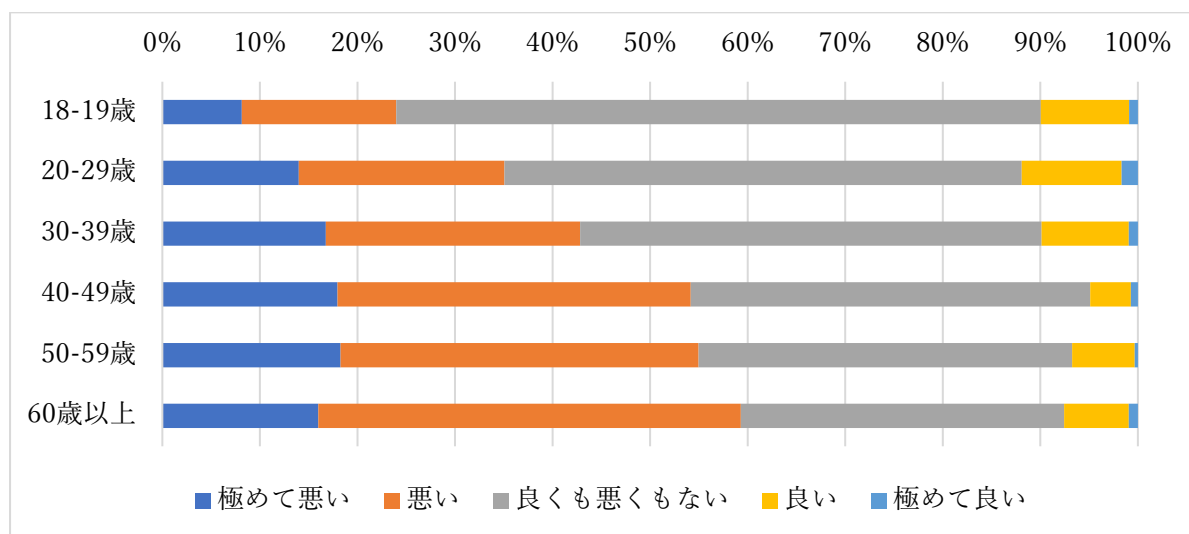


図 41-項目 3-3 収入別(N=2235)

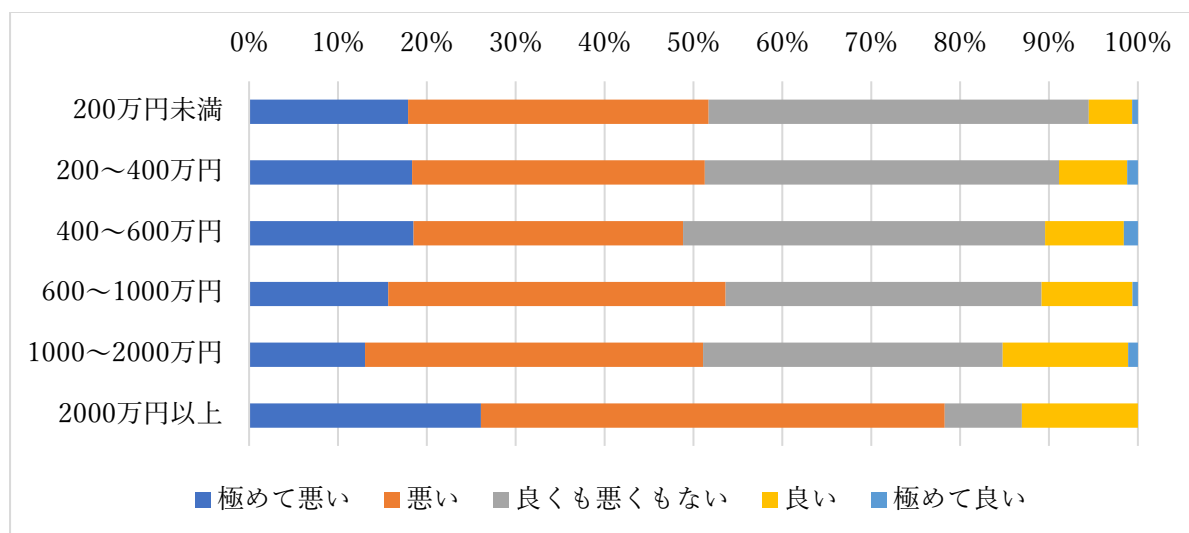


図 41-項目 3-4 居住地地域別(N=4171)

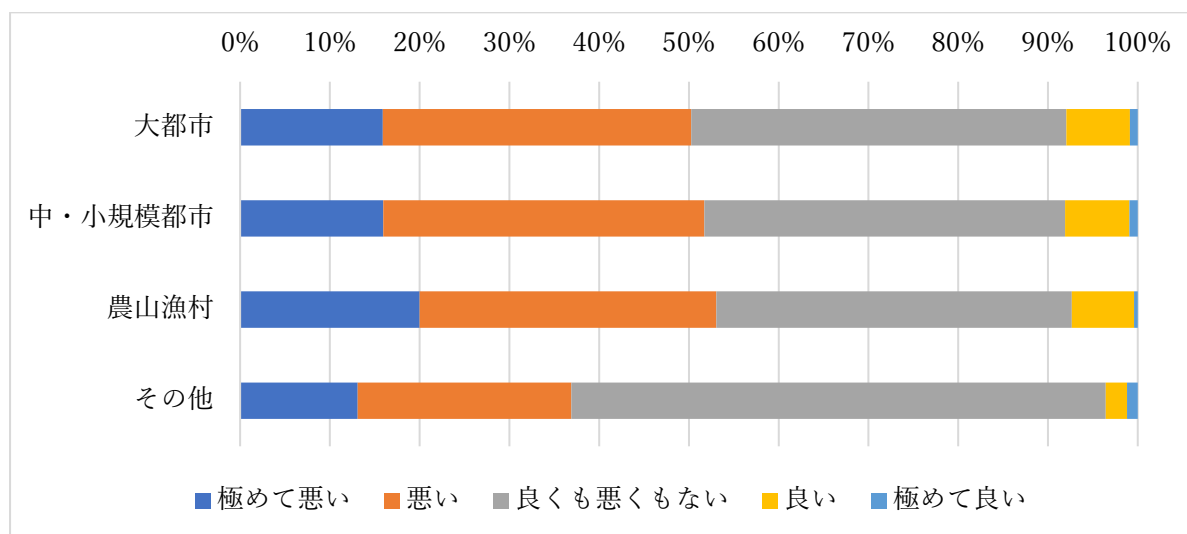


図 41-項目 4-1 男女別(N=4171)インフラ整備

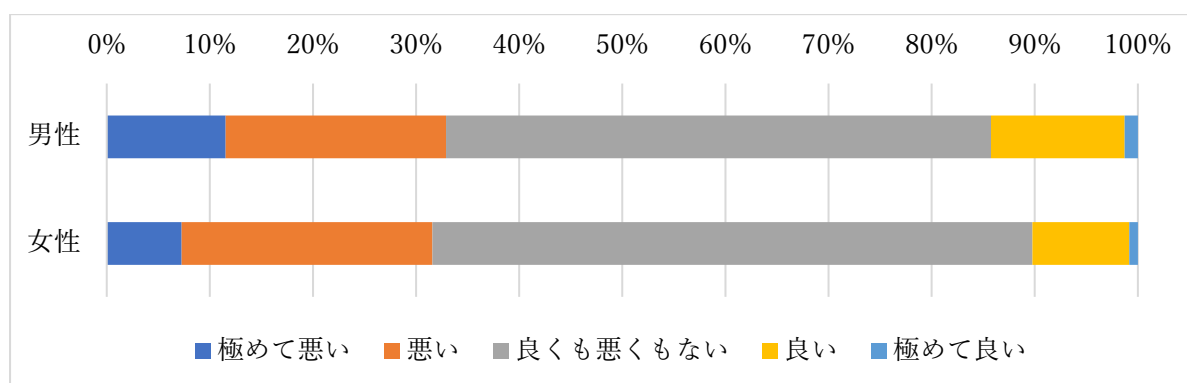


図 41-項目 4-2 年齢別(N=4171)

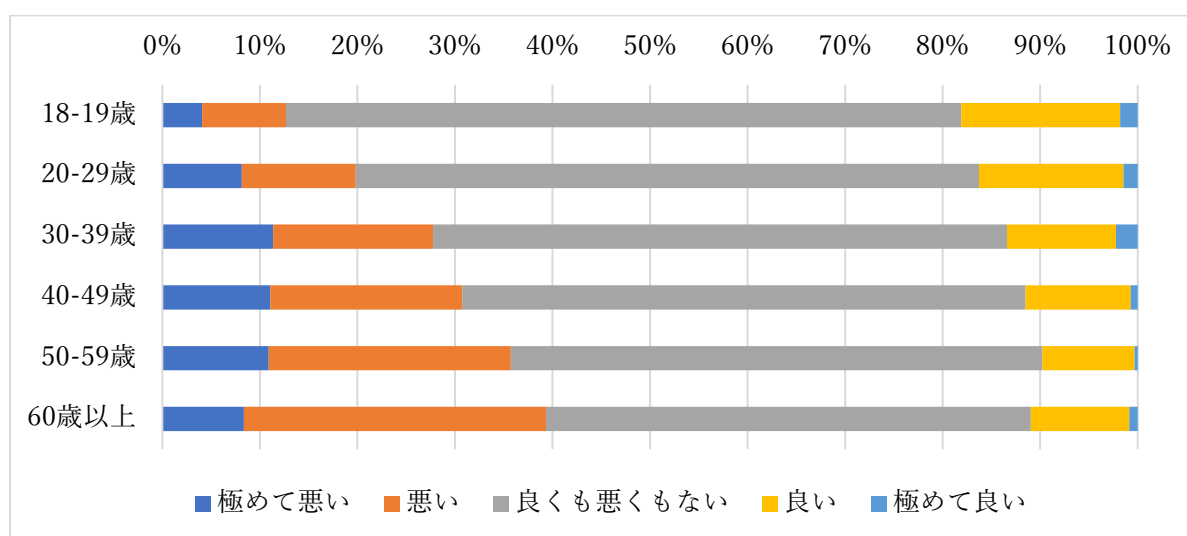


図 41-項目 4-3 収入別(N=2235)

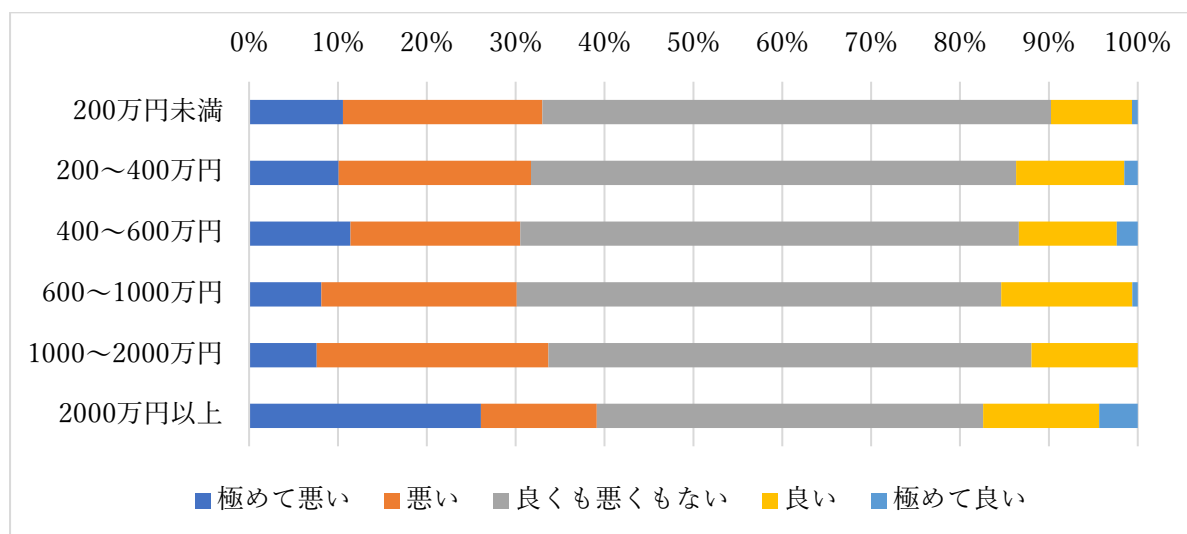


図 41-項目 4-4 居住地域別(N=4171)

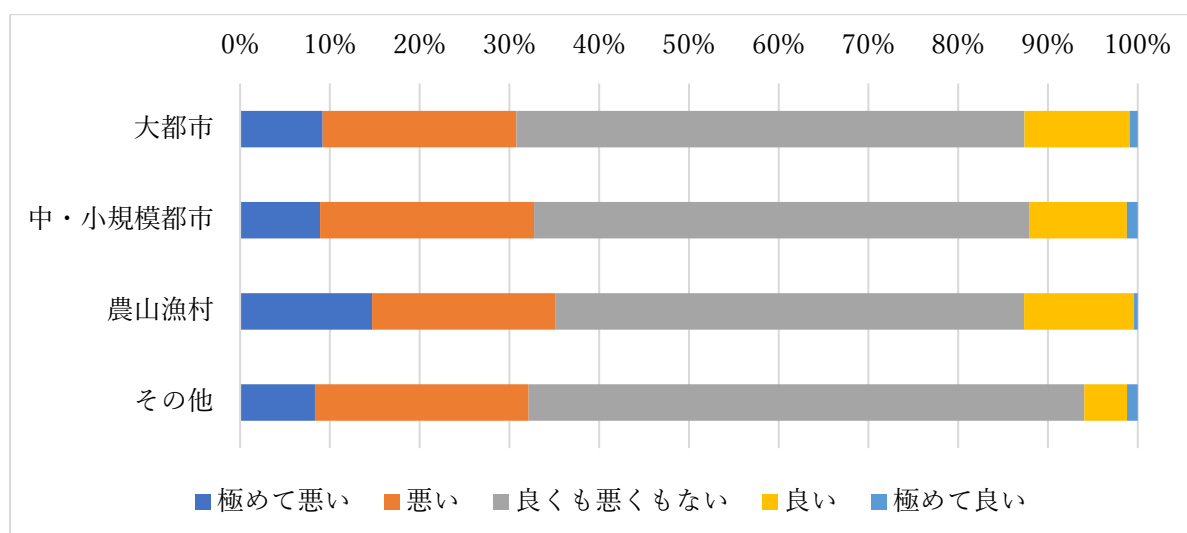


図 41-項目 5-1 男女別(N=4171) 国の安全保障

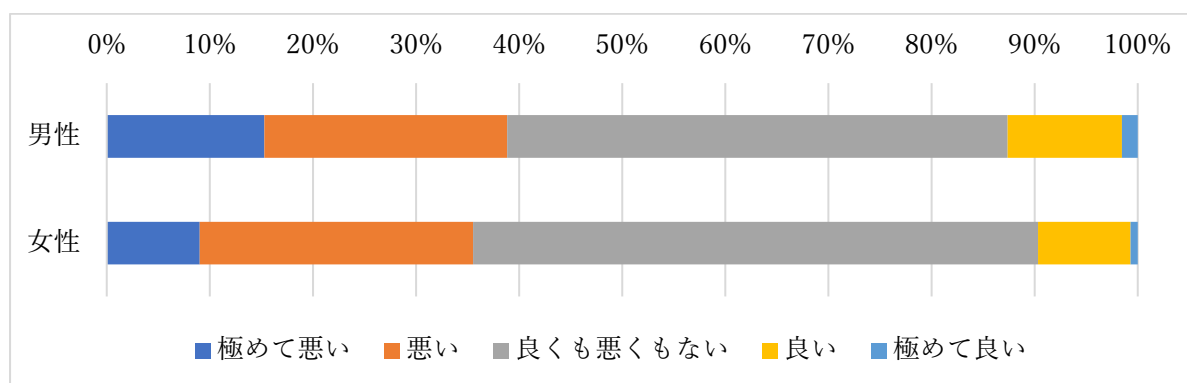




図 41-項目 5-2 年齢別(N=4171)

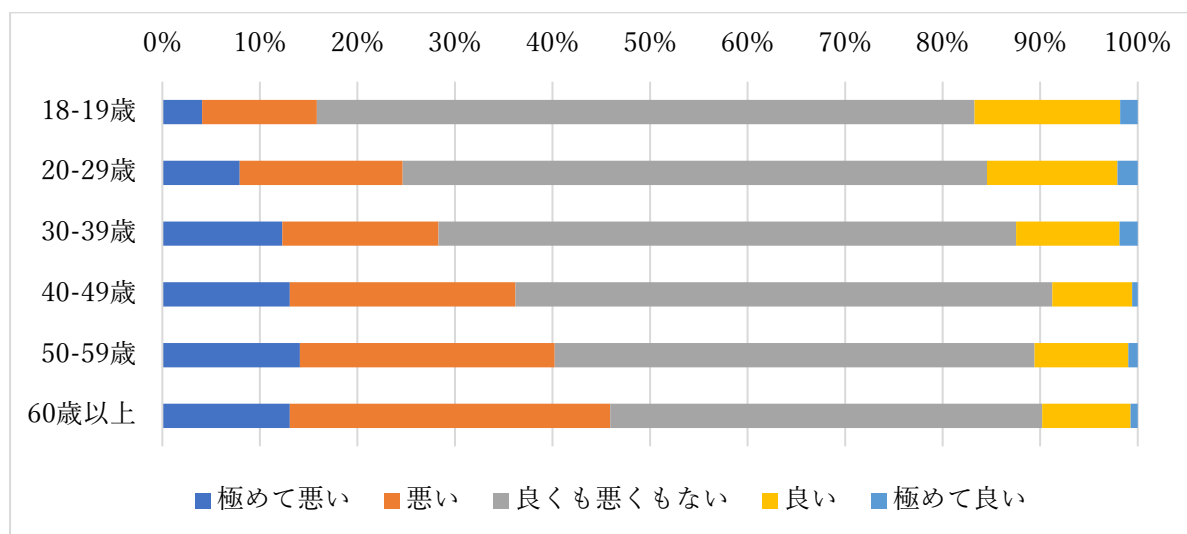


図 41-項目 5-3 収入別(N=2235)

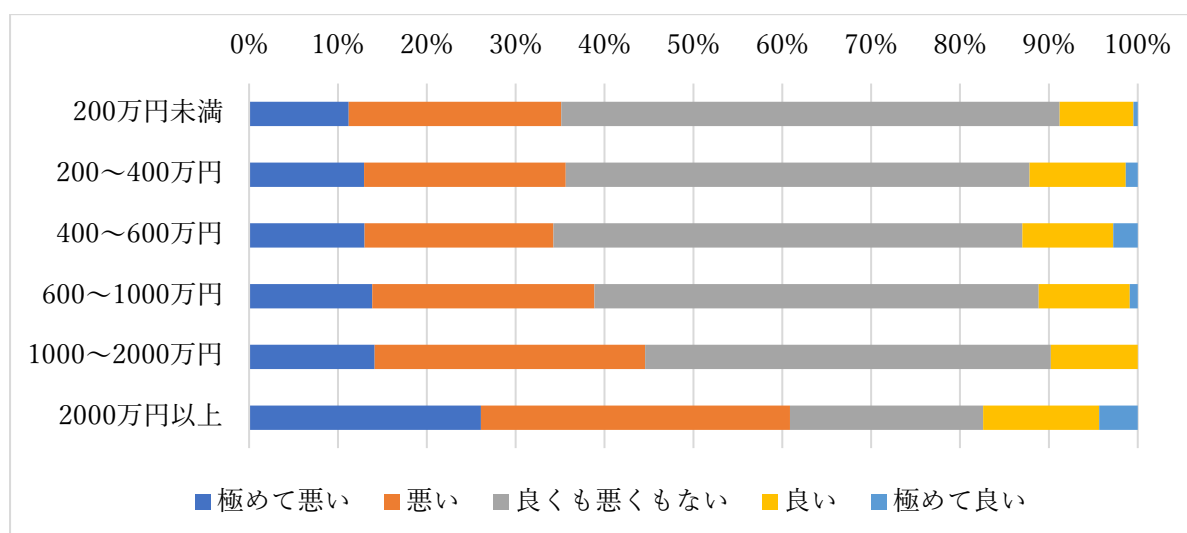


図 41-項目 5-4 居住地地域別(N=4171)

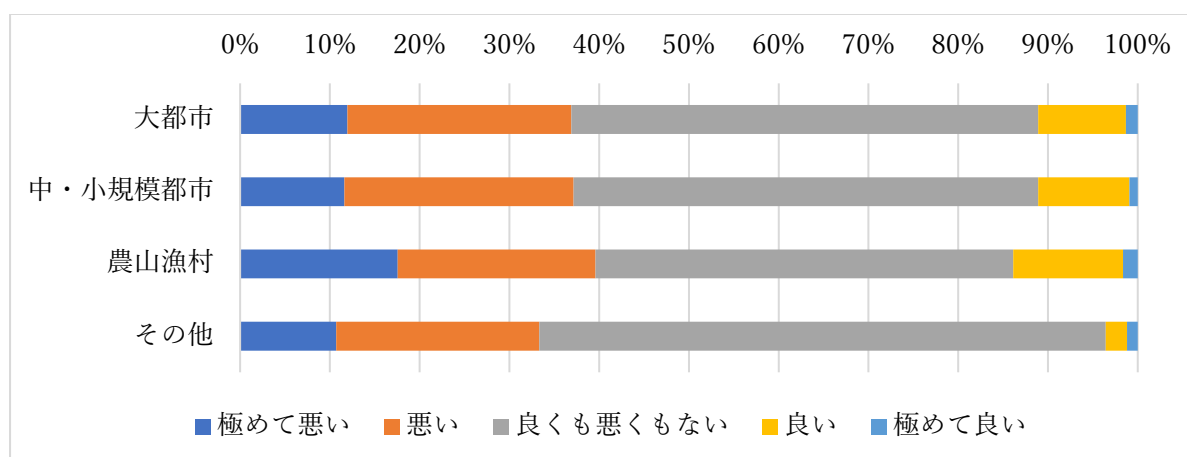


図 41-項目 6-1 男女別(N=4171)教育・科学技術振興

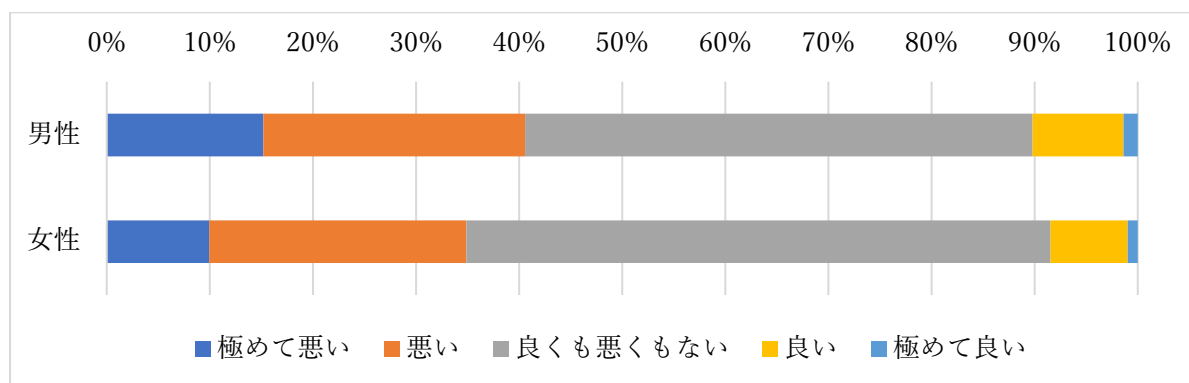


図 41-項目 6-2 年齢別(N=4171)

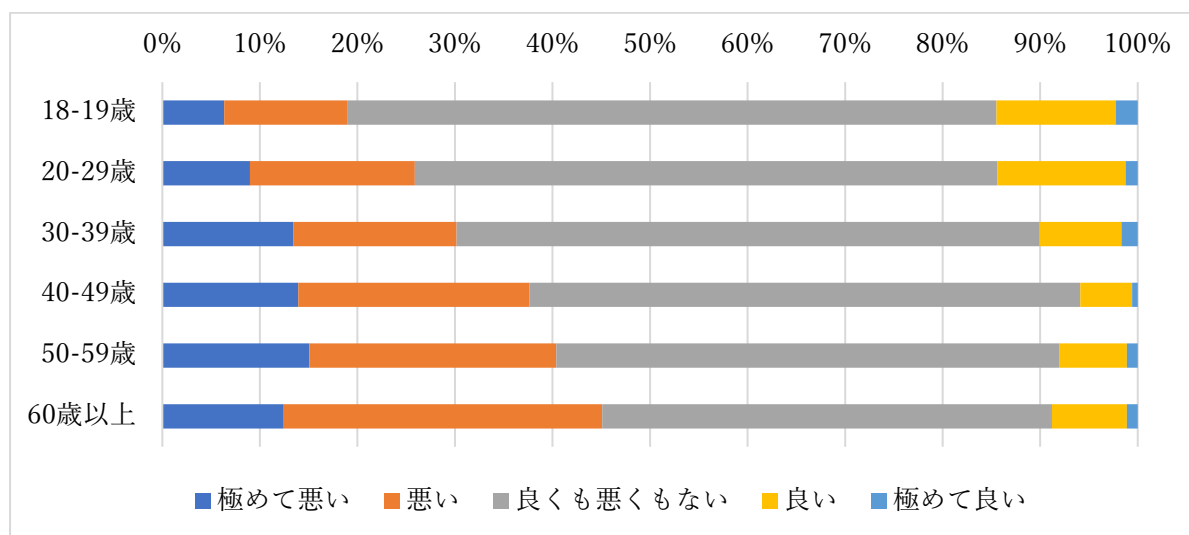


図 41-項目 6-3 収入別(N=2235)

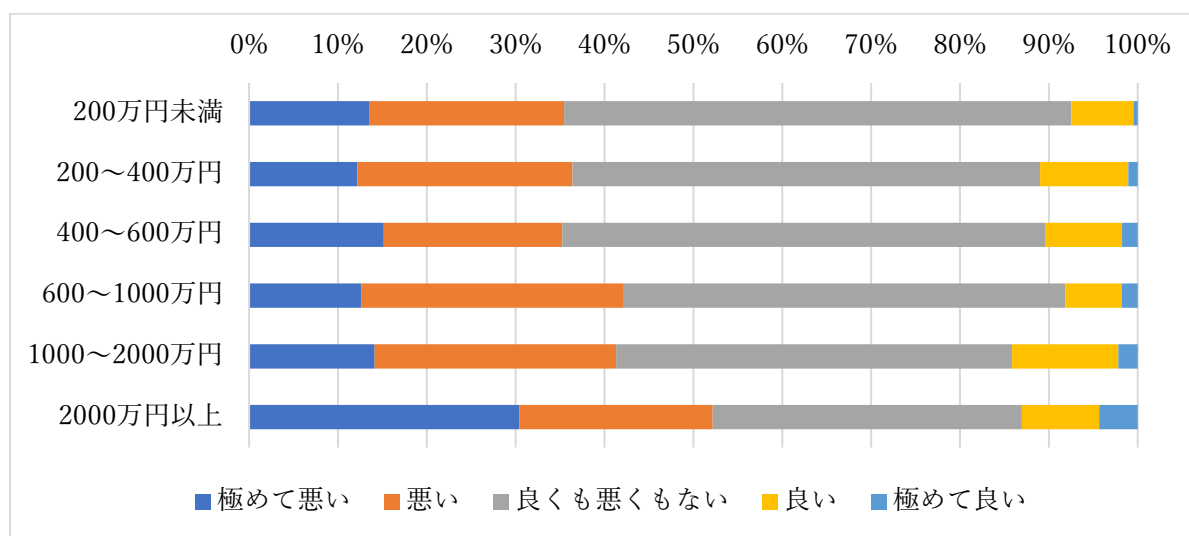


図 41-項目 6-4 居住地地域別(N=4171)

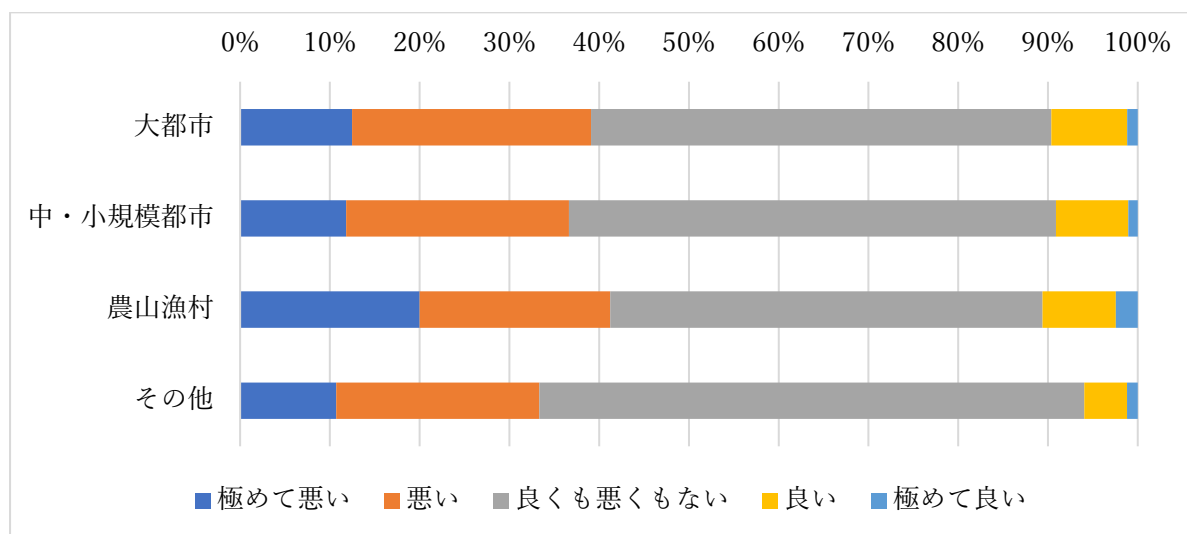


図 41-項目 7-1 男女別(N=4171)環境対策

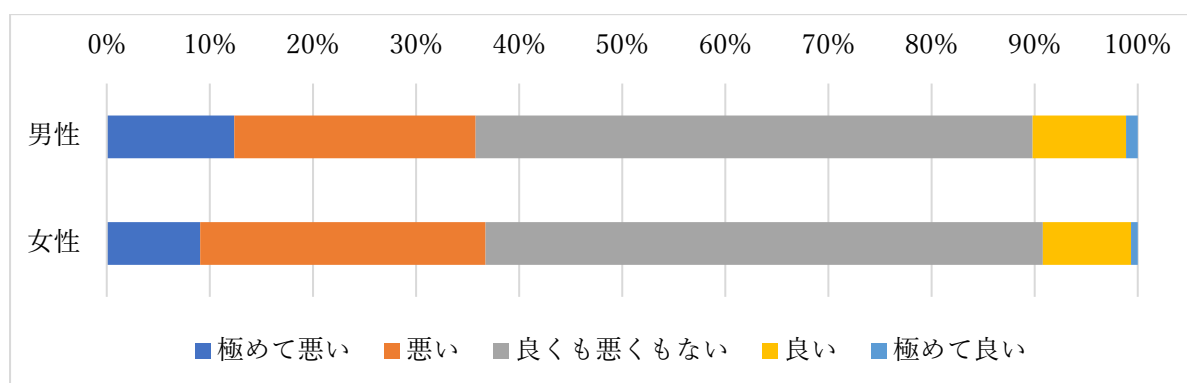


図 41-項目 7-2 年齢別(N=4171)

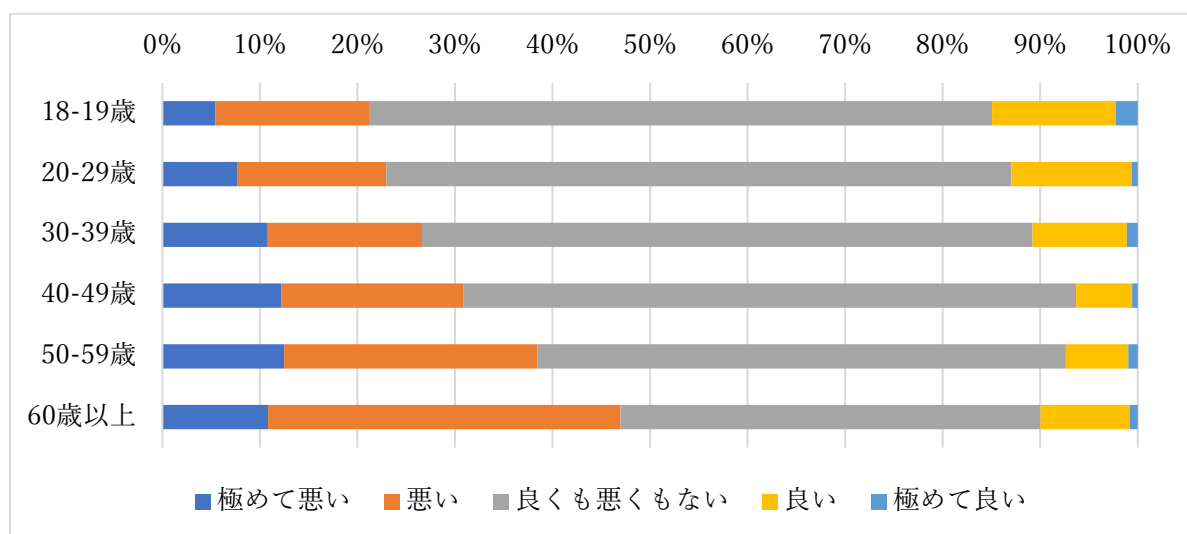


図 41-項目 7-3 収入別(N=2235)

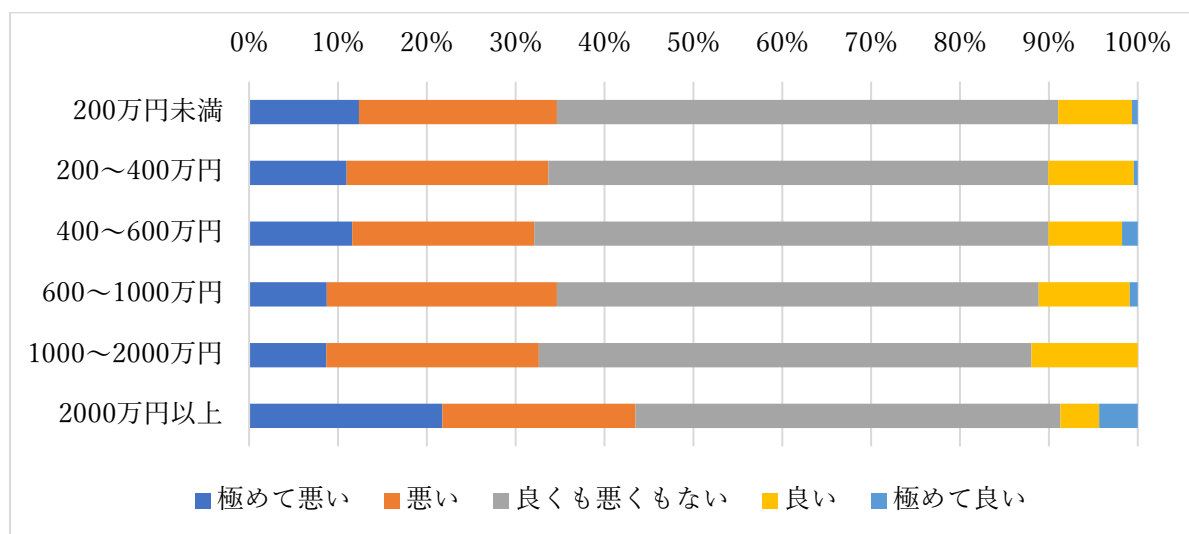
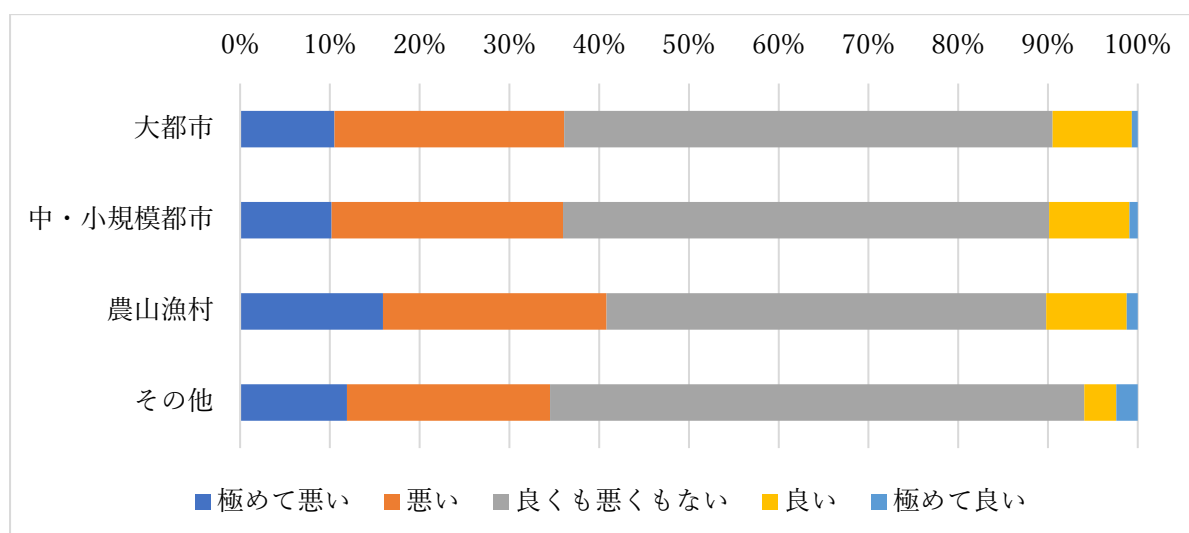


図 41-項目 7-4 居住地域別(N=4171)



Q42. あなたは日本社会における以下の事項にどの程度満足していますか。項目ごとに1つ選んでください。

			全体	完全に満足	どちらかといえば満足	満足でも不満足でもない	どちらかといえば不満足	完全に不満足
Q42 項目 1	民主主義的な政治制度	%	100.0	1.8	21.6	48.4	18.6	9.6
		実数	4171	77	902	2017	774	401
Q42 項目 2	先進国としての経済発展水準	%	100.0	1.2	14.4	45.0	24.8	14.7
		実数	4171	50	599	1875	1035	612
Q42 項目 3	国民に責任を果たす政府	%	100.0	0.8	8.8	43.5	26.8	20.1
		実数	4171	35	367	1813	1116	840
Q42 項目 4	地域の問題を解決する地方自治体	%	100.0	0.6	10.8	55.8	22.3	10.5
		実数	4171	27	450	2326	931	437

図 42-0 総計

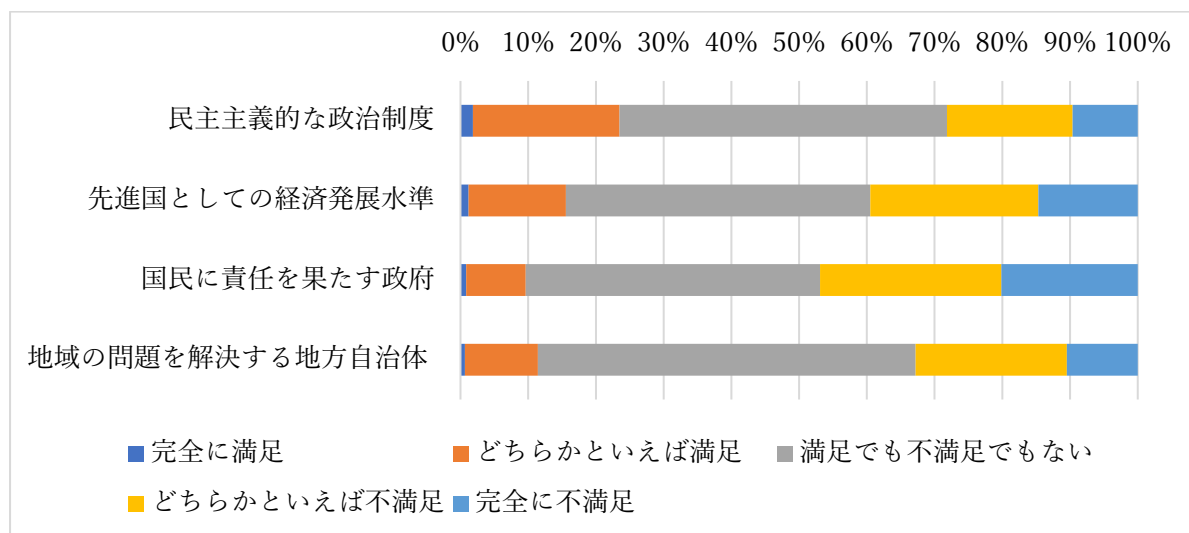


図 42-項目 1-1 男女別(N=4171) 民主主義的な政治制度

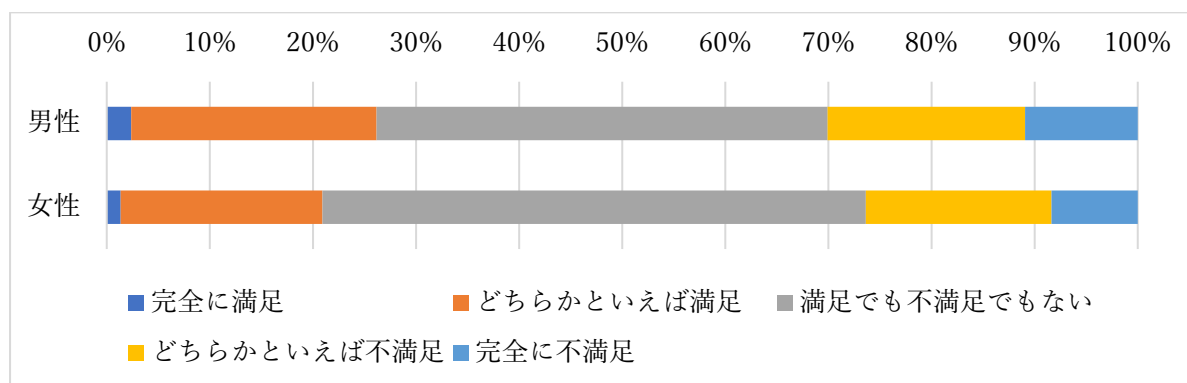


図 42-項目 1-2 年齢別(N=4171)

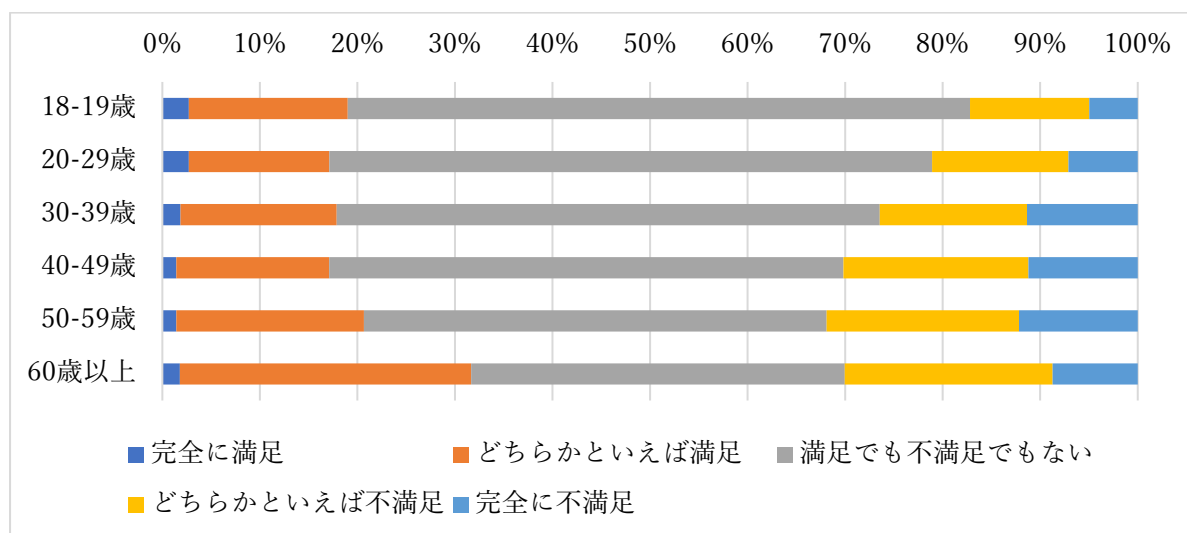


図 42-項目 1-3 収入別(N=2235)

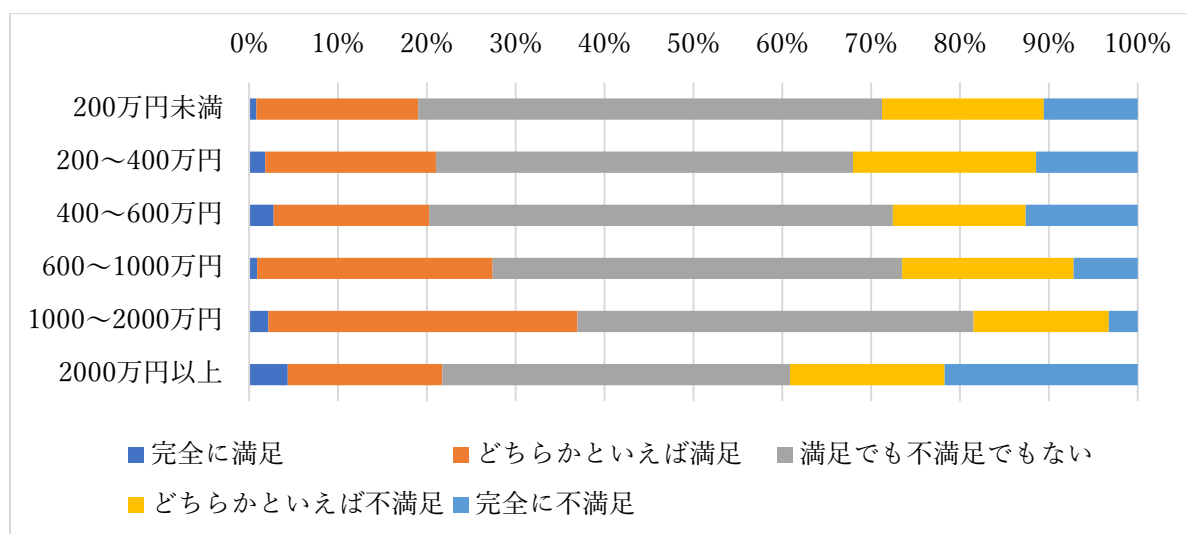


図 42-項目 1-4 居住地地域別(N=4171)

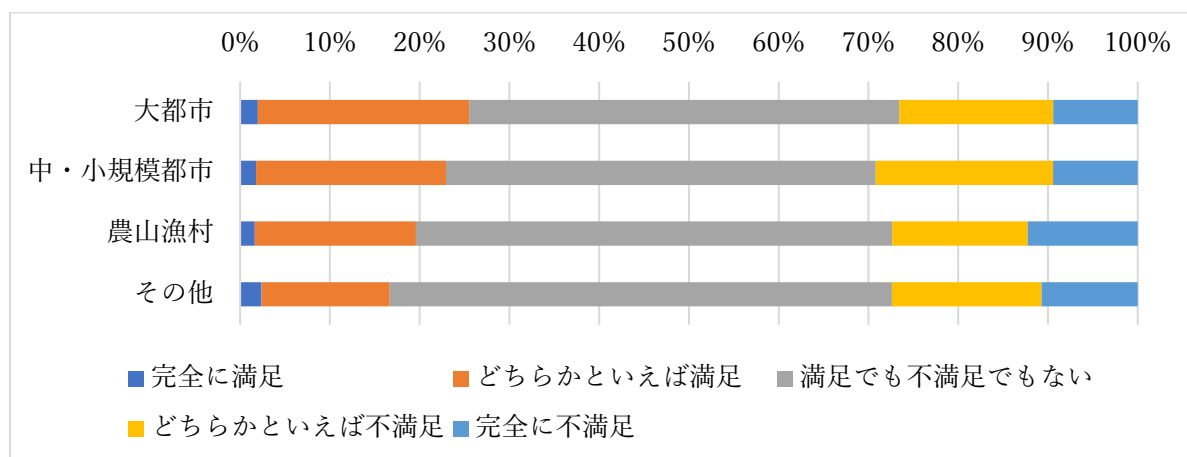


図 42-項目 2-1 男女別(N=4171) 先進国としての経済発展水準

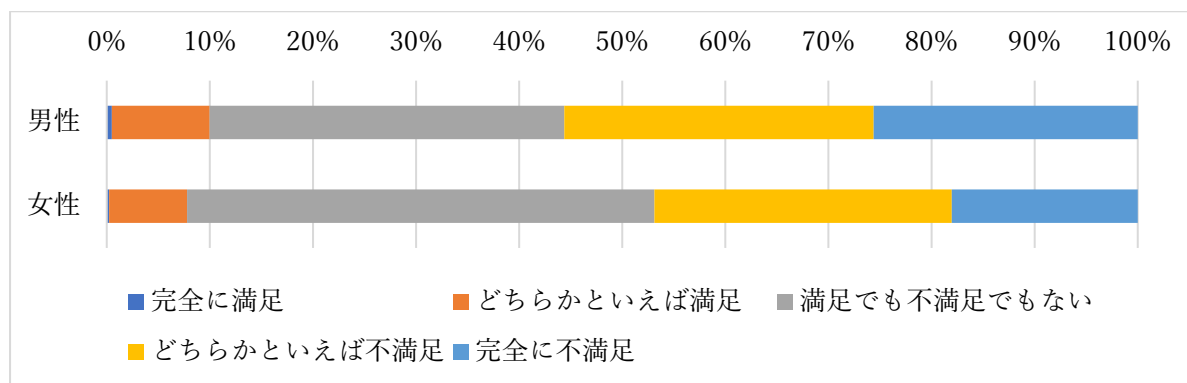


図 42-項目 2-2 年齢別(N=4171)

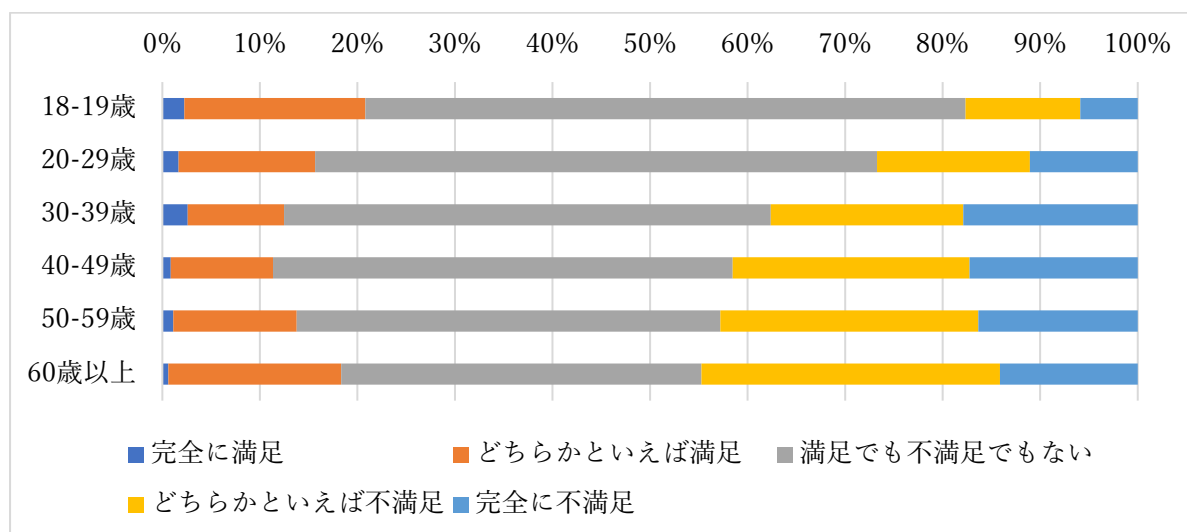


図 42-項目 2-3 収入別(N=2235)

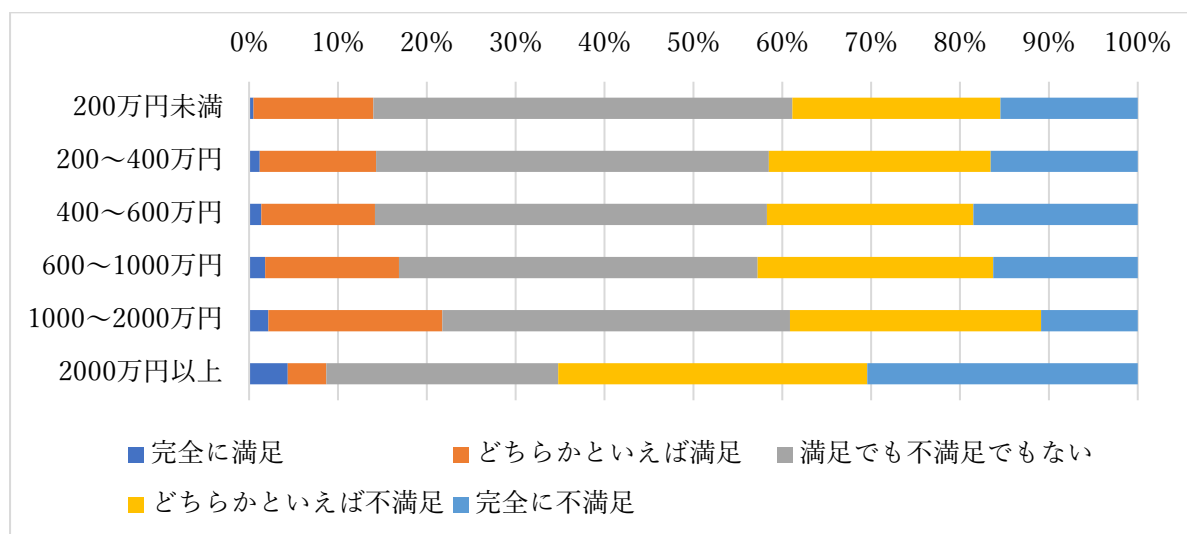


図 42-項目 2-4 居住地域別(N=4171)

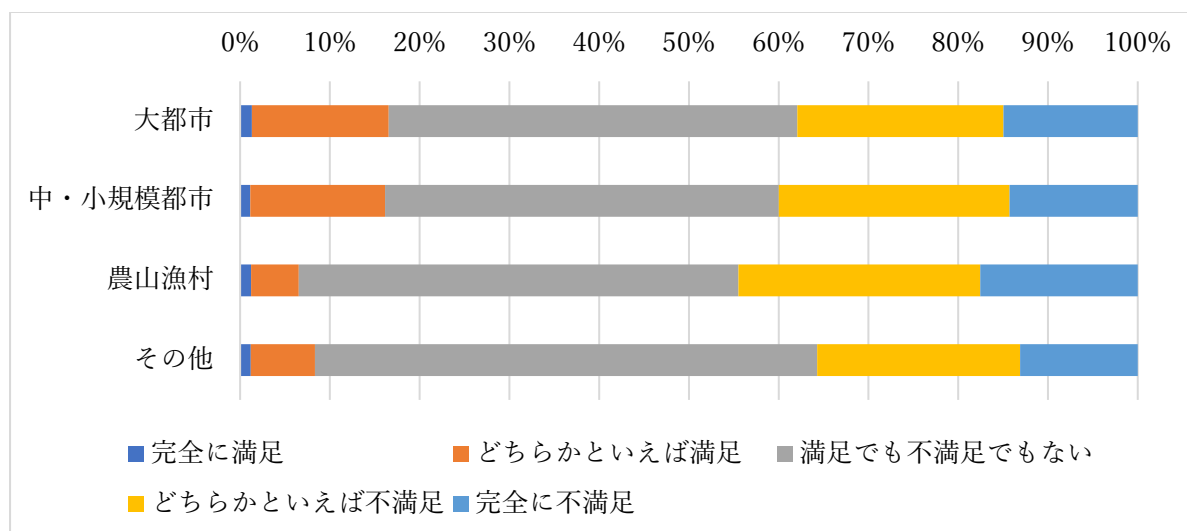


図 42-項目 3-1 男女別(N=4171)国民に責任を果たす政府

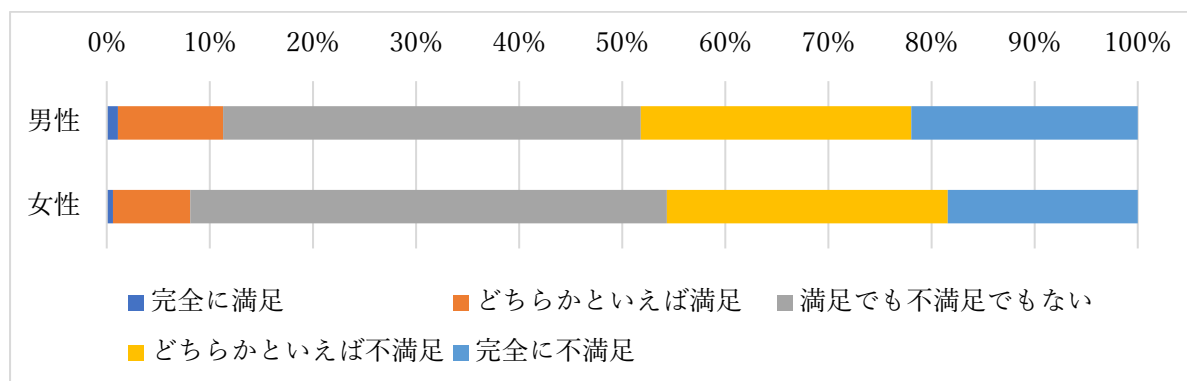




図 42-項目 3-2 年齢別(N=4171)

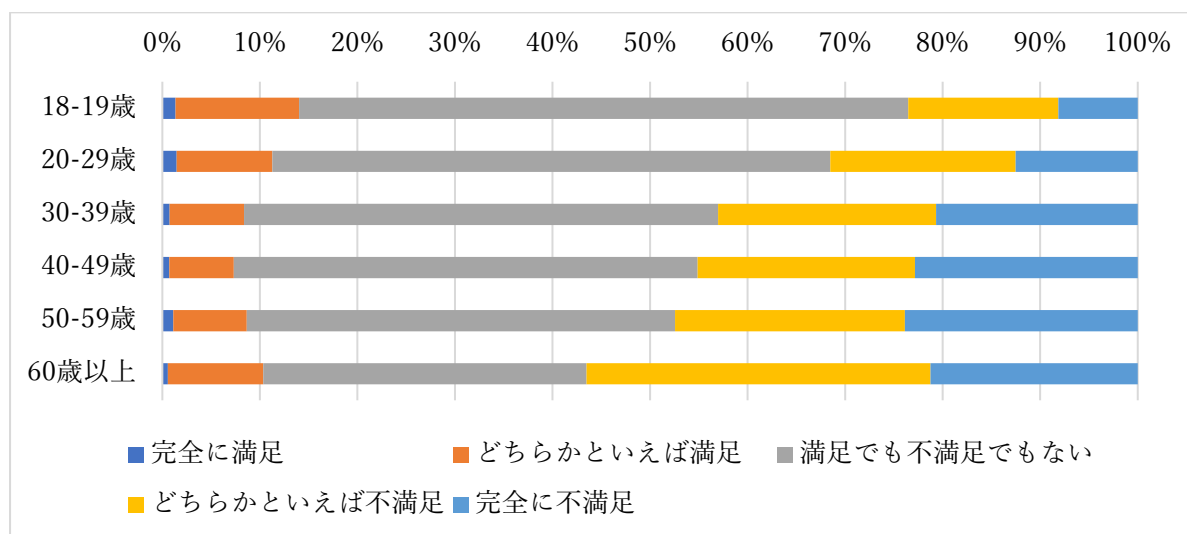


図 42-項目 3-3 収入別(N=2235)

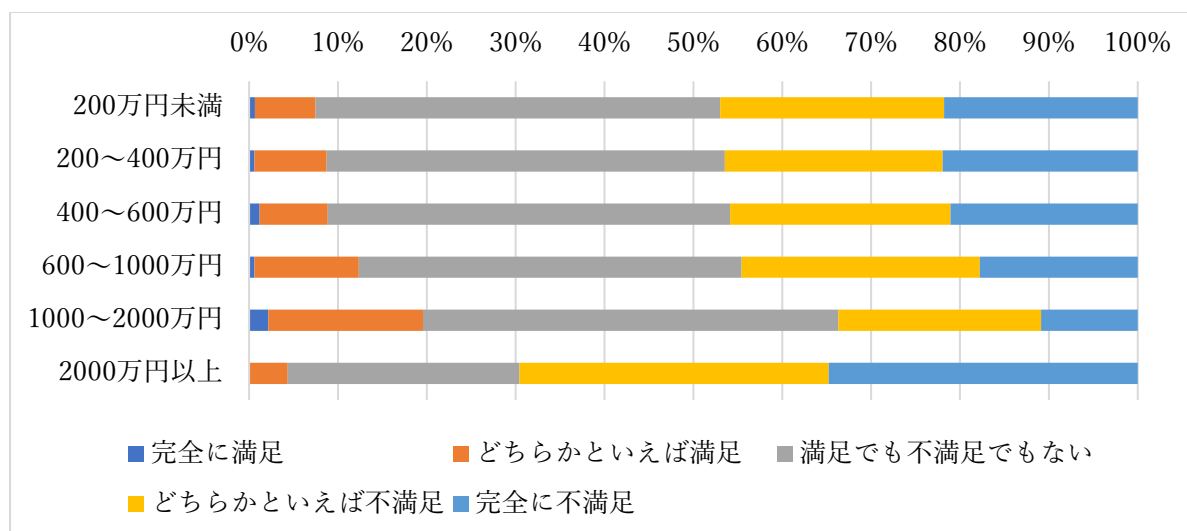


図 42-項目 3-4 居住地別(N=4171)

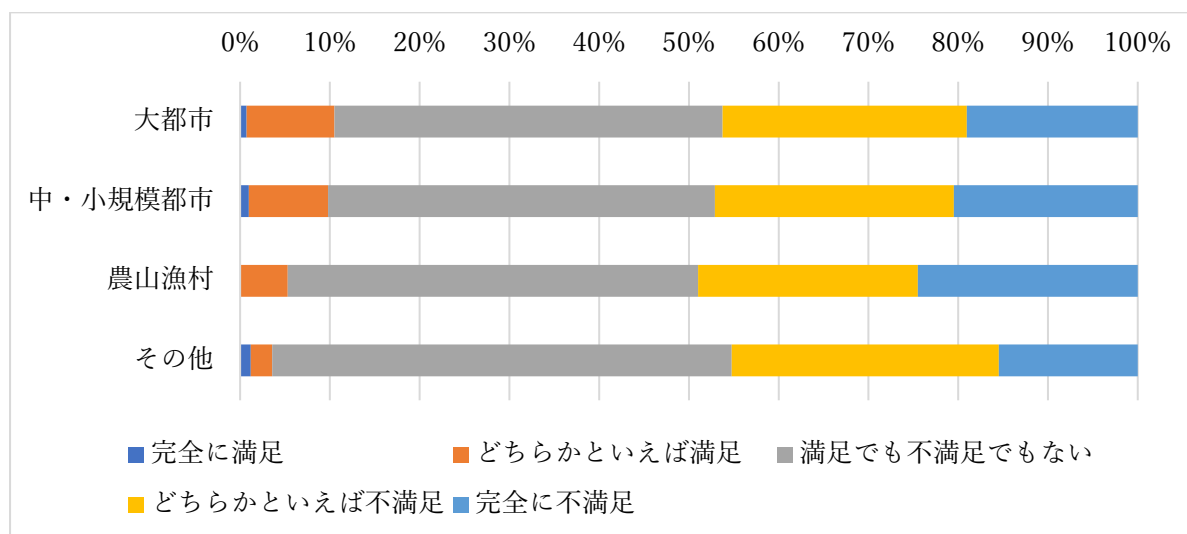


図 42-項目 4-1 男女別(N=4171)地域の問題を解決する地方自治体

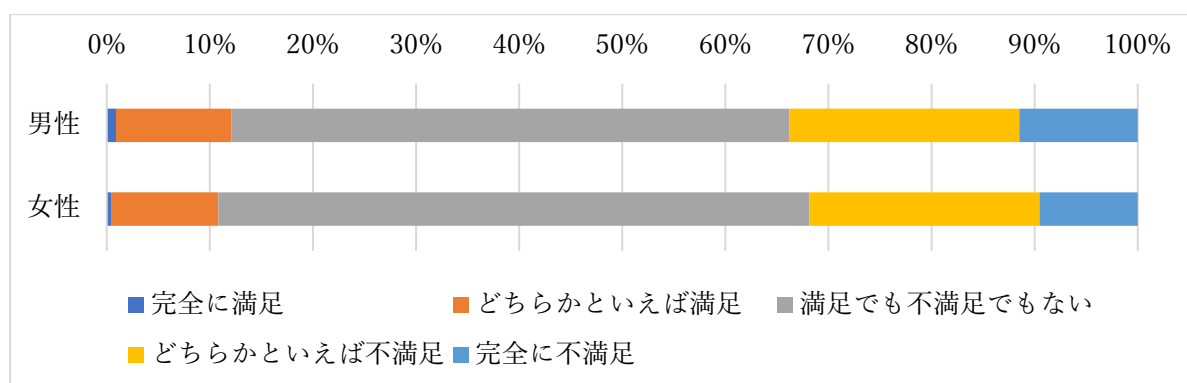


図 42-項目 4-2 年齢別(N=4171)

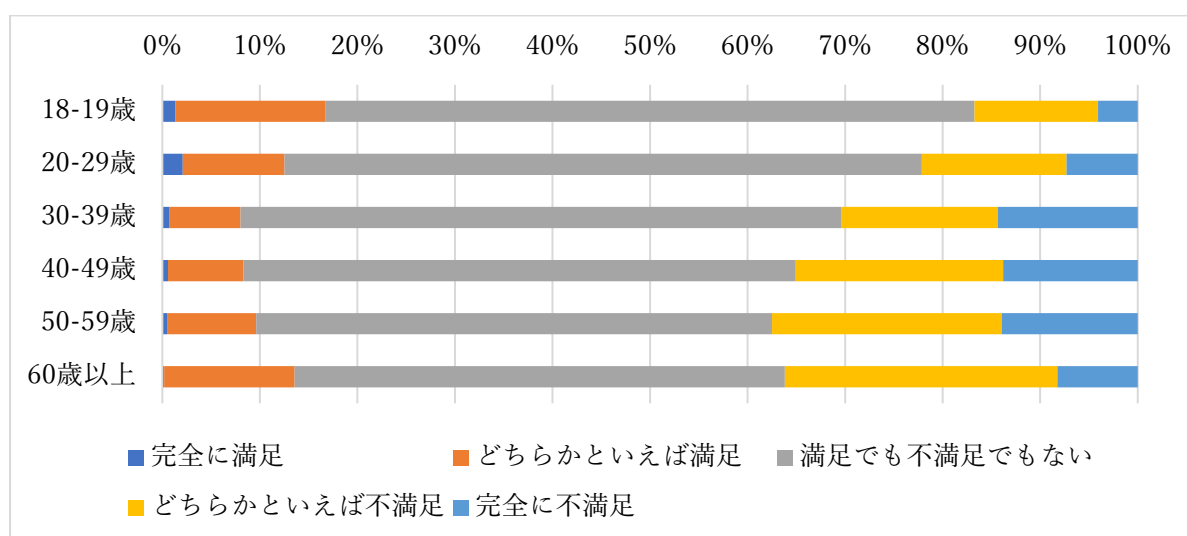


図 42-項目 4-3 収入別(N=2235)

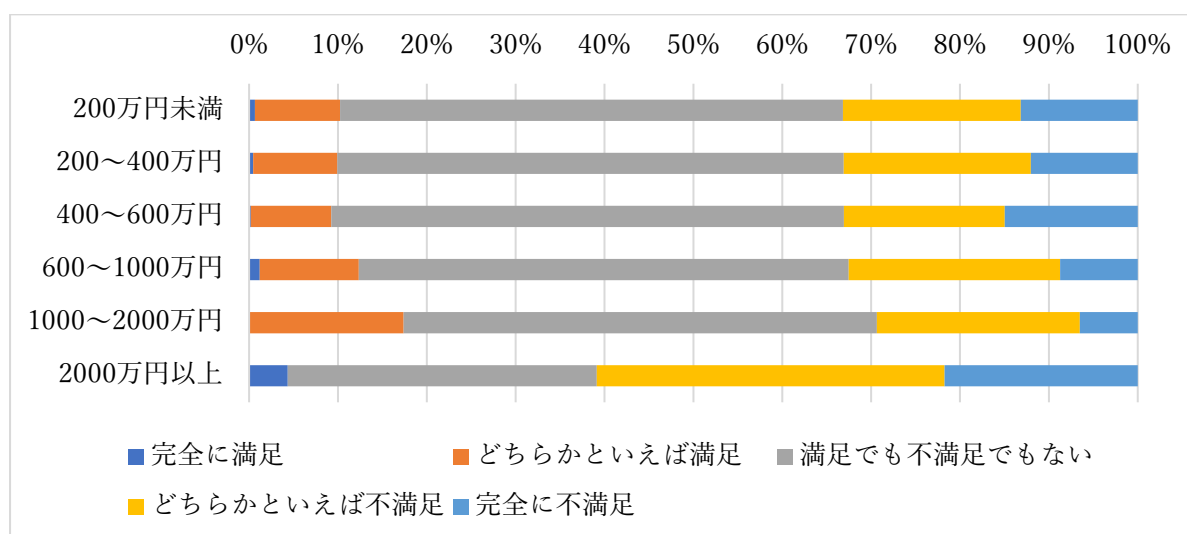
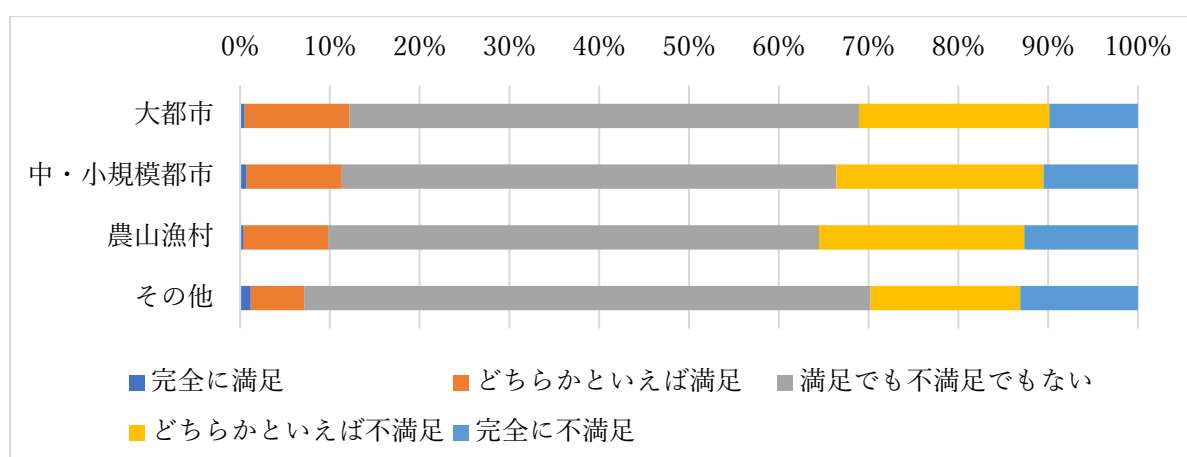


図 42-項目 4-4 居住地域別(N=4171)



Q43. 現在のお仕事に関係なく、あなたは働くとすればどのような組織形態を望みますか。1つ選んでください。※現在学生の方は、将来働くとすればどのような組織形態を望むか、についてお答えください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	公的機関	1184	28.4
2	民間企業	2044	49.0
3	ボランティアなど	255	6.1
4	起業・自営業	625	15.0
5	その他	63	1.5

図 43-0 総計

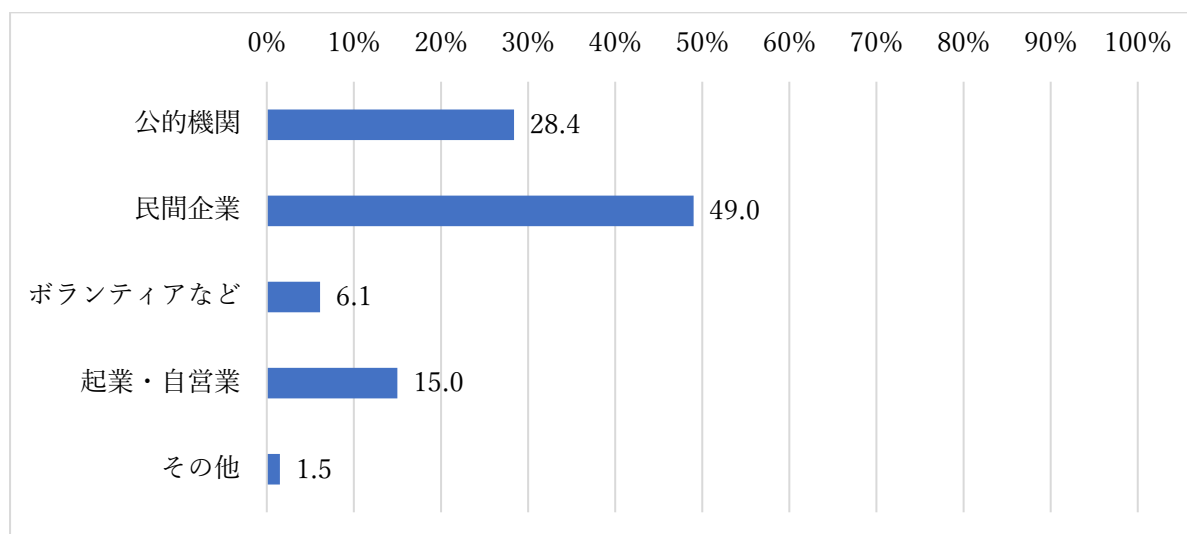


図 43-1 男女別 (N=4171)

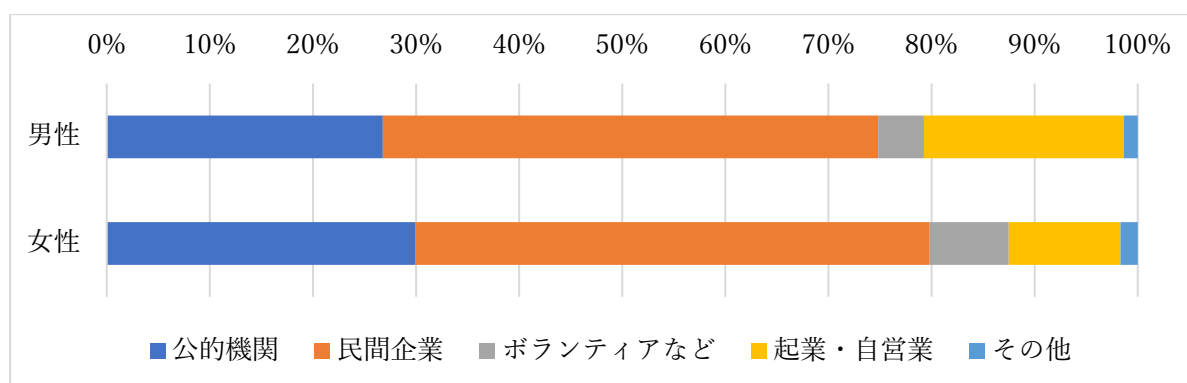


図 43-2 年齢別 (N=4171)

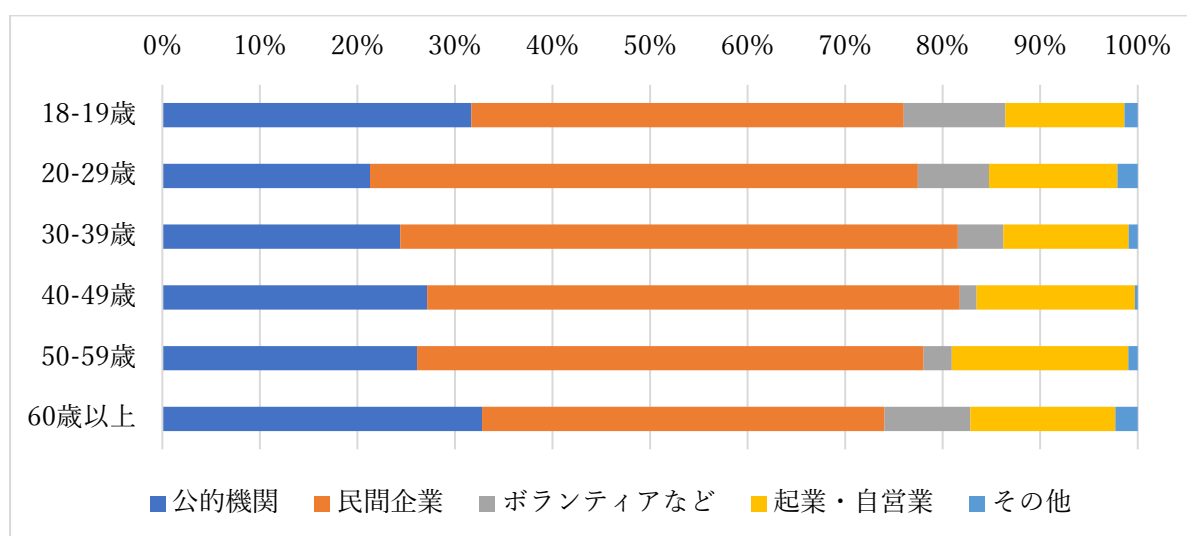


図 43-3 収入別(N=2235)

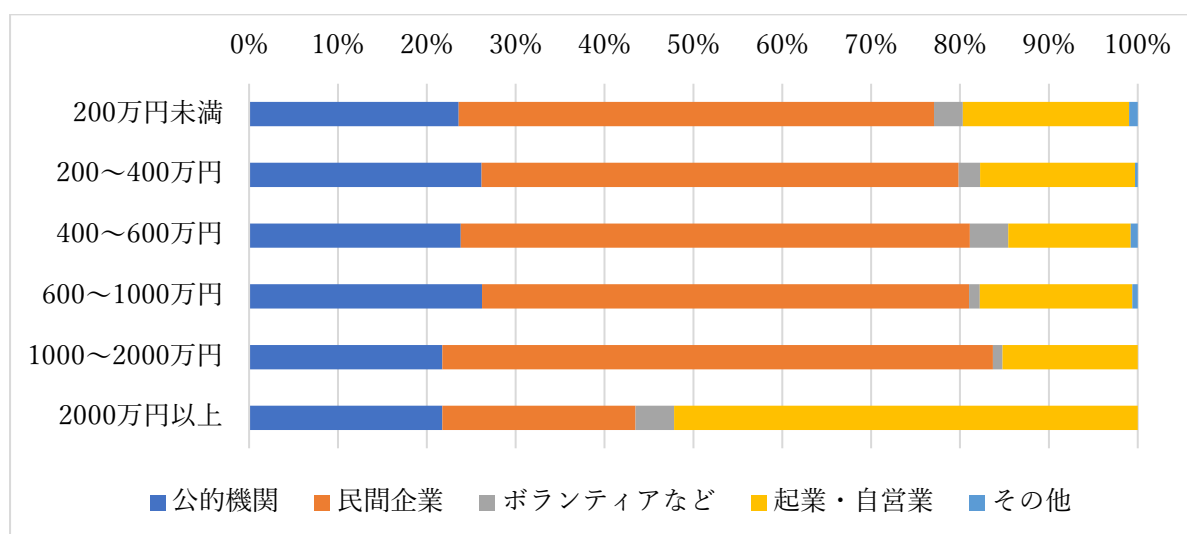
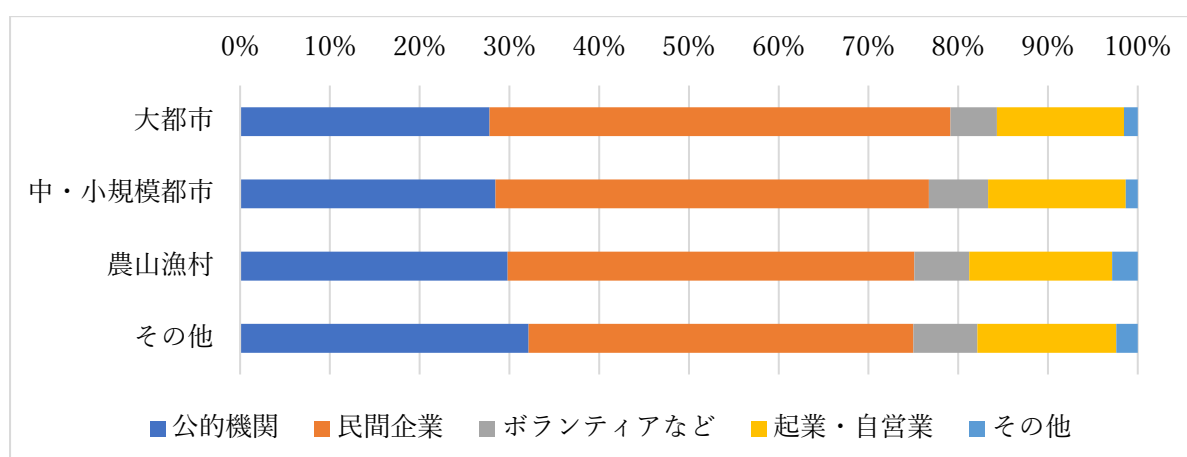


図 43-4 居住地域別(N=4171)



Q44. あなたが実際に保有されている資産にチェックしてください。(複数回答)

		実数	%
全体		4171	100.0
1	不動産・住宅	1617	38.8
2	金・貴金属	318	7.6
3	外貨	376	9.0
4	預貯金	3238	77.6
5	現金	3019	72.4
6	株式	1225	29.4
7	社債など債券	310	7.4
8	信託投資	723	17.3
9	その他	97	2.3

図 44-0 総計

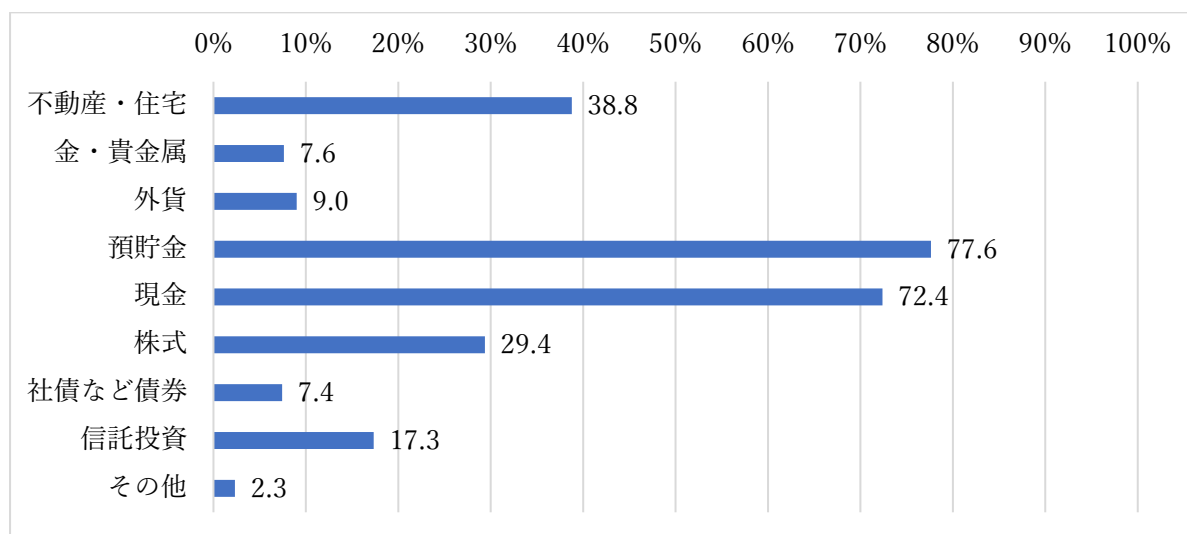


図 44-1 男女別(N=4171)

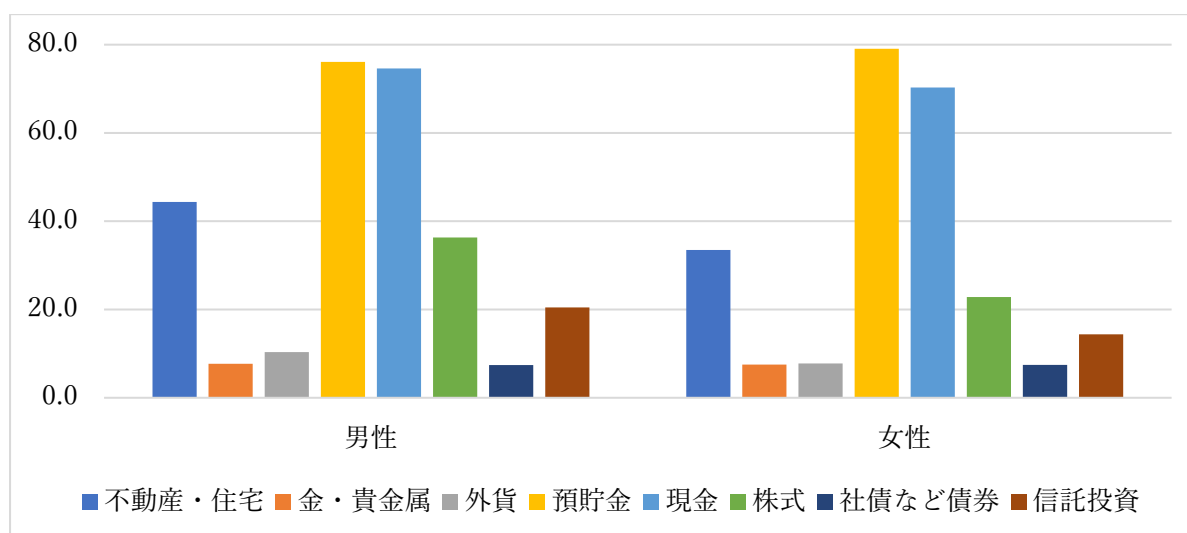


図 44-2 年齢別 (N=4171)

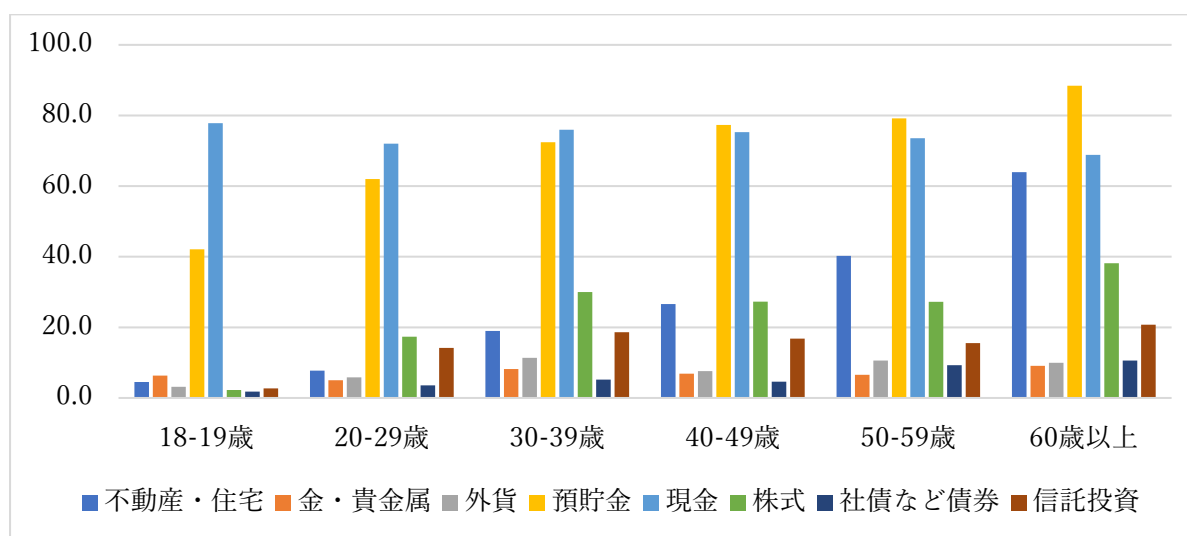


図 44-3 収入別 (N=2235)

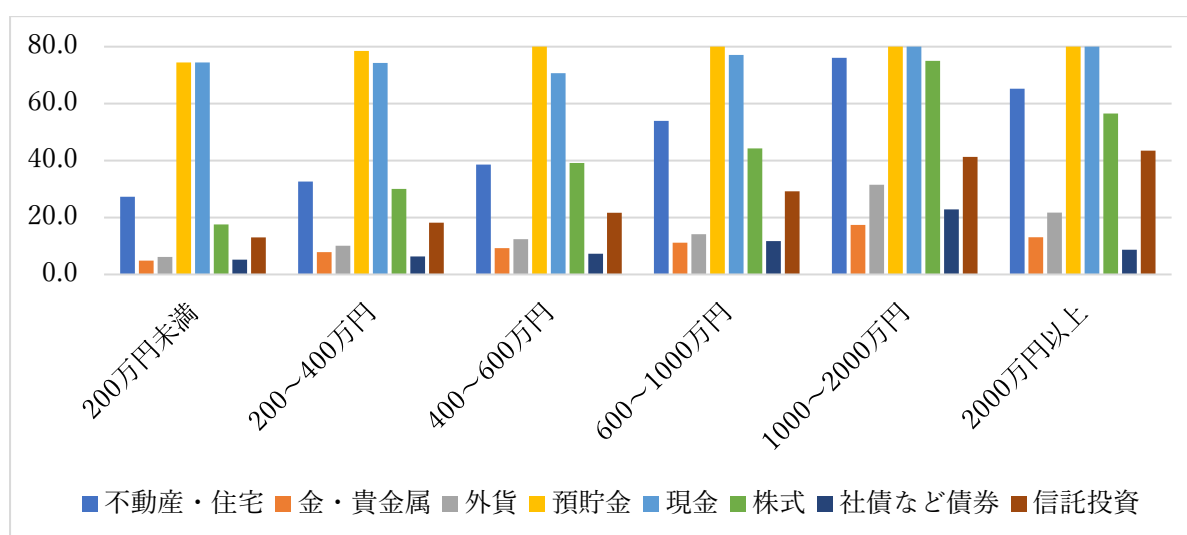
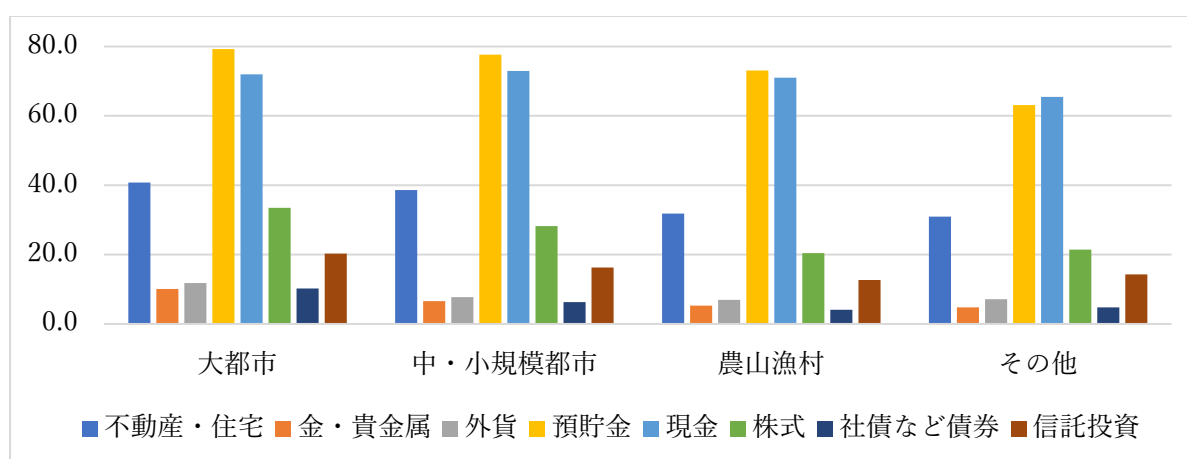


図 44-4 居住地域別 (N=4171)



Q45. あなたの保有する資産に関して、以下の記載のうち当てはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	1年以上暮らしていけるだけの十分な貯蓄がある	1760	42.2
2	貯蓄だけで1年暮らしていくには不十分である	1226	29.4
3	銀行その他の金融機関から借入れがある	292	7.0
4	職場からの借入れがある（学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司（先生））	28	0.7
5	個人に対する多額の債務がある	45	1.1
6	少額の累積債務がある	60	1.4
7	2か月以上の家賃の滞納がある	13	0.3
8	いずれにも当てはまらない	1022	24.5

図 45-0 総計

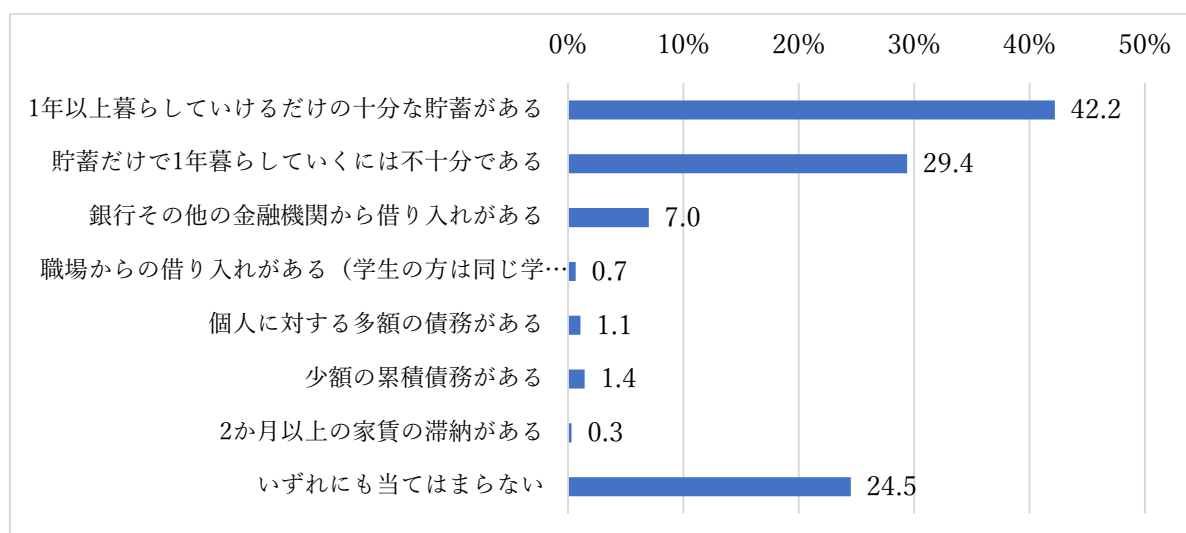




図 45-1 男女別 (N=4171)

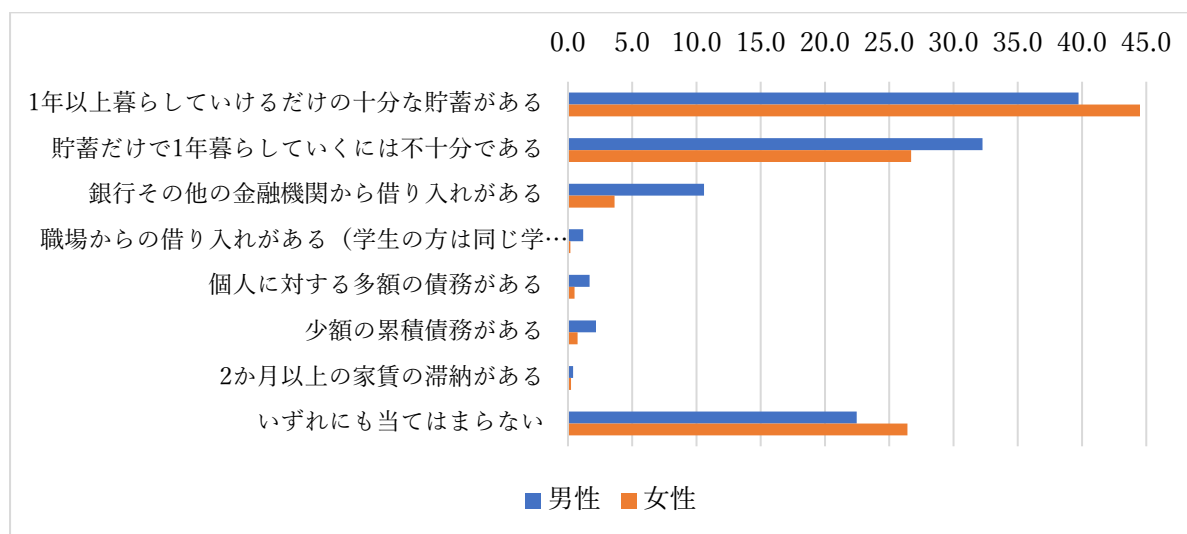


図 45-2 年齢別 (N=4171)

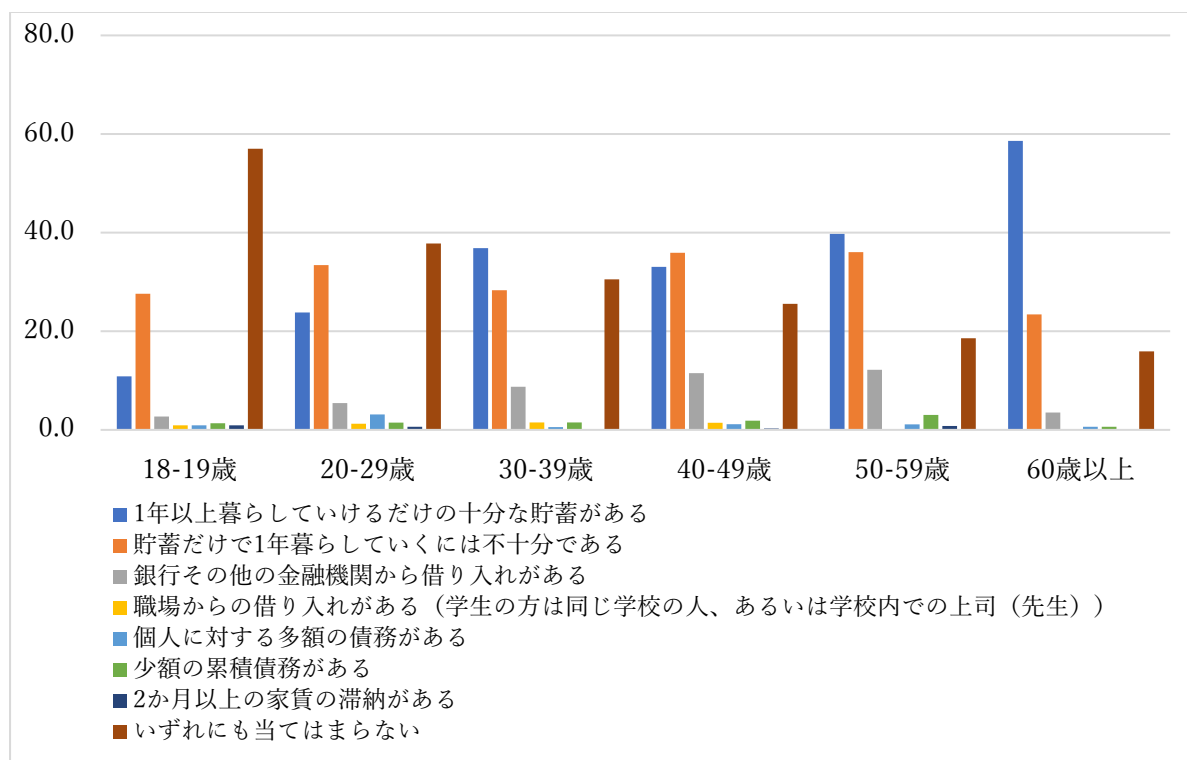


図 45-3 収入別 (N=2235)

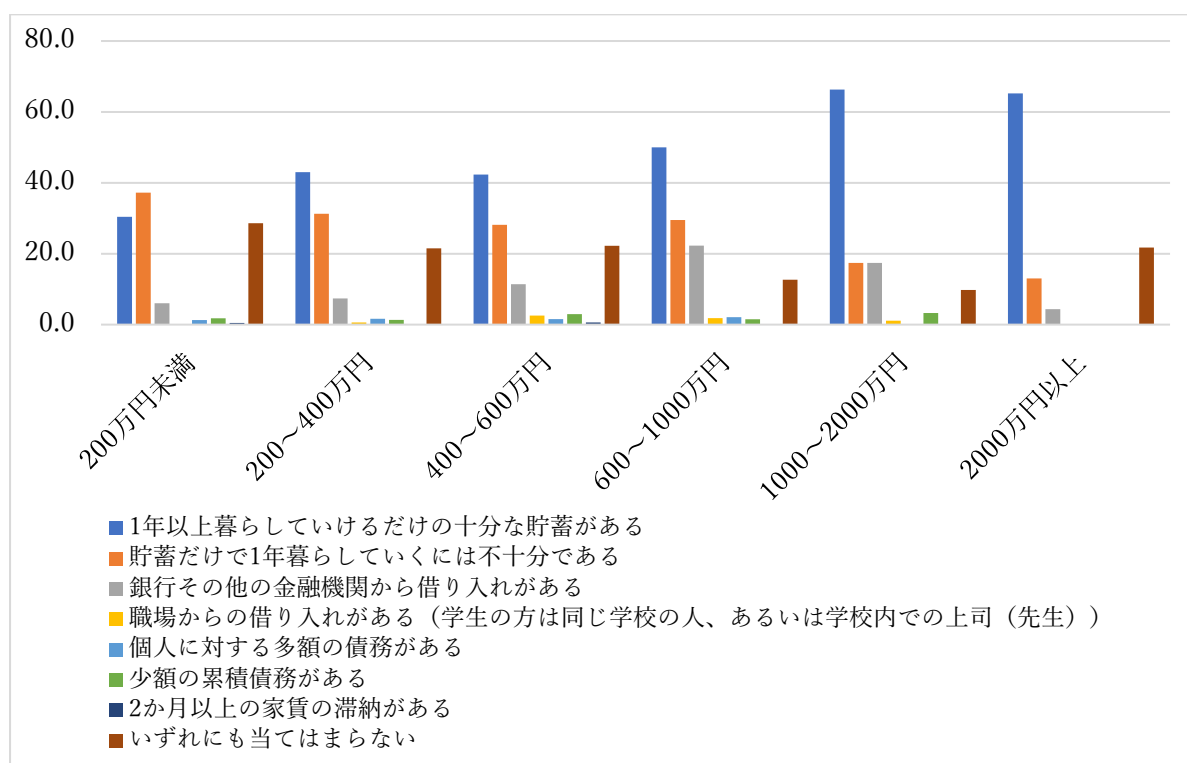
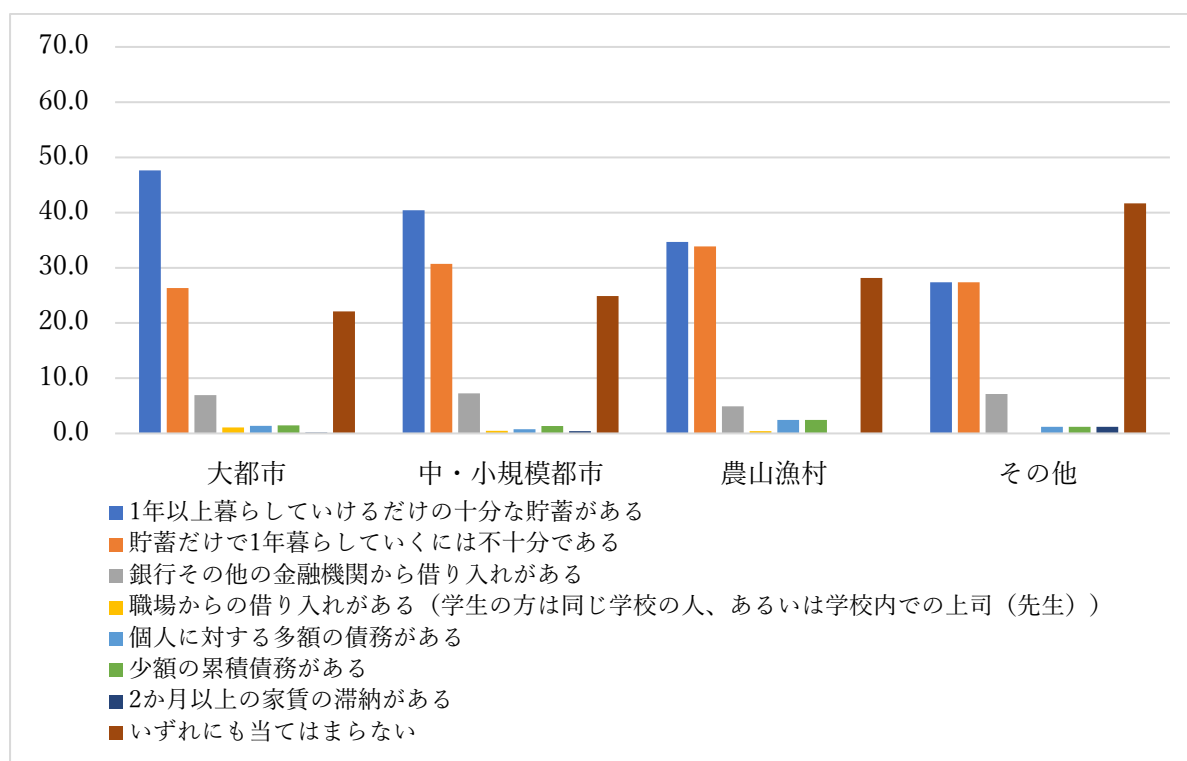


図 45-4 居住地域別 (N=4171)



## VI. 回答者に関する質問

最後に、回答者に関する質問を示そう。ここには同居家族の数や年収などについて、7つの質問が含まれている。

本調査では、同居する家族のいる人が79.7%、単身世帯が18.9%となっている（F1）。2020年の国勢調査で単身世帯が38.0%を占めた（『日本経済新聞』2021年12月1日）のと比較すると、単身世帯は約半分となる。

同居家族のいる人について、自身を除いて、平均2人弱（1.9人）の同居人がいることになる。個別に見ると、最大値が44、次いで21、20、その後8…となっている。

18歳以下の子どもについて、平均0.3人となった。子どもがいる人だけを取り出すと結果は異なるものになると思われる。

最終学歴（F2）にかんして、項目1および2（あなたおよびあなたの配偶者）については、4年制大学卒業が40%を若干上回るなど、ほぼ同様の数値となった。項目3（あなたの母親）および項目4（あなたの父親）では、4年生大学卒業がそれぞれ11.8%、28.0%となっており、世代が進むにつれて高学歴化が進んでいることが確認できる。他方、専門学校卒業は項目1、2でいずれも9.0%であり、項目3（8.2%）および項目4（6.7%）を上回っている。また、短期大学卒業も、項目1（10.4%）、項目2（11.8%）、項目3（10.3%）で大きな変化は見られない。あと、全般的な高学歴化は進んでいると考えられるが、大学院博士課程修了については、項目1（1.1%）、項目2（1.0%）、項目4（1.0%）で大きな変化は見られない。

現在勤めている組織（F3）について、「民間企業、機関」が最大で70%を超えており、次いで「自営業・自分が設立した企業」13.5%、「国家、公的機関」7.7%と続いている。

平均勤続年数（F4）について、誤入力と思われる3件（それぞれ6600892、2660031、2000）を除いた数字を出すと、13.2年となる。

平均年収（F5）について、最も多いのは「200万円－400万円」のグループであり、29.8%を占めている。次いで、「200万円未満」が27.5%であり、この2グループで過半数となっている。1000万円以上の収入があるのは5.1%となる。国税庁の民間給与実態調査統計で、令和2年の平均収入が433万円となっていることから、調査対象者の平均収入はおおむね世間一般の実情と変わらないものと考えられる。

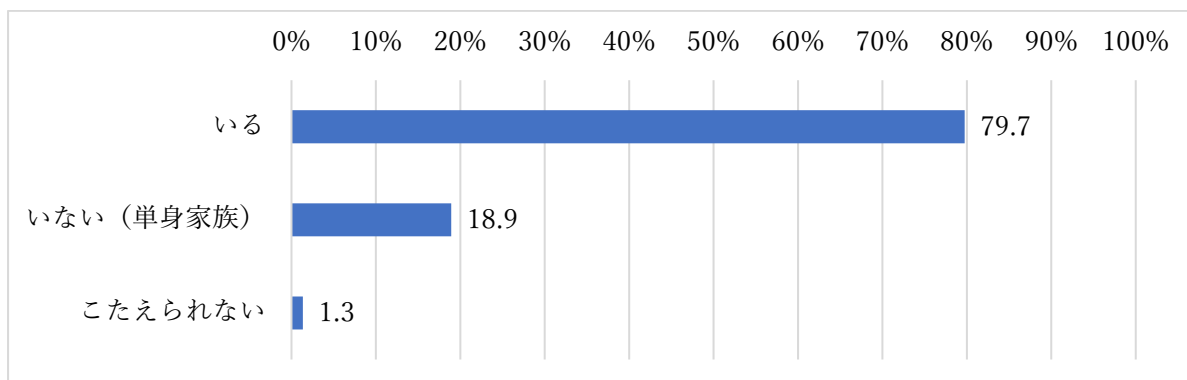
家族内に自分以外に収入を得ている人がいるかどうか（F6）について、質問F1において単身世帯が18.9%であったことを考慮すると、この質問に「いない」と回答した33.0%のうち、14.1%には収入を得ていない同居人がいる計算になる。ただし、本質問で「いる」と回答した人のうち、本人が収入を得ていない場合もあると考えられるので、67%の世帯で複数の収入源があるとはいえない。

階層の自己認識（F7）では、中間層（いわゆる中の中）が35.1%と最大となっており、次いで「中間層の下」29.2%、「下層」15.0%、「中間層の上」10.0%、「上層」0.6%となっている。中間層の規模の大きさが確認されるが、上層（0.6%）と比較して、下層（15.0%）の大きさが顕著である。

### F1s1. 同居する家族はいますか。

	実数	%
全体	4171	100.0

1	いる	3326	79.7
2	いない（単身家族）	789	18.9
3	こたえられない	56	1.3



**F1s2\_1. 同居する家族は何人いますか。あなた自身を含みます。 - 合計**

全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最大値	最小値	中央値
3326	3326	9800.0	2.9	1.3	44.0	2.0	3.0

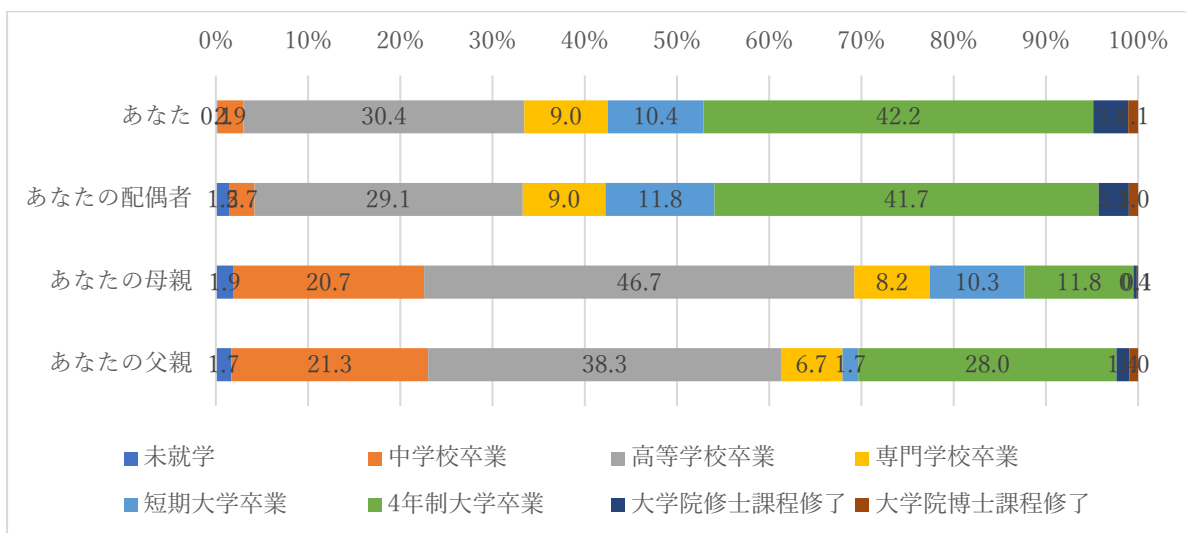
**F1s2\_2. 同居する家族は何人いますか。あなた自身を含みます。 - うち、18歳以下の子供は**

全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最大値	最小値	中央値
3326	3326	1102.0	0.3	0.7	5.0	0.0	0.0

**F2. あなたご自身とあなたの家族の最終学歴をチェックしてください。**

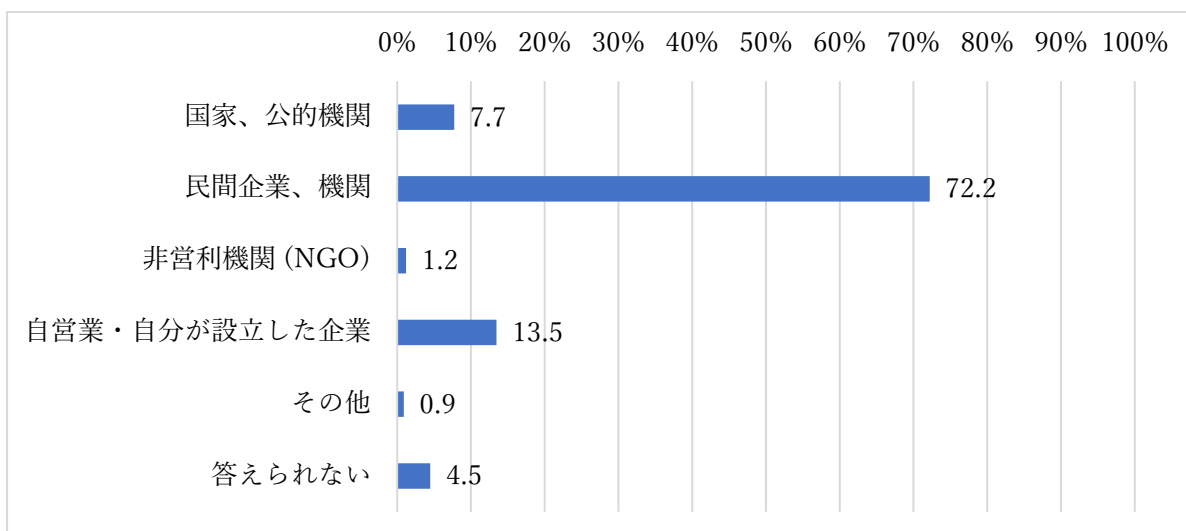
			全体	未就学	中学校卒業	高等学校卒業	専門学校卒業	短期大学卒業	4年制大学卒業	大学院修士課程修了	大学院博士課程修了
F2項目1	あなた	%	100.0	0.1	2.9	30.4	9.0	10.4	42.2	3.8	1.1
		実数	4171	6	119	1270	377	434	1762	158	45
F2項目2	あなたの配偶者	%	100.0	1.5	2.7	29.1	9.0	11.8	41.7	3.3	1.0
		実数	2599	39	70	756	233	307	1083	85	26
F2項目3		%	100.0	1.9	20.7	46.7	8.2	10.3	11.8	0.4	0.1

	あなたの母親	実数	4171	78	864	1946	341	428	493	15	6
F2 項目 4	あなたの父親	%	100.0	1.7	21.3	38.3	6.7	1.7	28.0	1.4	1.0
		実数	4171	70	890	1596	278	72	1167	58	40



F3. あなたが現在お勤めの組織について教えてください。

	実数	%
全体	2235	100.0
1 国家、公的機関	173	7.7
2 民間企業、機関	1614	72.2
3 非営利機関 (NGO)	27	1.2
4 自営業・自分が設立した企業	301	13.5
5 その他	20	0.9
6 答えられない	100	4.5

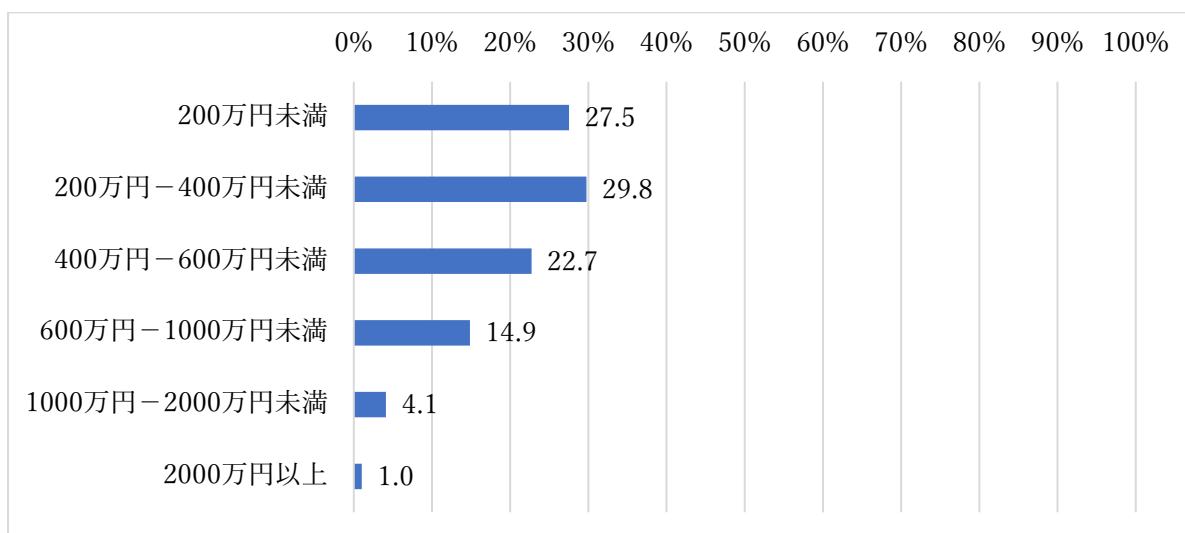


F4. 現在お勤めの組織に何年在職していますか。

全体	統計量母数	合計	平均	最大値	最小値
2232	2232	29353	13.15	62	0.0

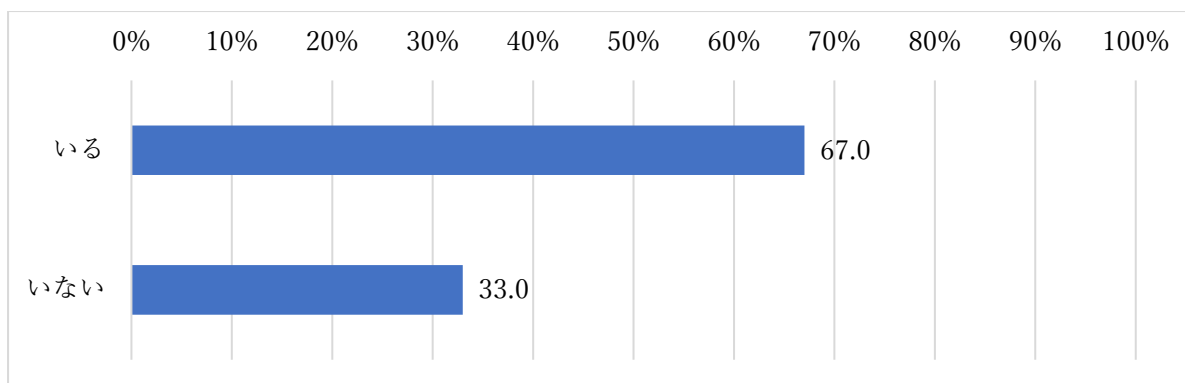
F5. あなたの平均収入（ボーナスを含む）はおおよそいくらでしょうか（ご自分の分のみ）。

		実数	%
全体		2235	100.0
1	200万円未満	615	27.5
2	200万円－400万円未満	665	29.8
3	400万円－600万円未満	508	22.7
4	600万円－1000万円未満	332	14.9
5	1000万円－2000万円未満	92	4.1
6	2000万円以上	23	1.0



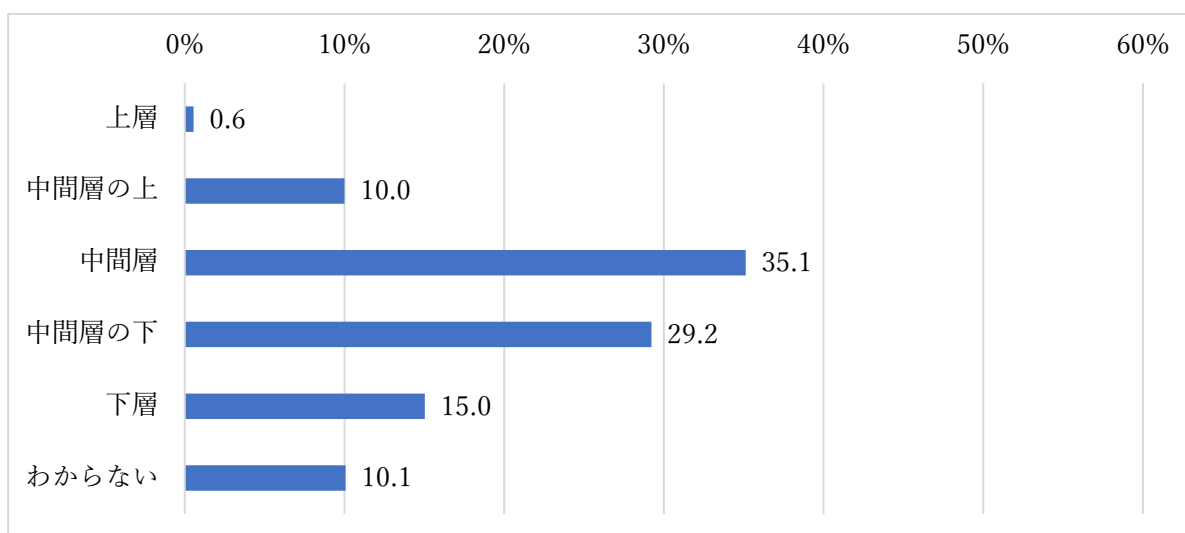
F6. あなたの世帯には、あなた以外に収入を得ている人がいますか。

		実数	%
全体		4171	100.0
1	いる	2795	67.0
2	いない	1376	33.0



F7. あなたの家庭は社会全体の中でどの階層に所属するとお考えですか。1つ選んでください。

		実数	%	実数	%
全体		4171	100.0	3751	100.0
1	上層	23	0.6	23	0.6
2	中間層の上	417	10.0	417	11.1
3	中間層	1465	35.1	1465	39.1
4	中間層の下	1219	29.2	1219	32.5
5	下層	627	15.0	627	16.7
6	わからない	420	10.1	-	-



## おわりに

日本のソーシャル・キャピタルは、総じて低下傾向にあると考えられている（例えば、日本総合研究所, 2008; 要藤, 2018; 岩井・宍戸, 2021 など）。とりわけ特定化信頼で顕著であるということが先行研究から明らかになる。本調査研究でも、人間関係の希薄化が明確に読み取れ、それは中高年、男性に特に見いだされ、誰にも助けを求めない「孤立感」もまた見出すことができる。信頼の低さは政治への無関心・無理解に結びつき、現実の政治の動きはその信頼の欠如を解消する方向とは大きく食い違って見える。とくに、本調査研究は、収入との相関に注目して上記を分析しており、その点で既存研究とは異なる独自性を示している。

また、本調査では、新型コロナウイルス感染症に対する人びとの反応・行動を別途分析している。日本人の責任に対する見方、さらに政府の政策・支援に対する見方では、人間関係における希薄さから、国家・地方自治体だけを期待する行動が読み取れる。この点では、『世界価値観調査』で国家に対する責任を重視する国民性を反映しているように見え、われわれが別途検討するロシアの場合との比較において興味深い類似性を指し示す。あるいは、先行研究における政府信頼の有効性を指し示している。

本調査研究と重なるように、ロシアを対象とした調査結果もすでに解析を終えている。当該の調査と重ね合わせることで、ソーシャル・キャピタルの日ロ比較という新しい研究領域の開拓に歩みを進めたいと考えている。



## 引用文献

### 【英語】

Inglehart, R., Haerpfer, C., Moreno, A., Welzel, C., Kizilova, K., Diez-Medrano J., M. Lagos, P. Norris, E. Ponarin & B. Puranen et al. (eds.). 2020. World Values Survey: All Rounds – Country-Pooled Datafile. Madrid, Spain & Vienna, Austria: JD Systems Institute & WWSA Secretariat [Version: <http://www.worldvaluessurvey.org/WVSDocumentationWVL.jsp>] (世界価値観調査 (WVS))

Haerpfer, C., Inglehart, R., Moreno, A., Welzel, C., Kizilova, K., Diez-Medrano J., M. Lagos, P. Norris, E. Ponarin and B. Puranen eds.(2022) *World Values Survey: Round Seven - Country-Pooled Datafile Version 5.0*. Madrid, Spain & Vienna, Austria: JD Systems Institute & WWSA Secretariat. doi:10.14281/18241.20 (世界価値観調査 (WVS) )

Eldman Trust Barometer 2022. Available at: [https://www.edelman.com/sites/g/files/aatuss191/files/2022-01/2022%20Edelman%20Trust%20Barometer%20FINAL\\_Jan25.pdf](https://www.edelman.com/sites/g/files/aatuss191/files/2022-01/2022%20Edelman%20Trust%20Barometer%20FINAL_Jan25.pdf) (2023年7月31日アクセス)

Imperial College London, Institute of Global Health Innovation (2021) Global attitudes towards a COVID-19 vaccine, May 2021 ([https://www.imperial.ac.uk/media/imperial-college/institute-of-global-health-innovation/GlobalVaccineInsights\\_ICL-YouGov-Covid-19-Behaviour-Tracker\\_20210520\\_v2.pdf](https://www.imperial.ac.uk/media/imperial-college/institute-of-global-health-innovation/GlobalVaccineInsights_ICL-YouGov-Covid-19-Behaviour-Tracker_20210520_v2.pdf))

Integrated Values Surveys (2022). *Integrated Values Surveys with major processing by Our World in Data*. “Trust: Confidence in the justice system (courts),” “Trust: Confidence in the police,” “Trust: Confidence in the civil service,” “Trust: Confidence in the armed forces,” “Trust: Confidence in the political parties,” “Trust: Confidence in government”, “Trust: Confidence in the Parliament” [datasets]. Integrated Values Surveys, “Integrated Values Surveys (IVS) Version 3” [original data]. Available at: <https://ourworldindata.org/grapher/trust-state-institutions-wvs?tab=table&time=earliest&showSelectionOnlyInTable=1&country=~JPN> (2024年3月23日アクセス)

Knack, S. and Keefer, P. (1997) Does social capital have an economic payoff? A cross-country investigation, *Quarterly Journal of Economics*, 112 (4) November 1997, 1251-88.

Legatum Institute (2023) *The 2023 Legatum Prosperity Index*, 16<sup>th</sup> edition, The Legatum Institute Foundation.

Murayama Hiroshi, Nakamoto Isuzu, and Tabuchi Takahiro (2021) Social capital and COVID-19 deaths: An ecological analysis in Japan, *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 2021 18, 10982, 1-9.

OECD (2020) *How's Life? 2020: Measuring Well-being*, OECD.

Ostrom, E. and Ahn, T.K. (2009) The meaning of social capital and its link to collective action, G.T. Svendsen and G.L.H. Svendsen eds., *Handbook of Social Capital: The Troika of Sociology, Political Science and -Economics*, Edward Elgar, pp.17-35.

Putnam, R.(2000) *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*, Simon & Schuster.

SolAbility (2023) *The Global Sustainable Competitiveness Index 2023*, Creative Commons, November 2023.

Turner, Bryan S. ed. (2006) *The Cambridge Dictionary of Sociology*, Cambridge University Press.

Yamagishi, T. (2011). *Trust. The Evolutionary Game of Mind and Society*. Springer.

World Economic Forum (2020) *Global Risks Report*.

World Economic Forum (2021) *Global Risks Report*.

## 【日本語】

岩井紀子・宍戸邦章編(2021)『データで見る東アジア社会的ネットワークと社会関係資本（東アジア社会調査による日韓中台の比較）』、ナカニシヤ出版。

稲葉陽二(2007)『ソーシャル・キャピタルー「信頼の絆」で解く現代経済・社会の諸課題』生産性出版。

稲葉陽二 (2014) 「日本の社会資本は毀損したか。ー2013年全国調査と2003年全国調査からみた社会関係資本の変化ー」『政経研究』第51巻第1号 pp1-30

NHK (2021) 「新型コロナ ワクチンの効果や安全性「信用する」が70%近くに」、2021年8月28日 (<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210828/k10013228591000.html>) 。

大守隆編著(2018)『ソーシャル・キャピタルと経済ー効率性と「きずな」の接点を探る』ミネルヴァ書房。

荻野亮吾(2020) 「With コロナ時代における地域のつながりづくりの方法」『日本公民館学会年報』第10号、57-65。

金光淳編著(2018)『ソーシャル・キャピタルと経営ー企業と社会をつなぐネットワークの研究』ミネルヴァ書房。

カワチ・イチロー(2022)「強い社会をつくる『ソーシャル・キャピタル』の可能性とは」国際協力機構緒方貞子平和研究所、2022年3月28日 ([https://www.jica.go.jp/Resource/jica-ri/ja/news/interview/interview\\_20220328\\_01.html](https://www.jica.go.jp/Resource/jica-ri/ja/news/interview/interview_20220328_01.html))

菊池浩旦・伊藤慎悟・久田満(2022)「コロナ禍における大都市在住若年成人のメンタルヘルスに及ぼす心理社会的影響ーソーシャル・キャピタルに着目してー」『ストレス科学研究』2022、37、32-41。

黒木登志夫(2020)『新型コロナの科学ーパンデミック、そして共生の未来へ』中公新書。

坂本治也 (2010) 「日本のソーシャル・キャピタルの現状と理論的背景」関西大学経済・政治研究所『ソーシャル・キャピタルと市民参加』関西大学経済・政治研究所研究双書第150冊：1-31

関根仁博(2022)「ソーシャル・キャピタルと新型コロナウイルスの感染予防行動との関連性に関する実証研究ーながはまスタディー」『社会関係研究』Vol.1,no.2、17-29。

辻中豊・山内直人(2019)『ソーシャル・キャピタルと市民社会・政治ー幸福・信頼を高めるガバナンスの構築は可能かー』ミネルヴァ書房。

土居丈朗 (2020) 「コロナ危機で露呈した医療お弱点とその克服」小林慶一郎・森川正之編著『コロナ危機の経済学ー提言と分析』日本慶事新聞出版。

東京医科大学公衆衛生学分野(2022)『ソーシャル・キャピタルと新型コロナワクチン接種率に関連』

内閣府(2003)『ソーシャル・キャピタル－豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』

内閣府(2005)『コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書』

日本総合研究所(2008)『日本のソーシャル・キャピタルと政策－日本総研 2007 年全国アンケート調査結果報告書』

日本総合研究所(2017)『租税に対する国民意識と税への理解を深める取り組みに関する国際比較調査・分析等委託最終報告書』平成 29 年 3 月  
([https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/report/material/pdf/h2903/02/1\\_1.pdf](https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/report/material/pdf/h2903/02/1_1.pdf))。

溝端佐登史編著(2022)『国家主導資本主義の経済学－国家は資本主義を救えるのか?』文真堂。

要藤正任(2018)『ソーシャル・キャピタルの経済分析－「つながり」は地域を再生させるか?』慶応義塾大学出版会。

山岸俊男(1999)『安心社会から信頼社会へ。日本型システムの行方』、中央公論新社。

## 付録 アンケート質問票

日本語	English	ロシア側調査 で対応する質 問番号
回答日 回答時間 回答者 ID	Date of response Response time Respondent ID	
<b>FS1. 性別</b>  1 男性 2 女性	<b>FS1. Sex</b>  1 Male 2 Female	<b>02.</b>
<b>FS2. 年齢 (10 歳区切)</b>  1 17 歳以下 2 18-19 歳 3 20-29 歳 4 30-39 歳 5 40-49 歳 6 50-59 歳 7 60 歳以上	<b>FS2. Age cohorts</b>  1 17 and under 2 18-19 3 20-29 4 30-39 5 40-49 6 50-59 7 60 and over	<b>04.</b>
<b>FS3. 居住地</b>  1 北海道 2 青森県 3 岩手県 4 宮城県 5 秋田県 6 山形県 7 福島県 8 茨城県 9 栃木県 10 群馬県	<b>FS3. Place of residence (prefectures)</b>  1 Hokkaido 2 Aomori 3 Iwate 4 Miyagi 5 Akita 6 Yamagata 7 Fukushima 8 Ibaraki 9 Tochigi 10 Gunma 11 Saitama	<b>05</b>

11 埼玉県	12 Chiba	
12 千葉県	13 Tokyo	
13 東京都	14 Kanagawa	
14 神奈川県	15 Niigata	
15 新潟県	16 Toyama	
16 富山県	17 Ishikawa	
17 石川県	18 Fukui	
18 福井県	19 Yamanashi	
19 山梨県	20 Nagano	
20 長野県	21 Gifu	
21 岐阜県	22 Shizuoka	
22 静岡県	23 Aichi	
23 愛知県	24 Mie	
24 三重県	25 Shiga	
25 滋賀県	26 Kyoto	
26 京都府	27 Osaka	
27 大阪府	28 Hyogo	
28 兵庫県	29 Nara	
29 奈良県	30 Wakayama	
30 和歌山県	31 Tottori	
31 鳥取県	32 Shimane	
32 島根県	33 Okayama	
33 岡山県	34 Hiroshima	
34 広島県	35 Yamaguchi	
35 山口県	36 Tokushima	
36 徳島県	37 Kagawa	
37 香川県	38 Ehime	
38 愛媛県	39 Kochi	
39 高知県	40 Fukuoka	
40 福岡県	41 Saga	
41 佐賀県	42 Nagasaki	
42 長崎県	43 Kumamoto	
43 熊本県	44 Oita	
	45 Miyazaki	
	46 Kagoshima	
	47 Okinawa	

44 大分県 45 宮崎県 46 鹿児島県 47 沖縄県		
<b>FS4. 地域は次のどれにあてはまりますか。</b>  1 大都市 2 中・小規模都市 3 農山漁村 4 その他	<b>FS4. What type of settlement do you currently live in?</b>  1 Large cities 2 Medium and small cities 3 Rural areas 4 Other	<b>07.</b>
<b>FS5. 現在の居住地での居住年数を教えてください。</b>  1 1年未満 2 1-5年以内 3 6-10年以内 4 11-20年以内 5 21-30年以内 6 31年以上	<b>FS5. How long have you lived in your current place of residence?</b>  1 Less than 1 year 2 1-5 years 3 6-10 years 4 11-20 years 5 21-30 years 6 More than 31 years	<b>H13.</b>
<b>FS6. 未既婚</b>  1 未婚 2 既婚 3 離別・死別	<b>FS6. Marital status</b>  1 Never married 2 Married 3 Separated or bereaved	—
<b>FS7. 職業</b>  1 学生 2 専業主婦／主夫 3 会社員 4 契約社員	<b>FS7. Occupation</b>  1 Student 2 Housewife/househusband 3 Company employee 4 Contract worker 5 Temporary employee	<b>H7. H8.</b>

<p>5 派遣社員 6 会社役員 7 公務員（教職員を除く） 8 教職員 9 医療関係者（病院経営・開業医含む） 10 会社経営 11 自営業 12 パート・アルバイト 13 無職 14 その他</p>	<p>6 Company officer 7 Civil servant (excluding teaching staff) 8 Teaching staff 9 Healthcare professionals (including hospital management and practicing doctor) 10 Company owner 11 Self-employed 12 Part-time worker 13 Unemployed 14 Other</p>	
<p><b>FS8. あなたの会社での職位をお知らせください。</b></p> <p>1 会長・副会長 2 社長・CEO 3 副社長 4 役員・取締役 クラス 5 顧問・監査役 クラス 6 事業本部長・執行役員 クラス 7 部長・部長代理 クラス 8 課長・課長補佐 クラス 9 係長・主任・リーダー クラス 10 支店長・工場長 クラス 11 店長・支配人 クラス 12 一般社員 13 契約・派遣社員 14 その他</p>	<p><b>FS8. Please indicate your position in your company.</b></p> <p>1 Chairman/Vice Chairman of the board of directors 2 President/CEO 3 Vice-president 4 Officer/director class 5 Advisor/auditor class 6 Divisional managers/executive officers Class 7 General Manager/Acting General Manager Class 8 Section manager/assistant section manager class 9 Section chief/chief/leader class 10 Branch manager/plant manager class 11 Store manager/manager Class 12 General employee 13 Contract and temporary employee 14 Other</p>	<p><b>H9.</b></p>
<p><b>I. ネットワークについて</b></p>	<p><b>I. NETWORKS</b></p>	
<p><b>Q1. あなたが普段、1日に接する家族・親族は何人いますか（対面、電話、手紙、インターネットを通して。同居する家族は除く）。</b></p>	<p><b>Q1. How many family members/relatives do you usually contact with in a day in person, by phone, letter or through the internet. (Excluding family members who live with you).</b></p>	<p><b>A5.</b></p>



<p>1 0人 2 1-2人 3 3-4人 4 5-9人 5 10-19人 6 20人以上</p>	<p>1 0 persons 2 1-2 persons 3 3-4 persons 4 5-9 persons 5 10-19 persons 6 More than 20 people</p>	
<p><b>Q2. あなたは普段、どの程度の頻度で家族・親族と付き合い（冠婚葬祭やお祝い事などの交流、頼み事や相談など）をされていますか（同居する家族は除く）。</b></p> <p>1 まったくない（もしくは親族はいない） 2 めったにない（年に1回～数年に1回程度） 3 時々ある（月に1回～年に数回程度） 4 ある程度頻繁にある（週に1回～月に数回程度） 5 日常的にある（毎日～週に数回程度）</p>	<p><b>Q2. How often do you usually communicate with your family and relatives (e.g. for weddings, funerals, celebrations and other exchanges, seeking advice or help) ? Except for those who live with you.</b></p> <p>1 Never at all (or no relatives) 2 Seldom (once a year to once every few years) 3 Occasionally (once a month to a few times a year) 4 Somewhat frequently (once a week to several times a month) 5 Routinely (daily to several times a week)</p>	A6.
<p><b>Q3. あいさつ程度の付き合いがある近所の人は、何人くらいいますか。</b></p> <p>1 0人 2 1-4人 3 5-9人 4 10-19人 5 20人以上</p>	<p><b>Q3. How many neighbours do you have a relationship with, just as a greeting?</b></p> <p>1 0 people 2 1-4 people 3 5-9 people 4 10-19 people 5 More than 20 people</p>	A7.
<p><b>Q4. 頼み事や相談ができる近所の人は、何人くらいいますか。</b></p> <p>1 0人 2 1-2人 3 3-4人 4 5-9人 5 10人以上</p>	<p><b>Q4. How many neighbours do you have in your neighbourhood whom you can ask for help or advice?</b></p> <p>1 0 persons 2 1-2 people 3 3-4 people 4 5-9 people 5 More than 10 people</p>	A8.

<p><b>Q5.</b> あなたの親しい友人は何人くらいいますか。親しい友人とは、気兼ねなく付き合いができ、私的な事柄について話したり、援助を求めたりできる人のことです。</p> <p>1 0人 2 1-2人 3 3-4人 4 5-9人 5 10-19人 6 20-49人 7 50-99人 8 100人以上</p>	<p><b>Q5. How many close friends do you have with whom you share details of your personal life or ask for advice or help in difficult situations?</b></p> <p>1 0 persons 2 1-2 persons 3 3-4 people 4 5-9 people 5 10-19 people 6 20-49 persons 7 50-99 persons 8 100 or more persons</p>	<p><b>A9.</b></p>
<p><b>Q6.</b> あなたは普段、どの程度の頻度で友人・知人と頼み事、相談といった付き合いをされていますか（学校や職場以外で）。</p> <p>1 全くない（もしくは友人・知人はいない） 2 めったにない（年に1回～数年に1回程度） 3 時々ある（月に1回～年に数回程度） 4 ある程度頻繁にある（週に1回～月に数回程度） 5 日常的にある（毎日～週に数回程度）</p>	<p><b>Q6. How often do you ask for advice or help from your friends and acquaintances, excluding work colleagues and classmates?</b></p> <p>1 Never (or do not have such friends and acquaintances) 2 Once a year, or once every few years 3 Once a month or more than once a year 4 once a week or more than once a month 5 every day or several times a week</p>	<p><b>A10.</b></p>
<p><b>Q7.</b> あなたが友人・知人との付き合いで使用する主な手段は何ですか。以下からもっともよく使うものを1つ選んでください。</p> <p>1 対面 2 電話 3 電子メール 4 SNS 5 その他（<b>Q7_5FA</b> 具体的にお書きください）</p>	<p><b>Q7. How do you most often have contact with your friends and acquaintances? Select the one you use most frequently.</b></p> <p>1 in person 2 by phone 3 by e-mail 4 by social networks 5 other (specify) <b>Q7_5FA</b></p>	<p><b>A11.</b></p>

<p><b>Q8.</b> あなたが親族以外で日常的によくお付き合いをしている人たちについて、以下のうちの記述がもっともよく当てはまると思いますか。1つを選んでください。</p> <p>1 あなたよりも立場や地位の高い人が多い  2 あなたと立場や地位がほぼ同じ人が多い  3 あなたよりも立場や地位の低い人が多い</p>	<p><b>Q8. which of the following statements best describes the people you usually socialize with, other than your relatives? Select one.</b></p> <p>1 Many people are of higher status than me  2 Many people are in about the same status as me  3 Many people are in a lower status than me</p>	<p><b>A12.</b></p>
<p><b>Q9.</b> あなたには以下の職業に就いている親族、友人、知人がいますか（知人とは、十分会話ができる程度によく知っている人を指します）。</p> <p><b>Q9 項目 1</b> 大学教員  <b>Q9 項目 2</b> 弁護士  <b>Q9 項目 3</b> 医師・看護師  <b>Q9 項目 4</b> コンピューター・プログラマー  <b>Q9 項目 5</b> 小中高等学校の教員  <b>Q9 項目 6</b> 企業の人事担当者  <b>Q9 項目 7</b> 警察官  <b>Q9 項目 8</b> 政治家  <b>Q9 項目 9</b> 公務員・官僚  <b>Q9 項目 10</b> 企業経営者</p> <p>1 はい  2 いいえ</p>	<p><b>Q9. Do you have relatives, friends or acquaintances from the following professions?</b></p> <p><b>Q9_1</b> University professors and teachers  <b>Q9_2</b> Lawyers  <b>Q9_3</b> Doctors and nurses  <b>Q9_4</b> Computer programmer  <b>Q9_5</b> Primary and secondary school teachers  <b>Q9_6</b> Human resource manager in a company  <b>Q9_7</b> Police officer  <b>Q9_8</b> Politicians  <b>Q9_9</b> Civil servants and bureaucrats  <b>Q9_10</b> Company directors</p> <p>1 Yes  2 No</p>	<p><b>A13.</b></p>
<p><b>Q10.</b> あなたは過去に以下のような問題に直面した時、誰に最初に支援を求めましたか。1つを選んでください（項目ごとに1つチェックを入れてください）。</p> <p><b>Q10 項目 1</b> 悩み、心理的な問題  <b>Q10 項目 2</b> 健康上の問題  <b>Q10 項目 3</b> 家事や育児、介護の問題  <b>Q10 項目 4</b> 金銭的な問題</p>	<p><b>Q10. Which of the following persons did you first seek help from when you faced the following problems in the past? Select one for each item.</b></p> <p><b>Q10_1</b> Psychological problems  <b>Q10_2</b> Health problems  <b>Q10_3</b> Housework, childcare or care problems  <b>Q10_4</b> Financial problems  <b>Q10_5</b> Emergency or disaster problems</p>	<p><b>A14.</b></p>

<p><b>Q10 項目 5 緊急時や災害の問題</b>  <b>Q10 項目 6 求職に関わる問題</b>  <b>Q10 項目 7 教育、進学上の問題</b></p> <p>1 同居家族  2 その他の親族  3 職場の人（学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司（先生））  4 近所の人  5 友人  6 専門職の人（カウンセラー、精神科医など）  7 地域コミュニティ（教会、NPO など）  8 誰にも助けを求めなかった  9 そのような経験をしたことがない  10 その他（Q10FA）</p> <p><b>Q10FA_1</b> - 悩み、心理的な問題  <b>Q10FA_2</b> - 健康上の問題  <b>Q10FA_3</b> - 家事や育児、介護の問題  <b>Q10FA_4</b> - 金銭的な問題  <b>Q10FA_5</b> - 緊急時や災害の問題  <b>Q10FA_6</b> - 求職に関わる問題  <b>Q10FA_7</b> - 教育、進学上の問題</p>	<p><b>Q10_6</b> Problems related job-seeking  <b>Q10_7</b> Educational problems</p> <p>1 Family members living with you  2 Other relatives  3 People at work (If you are a student, someone from the same school or your teacher)  4 Neighbours  5 Friends  6 Professional person (e.g. counsellor, psychiatrist)  7 Local community (e.g. church, non-profit organisation)  8 Did not seek help from anyone  9 Never had such problems  10 Other (Q10FA)</p> <p><b>Q10FA_1</b> - Psychological problems  <b>Q10FA_2</b> - Health problems  <b>Q10FA_3</b> - Housework, childcare or care problems  <b>Q10FA_4</b> - Financial problems  <b>Q10FA_5</b> - Emergency or disaster problems  <b>Q10FA_6</b> - Job search related issues  <b>Q10FA_7</b> - Educational issues</p>	
<p><b>Q11.</b> 一般的に言って、どのような人びとあるいはグループとの交流が、個人的ネットワークを築く上でより有利な機会を与えてくれると思いますか。1つ選んでください。</p> <p>1 家族・親族  2 近所の人  3 同窓会（同級生）  4 友人・知人（同級生を除く）</p>	<p><b>Q11. Generally speaking, which people or groups do you think provide you with more beneficial opportunities in building personal networks? Choose one.</b></p> <p>1 Family/relatives  2 Neighbours  3 Alumni (classmates)  4 Friends and acquaintances (excluding classmates)  5 People related to your workplace or work (if you are a student, people from the same school or your teacher)</p>	—

<p>5 職場や仕事に関係する人（学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司（先生））</p> <p>6 NGO、NPO、ボランティア団体</p> <p>7 宗教団体</p> <p>8 政党</p> <p>9 その他</p>	<p>6 NGO, NPO, volunteer organisation</p> <p>7 Religious organisations</p> <p>8 Political party</p> <p>9 Other</p>	
<p><b>Q12.</b> 一般的に言って、個人が成功する上で、社会的有力者（政治家、官僚、企業経営者など）との関係はどの程度重要だと思いますか。1つ選んでください。</p> <p>1 まったく重要ではない</p> <p>2それほど重要ではない</p> <p>3 どちらとも言えない</p> <p>4 ある程度重要である</p> <p>5 非常に重要である</p>	<p><b>Q12. Generally speaking, how important do you think relationships with influential people in society (e.g. politicians, bureaucrats, business leaders) are for an individual success?</b></p> <p>1 Not important at all</p> <p>2 Not very important</p> <p>3 Can't say either way</p> <p>4 Somewhat important</p> <p>5 Very important</p>	A17.
<p><b>Q13.</b> あなたは以下のような組織・団体に参加していますか。参加している場合は、積極的に活動しているかそうではないかを選んでください。</p> <p><b>Q13 項目 1</b> 政治団体</p> <p><b>Q13 項目 2</b> 地縁組織（町内会など）</p> <p><b>Q13 項目 3</b> ボランティア・NPO</p> <p><b>Q13 項目 4</b> 市民運動／消費者団体</p> <p><b>Q13 項目 5</b> 宗教団体</p> <p><b>Q13 項目 6</b> 同窓会・校友会</p> <p><b>Q13 項目 7</b> 趣味やスポーツの会</p> <p><b>Q13 項目 8</b> 労働組合</p> <p><b>Q13 項目 9</b> 職業団体</p> <p><b>Q13 項目 10</b> その他：具体的にお書きください（Q13_10FA）</p> <p>1 はい、積極的に参加している</p>	<p><b>Q13. Are you involved in any of the following organizations/groups? If yes, please choose whether you are an active member or not.</b></p> <p><b>Q13_1</b> Political organisations</p> <p><b>Q13_2</b> Local organisation (e.g. neighbourhood association)</p> <p><b>Q13_3</b> Volunteers/NPOs</p> <p><b>Q13_4</b> Consumer and other civic organization</p> <p><b>Q13_5</b> Religious organisation</p> <p><b>Q13_6</b> Alumni associations</p> <p><b>Q13_7</b> Hobbies and sports associations</p> <p><b>Q13_8</b> Trade unions</p> <p><b>Q13_9</b> Professional association</p> <p><b>Q13_10</b> Other: please specify (Q13_10FA)</p> <p>1 Yes, actively participating</p> <p>2 Yes, only joined</p> <p>3 No, not participating</p>	A2.

<p>2 はい、加入のみ 3 参加していない</p>		
<p><b>Q14.</b> 前問にて「はい、積極的に参加している」と回答頂いた項目のうち、あなたが過去1年間にもっとも積極的に参加した会や組織はどれですか。1つ選んでください。</p> <p>1 政治団体 2 地縁組織（町内会など） 3 ボランティア・NPO 4 市民運動／消費者団体 5 宗教団体 6 同窓会・校友会 7 趣味やスポーツの会 8 労働組合 9 職業団体 10 その他 11 過去1年間にはいずれにも参加していない</p>	<p><b>Q14.</b> Of the items for which you answered 'Yes, I am actively involved' in Q13, which association or organisation have you been most actively involved in over the past year? Select one.</p> <p>1 Political organisation 2 Local organisation (e.g. neighbourhood association) 3 Volunteer/non-profit organisation 4 Consumer and other civic organization 5 Religious organisation 6 Alumni/alumnae associations 7 Hobbies and sports associations 8 Trade unions 9 Professional association 10 Other 11 Did not participate in any of these in the past year</p>	<p><b>A3.</b></p>
<p><b>Q15.</b> その組織(^quotation('Q14')^)の中の間関係や考え方は、以下のうちどれにもっとも近いですか。1つ選んでください。</p> <p>1 ほとんど全員が同じ考え方や行動をしている 2 同じ考え方や行動をしている人が多い 3 同じ考え方や行動をしている人は少ない 4 ほとんど全員が異なる考え方や行動をしている 5 分からない・答えられない</p>	<p><b>Q15.</b> Which of the following best describes the relationships between people in the organisation you chose in Q14? Choose one.</p> <p>1 Almost everyone thinks and acts in a same way 2 Most people think and act in a same way 3 Few people think and act in a same way 4 Almost everyone thinks and acts differently 5 Don't know or can't answer</p>	<p><b>A4.</b></p>
<p><b>II. 信頼について</b></p>	<p><b>II. SOCIAL TRUST</b></p>	
<p><b>Q16.</b> あなたは以下の人びと、もしくは機関・制度をどの程度信頼していますか。当てはまるものをそれぞれお答えください。</p>	<p><b>Q16.</b> To what extent do you trust the following people or institutions? Select 1-5 for each item.</p>	<p><b>B2.</b></p>

<p> <b>Q16 項目 1</b> 家族・親類  <b>Q16 項目 2</b> 友人  <b>Q16 項目 3</b> 近所の人  <b>Q16 項目 4</b> 職場の人（学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司（先生））  <b>Q16 項目 5</b> 初対面の人  <b>Q16 項目 6</b> 医者  <b>Q16 項目 7</b> 企業経営者・役員  <b>Q16 項目 8</b> 従来のメディア（テレビ、ラジオ、新聞）  <b>Q16 項目 9</b> ソーシャルメディア（SNS、ブログ、YouTube など）  <b>Q16 項目 10</b> NGO/NPO のリーダー  <b>Q16 項目 11</b> 教員  <b>Q16 項目 12</b> 科学者  <b>Q16 項目 13</b> 地方公務員  <b>Q16 項目 14</b> 国家公務員  <b>Q16 項目 15</b> 首相  <b>Q16 項目 16</b> 政党  <b>Q16 項目 17</b> 警察  <b>Q16 項目 18</b> 自衛隊  <b>Q16 項目 19</b> 裁判官  <b>Q16 項目 20</b> 選挙 </p> <p> 1 全く信頼していない  2 あまり信頼していない  3 どちらとも言えない  4 ある程度信頼している  5 とても信頼している </p>	<p> <b>Q16_1</b> Family and relatives  <b>Q16_2</b> Friends  <b>Q16_3</b> Neighbours  <b>Q16_4</b> People at work (if you are a student, people at the same school or your teacher)  <b>Q16_5</b> People you see for the first time  <b>Q16_6</b> Doctors  <b>Q16_7</b> Directors/ managers of a company  <b>Q16_8</b> Traditional media (TV, radio, newspaper)  <b>Q16_9</b> Social media (SNS, blogs, YouTube, etc.)  <b>Q16_10</b> NGO/NPO leaders  <b>Q16_11</b> Teachers  <b>Q16_12</b> Scientists  <b>Q16_13</b> Local public servant  <b>Q16_14</b> National civil servant  <b>Q16_15</b> Prime minister  <b>Q16_16</b> Political parties  <b>Q16_17</b> Police  <b>Q16_18</b> Self-defence forces  <b>Q16_19</b> Judges  <b>Q16_20</b> Elections </p> <p> 1 I don't trust them at all  2 I don't trust them very much  3 Can't say either way  4 I trust them to some extent  5 I trust them a lot </p>	
<p> <b>Q17.</b> あなたは人間の本性についてどう思いますか。1～7の数字を選んでください。1－人間の本性は本来「悪」である。7－人間の本性は本来「善」である。 </p>	<p> <b>Q17. What do you think about human nature: good or evil? Rate on a scale from 1 to 7, where 1 is the total predominance of evil, 7 is the total predominance of good.</b> </p>	<p><b>B3.</b></p>

<p>1 人間の本性は本来「悪」である。 2 3 4 5 6 7 人間の本性は本来「善」である。</p>	<p>1 complete predominance of evil 2 3 4 5 6 7 total predominance of good</p>	
<p><b>Q18.</b> 一般的に言って、人は信頼できると思いますか。1つを選んでください。</p> <p>1 ほとんどの場合、信用できる 2 たいていは、信用できる 3 どちらとも言えない 4 たいていは、用心した方がよい 5 ほとんどの場合、用心した方がよい</p>	<p><b>Q18. Generally speaking, do you think that most people can be trusted? Choose one.</b></p> <p>1 In most cases people can be trusted 2 In some cases, people can be trusted 3 I can't say either way 4 Sometimes you have to be cautious about people 5 In most cases, you have to be cautious about people</p>	<p><b>B1.</b></p>
<p><b>Q19.</b> あなたは自分の人生を自らの力で変えることができると感じますか。1つを選んでください。</p> <p>1 人生を変えることは、ほとんどできないと感じている 2 どちらかと言えば、人生を変えることはできないと感じている 3 どちらかと言えば、人生を変えることはできると感じている 4 人生を変えることは、十分にできると感じている</p>	<p><b>Q19. Do you feel that you can change your life on your own? Choose one.</b></p> <p>1 I feel that I can do very little to change my life 2 I rather feel that I cannot change my life 3 I rather feel that I can change my life 4 I feel that I can change my life well enough</p>	<p><b>C1.</b></p>
<p><b>Q20.</b> あなたは以下の事柄について、どの程度満足していますか。当てはまるものをそれぞれお答えください。</p> <p><b>Q20 項目 1</b> 収入 <b>Q20 項目 2</b> 仕事（学生の方は学校での授業など） <b>Q20 項目 3</b> 人間関係（家族以外の） <b>Q20 項目 4</b> 家族関係（親・パートナー・子供との）</p>	<p><b>Q20. To what extent are you satisfied with the following matters? Select 1-5 per each item.</b></p> <p>Q20_1 Income Q20_2 Work (schooling if you are a student) Q20_3 Relationships with people except family members Q20_4 Relationships with family (parents/partner/children) Q20_5 Consumption</p>	<p><b>C3.</b></p>



<p> <b>Q20 項目 5</b> 消費  <b>Q20 項目 6</b> 余暇  <b>Q20 項目 7</b> 娯楽・文化  <b>Q20 項目 8</b> 住宅  <b>Q20 項目 9</b> 近所づきあい  <b>Q20 項目 10</b> 交通・インフラストラクチャー  <b>Q20 項目 11</b> 医療サービス  <b>Q20 項目 12</b> 教育  <b>Q20 項目 13</b> デジタル・情報サービス  <b>Q20 項目 14</b> 保育サービス  <b>Q20 項目 15</b> 金融サービス  <b>Q20 項目 16</b> 年金・社会保障  <b>Q20 項目 17</b> 政治  <b>Q20 項目 18</b> 行政サービス  <b>Q20 項目 19</b> 治安、警察  <b>Q20 項目 20</b> 環境（大気、水）、景観、ごみ処理 </p> <p> 1 全く満足していない  2 どちらかと言えば満足していない  3 どちらとも言えない  4 どちらかと言えば満足している  5 とても満足している </p>	<p> Q20_6 Leisure  Q20_7 Recreation and culture  Q20_8 Housing  Q20_9 Neighbourhood  Q20_10 Transport and infrastructure  Q20_11 Medical services  Q20_12 Education  Q20_13 Digital and information services  Q20_14 Childcare services  Q20_15 Financial services  Q20_16 Pensions and social security  Q20_17 Politics  Q20_18 Administrative services  Q20_19 Public safety, police  Q20_20 Environment (air, water), landscape, waste management </p> <p> 1 Not satisfied at all  2 Somewhat unsatisfied  3 Neither satisfied nor dissatisfied  4 Somewhat satisfied  5 Very satisfied </p>	
<p> <b>Q21. あなたを引き立ててくれる人がいるとすれば誰を想起しますか。1つ選んでください。</b> </p> <p> 1 職場の上司  2 公務員  3 政治家  4 学校の先生  5 地域の有力者（個人）  6 その他（Q21_6FA 具体的にお書きください）  7 誰もいない </p>	<p> <b>Q21. Who in your environment is the most important person for you: an authority, the main adviser or helper in solving your problems or achieving your goals? Select one.</b> </p> <p> 1 boss at work  2 state or local government official  3 politician  4 teacher at school or university  5 influential member of a local community  6 other (specify Q21_6FA)  7 no one </p>	<p><b>C4.</b></p>

<p><b>Q22.</b> 同じ地域に住んでいる人びとの間には特性の相違がみられることがよくあります。例えば、経済力、社会的地位、民族、言語の違い、さらに宗教や政治信条の違い、年齢や性別による相違もあるでしょう。そうした特性の相違はあなたの地域ではどの程度はつきりとみられますか。以下から1つ選んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ほとんどみられない</li> <li>2 少しみられる</li> <li>3 どちらとも言えない</li> <li>4 ある程度みられる</li> <li>5 非常に強くみられる</li> </ol>	<p><b>Q22. It is often the case that there are significant differences between people living in the same area in terms of social status, income, nationality, mother tongue, political preferences, religion, age, gender, etc. How pronounced are such differences in your area of residence?</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Absolutely not pronounced</li> <li>2 somewhat not pronounced</li> <li>3 I cannot say either</li> <li>4 Somewhat pronounced</li> <li>5 Strongly pronounced</li> </ol>	<p><b>D1.</b></p>
<p><b>Q23.</b> 以下の特性の相違のうち対立を生みやすいと考えられるものを2つまで挙げてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育の格差</li> <li>2 土地所有の格差</li> <li>3 富や物的所有に関する格差</li> <li>4 社会的地位の格差</li> <li>5 男女間の格差</li> <li>6 世代間の格差（若者と高齢者）</li> <li>7 居住年数の格差（長く住んでいる人と新しく来た人）</li> <li>8 所属政党の相違</li> <li>9 宗教上の信条の相違</li> <li>10 民族あるいは言語的背景の相違</li> <li>11 その他の相違</li> </ol>	<p><b>Q23. Please list up to two of the following characteristic differences that you consider likely to create conflict.</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Disparities in education</li> <li>2 Disparities in land ownership</li> <li>3 Disparities in wealth and material possessions</li> <li>4 Disparities in social status</li> <li>5 Disparities between men and women</li> <li>6 Disparities between generations (young and old)</li> <li>7 Disparities in length of residence (long-time residents and newcomers)</li> <li>8 Differences in political party affiliation</li> <li>9 Differences in religious beliefs</li> <li>10 Differences in ethnic or linguistic background</li> <li>11 Other differences</li> </ol>	<p><b>D3.</b></p>
<p><b>III. 市民的社会参画について</b></p>	<p><b>III. CIVIC PARTICIPATION</b></p>	

<p><b>Q24. 過去1年間に、以下のような地域や社会の問題について3人以上で話し合うことがどのくらいありましたか（オンラインも含む）。項目ごとに1つ選んでください。</b></p> <p><b>Q24 項目 1</b> 環境問題（大気、水、騒音、廃棄物、山火事、洪水など）  <b>Q24 項目 2</b> 教育問題（教育費、塾、青少年の非行など）  <b>Q24 項目 3</b> 安全・安心（防災、防犯など）  <b>Q24 項目 4</b> 消費者問題（食品の安全性、モノの品質、物価変動など）  <b>Q24 項目 5</b> 社会的問題（年金、失業その他の社会的給付、税金、医療など）</p> <p>1 まったくない  2 数回  3 ほぼ毎月  4 ほぼ毎週</p>	<p><b>Q24. During the last 12 months, how often have you discussed the following social problems in person or online in a group of three or more people?</b></p> <p>Q24_1 Environmental issues (air, water, noise, waste, wildfires, floods, etc.)  Q24_2 Education issues (e.g. education costs, cram schools, youth delinquency)  Q24_3 Safety and security (e.g. disaster prevention, crime prevention)  Q24_4 Consumer issues (food safety, quality of goods, price fluctuations, etc.)  Q24_5 Social issues (pensions, unemployment and other social benefits, taxes, healthcare, etc.)</p> <p>1 did not discuss at all  2 a couple of times per year  3 almost every month  4 almost every week</p>	<p><b>E1.</b></p>
<p><b>Q25. 過去1年間にボランティア活動に参加したことがありますか（オンラインも含む）。</b></p> <p><b>Q25 項目 1</b> 自分の住んでいる地域をよくするためのボランティア（活動環境の改善、治安の向上、街の活性化、その他）  <b>Q25 項目 2</b> スポーツ・文化・芸術・学術に関連したボランティア活動（スポーツのコーチ、伝統文化の継承、専門的知識の伝達、その他）  <b>Q25 項目 3</b> 社会的な支援を必要とする人びとを対象としたボランティア活動（障がい者、子ども、高齢者、その他）  <b>Q25 項目 4</b> 政治的問題に関連した活動（請願書への署名、デモや抗議運動への参加、その他）</p> <p>1 はい  2 いいえ</p>	<p><b>Q25. Have you participated in any volunteer activities in the past 12 month? (including online participation)</b></p> <p><b>Q25_1</b> volunteering to improve the place (area) where you live (landscaping streets, improving security, organizing events, etc.)  <b>Q25_2</b> volunteering at sports, cultural, scientific and popular science events  <b>Q25_3</b> volunteer activities related to the provision of social assistance to persons with disabilities, children, elderly people, etc.  <b>Q25_4</b> voluntary participation in political activities (collection of signatures, participation in rallies and demonstration, etc.)</p> <p>1 Yes  2 No</p>	<p><b>E2.</b></p>

<p><b>Q26. 過去の主な選挙において、以下の誰かに特定の候補者への投票や、選挙運動への参加を頼まれましたか。</b></p> <p>1 家族・親類  2 職場の人（学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司（先生））  3 近所の人  4 友人  5 お寺や神社や教会の人  6 趣味やスポーツ、ボランティアなどの会の人  7 選挙運動員  8 その他（Q26_8FA 具体的にお書きください）  9 頼まれたことはない</p>	<p><b>Q26. In the past main elections, did any of the following people ask you to vote for a particular candidate or participate in a campaign?</b></p> <p>1 Family members/relatives  2 Someone at work (if you are a student, someone from the same school or your teacher)  3 Neighbour  4 Friend  5 People from temples, shrines or churches  6 People from hobby, sports or volunteer associations  7 Election campaigner  8 Other (Q26_8FA Specify)  9 Never asked to do so</p>	<p>—</p>
<p><b>Q27. あなたは市民権、政府、近所づき合いに関する以下の考え方に賛成しますか、あるいは反対しますか。当てはまるものをそれぞれお答えください。</b></p> <p><b>Q27 項目 1</b> 自分のような普通の市民には、政府のすることに対して、影響を及ぼせるほどの力がない  <b>Q27 項目 2</b> 政治や政府は複雑なので、何をやっているのかよく理解できない  <b>Q27 項目 3</b> 私は政治に対して関心がある  <b>Q27 項目 4</b> 私は社会のために役立ちたい  <b>Q27 項目 5</b> 近所の人、お互いを気にかけている  <b>Q27 項目 6</b> 近所の人、私が困っていたら手助けしてくれる</p> <p>1 強く賛成  2 どちらかと言えば賛成  3 どちらとも言えない  4 どちらかと言えば反対  5 強く反対</p>	<p><b>Q27. Rate the extent to which you agree with the following statements on a scale of 1 to 5.</b></p> <p><b>Q27_1</b> ordinary people like me have no influence whatsoever on what happens in the country or its government  <b>Q27_2</b> I don't really understand what the government and politicians do, because it's a difficult area for me  <b>Q27_3</b> I'm interested in politics  <b>Q27_4</b> I want to be useful to society.  <b>Q27_5</b> My neighbours care about each other  <b>Q27_6</b> I can count on the help of my neighbours in case of need</p> <p>1 Strongly agree  2 Somewhat agree  3 Neither agree nor disagree  4 Somewhat disagree  5 Strongly disagree</p>	<p><b>E3.</b></p>

<p><b>Q28.</b> 過去3年間に、あなたのお住まいの地域の問題について、住民が共同で政治家や役所に対して陳情を行ったり請願書を提出したりしたことはありましたか？</p> <p>1 一度もない 2 一度のみ 3 2～5回 4 6回以上</p>	<p><b>Q28.</b> In the last three years, how often have you got together with other residents to jointly ask the authorities to solve a problem in your area?</p> <p>1 never 2 once 3 several times (2 to 5) 4 6 or more times</p>	<p>E4.</p>
<p><b>IV. 新型コロナウイルス感染症に関する質問</b></p>	<p><b>IV. INFLUENCE OF THE COVID-19 PANDEMIC</b></p>	
<p><b>Q29.</b> 日本における新型コロナウイルス感染症感染拡大を引き起こした責任はどこにあると思いますか。最も重要と思うものを1つ選んでください。</p> <p>1 自分自身を含めた国民 2 首相・政府 3 地方自治体 4 政治家・議員 5 役人・官僚 6 企業や経済人 7 外国人 8 外国政府 9 その他 (Q29_9FA 具体的にお書きください) 10 だれの責任でもない</p>	<p><b>Q29.</b> In your opinion, who is most responsible for the spread of coronavirus infection in Japan? Select one.</p> <p>1 citizens of the country, including myself 2 the prime minister and the government 3 local governments 4 politicians and parliamentarians 5 government officials 6 directors of major companies 7 foreigners 8 foreign government 9 other (Specify Q29_9FA) 10 no one is responsible</p>	<p>F1.</p>
<p><b>Q30s1</b> 新型コロナウイルス感染症に関する情報はどこから取得しましたか。取得した情報源をすべてチェックしてください。</p> <p>1 従来のメディア (テレビ、新聞など) 2 インターネット 3 SNS 4 知人・友人から</p>	<p><b>Q30s1</b> Where did you obtain the information on COVID-19? Check all sources from which you obtained the information.</p> <p>1 Traditional media (e.g. TV, newspapers) 2 Internet 3 SNS 4 From acquaintances/friends</p>	<p>—</p>

<p>5 国家機関 6 地方自治体 7 その他 (Q30s1_7FA 具体的に) 8 どこからも情報を得ていない</p>	<p>5 National authorities 6 Local authorities 7 Other (Q30s1_7FA Specify) 8 I have not received information from anywhere</p>	
<p><b>Q30s2.</b> 前問にてお答え頂いた、取得した情報源について伺います。その信頼度はどの程度ですか。当てはまるものをそれぞれお答えください。</p> <p><b>Q30s2 項目 1</b> 従来のメディア (テレビ、新聞など) <b>Q30s2 項目 2</b> インターネット <b>Q30s2 項目 3</b> SNS <b>Q30s2 項目 4</b> 知人・友人から <b>Q30s2 項目 5</b> 国家機関 <b>Q30s2 項目 6</b> 地方自治体 <b>Q30s2 項目 7</b> その他(●●●)</p> <p>1 まったく信用しない 2 どちらかと言うと信用しない 3 何とも言えない 4 どちらかと言うと信用に値する 5 きわめて信用に値する</p>	<p><b>Q30s2.</b> How much do you trust the information about the pandemic you receive from the sources listed in Q30s1? Please rate your answer on a scale of 1 to 5, where 1 is absolutely do not trust and 5 is absolutely trust.</p> <p><b>Q30s2_1</b> traditional media (TV, newspapers) <b>Q30s2_2</b> Internet <b>Q30s2_3</b> SNS <b>Q30s2_4</b> From friends/ acquaintances <b>Q30s2_5</b> National authorities <b>Q30s2_6</b> Local authorities <b>Q30s2_7</b> Other</p> <p>1 I don't trust them at all 2 Somewhat distrustful 3 I can't say either 4 Somewhat trustworthy 5 Very trustworthy</p>	F2.
<p><b>Q31.</b> 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりあなたの生活はどのように変わりましたか。1つ選んでください。</p> <p>1 悪くなった 2 変わらない 3 よくなった 4 こたえられない</p>	<p><b>Q31.</b> In what way has your life changed because of the spread of the coronavirus infection?</p> <p>1 worsened 2 improved 3 has not changed 4 Cannot answer</p>	F3.
<p><b>Q32.</b> 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりあなたの収入はどのように変わりましたか。1つ選んでください。</p>	<p><b>Q32.</b> How has your income changed due to the spread of coronavirus infection? (Choose one answer)</p>	F4.

<ul style="list-style-type: none"> <li>1 増加した</li> <li>2 変わらない</li> <li>3 減少した</li> <li>4 こたえられない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 increased</li> <li>2 has not changed</li> <li>3 decreased</li> <li>4 cannot answer</li> </ul>	
<p><b>Q33. 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりあなたの仕事はどのように変わりましたか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 仕事をやめた・転職した</li> <li>2 在宅勤務（週の半分以上）になった</li> <li>3 時差出勤が多くなった</li> <li>4 出張がなくなった（半減した）</li> <li>5 何も変わらない</li> </ul>	<p><b>Q33. How has your job situation changed because of the spread of the coronavirus infection?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 quit or moved to another job</li> <li>2 started working remotely more than half of the working days per week</li> <li>3 started to avoid rush hours on the way to and from work</li> <li>4 number of business trips reduced by more than half</li> <li>5 nothing has changed</li> </ul>	<b>F5.</b>
<p><b>Q34. 新型コロナウイルス感染症感染拡大によりかける時間数が増えたものをチェックして下さい。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 仕事（学生の方は学校の勉強など）</li> <li>2 家族との時間</li> <li>3 親戚との付き合い</li> <li>4 近所づきあい</li> <li>5 趣味・余暇・スポーツ</li> <li>6 ボランティア</li> <li>7 学習・新しい知識の習得</li> <li>8 何も変わらない</li> </ul>	<p><b>Q34. What have you spent more time on as a result of the pandemic?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 Work (schoolwork for students)</li> <li>2 family issues</li> <li>3 Socialising with relatives</li> <li>4 Socialising with neighbours</li> <li>5 Hobbies, leisure time, sports</li> <li>6 Volunteering</li> <li>7 Learning/acquisition of new knowledge and skills</li> <li>8 Nothing has changed</li> </ul>	<b>F6.</b>
<p><b>Q35. あなたは新型コロナウイルスに対するワクチンの有効性を信用していますか。1つ選んでください。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 信用している</li> <li>2 信用していない</li> <li>3 どちらともいえない</li> </ul>	<p><b>Q35. Do you trust the effectiveness of vaccines against coronavirus infection?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 trust</li> <li>2 do not trust</li> <li>3 cannot say either</li> </ul>	<b>F7.</b>

<p><b>Q36.</b> あなたは新型コロナウイルス感染症に対する政府の政策は、あなたの生活にとってどの程度有効だと思いますか。1つを選んでください。</p> <p>1 きわめて有効である  2 どちらかといえば有効である  3 どちらとも言えない  4 あまり有効ではない  5 まったく有効ではない</p>	<p><b>Q36.</b> How effective was government measures to control coronavirus infection for you personally? Choose one.</p> <p>1 Very effective  2 Somewhat effective  3 Neither effective nor ineffective  4 Not very effective  5 Not very effective at all</p>	<p><b>F8.</b></p>
<p><b>Q37</b> 新型コロナウイルス感染症の影響が広がる中での次の物的・金銭的支援は、あなた自身、およびあなたの家族にどの程度有効なものでしたか。当てはまるものをそれぞれお答えください。</p> <p><b>Q37 項目 1</b> 国（政府）からの公的な支援  <b>Q37 項目 2</b> 地方自治体からの公的な支援  <b>Q37 項目 3</b> 企業（職場）からの支援  <b>Q37 項目 4</b> 地域からの支援  <b>Q37 項目 5</b> 近所・隣人からの支援  <b>Q37 項目 6</b> NGO・NPO・ボランティアからの支援  <b>Q37 項目 7</b> 友人・知人からの支援  <b>Q37 項目 8</b> 家族・親戚からの支援  <b>Q37 項目 9</b> その他：あれば記入してください（Q37_9FA）</p> <p>1 きわめて有効である  2 どちらかといえば有効である  3 どちらとも言えない  4 あまり有効ではない  5 まったく有効ではない/支援がない</p>	<p><b>Q37.</b> How effective have the following material and financial support been for you and your family during the pandemic? Rate your answer from 1 to 5 per each source.</p> <p><b>Q37_1</b> Public support from the national government  <b>Q37_2</b> Public support from local government  <b>Q37_3</b> Support from companies (workplace)  <b>Q37_4</b> Support from the local community  <b>Q37_5</b> Support from neighbours  <b>Q37_6</b> Support from NGOs, NPOs and volunteers  <b>Q37_7</b> Support from friends/acquaintances  <b>Q37_8</b> Support from family/relatives  <b>Q37_9</b> Other: Specify if any (Q37_9FA)</p> <p>1 Very effective  2 Somewhat effective  3 Neither effective nor ineffective  4 Not very effective  5 Not effective at all /no support</p>	<p><b>F9.</b></p>
<p><b>Q38.</b> あなたが新型コロナウイルス感染症感染拡大にともなって利用頻度が増えたものがあればチェックしてください。</p>	<p><b>Q38.</b> Please check any items that you have increased the frequency of use as a result of the spread of the COVID-19.</p>	<p>—</p>



<ul style="list-style-type: none"> <li>1 インターネット通販</li> <li>2 電子決済</li> <li>3 ソーシャルメディア</li> <li>4 オンライン会合</li> <li>5 eメール</li> <li>6 増えたものはない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 Internet shopping</li> <li>2 Electronic payments</li> <li>3 Social media</li> <li>4 Online meetings</li> <li>5 Email</li> <li>6 No increase</li> </ul>	
<b>V. その他</b>	<b>V. OTHERS</b>	
<p><b>Q39. あなたはご自身の納税についてどのようにお考えですか。1つ選んでください。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 負担が軽すぎる</li> <li>2 どちらかといえば負担が軽い</li> <li>3 適切な負担である</li> <li>4 どちらかといえば負担が重い</li> <li>5 負担が重すぎる</li> <li>6 わからない</li> </ul>	<p><b>Q39. How do you feel about your tax liability? Choose one.</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 The burden is too light</li> <li>2 The burden is rather light</li> <li>3 It is an adequate burden</li> <li>4 The burden is rather heavy</li> <li>5 The burden is too heavy</li> <li>6 Don't know</li> </ul>	—
<p><b>Q40. あなたは「政府が人びとの間の所得格差を減ずるべき」という意見に賛成しますか。1つ選んでください。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 まったく反対</li> <li>2 どちらかといえば反対</li> <li>3 賛成でも反対でもない</li> <li>4 どちらかといえば賛成</li> <li>5 完全に賛成</li> </ul>	<p><b>Q40. To what extent do you agree with the statement that the state should reduce the income gap between people of the country. Rate your answer from 1 to 5.</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 Totally disagree</li> <li>2 Somewhat disagree</li> <li>3 Neither agree nor disagree</li> <li>4 Somewhat agree</li> <li>5 Completely agree</li> </ul>	<b>G1.</b>
<p><b>Q41. この5年間の日本政府の政策に関してあなたはどのように評価しますか。項目ごとに1つ選んでください。</b></p> <p><b>Q41 項目 1</b> 雇用機会の創出  <b>Q41 項目 2</b> 経済格差の縮小</p>	<p><b>Q41. How would you evaluate the policies of the Japanese government in the following areas over the last 5 years? Choose one per each area.</b></p> <p><b>Q41_1</b> creation of new jobs</p>	<b>G2.</b>

<p>Q41 項目 3 景気刺激 Q41 項目 4 インフラ整備 Q41 項目 5 国の安全保障 Q41 項目 6 教育・科学技術振興 Q41 項目 7 環境対策</p> <p>1 極めて悪い 2 悪い 3 良くも悪くもない 4 良い 5 極めて良い</p>	<p>Q41_2 reducing economic inequality Q41_3 stimulation of economic growth Q41_4 infrastructure development Q41_5 ensuring national security Q41_6 development of education and science Q41_7 environmental protection</p> <p>1 Extremely poor 2 Poor 3 Neither good nor bad 4 Good 5 Extremely good</p>	
<p>Q42. あなたは日本社会における以下の事項にどの程度満足していますか。項目ごとに1つ選んでください。</p> <p>Q42 項目 1 民主主義的な政治制度 Q42 項目 2 先進国としての経済発展水準 Q42 項目 3 国民に責任を果たす政府 Q42 項目 4 地域の問題を解決する地方自治体</p> <p>1 完全に満足 2 どちらかといえば満足 3 満足でも不満足でもない 4 どちらかといえば不満足 5 完全に不満足</p>	<p>Q42. To what extent are you satisfied with the following items in Japanese society? Please select one for each item.</p> <p>Q42_1 Democratic political system Q42_2 Level of economic development as a developed country Q42_3 Government that is responsible to its citizens Q42_4 Local government solving local problems</p> <p>1 Completely satisfied 2 Somewhat satisfied 3 Neither satisfied nor dissatisfied 4 Somewhat unsatisfied 5 Completely unsatisfied</p>	—
<p>Q43. 現在のお仕事に関係なく、あなたは働くとするばどのような組織形態を望みますか。1つ選んでください。 ※現在学生の方は、将来働くとするばどのような組織形態を望むか、についてお答えください。</p> <p>1 公的機関 2 民間企業</p>	<p>Q43. What type of organisation would you prefer if you were to work, regardless of your current job? (If you are currently a student, please indicate the type of organisation you would like to work in the future.)</p> <p>1 Public organisation 2 Private company 3 Volunteer work, etc.</p>	H12.

3 ボランティアなど 4 起業・自営業 5 その他 (Q43_5FA)	4 Entrepreneurial/self-employed 5 Other (Q43_5FA)	
<b>Q44. あなたが実際に保有されている資産にチェックしてください。</b>  1 不動産・住宅 2 金・貴金属 3 外貨 4 預貯金 5 現金 6 株式 7 社債など債券 8 信託投資 9 その他 (Q44_9FA)	<b>Q44. Please check the assets you actually own.</b>  1 Real estate/housing 2 Gold/precious metals 3 Foreign currency 4 Deposits and savings 5 Cash 6 Stocks 7 Bonds and other debt securities 8 Trust investments 9 Other (Q44_9FA)	—
<b>Q45. あなたの保有する資産に関して、以下の記載のうち当てはまるものをすべて選んでください。</b>  1 1年以上暮らしていけるだけの十分な貯蓄がある 2 貯蓄だけで1年暮らしていくには不十分である 3 銀行その他の金融機関から借入れがある 4 職場からの借入れがある（学生の方は同じ学校の人、あるいは学校内での上司（先生）） 5 個人に対する多額の債務がある 6 少額の累積債務がある 7 2か月以上の家賃の滞納がある 8 いずれにも当てはまらない	<b>Q45. Which of the following best characterizes your financial situation at present? Choose all that applies to you.</b>  1 I have enough savings to live on for more than one year 2 My savings are not enough to live on for a year 3 I have a loan from a bank or other financial institution 4 I have a debt from my workplace 5 I have a large debt to private individuals 6 I have a small accumulated debts 7 I have rent arrears of more than two months 8 None of the above apply for me	H6.
<b>VI. 回答者に関する質問</b>	<b>VI. QUESTIONS ABOUT RESPONDENTS</b>	
<b>F1s1. 同居する家族はいますか。</b>	<b>F1s1. Do you have any family members living with you?</b>	<b>H2.1.</b>

<p>1 いる 2 いない (単身家族) 3 こたえられない</p>	<p>1 Yes 2 No (I'm single) 3 Cannot answer</p>	
<p><b>F1s2_1.</b> 同居する家族は何人いますか。あなた自身を含みます。 —合計</p>	<p><b>F1s2_1.</b> How many family members live with you, including yourself?</p>	<p><b>H2.1.</b></p>
<p><b>F1s2_2.</b> 同居する家族は何人いますか。あなた自身を含みます。 —うち、18歳以下の子供は</p>	<p><b>F1s2_2.</b> How many family members, who are under 18 years old, live with you?</p>	<p><b>H2.2.</b></p>
<p><b>F2.</b> あなたご自身とあなたの家族の最終学歴をチェックしてください。</p> <p><b>F2項目1</b> あなた <b>F2項目2</b> あなたの配偶者 <b>F2項目3</b> あなたの母親 <b>F2項目4</b> あなたの父親</p> <p>1 未就学 2 中学校卒業 3 高等学校卒業 4 専門学校卒業 5 短期大学卒業 6 4年制大学卒業 7 大学院修士課程修了 8 大学院博士課程修了</p>	<p><b>F2.</b> Please check the education level of yourself and your family.</p> <p><b>F2_1 Yourself</b> <b>F2_2 Your spouse</b> <b>F2_3 Your mother</b> <b>F2_4 Your father</b></p> <p>1 No education (or not finished Secondary school) 2 finished Secondary school 3 finished High school 4 finished Vocational school 5 finished Junior college (two years) 6 finished Four-year university 7 finished Postgraduate master's degree 8 finished Postgraduate doctoral degree</p>	<p><b>H1</b></p>
<p><b>F3.</b> あなたが現在お勤めの組織について教えてください。</p> <p>1 国家、公的機関 2 民間企業、機関 3 非営利機関 (NGO)</p>	<p><b>F3.</b> Please tell us about the type of organisation you are currently working for.</p> <p>1 State/public organisation 2 Private company or institution 3 Non-profit organisation (NGO)</p>	<p><b>H11.</b></p>

<p>4 自営業・自分が設立した企業 5 その他 (F3_5FA) 6 答えられない</p>	<p>4 Self-employed, company established by myself 5 Other (F3_5FA) 6 Unable to answer</p>	
<p><b>F4_1.</b> 現在お勤めの組織に何年在職していますか。</p>	<p><b>F4_1. How many years have you been employed by your current organisation?</b></p>	<b>H10.</b>
<p><b>F5.</b> あなたの平均年収（ボーナスを含む）はおおよそいくらでしょう（ご自分の分のみ）。</p> <p>1 200万円未満 2 200万円－400万円未満 3 400万円－600万円未満 4 600万円－1000万円未満 5 1000万円－2000万円未満 6 2000万円以上</p>	<p><b>F5. What is your own average annual income approximately, including bonuses ? (for yourself only)</b></p> <p>1 Less than 2 million yen 2 2 million to 4 million yen 3 4 million to 6 million yen 4 6 million to 10 million yen 5 10 million to 20 million yen 6 More than 20 million yen</p>	<b>H4.</b>
<p><b>F6.</b> あなたの世帯には、あなた以外に収入を得ている人がいますか。</p> <p>1 いる 2 いない</p>	<p><b>F6. Do other members of your family have sources of income?</b></p> <p>1 yes 2 no</p>	<b>H5.</b>
<p><b>F7.</b> あなたの家庭は社会全体の中でどの階層に所属するとお考えですか。1つ選んでください。</p> <p>1 上層 2 中間層の上 3 中間層 4 中間層の下 5 下層 6 わからない</p>	<p><b>F7. Which stratum in the society do you consider your household belongs to? Select one.</b></p> <p>1 Upper class 2 Upper middle class 3 Middle class 4 Low middle class 5 Low class 6 Don't know</p>	—